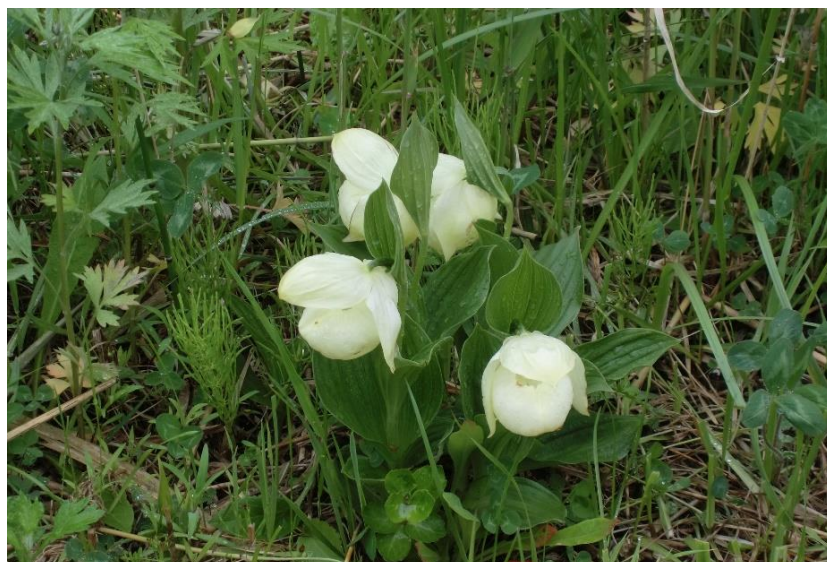


第5次レッドデータブック： 絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook Vascular Plants: Threatened wildlife of Japan

維管束植物



©塩谷悠希（自然環境研究センター）



©勝山輝男



環境省編

令和7（2025）年3月



この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja>

表紙の写真：レブンアツモリソウ（左）、ホソスゲ（右）

第5次レッドデータブック全体を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：環境省（編）. 2025. 第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物 維管束植物. 環境省，東京. 6352pp.

Citation: Ministry of the Environment, Japan (ed.). 2025. *The 5th Red Databook Vascular Plants: Threatened wildlife of Japan*. Ministry of the Environment, Japan, Tokyo. 6352pp.

はじめに

私たちが生きる現代は「第6の大量絶滅時代」ともいわれ、過去5回発生した大絶滅より種の絶滅速度は速く、その主な原因は人間活動による影響と考えられています。2019年に生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム（IPBES）により公表された「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書」によると、世界の陸地の約75%は著しく改変され、海洋の66%は複数の人為的な影響下にあり、1700年以降湿地の85%以上が消失するなど、人類史上かつてない速度で地球全体の自然が変化していると報告されています。また、過去50年間の地球上の種の絶滅は、過去1,000万年平均の少なくとも数十倍、あるいは数百倍の速度で進んでおり、適切な対策を講じなければ、今後更に加速すると指摘されています。

2019年の国連総会においては、世界中の生態系の劣化を予防し、食い止め、反転させるための努力を支援し、拡大させるために、2030年までに陸と海の30%以上を保護・保全する「30by30目標」が提唱されました。30by30目標の達成に当たっては、自然保護を目的とした国立公園等の保護地域に加えて、それ以外の場所で生物多様性の保全に資する地域として OECM（Other Effective area-based Conservation Measures）の役割も重視されました。この OECM は、持続可能な生産活動の場を含め、より広範囲における生物多様性保全や生態系回復の動きを後押しできる可能性を有するものであり、我が国においても、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている里地里山、企業緑地、社寺林などの区域を自然共生サイトとして認定する制度が始まりました。

また、2022年12月に採択された新たな生物多様性に関する世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」においては、「人間によって引き起こされる既知の絶滅危惧種の絶滅を阻止し、また絶滅リスクを大幅に減らすための種、特に絶滅危惧種を回復及び保全し、並びに適応能力の維持のために在来種、野生種及び家畜・栽培種の個体群内及び個体群間の遺伝的多様性を維持及び回復するために、生息域内及び生息域外保全や持続可能な管理の実践等を通じて緊急の管理行動を確保するとともに、共存に向けて人間と野生生物との軋轢を最小化するため、人間と野生生物の相互作用を効果的に管理する」ことが位置づけられました。これを受け、令和5年には、自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる「2030年ネイチャーポジティブ」を掲げ、その実現のためのロードマップとして「生物多様性国家戦略 2023-2030」を策定しました。

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」については、自然とのふれあいや関わりを維持しつつ、積極的な生息地・生育地の保全活動等を推進するため、平成29年度に「特定第二種国内希少野生動植物種」制度を創設しました。本制度は、主に里地里山など二次的自然に生息する両生類、淡水魚類、昆虫類などの指定を想定しており、調査研究や環境教育等を目的とした捕獲等の行為については規制されないため、自然との関わりやふれあいを維持しつつ、各地域で積極的な生息・生育地の保全活動等が展開され、対象種の保全が進むことが期待されます。

本書は、平成24年に公表した「第4次レッドリスト」並びにその解説版である「レッドデータブック 2014」、平成29年に公表した「環境省版海洋生物レッドリスト」及び「第4次レッドリスト」の内容を一部見直して公表した環境省レッドリスト 2020 について、最新の知見を踏まえ改訂を行い、「第5次レッドリスト・レッドデータブック」として編纂したものです。「第5次レッドリスト」では、これまでと異

なり、個別の分類群の事情を超えて統一的な評価を行うために、「レッドリスト作成の手引」を作成し、絶滅のおそれに関する基準をより具体的に規定するとともに、定量的な情報に基づいて評価することを原則とすることで、生息地・生育地の現状をより正確に反映できるよう努めました。また、都道府県レッドリストの作成が充実してきたことに伴う「絶滅のおそれのある地域個体群」(LP)の評価基準の見直しやクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの表示等による利用のしやすさの改善など、さまざまな見直しを行っております。

レッドリスト・レッドデータブックは、捕獲規制等の直接的な法的効力を生むものではありませんが、社会への警鐘として広く社会に情報を提供することにより、さまざまな場面で多様な活用が図られるものです。環境省においても、環境影響評価法に基づく環境アセスメント等、さまざまな環境政策において基礎資料として活用され、近年、規制を伴う政策との関連がますます強化される傾向にあります。特に、「種の保存法」との関係では、レッドリスト掲載種の中で特に保護の優先度の高い種について、生息状況等に関する詳細な調査の実施等によりさらなる情報収集を行い、その結果や生息地・生育地の自然的・社会的状況等に応じて同法に基づく国内希少野生動植物種に指定する等、必要な保護措置を講じていくこととしています。一方で、今回の改訂では、個体数が回復したこと等により絶滅危惧カテゴリーから除外された国内希少野生動植物種もあり、こうした種については、次回の見直しに向けて引き続き生息状況等を注視し、今後の評価結果も踏まえて、必要に応じて指定の解除を検討することとしています。

なお、掲載種の中には、人為による捕獲・採取圧(密猟・盗掘を含む)が主な減少要因となっている種が少なくありませんが、レッドリスト・レッドデータブックに掲載されることにより、かえって商業目的や観賞目的等による乱獲・盗掘等の対象となるおそれが増大することが懸念される種もあります。今回のレッドリスト・レッドデータブックに掲載された種を将来にわたって存続させていくには、国民をはじめ多様な主体が、その種がレッドリスト・レッドデータブックに掲載された意味を真摯に考えることが重要です。環境省としては、こうした観点からの普及啓発・広報や保護措置の充実等の各種対策を一層推進していく考えです。

今回のレッドリスト・レッドデータブック編纂に当たっては、レッドリスト掲載種の選定・評価からレッドデータブックの執筆まで、絶滅のおそれのある野生生物の選定評価検討会及び同分科会の委員各位、その他多くの研究者や専門家の方々から多大なるご指導、ご協力、ご尽力を賜りました。また、種の選定から本書の編纂にわたる過程において、データの整理等は(一財)自然環境研究センターが担当しました。

本書の編纂にご協力いただいた関係各位に対し、ここに改めて厚く感謝申し上げるとともに、本書が今後、行政、事業者、関係団体等、様々な主体による取組に広く活用されることを祈念します。

環境省自然環境局野生生物課
希少種保全推進室

目 次

はじめに.....	i
環境省レッドリスト・レッドデータブック作成の目的と経緯	iv
第5次レッドリスト作成の検討体制.....	vii
第5次レッドリスト(維管束植物)の作成と評価結果	ix
第5次レッドリスト(維管束植物)	xx
第5次レッドデータブック(維管束植物)の掲載内容	lxxxvi
■協力者一覧(敬称略)	xc
第5次レッドデータブック(維管束植物) 各種の解説.....	1
第5次レッドリスト(維管束植物)においてカテゴリー外(レッドリスト不掲載)となった種の解説	6255
■学名索引.....	6292
■和名索引.....	6323

環境省レッドリスト・レッドデータブック作成の目的と経緯

レッドリスト・レッドデータブックとは

レッドリストとは、日本に生息又は生育する野生生物について、生物学的観点から個々の種の絶滅の危険度を評価した上で絶滅危惧種を選定し、リストにまとめたものであり、おおむね5年ごとに見直しを行っている。絶滅危惧種の保存施策は、生物学的知見に立脚しつつ、時機を失うことなく適切に実施される必要があり、種の保存法に基づく希少野生動植物種保存基本方針に基づいてレッドリストを作成し、施策の推進に必要な各種の調査研究を積極的に推進することとしている。また併せて、レッドリストに掲載された種について、その生息状況等を取りまとめ編纂したレッドデータブックを作成し、おおむね10年ごとに見直しを行っている。

これまでのレッドリストの改訂状況

・初版レッドデータブック（平成3年）

野生生物の保全のためには、絶滅のおそれのある種を的確に把握し、一般への理解を広める必要があることから、環境省では、昭和61年度より「緊急に保護を要する動植物の種の選定調査」を行った。その結果を踏まえ、動物については平成3年に環境庁（当時）版レッドデータブック「日本の絶滅のおそれのある野生生物－脊椎動物編」及び「日本の絶滅のおそれのある野生生物－無脊椎動物編」を取りまとめた。

なお、植物については、平成元年に、日本植物分類学会が中心となって維管束植物を対象として編集した「我が国における保護上重要な植物種の現状」が、我が国で最初のレッドデータブックである。

・第2次レッドリスト・レッドデータブック（平成9年～18年）

平成7年度には、国際自然保護連合（IUCN）で採択された新しいカテゴリー（ランク）の考え方を踏まえ、動物についてはレッドリストの見直し、植物については新たに環境省版としてレッドリストの作成に着手した。動物では、①哺乳類 ②鳥類、③爬虫類、④両生類、⑤汽水・淡水魚類、⑥昆虫類、⑦陸・淡水産貝類、⑧その他無脊椎動物（クモ形類、甲殻類等）、植物では⑨植物I（維管束植物）、⑩植物II（蘚苔類、藻類、地衣類、菌類）の計10分類群ごとに、平成9～12年度にかけて順次レッドリストを公表した。また、このレッドリストを元に、分類群ごとのレッドデータブックを平成12～18年度に発行した。

・第3次レッドリスト（平成18年・19年）

平成14年度より2回目のレッドリストの見直し作業に着手し、平成18年12月に鳥類、爬虫類、両生類、その他無脊椎動物の4分類群、平成19年8月に残りの哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I（維管束植物）、植物II（蘚苔類、藻類、地衣類、菌類）の6分類群のレッドリストを公表した（動物については3回目、植物については2回目の公表）。新たにレッドリストに掲載された種や、カテゴリーが変更された種については、現行レッドデータブックの付属説明資料を作成した。

・第4次レッドリスト及びレッドデータブック2014（平成24年～27年）

平成 20 年度より、上記の見直しに引き続き、3 回目のレッドリスト見直し作業に着手した。前回見直し後の生息・生育状況や生息・生育環境の変化等の最新の知見を収集し検討を行ってきた。平成 24 年度に 10 分類群のレッドリストについて見直し作業が終了し、新たな第 4 次レッドリストを取りまとめ、公表した。

・第 4 次レッドリストの随時見直し（平成 27 年～令和 2 年）

第 4 次レッドリストについては、平成 27 年度から令和 2 年度まで、生息状況の悪化等によりカテゴリーの再検討が必要な種について、時期を定めず必要に応じて個別に見直しを行った。

平成 27 年に、哺乳類の一部の種及び絶滅のおそれのある地域個体群（ゼニガタアザラシ、カモシカの地域個体群）についてカテゴリー（ランク）を見直したレッドリスト 2015 を公表した。

平成 29 年に、13 分類群の 60 種についてカテゴリーを見直したレッドリスト 2017 を公表した。絶滅危惧種は 38 種増加し、合計 3,634 種となった。また、平成 29 年 10 月には、レッドリスト 2017 において新規に掲載された種（亜種、変種等を含む。）及びカテゴリーが変更された種（合計 60 種）を対象に、レッドデータブックに代わる解説資料として、それらの評価理由や生息状況等を解説した「環境省レッドリスト 2017 補遺資料」を公表した。

平成 30 年に、67 種についてカテゴリーを見直したレッドリスト 2018 を公表した。絶滅危惧種は 41 種増加（44 種追加、3 種削除）し、合計 3,675 種となった。また、レッドデータブックに代わる解説資料として、上記 67 種について随時見直しの評価理由や生息状況等を解説した「環境省レッドリスト 2018 補遺資料」を公表した。

平成 31 年に、トキ及びトキウモウダニについてカテゴリーを見直したレッドリスト 2019 を公表した。絶滅危惧種は 1 種増加し、合計 3,676 種となった。また、レッドデータブックに代わる解説資料として、上記 2 種について随時見直しの評価理由や生息状況等を解説した「環境省レッドリスト 2019 補遺資料」を公表した。

令和 2 年に、75 種のカテゴリーを見直したレッドリスト 2020 を公表した。絶滅危惧種は 39 種増加し、合計 3,716 種となった。平成 29 年度に公表された海洋生物レッドリストに掲載された種数とあわせると、環境省が絶滅危惧種と評価した種は 3,772 種となった。また、レッドデータブックに代わる解説資料として、上記 75 種について、随時見直しの評価理由や生息状況等を解説した「環境省レッドリスト 2020 補遺資料」を公表した。

・海洋生物レッドリスト（平成 29 年）

平成 23 年に「海洋生物多様性保全戦略」が策定され「海洋生物の希少性等の評価」の推進が位置づけられるなど、海洋の生物に対する関心の高まりを受け、平成 24 年度より海洋生物レッドリスト作成の作業を開始した。魚類、サンゴ類、甲殻類、頭足類、その他無脊椎動物の 5 分類群のうち、これまで評価を行っていなかった種について、新たにレッドリストを取りまとめ海洋生物レッドリストとして公表した。海洋生物レッドリストでは絶滅危惧種として 56 種が掲載された。なお、水産庁が資源評価を実施している種や小型鯨類などの 94 種は、水産庁が評価した。

・第 5 次レッドリスト・レッドデータブック（令和 7 年～）

令和2年度より、従来のレッドリストと海洋生物レッドリストの検討体制を統合した。令和7年3月に、①維管束植物、②蘚苔類、③藻類、④地衣類、⑤菌類の5分類群について第5次レッドリスト・レッドデータブックを公表した。今後、他の分類群についても令和8年以降に順次公表することとしている。

第5次レッドリスト作成の検討体制

環境省第5次レッドリストの作成に当たっては、専門家による「絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会」を設置し、その下に分類群毎に分科会を設置して検討を進めることとした。

- 第5次レッドリスト検討体制（敬称略。50音順。所属は原則として令和6（2024）年度現在。）

[絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会委員]

座 長：石井 実	大阪府立大学 名誉教授 兼 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 理事長
委 員：石井 信夫	東京女子大学 名誉教授
岩崎 敬二	奈良大学文学部地理学科 教授
大高 明史	弘前大学 名誉教授
尾崎 清明	山階鳥類研究所 副所長
柏谷 博之	国立科学博物館 名誉研究員
角野 康郎	神戸大学 名誉教授
木村 清志	三重大学 名誉教授
白山 義久	京都大学 名誉教授
田中 次郎	東京海洋大学 名誉教授
深見 裕伸	宮崎大学農学部海洋生物環境学科 教授
逸見 泰久	熊本大学 名誉教授
細谷 和海	近畿大学 名誉教授
細矢 剛	国立科学博物館植物研究部 部長
松井 正文	京都大学 名誉教授
山口 富美夫	広島大学大学院統合生命科学研究科 教授

[分科会]

哺乳類分科会	座長：石井信夫 委員数： 5名
鳥類分科会	座長：尾崎清明 委員数： 7名
爬虫類・両生類分科会	座長：松井正文 委員数： 5名
淡水魚類分科会	座長：細谷和海 委員数：10名
海水魚類分科会	座長：木村清志 委員数：13名
サンゴ類分科会	座長：深見裕伸 委員数： 5名
昆虫類分科会	座長：石井 実 委員数：12名
甲殻類分科会	座長：逸見泰久 委員数：12名
軟体動物分科会	座長：岩崎敬二 委員数： 10名
陸域その他無脊椎動物分科会	座長：大高明史 委員数： 6名
海域その他無脊椎動物分科会	座長：白山義久 委員数：10名

維管束植物分科会 座長：角野康郎 委員数：10 名

蘚苔類分科会 座長：山口富美夫 委員数：5 名

藻類分科会 座長：田中次郎 委員数：6 名

地衣類分科会 座長：柏谷博之 委員数：5 名

菌類分科会 座長：細矢 剛 委員数：5 名

第5次レッドリスト(維管束植物)の作成と評価結果

第5次レッドリスト(維管束植物)について

環境省(当時は環境庁)が編集した最初のレッドデータブックは、第2次レッドリスト(1997)に基づいて2000年に刊行された。それから四半世紀を経て、第5次レッドリストを公表することになった。第2次レッドリスト以降、国際自然保護連合(IUCN)のカテゴリーを一部変更した上で採用している。維管束植物においては、現地調査の膨大なデータを解析して、数値基準に基づいて定量的なカテゴリー判定を行ってきた。

第5次レッドリストでは、従来以上に数値基準を重視したカテゴリー判定を行った。さらに分類群の取り扱い(独立した分類群として認めるか否か;適正に公表された分類群であるか否か;外来種の可能性はないか、等)についても議論を進め、また絶滅危惧植物種調査の基本台帳とも言えるべきグリーンリストとの整合性についても検討した。その結果、従来のレッドリストに掲載されていた種のうち35種が今回は不掲載となったが(理由については該当ページを参照)、将来のレッドリスト見直しの基礎となる完成度の高いリストをまとめることができた。

第5次レッドリストと随時見直しに基づく「レッドリスト2020」との比較については後述の通りであるが、第2次レッドリストからの変遷をふり返ると、日本の野生植物が直面するさまざまな課題が見えてくる。「絶滅危惧(CR,EN,VU)」の種数(亜種、変種含む)は、第2次1,665種(2000)、第3次1,690種(2007)、第4次1,779種(2014)、そして今回の第5次が1,765種(2025)となる。保全努力や調査の進展によって絶滅危惧のカテゴリーが下がる種がある一方、カテゴリーが上がる種も数多くあり、総数は漸増傾向から横ばい状態にある。絶滅(EX)や野生絶滅(EW)種の中には再発見された種もあるが、全体としては増えている。

野生植物の減少要因として、園芸採取やさまざまな開発行為による自生地の消滅は今も後を立たず、自然遷移の進行は耕作放棄地の増加などの社会環境の変化も加わってますます深刻になりつつある。分布拡大と個体数の増加が止まらないシカによる食害と外来生物による被害も脅威となっている。野生植物の保全には、これらの課題への有効な取り組みが求められている。

近年、植物分類学の解析手法は著しい発展を遂げ、新種あるいは新変種が次々と確認されつつある。今回のレッドリストの取りまとめまでに公表が間に合わず、掲載できなかった種が少なくない。新分類群の中には多くの絶滅危惧種が含まれており、5年後に予定される中間見直しでは追加される可能性がある。また既知の分類群でも、最新の現地情報が得られないためにカテゴリー判定に慎重にならざるを得ないケースがあった。今後の更なる調査と情報収集も喫緊の課題である。

環境省レッドリストは、全国47都道府県の主任調査員と現地調査を担っていただいた多くの方々から提供いただいた情報に基づいて作成されている。カテゴリー判定案の作成は日本植物分類学会絶滅危惧植物専門第一委員会ならびに関連分類群の専門家によって行われた。維管束植物分科会を代表して、ご協力いただいた全ての皆様にお礼申し上げたい。

令和7年3月
維管束植物分科会座長 角野 康郎

[維管束植物分科会委員]

座 長：	角野 康郎	神戸大学 名誉教授
委 員：	東 隆行	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏ステーション植物園 助教
	伊藤 元己	東京大学 名誉教授
	海老原 淳	国立科学博物館植物研究部 研究主幹
	勝山 輝男	神奈川県立生命の星・地球博物館 名誉館員
	黒沢 高秀	福島大学共生システム理工学類 教授
	高宮 正之	熊本大学大学教育統括管理運営機構 シニア教授・名誉教授
	藤井 伸二	人間環境大学人間環境学部 准教授
	矢原 徹一	九州オープンユニバーシティ 理事
	横田 昌嗣	琉球大学 名誉教授

(1) 第5次レッドリスト（維管束植物）作成の手順

評価対象種のカテゴリー判定にあたっては、2015（平成 27）年に刊行された、『レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物— 8 植物 I（維管束植物）』と同様に、全国レベルでの現地調査を実施し、収集されたデータを基に以下の手順に沿って評価を行った。

1) 対象種の絞り込み

日本に自生する維管束植物は 7,000 種以上ともいわれており、これらのすべてについて現地調査を実施することは人員、予算、時間的な制約等により事実上不可能である。そのため、第4次レッドリスト掲載種に加え、分科会委員や各地の専門家からの推薦により、新たに危険な状態にある種について追加したリストを作成し、日本植物分類学会絶滅危惧植物専門第一委員会の検討を経て、現地調査対象種を選定した。

2) 現地調査の実施

日本植物分類学会絶滅危惧植物専門第一委員会が選定した調査責任者（主任調査員）を各都道府県に置き、その下に十数～数十名の調査員を組織し、1) で示した対象種について現地調査を実施した。現地調査の開始にあたっては、調査方法やデータの集積等の確認のため主任調査員を集めた説明会を開催した。

調査は、昭和 48 年 7 月 12 日 行政管理庁告示第 143 号「統計に用いる標準地域メッシュ及び標準地域メッシュコード」で定められた第2次地域図画（2次メッシュ）の単位で実施した。ただし一部の島嶼においては、より詳細な情報が得られていることから3次メッシュの単位で実施した。2次メッシュは、国土地理院の2万5千分の1地形図一幅にも相当し、およそ 10km×10km の範囲となっている。この1つの2次メッシュを 100 の区画に区分けしたものが3次メッシュである。

調査員は、過去の調査で生育が確認されているメッシュにおいては現存個体数を、今回の現地調査で新たに生育が確認されたメッシュにおいては、現存個体数及び調査員の近年の情報を基に得られた減少率を表 1、2 の区分に応じて調査票に記入した。栄養繁殖して広がっているなど、個体数の把握が困難な場合には、現存個体数に代わって集団数を表 3 の区分に応じて記入した。

なお、現存個体数については、繁殖能力を備えた個体（成熟個体）を対象とし、種子植物では開花個体数を数えるものとし、シダ植物においては孢子嚢をつけた個体を数えるものとした。また減少率は過去10年間の減少を目安とした。

主任調査員は担当する都道府県の調査票データを取りまとめ、日本植物分類学会絶滅危惧植物専門第一委員会の事務局へ提出した。提出されたデータはデータベースとして取りまとめられた。なお、提出された調査票データは委員会において確認し、必要に応じて既存文献や委員による個別の調査結果と比較した。比較の結果、現地調査の結果に過大・過小推定が考えられる場合には、補正した値で評価を行った。

表1 現存個体数の回答方法

レベル	現存個体数の区分
1	10 個体未満（具体的な個体数を記述）
2	50 個体未満
3	100 個体未満
4	1,000 個体未満
5	10,000 個体未満
6	10,000 個体以上
7	絶滅（※1）
8	未発見（※2）
9	未調査

※1 絶滅したことが明らかであると判断される場合。

※2 現地調査で個体を確認できなかった場合。

表2 減少率の回答方法

レベル	減少率の区分
1	1/100 未満
2	1/10 未満
3	1/2 未満
4	1 未満
5	現状維持または増加
6	不明

表3 集団数の回答方法

レベル	集団数の区分
1	10 集団未満（具体的な集団数を記述）
2	10 集団以上 50 集団未満
3	50 集団以上

3) カテゴリー判定

①絶滅（EX）及び野生絶滅（EW）の判定

まず、「レッドリスト作成の手引」に基づき、絶滅（EX）、野生絶滅（EW）への該当性を検討した。具体的には、以下のいずれかの基準を満たし、過去に我が国に生育したことが確認されており、栽培下を含め我が国ではすでに絶滅したと考えられる場合はEX、栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態では存続しているが、我が国において本来の自然の生育地ではすでに絶滅したと考えられる場合はEWと評価した。

EX、EWの基準

基準①：信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。

基準②：信頼できる複数の調査によっても、生育が確認できなかった。

基準③：過去50年間前後の間に信頼できる生育の情報が得られていない。

②その他のカテゴリーの判定

①において絶滅（EX）又は野生絶滅（EW）と判定されなかった種について、その他のカテゴリー（CR、EN、VU、NT、DD）への該当性を検討した。この内、絶滅危惧カテゴリー（CR、EN、VU）は、IUCN基準に準拠し作成した「レッドリスト作成の手引」に基づく5つの数値基準（基準A～E）によって評価することとされている。なお、基準の解釈運用に当たっては「レッドリスト作成の手引」やIUCNガイドライン等を踏まえ、各分科会等の判断によることとされている。

維管束植物のカテゴリー判定にあたっては、ア）基準E、イ）ACD基準、ウ）基準A、基準C、基準Dの順に基準を適用した※。適用手順としては、まずア）を適用した上でイ）の適用結果と比較検討し、妥当な結果と考えられた評価を採用した。ア）及びイ）のいずれも適用できない場合は、ウ）基準A、基準C、基準Dによる判定を行った。このカテゴリー判定の流れを次の図1に示した。

※イ）ACD基準は維管束植物分科会のレッドリスト独自の判定基準である。

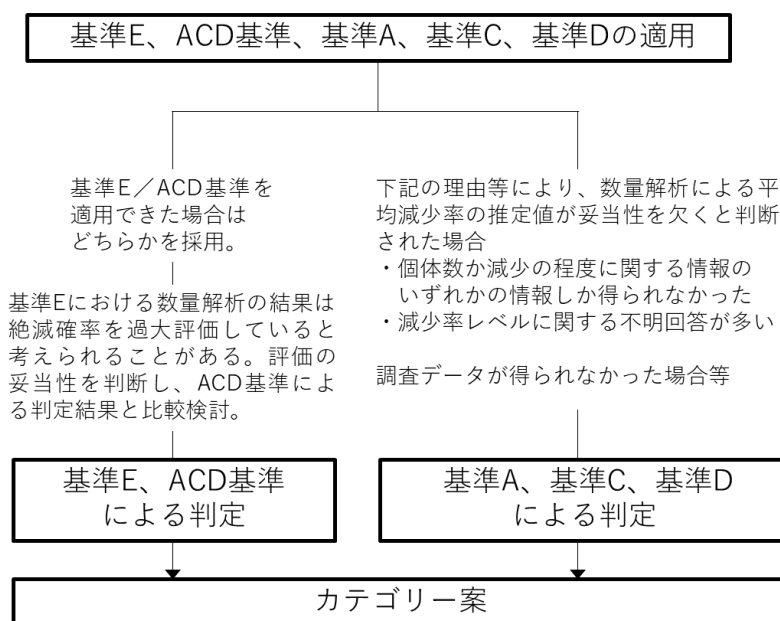


図1 カテゴリー判定の流れ

ア) 基準 E による絶滅確率に基づく判定

基準 E では絶滅確率の推定値に基づいて判定を行う。100 年後の絶滅確率が 10%以上の分類群は「絶滅危惧」と判定される。「絶滅危惧」は以下の 3 つのカテゴリーに区分される。

基準 E における絶滅危惧カテゴリーの基準

CR (絶滅危惧IA 類) : 数量解析により、野生下における 10 年間、もしくは 3 世代のどちらか長い方における絶滅確率が 50%以上。
EN (絶滅危惧IB 類) : 数量解析により、野生下における 20 年間、もしくは 5 世代のどちらか長い方における絶滅確率が 20%以上。
VU (絶滅危惧II類) : 数量解析により、野生下における 100 年間の絶滅確率が 10%以上。

今回の調査及び過去の調査で得られたデータに基づいて以下に述べる方法で絶滅確率を推定し、基準 E を用いて判定を行った。ただし、世代時間はほとんどの種について不明のため、判定にあたっては「10 年後、20 年後、100 年後」の絶滅確率を用い、世代時間は用いない。

IUCN 及び環境省のレッドリストでは、近い将来「絶滅危惧カテゴリー」に判定される可能性のある分類群に対して「準絶滅危惧 (NT)」というカテゴリーを設けているが、その数値基準は定めていないため、100 年後の絶滅確率が 0.1%以上 10%未満の分類群を「準絶滅危惧 (NT)」と判定した。

<絶滅確率の数量解析方法>

絶滅確率は、以下の手順で数量解析により求めた。

ある種の現存個体数及び減少率のデータから、10 年後、20 年後、100 年後における各メッシュの個体数を 1,000 回シミュレーション予測し、すべてのメッシュにおいて個体数が 1 未満となった場合、その種は絶滅したと判定した。1,000 回のシミュレーションのうち、10 年後、20 年後、100 年後に絶滅が起きた回数を数え、その回数を 1,000 で割って絶滅確率を求めた。

数量解析にあたっては、各メッシュの個体数レベルを特定の個体数に読み替えた (10 個体未満=3 個体、50 個体未満=22 個体、100 個体未満=31 個体、1,000 個体未満=316 個体、10,000 個体未満=3,162 個体、10,000 個体以上=31,623 個体)。これらの数値は、対数軸上での平均値に相当する。予備的な検討から、個体数レベルは減少率レベルに比べ、絶滅確率の推定への影響は小さいと判断されるため、特定の数値への読み替えを行った。減少率レベルについては、個体数レベルのように特定の値に読み替えることはせずに、たとえばレベル 2 の場合、減少率が $1/100 - 1/10$ (99~90%) のいずれかの値であるとして、数量解析を行った。レベル 1 ($1/100$ 未満) の回答については、減少率が $1/1,000 - 1/100$ (99.9~99%) の間にあるとみなし、レベル 5 (現状維持または増加) の回答については、増減なしとみなした。一方、絶滅と回答されたメッシュについては、減少率が $1/1,000$ (99.9%) であったと仮定した。これは、絶滅が起きた事例では、自生地が大規模に破壊されることが多いことを考慮したものである。

ある同一メッシュにおける前回調査時のデータがある場合、各調査メッシュの減少率は表 4 の通りとした。なお、増加の場合には増加率の上限値 5 (500%) を設け、それ以上の増加率が算出されたときにはこの上限値を与えた。これは、本来の個体数増加ではないデータ (新個体群の発見など) の影響を低減するための措置である。

表4 前回調査データがある場合の減少率

減少率 (>1 は増加率)		前回調査時の個体数							
		絶滅	<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	不明
今回調査時の個体数	絶滅・未発見	—	1/10	1/50	1/100	1/1000	1/10000	1/100000	—
	<10	1～5	1/10～1	1/50～1/5	1/100～1/10	1/1000～1/100	1/10000～1/1000	1/100000～1/10000	—
	<50	1～5	1～5	1/5～1	1/10～1/2	1/100～1/20	1/1000～1/200	1/10000～1/2000	—
	<100	1～5	1～5	1～5	1/2～1	1/20～1/10	1/200～1/100	1/2000～1/1000	—
	<1000	1～5	1～5	1～5	1～5	1/10～1	1/100～1/10	1/1000～1/100	—
	<10000	1～5	1～5	1～5	1～5	1～5	1/10～1	1/100～1/10	—
	>10000	1～5	1～5	1～5	1～5	1～5	1～5	1/10～1	—
	不明	—	—	—	—	—	—	—	—
	未回答等	—	—	—	—	—	—	—	—

また、数量解析においては、報告されたメッシュ以外に、絶滅したメッシュが1メッシュあったと仮定した。これは、メッシュあたりの個体数が少ない場合には、とくに絶滅が起きやすくなる効果を考慮するためである。例えば、現存個体数が50個体のメッシュが1メッシュあり、減少していないという場合、減少率を0とみなせば絶滅確率も0となり、基準Eではカテゴリー外となる。しかし、種子による次世代の更新がうまくいかない年が続く、生育に不適な年が続くなど、絶滅が起きる可能性があり、絶滅確率は0ではない。このような点を考慮し、仮想的な絶滅メッシュを1つ加えることにより、シミュレーションにおいても一定のリスクを与え、適切な評価を得るようにした。

ただし、以上のような判定は、いくつかの点で絶滅確率を過大評価している可能性がある。第一に、個体数が「未発見」と回答されたメッシュの中には、実際には多数の個体が生存している可能性もある。第二に、メッシュ数が少ないが、個体数が安定している分類群では、シミュレーションで加えた仮想的な絶滅メッシュの効果が強すぎる場合がある。このような可能性が考えられる場合は、評価の妥当性を判断するため、調査票の記述、生育現状が記されている論文や文献などを活用して再度検討した。その結果、数量解析の結果が絶滅確率を大きく過大評価していると考えられる場合については、次のACD基準による判定結果と比較検討し、最終的な評価を行った。

イ) ACD 基準による判定

ACD 基準は、個体数と減少率から計算される10年後、20年後、100年後の個体数の期待値によって評価するもので、下記の数値基準で判定を行った。

ACD 基準における絶滅危惧カテゴリーの基準

- CR（絶滅危惧IA類）：平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。
- EN（絶滅危惧IB類）：平均減少率で減少したときの、20年後の個体数が250個体未満。
- VU（絶滅危惧II類）：平均減少率で減少したときの、100年後の個体数が1,000個体未満。

判定を行うための平均減少率は、基準 E の説明で示した数量解析をすべてのメッシュで絶滅が起きるまで続け、絶滅までに要する平均年数を求め、その年数と現在の総個体数から計算した。

ACD 基準の判定に用いられる数値基準は図 2 の 3 本の曲線であり、曲線で区切られた 4 つの領域がカテゴリーの範囲を示している（曲線はそれぞれ、平均減少率で減少したときの 10 年後の個体数が 50 個体の曲線、20 年後の個体数が 250 個体の曲線、100 年後の個体数が 1,000 個体の曲線を表す）。なお、図 2 の破線は、ウ）で後述する基準 A、基準 C、基準 D の閾値を統合して図示したものである。図 2 から分かるように、破線の閾値では、個体数が多く絶滅リスクが低い種についても、減少率が 80%を超えた場合に CR として過大評価される可能性があるが、ACD 基準（実線の閾値）はこのような絶滅リスクの過大評価傾向を補正する。

※基準 E と ACD 基準の比較

基準 E による判定と ACD 基準による判定は、多くの場合一致した。一致した場合は基準 E の判定結果として採用した。基準 E と ACD 基準の判定が食い違った場合には、より厳しい判定結果を採用した。ただし、評価の妥当性の判断により絶滅確率が過大評価されていると考えられる場合については、調査票の記述、生育現状が記されている論文や文献情報などをもとに、現存総個体数に基づいた再評価を行い、必要に応じて判定を修正し、より適切と判断される判定結果を採用した。

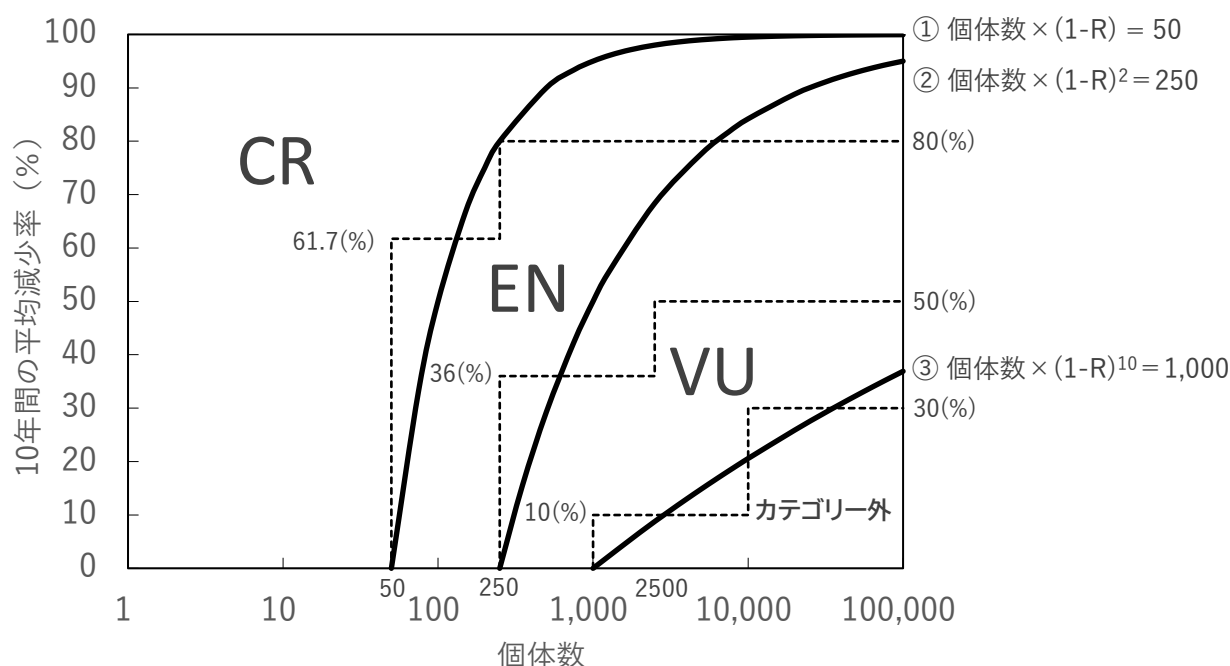


図 2 ACD 基準における個体数と減少率に基づくカテゴリーの判定方法

3つの曲線①②③は ACD 基準で用いる数値基準を示し、それらで区切られた領域がカテゴリーの範囲（CR、EN、VU、カテゴリー外）を示している。R は 10 年間の平均減少率（%）を 100 で割った値である。

ウ）基準 A、基準 C、基準 D による判定

ア）及びイ）による判定は、個体数と減少率に関する情報が必要であり、いずれかの情報が得られなかった種、あるいはどちらの情報も得られなかった種はこれらの方法を使用することはできない。このような種については、基準 A、基準 C、基準 D による判定を適用した。

また、減少率レベルに関する不明回答が多い種において、数量解析による平均減少率の推定値を用いたア) またはイ) による判定が妥当性を欠くと判断される場合がある。このような場合も、調査票の記述、生育現状が記されている論文や文献などをもとに現存総個体数や減少率を算出し、基準 A、基準 C、基準 D による判定を行った。これらによって適用した基準のうち、最も厳しい判定結果を採用した。

基準 A では減少率のみで判定を行う。その基準値は、「レッドリスト作成の手引」の基準 A2 に基づき、以下のとおりである。

基準 A

- | |
|--|
| CR (絶滅危惧IA 類) : 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、80%以上の減少があったと推定される。 |
| EN (絶滅危惧IB 類) : 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定される。 |
| VU (絶滅危惧II類) : 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定される。 |

基準 C では減少率と個体数で判定を行うが、基準 A や後述の基準 D とは異なる基準値が設定されており、「レッドリスト作成の手引」の基準 C1 に基づき以下のとおりとした。なお、維管束植物分科会では過去 10 年間を目安とした減少率を用いているため、CR の場合は 3 年間の減少率 25%を 10 年間に換算した 61.7%の減少率とし、EN の場合は 5 年間の減少率 20%を 10 年間に換算した 36%の減少率を用いた。

基準 C

- | |
|--|
| CR (絶滅危惧IA 類) : 個体群の成熟個体数が 250 未満であると推定され、3 年間もしくは 1 世代のどちらか長い期間に 25%以上の継続的な減少が推定される。 |
| EN (絶滅危惧IB 類) : 個体群の成熟個体数が 2,500 未満であると推定され、5 年間もしくは 2 世代のどちらか長い期間に 20%以上の継続的な減少が推定される。 |
| VU (絶滅危惧II類) : 個体群の成熟個体数が 10,000 未満であると推定され、10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間に 10%以上の継続的な減少が推定される。 |

基準 D では個体数のみで判定を行う。その基準値は以下のとおりである。

基準 D

- | |
|--|
| CR (絶滅危惧IA 類) : 成熟個体数が 50 未満であると推定される個体群である場合。 |
| EN (絶滅危惧IB 類) : 成熟個体数が 250 未満であると推定される個体群である場合。 |
| VU (絶滅危惧II類) : 成熟個体数が 1,000 未満であると推定される個体群である場合。 |

エ) 準絶滅危惧 (NT) の判定

ア)、イ)、ウ) に基づくカテゴリー判定の結果、いずれの数値基準も満たさない場合は、「レッドリスト作成の手引」に基づき、準絶滅危惧 (NT) への該当性を検討した。生育状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断された場合、具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがある場合、NT と評価した。

NT の基準

- 基準①：個体数が減少している。
- 基準②：生育条件が悪化している。
- 基準③：過度の採取圧による圧迫を受けている。
- 基準④：交雑可能な別種が侵入している。

※その他、ア) における評価によって NT と判定される場合がある。

オ) 情報不足 (DD) の判定

ア)、イ)、ウ) に基づくカテゴリー判定の際、情報不足によりいずれの基準にも適用ができない場合は、「レッドリスト作成の手引」に基づき、情報不足 (DD) への該当性を検討した。環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧カテゴリーに移行する属性 (具体的には、次のいずれかの要素) を有しているが、生育状況をはじめとして、カテゴリーを判定するに足る情報が得られていない場合、DD と評価した。

DD の基準

- 基準①：どの生育地においても密度が低く希少である。
- 基準②：生育地が局限されている。
- 基準③：生物地理上、孤立した分布特性を有する。
- 基準④：生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。

③カテゴリー外の判定

上記①及び②のどちらにも該当しない場合は、カテゴリー外 (レッドリスト不掲載) と判定した。

<参考となる文献>

- 日本植物分類学会絶滅危惧植物問題専門第一委員会, 1998. 日本産野生維管束植物レッドリストの調査・判定方法と判定結果の特徴. 日本植物分類学会会報, 13: 81-87.
- 松田裕之, 2000. 秋の七草が絶滅する日=絶滅の生態学. 環境生態学序説, pp. 41-53. 共立出版.
- 矢原徹一, 2002. 植物レッドデータブックにおける絶滅リスク評価とその応用. 矢原徹一・川窪伸光(編). 保全と復元の生物学, pp. 59-93. 文一総合出版.

参考：環境省レッドリストのカテゴリー

カテゴリー		定義と基本概念
絶滅 Extinct (EX)		我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 Extinct in the Wild (EW)		飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧	絶滅危惧 IA 類 Critically Endangered (CR)	深刻な絶滅の危機に瀕している種 (現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なものであって、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)
	絶滅危惧 IB 類 Endangered (EN)	絶滅の危機に瀕している種 (現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なものであって、IA 類(CR)ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
	絶滅危惧 II 類 Vulnerable (VU)	絶滅の危険が増大している種 (現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、「絶滅危惧 IA 類(CR)」または「絶滅危惧 IB 類(EN)」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの)
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)		存続基盤が脆弱な種 (現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの)
情報不足 Data Deficient (DD)		カテゴリーを判定するための情報が不足している種 (現時点での絶滅危険度は確定できないが、今後情報が得られれば「絶滅危惧」等になりうるもの)

付属資料

絶滅のおそれのある地域個体群 Threatened Local Population (LP)	孤立した地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの

出典：環境省レッドリストカテゴリーと判定基準を抜粋して作成

（２）第５次レッドリスト（維管束植物）掲載種数

今回の見直しの結果による第５次レッドリスト掲載種の 카테고리内訳と、レッドリスト 2020 からの各 카테고리における種数の変遷は、以下のとおりである。

表１ 第５次レッドリスト（維管束植物）掲載種の 카테고리内訳

EX	EW	CR	EN	VU	NT	DD	合計
26	10	539	526	700	377	44	2222

表２ 各 카테고리における種数の変遷（レッドリスト 2020 と第５次レッドリストの比較）

		第5次レッドリストにおける評価								
		EX	EW	CR	EN	VU	NT	DD	不掲載	合計
内訳		26	10	539	526	700	377	44	35	2257
レッドリスト2020	EX	26	0	0	1	1	0	0	0	28
	EW	0	9	2	0	0	0	0	0	11
	CR	0	1	447	54	15	0	4	8	529
	EN	0	0	47	397	57	9	1	9	520
	VU	0	0	10	48	600	71	3	9	741
	NT	0	0	1	0	1	290	1	4	297
	DD	0	0	0	1	0	0	31	5	37
新規追加		0	0	32	25	26	7	4	0	94

（３）第５次レッドリスト（維管束植物）から明らかになった点

維管束植物の第５次レッドリストの評価結果を前回の RL2020 と比較すると、300 を超える種で 카테고리の変更があった。また、アキヨシアザミ、アポイツメクサ、アマクサツチトリモチなど新たに 94 種が掲載された。一方で、アケボノアオイ、イシガキキヌラン、イヌノグサなど 35 種が、現時点での絶滅危険度は小さい、最新の研究成果から独立種等とすることが妥当でないなどの理由でレッドリスト不掲載となった。その結果、絶滅危惧Ⅰ類（CR,EN）および絶滅危惧Ⅱ類（VU）を含む絶滅危惧種は、1790 種から 1765 種に減少した。

第５次レッドリストではキバナホウチャクソウが新たに野生絶滅（EW）と評価された。一方で、前回絶滅（EX）あるいは EW と評価された種の中で、ホソバノキミズ、ツクシカイドウ、ムジナノカミソリ、ムニンキヌランの 4 種は、野生下での再発見などにより絶滅危惧に 카테고리が変更となった。

なお、前回 CR,EN,VU と評価された種のうち、オキナワイ、コマチイワヒトデ、トウシャジンなど 8 種が DD と評価された。一方で、前回 DD と評価された種のうち、ニセコガネギシギシは絶滅危惧ⅠB 類（EN）に 카테고리が変更となった。

第5次レッドリスト(維管束植物)

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0001	絶滅(EX)	コウヨウザンカズラ	<i>Phlegmariurus cunninghamioides</i>
VP0002	絶滅(EX)	タカネハナワラビ	<i>Botrychium boreale</i>
VP0003	絶滅(EX)	イオウジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvifolium</i>
VP0004	絶滅(EX)	オオイワヒメワラビ	<i>Hypolepis tenuifolia</i>
VP0005	絶滅(EX)	ウスバシダモドキ	<i>Tectaria dissecta</i>
VP0006	絶滅(EX)	ヒトツバノキシノブ	<i>Pyrrosia angustissima</i>
VP0007	絶滅(EX)	ヒメソクシンラン	<i>Aletris scopulorum</i>
VP0008	絶滅(EX)	ミドリシャクジョウ	<i>Burmannia coelestris</i>
VP0009	絶滅(EX)	キリシマタヌキノショクダイ	<i>Thismia tuberculata</i>
VP0010	絶滅(EX)	台湾アオイラン	<i>Acanthephippium striatum</i>
VP0011	絶滅(EX)	ジンヤクラン	<i>Arachnis labrosa</i>
VP0012	絶滅(EX)	ツクシサカネラン	<i>Neottia kiusiana</i>
VP0013	絶滅(EX)	ツシマラン	<i>Odontochilus poilanei</i>
VP0014	絶滅(EX)	タカノホシクサ	<i>Eriocaulon setaceum</i>
VP0015	絶滅(EX)	タチガヤツリ	<i>Cyperus diaphanus</i>
VP0016	絶滅(EX)	ホクトガヤツリ	<i>Cyperus procerus</i>
VP0017	絶滅(EX)	チャイロテンツキ	<i>Fimbristylis leptoclada</i> var. <i>takamineana</i>
VP0018	絶滅(EX)	イシガキイトテンツキ	<i>Fimbristylis pauciflora</i>
VP0019	絶滅(EX)	カラクサキンボウゲ	<i>Ranunculus gmelinii</i>
VP0020	絶滅(EX)	ソロハギ	<i>Flemingia strobilifera</i>
VP0021	絶滅(EX)	サガミメドハギ	<i>Lespedeza hisauchii</i>
VP0022	絶滅(EX)	ツクシアキツルイチゴ	<i>Rubus hatsushimae</i>
VP0023	絶滅(EX)	オオミコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>omiensis</i>
VP0024	絶滅(EX)	マツラコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>pubigera</i>
VP0025	絶滅(EX)	クモイコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>kirisimana</i>
VP0026	絶滅(EX)	トヨシマアザミ	<i>Cirsium toyoshimae</i>
VP0027	野生絶滅(EW)	ハイミガタシダ	<i>Phegopteris aurita</i>
VP0028	野生絶滅(EW)	コバヤシカナワラビ	<i>Arachniodes yasu-inouei</i> var. <i>angustipinnula</i>
VP0029	野生絶滅(EW)	シビイタチシダ	<i>Dryopteris shibipedis</i>
VP0030	野生絶滅(EW)	コブシモドキ	<i>Magnolia pseudokobus</i>
VP0031	野生絶滅(EW)	キバナホウチャクソウ	<i>Disporum uniflorum</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0032	野生絶滅(EW)	キノエササラン	<i>Liparis bootanensis</i> var. <i>uchiyamae</i>
VP0033	野生絶滅(EW)	コシガヤホシクサ	<i>Eriocaulon heleocharioides</i>
VP0034	野生絶滅(EW)	リュウキュウベンケイ	<i>Kalanchoe spathulata</i> var. <i>spathulata</i>
VP0035	野生絶滅(EW)	ナルトオウギ	<i>Astragalus sikokianus</i>
VP0036	野生絶滅(EW)	オリヅルスミレ	<i>Viola stoloniflora</i>
VP0037	絶滅危惧IA 類(CR)	コスギトウゲシバ	<i>Huperzia somae</i>
VP0038	絶滅危惧IA 類(CR)	イヌヤチスギラン	<i>Lycopodiella caroliniana</i>
VP0039	絶滅危惧IA 類(CR)	リュウキュウヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>christensenianum</i>
VP0040	絶滅危惧IA 類(CR)	ボウカズラ	<i>Phlegmariurus carinatus</i>
VP0041	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒモスギラン	<i>Phlegmariurus fargesii</i>
VP0042	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメヨウラクヒバ	<i>Phlegmariurus salvinoides</i>
VP0043	絶滅危惧IA 類(CR)	チシマヒメドクサ	<i>Equisetum variegatum</i>
VP0044	絶滅危惧IA 類(CR)	ミヤマハナワラビ	<i>Botrychium lanceolatum</i>
VP0045	絶滅危惧IA 類(CR)	ミドリハナワラビ	<i>Botrychium triangularifolium</i>
VP0046	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒノタニリュウビンタイ	<i>Angiopteris fokiensis</i>
VP0047	絶滅危惧IA 類(CR)	キクモバホラゴケ	<i>Callistopteris apiifolia</i>
VP0048	絶滅危惧IA 類(CR)	サキシマホラゴケ	<i>Cephalomanes atrovirens</i>
VP0049	絶滅危惧IA 類(CR)	マルバコケシダ	<i>Didymoglossum bimariginatum</i>
VP0050	絶滅危惧IA 類(CR)	ユビコケシノブ	<i>Hymenophyllum digitatum</i>
VP0051	絶滅危惧IA 類(CR)	ムクゲコケシノブ	<i>Hymenophyllum pilosissimum</i>
VP0052	絶滅危惧IA 類(CR)	シマヤマソテツ	<i>Plagiogyria stenoptera</i>
VP0053	絶滅危惧IA 類(CR)	イヌイノモトソウ	<i>Lindsaea ensifolia</i>
VP0054	絶滅危惧IA 類(CR)	シノブホングウシダ	<i>Lindsaea kawabatae</i>
VP0055	絶滅危惧IA 類(CR)	コビトホラシノブ	<i>Odontosoria minutula</i>
VP0056	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤエヤマホラシノブ	<i>Odontosoria yaeyamensis</i>
VP0057	絶滅危惧IA 類(CR)	シマタキミシダ	<i>Antrophyum formosanum</i>
VP0058	絶滅危惧IA 類(CR)	イワウラジロ	<i>Cheilanthes krameri</i>
VP0059	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソバイワガネソウ	<i>Coniogramme gracilis</i>
VP0060	絶滅危惧IA 類(CR)	イトシシラン	<i>Haplopteris mediosora</i>
VP0061	絶滅危惧IA 類(CR)	オオバシシラン	<i>Haplopteris yakushimensis</i>
VP0062	絶滅危惧IA 類(CR)	アシガタシダ	<i>Pteris grevilleana</i>
VP0063	絶滅危惧IA 類(CR)	カワバタハチジョウシダ	<i>Pteris kawabatae</i>
VP0064	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソバコウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>angustata</i>
VP0065	絶滅危惧IA 類(CR)	ホウライウスヒメワラビ	<i>Acystopteris tenuisecta</i>
VP0066	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤマドリトラノオ	<i>Asplenium castaneoviride</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0067	絶滅危惧IA 類(CR)	ホコガタシダ	<i>Asplenium ensiforme</i>
VP0068	絶滅危惧IA 類(CR)	フササジラン	<i>Asplenium griffithianum</i>
VP0069	絶滅危惧IA 類(CR)	イエジマチャセンシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> var. <i>iezimaense</i>
VP0070	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメタニワタリ	<i>Hymenasplenium cardiophyllum</i>
VP0071	絶滅危惧IA 類(CR)	ウスイロホウビシダ	<i>Hymenasplenium subnormale</i>
VP0072	絶滅危惧IA 類(CR)	キタダケデシダ	<i>Woodsia subcordata</i>
VP0073	絶滅危惧IA 類(CR)	タイワンアリサンイヌワラビ	<i>Athyrium arisanense</i> var. <i>arisanense</i>
VP0074	絶滅危惧IA 類(CR)	シビイヌワラビ	<i>Athyrium arisanense</i> var. <i>kenzo-satakei</i>
VP0075	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤクイヌワラビ	<i>Athyrium masamunei</i>
VP0076	絶滅危惧IA 類(CR)	シイバサトメシダ	<i>Athyrium neglectum</i> subsp. <i>australe</i>
VP0077	絶滅危惧IA 類(CR)	ナンゴクシケチシダ	<i>Athyrium opacum</i> f. <i>glabrescens</i>
VP0078	絶滅危惧IA 類(CR)	サカバイヌワラビ	<i>Athyrium reflexipinnum</i>
VP0079	絶滅危惧IA 類(CR)	タカサゴイヌワラビ	<i>Athyrium silvicola</i>
VP0080	絶滅危惧IA 類(CR)	トゲヤマイヌワラビ	<i>Athyrium spinescens</i>
VP0081	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤクシマタニイヌワラビ	<i>Athyrium yakusimense</i>
VP0082	絶滅危惧IA 類(CR)	ジャコウシダ	<i>Deparia formosana</i>
VP0083	絶滅危惧IA 類(CR)	コウライイヌワラビモドキ	<i>Deparia henryi</i>
VP0084	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒュウガシケシダ	<i>Deparia minamitanii</i>
VP0085	絶滅危惧IA 類(CR)	モッチョムシダ	<i>Diplazium kawabatae</i>
VP0086	絶滅危惧IA 類(CR)	アオイガワラビ	<i>Diplazium kawakamii</i>
VP0087	絶滅危惧IA 類(CR)	ムシャシダ	<i>Diplazium megaphyllum</i>
VP0088	絶滅危惧IA 類(CR)	フクレギシダ	<i>Diplazium pinfaense</i>
VP0089	絶滅危惧IA 類(CR)	ムニンミドリシダ	<i>Diplazium subtripinnatum</i>
VP0090	絶滅危惧IA 類(CR)	タイヨウシダ	<i>Thelypteris erubescens</i>
VP0091	絶滅危惧IA 類(CR)	シマヤワラシダ	<i>Thelypteris gracilescens</i>
VP0092	絶滅危惧IA 類(CR)	リュウキュウキンモウワラビ	<i>Hypodematium fordii</i>
VP0093	絶滅危惧IA 類(CR)	イツキカナワラビ	<i>Arachniodes cantilenae</i>
VP0094	絶滅危惧IA 類(CR)	アタシカカナワラビ	<i>Arachniodes exilis</i> f. <i>oohorae</i>
VP0095	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒュウガカナワラビ	<i>Arachniodes hiugana</i>
VP0096	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒロハナライシダ	<i>Arachniodes quadripinnata</i> subsp. <i>fimbriata</i>
VP0097	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒゴカナワラビ	<i>Arachniodes simulans</i>
VP0098	絶滅危惧IA 類(CR)	ツルダカナワラビ	<i>Arachniodes yaoshanensis</i>
VP0099	絶滅危惧IA 類(CR)	クマヤブソテツ	<i>Cyrtomium anomophyllum</i>
VP0100	絶滅危惧IA 類(CR)	クマイワヘゴ	<i>Dryopteris anthracinisquama</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0101	絶滅危惧IA 類(CR)	エビノオオクジャク	<i>Dryopteris dickinsii</i> x <i>D. polylepis</i>
VP0102	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソバヌカイトチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i> x <i>D. koidzumiana</i>
VP0103	絶滅危惧IA 類(CR)	キリシマイワヘゴ	<i>Dryopteris hangchowensis</i>
VP0104	絶滅危惧IA 類(CR)	オオミネイワヘゴ	<i>Dryopteris lunanensis</i>
VP0105	絶滅危惧IA 類(CR)	アラゲミサキカグマ	<i>Dryopteris subtsushimensis</i>
VP0106	絶滅危惧IA 類(CR)	マルバヌカイトチシダモドキ	<i>Dryopteris tsugiwoi</i>
VP0107	絶滅危惧IA 類(CR)	ツツイイワヘゴ	<i>Dryopteris tsutsuiana</i>
VP0108	絶滅危惧IA 類(CR)	オオヤグルマシダ	<i>Dryopteris wallichiana</i>
VP0109	絶滅危惧IA 類(CR)	オキナワアツイタ	<i>Elaphoglossum callifolium</i>
VP0110	絶滅危惧IA 類(CR)	キュウシュウイノデ	<i>Polystichum grandifrons</i>
VP0111	絶滅危惧IA 類(CR)	タカネシダ	<i>Polystichum lachenense</i>
VP0112	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤシャイノデ	<i>Polystichum neolobatum</i>
VP0113	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミデンダ	<i>Polystichum obae</i>
VP0114	絶滅危惧IA 類(CR)	サクラジマイノデ	<i>Polystichum piceopaleaceum</i>
VP0115	絶滅危惧IA 類(CR)	シムライノデ	<i>Polystichum shimurae</i>
VP0116	絶滅危惧IA 類(CR)	ワラビツナギ	<i>Arthropteris palisotii</i>
VP0117	絶滅危惧IA 類(CR)	コモチナナバケシダ	<i>Tectaria fauriei</i>
VP0118	絶滅危惧IA 類(CR)	ナガバウスバシダ	<i>Tectaria kusukusensis</i>
VP0119	絶滅危惧IA 類(CR)	カザリシダ	<i>Aglaomorpha coronans</i>
VP0120	絶滅危惧IA 類(CR)	ハカマウラボシ	<i>Drynaria roosii</i>
VP0121	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミアオネカズラ	<i>Goniophlebium amamianum</i>
VP0122	絶滅危惧IA 類(CR)	トヨグチウラボシ	<i>Lepisorus clathratus</i>
VP0123	絶滅危惧IA 類(CR)	ウロコノキシノブ	<i>Lepisorus oligolepidus</i>
VP0124	絶滅危惧IA 類(CR)	オニマメヅタ	<i>Lepisorus pyriformis</i>
VP0125	絶滅危惧IA 類(CR)	オキノクリハラン	<i>Leptochilus decurrens</i>
VP0126	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒロハヒメウラボシ	<i>Oreogrammitis nipponica</i>
VP0127	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒトツバマメヅタ	<i>Pyrrosia adnascens</i>
VP0128	絶滅危惧IA 類(CR)	台湾ンビロードシダ	<i>Pyrrosia linearifolia</i> var. <i>heterolepis</i>
VP0129	絶滅危惧IA 類(CR)	キレハオオクボシダ	<i>Tomophyllum sakaguchianum</i>
VP0130	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i>
VP0131	絶滅危惧IA 類(CR)	シモツケコウホネ	<i>Nuphar submersa</i>
VP0132	絶滅危惧IA 類(CR)	タイヨウフウトウカズラ	<i>Piper postelsianum</i>
VP0133	絶滅危惧IA 類(CR)	オナガサイシン	<i>Asarum caudigerum</i>
VP0134	絶滅危惧IA 類(CR)	グスクカンアオイ	<i>Asarum gusk</i>
VP0135	絶滅危惧IA 類(CR)	シジキカンアオイ	<i>Asarum hexalobum</i> var. <i>controversum</i>
VP0136	絶滅危惧IA 類(CR)	ジュロウカンアオイ	<i>Asarum kinoshitae</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0137	絶滅危惧IA 類(CR)	タニムラアオイ	<i>Asarum leucosepalum</i>
VP0138	絶滅危惧IA 類(CR)	オナガカンアオイ	<i>Asarum minamitanianum</i>
VP0139	絶滅危惧IA 類(CR)	フクエジマカンアオイ	<i>Asarum mitoanum</i>
VP0140	絶滅危惧IA 類(CR)	モノドラカンアオイ	<i>Asarum monodoriflorum</i>
VP0141	絶滅危惧IA 類(CR)	ナゼカンアオイ	<i>Asarum nazeanum</i>
VP0142	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>
VP0143	絶滅危惧IA 類(CR)	トリガミネカンアオイ	<i>Asarum pellucidum</i>
VP0144	絶滅危惧IA 類(CR)	サツマアオイ	<i>Asarum satsumense</i>
VP0145	絶滅危惧IA 類(CR)	センカクカンアオイ	<i>Asarum senkakuinsulare</i>
VP0146	絶滅危惧IA 類(CR)	アサトカンアオイ	<i>Asarum tabatanum</i>
VP0147	絶滅危惧IA 類(CR)	シモダカンアオイ	<i>Heterotropa muramatsui</i> var. <i>shimodana</i>
VP0148	絶滅危惧IA 類(CR)	クロボウモドキ	<i>Monoon liukiense</i>
VP0149	絶滅危惧IA 類(CR)	テングノハナ	<i>Illigera luzonensis</i>
VP0150	絶滅危惧IA 類(CR)	オドリコテンナンショウ	<i>Arisaema aprile</i>
VP0151	絶滅危惧IA 類(CR)	ホロテンナンショウ	<i>Arisaema cucullatum</i>
VP0152	絶滅危惧IA 類(CR)	オオアマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>majus</i>
VP0153	絶滅危惧IA 類(CR)	オキナワテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>okinawense</i>
VP0154	絶滅危惧IA 類(CR)	イナヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema inaense</i>
VP0155	絶滅危惧IA 類(CR)	イシヅチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i>
VP0156	絶滅危惧IA 類(CR)	トクノシマテンナンショウ	<i>Arisaema kawashimae</i>
VP0157	絶滅危惧IA 類(CR)	アマギテンナンショウ	<i>Arisaema kuratae</i>
VP0158	絶滅危惧IA 類(CR)	シコクヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i> var. <i>longipedunculatum</i>
VP0159	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒュウガヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema minamitanii</i>
VP0160	絶滅危惧IA 類(CR)	ナギヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema nagiense</i>
VP0161	絶滅危惧IA 類(CR)	ツクシテンナンショウ	<i>Arisaema ogatae</i>
VP0162	絶滅危惧IA 類(CR)	セツピコテンナンショウ	<i>Arisaema seppikoense</i>
VP0163	絶滅危惧IA 類(CR)	ユズノハカズラ	<i>Pothos chinensis</i>
VP0164	絶滅危惧IA 類(CR)	サキシマハブカズラ	<i>Rhaphidophora korthalsii</i>
VP0165	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメハブカズラ	<i>Rhaphidophora liukiensis</i>
VP0166	絶滅危惧IA 類(CR)	ナガエチャボゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>kiusiana</i>
VP0167	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒュウガハナゼキショウ	<i>Tofieldia yoshiiiana</i> var. <i>hyugaensis</i>
VP0168	絶滅危惧IA 類(CR)	アズミノヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>azuminoense</i>
VP0169	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソバヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>harimense</i>
VP0170	絶滅危惧IA 類(CR)	カラフトグワイ	<i>Sagittaria natans</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0171	絶滅危惧IA 類(CR)	セトヤナギスブタ	<i>Blyxa alternifolia</i>
VP0172	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメイバラモ	<i>Najas tenuicaulis</i>
VP0173	絶滅危惧IA 類(CR)	ガシャモク	<i>Potamogeton lucens</i> subsp. <i>sinicus</i> var. <i>tenganumensis</i>
VP0174	絶滅危惧IA 類(CR)	イヌイトモ	<i>Potamogeton obtusifolius</i>
VP0175	絶滅危惧IA 類(CR)	ナガバエビモ	<i>Potamogeton praelongus</i>
VP0176	絶滅危惧IA 類(CR)	ネジリカワツルモ	<i>Ruppia megacarpa</i>
VP0177	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤハズカワツルモ	<i>Ruppia</i> x <i>truncatifolia</i>
VP0178	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒナノボンボリ	<i>Saionia hyodoi</i>
VP0179	絶滅危惧IA 類(CR)	ホシザキシヤクジョウ	<i>Saionia shinzatoi</i>
VP0180	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤクノヒナホシ	<i>Saionia yamashitae</i>
VP0181	絶滅危惧IA 類(CR)	タヌキノショクダイ	<i>Thismia abei</i>
VP0182	絶滅危惧IA 類(CR)	コウベタヌキノショクダイ	<i>Thismia kobensis</i>
VP0183	絶滅危惧IA 類(CR)	ルゾンヤマノイモ	<i>Dioscorea luzonensis</i>
VP0184	絶滅危惧IA 類(CR)	ユワンオニドコロ	<i>Dioscorea tabatae</i>
VP0185	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミタチドコロ	<i>Dioscorea zentaroana</i>
VP0186	絶滅危惧IA 類(CR)	コウヅシマソウ	<i>Sciaphila kozushimensis</i>
VP0187	絶滅危惧IA 類(CR)	イシガキソウ	<i>Sciaphila multiflora</i>
VP0188	絶滅危惧IA 類(CR)	オモトソウ	<i>Sciaphila sugimotoi</i>
VP0189	絶滅危惧IA 類(CR)	タカクマソウ	<i>Sciaphila tenella</i>
VP0190	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤクシマソウ	<i>Sciaphila yakushimensis</i>
VP0191	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソミアダン	<i>Pandanus daitoensis</i>
VP0192	絶滅危惧IA 類(CR)	クロカミシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>kurokamiana</i>
VP0193	絶滅危惧IA 類(CR)	ウケユリ	<i>Lilium alexandrae</i>
VP0194	絶滅危惧IA 類(CR)	キバナスゲユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>flaviflorum</i>
VP0195	絶滅危惧IA 類(CR)	タモトユリ	<i>Lilium nobilissimum</i>
VP0196	絶滅危惧IA 類(CR)	サツマホトギス	<i>Tricyrtis hirta</i> var. <i>masamunei</i>
VP0197	絶滅危惧IA 類(CR)	エンレイショウキラン	<i>Acanthephippium pictum</i>
VP0198	絶滅危惧IA 類(CR)	タイワンショウキラン	<i>Acanthephippium sylhetense</i>
VP0199	絶滅危惧IA 類(CR)	キバナシュスラン	<i>Anoectochilus formosanus</i>
VP0200	絶滅危惧IA 類(CR)	コウシュンシュスラン	<i>Anoectochilus koshunensis</i>
VP0201	絶滅危惧IA 類(CR)	クスクスラン	<i>Bulbophyllum affine</i>
VP0202	絶滅危惧IA 類(CR)	シコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>macraei</i>
VP0203	絶滅危惧IA 類(CR)	タネガシマシコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>tanegashimense</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0204	絶滅危惧IA 類(CR)	キソエビネ	<i>Calanthe alpina</i>
VP0205	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミエビネ	<i>Calanthe amamiana</i>
VP0206	絶滅危惧IA 類(CR)	タガネラン	<i>Calanthe davidii</i> var. <i>bungoana</i>
VP0207	絶滅危惧IA 類(CR)	タマザキエビネ	<i>Calanthe densiflora</i>
VP0208	絶滅危惧IA 類(CR)	ホシツルラン	<i>Calanthe hoshii</i>
VP0209	絶滅危惧IA 類(CR)	サクラジマエビネ	<i>Calanthe mannii</i>
VP0210	絶滅危惧IA 類(CR)	アリサンムヨウラン	<i>Cheirostylis takeoi</i>
VP0211	絶滅危惧IA 類(CR)	モイワラン	<i>Cremastra aphylla</i>
VP0212	絶滅危惧IA 類(CR)	シマホザキラン	<i>Crepidium boninense</i>
VP0213	絶滅危惧IA 類(CR)	オキナワヒメラン	<i>Crepidium purpureum</i>
VP0214	絶滅危惧IA 類(CR)	オオスズムシラン	<i>Cryptostylis arachnites</i>
VP0215	絶滅危惧IA 類(CR)	タカオオスズムシラン	<i>Cryptostylis taiwaniana</i>
VP0216	絶滅危惧IA 類(CR)	ヘツカラン	<i>Cymbidium dayanum</i>
VP0217	絶滅危惧IA 類(CR)	スルガラン	<i>Cymbidium ensifolium</i>
VP0218	絶滅危惧IA 類(CR)	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>
VP0219	絶滅危惧IA 類(CR)	コラン	<i>Cymbidium koran</i>
VP0220	絶滅危惧IA 類(CR)	アキザキナギラン	<i>Cymbidium lancifolium</i>
VP0221	絶滅危惧IA 類(CR)	ハウサイラン	<i>Cymbidium sinense</i>
VP0222	絶滅危惧IA 類(CR)	オオナギラン	<i>Cymbidium syunitianum</i>
VP0223	絶滅危惧IA 類(CR)	チョウセンキバナアツモリソウ	<i>Cypripedium guttatum</i>
VP0224	絶滅危惧IA 類(CR)	ホテИАツモリ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>macranthos</i>
VP0225	絶滅危惧IA 類(CR)	ドウトウアツモリソウ	<i>Cypripedium shanxiense</i>
VP0226	絶滅危惧IA 類(CR)	ホザキヒメラン	<i>Dienia ophrydis</i>
VP0227	絶滅危惧IA 類(CR)	サガリラン	<i>Diploprora championii</i>
VP0228	絶滅危惧IA 類(CR)	ジョウロウラン	<i>Disperis neilgherrensis</i>
VP0229	絶滅危惧IA 類(CR)	オオオサラン	<i>Eria scabrilinguis</i>
VP0230	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソフデラン	<i>Erythrodes blumei</i>
VP0231	絶滅危惧IA 類(CR)	タカツルラン	<i>Erythrorchis altissima</i>
VP0232	絶滅危惧IA 類(CR)	タカサゴヤガラ	<i>Eulophia dentata</i>
VP0233	絶滅危惧IA 類(CR)	クロシマヤツシロラン	<i>Gastrodia kuroshimensis</i>
VP0234	絶滅危惧IA 類(CR)	ツツザキヤツシロラン	<i>Gastrodia okinawensis</i>
VP0235	絶滅危惧IA 類(CR)	ナンゴクヤツシロラン	<i>Gastrodia shimizuana</i>
VP0236	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤブミョウガラン	<i>Goodyera fumata</i>
VP0237	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメクリソラン	<i>Hancockia uniflora</i>
VP0238	絶滅危惧IA 類(CR)	アワチドリ	<i>Hemipilia graminifolia</i> var. <i>suzukiana</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0239	絶滅危惧IA 類(CR)	クシロチドリ	<i>Herminium monorchis</i>
VP0240	絶滅危惧IA 類(CR)	ミスズラン	<i>Herminium pusillum</i>
VP0241	絶滅危惧IA 類(CR)	オオカゲロウラン	<i>Hetaeria oblongifolia</i>
VP0242	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミムヨウラン	<i>Lecanorchis moritae</i>
VP0243	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤクムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>yakusimensis</i>
VP0244	絶滅危惧IA 類(CR)	アワムヨウラン	<i>Lecanorchis purpurea</i>
VP0245	絶滅危惧IA 類(CR)	タブガワムヨウラン	<i>Lecanorchis tabugawaensis</i>
VP0246	絶滅危惧IA 類(CR)	ミドリムヨウラン	<i>Lecanorchis virella</i>
VP0247	絶滅危惧IA 類(CR)	コゴメキノエラン	<i>Liparis elliptica</i>
VP0248	絶滅危惧IA 類(CR)	シマクモキリソウ	<i>Liparis hostifolia</i>
VP0249	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメスズムシソウ	<i>Liparis krameri</i> var. <i>nikkoensis</i>
VP0250	絶滅危惧IA 類(CR)	キバナコ克蘭	<i>Liparis sootenzanensis</i>
VP0251	絶滅危惧IA 類(CR)	クモイジガバチ	<i>Liparis truncata</i>
VP0252	絶滅危惧IA 類(CR)	ナンバンカモメラン	<i>Macodes petola</i>
VP0253	絶滅危惧IA 類(CR)	カイサカネラン	<i>Neottia furusei</i>
VP0254	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾサカネラン	<i>Neottia nidus-avis</i>
VP0255	絶滅危惧IA 類(CR)	オオハクウンラン	<i>Odontochilus fissus</i>
VP0256	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメシラヒゲラン	<i>Odontochilus nanlingensis</i>
VP0257	絶滅危惧IA 類(CR)	オオギミラン	<i>Odontochilus tashiroi</i>
VP0258	絶滅危惧IA 類(CR)	ツクシアリドオシラン	<i>Odontochilus tsukusianus</i>
VP0259	絶滅危惧IA 類(CR)	コケイランモドキ	<i>Oreorchis coreana</i>
VP0260	絶滅危惧IA 類(CR)	コハ克蘭	<i>Oreorchis indica</i>
VP0261	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒゲナガトンボ	<i>Peristylus calcaratus</i>
VP0262	絶滅危惧IA 類(CR)	タコガタサギソウ	<i>Peristylus lacertifer</i> var. <i>triangularis</i>
VP0263	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメカ克蘭	<i>Phaius mishmensis</i>
VP0264	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤクシマチドリ	<i>Platanthera amabilis</i>
VP0265	絶滅危惧IA 類(CR)	ツクシチドリ	<i>Platanthera brevicealcarata</i> subsp. <i>yakumontana</i>
VP0266	絶滅危惧IA 類(CR)	オオバナオオヤマサギソウ	<i>Platanthera hondoensis</i>
VP0267	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>amamiana</i>
VP0268	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤクシマトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>masamunei</i>
VP0269	絶滅危惧IA 類(CR)	ハチジョウツレサギ	<i>Platanthera okuboi</i>
VP0270	絶滅危惧IA 類(CR)	クニガミトンボソウ	<i>Platanthera sonoharae</i>
VP0271	絶滅危惧IA 類(CR)	ソハヤキトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>hottae</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0272	絶滅危惧IA 類(CR)	クロカミラン	<i>Ponerorchis graminifolia</i> var. <i>kurokamiana</i>
VP0273	絶滅危惧IA 類(CR)	サツマチドリ	<i>Ponerorchis graminifolia</i> var. <i>nigropunctata</i>
VP0274	絶滅危惧IA 類(CR)	イリオモテラン	<i>Staurochilus luchuensis</i>
VP0275	絶滅危惧IA 類(CR)	イリオモテカヤラン	<i>Thrixspermum annamense</i>
VP0276	絶滅危惧IA 類(CR)	ハガクレナガミラン	<i>Thrixspermum fantasticum</i>
VP0277	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミカヤラン	<i>Thrixspermum pygmaeum</i>
VP0278	絶滅危惧IA 類(CR)	オオキヌラン	<i>Zeuxine nervosa</i>
VP0279	絶滅危惧IA 類(CR)	ムジナノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>koreana</i>
VP0280	絶滅危惧IA 類(CR)	セトガワギボウシ	<i>Hosta takiminazukiflora</i> subsp. <i>grandis</i>
VP0281	絶滅危惧IA 類(CR)	サツマオモト	<i>Rohdea japonica</i> var. <i>latifolia</i>
VP0282	絶滅危惧IA 類(CR)	ニツパヤシ	<i>Nypa fruticans</i>
VP0283	絶滅危惧IA 類(CR)	チシマミクリ	<i>Sparganium hyperboreum</i>
VP0284	絶滅危惧IA 類(CR)	アマノホシクサ	<i>Eriocaulon amanoanum</i>
VP0285	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒュウガホシクサ	<i>Eriocaulon echinulatum</i>
VP0286	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon perplexum</i>
VP0287	絶滅危惧IA 類(CR)	スイシャホシクサ	<i>Eriocaulon truncatum</i>
VP0288	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾイトイ	<i>Juncus potaninii</i>
VP0289	絶滅危惧IA 類(CR)	ミヤマゼキシヨウ	<i>Juncus yakeisidakensis</i>
VP0290	絶滅危惧IA 類(CR)	トダスゲ	<i>Carex aequialta</i>
VP0291	絶滅危惧IA 類(CR)	ザラツキシラスゲ	<i>Carex albidibasis</i>
VP0292	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソスゲ	<i>Carex disperma</i>
VP0293	絶滅危惧IA 類(CR)	トナカイスゲ	<i>Carex globularis</i>
VP0294	絶滅危惧IA 類(CR)	ハウザンスゲ	<i>Carex hoozanensis</i>
VP0295	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤリスゲ	<i>Carex kabanovii</i>
VP0296	絶滅危惧IA 類(CR)	センジョウスゲ	<i>Carex lehmannii</i>
VP0297	絶滅危惧IA 類(CR)	チャボカワズスゲ	<i>Carex omiana</i> var. <i>yakushimana</i>
VP0298	絶滅危惧IA 類(CR)	トックリスゲ	<i>Carex rhynchachaenium</i>
VP0299	絶滅危惧IA 類(CR)	コヌマスゲ	<i>Carex rotundata</i>
VP0300	絶滅危惧IA 類(CR)	ダイセンアシボソスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>parvisquama</i>
VP0301	絶滅危惧IA 類(CR)	ムニンヒョウタンスゲ	<i>Carex yasuii</i>
VP0302	絶滅危惧IA 類(CR)	オオホウキガヤツリ	<i>Cyperus digitatus</i>
VP0303	絶滅危惧IA 類(CR)	ニイガタガヤツリ	<i>Cyperus niigatensis</i>
VP0304	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメホウキガヤツリ	<i>Cyperus nutans</i> var. <i>subprolixus</i>
VP0305	絶滅危惧IA 類(CR)	コウシュンスゲ	<i>Cyperus pedunculatus</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0306	絶滅危惧IA 類(CR)	クロミノハリイ	<i>Eleocharis atropurpurea</i>
VP0307	絶滅危惧IA 類(CR)	カヤツリマツバイ	<i>Eleocharis retroflexa</i> subsp. <i>chaetaria</i>
VP0308	絶滅危惧IA 類(CR)	カドハリイ	<i>Eleocharis tetraquetra</i> var. <i>tsurumachii</i>
VP0309	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾワタスゲ	<i>Eriophorum scheuchzeri</i> var. <i>tenuifolium</i>
VP0310	絶滅危惧IA 類(CR)	トモエバテンツキ	<i>Fimbristylis fimbristylodes</i>
VP0311	絶滅危惧IA 類(CR)	イッスンテンツキ	<i>Fimbristylis kadzusana</i>
VP0312	絶滅危惧IA 類(CR)	ウナヅキテンツキ	<i>Fimbristylis nutans</i>
VP0313	絶滅危惧IA 類(CR)	ビャッコイ	<i>Isolepis crassiuscula</i>
VP0314	絶滅危惧IA 類(CR)	ミクリガヤ	<i>Rhynchospora malasica</i>
VP0315	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソバシンジュガヤ	<i>Scleria biflora</i>
VP0316	絶滅危惧IA 類(CR)	キリシマノガリヤス	<i>Calamagrostis autumnalis</i> subsp. <i>autumnalis</i>
VP0317	絶滅危惧IA 類(CR)	ビロードメヒシバ	<i>Digitaria mollicoma</i>
VP0318	絶滅危惧IA 類(CR)	タイシャクカモジ	<i>Elymus pendulinus</i> var. <i>pendulinus</i>
VP0319	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾムギ	<i>Elymus sibiricus</i>
VP0320	絶滅危惧IA 類(CR)	タカネエゾムギ	<i>Elymus yubaridakensis</i>
VP0321	絶滅危惧IA 類(CR)	ケナシハイチゴザサ	<i>Isachne lutchuensis</i>
VP0322	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメハイチゴザサ	<i>Isachne myosotis</i>
VP0323	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメカモノハシ	<i>Ischaemum indicum</i>
VP0324	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメウシノシッペイ	<i>Mnesithea laevis</i> var. <i>cochinchinensis</i>
VP0325	絶滅危惧IA 類(CR)	オオヌカキビ	<i>Panicum paludosum</i>
VP0326	絶滅危惧IA 類(CR)	イネガヤ	<i>Piptatherum kuoi</i>
VP0327	絶滅危惧IA 類(CR)	キタダケイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>kitadakensis</i>
VP0328	絶滅危惧IA 類(CR)	ハラヌメリ	<i>Sacciolepis myosuroides</i>
VP0329	絶滅危惧IA 類(CR)	コモロコシガヤ	<i>Sorghum nitidum</i> var. <i>nitidum</i>
VP0330	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメネズミノオ	<i>Sporobolus hancei</i>
VP0331	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾオオケマン	<i>Corydalis gigantea</i>
VP0332	絶滅危惧IA 類(CR)	ハウザンツヅラフジ	<i>Cocculus orbiculatus</i>
VP0333	絶滅危惧IA 類(CR)	ハウライツヅラフジ	<i>Pericampylus formosanus</i>
VP0334	絶滅危惧IA 類(CR)	イイデトリカブト	<i>Aconitum iidemontanum</i>
VP0335	絶滅危惧IA 類(CR)	コウライブシ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>jaluense</i>
VP0336	絶滅危惧IA 類(CR)	イヤリトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> subsp. <i>maritimum</i> var. <i>iyariense</i>
VP0337	絶滅危惧IA 類(CR)	キタダケトリカブト	<i>Aconitum kitadakense</i>
VP0338	絶滅危惧IA 類(CR)	オンタケブシ	<i>Aconitum metajaponicum</i>
VP0339	絶滅危惧IA 類(CR)	オオサワトリカブト	<i>Aconitum senanense</i> subsp. <i>senanense</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
			<i>var. isidzukeae</i>
VP0340	絶滅危惧IA 類(CR)	キリギシソウ	<i>Callianthemum kirigishiense</i>
VP0341	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒダカソウ	<i>Callianthemum miyabeianum</i>
VP0342	絶滅危惧IA 類(CR)	コウヤハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>obvallata</i>
VP0343	絶滅危惧IA 類(CR)	リュウキュウヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>lutchuensis</i>
VP0344	絶滅危惧IA 類(CR)	ウリュウキンポウゲ	<i>Ranunculus uryuensis</i>
VP0345	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤツガタケキンポウゲ	<i>Ranunculus yatsugatakensis</i>
VP0346	絶滅危惧IA 類(CR)	ミョウギカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>chionophyllum</i>
VP0347	絶滅危惧IA 類(CR)	ムラサキカラマツ	<i>Thalictrum uchiyamae</i>
VP0348	絶滅危惧IA 類(CR)	ウジカラマツ	<i>Thalictrum ujiinsulare</i>
VP0349	絶滅危惧IA 類(CR)	レブンキンバイソウ	<i>Trollius rebunensis</i>
VP0350	絶滅危惧IA 類(CR)	台湾アサマツゲ	<i>Buxus microphylla</i> subsp. <i>sinica</i>
VP0351	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒゴミズキ	<i>Corylopsis gotoana</i> var. <i>pubescens</i>
VP0352	絶滅危惧IA 類(CR)	クロミノハリスグリ	<i>Ribes horridum</i>
VP0353	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミチャルメルソウ	<i>Asimitellaria amamiana</i>
VP0354	絶滅危惧IA 類(CR)	オオチダケサシ	<i>Astilbe chinensis</i>
VP0355	絶滅危惧IA 類(CR)	ツシマアカショウマ	<i>Astilbe tsushimensis</i>
VP0356	絶滅危惧IA 類(CR)	キヨシソウ	<i>Saxifraga bracteata</i>
VP0357	絶滅危惧IA 類(CR)	ユウバリクモマグサ	<i>Saxifraga bronchialis</i> subsp. <i>funstonii</i> var. <i>yuparensis</i>
VP0358	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾノクモマグサ	<i>Saxifraga nishidae</i>
VP0359	絶滅危惧IA 類(CR)	オオチチツパベンケイ	<i>Hylotelephium sordidum</i> var. <i>oishii</i>
VP0360	絶滅危惧IA 類(CR)	ナナツガマンネングサ	<i>Sedum drymarioides</i>
VP0361	絶滅危惧IA 類(CR)	ハマヤブガラシ	<i>Causonis maritima</i>
VP0362	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾモメンヅル	<i>Astragalus japonicus</i>
VP0363	絶滅危惧IA 類(CR)	ガラмпネムチャ	<i>Chamaecrista garambiensis</i>
VP0364	絶滅危惧IA 類(CR)	ガクタヌキマメ	<i>Crotalaria calycina</i>
VP0365	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤエヤマタヌキマメ	<i>Crotalaria montana</i> var. <i>angustifolia</i>
VP0366	絶滅危惧IA 類(CR)	エダウチタヌキマメ	<i>Crotalaria uncinella</i>
VP0367	絶滅危惧IA 類(CR)	モダマ	<i>Entada tonkinensis</i>
VP0368	絶滅危惧IA 類(CR)	台湾ミヤマトペラ	<i>Euchresta formosana</i>
VP0369	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソバツルマメ	<i>Glycine max</i> subsp. <i>formosana</i>
VP0370	絶滅危惧IA 類(CR)	ボウコツルマメ	<i>Glycine tabacina</i>
VP0371	絶滅危惧IA 類(CR)	タシロマメ	<i>Intsia bijuga</i>
VP0372	絶滅危惧IA 類(CR)	レブンソウ	<i>Oxytropis megalantha</i>
VP0373	絶滅危惧IA 類(CR)	ウチワツナギ	<i>Phyllodium pulchellum</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0374	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤエヤマシタン	<i>Pterocarpus vidalianus</i>
VP0375	絶滅危惧IA 類(CR)	ツクシムレスズメ	<i>Sophora franchetiana</i>
VP0376	絶滅危惧IA 類(CR)	タデハギ	<i>Tadehagi triquetrum</i> subsp. <i>triquetrum</i>
VP0377	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソバフジボグサ	<i>Uraria picta</i>
VP0378	絶滅危惧IA 類(CR)	サクヤアカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>vexillata</i>
VP0379	絶滅危惧IA 類(CR)	スナジマメ	<i>Zornia cantoniensis</i>
VP0380	絶滅危惧IA 類(CR)	リュウキュウヒメハギ	<i>Polygala longifolia</i>
VP0381	絶滅危惧IA 類(CR)	シンチクヒメハギ	<i>Polygala polifolia</i>
VP0382	絶滅危惧IA 類(CR)	ツクシカイドウ	<i>Malus hupehensis</i>
VP0383	絶滅危惧IA 類(CR)	モロツカウワミズザクラ	<i>Padus nakatakei</i>
VP0384	絶滅危惧IA 類(CR)	オオカナメモチ	<i>Photinia serratifolia</i>
VP0385	絶滅危惧IA 類(CR)	コバノアマミフユイチゴ	<i>Rubus amamianus</i> var. <i>minor</i>
VP0386	絶滅危惧IA 類(CR)	チシマイチゴ	<i>Rubus arcticus</i>
VP0387	絶滅危惧IA 類(CR)	チチジマイチゴ	<i>Rubus nakaii</i>
VP0388	絶滅危惧IA 類(CR)	タンゴグミ	<i>Elaeagnus arakiana</i>
VP0389	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメクロウメモドキ	<i>Rhamnus kanagusukii</i>
VP0390	絶滅危惧IA 類(CR)	サキシマエノキ	<i>Celtis biondii</i> var. <i>insularis</i>
VP0391	絶滅危惧IA 類(CR)	オオヤマイチジク	<i>Ficus iidaiana</i>
VP0392	絶滅危惧IA 類(CR)	オガサワラグワ	<i>Morus boninensis</i>
VP0393	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミサンショウソウ	<i>Elatostema oshimense</i>
VP0394	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメトキホコリ	<i>Elatostema yakushimense</i>
VP0395	絶滅危惧IA 類(CR)	ヨナクニトキホコリ	<i>Elatostema yonakuniense</i>
VP0396	絶滅危惧IA 類(CR)	セキモンウライソウ	<i>Procris boninensis</i>
VP0397	絶滅危惧IA 類(CR)	イシガキカラスウリ	<i>Trichosanthes homophylla</i> var. <i>ishigakiensis</i>
VP0398	絶滅危惧IA 類(CR)	サツマスズメウリ	<i>Zehneria perpusilla</i> var. <i>deltifrons</i>
VP0399	絶滅危惧IA 類(CR)	ナガバヒゼンマユミ	<i>Euonymus oblongifolius</i>
VP0400	絶滅危惧IA 類(CR)	アンドンマユミ	<i>Euonymus oligospermus</i>
VP0401	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミカタバミ	<i>Oxalis exilis</i>
VP0402	絶滅危惧IA 類(CR)	セキモンノキ	<i>Claoxylon centinarium</i>
VP0403	絶滅危惧IA 類(CR)	リュウキュウタイゲキ	<i>Euphorbia liukuensis</i>
VP0404	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミナツトウダイ	<i>Euphorbia sieboldiana</i> var. <i>ohsumiensis</i>
VP0405	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒュウガタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>minamitanii</i>
VP0406	絶滅危惧IA 類(CR)	アカハダコバンノキ	<i>Margaritaria indica</i>
VP0407	絶滅危惧IA 類(CR)	ドナンコバンノキ	<i>Phyllanthus oligospermus</i> subsp. <i>donanensis</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0408	絶滅危惧IA 類(CR)	ササキカズラ	<i>Ryssopterys timoriensis</i>
VP0409	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾマメヤナギ	<i>Salix nummularia</i>
VP0410	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミスミレ	<i>Viola amamiana</i>
VP0411	絶滅危惧IA 類(CR)	シロコスミレ	<i>Viola lactiflora</i>
VP0412	絶滅危惧IA 類(CR)	シマジリスミレ	<i>Viola okinawensis</i>
VP0413	絶滅危惧IA 類(CR)	イシガキスミレ	<i>Viola tashiroi</i> var. <i>tairae</i>
VP0414	絶滅危惧IA 類(CR)	マツバニンジン	<i>Linum stelleroides</i>
VP0415	絶滅危惧IA 類(CR)	タシロカワゴケソウ	<i>Cladopus fukienensis</i>
VP0416	絶滅危惧IA 類(CR)	カワゴケソウ	<i>Cladopus japonicus</i>
VP0417	絶滅危惧IA 類(CR)	オオヨドカワゴロモ	<i>Hydrobryum koribanum</i>
VP0418	絶滅危惧IA 類(CR)	センカクオトギリ	<i>Hypericum senkakuinsulare</i>
VP0419	絶滅危惧IA 類(CR)	トサオトギリ	<i>Hypericum tosaense</i>
VP0420	絶滅危惧IA 類(CR)	テリハモモタマナ	<i>Terminalia nitens</i>
VP0421	絶滅危惧IA 類(CR)	ミズスギナ	<i>Rotala hippuris</i>
VP0422	絶滅危惧IA 類(CR)	エダウチアカバナ	<i>Epilobium fastigiat Ramosum</i>
VP0423	絶滅危惧IA 類(CR)	ムニンフトモモ	<i>Metrosideros boninensis</i>
VP0424	絶滅危惧IA 類(CR)	ムニンノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>tetramerum</i>
VP0425	絶滅危惧IA 類(CR)	ナガバキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>macrocarpus</i>
VP0426	絶滅危惧IA 類(CR)	ハザクラキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>prunifolius</i>
VP0427	絶滅危惧IA 類(CR)	タイワンフシノキ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>javanica</i>
VP0428	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミカジカエデ	<i>Acer amamiense</i>
VP0429	絶滅危惧IA 類(CR)	コウライタチバナ	<i>Citrus nippokoreana</i>
VP0430	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソバハマセンダン	<i>Tetradium taiwanense</i>
VP0431	絶滅危惧IA 類(CR)	センカクトロロアオイ	<i>Abelmoschus moschatus</i> var. <i>betulifolius</i>
VP0432	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒシバウオトリギ	<i>Grewia rhombifolia</i>
VP0433	絶滅危惧IA 類(CR)	ブンゴボダイジュ	<i>Tilia chinensis</i> var. <i>intonsa</i>
VP0434	絶滅危惧IA 類(CR)	チュウゴクボダイジュ	<i>Tilia chugokuensis</i>
VP0435	絶滅危惧IA 類(CR)	マンシュウボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>mandshurica</i>
VP0436	絶滅危惧IA 類(CR)	ケナシハテルマカズラ	<i>Triumfetta procumbens</i> var. <i>glaberrima</i>
VP0437	絶滅危惧IA 類(CR)	オオシマガンピ	<i>Diplomorpha phymatoglossa</i>
VP0438	絶滅危惧IA 類(CR)	ハナナズナ	<i>Berteroella maximowiczii</i>
VP0439	絶滅危惧IA 類(CR)	ヘラハタザオ	<i>Catolobus ligulifolius</i>
VP0440	絶滅危惧IA 類(CR)	ハナハタザオ	<i>Dontostemon dentatus</i> var. <i>dentatus</i>
VP0441	絶滅危惧IA 類(CR)	シリベシナズナ	<i>Draba igarashii</i>
VP0442	絶滅危惧IA 類(CR)	ソウウンナズナ	<i>Draba nakaiana</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0443	絶滅危惧IA 類(CR)	センカクハマサジ	<i>Limonium senkakuense</i>
VP0444	絶滅危惧IA 類(CR)	台湾ンハマサジ	<i>Limonium sinense</i>
VP0445	絶滅危惧IA 類(CR)	ナンブトラノオ	<i>Bistorta hayachinensis</i>
VP0446	絶滅危惧IA 類(CR)	ダイトウサクラタデ	<i>Persicaria taitoinsularis</i>
VP0447	絶滅危惧IA 類(CR)	ムジナモ	<i>Aldrovanda vesiculosa</i>
VP0448	絶滅危惧IA 類(CR)	コバノミナグサ	<i>Cerastium furcatum</i> var. <i>ibukiense</i>
VP0449	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾタカネツメクサ	<i>Minuartia arctica</i> var. <i>arctica</i>
VP0450	絶滅危惧IA 類(CR)	チシマツメクサ	<i>Sagina saginoides</i>
VP0451	絶滅危惧IA 類(CR)	アポイマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>apoiensis</i>
VP0452	絶滅危惧IA 類(CR)	トカチビランジ	<i>Silene tokachiensis</i>
VP0453	絶滅危惧IA 類(CR)	タカネマンテマ	<i>Silene uralensis</i>
VP0454	絶滅危惧IA 類(CR)	カンチャチハコベ	<i>Stellaria calycantha</i>
VP0455	絶滅危惧IA 類(CR)	イトハコベ	<i>Stellaria filicaulis</i>
VP0456	絶滅危惧IA 類(CR)	オオイワツメクサ	<i>Stellaria nipponica</i> var. <i>yezoensis</i>
VP0457	絶滅危惧IA 類(CR)	ミドリアカザ	<i>Chenopodium bryoniifolium</i>
VP0458	絶滅危惧IA 類(CR)	イワアカザ	<i>Chenopodium gracilispicum</i>
VP0459	絶滅危惧IA 類(CR)	インドヒモカズラ	<i>Deeringia polysperma</i>
VP0460	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤエヤマヤマボウシ	<i>Cornus kousa</i> var. <i>chinensis</i>
VP0461	絶滅危惧IA 類(CR)	コミノヒメウツギ	<i>Deutzia hatusimae</i>
VP0462	絶滅危惧IA 類(CR)	オキナワヒメウツギ	<i>Deutzia naseana</i> var. <i>amanoi</i>
VP0463	絶滅危惧IA 類(CR)	トカラタマアジサイ	<i>Hydrangea involucrata</i> var. <i>tokarensis</i>
VP0464	絶滅危惧IA 類(CR)	エンシュウツリフネソウ	<i>Impatiens hypophylla</i> var. <i>microhypophylla</i>
VP0465	絶滅危惧IA 類(CR)	ハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>kiushianum</i>
VP0466	絶滅危惧IA 類(CR)	ゴバンノアシ	<i>Barringtonia asiatica</i>
VP0467	絶滅危惧IA 類(CR)	クニガミヒサカキ	<i>Eurya zigzag</i>
VP0468	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメミヤマコナスビ	<i>Lysimachia liukiensis</i>
VP0469	絶滅危惧IA 類(CR)	マルバタイミンタチバナ	<i>Myrsine okabeana</i>
VP0470	絶滅危惧IA 類(CR)	チチブイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>rhodotricha</i>
VP0471	絶滅危惧IA 類(CR)	ウチダシクロキ	<i>Symplocos kawakamii</i>
VP0472	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミイワウチワ	<i>Shortia rotundifolia</i> f. <i>amamiana</i>
VP0473	絶滅危惧IA 類(CR)	イチゲイチャクソウ	<i>Moneses uniflora</i>
VP0474	絶滅危惧IA 類(CR)	キリシマギンリョウソウ	<i>Monotropastrum kirishimense</i>
VP0475	絶滅危惧IA 類(CR)	リュウキュウアセビ	<i>Pieris koidzumiana</i>
VP0476	絶滅危惧IA 類(CR)	ムニンツツジ	<i>Rhododendron boninense</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0477	絶滅危惧IA 類(CR)	ハヤトミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>satsumense</i>
VP0478	絶滅危惧IA 類(CR)	センカクツツジ	<i>Rhododendron eriocarpum</i> var. <i>tawadae</i>
VP0479	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤドリコケモモ	<i>Vaccinium amamianum</i>
VP0480	絶滅危惧IA 類(CR)	ナガボナツハゼ	<i>Vaccinium sieboldii</i>
VP0481	絶滅危惧IA 類(CR)	ワダツミノキ	<i>Nothapodytes amamianus</i>
VP0482	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤエヤマハシカグサ	<i>Exallage auricularia</i>
VP0483	絶滅危惧IA 類(CR)	シソノミグサ	<i>Knoxia sumatrensis</i>
VP0484	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミアワゴケ	<i>Ophiorrhiza yamashitae</i>
VP0485	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒナリンドウ	<i>Gentiana aquatica</i>
VP0486	絶滅危惧IA 類(CR)	リュウキュウホウライカズラ	<i>Gardneria liukuensis</i>
VP0487	絶滅危惧IA 類(CR)	タイワンチトセカズラ	<i>Gardneria shimadai</i>
VP0488	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミイケマ	<i>Cynanchum boudieri</i>
VP0489	絶滅危惧IA 類(CR)	マメヅタカズラ	<i>Dischidia formosana</i>
VP0490	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソバヤロード	<i>Ochrosia hexandra</i>
VP0491	絶滅危惧IA 類(CR)	シマソケイ	<i>Ochrosia iwasakiana</i>
VP0492	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾノクサタチバナ	<i>Vincetoxicum inamoenum</i>
VP0493	絶滅危惧IA 類(CR)	ヨナグニカモメヅル	<i>Vincetoxicum yonakuniense</i>
VP0494	絶滅危惧IA 類(CR)	トゲミノイヌチシャ	<i>Cordia aspera</i> subsp. <i>kanehirae</i>
VP0495	絶滅危惧IA 類(CR)	タイワンルリソウ	<i>Cynoglossum lanceolatum</i> var. <i>formosanum</i>
VP0496	絶滅危惧IA 類(CR)	リュウキュウチシャノキ	<i>Ehretia philippinensis</i>
VP0497	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾルリムラサキ	<i>Eritrichium nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i> f. <i>yesoense</i>
VP0498	絶滅危惧IA 類(CR)	イワムラサキ	<i>Hackelia deflexa</i>
VP0499	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾルリソウ	<i>Mertensia pterocarpa</i> var. <i>yezoensis</i>
VP0500	絶滅危惧IA 類(CR)	ナガバアサガオ	<i>Aniseia martinicensis</i>
VP0501	絶滅危惧IA 類(CR)	クシロネナシカズラ	<i>Cuscuta europaea</i>
VP0502	絶滅危惧IA 類(CR)	イラブナスビ	<i>Solanum miyakojimense</i>
VP0503	絶滅危惧IA 類(CR)	トゲイボタ	<i>Ligustrum tamakii</i>
VP0504	絶滅危惧IA 類(CR)	ナガミカズラ	<i>Aeschynanthus acuminatus</i>
VP0505	絶滅危惧IA 類(CR)	タイワンシシンラン	<i>Lysionotus apicidens</i>
VP0506	絶滅危惧IA 類(CR)	リュウキュウスズカケ	<i>Veronicastrum liukuense</i>
VP0507	絶滅危惧IA 類(CR)	スズカケソウ	<i>Veronicastrum villosulum</i>
VP0508	絶滅危惧IA 類(CR)	ツルウリクサ	<i>Torenia concolor</i>
VP0509	絶滅危惧IA 類(CR)	シマカコソウ	<i>Ajuga boninsimae</i>
VP0510	絶滅危惧IA 類(CR)	ルリハッカ	<i>Amethystea caerulea</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0511	絶滅危惧IA 類(CR)	ハウライムラサキ	<i>Callicarpa formosana</i>
VP0512	絶滅危惧IA 類(CR)	シマムラサキ	<i>Callicarpa glabra</i>
VP0513	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソバムラサキ	<i>Callicarpa pilosissima</i>
VP0514	絶滅危惧IA 類(CR)	ケサヤバナ	<i>Coleus formosanus</i>
VP0515	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメタツナミソウ	<i>Scutellaria kikai-insularis</i>
VP0516	絶滅危惧IA 類(CR)	イヌニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>brachytrichum</i>
VP0517	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤエヤマハマゴウ	<i>Vitex bicolor</i>
VP0518	絶滅危惧IA 類(CR)	オオニンジンボク	<i>Vitex quinata</i>
VP0519	絶滅危惧IA 類(CR)	イナコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>inaensis</i>
VP0520	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾノダツタンコゴメグサ	<i>Euphrasia pectinata</i> var. <i>obtusiserrata</i>
VP0521	絶滅危惧IA 類(CR)	ベニシオガマ	<i>Pedicularis koidzumiana</i>
VP0522	絶滅危惧IA 類(CR)	ホザキシオガマ	<i>Pedicularis spicata</i>
VP0523	絶滅危惧IA 類(CR)	センリゴマ	<i>Rehmannia japonica</i>
VP0524	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメミカキグサ	<i>Utricularia minutissima</i>
VP0525	絶滅危惧IA 類(CR)	ミヤコジマソウ	<i>Hemigraphis reptans</i>
VP0526	絶滅危惧IA 類(CR)	アマミヒイラギモチ	<i>Ilex dimorphophylla</i>
VP0527	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒロハタマミズキ	<i>Ilex macrocarpa</i>
VP0528	絶滅危惧IA 類(CR)	ツクシイワシャジン	<i>Adenophora hatsushimae</i>
VP0529	絶滅危惧IA 類(CR)	ユウバリシャジン	<i>Adenophora pereskiiifolia</i> var. <i>yamadae</i>
VP0530	絶滅危惧IA 類(CR)	タチミゾカクシ	<i>Lobelia dopatrioides</i> var. <i>cantonensis</i>
VP0531	絶滅危惧IA 類(CR)	マルバハタケムシロ	<i>Lobelia loochooensis</i>
VP0532	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤクシマウスユキソウ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>yakusimensis</i>
VP0533	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾノチチコグサ	<i>Antennaria dioica</i>
VP0534	絶滅危惧IA 類(CR)	オオイソノギク	<i>Aster ujiinsularis</i>
VP0535	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤクシマノギク	<i>Aster yakushimensis</i>
VP0536	絶滅危惧IA 類(CR)	シライワアザミ	<i>Cirsium akimotoi</i>
VP0537	絶滅危惧IA 類(CR)	アポイアザミ	<i>Cirsium apoense</i>
VP0538	絶滅危惧IA 類(CR)	タカサゴアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>australe</i>
VP0539	絶滅危惧IA 類(CR)	ウゼンヒメアザミ	<i>Cirsium katoanum</i>
VP0540	絶滅危惧IA 類(CR)	ヘイケモリアザミ	<i>Cirsium lucens</i> var. <i>bracteosum</i>
VP0541	絶滅危惧IA 類(CR)	イナベアザミ	<i>Cirsium magofukui</i>
VP0542	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒュウガアザミ	<i>Cirsium masami-saitoanum</i>
VP0543	絶滅危惧IA 類(CR)	ニッポウアザミ	<i>Cirsium nipponense</i>
VP0544	絶滅危惧IA 類(CR)	アレチアザミ	<i>Cirsium segetum</i>
VP0545	絶滅危惧IA 類(CR)	コヘラナレン	<i>Crepidiastrum grandicollum</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0546	絶滅危惧IA 類(CR)	フタマタタンポポ	<i>Crepis hokkaidoensis</i>
VP0547	絶滅危惧IA 類(CR)	ミヤマノギク	<i>Erigeron miyabeanus</i>
VP0548	絶滅危惧IA 類(CR)	キクバイズハハコ	<i>Eschenbachia aegyptiaca</i>
VP0549	絶滅危惧IA 類(CR)	コケセンボンギク	<i>Lagenophora lanata</i>
VP0550	絶滅危惧IA 類(CR)	ニッコウコウモリ	<i>Parasenecio hastatus</i> subsp. <i>orientalis</i> var. <i>nantaicus</i>
VP0551	絶滅危惧IA 類(CR)	シマコウヤボウキ	<i>Pertya yakushimensis</i>
VP0552	絶滅危惧IA 類(CR)	シマトウヒレン	<i>Saussurea insularis</i>
VP0553	絶滅危惧IA 類(CR)	ミクラジマトウヒレン	<i>Saussurea mikurasimensis</i>
VP0554	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤクシマヒゴタイ	<i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>savatieri</i> var. <i>yakusimensis</i>
VP0555	絶滅危惧IA 類(CR)	フタナミソウ	<i>Scorzonera rebunensis</i>
VP0556	絶滅危惧IA 類(CR)	ヤンバルアオヤギバナ	<i>Solidago yambaruensis</i>
VP0557	絶滅危惧IA 類(CR)	台湾ンツクバネウツギ	<i>Abelia chinensis</i> var. <i>ionandra</i>
VP0558	絶滅危惧IA 類(CR)	オニツクバネウツギ	<i>Diabelia serrata</i> f. <i>tomentosa</i>
VP0559	絶滅危惧IA 類(CR)	ツシマヒョウタンボク	<i>Lonicera fragrantissima</i>
VP0560	絶滅危惧IA 類(CR)	ヒメスイカズラ	<i>Lonicera japonica</i> var. <i>miyagusukiana</i>
VP0561	絶滅危惧IA 類(CR)	ウゼンベニバナヒョウタンボク	<i>Lonicera uzensis</i>
VP0562	絶滅危惧IA 類(CR)	シマキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>kozushimensis</i>
VP0563	絶滅危惧IA 類(CR)	ホザキツキヌキソウ	<i>Triosteum pinnatifidum</i>
VP0564	絶滅危惧IA 類(CR)	オオベニウツギ	<i>Weigela florida</i>
VP0565	絶滅危惧IA 類(CR)	コバトベラ	<i>Pittosporum parvifolium</i>
VP0566	絶滅危惧IA 類(CR)	ミツバウコギ	<i>Eleitherococcus trifolius</i>
VP0567	絶滅危惧IA 類(CR)	ミヤマノダケ	<i>Angelica cryptotaeniifolia</i> var. <i>cryptotaeniifolia</i>
VP0568	絶滅危惧IA 類(CR)	ツクシミヤマノダケ	<i>Angelica cryptotaeniifolia</i> var. <i>kyushiana</i>
VP0569	絶滅危惧IA 類(CR)	ツクシトウキ	<i>Angelica pseudoshikokiana</i>
VP0570	絶滅危惧IA 類(CR)	シナノダケ	<i>Angelica sinanomontana</i>
VP0571	絶滅危惧IA 類(CR)	フジワラサイコ	<i>Bupleurum quadriradiatum</i>
VP0572	絶滅危惧IA 類(CR)	ホソバハナウド	<i>Heracleum lanatum</i> subsp. <i>akasimontanum</i>
VP0573	絶滅危惧IA 類(CR)	エゾノハクサンボウフウ	<i>Peucedanum multivittatum</i> var. <i>linearilobum</i>
VP0574	絶滅危惧IA 類(CR)	キイウマノミツバ	<i>Sanicula lamelligera</i> var. <i>wakayamensis</i>
VP0575	絶滅危惧IA 類(CR)	ツシマノダケ	<i>Tilingia tsusimensis</i>
VP0576	絶滅危惧IB 類(EN)	チシマヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium alpinum</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0577	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヨウラクヒバ	<i>Phlegmariurus phlegmaria</i>
VP0578	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒモラン	<i>Phlegmariurus sieboldii</i>
VP0579	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオバシナミズニラ	<i>Isoetes coreana</i>
VP0580	絶滅危惧IB 類 (EN)	イブリハナワラビ	<i>Botrychium microphyllum</i>
VP0581	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミヤコジマハナワラビ	<i>Helminthostachys zeylanica</i>
VP0582	絶滅危惧IB 類 (EN)	サクラジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum kawamurae</i>
VP0583	絶滅危惧IB 類 (EN)	コブラン	<i>Ophioglossum pendulum</i>
VP0584	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムニンホラゴケ	<i>Crepidomanes bonincola</i>
VP0585	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミカワコケシノブ	<i>Hymenophyllum mikawanum</i>
VP0586	絶滅危惧IB 類 (EN)	シノブホラゴケ	<i>Vandenboschia maxima</i>
VP0587	絶滅危惧IB 類 (EN)	カンザシワラビ	<i>Schizaea dichotoma</i>
VP0588	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i>
VP0589	絶滅危惧IB 類 (EN)	アカウキクサ	<i>Azolla pinnata</i> subsp. <i>asiatica</i>
VP0590	絶滅危惧IB 類 (EN)	ナンゴクデンジソウ	<i>Marsilea minuta</i>
VP0591	絶滅危惧IB 類 (EN)	メヘゴ	<i>Cyathea ogurae</i>
VP0592	絶滅危惧IB 類 (EN)	ウチワホングウシダ	<i>Lindsaea simulans</i>
VP0593	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミミモチシダ	<i>Acrostichum aureum</i>
VP0594	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホウライクジャク	<i>Adiantum capillus-junonis</i>
VP0595	絶滅危惧IB 類 (EN)	オトメクジャク	<i>Adiantum edgeworthii</i>
VP0596	絶滅危惧IB 類 (EN)	台湾アマクサシダ	<i>Pteris formosana</i>
VP0597	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒノタニシダ	<i>Pteris maclurei</i>
VP0598	絶滅危惧IB 類 (EN)	トゲハチジョウシダ	<i>Pteris setulosocostulata</i>
VP0599	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒカゲアマクサシダ	<i>Pteris tokioi</i>
VP0600	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメイノモトソウ	<i>Pteris yamatensis</i>
VP0601	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメムカゴシダ	<i>Monachosorum x arakii</i>
VP0602	絶滅危惧IB 類 (EN)	マキノシダ	<i>Asplenium formosae</i>
VP0603	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホソバシケチシダ	<i>Athyrium nudum</i>
VP0604	絶滅危惧IB 類 (EN)	コモチイヌワラビ	<i>Athyrium strigillosum</i>
VP0605	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホウライイヌワラビ	<i>Athyrium subrigescens</i>
VP0606	絶滅危惧IB 類 (EN)	シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i>
VP0607	絶滅危惧IB 類 (EN)	アオグキイヌワラビ	<i>Athyrium viridescens</i>
VP0608	絶滅危惧IB 類 (EN)	アソシケシダ	<i>Deparia otomasui</i>
VP0609	絶滅危惧IB 類 (EN)	イヨクジャク	<i>Diplazium okudairae</i>
VP0610	絶滅危惧IB 類 (EN)	台湾ハリガネワラビ	<i>Thelypteris uraiensis</i>
VP0611	絶滅危惧IB 類 (EN)	コキンモウイノデ	<i>Ctenitis microlepigera</i>
VP0612	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホウライヒメワラビ	<i>Dryopteris hendersonii</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0613	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムニンベニシダ	<i>Dryopteris insularis</i>
VP0614	絶滅危惧IB 類 (EN)	タイトウベニシダ	<i>Dryopteris polita</i>
VP0615	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris purpurella</i>
VP0616	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツシマミサキカグマ	<i>Dryopteris tsushimensis</i>
VP0617	絶滅危惧IB 類 (EN)	センジョウデンダ	<i>Polystichum atkinsonii</i>
VP0618	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒイラギデンダ	<i>Polystichum lonchitis</i>
VP0619	絶滅危惧IB 類 (EN)	台湾アオネカズラ	<i>Goniophlebium formosanum</i>
VP0620	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオクリハラン	<i>Lepisorus fortunei</i>
VP0621	絶滅危惧IB 類 (EN)	クラガリシダ	<i>Lepisorus miyoshianus</i>
VP0622	絶滅危惧IB 類 (EN)	タカウラボシ	<i>Microsorium rubidum</i>
VP0623	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメウラボシ	<i>Oreogrammitis dorsipila</i>
VP0624	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオエゾデンダ	<i>Polypodium vulgare</i>
VP0625	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマウラボシ	<i>Selliguea yakuinsularis</i>
VP0626	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤツガタケトウヒ	<i>Picea koyamae</i>
VP0627	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクタネゴヨウ	<i>Pinus amamiana</i>
VP0628	絶滅危惧IB 類 (EN)	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i> var. <i>oguraensis</i>
VP0629	絶滅危惧IB 類 (EN)	オキナワスナゴシヨウ	<i>Peperomia japonica</i> var. <i>okinawensis</i>
VP0630	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミヤビカンアオイ	<i>Asarum celsum</i>
VP0631	絶滅危惧IB 類 (EN)	カギガタアオイ	<i>Asarum curvistigma</i>
VP0632	絶滅危惧IB 類 (EN)	スエヒロアオイ	<i>Asarum dilatatum</i>
VP0633	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハツシマカンアオイ	<i>Asarum hatsushimae</i>
VP0634	絶滅危惧IB 類 (EN)	コウヤカンアオイ	<i>Asarum kooyanum</i>
VP0635	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムラクモアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>satakeanum</i>
VP0636	絶滅危惧IB 類 (EN)	イワタカンアオイ	<i>Asarum kurosawae</i>
VP0637	絶滅危惧IB 類 (EN)	コトウカンアオイ	<i>Asarum majale</i>
VP0638	絶滅危惧IB 類 (EN)	アソサイシン	<i>Asarum misandrum</i>
VP0639	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホシザキカンアオイ	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>stellatum</i>
VP0640	絶滅危惧IB 類 (EN)	マルミカンアオイ	<i>Asarum subglobosum</i>
VP0641	絶滅危惧IB 類 (EN)	サンコカンアオイ	<i>Asarum trigynum</i>
VP0642	絶滅危惧IB 類 (EN)	カケロマカンアオイ	<i>Asarum trinacriforme</i>
VP0643	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤエヤマカンアオイ	<i>Asarum yaeyamense</i>
VP0644	絶滅危惧IB 類 (EN)	イトスナヅル	<i>Cassytha pergracilis</i>
VP0645	絶滅危惧IB 類 (EN)	テリハコブガシ	<i>Machilus pseudokobu</i>
VP0646	絶滅危惧IB 類 (EN)	ダイトウシロダモ	<i>Neolitsea sericea</i> var. <i>argentea</i>
VP0647	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツルギテンナンショウ	<i>Arisaema abei</i>
VP0648	絶滅危惧IB 類 (EN)	アマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp.

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
			<i>heterocephalum</i>
VP0649	絶滅危惧IB 類 (EN)	シコクテンナンショウ	<i>Arisaema iyoanum</i> subsp. <i>nakaianum</i>
VP0650	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i> var. <i>yakumontanum</i>
VP0651	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハリマママシグサ	<i>Arisaema minus</i>
VP0652	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオミネテンナンショウ	<i>Arisaema nikoense</i> subsp. <i>australe</i>
VP0653	絶滅危惧IB 類 (EN)	カミコウチテンナンショウ	<i>Arisaema nikoense</i> subsp. <i>brevicollum</i>
VP0654	絶滅危惧IB 類 (EN)	カラフトヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema sachalinense</i>
VP0655	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒンジモ	<i>Lemna trisulca</i>
VP0656	絶滅危惧IB 類 (EN)	アッカゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>akkana</i>
VP0657	絶滅危惧IB 類 (EN)	ゲイビゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>geibiensis</i>
VP0658	絶滅危惧IB 類 (EN)	トウゴクヘラオモダカ	<i>Alisma rariflorum</i>
VP0659	絶滅危惧IB 類 (EN)	ウミショウブ	<i>Enhalus acoroides</i>
VP0660	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムサシモ	<i>Najas ancistrocarpa</i>
VP0661	絶滅危惧IB 類 (EN)	サクライソウ	<i>Petrosavia sakuraii</i>
VP0662	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツクシタチドコロ	<i>Dioscorea asclepiadea</i>
VP0663	絶滅危惧IB 類 (EN)	タナカソウ	<i>Sciaphila megastyla</i>
VP0664	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメツルアダン	<i>Freycinetia williamsii</i>
VP0665	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミノシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>minoensis</i>
VP0666	絶滅危惧IB 類 (EN)	カワユエンレイソウ	<i>Trillium channellii</i>
VP0667	絶滅危惧IB 類 (EN)	アラガタオオサンキライ	<i>Smilax bracteata</i> var. <i>verruculosa</i>
VP0668	絶滅危惧IB 類 (EN)	カイコバイモ	<i>Fritillaria kaiensis</i>
VP0669	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメアマナ	<i>Gagea japonica</i>
VP0670	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i>
VP0671	絶滅危惧IB 類 (EN)	ジンリョウユリ	<i>Lilium japonicum</i> var. <i>abeanum</i>
VP0672	絶滅危惧IB 類 (EN)	サガミジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>ishiiiana</i>
VP0673	絶滅危惧IB 類 (EN)	スルガジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>surugensis</i>
VP0674	絶滅危惧IB 類 (EN)	キバナノツキヌキホトトギス	<i>Tricyrtis perfoliata</i>
VP0675	絶滅危惧IB 類 (EN)	タネガシマムヨウラン	<i>Aphyllorchis montana</i>
VP0676	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマラン	<i>Apostasia nipponica</i>
VP0677	絶滅危惧IB 類 (EN)	ナリヤラン	<i>Arundina graminifolia</i>
VP0678	絶滅危惧IB 類 (EN)	キリシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i>
VP0679	絶滅危惧IB 類 (EN)	台湾ンエビネ	<i>Calanthe formosana</i>
VP0680	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオキリシマエビネ	<i>Calanthe izuinsularis</i>
VP0681	絶滅危惧IB 類 (EN)	トクノシマエビネ	<i>Calanthe tokunoshimensis</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0682	絶滅危惧IB 類(EN)	ホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>speciosa</i>
VP0683	絶滅危惧IB 類(EN)	ハハジマホザキラン	<i>Crepidium hahajimense</i>
VP0684	絶滅危惧IB 類(EN)	カンダヒメラン	<i>Crepidium kandae</i>
VP0685	絶滅危惧IB 類(EN)	オキナワセッコク	<i>Dendrobium okinawense</i>
VP0686	絶滅危惧IB 類(EN)	ヒメヤツシロラン	<i>Didymoplexis micradenia</i>
VP0687	絶滅危惧IB 類(EN)	コカゲラン	<i>Didymoplexis siamensis</i>
VP0688	絶滅危惧IB 類(EN)	ハコネラン	<i>Ephippianthus sawadanus</i>
VP0689	絶滅危惧IB 類(EN)	トラキチラン	<i>Epipogium aphyllum</i>
VP0690	絶滅危惧IB 類(EN)	アオキラン	<i>Epipogium japonicum</i>
VP0691	絶滅危惧IB 類(EN)	マツゲカヤラン	<i>Gastrochilus ciliaris</i>
VP0692	絶滅危惧IB 類(EN)	ヤクシマヤツシロラン	<i>Gastrodia albida</i>
VP0693	絶滅危惧IB 類(EN)	アマミヤツシロラン	<i>Gastrodia amamiana</i>
VP0694	絶滅危惧IB 類(EN)	ムニンヤツシロラン	<i>Gastrodia boninensis</i>
VP0695	絶滅危惧IB 類(EN)	ツボミヤツシロラン	<i>Gastrodia clausa</i>
VP0696	絶滅危惧IB 類(EN)	シロテンマ	<i>Gastrodia elata</i> var. <i>pallens</i>
VP0697	絶滅危惧IB 類(EN)	フユザキヤツシロラン	<i>Gastrodia foetida</i>
VP0698	絶滅危惧IB 類(EN)	トカラヤツシロラン	<i>Gastrodia fontinalis</i>
VP0699	絶滅危惧IB 類(EN)	ナヨテンマ	<i>Gastrodia gracilis</i>
VP0700	絶滅危惧IB 類(EN)	タブガワヤツシロラン	<i>Gastrodia uraiensis</i>
VP0701	絶滅危惧IB 類(EN)	トサカメオトラン	<i>Geodorum densiflorum</i>
VP0702	絶滅危惧IB 類(EN)	ヒロハツリシユスラン	<i>Goodyera pendula</i> f. <i>brachyphylla</i>
VP0703	絶滅危惧IB 類(EN)	ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>
VP0704	絶滅危惧IB 類(EN)	イヨトンボ	<i>Habenaria iyoensis</i>
VP0705	絶滅危惧IB 類(EN)	オオミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>linearifolia</i>
VP0706	絶滅危惧IB 類(EN)	リュウキュウサギソウ	<i>Habenaria pantlingiana</i>
VP0707	絶滅危惧IB 類(EN)	ヤチラン	<i>Habenaria radiata</i>
VP0708	絶滅危惧IB 類(EN)	テツオサギソウ	<i>Habenaria stenopetala</i>
VP0709	絶滅危惧IB 類(EN)	フジチドリ	<i>Hemipilia fujisanensis</i>
VP0710	絶滅危惧IB 類(EN)	イワチドリ	<i>Hemipilia keiskei</i>
VP0711	絶滅危惧IB 類(EN)	ムロトムヨウラン	<i>Lecanorchis taiwaniana</i>
VP0712	絶滅危惧IB 類(EN)	オオフガクスズムシソウ	<i>Liparis koreojaponica</i>
VP0713	絶滅危惧IB 類(EN)	ヒメジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i> var. <i>shichitoana</i>
VP0714	絶滅危惧IB 類(EN)	ムニンボウラン	<i>Luisia boninensis</i>
VP0715	絶滅危惧IB 類(EN)	タンザワサカネラン	<i>Neottia inagakii</i>
VP0716	絶滅危惧IB 類(EN)	クスクスヨウラクラン	<i>Oberonia anthropophora</i> var. <i>arisanensis</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0717	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオバヨウラクラン	<i>Oberonia makinoi</i>
VP0718	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハツシマラン	<i>Odontochilus hatusimanus</i>
VP0719	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムカゴトンボ	<i>Peristylus densus</i>
VP0720	絶滅危惧IB 類 (EN)	リュウキュウセッコク	<i>Pinalia ovata</i> var. <i>ovata</i>
VP0721	絶滅危惧IB 類 (EN)	シマツレサギソウ	<i>Platanthera boninensis</i>
VP0722	絶滅危惧IB 類 (EN)	イイヌマムカゴ	<i>Platanthera iinumae</i>
VP0723	絶滅危惧IB 類 (EN)	イリオモテトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>iriomotensis</i>
VP0724	絶滅危惧IB 類 (EN)	ガッサンチドリ	<i>Platanthera takedae</i> subsp. <i>uzenensis</i>
VP0725	絶滅危惧IB 類 (EN)	ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i>
VP0726	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハチジョウネッタイルン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>hachijoensis</i>
VP0727	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマネッタイルン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>nipponica</i>
VP0728	絶滅危惧IB 類 (EN)	アコウネッタイルン	<i>Tropidia somae</i>
VP0729	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミソボシラン	<i>Vrydagzynea nuda</i>
VP0730	絶滅危惧IB 類 (EN)	キバナノショウキラン	<i>Yoania amagiensis</i>
VP0731	絶滅危惧IB 類 (EN)	シナノショウキラン	<i>Yoania flava</i>
VP0732	絶滅危惧IB 類 (EN)	アオジクキヌラン	<i>Zeuxine affinis</i>
VP0733	絶滅危惧IB 類 (EN)	ジャコウキヌラン	<i>Zeuxine odorata</i>
VP0734	絶滅危惧IB 類 (EN)	キリガミネヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>hondoensis</i>
VP0735	絶滅危惧IB 類 (EN)	ナスヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>nasuensis</i>
VP0736	絶滅危惧IB 類 (EN)	カンカケイニラ	<i>Allium togashii</i>
VP0737	絶滅危惧IB 類 (EN)	コシキイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>koshikiense</i>
VP0738	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>yakushimense</i>
VP0739	絶滅危惧IB 類 (EN)	タマボウキ	<i>Asparagus oligoclonus</i>
VP0740	絶滅危惧IB 類 (EN)	ブンゴギボウシ	<i>Hosta alata</i>
VP0741	絶滅危惧IB 類 (EN)	ウラジロギボウシ	<i>Hosta hypoleuca</i>
VP0742	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミナズキギボウシ	<i>Hosta minazukiflora</i>
VP0743	絶滅危惧IB 類 (EN)	ウバタケギボウシ	<i>Hosta pulchella</i>
VP0744	絶滅危惧IB 類 (EN)	セトウチギボウシ	<i>Hosta pycnophylla</i>
VP0745	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヨナグニノシラン	<i>Ophiopogon reversus</i>
VP0746	絶滅危惧IB 類 (EN)	ウスギワニグチソウ	<i>Polygonatum cryptanthum</i>
VP0747	絶滅危惧IB 類 (EN)	アズミイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>azumianum</i>
VP0748	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミカワイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>mikawanum</i>
VP0749	絶滅危惧IB 類 (EN)	オキナワホシクサ	<i>Eriocaulon miquelianum</i> var. <i>lutchuense</i>
VP0750	絶滅危惧IB 類 (EN)	ユキイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon miquelianum</i> var. <i>ozense</i>
VP0751	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオムラホシクサ	<i>Eriocaulon omuranum</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0752	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハラヌノヒゲ	<i>Eriocaulon ozense</i>
VP0753	絶滅危惧IB 類 (EN)	イズノシマホシクサ	<i>Eriocaulon taquetii</i> var. <i>zyotanii</i>
VP0754	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒゼンコウガイゼキショウ	<i>Juncus hizenensis</i>
VP0755	絶滅危惧IB 類 (EN)	エゾノミクリゼキショウ	<i>Juncus mertensianus</i>
VP0756	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホロムイコウガイ	<i>Juncus tokubuchii</i>
VP0757	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒルゼンスゲ	<i>Carex aphyllopus</i> var. <i>impura</i>
VP0758	絶滅危惧IB 類 (EN)	アリサントマツリスゲ	<i>Carex arisanensis</i>
VP0759	絶滅危惧IB 類 (EN)	オハグロスゲ	<i>Carex bigelowii</i>
VP0760	絶滅危惧IB 類 (EN)	カヤツリスゲ	<i>Carex bohémica</i>
VP0761	絶滅危惧IB 類 (EN)	チチジマナキリスゲ	<i>Carex chichijimensis</i>
VP0762	絶滅危惧IB 類 (EN)	リュウキュウヒエスゲ	<i>Carex collifera</i>
VP0763	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハナビスゲ	<i>Carex cruciata</i>
VP0764	絶滅危惧IB 類 (EN)	タカネシバスゲ	<i>Carex fuscidula</i>
VP0765	絶滅危惧IB 類 (EN)	ゲンカイモエギスゲ	<i>Carex genkaiensis</i>
VP0766	絶滅危惧IB 類 (EN)	カンチスゲ	<i>Carex gynocrates</i>
VP0767	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメミコシガヤ	<i>Carex laevissima</i>
VP0768	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハタベスゲ	<i>Carex latisquamea</i>
VP0769	絶滅危惧IB 類 (EN)	タイワンカンズゲ	<i>Carex longistipes</i>
VP0770	絶滅危惧IB 類 (EN)	ノルゲスゲ	<i>Carex mackenziei</i>
VP0771	絶滅危惧IB 類 (EN)	タカネヒメスゲ	<i>Carex melanocarpa</i>
VP0772	絶滅危惧IB 類 (EN)	キビノミノボロスゲ	<i>Carex paxii</i>
VP0773	絶滅危惧IB 類 (EN)	マンシュウクロカワスゲ	<i>Carex peiktusani</i>
VP0774	絶滅危惧IB 類 (EN)	クグスゲ	<i>Carex pseudocyperus</i>
VP0775	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒロハイツポンスゲ	<i>Carex pseudololiacea</i>
VP0776	絶滅危惧IB 類 (EN)	ウシオスゲ	<i>Carex ramenskii</i>
VP0777	絶滅危惧IB 類 (EN)	カラフトイワスゲ	<i>Carex rupestris</i>
VP0778	絶滅危惧IB 類 (EN)	ラウススゲ	<i>Carex stylosa</i>
VP0779	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツクシナルコ	<i>Carex subcernua</i>
VP0780	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツシマスゲ	<i>Carex tsushimensis</i>
VP0781	絶滅危惧IB 類 (EN)	エゾハリスゲ	<i>Carex uda</i>
VP0782	絶滅危惧IB 類 (EN)	サヤスゲ	<i>Carex vaginata</i>
VP0783	絶滅危惧IB 類 (EN)	トサノハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i> var. <i>yoshinagae</i>
VP0784	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムギガラガヤツリ	<i>Cyperus unioides</i>
VP0785	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミスミイ	<i>Eleocharis acutangula</i>
VP0786	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハハジマテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>hahajimensis</i>
VP0787	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハタケテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0788	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハナシテンツキ	<i>Fimbristylis umbellaris</i>
VP0789	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムニンイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora japonica</i> var. <i>curvoaristata</i>
VP0790	絶滅危惧IB 類 (EN)	ロツカクイ	<i>Schoenoplectiella mucronata</i> var. <i>ishizawae</i>
VP0791	絶滅危惧IB 類 (EN)	イヌフトイ	<i>Schoenoplectus subulatus</i>
VP0792	絶滅危惧IB 類 (EN)	イヘヤヒゲクサ	<i>Schoenus calostachyus</i>
VP0793	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメマツカサススキ	<i>Scirpus karuisawensis</i>
VP0794	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツクシアブラガヤ	<i>Scirpus rosthornii</i> var. <i>kiushuensis</i>
VP0795	絶滅危惧IB 類 (EN)	エゾコウボウ	<i>Anthoxanthum pluriflorum</i> var. <i>pluriflorum</i>
VP0796	絶滅危惧IB 類 (EN)	シロケタダシバ	<i>Arundinella hirta</i> var. <i>livens</i>
VP0797	絶滅危惧IB 類 (EN)	オニビトノガリヤス	<i>Calamagrostis onibitoana</i>
VP0798	絶滅危惧IB 類 (EN)	アムールイワノガリヤス	<i>Calamagrostis purpurea</i> subsp. <i>amurensis</i>
VP0799	絶滅危惧IB 類 (EN)	タシロノガリヤス	<i>Calamagrostis tashiroi</i> subsp. <i>tashiroi</i>
VP0800	絶滅危惧IB 類 (EN)	ユウバリカニツリ	<i>Deschampsia cespitosa</i> var. <i>levis</i>
VP0801	絶滅危惧IB 類 (EN)	シマギョウギシバ	<i>Digitaria platycarpa</i>
VP0802	絶滅危惧IB 類 (EN)	ナンブソモソモ	<i>Dupontiopsis hayachinensis</i>
VP0803	絶滅危惧IB 類 (EN)	イヌカモジグサ	<i>Elymus gmelinii</i> var. <i>tenuisetus</i>
VP0804	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤマオオウシノケグサ	<i>Festuca hondoensis</i>
VP0805	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヌマドジョウツナギ	<i>Glyceria spiculosa</i>
VP0806	絶滅危惧IB 類 (EN)	シマカモノハシ	<i>Ischaemum ischaemoides</i>
VP0807	絶滅危惧IB 類 (EN)	タチイチゴツナギ	<i>Poa nemoralis</i>
VP0808	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒゲナガコメススキ	<i>Ptilagrostis alpina</i>
VP0809	絶滅危惧IB 類 (EN)	フォーリーガヤ	<i>Schizachne purpurascens</i> subsp. <i>callosa</i>
VP0810	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホソバドジョウツナギ	<i>Torreyochloa natans</i>
VP0811	絶滅危惧IB 類 (EN)	フクロダガヤ	<i>Tripogon longearistatus</i>
VP0812	絶滅危惧IB 類 (EN)	キタダケカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>molle</i>
VP0813	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツルキケマン	<i>Corydalis ochotensis</i>
VP0814	絶滅危惧IB 類 (EN)	リシリヒナゲシ	<i>Papaver fauriei</i>
VP0815	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハナカズラ	<i>Aconitum ciliare</i>
VP0816	絶滅危惧IB 類 (EN)	シレトコトリカブト	<i>Aconitum misaoanum</i>
VP0817	絶滅危惧IB 類 (EN)	ダイセツトリカブト	<i>Aconitum yamazakii</i>
VP0818	絶滅危惧IB 類 (EN)	シコクイチゲ	<i>Anemone sikokiana</i>
VP0819	絶滅危惧IB 類 (EN)	シコクハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>shikokiana</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0820	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒュウガオウレン	<i>Coptis minamitaniana</i>
VP0821	絶滅危惧IB 類 (EN)	コウヤシロカネソウ	<i>Dichocarpum numajirianum</i>
VP0822	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツクモグサ	<i>Pulsatilla nipponica</i>
VP0823	絶滅危惧IB 類 (EN)	タカネキンポウゲ	<i>Ranunculus altaicus</i> subsp. <i>shinanoalpinus</i>
VP0824	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメバイカモ	<i>Ranunculus kadzusensis</i>
VP0825	絶滅危惧IB 類 (EN)	キタダケキンポウゲ	<i>Ranunculus kitadakeanus</i>
VP0826	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオイチョウバイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> var. <i>major</i>
VP0827	絶滅危惧IB 類 (EN)	クモマキンポウゲ	<i>Ranunculus pygmaeus</i>
VP0828	絶滅危惧IB 類 (EN)	チトセバイカモ	<i>Ranunculus yezoensis</i>
VP0829	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオミヤマカラマツ	<i>Thalictrum filamentosum</i>
VP0830	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒレフリカラマツ	<i>Thalictrum toyamae</i>
VP0831	絶滅危惧IB 類 (EN)	タマカラマツ	<i>Thalictrum watanabei</i>
VP0832	絶滅危惧IB 類 (EN)	アオカズラ	<i>Sabia japonica</i>
VP0833	絶滅危惧IB 類 (EN)	モミジバショウマ	<i>Astilbe platyphylla</i>
VP0834	絶滅危惧IB 類 (EN)	クモマユキノシタ	<i>Micranthes laciniata</i>
VP0835	絶滅危惧IB 類 (EN)	チシマイワブキ	<i>Micranthes nelsoniana</i> var. <i>reniformis</i>
VP0836	絶滅危惧IB 類 (EN)	エチゼンダイモンジソウ	<i>Saxifraga acerifolia</i>
VP0837	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムラサキベンケイソウ	<i>Hylotelephium pallescens</i>
VP0838	絶滅危惧IB 類 (EN)	エッチュウミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>ettyuense</i>
VP0839	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミセバヤ	<i>Hylotelephium sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>
VP0840	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムニンタイトゴメ	<i>Sedum boninense</i>
VP0841	絶滅危惧IB 類 (EN)	カワラマンネングサ	<i>Sedum kawaraense</i>
VP0842	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメマンネングサ	<i>Sedum zentaro-tashiroi</i>
VP0843	絶滅危惧IB 類 (EN)	ナガバアリノトウグサ	<i>Gonocarpus chinensis</i>
VP0844	絶滅危惧IB 類 (EN)	クマガワブドウ	<i>Vitis kiusiana</i>
VP0845	絶滅危惧IB 類 (EN)	シラガブドウ	<i>Vitis shiragae</i>
VP0846	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハマビシ	<i>Tribulus terrestris</i>
VP0847	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオバネムノキ	<i>Albizia kalkora</i>
VP0848	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤエヤマネムノキ	<i>Albizia retusa</i>
VP0849	絶滅危惧IB 類 (EN)	カラフトモメンヅル	<i>Astragalus schelichovii</i>
VP0850	絶滅危惧IB 類 (EN)	トカチオウギ	<i>Astragalus tokachiensis</i>
VP0851	絶滅危惧IB 類 (EN)	カリバオウギ	<i>Astragalus yamamotoi</i>
VP0852	絶滅危惧IB 類 (EN)	カラフトゲンゲ	<i>Hedysarum hedysaroides</i>
VP0853	絶滅危惧IB 類 (EN)	チョウセンニワフジ	<i>Indigofera kirilowii</i>
VP0854	絶滅危惧IB 類 (EN)	コシキジマハギ	<i>Lespedeza argyrophylla</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0855	絶滅危惧IB 類 (EN)	エゾオヤマノエンドウ	<i>Oxytropis japonica</i> var. <i>sericea</i>
VP0856	絶滅危惧IB 類 (EN)	マシケゲンゲ	<i>Oxytropis shokanbetsuensis</i>
VP0857	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオバフジボグサ	<i>Uraria lagopodoides</i>
VP0858	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメツルアズキ	<i>Vigna minima</i> var. <i>minima</i>
VP0859	絶滅危惧IB 類 (EN)	アカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>tsusimensis</i>
VP0860	絶滅危惧IB 類 (EN)	キリタチヤマザクラ	<i>Cerasus sargentii</i> var. <i>akimotoi</i>
VP0861	絶滅危惧IB 類 (EN)	クロミサンザシ	<i>Crataegus chlorosarca</i>
VP0862	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマシロバナヘビイチゴ	<i>Fragaria nipponica</i> var. <i>yakusimensis</i>
VP0863	絶滅危惧IB 類 (EN)	ノカイドウ	<i>Malus spontanea</i>
VP0864	絶滅危惧IB 類 (EN)	ユウバリキンバイ	<i>Potentilla matsumurae</i> var. <i>yuparensis</i>
VP0865	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤブザクラ	<i>Prunus hisauchiana</i>
VP0866	絶滅危惧IB 類 (EN)	ブコウマメザクラ	<i>Prunus incisa</i> var. <i>bukosanensis</i>
VP0867	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホシザクラ	<i>Prunus tamaclivorum</i>
VP0868	絶滅危惧IB 類 (EN)	マメナシ	<i>Pyrus calleryana</i>
VP0869	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミチノクナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>ussuriensis</i>
VP0870	絶滅危惧IB 類 (EN)	シロヤマブキ	<i>Rhodotypos scandens</i>
VP0871	絶滅危惧IB 類 (EN)	ゴショイチゴ	<i>Rubus chingii</i>
VP0872	絶滅危惧IB 類 (EN)	エゾノトウウチソウ	<i>Sanguisorba japonensis</i>
VP0873	絶滅危惧IB 類 (EN)	カツラギグミ	<i>Elaeagnus takeshitae</i>
VP0874	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマグミ	<i>Elaeagnus yakusimensis</i>
VP0875	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミヤマハンモドキ	<i>Rhamnus ishidae</i>
VP0876	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホソバノキミズ	<i>Elatostema lineolatum</i> var. <i>majus</i>
VP0877	絶滅危惧IB 類 (EN)	ランダイミズ	<i>Elatostema platyphyllum</i>
VP0878	絶滅危惧IB 類 (EN)	チョクザキミズ	<i>Lecanthus peduncularis</i>
VP0879	絶滅危惧IB 類 (EN)	トウカテンソウ	<i>Nanocnide pilosa</i>
VP0880	絶滅危惧IB 類 (EN)	アポイカンバ	<i>Betula apoiensis</i>
VP0881	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムニンカラスウリ	<i>Trichosanthes ovigera</i> var. <i>boninensis</i>
VP0882	絶滅危惧IB 類 (EN)	ナガバコバンモチ	<i>Elaeocarpus multiflorus</i>
VP0883	絶滅危惧IB 類 (EN)	エノキフジ	<i>Discocleidion ulmifolium</i>
VP0884	絶滅危惧IB 類 (EN)	テリハニシキソウ	<i>Euphorbia hirta</i> var. <i>glaberrima</i>
VP0885	絶滅危惧IB 類 (EN)	アソタイゲキ	<i>Euphorbia pekinensis</i> subsp. <i>asoensis</i>
VP0886	絶滅危惧IB 類 (EN)	ボロジノニシキソウ	<i>Euphorbia sparrmannii</i>
VP0887	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハナコミカンボク	<i>Phyllanthus liukiuensis</i>
VP0888	絶滅危惧IB 類 (EN)	エゾノタカネヤナギ	<i>Salix nakamurana</i> subsp. <i>yezoalpina</i>
VP0889	絶滅危惧IB 類 (EN)	タニマスミレ	<i>Viola epipsiloides</i>
VP0890	絶滅危惧IB 類 (EN)	アポイタチツボスミレ	<i>Viola sacchalinensis</i> f. <i>alpina</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0891	絶滅危惧IB 類 (EN)	タデスミレ	<i>Viola thibaudieri</i>
VP0892	絶滅危惧IB 類 (EN)	オキナワスミレ	<i>Viola utchinensis</i>
VP0893	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマカワゴロモ	<i>Hydrobryum puncticulatum</i>
VP0894	絶滅危惧IB 類 (EN)	コウライトモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> subsp. <i>ascyron</i> var. <i>longistylum</i>
VP0895	絶滅危惧IB 類 (EN)	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>
VP0896	絶滅危惧IB 類 (EN)	カイツウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>kaimontanum</i>
VP0897	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマフウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>yoshiianum</i>
VP0898	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒルギモドキ	<i>Lumnitzera racemosa</i>
VP0899	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホザキキカシグサ	<i>Rotala rotundifolia</i>
VP0900	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハハジマノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>pentapetalum</i>
VP0901	絶滅危惧IB 類 (EN)	チャンチンモドキ	<i>Choerospondias axillaris</i>
VP0902	絶滅危惧IB 類 (EN)	シバタカエデ	<i>Acer miyabei</i> f. <i>shibatae</i>
VP0903	絶滅危惧IB 類 (EN)	タイシャクイタヤ	<i>Acer pictum</i> subsp. <i>taishakuense</i>
VP0904	絶滅危惧IB 類 (EN)	アツバシロテツ	<i>Melicope grisea</i> var. <i>crassifolia</i>
VP0905	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツクシボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>rufovillosa</i>
VP0906	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツチビノキ	<i>Daphnimorpha capitellata</i>
VP0907	絶滅危惧IB 類 (EN)	リシリハタザオ	<i>Arabidopsis halleri</i> subsp. <i>gemmaefera</i> var. <i>umezawana</i>
VP0908	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオマルバコンロンソウ	<i>Cardamine arakiana</i>
VP0909	絶滅危惧IB 類 (EN)	タカチホガラシ	<i>Cardamine kiusiana</i>
VP0910	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハナタネツケバナ	<i>Cardamine pratensis</i>
VP0911	絶滅危惧IB 類 (EN)	エゾノジャンジン	<i>Cardamine schinziana</i>
VP0912	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミヤウチソウ	<i>Cardamine trifida</i>
VP0913	絶滅危惧IB 類 (EN)	トモシリソウ	<i>Cochlearia oblongifolia</i>
VP0914	絶滅危惧IB 類 (EN)	ナンブイヌナズナ	<i>Draba japonica</i>
VP0915	絶滅危惧IB 類 (EN)	キタダケナズナ	<i>Draba kitadakensis</i>
VP0916	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤツガタケナズナ	<i>Draba oiana</i>
VP0917	絶滅危惧IB 類 (EN)	モイワナズナ	<i>Draba sachalinensis</i> var. <i>sachalinensis</i>
VP0918	絶滅危惧IB 類 (EN)	トガクシナズナ	<i>Draba sakuraii</i> var. <i>sakuraii</i>
VP0919	絶滅危惧IB 類 (EN)	シロウマナズナ	<i>Draba shiroumana</i>
VP0920	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハマタイセイ	<i>Isatis tinctoria</i> var. <i>tinctoria</i>
VP0921	絶滅危惧IB 類 (EN)	タカネゲンバイ	<i>Nocca cochleariformis</i>
VP0922	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハリナズナ	<i>Subularia aquatica</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0923	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムニンビャクダン	<i>Santalum boninense</i>
VP0924	絶滅危惧IB 類 (EN)	アラゲタデ	<i>Persicaria pulchra</i>
VP0925	絶滅危惧IB 類 (EN)	キブネダイオウ	<i>Rumex nepalensis</i> subsp. <i>andreaeanus</i>
VP0926	絶滅危惧IB 類 (EN)	ニセコガネギシギシ	<i>Rumex trisetifer</i>
VP0927	絶滅危惧IB 類 (EN)	アポイツメクサ	<i>Arenaria katoana</i> var. <i>lanceolata</i>
VP0928	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハイツメクサ	<i>Minuartia biflora</i>
VP0929	絶滅危惧IB 類 (EN)	カムイビランジ	<i>Silene hidaka-alpina</i>
VP0930	絶滅危惧IB 類 (EN)	チシママンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>latifolia</i>
VP0931	絶滅危惧IB 類 (EN)	カラフトマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>repens</i>
VP0932	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマサワハコベ	<i>Stellaria diandra</i> var. <i>yakumontana</i>
VP0933	絶滅危惧IB 類 (EN)	エゾハコベ	<i>Stellaria humifusa</i>
VP0934	絶滅危惧IB 類 (EN)	エゾイワツメクサ	<i>Stellaria pterosperma</i>
VP0935	絶滅危惧IB 類 (EN)	アマミクサアジサイ	<i>Cardiandra amamiohsimensis</i>
VP0936	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤエヤマヒメウツギ	<i>Deutzia yaeyamensis</i>
VP0937	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマルリアジサイ	<i>Hydrangea acuminata</i> subsp. <i>yakushimensis</i>
VP0938	絶滅危惧IB 類 (EN)	キモツキクサアジサイ	<i>Hydrangea marunoi</i>
VP0939	絶滅危惧IB 類 (EN)	カラフトハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i>
VP0940	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムニンヒサカキ	<i>Eurya boninensis</i>
VP0941	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムニンノキ	<i>Planchonella boninensis</i>
VP0942	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤワラケガキ	<i>Diospyros eriantha</i>
VP0943	絶滅危惧IB 類 (EN)	トチナイソウ	<i>Androsace chamaejasme</i> subsp. <i>lehmanniana</i>
VP0944	絶滅危惧IB 類 (EN)	シナヤブコウジ	<i>Ardisia cymosa</i>
VP0945	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオツルコウジ	<i>Ardisia walkeri</i>
VP0946	絶滅危惧IB 類 (EN)	サクラソウモドキ	<i>Cortusa matthioli</i> subsp. <i>pekinensis</i> var. <i>sachalinensis</i>
VP0947	絶滅危惧IB 類 (EN)	トウサワトラノオ	<i>Lysimachia candida</i>
VP0948	絶滅危惧IB 類 (EN)	オニコナスビ	<i>Lysimachia tashiroi</i>
VP0949	絶滅危惧IB 類 (EN)	カムイコザクラ	<i>Primula hidakana</i> f. <i>kamuiana</i>
VP0950	絶滅危惧IB 類 (EN)	カッコソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>kisoana</i>
VP0951	絶滅危惧IB 類 (EN)	シコクカッコソウ	<i>Primula kisoana</i> var. <i>shikokiana</i>
VP0952	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメコザクラ	<i>Primula macrocarpa</i>
VP0953	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミョウギイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>myogiensis</i>
VP0954	絶滅危惧IB 類 (EN)	ユウバリコザクラ	<i>Primula yuparensis</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0955	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホザキザクラ	<i>Stimponia chamaedryoides</i>
VP0956	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムニンクロキ	<i>Symplocos boninensis</i>
VP0957	絶滅危惧IB 類 (EN)	コニシハイノキ	<i>Symplocos konishii</i>
VP0958	絶滅危惧IB 類 (EN)	チチジマクロキ	<i>Symplocos pergracilis</i>
VP0959	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤチツツジ	<i>Chamaedaphne calyculata</i>
VP0960	絶滅危惧IB 類 (EN)	エゾイチヤクソウ	<i>Pyrola minor</i>
VP0961	絶滅危惧IB 類 (EN)	アマギツツジ	<i>Rhododendron amagianum</i>
VP0962	絶滅危惧IB 類 (EN)	アマクサミツバツツジ	<i>Rhododendron amakusaense</i>
VP0963	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒダカミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>boreale</i>
VP0964	絶滅危惧IB 類 (EN)	ウラジロヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>hypoglaucum</i>
VP0965	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムラサキツリガネツツジ	<i>Rhododendron lasiophyllum</i> var. <i>lasiophyllum</i>
VP0966	絶滅危惧IB 類 (EN)	アマミセイシカ	<i>Rhododendron latoucheae</i> var. <i>amamiense</i>
VP0967	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオスミミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>ohsumiense</i>
VP0968	絶滅危惧IB 類 (EN)	トキワバイカツツジ	<i>Rhododendron uwaense</i>
VP0969	絶滅危惧IB 類 (EN)	タカクサミツバツツジ	<i>Rhododendron viscistylum</i>
VP0970	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマヨウラクツツジ	<i>Rhododendron yakushimense</i>
VP0971	絶滅危惧IB 類 (EN)	チョウセンヤマツツジ	<i>Rhododendron yedoense</i> var. <i>hallaisanense</i>
VP0972	絶滅危惧IB 類 (EN)	クサミズキ	<i>Nothapodytes nimmonianus</i>
VP0973	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒジハリノキ	<i>Benkara sinensis</i>
VP0974	絶滅危惧IB 類 (EN)	コバンムグラ	<i>Exallage chrysotricha</i>
VP0975	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤツガタケムグラ	<i>Galium triflorum</i>
VP0976	絶滅危惧IB 類 (EN)	サンブクリンドウ	<i>Comastoma pulmonarium</i> subsp. <i>sectum</i>
VP0977	絶滅危惧IB 類 (EN)	コヒナリンドウ	<i>Gentiana laeviuscula</i>
VP0978	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマリンドウ	<i>Gentiana yakushimensis</i>
VP0979	絶滅危惧IB 類 (EN)	オノエリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>takedae</i>
VP0980	絶滅危惧IB 類 (EN)	ユウバリリンドウ	<i>Gentianella amarella</i> subsp. <i>yuparensis</i>
VP0981	絶滅危惧IB 類 (EN)	チチブリンドウ	<i>Gentianopsis contorta</i>
VP0982	絶滅危惧IB 類 (EN)	アカイシリンドウ	<i>Gentianopsis yabei</i> var. <i>akaisiensis</i>
VP0983	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメセンブリ	<i>Lomatogonium carinthiacum</i>
VP0984	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハナヤマツルリンドウ	<i>Tripterospermum distylum</i>
VP0985	絶滅危惧IB 類 (EN)	ゴムカズラ	<i>Urceola micrantha</i>
VP0986	絶滅危惧IB 類 (EN)	ナンゴクカモメヅル	<i>Vincetoxicum austrokiusianum</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP0987	絶滅危惧IB 類 (EN)	イズカモメヅル	<i>Vincetoxicum izuense</i>
VP0988	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメイヨカズラ	<i>Vincetoxicum matsumurae</i>
VP0989	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムラサキ	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>
VP0990	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツルカメバソウ	<i>Trigonotis iinumae</i>
VP0991	絶滅危惧IB 類 (EN)	チョウセンカメバソウ	<i>Trigonotis radicans</i> var. <i>sericea</i>
VP0992	絶滅危惧IB 類 (EN)	マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>
VP0993	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハマネナシカズラ	<i>Cuscuta chinensis</i>
VP0994	絶滅危惧IB 類 (EN)	マルバアサガオガラクサ	<i>Evolvulus alsinoides</i> var. <i>rotundifolius</i>
VP0995	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオバケアサガオ	<i>Lepistemon binectariferum</i> var. <i>trichocarpum</i>
VP0996	絶滅危惧IB 類 (EN)	ショウドシマレンギョウ	<i>Forsythia togashii</i>
VP0997	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤナギバモクセイ	<i>Osmanthus insularis</i> var. <i>okinawensis</i>
VP0998	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオモクセイ	<i>Osmanthus rigidus</i>
VP0999	絶滅危惧IB 類 (EN)	ユウバリソウ	<i>Lagotis takedana</i>
VP1000	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホソバウルップソウ	<i>Lagotis yesoensis</i>
VP1001	絶滅危惧IB 類 (EN)	エナシシソクサ	<i>Limnophila fragrans</i>
VP1002	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒシモドキ	<i>Trapella sinensis</i>
VP1003	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホソバヒメトラノオ	<i>Veronica linariifolia</i> var. <i>linariifolia</i>
VP1004	絶滅危惧IB 類 (EN)	イスミスズカケ	<i>Veronicastrum noguchii</i>
VP1005	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツシマヒナノウスツボ	<i>Scrophularia kakudensis</i> var. <i>toyamae</i>
VP1006	絶滅危惧IB 類 (EN)	タカクマムラサキ	<i>Callicarpa longissima</i>
VP1007	絶滅危惧IB 類 (EN)	ウラジロコムラサキ	<i>Callicarpa parvifolia</i>
VP1008	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオヒメキシワタ	<i>Matsumurella chinensis</i>
VP1009	絶滅危惧IB 類 (EN)	アマミタムラソウ	<i>Salvia pygmaea</i> var. <i>simplicior</i>
VP1010	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムニンタツナミソウ	<i>Scutellaria longituba</i>
VP1011	絶滅危惧IB 類 (EN)	ケミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>pubicaulis</i>
VP1012	絶滅危惧IB 類 (EN)	エゾニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>veronicoides</i>
VP1013	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメサギゴケ	<i>Mazus goodenifolius</i>
VP1014	絶滅危惧IB 類 (EN)	イズコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i> var. <i>idzuensis</i>
VP1015	絶滅危惧IB 類 (EN)	ナヨナヨコゴメグサ	<i>Euphrasia microphylla</i>
VP1016	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツクシコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>multifolia</i>
VP1017	絶滅危惧IB 類 (EN)	ウスユキクチナシグサ	<i>Monochasma savatieri</i>
VP1018	絶滅危惧IB 類 (EN)	シマウツボ	<i>Orobanche boninsimae</i>
VP1019	絶滅危惧IB 類 (EN)	キバナシオガマ	<i>Pedicularis oederi</i>
VP1020	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミカワタヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1021	絶滅危惧IB 類 (EN)	ムニンモチ	<i>Ilex mertensii</i> var. <i>beecheyi</i>
VP1022	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤチシャジン	<i>Adenophora palustris</i>
VP1023	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハウオウシャジン	<i>Adenophora takedae</i> var. <i>howozana</i>
VP1024	絶滅危惧IB 類 (EN)	シマシャジン	<i>Adenophora tashiroi</i>
VP1025	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤツシロソウ	<i>Campanula glomerata</i> subsp. <i>speciosa</i>
VP1026	絶滅危惧IB 類 (EN)	マルバミゾカクシ	<i>Lobelia zeylanica</i>
VP1027	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホソバエゾノコギリ	<i>Achillea ptarmica</i> subsp. <i>macrocephala</i> var. <i>yezoensis</i>
VP1028	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオウサギギク	<i>Arnica sachalinensis</i>
VP1029	絶滅危惧IB 類 (EN)	ワタヨモギ	<i>Artemisia gilvescens</i>
VP1030	絶滅危惧IB 類 (EN)	キタダケヨモギ	<i>Artemisia kitadakensis</i>
VP1031	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオバヨモギ	<i>Artemisia koidzumii</i> var. <i>megaphylla</i>
VP1032	絶滅危惧IB 類 (EN)	ユキヨモギ	<i>Artemisia momiyamae</i>
VP1033	絶滅危惧IB 類 (EN)	イソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>asagrayi</i>
VP1034	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヨナクニイソノギク	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>walkerii</i>
VP1035	絶滅危惧IB 類 (EN)	カワラノギク	<i>Aster kantoensis</i>
VP1036	絶滅危惧IB 類 (EN)	シブカワシロギク	<i>Aster rugulosus</i> var. <i>shibukawaensis</i>
VP1037	絶滅危惧IB 類 (EN)	クルマギク	<i>Aster tenuipes</i>
VP1038	絶滅危惧IB 類 (EN)	チョウセンノギク	<i>Chrysanthemum zawadskii</i> subsp. <i>naktongense</i>
VP1039	絶滅危惧IB 類 (EN)	アイズヒメアザミ	<i>Cirsium aidzuense</i>
VP1040	絶滅危惧IB 類 (EN)	アシノクラアザミ	<i>Cirsium ashinokuraense</i>
VP1041	絶滅危惧IB 類 (EN)	チカブミアザミ	<i>Cirsium chikabumiense</i>
VP1042	絶滅危惧IB 類 (EN)	コイブキアザミ	<i>Cirsium confertissimum</i>
VP1043	絶滅危惧IB 類 (EN)	ガンジュアザミ	<i>Cirsium ganjuense</i>
VP1044	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハッポウアザミ	<i>Cirsium happoense</i>
VP1045	絶滅危惧IB 類 (EN)	カツラカワアザミ	<i>Cirsium opacum</i>
VP1046	絶滅危惧IB 類 (EN)	ニセツクシアザミ	<i>Cirsium pseudosuffultum</i>
VP1047	絶滅危惧IB 類 (EN)	タネガシマアザミ	<i>Cirsium tanegashimense</i>
VP1048	絶滅危惧IB 類 (EN)	ワタムキアザミ	<i>Cirsium tashiroi</i> var. <i>tashiroi</i>
VP1049	絶滅危惧IB 類 (EN)	ウスバアザミ	<i>Cirsium tenue</i>
VP1050	絶滅危惧IB 類 (EN)	ユズリハワダン	<i>Crepidiastrum ameristophyllum</i>
VP1051	絶滅危惧IB 類 (EN)	ダイトウワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i> var. <i>daitoense</i>
VP1052	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヘラナレン	<i>Crepidiastrum linguifolium</i>
VP1053	絶滅危惧IB 類 (EN)	ワダンノキ	<i>Dendrocacalia crepidifolia</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1054	絶滅危惧IB 類 (EN)	アポイアズマギク	<i>Erigeron thunbergii</i> subsp. <i>glabratus</i> var. <i>angustifolius</i>
VP1055	絶滅危惧IB 類 (EN)	ネバリイズハハコ	<i>Eschenbachia leucantha</i>
VP1056	絶滅危惧IB 類 (EN)	エゾコウゾリナ	<i>Hypochaeris crepidioides</i>
VP1057	絶滅危惧IB 類 (EN)	ホソバニガナ	<i>Ixeridium beauverdianum</i>
VP1058	絶滅危惧IB 類 (EN)	イソニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> subsp. <i>nipponicum</i>
VP1059	絶滅危惧IB 類 (EN)	エゾウスユキソウ	<i>Leontopodium discolor</i>
VP1060	絶滅危惧IB 類 (EN)	ハヤチネウスユキソウ	<i>Leontopodium hayachinense</i>
VP1061	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミコシギク	<i>Leucanthemella linearis</i>
VP1062	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤマタバコ	<i>Ligularia angusta</i>
VP1063	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメキクタビラコ	<i>Myriactis japonensis</i>
VP1064	絶滅危惧IB 類 (EN)	ミヤマコウモリソウ	<i>Parasenecio farfarifolius</i> var. <i>acerinus</i>
VP1065	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒメコウモリソウ	<i>Parasenecio shikokianus</i>
VP1066	絶滅危惧IB 類 (EN)	アキノハハコグサ	<i>Pseudognaphalium hypoleucum</i>
VP1067	絶滅危惧IB 類 (EN)	カムイトウヒレン	<i>Saussurea kenjihorieana</i>
VP1068	絶滅危惧IB 類 (EN)	ネコヤマヒゴタイ	<i>Saussurea modesta</i>
VP1069	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツクシトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>savatieri</i> var. <i>higomontana</i>
VP1070	絶滅危惧IB 類 (EN)	ウスユキトウヒレン	<i>Saussurea yanagisawae</i> var. <i>yanagisawae</i>
VP1071	絶滅危惧IB 類 (EN)	コウリングク	<i>Senecio argunensis</i>
VP1072	絶滅危惧IB 類 (EN)	ソラチアオヤギバナ	<i>Solidago horieana</i>
VP1073	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤブレガサモドキ	<i>Syneilesis tagawae</i> var. <i>tagawae</i>
VP1074	絶滅危惧IB 類 (EN)	イズカニコウモリ	<i>Taimingasa amagiensis</i>
VP1075	絶滅危惧IB 類 (EN)	クモマタンポポ	<i>Taraxacum ceratophorum</i>
VP1076	絶滅危惧IB 類 (EN)	クザカイタンポポ	<i>Taraxacum kuzakaiense</i>
VP1077	絶滅危惧IB 類 (EN)	タカネタンポポ	<i>Taraxacum yuparense</i> var. <i>yuparense</i>
VP1078	絶滅危惧IB 類 (EN)	タカネコウリングク	<i>Tephroseris flammea</i> subsp. <i>flammea</i>
VP1079	絶滅危惧IB 類 (EN)	キバナコウリンカ	<i>Tephroseris furusei</i>
VP1080	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオチョウジガマズミ	<i>Viburnum carlesii</i> var. <i>carlesii</i>
VP1081	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒロハガマズミ	<i>Viburnum koreanum</i>
VP1082	絶滅危惧IB 類 (EN)	スルガヒョウタンボク	<i>Lonicera alpigena</i> subsp. <i>glehnii</i> var. <i>watanabeana</i>
VP1083	絶滅危惧IB 類 (EN)	クロブシヒョウタンボク	<i>Lonicera kurobushiensis</i>
VP1084	絶滅危惧IB 類 (EN)	コゴメヒョウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>konoii</i>
VP1085	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤブヒョウタンボク	<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>linderifolia</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1086	絶滅危惧IB 類 (EN)	キンキヒョウタンボク	<i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>kinkiensis</i>
VP1087	絶滅危惧IB 類 (EN)	チシマキンレイカ	<i>Patrinia sibirica</i>
VP1088	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>takeuchiana</i>
VP1089	絶滅危惧IB 類 (EN)	オオミノトベラ	<i>Pittosporum boninense</i> var. <i>chichijimense</i>
VP1090	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヒュウガセンキュウ	<i>Angelica minamitanii</i>
VP1091	絶滅危惧IB 類 (EN)	イシヅチボウフウ	<i>Angelica saxicola</i>
VP1092	絶滅危惧IB 類 (EN)	クマノダケ	<i>Angelica shikokiana</i> var. <i>mayebarana</i>
VP1093	絶滅危惧IB 類 (EN)	トカチトウキ	<i>Angelica stenoloba</i> var. <i>valens</i>
VP1094	絶滅危惧IB 類 (EN)	ウバタケニンジン	<i>Angelica ubatakensis</i>
VP1095	絶滅危惧IB 類 (EN)	トサボウフウ	<i>Angelica yoshinagae</i>
VP1096	絶滅危惧IB 類 (EN)	レブンサイコ	<i>Bupleurum ajanense</i>
VP1097	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤクシマセントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i> var. <i>micrantha</i>
VP1098	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツルギハナウド	<i>Heracleum sphondylium</i> var. <i>turugisanense</i>
VP1099	絶滅危惧IB 類 (EN)	ツクシボウフウ	<i>Pimpinella thellungiana</i> var. <i>gustavohegiana</i>
VP1100	絶滅危惧IB 類 (EN)	ヤマナシウマノミツバ	<i>Sanicula kaiensis</i>
VP1101	絶滅危惧IB 類 (EN)	フキヤミツバ	<i>Sanicula tuberculata</i>
VP1102	絶滅危惧II類 (VU)	ヒモヅル	<i>Lycopodium casuarinoides</i>
VP1103	絶滅危惧II類 (VU)	スギラン	<i>Phlegmariurus cryptomerinus</i>
VP1104	絶滅危惧II類 (VU)	ミズニラモドキ	<i>Isoetes pseudojaponica</i>
VP1105	絶滅危惧II類 (VU)	シナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i>
VP1106	絶滅危惧II類 (VU)	コケカタヒバ	<i>Selaginella aristata</i>
VP1107	絶滅危惧II類 (VU)	アマミクラマゴケ	<i>Selaginella limbata</i>
VP1108	絶滅危惧II類 (VU)	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>
VP1109	絶滅危惧II類 (VU)	エゾノヒモカズラ	<i>Selaginella sibirica</i>
VP1110	絶滅危惧II類 (VU)	ヤチスギナ	<i>Equisetum pratense</i>
VP1111	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメドクサ	<i>Equisetum scirpoides</i>
VP1112	絶滅危惧II類 (VU)	フサスギナ	<i>Equisetum sylvaticum</i>
VP1113	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメハナワラビ	<i>Botrychium lunaria</i>
VP1114	絶滅危惧II類 (VU)	チャボハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvum</i>
VP1115	絶滅危惧II類 (VU)	ハハジマホラゴケ	<i>Abrodictyum boninense</i>
VP1116	絶滅危惧II類 (VU)	マメゴケシダ	<i>Didymoglossum motleyi</i>
VP1117	絶滅危惧II類 (VU)	ミウラハイホラゴケ	<i>Vandenboschia miuraensis</i>
VP1118	絶滅危惧II類 (VU)	リュウキュウオオハイホラゴ	<i>Vandenboschia oshimensis</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
		ケ	
VP1119	絶滅危惧II類 (VU)	カネコシダ	<i>Diplopterygium laevisissimum</i>
VP1120	絶滅危惧II類 (VU)	リュウキュウキジノオ	<i>Plagiogyria koidzumii</i>
VP1121	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメホングウシダ	<i>Lindsaea cambodgensis</i>
VP1122	絶滅危惧II類 (VU)	イワホウライシダ	<i>Adiantum ogasawarense</i>
VP1123	絶滅危惧II類 (VU)	タキミシダ	<i>Antrophyum obovatum</i>
VP1124	絶滅危惧II類 (VU)	エビガラシダ	<i>Cheilanthes chusana</i>
VP1125	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメシシラン	<i>Haplopteris anguste-elongata</i>
VP1126	絶滅危惧II類 (VU)	キドイノモトソウ	<i>Pteris kidoi</i>
VP1127	絶滅危惧II類 (VU)	ヤワラハチジョウシダ	<i>Pteris natiensis</i>
VP1128	絶滅危惧II類 (VU)	カワリバアマクサシダ	<i>Pteris perplexa</i>
VP1129	絶滅危惧II類 (VU)	サツマハチジョウシダ	<i>Pteris satsumana</i>
VP1130	絶滅危惧II類 (VU)	ヤクシマハチジョウシダ	<i>Pteris yakuinsularis</i>
VP1131	絶滅危惧II類 (VU)	コウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>obtusiloba</i>
VP1132	絶滅危惧II類 (VU)	オオイシカグマ	<i>Microlepia speluncae</i>
VP1133	絶滅危惧II類 (VU)	クロガネシダ	<i>Asplenium coenobiale</i>
VP1134	絶滅危惧II類 (VU)	ナンカイシダ	<i>Asplenium micantifrons</i>
VP1135	絶滅危惧II類 (VU)	ムニンシダ	<i>Asplenium polyodon</i>
VP1136	絶滅危惧II類 (VU)	オクタマシダ	<i>Asplenium pseudowilfordii</i>
VP1137	絶滅危惧II類 (VU)	テンリュウヌリトラノオ	<i>Asplenium shimurae</i>
VP1138	絶滅危惧II類 (VU)	オトメシダ	<i>Asplenium tenerum</i>
VP1139	絶滅危惧II類 (VU)	ラハオシダ	<i>Hymenasplenium excisum</i>
VP1140	絶滅危惧II類 (VU)	オオギミシダ	<i>Woodwardia harlandii</i>
VP1141	絶滅危惧II類 (VU)	テバコワラビ	<i>Athyrium atkinsonii</i>
VP1142	絶滅危惧II類 (VU)	ヘイケイヌワラビ	<i>Athyrium eremicola</i>
VP1143	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメホウビシダ	<i>Athyrium nakanoi</i>
VP1144	絶滅危惧II類 (VU)	サカバサトメシダ	<i>Athyrium palustre</i>
VP1145	絶滅危惧II類 (VU)	コウライイヌワラビ	<i>Deparia coreana</i>
VP1146	絶滅危惧II類 (VU)	ウスバシケシダ	<i>Deparia longipes</i>
VP1147	絶滅危惧II類 (VU)	シマクジャク	<i>Diplazium longicarpum</i>
VP1148	絶滅危惧II類 (VU)	ニセシロヤマシダ	<i>Diplazium taiwanense</i>
VP1149	絶滅危惧II類 (VU)	タイワンハシゴシダ	<i>Thelypteris castanea</i>
VP1150	絶滅危惧II類 (VU)	トサノミゾシダモドキ	<i>Thelypteris flexilis</i>
VP1151	絶滅危惧II類 (VU)	ヤクシマカナワラビ	<i>Arachniodes cavaleriei</i>
VP1152	絶滅危惧II類 (VU)	シビカナワラビ	<i>Arachniodes hekiana</i>
VP1153	絶滅危惧II類 (VU)	ハガクレカナワラビ	<i>Arachniodes yasu-inouei</i> var. <i>yasu-</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
			<i>inouei</i>
VP1154	絶滅危惧II類 (VU)	コミダケシダ	<i>Ctenitis iriomotensis</i>
VP1155	絶滅危惧II類 (VU)	イワカゲワラビ	<i>Dryopteris laeta</i>
VP1156	絶滅危惧II類 (VU)	台湾ヒメワラビ	<i>Dryopteris nodosa</i>
VP1157	絶滅危惧II類 (VU)	モトイタチシダ	<i>Dryopteris protobissetiana</i>
VP1158	絶滅危惧II類 (VU)	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i>
VP1159	絶滅危惧II類 (VU)	アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i>
VP1160	絶滅危惧II類 (VU)	オニイノデ	<i>Polystichum rigens</i>
VP1161	絶滅危惧II類 (VU)	コモチイノデ	<i>Polystichum scariosum</i>
VP1162	絶滅危惧II類 (VU)	ツルキジノオ	<i>Lomariopsis boninensis</i>
VP1163	絶滅危惧II類 (VU)	キクシノブ	<i>Davallia repens</i>
VP1164	絶滅危惧II類 (VU)	ミョウギシダ	<i>Goniophlebium someyae</i>
VP1165	絶滅危惧II類 (VU)	台湾クリハラン	<i>Leptochilus hemionitideus</i>
VP1166	絶滅危惧II類 (VU)	ムニンサジラン	<i>Loxogramme boninensis</i>
VP1167	絶滅危惧II類 (VU)	ナガバコウラボシ	<i>Oreogrammitis tuyamae</i>
VP1168	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメバラモミ	<i>Picea maximowiczii</i>
VP1169	絶滅危惧II類 (VU)	トガサワラ	<i>Pseudotsuga japonica</i>
VP1170	絶滅危惧II類 (VU)	リシリビャクシン	<i>Juniperus communis</i> var. <i>montana</i>
VP1171	絶滅危惧II類 (VU)	シマムロ	<i>Juniperus taxifolia</i> var. <i>taxifolia</i>
VP1172	絶滅危惧II類 (VU)	オニバス	<i>Euryale ferox</i>
VP1173	絶滅危惧II類 (VU)	オゼコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>ozeensis</i>
VP1174	絶滅危惧II類 (VU)	ネムロコウホネ	<i>Nuphar pumila</i> var. <i>pumila</i>
VP1175	絶滅危惧II類 (VU)	エゾベニヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i> var. <i>erythrostigmatica</i>
VP1176	絶滅危惧II類 (VU)	キビヒトリシズカ	<i>Chloranthus fortunei</i>
VP1177	絶滅危惧II類 (VU)	シマゴショウ	<i>Peperomia boninsimensis</i>
VP1178	絶滅危惧II類 (VU)	マルバウマノスズクサ	<i>Aristolochia contorta</i>
VP1179	絶滅危惧II類 (VU)	コウシュンウマノスズクサ	<i>Aristolochia zollingeriana</i>
VP1180	絶滅危惧II類 (VU)	ナンゴクアオイ	<i>Asarum crassum</i>
VP1181	絶滅危惧II類 (VU)	ミチノクサイシン	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>fauriei</i>
VP1182	絶滅危惧II類 (VU)	ミヤマアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>nakaianum</i>
VP1183	絶滅危惧II類 (VU)	フジノカンアオイ	<i>Asarum fudsinoi</i>
VP1184	絶滅危惧II類 (VU)	ツクシアオイ	<i>Asarum kiusianum</i> var. <i>kiusianum</i>
VP1185	絶滅危惧II類 (VU)	クワイバカンアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>kumageanum</i>
VP1186	絶滅危惧II類 (VU)	アマギカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>muramatsui</i>
VP1187	絶滅危惧II類 (VU)	ナンカイアオイ	<i>Asarum nipponicum</i> var. <i>nankaiense</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1188	絶滅危惧II類 (VU)	サカワサイシン	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>sakawanum</i>
VP1189	絶滅危惧II類 (VU)	トクノシマカンアオイ	<i>Asarum simile</i>
VP1190	絶滅危惧II類 (VU)	キナンカンアオイ	<i>Asarum takaoi</i> var. <i>austrokiensis</i>
VP1191	絶滅危惧II類 (VU)	タマノカンアオイ	<i>Asarum tamaense</i>
VP1192	絶滅危惧II類 (VU)	オニカンアオイ	<i>Asarum yakusimense</i>
VP1193	絶滅危惧II類 (VU)	シナクスモドキ	<i>Cryptocarya chinensis</i>
VP1194	絶滅危惧II類 (VU)	オキナワコウバシ	<i>Lindera communis</i> var. <i>okinawensis</i>
VP1195	絶滅危惧II類 (VU)	ヤマコンニャク	<i>Amorphophallus kiusianus</i>
VP1196	絶滅危惧II類 (VU)	タカハシテンナンショウ	<i>Arisaema nambae</i>
VP1197	絶滅危惧II類 (VU)	ナベクラザゼンソウ	<i>Symplocarpus nabekuraensis</i>
VP1198	絶滅危惧II類 (VU)	マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassiiifolia</i>
VP1199	絶滅危惧II類 (VU)	マルミスブタ	<i>Blyxa aubertii</i>
VP1200	絶滅危惧II類 (VU)	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i>
VP1201	絶滅危惧II類 (VU)	トゲウミヒルモ	<i>Halophila decipiens</i>
VP1202	絶滅危惧II類 (VU)	トリゲモ	<i>Najas minor</i>
VP1203	絶滅危惧II類 (VU)	イトイバラモ	<i>Najas yezoensis</i>
VP1204	絶滅危惧II類 (VU)	ヒラモ	<i>Vallisneria natans</i> var. <i>higoensis</i>
VP1205	絶滅危惧II類 (VU)	ホソバノシバナ	<i>Triglochin palustris</i>
VP1206	絶滅危惧II類 (VU)	オオアマモ	<i>Zostera asiatica</i>
VP1207	絶滅危惧II類 (VU)	タチアマモ	<i>Zostera caulescens</i>
VP1208	絶滅危惧II類 (VU)	ホソバヒルムシロ	<i>Potamogeton alpinus</i>
VP1209	絶滅危惧II類 (VU)	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i>
VP1210	絶滅危惧II類 (VU)	ツツイトモ	<i>Potamogeton pusillus</i>
VP1211	絶滅危惧II類 (VU)	ササエビモ	<i>Potamogeton x nitens</i>
VP1212	絶滅危惧II類 (VU)	イトクズモ	<i>Zannichellia palustris</i>
VP1213	絶滅危惧II類 (VU)	オゼソウ	<i>Japonolirion osense</i>
VP1214	絶滅危惧II類 (VU)	キリシマシャクジョウ	<i>Burmannia nepalensis</i>
VP1215	絶滅危惧II類 (VU)	イズドコロ	<i>Dioscorea izuensis</i>
VP1216	絶滅危惧II類 (VU)	スズフリホンゴウソウ	<i>Sciaphila ramosa</i>
VP1217	絶滅危惧II類 (VU)	ウエマツソウ	<i>Sciaphila secundiflora</i>
VP1218	絶滅危惧II類 (VU)	リシリソウ	<i>Anticlea sibirica</i>
VP1219	絶滅危惧II類 (VU)	アズマシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>hisauchiana</i>
VP1220	絶滅危惧II類 (VU)	クロヒメシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>kurohimensis</i>
VP1221	絶滅危惧II類 (VU)	ヤクシマシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var.

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
			<i>yakusimensis</i>
VP1222	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>koidzumiana</i>
VP1223	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	コショウジョウバカマ	<i>Heloniopsis kawanoi</i>
VP1224	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	オオシロショウジョウバカマ	<i>Heloniopsis leucantha</i>
VP1225	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	コジマエンレイソウ	<i>Trillium smallii</i> var. <i>smallii</i>
VP1226	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	シラオイエンレイソウ	<i>Trillium x hague</i>
VP1227	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ミカワバイケイソウ	<i>Veratrum stamineum</i> var. <i>micranthum</i>
VP1228	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	アマミヒメカカラ	<i>Smilax amamiana</i>
VP1229	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	トカラサンキライ	<i>Smilax fui</i>
VP1230	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ヒロハノアマナ	<i>Amana erythronioides</i>
VP1231	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	イズモコバイモ	<i>Fritillaria ayakoana</i>
VP1232	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ミノコバイモ	<i>Fritillaria japonica</i>
VP1233	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	アワコバイモ	<i>Fritillaria muraiana</i>
VP1234	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	エゾヒメアマナ	<i>Gagea vaginata</i>
VP1235	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ノヒメユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>callosum</i>
VP1236	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ミヤマスカシユリ	<i>Lilium maculatum</i> var. <i>bukusanense</i>
VP1237	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	タキユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>clivorum</i>
VP1238	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	カノコユリ	<i>Lilium speciosum</i> var. <i>speciosum</i>
VP1239	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	キバナノホトギス	<i>Tricyrtis flava</i>
VP1240	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	台湾ノホトギス	<i>Tricyrtis formosana</i>
VP1241	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ジョウロウホトギス	<i>Tricyrtis macrantha</i>
VP1242	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	キイジョウロウホトギス	<i>Tricyrtis macranthopsis</i>
VP1243	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	オガサワラシコウラン	<i>Bulbophyllum boninense</i>
VP1244	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ダルマエビネ	<i>Calanthe alismifolia</i>
VP1245	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	アサヒエビネ	<i>Calanthe hattorii</i>
VP1246	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	レンギョウエビネ	<i>Calanthe lyroglossa</i>
VP1247	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	オナガエビネ	<i>Calanthe masuca</i>
VP1248	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>
VP1249	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ナツエビネ	<i>Calanthe puberula</i> var. <i>puberula</i>
VP1250	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	キエビネ	<i>Calanthe sieboldii</i>
VP1251	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i>
VP1252	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ツルラン	<i>Calanthe triplicata</i>
VP1253	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ヒメホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>bulbosa</i>
VP1254	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	クゲヌマラン	<i>Cephalanthera longifolia</i>
VP1255	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ヒメノヤガラ	<i>Chamaegastrodia sikokiana</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1256	絶滅危惧II類 (VU)	アカバシスラン	<i>Cheirostylis liukuensis</i>
VP1257	絶滅危惧II類 (VU)	オサラン	<i>Conchidium japonicum</i>
VP1258	絶滅危惧II類 (VU)	バイケイラン	<i>Corymborkis veratrifolia</i>
VP1259	絶滅危惧II類 (VU)	トケンラン	<i>Cremastra unguiculata</i>
VP1260	絶滅危惧II類 (VU)	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i>
VP1261	絶滅危惧II類 (VU)	ナギラン	<i>Cymbidium nagifolium</i>
VP1262	絶滅危惧II類 (VU)	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i> var. <i>japonicum</i>
VP1263	絶滅危惧II類 (VU)	アツモリソウ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>speciosum</i>
VP1264	絶滅危惧II類 (VU)	キバナノアツモリソウ	<i>Cypripedium yatabeanum</i>
VP1265	絶滅危惧II類 (VU)	キバナノセッコク	<i>Dendrobium tosaense</i>
VP1266	絶滅危惧II類 (VU)	ハマカキラン	<i>Epipactis papillosa</i> var. <i>sayekiana</i>
VP1267	絶滅危惧II類 (VU)	イモネヤガラ	<i>Eulophia zollingeri</i>
VP1268	絶滅危惧II類 (VU)	カシノキラン	<i>Gastrochilus japonicus</i>
VP1269	絶滅危惧II類 (VU)	マツラン	<i>Gastrochilus matsuran</i>
VP1270	絶滅危惧II類 (VU)	モミラン	<i>Gastrochilus toramanus</i>
VP1271	絶滅危惧II類 (VU)	ヌカヅキヤツシロラン	<i>Gastrodia flexistylodes</i>
VP1272	絶滅危惧II類 (VU)	コンジキヤガラ	<i>Gastrodia javanica</i>
VP1273	絶滅危惧II類 (VU)	ハルザキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>
VP1274	絶滅危惧II類 (VU)	ヤンバルヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponicoides</i>
VP1275	絶滅危惧II類 (VU)	タケシマヤツシロラン	<i>Gastrodia takeshimensis</i>
VP1276	絶滅危惧II類 (VU)	ナンバンキンギンソウ	<i>Goodyera rubicunda</i>
VP1277	絶滅危惧II類 (VU)	シマシスラン	<i>Goodyera viridiflora</i>
VP1278	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメミズトンボ	<i>Habenaria yezoensis</i> var. <i>yezoensis</i>
VP1279	絶滅危惧II類 (VU)	ヒナチドリ	<i>Hemipilia chidori</i>
VP1280	絶滅危惧II類 (VU)	ヒナラン	<i>Hemipilia gracilis</i>
VP1281	絶滅危惧II類 (VU)	コアニチドリ	<i>Hemipilia kinoshitae</i>
VP1282	絶滅危惧II類 (VU)	オキナワチドリ	<i>Hemipilia lepida</i>
VP1283	絶滅危惧II類 (VU)	ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i>
VP1284	絶滅危惧II類 (VU)	クロムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>nigricans</i>
VP1285	絶滅危惧II類 (VU)	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i>
VP1286	絶滅危惧II類 (VU)	チケイラン	<i>Liparis bootanensis</i>
VP1287	絶滅危惧II類 (VU)	シマササバラン	<i>Liparis formosana</i> var. <i>hachijoensis</i>
VP1288	絶滅危惧II類 (VU)	フガクスズムシソウ	<i>Liparis fujisanensis</i>
VP1289	絶滅危惧II類 (VU)	ササバラン	<i>Liparis odorata</i>
VP1290	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメムヨウラン	<i>Neottia acuminata</i>
VP1291	絶滅危惧II類 (VU)	サカネラン	<i>Neottia papilligera</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1292	絶滅危惧II類 (VU)	ムカデラン	<i>Pelatantheria scolopendrifolia</i>
VP1293	絶滅危惧II類 (VU)	ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i>
VP1294	絶滅危惧II類 (VU)	カクチョウラン	<i>Phaius tankervilleae</i>
VP1295	絶滅危惧II類 (VU)	タカネトンボ	<i>Platanthera chorisiana</i> var. <i>chorisiana</i>
VP1296	絶滅危惧II類 (VU)	シロウマチドリ	<i>Platanthera convallariifolia</i>
VP1297	絶滅危惧II類 (VU)	ヒロハトンボソウ	<i>Platanthera fuscescens</i>
VP1298	絶滅危惧II類 (VU)	ヤマサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>oreades</i>
VP1299	絶滅危惧II類 (VU)	ナガバトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>linearifolia</i>
VP1300	絶滅危惧II類 (VU)	ヤクシマアカシスラン	<i>Rhomboda yakusimensis</i>
VP1301	絶滅危惧II類 (VU)	コウトウシラン	<i>Spathoglottis plicata</i>
VP1302	絶滅危惧II類 (VU)	イリオモテムヨウラン	<i>Stereosandra javanica</i>
VP1303	絶滅危惧II類 (VU)	コオロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i>
VP1304	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメトケンラン	<i>Tainia laxiflora</i>
VP1305	絶滅危惧II類 (VU)	ムニンキヌラン	<i>Zeuxine boninensis</i>
VP1306	絶滅危惧II類 (VU)	エヒメアヤメ	<i>Iris rossii</i>
VP1307	絶滅危惧II類 (VU)	ステゴビル	<i>Allium inutile</i>
VP1308	絶滅危惧II類 (VU)	キイトラッキョウ	<i>Allium kiiense</i>
VP1309	絶滅危惧II類 (VU)	イズアサツキ	<i>Allium schoenoprasum</i> var. <i>idzuense</i>
VP1310	絶滅危惧II類 (VU)	ハマタマボウキ	<i>Asparagus kiusianus</i>
VP1311	絶滅危惧II類 (VU)	ザラツキギボウシ	<i>Hosta kikutii</i> var. <i>scabrinervia</i>
VP1312	絶滅危惧II類 (VU)	カムロギボウシ	<i>Hosta longipedicellata</i>
VP1313	絶滅危惧II類 (VU)	サムカゼギボウシ	<i>Hosta samukazemontana</i>
VP1314	絶滅危惧II類 (VU)	タキミナズキギボウシ	<i>Hosta takiminazukiflora</i> subsp. <i>takiminazukiflora</i>
VP1315	絶滅危惧II類 (VU)	ナガサキギボウシ	<i>Hosta tsushimensis</i> var. <i>tibae</i>
VP1316	絶滅危惧II類 (VU)	ノヤシ	<i>Clinostigma savoryanum</i>
VP1317	絶滅危惧II類 (VU)	サルゾコミョウガ	<i>Polia secundiflora</i>
VP1318	絶滅危惧II類 (VU)	アオイカズラ	<i>Streptolirion lineare</i>
VP1319	絶滅危惧II類 (VU)	ホソバウキミクリ	<i>Sparganium angustifolium</i>
VP1320	絶滅危惧II類 (VU)	オオミクリ	<i>Sparganium eurycarpum</i> subsp. <i>coreanum</i>
VP1321	絶滅危惧II類 (VU)	ウキミクリ	<i>Sparganium gramineum</i>
VP1322	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメミクリ	<i>Sparganium subglobosum</i>
VP1323	絶滅危惧II類 (VU)	クロイヌノヒゲモドキ	<i>Eriocaulon atroides</i>
VP1324	絶滅危惧II類 (VU)	ヤマトホシクサ	<i>Eriocaulon japonicum</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1325	絶滅危惧II類 (VU)	クシロホシクサ	<i>Eriocaulon kusiroense</i>
VP1326	絶滅危惧II類 (VU)	ゴマシオホシクサ	<i>Eriocaulon nepalense</i>
VP1327	絶滅危惧II類 (VU)	シラタマホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i>
VP1328	絶滅危惧II類 (VU)	シロエゾホシクサ	<i>Eriocaulon pallescens</i>
VP1329	絶滅危惧II類 (VU)	カラフトホシクサ	<i>Eriocaulon sachalinense</i>
VP1330	絶滅危惧II類 (VU)	アズマホシクサ	<i>Eriocaulon takae</i>
VP1331	絶滅危惧II類 (VU)	クロコウガイゼキショウ	<i>Juncus castaneus</i>
VP1332	絶滅危惧II類 (VU)	セキショウイ	<i>Juncus covillei</i>
VP1333	絶滅危惧II類 (VU)	オオサンカクイ	<i>Actinoscirpus grossus</i>
VP1334	絶滅危惧II類 (VU)	ホザキマスキサ	<i>Carex angustalata</i>
VP1335	絶滅危惧II類 (VU)	アポイタヌキラン	<i>Carex apoiensis</i>
VP1336	絶滅危惧II類 (VU)	ワンドスゲ	<i>Carex argyi</i>
VP1337	絶滅危惧II類 (VU)	タルマイスゲ	<i>Carex buxbaumii</i>
VP1338	絶滅危惧II類 (VU)	ジョウロウスゲ	<i>Carex capricornis</i>
VP1339	絶滅危惧II類 (VU)	ヌマアゼスゲ	<i>Carex cinerascens</i>
VP1340	絶滅危惧II類 (VU)	トカラカンスゲ	<i>Carex conica</i> var. <i>scabrocaudata</i>
VP1341	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメアゼスゲ	<i>Carex eleusinoides</i>
VP1342	絶滅危惧II類 (VU)	オクタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> var. <i>kuzakaiensis</i>
VP1343	絶滅危惧II類 (VU)	タイワンスゲ	<i>Carex formosensis</i>
VP1344	絶滅危惧II類 (VU)	サヤマスゲ	<i>Carex hashimotoi</i>
VP1345	絶滅危惧II類 (VU)	セトウチスゲ	<i>Carex kagoshimensis</i>
VP1346	絶滅危惧II類 (VU)	イトナルコスゲ	<i>Carex laxa</i>
VP1347	絶滅危惧II類 (VU)	ムセンスゲ	<i>Carex livida</i>
VP1348	絶滅危惧II類 (VU)	アカンスゲ	<i>Carex loliacea</i>
VP1349	絶滅危惧II類 (VU)	ヌマクロボスゲ	<i>Carex meyeriana</i>
VP1350	絶滅危惧II類 (VU)	キシウナキリスゲ	<i>Carex nachiana</i>
VP1351	絶滅危惧II類 (VU)	ミヤマイワスゲ	<i>Carex odontostoma</i>
VP1352	絶滅危惧II類 (VU)	スルガスゲ	<i>Carex omurae</i>
VP1353	絶滅危惧II類 (VU)	ダケスゲ	<i>Carex paupercula</i>
VP1354	絶滅危惧II類 (VU)	ハシナガカンスゲ	<i>Carex phaeodon</i>
VP1355	絶滅危惧II類 (VU)	アカネスゲ	<i>Carex poculisquama</i>
VP1356	絶滅危惧II類 (VU)	シロホンモンジスゲ	<i>Carex polyschoena</i>
VP1357	絶滅危惧II類 (VU)	アカスゲ	<i>Carex quadriflora</i>
VP1358	絶滅危惧II類 (VU)	イトヒキスゲ	<i>Carex remotiuscula</i>
VP1359	絶滅危惧II類 (VU)	カラフトカサスゲ	<i>Carex rostrata</i>
VP1360	絶滅危惧II類 (VU)	シュミツスゲ	<i>Carex schmidtii</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1361	絶滅危惧II類 (VU)	シコタンスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>scabrinervia</i>
VP1362	絶滅危惧II類 (VU)	タカネナルコ	<i>Carex siroumensis</i>
VP1363	絶滅危惧II類 (VU)	ミヤケスゲ	<i>Carex subumbellata</i> var. <i>subumbellata</i>
VP1364	絶滅危惧II類 (VU)	タイホクスゲ	<i>Carex taihokuensis</i>
VP1365	絶滅危惧II類 (VU)	ノスゲ	<i>Carex tashiroana</i>
VP1366	絶滅危惧II類 (VU)	オノエスゲ	<i>Carex tenuiformis</i>
VP1367	絶滅危惧II類 (VU)	フサカンスゲ	<i>Carex tokarensis</i>
VP1368	絶滅危惧II類 (VU)	セキモンスゲ	<i>Carex toyoshimae</i>
VP1369	絶滅危惧II類 (VU)	ホロムイクグ	<i>Carex tsuishikarensis</i>
VP1370	絶滅危惧II類 (VU)	イワヤスゲ	<i>Carex tumidula</i>
VP1371	絶滅危惧II類 (VU)	ヌイオスゲ	<i>Carex vanheurckii</i>
VP1372	絶滅危惧II類 (VU)	ハウキガヤツリ	<i>Cyperus distans</i>
VP1373	絶滅危惧II類 (VU)	カンエンガヤツリ	<i>Cyperus exaltatus</i> var. <i>iwasakii</i>
VP1374	絶滅危惧II類 (VU)	ツクシオオガヤツリ	<i>Cyperus ohwii</i>
VP1375	絶滅危惧II類 (VU)	カガシラ	<i>Diplacrum caricinum</i>
VP1376	絶滅危惧II類 (VU)	チシママツバイ	<i>Eleocharis acicularis</i> var. <i>acicularis</i>
VP1377	絶滅危惧II類 (VU)	スジヌマハリイ	<i>Eleocharis equisetiformis</i>
VP1378	絶滅危惧II類 (VU)	シロミノハリイ	<i>Eleocharis margaritacea</i>
VP1379	絶滅危惧II類 (VU)	コツブヌマハリイ	<i>Eleocharis parvinux</i>
VP1380	絶滅危惧II類 (VU)	チャボイ	<i>Eleocharis parvula</i>
VP1381	絶滅危惧II類 (VU)	ツクシテンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> subsp. <i>podocarpa</i>
VP1382	絶滅危惧II類 (VU)	オノエテンツキ	<i>Fimbristylis fusca</i>
VP1383	絶滅危惧II類 (VU)	ムニンテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>boninensis</i>
VP1384	絶滅危惧II類 (VU)	ノハラテンツキ	<i>Fimbristylis pierotii</i>
VP1385	絶滅危惧II類 (VU)	トネテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>tonensis</i>
VP1386	絶滅危惧II類 (VU)	シマイガクサ	<i>Rhynchospora boninensis</i>
VP1387	絶滅危惧II類 (VU)	ハタベカンガレイ	<i>Schoenoplectiella gemmifera</i>
VP1388	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメカンガレイ	<i>Schoenoplectiella mucronata</i> var. <i>mucronata</i>
VP1389	絶滅危惧II類 (VU)	タカネクロスゲ	<i>Scirpus maximowiczii</i>
VP1390	絶滅危惧II類 (VU)	ミカワシンジュガヤ	<i>Scleria mikawana</i>
VP1391	絶滅危惧II類 (VU)	クロミノシンジュガヤ	<i>Scleria sumatrensis</i>
VP1392	絶滅危惧II類 (VU)	ユキクラヌカボ	<i>Agrostis hideoi</i>
VP1393	絶滅危惧II類 (VU)	ミヤマハルガヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i> subsp. <i>nipponicum</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1394	絶滅危惧II類 (VU)	マツバシバ	<i>Aristida boninensis</i>
VP1395	絶滅危惧II類 (VU)	オオマツバシバ	<i>Aristida takeoi</i>
VP1396	絶滅危惧II類 (VU)	ヤクシマノガリヤス	<i>Calamagrostis masamunei</i>
VP1397	絶滅危惧II類 (VU)	ザラツキヒナガリヤス	<i>Calamagrostis nana</i> subsp. <i>hayachinensis</i>
VP1398	絶滅危惧II類 (VU)	ツクシガヤ	<i>Chikusichloa aquatica</i>
VP1399	絶滅危惧II類 (VU)	イリオモテガヤ	<i>Chikusichloa brachyanthera</i>
VP1400	絶滅危惧II類 (VU)	ミズタカモジ	<i>Elymus humidus</i>
VP1401	絶滅危惧II類 (VU)	オニカモジ	<i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>tsukushiensis</i>
VP1402	絶滅危惧II類 (VU)	イゼナガヤ	<i>Eriachne armittii</i>
VP1403	絶滅危惧II類 (VU)	ウンヌケ	<i>Eulalia speciosa</i>
VP1404	絶滅危惧II類 (VU)	チイサンウシノケグサ	<i>Festuca ovina</i> var. <i>chiisanensis</i>
VP1405	絶滅危惧II類 (VU)	タカネソモソモ	<i>Festuca takedana</i>
VP1406	絶滅危惧II類 (VU)	アオシバ	<i>Garnotia acutigluma</i>
VP1407	絶滅危惧II類 (VU)	アカヒゲガヤ	<i>Heteropogon contortus</i>
VP1408	絶滅危惧II類 (VU)	オキナワミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i> var. <i>ryukyuensis</i>
VP1409	絶滅危惧II類 (VU)	タカネタチイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>glauca</i>
VP1410	絶滅危惧II類 (VU)	ミヤマカニツリ	<i>Trisetum koidzumianum</i>
VP1411	絶滅危惧II類 (VU)	リシリカニツリ	<i>Trisetum spicatum</i> subsp. <i>alaskanum</i>
VP1412	絶滅危惧II類 (VU)	ヒロードキビ	<i>Urochloa villosa</i>
VP1413	絶滅危惧II類 (VU)	チドリケマン	<i>Corydalis kushiroensis</i>
VP1414	絶滅危惧II類 (VU)	サイコクイカリソウ	<i>Epimedium diphyllum</i> subsp. <i>kitamuranum</i>
VP1415	絶滅危惧II類 (VU)	クモイイカリソウ	<i>Epimedium koreanum</i> var. <i>coelestre</i>
VP1416	絶滅危惧II類 (VU)	ガッサントリカブト	<i>Aconitum gassanense</i>
VP1417	絶滅危惧II類 (VU)	センウズモドキ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>iwatekense</i>
VP1418	絶滅危惧II類 (VU)	マシケレイジンソウ	<i>Aconitum mashikense</i>
VP1419	絶滅危惧II類 (VU)	キタザワブシ	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>micranthum</i>
VP1420	絶滅危惧II類 (VU)	ミヨウコウトリカブト	<i>Aconitum nipponicum</i> subsp. <i>nipponicum</i> var. <i>septemcarpum</i>
VP1421	絶滅危惧II類 (VU)	ワガトリカブト	<i>Aconitum okuyamae</i> var. <i>wagaense</i>
VP1422	絶滅危惧II類 (VU)	タカネトリカブト	<i>Aconitum zigzag</i> subsp. <i>zigzag</i>
VP1423	絶滅危惧II類 (VU)	シコクフクジュソウ	<i>Adonis shikokuensis</i>
VP1424	絶滅危惧II類 (VU)	ウラホロイチゲ	<i>Anemone amurensis</i>
VP1425	絶滅危惧II類 (VU)	キタダケソウ	<i>Callianthemum hondoense</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1426	絶滅危惧II類 (VU)	クロバナハンショウヅル	<i>Clematis fusca</i> var. <i>fusca</i>
VP1427	絶滅危惧II類 (VU)	ムニンセンニンソウ	<i>Clematis terniflora</i> var. <i>boninensis</i>
VP1428	絶滅危惧II類 (VU)	キバナサバノオ	<i>Dichocarpum pterigionocaudatum</i>
VP1429	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメキンポウゲ	<i>Halerpestes kawakamii</i>
VP1430	絶滅危惧II類 (VU)	コキツネノボタン	<i>Ranunculus chinensis</i>
VP1431	絶滅危惧II類 (VU)	ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>ternatus</i>
VP1432	絶滅危惧II類 (VU)	ダイセンカラマツ	<i>Thalictrum aquilegiifolium</i> var. <i>daisenense</i>
VP1433	絶滅危惧II類 (VU)	ハルカラマツ	<i>Thalictrum baicalense</i>
VP1434	絶滅危惧II類 (VU)	アポイカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>apoiense</i>
VP1435	絶滅危惧II類 (VU)	チャボカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>glabrescens</i>
VP1436	絶滅危惧II類 (VU)	ナガバカラマツ	<i>Thalictrum integrilobum</i>
VP1437	絶滅危惧II類 (VU)	コゴメカラマツ	<i>Thalictrum microspermum</i>
VP1438	絶滅危惧II類 (VU)	イシヅチカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>yamamotoi</i>
VP1439	絶滅危惧II類 (VU)	イワカラマツ	<i>Thalictrum sekimotoanum</i>
VP1440	絶滅危惧II類 (VU)	ノカラマツ	<i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>
VP1441	絶滅危惧II類 (VU)	ヤクシマカラマツ	<i>Thalictrum tuberiferum</i> var. <i>yakusimense</i>
VP1442	絶滅危惧II類 (VU)	サクノキ	<i>Meliosma arnottiana</i> subsp. <i>oldhamii</i> var. <i>hachijoensis</i>
VP1443	絶滅危惧II類 (VU)	オキナワツゲ	<i>Buxus liukiuensis</i>
VP1444	絶滅危惧II類 (VU)	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paeonia obovata</i>
VP1445	絶滅危惧II類 (VU)	トカチスグリ	<i>Ribes triste</i>
VP1446	絶滅危惧II類 (VU)	マルバチャルメルソウ	<i>Mitella nuda</i>
VP1447	絶滅危惧II類 (VU)	ワタナベソウ	<i>Peltoboykinia watanabei</i>
VP1448	絶滅危惧II類 (VU)	センダイソウ	<i>Saxifraga sendaica</i>
VP1449	絶滅危惧II類 (VU)	モミジバセンダイソウ	<i>Saxifraga sendaica</i> f. <i>laciniata</i>
VP1450	絶滅危惧II類 (VU)	ヒダカミセバヤ	<i>Hylotelephium cauticola</i>
VP1451	絶滅危惧II類 (VU)	ツガルミセバヤ	<i>Hylotelephium ussuriense</i> var. <i>tsugaruense</i>
VP1452	絶滅危惧II類 (VU)	チャボツメレンゲ	<i>Meterostachys sikokianus</i>
VP1453	絶滅危惧II類 (VU)	コモチレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>boehmeri</i>
VP1454	絶滅危惧II類 (VU)	イワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>iwarenge</i>
VP1455	絶滅危惧II類 (VU)	ゲンカイイワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>malacophylla</i>
VP1456	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメキリンソウ	<i>Phedimus sikokianus</i>
VP1457	絶滅危惧II類 (VU)	ムコジママンネングサ	<i>Sedum mukojimense</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1458	絶滅危惧II類 (VU)	ウンゼンマンネングサ	<i>Sedum polytrichoides</i> subsp. <i>polytrichoides</i>
VP1459	絶滅危惧II類 (VU)	ヤハズマンネングサ	<i>Sedum tosaense</i>
VP1460	絶滅危惧II類 (VU)	オグラノフサモ	<i>Myriophyllum oguraense</i>
VP1461	絶滅危惧II類 (VU)	リシリオウギ	<i>Astragalus frigidus</i> subsp. <i>parviflorus</i>
VP1462	絶滅危惧II類 (VU)	ビロードヒメクズ	<i>Cajanus scarabaeoides</i>
VP1463	絶滅危惧II類 (VU)	ヒルギカズラ	<i>Dalbergia candenatensis</i>
VP1464	絶滅危惧II類 (VU)	ミヤコジマツルマメ	<i>Glycine koidzumii</i>
VP1465	絶滅危惧II類 (VU)	チョウセンキハギ	<i>Lespedeza maximowiczii</i>
VP1466	絶滅危惧II類 (VU)	クロバナキハギ	<i>Lespedeza melanantha</i>
VP1467	絶滅危惧II類 (VU)	リシリゲンゲ	<i>Oxytropis campestris</i> subsp. <i>rishiriensis</i>
VP1468	絶滅危惧II類 (VU)	ヒダカミヤマノエンドウ	<i>Oxytropis retusa</i>
VP1469	絶滅危惧II類 (VU)	イソフジ	<i>Sophora tomentosa</i>
VP1470	絶滅危惧II類 (VU)	コチョウインゲン	<i>Vigna adenantha</i>
VP1471	絶滅危惧II類 (VU)	チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i>
VP1472	絶滅危惧II類 (VU)	アポイヤマブキシウマ	<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>subrotundus</i>
VP1473	絶滅危惧II類 (VU)	シコクシモツケソウ	<i>Filipendula tsuguwoi</i>
VP1474	絶滅危惧II類 (VU)	ツチグリ	<i>Potentilla discolor</i>
VP1475	絶滅危惧II類 (VU)	キンロバイ	<i>Potentilla fruticosa</i> var. <i>rigida</i>
VP1476	絶滅危惧II類 (VU)	メアカンキンバイ	<i>Potentilla miyabei</i>
VP1477	絶滅危惧II類 (VU)	ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla niponica</i>
VP1478	絶滅危惧II類 (VU)	ウラジロキンバイ	<i>Potentilla nivea</i> var. <i>camtschatica</i>
VP1479	絶滅危惧II類 (VU)	アオナシ	<i>Pyrus ussuriensis</i> var. <i>hondoensis</i>
VP1480	絶滅危惧II類 (VU)	シマバライチゴ	<i>Rubus lambertianus</i>
VP1481	絶滅危惧II類 (VU)	台湾ウラジロイチゴ	<i>Rubus swinhoei</i>
VP1482	絶滅危惧II類 (VU)	ナンブトウチソウ	<i>Sanguisorba obtusa</i>
VP1483	絶滅危惧II類 (VU)	エゾシモツケ	<i>Spiraea media</i> var. <i>sericea</i>
VP1484	絶滅危惧II類 (VU)	クマヤマグミ	<i>Elaeagnus epitricha</i>
VP1485	絶滅危惧II類 (VU)	ヤエヤマハマナツメ	<i>Colubrina asiatica</i>
VP1486	絶滅危惧II類 (VU)	タチゲヒカゲミズ	<i>Parietaria micrantha</i> var. <i>coreana</i>
VP1487	絶滅危惧II類 (VU)	アラゲサンショウソウ	<i>Pellionia brevifolia</i>
VP1488	絶滅危惧II類 (VU)	ナガバサンショウソウ	<i>Pellionia yosiei</i>
VP1489	絶滅危惧II類 (VU)	ソハヤキミズ	<i>Pilea swinglei</i>
VP1490	絶滅危惧II類 (VU)	ハナガガシ	<i>Quercus hondae</i>
VP1491	絶滅危惧II類 (VU)	チチブミネバリ	<i>Betula chichibuensis</i>
VP1492	絶滅危惧II類 (VU)	ヤチカンバ	<i>Betula ovalifolia</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1493	絶滅危惧II類 (VU)	コウトウシュウカイドウ	<i>Begonia fenicis</i>
VP1494	絶滅危惧II類 (VU)	リュウキュウツルマサキ	<i>Euonymus austroliukiensis</i>
VP1495	絶滅危惧II類 (VU)	ヒゼンマユミ	<i>Euonymus chibae</i>
VP1496	絶滅危惧II類 (VU)	アオツリバナ	<i>Euonymus yakushimensis</i>
VP1497	絶滅危惧II類 (VU)	オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i>
VP1498	絶滅危惧II類 (VU)	ハギクソウ	<i>Euphorbia octoradiata</i>
VP1499	絶滅危惧II類 (VU)	フジタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>watanabei</i>
VP1500	絶滅危惧II類 (VU)	ダイトウセイシボク	<i>Excoecaria formosana</i> var. <i>daitoinsularis</i>
VP1501	絶滅危惧II類 (VU)	ハツバキ	<i>Drypetes integerrima</i>
VP1502	絶滅危惧II類 (VU)	ヒダカミネヤナギ	<i>Salix nakamurana</i> subsp. <i>kurilensis</i>
VP1503	絶滅危惧II類 (VU)	コマイワヤナギ	<i>Salix rupifraga</i>
VP1504	絶滅危惧II類 (VU)	トゲイヌツゲ	<i>Scolopia oldhamii</i>
VP1505	絶滅危惧II類 (VU)	ジンヨウキスミレ	<i>Viola alliariifolia</i>
VP1506	絶滅危惧II類 (VU)	イソスミレ	<i>Viola grayi</i>
VP1507	絶滅危惧II類 (VU)	シレトコスミレ	<i>Viola kitamiana</i>
VP1508	絶滅危惧II類 (VU)	ホソバシロスミレ	<i>Viola patrinii</i> var. <i>angustifolia</i>
VP1509	絶滅危惧II類 (VU)	タチスミレ	<i>Viola raddeana</i>
VP1510	絶滅危惧II類 (VU)	シソバキスミレ	<i>Viola yubariana</i>
VP1511	絶滅危惧II類 (VU)	ウスカワゴロモ	<i>Hydrobryum floribundum</i>
VP1512	絶滅危惧II類 (VU)	カワゴロモ	<i>Hydrobryum japonicum</i>
VP1513	絶滅危惧II類 (VU)	ツキヌキオトギリ	<i>Hypericum sampsonii</i>
VP1514	絶滅危惧II類 (VU)	エゾオトギリ	<i>Hypericum yezoense</i>
VP1515	絶滅危惧II類 (VU)	ダイセツヒナオトギリ	<i>Hypericum yojiroanum</i>
VP1516	絶滅危惧II類 (VU)	ツクシフウロ	<i>Geranium soboliferum</i> var. <i>kiusianum</i>
VP1517	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメキカシグサ	<i>Rotala elatinomorpha</i>
VP1518	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>
VP1519	絶滅危惧II類 (VU)	エゾミズタマソウ	<i>Circaea canadensis</i> subsp. <i>quadrisulcata</i>
VP1520	絶滅危惧II類 (VU)	オオアカバナ	<i>Epilobium hirsutum</i>
VP1521	絶滅危惧II類 (VU)	トダイアカバナ	<i>Epilobium platystigmatosum</i>
VP1522	絶滅危惧II類 (VU)	ケミズキンバイ	<i>Ludwigia adscendens</i>
VP1523	絶滅危惧II類 (VU)	ミズキンバイ	<i>Ludwigia peploides</i> subsp. <i>stipulacea</i>
VP1524	絶滅危惧II類 (VU)	コバノミヤマノボタン	<i>Bredia okinawensis</i>
VP1525	絶滅危惧II類 (VU)	イオウノボタン	<i>Melastoma candidum</i> var. <i>alessandrense</i>
VP1526	絶滅危惧II類 (VU)	クスノハカエデ	<i>Acer itoanum</i>
VP1527	絶滅危惧II類 (VU)	クロビイタヤ	<i>Acer miyabei</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1528	絶滅危惧II類 (VU)	ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i>
VP1529	絶滅危惧II類 (VU)	ムニンゴシュユ	<i>Melicope nishimurae</i>
VP1530	絶滅危惧II類 (VU)	ヤクシマカラスザンショウ	<i>Zanthoxylum yakumontanum</i>
VP1531	絶滅危惧II類 (VU)	チョウセンナニワズ	<i>Daphne koreana</i>
VP1532	絶滅危惧II類 (VU)	シャクナンガンピ	<i>Daphnimorpha kudoii</i>
VP1533	絶滅危惧II類 (VU)	ミヤマガンピ	<i>Diplomorpha albiflora</i>
VP1534	絶滅危惧II類 (VU)	サクラガンピ	<i>Diplomorpha pauciflora</i> var. <i>pauciflora</i>
VP1535	絶滅危惧II類 (VU)	タチスズシロソウ	<i>Arabidopsis kamchatica</i> subsp. <i>kawasakiana</i>
VP1536	絶滅危惧II類 (VU)	カワチスズシロソウ	<i>Arabis flagellosa</i> var. <i>kawachiensis</i>
VP1537	絶滅危惧II類 (VU)	クモイナズナ	<i>Arabis tanakana</i>
VP1538	絶滅危惧II類 (VU)	クモマナズナ	<i>Draba sakuraii</i> var. <i>nipponica</i>
VP1539	絶滅危惧II類 (VU)	ミギワガラシ	<i>Rorippa globosa</i>
VP1540	絶滅危惧II類 (VU)	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>
VP1541	絶滅危惧II類 (VU)	アマクサツチトリモチ	<i>Balanophora subcupularis</i>
VP1542	絶滅危惧II類 (VU)	イソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>arbusculum</i>
VP1543	絶滅危惧II類 (VU)	キバナイソマツ	<i>Limonium wrightii</i> var. <i>wrightii</i>
VP1544	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメイワタデ	<i>Aconogonon ajanense</i>
VP1545	絶滅危惧II類 (VU)	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>
VP1546	絶滅危惧II類 (VU)	カラフトノダイオウ	<i>Rumex gmelinii</i>
VP1547	絶滅危惧II類 (VU)	ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>
VP1548	絶滅危惧II類 (VU)	ナガバノモウセンゴケ	<i>Drosera anglica</i>
VP1549	絶滅危惧II類 (VU)	ナガバノイシモチソウ	<i>Drosera toyoakensis</i>
VP1550	絶滅危惧II類 (VU)	カトウハコベ	<i>Arenaria katoana</i> var. <i>katoana</i>
VP1551	絶滅危惧II類 (VU)	チョウカイフスマ	<i>Arenaria merckii</i> var. <i>chokaiensis</i>
VP1552	絶滅危惧II類 (VU)	アキヨシミナグサ	<i>Cerastium akiyoshiense</i>
VP1553	絶滅危惧II類 (VU)	ミツモリミナグサ	<i>Cerastium arvense</i> subsp. <i>strictum</i> var. <i>mitsumorense</i>
VP1554	絶滅危惧II類 (VU)	タガソデソウ	<i>Cerastium pauciflorum</i> var. <i>amurense</i>
VP1555	絶滅危惧II類 (VU)	タカネミナグサ	<i>Cerastium rubescens</i> var. <i>koreanum</i>
VP1556	絶滅危惧II類 (VU)	タチハコベ	<i>Moehringia trinervia</i>
VP1557	絶滅危惧II類 (VU)	ヒナワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> var. <i>linearifolia</i>
VP1558	絶滅危惧II類 (VU)	ナンブワチガイソウ	<i>Pseudostellaria japonica</i>
VP1559	絶滅危惧II類 (VU)	クシロワチガイソウ	<i>Pseudostellaria sylvatica</i>
VP1560	絶滅危惧II類 (VU)	アオモリマンテマ	<i>Silene aomorenensis</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1561	絶滅危惧II類 (VU)	エゾマンテマ	<i>Silene foliosa</i> var. <i>foliosa</i>
VP1562	絶滅危惧II類 (VU)	オグラセンノウ	<i>Silene kiusiana</i>
VP1563	絶滅危惧II類 (VU)	マツモトセンノウ	<i>Silene sieboldii</i>
VP1564	絶滅危惧II類 (VU)	エンビセンノウ	<i>Silene wilfordii</i>
VP1565	絶滅危惧II類 (VU)	テバコマンテマ	<i>Silene yanoei</i>
VP1566	絶滅危惧II類 (VU)	オオハコベ	<i>Stellaria bungeana</i>
VP1567	絶滅危惧II類 (VU)	ツカモトハコベ	<i>Stellaria hibinoi</i>
VP1568	絶滅危惧II類 (VU)	シコタンハコベ	<i>Stellaria ruscifolia</i>
VP1569	絶滅危惧II類 (VU)	アッケシソウ	<i>Salicornia perennans</i>
VP1570	絶滅危惧II類 (VU)	シチメンソウ	<i>Suaeda japonica</i>
VP1571	絶滅危惧II類 (VU)	ヒロハマツナ	<i>Suaeda malacosperma</i>
VP1572	絶滅危惧II類 (VU)	ヌマハコベ	<i>Montia fontana</i>
VP1573	絶滅危惧II類 (VU)	アマミマツバボタン	<i>Portulaca okinawensis</i> var. <i>amamiensis</i>
VP1574	絶滅危惧II類 (VU)	オキナワマツバボタン	<i>Portulaca okinawensis</i> var. <i>okinawensis</i>
VP1575	絶滅危惧II類 (VU)	マルバケヅメクサ	<i>Portulaca psammotropha</i>
VP1576	絶滅危惧II類 (VU)	オオクサアジサイ	<i>Cardiandra moellendorffii</i>
VP1577	絶滅危惧II類 (VU)	ウメウツギ	<i>Deutzia uniflora</i>
VP1578	絶滅危惧II類 (VU)	ブンゴウツギ	<i>Deutzia zentaroana</i>
VP1579	絶滅危惧II類 (VU)	ヒュウガアジサイ	<i>Hydrangea minamitanii</i>
VP1580	絶滅危惧II類 (VU)	キレンゲショウマ	<i>Kirengeshoma palmata</i>
VP1581	絶滅危惧II類 (VU)	クシロハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>laxiflorum</i> var. <i>paludosum</i>
VP1582	絶滅危惧II類 (VU)	ミヤマハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>nipponicum</i>
VP1583	絶滅危惧II類 (VU)	エゾハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>yezoense</i> var. <i>yezoense</i>
VP1584	絶滅危惧II類 (VU)	マメヒサカキ	<i>Eurya emarginata</i> var. <i>minutissima</i>
VP1585	絶滅危惧II類 (VU)	ノジトラノオ	<i>Lysimachia barystachys</i>
VP1586	絶滅危惧II類 (VU)	サワトラノオ	<i>Lysimachia leucantha</i>
VP1587	絶滅危惧II類 (VU)	ヘツカコナスビ	<i>Lysimachia ohsumiensis</i>
VP1588	絶滅危惧II類 (VU)	シマタイミンタチバナ	<i>Myrsine maximowiczii</i>
VP1589	絶滅危惧II類 (VU)	ミチノコザクラ	<i>Primula cuneifolia</i> var. <i>heterodonta</i>
VP1590	絶滅危惧II類 (VU)	ヒダカイワザクラ	<i>Primula hidakana</i>
VP1591	絶滅危惧II類 (VU)	レブンコザクラ	<i>Primula modesta</i> subsp. <i>modesta</i> var. <i>matsumurae</i>
VP1592	絶滅危惧II類 (VU)	クモイコザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>kitadakensis</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1593	絶滅危惧II類 (VU)	コイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>reinii</i>
VP1594	絶滅危惧II類 (VU)	ソラチコザクラ	<i>Primula sorachiana</i>
VP1595	絶滅危惧II類 (VU)	テシオコザクラ	<i>Primula takedana</i>
VP1596	絶滅危惧II類 (VU)	ミヤマシロバイ	<i>Symplocos sonoharae</i>
VP1597	絶滅危惧II類 (VU)	オオバケエゴノキ	<i>Styrax japonicus</i> var. <i>tomentosa</i>
VP1598	絶滅危惧II類 (VU)	チシマツガザクラ	<i>Bryanthus gmelinii</i>
VP1599	絶滅危惧II類 (VU)	カラフトイチヤクソウ	<i>Pyrola faurieana</i>
VP1600	絶滅危惧II類 (VU)	エゾムラサキツツジ	<i>Rhododendron dauricum</i> var. <i>dauricum</i>
VP1601	絶滅危惧II類 (VU)	ゴヨウザンヨウラク	<i>Rhododendron goyozanense</i>
VP1602	絶滅危惧II類 (VU)	キョウマルシャクナゲ	<i>Rhododendron japonoheptamerum</i> var. <i>kyomaruense</i>
VP1603	絶滅危惧II類 (VU)	アシタカツツジ	<i>Rhododendron komiyamae</i>
VP1604	絶滅危惧II類 (VU)	ヨウラクツツジ	<i>Rhododendron kroniae</i>
VP1605	絶滅危惧II類 (VU)	サカイツツジ	<i>Rhododendron lapponicum</i> subsp. <i>parvifolium</i>
VP1606	絶滅危惧II類 (VU)	ホソバシャクナゲ	<i>Rhododendron makinoi</i>
VP1607	絶滅危惧II類 (VU)	ナンゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i>
VP1608	絶滅危惧II類 (VU)	キリシマミツバツツジ	<i>Rhododendron nudipes</i> var. <i>kirishimense</i>
VP1609	絶滅危惧II類 (VU)	ウラジロミツバツツジ	<i>Rhododendron osuzuyamense</i>
VP1610	絶滅危惧II類 (VU)	シブカワツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>lasiogynum</i>
VP1611	絶滅危惧II類 (VU)	ジングウツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> var. <i>sanctum</i>
VP1612	絶滅危惧II類 (VU)	ケラマツツジ	<i>Rhododendron scabrum</i>
VP1613	絶滅危惧II類 (VU)	ハコネコメツツジ	<i>Rhododendron tsusiophyllum</i>
VP1614	絶滅危惧II類 (VU)	ヤクシマヤマツツジ	<i>Rhododendron yakuinsulare</i>
VP1615	絶滅危惧II類 (VU)	ヤクシマミツバツツジ	<i>Rhododendron yakumontanum</i>
VP1616	絶滅危惧II類 (VU)	ムニンシャシャンボ	<i>Vaccinium boninense</i>
VP1617	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメツルコケモモ	<i>Vaccinium microcarpum</i>
VP1618	絶滅危惧II類 (VU)	アクシバモドキ	<i>Vaccinium yakushimense</i>
VP1619	絶滅危惧II類 (VU)	エゾキヌタソウ	<i>Galium boreale</i> var. <i>kamtschaticum</i>
VP1620	絶滅危惧II類 (VU)	エゾムグラ	<i>Galium manshuricum</i>
VP1621	絶滅危惧II類 (VU)	ヤブムグラ	<i>Galium niewerthii</i>
VP1622	絶滅危惧II類 (VU)	ヤクシマヤマムグラ	<i>Galium pogonanthum</i> var. <i>yakumontanum</i>
VP1623	絶滅危惧II類 (VU)	ハナムグラ	<i>Galium tokyoense</i>
VP1624	絶滅危惧II類 (VU)	オガサワラクチナシ	<i>Gardenia boninensis</i>
VP1625	絶滅危惧II類 (VU)	ハハジマハナガサノキ	<i>Gynochthodes boninensis</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1626	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	マルバシマザクラ	<i>Leptopetalum mexicanum</i>
VP1627	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ヤエヤマアオキ	<i>Morinda citrifolia</i>
VP1628	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	オガサワラボチョウジ	<i>Psychotria homalosperma</i>
VP1629	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ヒロハケニオイグサ	<i>Scleromitron verticillatum</i>
VP1630	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ハクチョウゲ	<i>Serissa japonica</i>
VP1631	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	シマギョクシンカ	<i>Tarenna subsessilis</i>
VP1632	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	リシリリンドウ	<i>Gentiana jamesii</i>
VP1633	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	イイデリンドウ	<i>Gentiana nipponica</i> var. <i>robusta</i>
VP1634	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	リュウキュウコケリンドウ	<i>Gentiana satsunanensis</i>
VP1635	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ミヤココケリンドウ	<i>Gentiana takushii</i>
VP1636	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ホソバツルリンドウ	<i>Pterygocalyx volubilis</i>
VP1637	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	シマアケボノソウ	<i>Swertia makinoana</i>
VP1638	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ソナレセンブリ	<i>Swertia noguchiana</i>
VP1639	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	シノノメソウ	<i>Swertia swertopsis</i>
VP1640	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	チトセカズラ	<i>Gardneria multiflora</i>
VP1641	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	オガサワラモクレイシ	<i>Geniostoma glabrum</i>
VP1642	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ヒメナエ	<i>Mitrasacme indica</i>
VP1643	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	バシクルモン	<i>Apocynum venetum</i> var. <i>basikurumon</i>
VP1644	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ロクオンソウ	<i>Vincetoxicum amplexicaule</i>
VP1645	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	インダテクサタチバナ	<i>Vincetoxicum calcareum</i>
VP1646	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ハウヨカモメヅル	<i>Vincetoxicum hoyoense</i>
VP1647	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	クサナギオゴケ	<i>Vincetoxicum katoii</i>
VP1648	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ヤマワキオゴケ	<i>Vincetoxicum yamanakae</i>
VP1649	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ケルリソウ	<i>Trigonotis radicans</i> var. <i>radicans</i>
VP1650	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ムニンホオズキ	<i>Lycianthes boninensis</i>
VP1651	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ヤマホオズキ	<i>Physaliastrum chamaesarachoides</i>
VP1652	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	アオホオズキ	<i>Physaliastrum japonicum</i>
VP1653	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ヒトツバタゴ	<i>Chionanthus retusus</i>
VP1654	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	シシンラン	<i>Lysionotus pauciflorus</i>
VP1655	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	イワギリソウ	<i>Opithandra primuloides</i>
VP1656	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	マツムラソウ	<i>Titanotrichum oldhamii</i>
VP1657	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	チシマミズハコベ	<i>Callitriche hermaphroditica</i>
VP1658	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	カミガモソウ	<i>Gratiola fluviatilis</i>
VP1659	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	オオアブノメ	<i>Gratiola japonica</i>
VP1660	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ヒロハスギナモ	<i>Hippuris tetraphylla</i>
VP1661	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	コキクモ	<i>Limnophila trichophylla</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1662	絶滅危惧II類 (VU)	キタミソウ	<i>Limosella aquatica</i>
VP1663	絶滅危惧II類 (VU)	サンイントラノオ	<i>Veronica ogurae</i>
VP1664	絶滅危惧II類 (VU)	ゲンバイヅル	<i>Veronica onoei</i>
VP1665	絶滅危惧II類 (VU)	トウテイラン	<i>Veronica ornata</i>
VP1666	絶滅危惧II類 (VU)	キタダケトラノオ	<i>Veronica ovata</i> subsp. <i>kiusiana</i> var. <i>kitadakemontana</i>
VP1667	絶滅危惧II類 (VU)	ツクシトラノオ	<i>Veronica ovata</i> subsp. <i>kiusiana</i> var. <i>kiusiana</i>
VP1668	絶滅危惧II類 (VU)	エゾミヤマクワガタ	<i>Veronica schmidtiana</i> subsp. <i>senanensis</i> var. <i>yezoalpina</i>
VP1669	絶滅危惧II類 (VU)	ハマトラノオ	<i>Veronica sieboldiana</i>
VP1670	絶滅危惧II類 (VU)	エゾヒメクワガタ	<i>Veronica stelleri</i> var. <i>longistyla</i>
VP1671	絶滅危惧II類 (VU)	ルリトラノオ	<i>Veronica subsessilis</i>
VP1672	絶滅危惧II類 (VU)	ナンゴククガイソウ	<i>Veronicastrum japonicum</i> var. <i>australe</i>
VP1673	絶滅危惧II類 (VU)	ツクシクガイソウ	<i>Veronicastrum sibiricum</i> var. <i>zuccarinii</i>
VP1674	絶滅危惧II類 (VU)	キノクニスズカケ	<i>Veronicastrum tagawae</i>
VP1675	絶滅危惧II類 (VU)	ハマジンチョウ	<i>Bontia bontioides</i>
VP1676	絶滅危惧II類 (VU)	カイジンドウ	<i>Ajuga ciliata</i> var. <i>villosior</i>
VP1677	絶滅危惧II類 (VU)	ヒイラギソウ	<i>Ajuga incisa</i>
VP1678	絶滅危惧II類 (VU)	ツルカコソウ	<i>Ajuga shikotanensis</i>
VP1679	絶滅危惧II類 (VU)	ビロードムラサキ	<i>Callicarpa kochiana</i>
VP1680	絶滅危惧II類 (VU)	オキナワヤブムラサキ	<i>Callicarpa oshimensis</i> var. <i>okinawensis</i>
VP1681	絶滅危惧II類 (VU)	トサムラサキ	<i>Callicarpa shikokiana</i>
VP1682	絶滅危惧II類 (VU)	ダンギク	<i>Caryopteris incana</i>
VP1683	絶滅危惧II類 (VU)	ムシャリンドウ	<i>Dracocephalum argunense</i>
VP1684	絶滅危惧II類 (VU)	キセワタ	<i>Leonurus macranthus</i>
VP1685	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメキセワタ	<i>Matsumurella tuberifera</i>
VP1686	絶滅危惧II類 (VU)	オチフジ	<i>Meehanian montis-koyae</i>
VP1687	絶滅危惧II類 (VU)	ホソバヤマジソ	<i>Mosla chinensis</i>
VP1688	絶滅危惧II類 (VU)	ミズトラノオ	<i>Pogostemon yatabeanus</i>
VP1689	絶滅危惧II類 (VU)	シマジタムラソウ	<i>Salvia isensis</i>
VP1690	絶滅危惧II類 (VU)	シナノアキギリ	<i>Salvia koyamae</i>
VP1691	絶滅危惧II類 (VU)	タジマタムラソウ	<i>Salvia omerocalyx</i> var. <i>omerocalyx</i>
VP1692	絶滅危惧II類 (VU)	コナミキ	<i>Scutellaria guilielmii</i>
VP1693	絶滅危惧II類 (VU)	ヤクシマシソバタツナミ	<i>Scutellaria kuromidakensis</i>
VP1694	絶滅危惧II類 (VU)	エゾナミキ	<i>Scutellaria yezoensis</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1695	絶滅危惧II類 (VU)	ヤエヤマスズコウジュ	<i>Suzukia luchuensis</i>
VP1696	絶滅危惧II類 (VU)	ハチジョウコゴメグサ	<i>Euphrasia hachijoensis</i>
VP1697	絶滅危惧II類 (VU)	イブキコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i>
VP1698	絶滅危惧II類 (VU)	マルバコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>nummularia</i>
VP1699	絶滅危惧II類 (VU)	コケコゴメグサ	<i>Euphrasia kisoalpina</i>
VP1700	絶滅危惧II類 (VU)	タカネママコナ	<i>Melampyrum laxum</i> var. <i>arcuatum</i>
VP1701	絶滅危惧II類 (VU)	ホソバママコナ	<i>Melampyrum setaceum</i>
VP1702	絶滅危惧II類 (VU)	ハマウツボ	<i>Orobanche coerulescens</i>
VP1703	絶滅危惧II類 (VU)	ヤクシマシオガマ	<i>Pedicularis ochiaiana</i>
VP1704	絶滅危惧II類 (VU)	ミカワシオガマ	<i>Pedicularis resupinata</i> subsp. <i>oppositifolia</i> var. <i>microphylla</i>
VP1705	絶滅危惧II類 (VU)	ネムロシオガマ	<i>Pedicularis schistostegia</i>
VP1706	絶滅危惧II類 (VU)	コウシンソウ	<i>Pinguicula ramosa</i>
VP1707	絶滅危惧II類 (VU)	ノタヌキモ	<i>Utricularia aurea</i>
VP1708	絶滅危惧II類 (VU)	フサタヌキモ	<i>Utricularia dimorphantha</i>
VP1709	絶滅危惧II類 (VU)	ヤチコタヌキモ	<i>Utricularia ochroleuca</i>
VP1710	絶滅危惧II類 (VU)	ヒルギダマシ	<i>Avicennia marina</i>
VP1711	絶滅危惧II類 (VU)	ヒナシャジン	<i>Adenophora maximowicziana</i>
VP1712	絶滅危惧II類 (VU)	シライワシャジン	<i>Adenophora nikoensis</i> var. <i>teramotoi</i>
VP1713	絶滅危惧II類 (VU)	シラトリシャジン	<i>Adenophora uryuensis</i>
VP1714	絶滅危惧II類 (VU)	ツルギキョウ	<i>Codonopsis javanica</i> subsp. <i>japonica</i>
VP1715	絶滅危惧II類 (VU)	バアソブ	<i>Codonopsis ussuriensis</i>
VP1716	絶滅危惧II類 (VU)	オオハマギキョウ	<i>Lobelia boninensis</i>
VP1717	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメシロアサザ	<i>Nymphoides coreana</i>
VP1718	絶滅危惧II類 (VU)	キタノコギリソウ	<i>Achillea alpina</i> subsp. <i>japonica</i>
VP1719	絶滅危惧II類 (VU)	マルバテイショウソウ	<i>Ainsliaea fragrans</i>
VP1720	絶滅危惧II類 (VU)	ナガバハグマ	<i>Ainsliaea oblonga</i>
VP1721	絶滅危惧II類 (VU)	トダイハハコ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>pernivea</i>
VP1722	絶滅危惧II類 (VU)	クリヤマハハコ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>viscosissima</i>
VP1723	絶滅危惧II類 (VU)	オニオトコヨモギ	<i>Artemisia congesta</i>
VP1724	絶滅危惧II類 (VU)	ハハコヨモギ	<i>Artemisia glomerata</i>
VP1725	絶滅危惧II類 (VU)	イワヨモギ	<i>Artemisia gmelinii</i>
VP1726	絶滅危惧II類 (VU)	ヤブヨモギ	<i>Artemisia rubripes</i>
VP1727	絶滅危惧II類 (VU)	シコタンヨモギ	<i>Artemisia tanacetifolia</i>
VP1728	絶滅危惧II類 (VU)	ヤナギノギク	<i>Aster hispidus</i> var. <i>leptocladus</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1729	絶滅危惧II類 (VU)	コシキギク	<i>Aster koshikiensis</i>
VP1730	絶滅危惧II類 (VU)	ヒゴシオン	<i>Aster maackii</i>
VP1731	絶滅危惧II類 (VU)	オキナワギク	<i>Aster miyagii</i>
VP1732	絶滅危惧II類 (VU)	ホソバノギク	<i>Aster sohayakiensis</i>
VP1733	絶滅危惧II類 (VU)	シオン	<i>Aster tataricus</i>
VP1734	絶滅危惧II類 (VU)	ヤナギタウコギ	<i>Bidens cernua</i>
VP1735	絶滅危惧II類 (VU)	コバナガンクビソウ	<i>Carpesium faberi</i>
VP1736	絶滅危惧II類 (VU)	チシマコハマギク	<i>Chrysanthemum arcticum</i> subsp. <i>yezoense</i>
VP1737	絶滅危惧II類 (VU)	オオイワインチン	<i>Chrysanthemum pallasianum</i>
VP1738	絶滅危惧II類 (VU)	ピレオギク	<i>Chrysanthemum weyrichii</i>
VP1739	絶滅危惧II類 (VU)	イワギク	<i>Chrysanthemum zawadskii</i> subsp. <i>naktongense</i> var. <i>dissectum</i>
VP1740	絶滅危惧II類 (VU)	アキヨシアザミ	<i>Cirsium dipsacolepis</i> var. <i>calcicola</i>
VP1741	絶滅危惧II類 (VU)	オゼヌマアザミ	<i>Cirsium homolepis</i>
VP1742	絶滅危惧II類 (VU)	オガアザミ	<i>Cirsium horiianum</i>
VP1743	絶滅危惧II類 (VU)	サドアザミ	<i>Cirsium nipponicum</i> var. <i>sadoense</i>
VP1744	絶滅危惧II類 (VU)	ヒダアザミ	<i>Cirsium tashiroi</i> var. <i>hidaense</i>
VP1745	絶滅危惧II類 (VU)	クサノオウバノギク	<i>Crepidiastrum chelidoniifolium</i>
VP1746	絶滅危惧II類 (VU)	イワヤクシソウ	<i>Crepidiastrum yoshinoi</i>
VP1747	絶滅危惧II類 (VU)	エゾタカネニガナ	<i>Crepis gymnopus</i>
VP1748	絶滅危惧II類 (VU)	ヒゴタイ	<i>Echinops setifer</i>
VP1749	絶滅危惧II類 (VU)	ホソバムカシヨモギ	<i>Erigeron acris</i> var. <i>linearifolius</i>
VP1750	絶滅危惧II類 (VU)	ハマサワヒヨドリ	<i>Eupatorium lindleyanum</i> var. <i>yasushii</i>
VP1751	絶滅危惧II類 (VU)	ヤクシマヒヨドリ	<i>Eupatorium yakushimense</i>
VP1752	絶滅危惧II類 (VU)	セリバノセンダングサ	<i>Glossocardia bidens</i>
VP1753	絶滅危惧II類 (VU)	ホソバオグルマ	<i>Inula linariifolia</i>
VP1754	絶滅危惧II類 (VU)	ヤナギニガナ	<i>Ixeridium laevigatum</i>
VP1755	絶滅危惧II類 (VU)	タカサゴソウ	<i>Ixeris chinensis</i> subsp. <i>strigosa</i>
VP1756	絶滅危惧II類 (VU)	ツルワダン	<i>Ixeris longirostra</i>
VP1757	絶滅危惧II類 (VU)	ホソバヒナウスユキソウ	<i>Leontopodium fauriei</i> var. <i>angustifolium</i>
VP1758	絶滅危惧II類 (VU)	カワラウスユキソウ	<i>Leontopodium japonicum</i> var. <i>perniveum</i>
VP1759	絶滅危惧II類 (VU)	オオヒラウスユキソウ	<i>Leontopodium miyabeum</i>
VP1760	絶滅危惧II類 (VU)	アソタカラコウ	<i>Ligularia sibirica</i>
VP1761	絶滅危惧II類 (VU)	オガコウモリ	<i>Parasenecio ogamontanus</i>
VP1762	絶滅危惧II類 (VU)	カラフトアザミ	<i>Saussurea acuminata</i> var. <i>sachalinensis</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1763	絶滅危惧II類 (VU)	ユキバヒゴタイ	<i>Saussurea chionophylla</i>
VP1764	絶滅危惧II類 (VU)	フォーリーアザミ	<i>Saussurea fauriei</i>
VP1765	絶滅危惧II類 (VU)	ミヤマキタアザミ	<i>Saussurea franchetii</i>
VP1766	絶滅危惧II類 (VU)	イナトウヒレン	<i>Saussurea inaensis</i>
VP1767	絶滅危惧II類 (VU)	ヒナヒゴタイ	<i>Saussurea japonica</i>
VP1768	絶滅危惧II類 (VU)	ヒダカトウヒレン	<i>Saussurea kudoana</i>
VP1769	絶滅危惧II類 (VU)	トサトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>nipponica</i> var. <i>yoshinagae</i>
VP1770	絶滅危惧II類 (VU)	ヒメヒゴタイ	<i>Saussurea pulchella</i>
VP1771	絶滅危惧II類 (VU)	コケタンポポ	<i>Solenogyne mikadoi</i>
VP1772	絶滅危惧II類 (VU)	ヒュウガヤブレガサ	<i>Syneilesis akagii</i>
VP1773	絶滅危惧II類 (VU)	エゾヨモギギク	<i>Tanacetum vulgare</i> var. <i>boreale</i>
VP1774	絶滅危惧II類 (VU)	ツクシタンポポ	<i>Taraxacum kiushianum</i>
VP1775	絶滅危惧II類 (VU)	コウリンカ	<i>Tephroseris flammea</i> subsp. <i>glabrifolia</i>
VP1776	絶滅危惧II類 (VU)	オナモミ	<i>Xanthium strumarium</i> subsp. <i>sibiricum</i>
VP1777	絶滅危惧II類 (VU)	シマガマズミ	<i>Viburnum brachyandrum</i>
VP1778	絶滅危惧II類 (VU)	トキワガマズミ	<i>Viburnum japonicum</i> var. <i>boninsimense</i>
VP1779	絶滅危惧II類 (VU)	オオシマガマズミ	<i>Viburnum tashiroi</i>
VP1780	絶滅危惧II類 (VU)	エゾヒョウタンボク	<i>Lonicera alpigena</i> subsp. <i>glehnii</i>
VP1781	絶滅危惧II類 (VU)	ウスバヒョウタンボク	<i>Lonicera cerasina</i>
VP1782	絶滅危惧II類 (VU)	チシマヒョウタンボク	<i>Lonicera chamissoi</i>
VP1783	絶滅危惧II類 (VU)	ネムロブシダマ	<i>Lonicera chrysantha</i> var. <i>crassipes</i>
VP1784	絶滅危惧II類 (VU)	キタカミヒョウタンボク	<i>Lonicera demissa</i> var. <i>borealis</i>
VP1785	絶滅危惧II類 (VU)	ハナヒョウタンボク	<i>Lonicera maackii</i>
VP1786	絶滅危惧II類 (VU)	ベニバナヒョウタンボク	<i>Lonicera maximowiczii</i> var. <i>sachalinensis</i>
VP1787	絶滅危惧II類 (VU)	オニヒョウタンボク	<i>Lonicera vidalii</i>
VP1788	絶滅危惧II類 (VU)	ソナレマツムシソウ	<i>Scabiosa japonica</i> var. <i>lasiophylla</i>
VP1789	絶滅危惧II類 (VU)	ツキヌキソウ	<i>Triosteum sinuatum</i>
VP1790	絶滅危惧II類 (VU)	イワツクバネウツギ	<i>Zabelia integrifolia</i>
VP1791	絶滅危惧II類 (VU)	ハハジマトベラ	<i>Pittosporum beecheyi</i>
VP1792	絶滅危惧II類 (VU)	ムニンヤツデ	<i>Fatsia oligocarpella</i>
VP1793	絶滅危惧II類 (VU)	ヒュウガトウキ	<i>Angelica furcijuga</i>
VP1794	絶滅危惧II類 (VU)	ムニンハマウド	<i>Angelica japonica</i> var. <i>boninensis</i>
VP1795	絶滅危惧II類 (VU)	イヌトウキ	<i>Angelica shikokiana</i>
VP1796	絶滅危惧II類 (VU)	ホソバトウキ	<i>Angelica stenoloba</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1797	絶滅危惧II類(VU)	カワゼンゴ	<i>Angelica tenuisecta</i>
VP1798	絶滅危惧II類(VU)	オオウバタケニンジン	<i>Angelica ubatakensis</i> var. <i>ubatakensis</i>
VP1799	絶滅危惧II類(VU)	ヤクシマノダケ	<i>Angelica yakusimensis</i>
VP1800	絶滅危惧II類(VU)	ミシマサイコ	<i>Bupleurum stenophyllum</i> var. <i>stenophyllum</i>
VP1801	絶滅危惧II類(VU)	シムラニンジン	<i>Pterygopleurum neurophyllum</i>
VP1802	準絶滅危惧(NT)	ヒメミズニラ	<i>Isoetes asiatica</i>
VP1803	準絶滅危惧(NT)	ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i>
VP1804	準絶滅危惧(NT)	コウヅシマクラマゴケ	<i>Selaginella doederleinii</i> var. <i>opaca</i>
VP1805	準絶滅危惧(NT)	ツルカタヒバ	<i>Selaginella flagellifera</i>
VP1806	準絶滅危惧(NT)	マツバラシ	<i>Psilotum nudum</i>
VP1807	準絶滅危惧(NT)	ホウライハナワラビ	<i>Botrychium formosanum</i>
VP1808	準絶滅危惧(NT)	トネハナヤスリ	<i>Ophioglossum namegatae</i>
VP1809	準絶滅危惧(NT)	リュウビンタイモドキ	<i>Ptisana boninensis</i>
VP1810	準絶滅危惧(NT)	コケホラゴケ	<i>Crepidomanes makinoi</i>
VP1811	準絶滅危惧(NT)	サンショウモ	<i>Salvinia natans</i>
VP1812	準絶滅危惧(NT)	デンジソウ	<i>Marsilea quadrifolia</i>
VP1813	準絶滅危惧(NT)	エダウチクジャク	<i>Lindsaea heterophylla</i>
VP1814	準絶滅危惧(NT)	マルバホングウシダ	<i>Lindsaea orbiculata</i> var. <i>orbiculata</i>
VP1815	準絶滅危惧(NT)	ムニンエダウチホングウシダ	<i>Lindsaea repanda</i>
VP1816	準絶滅危惧(NT)	スキヤクジャク	<i>Adiantum diaphanum</i>
VP1817	準絶滅危惧(NT)	ヒメウラジロ	<i>Cheilanthes argentea</i>
VP1818	準絶滅危惧(NT)	リシリシノブ	<i>Cryptogramma crispa</i>
VP1819	準絶滅危惧(NT)	ヤツガタケシノブ	<i>Cryptogramma stelleri</i>
VP1820	準絶滅危惧(NT)	クマガワイノモトソウ	<i>Pteris deltodon</i>
VP1821	準絶滅危惧(NT)	ヤンバルフモトシダ	<i>Microlepia hookeriana</i>
VP1822	準絶滅危惧(NT)	ウスバイシカグマ	<i>Microlepia substrigosa</i>
VP1823	準絶滅危惧(NT)	オオタニワタリ	<i>Asplenium antiquum</i>
VP1824	準絶滅危惧(NT)	イチョウシダ	<i>Asplenium ruta-muraria</i>
VP1825	準絶滅危惧(NT)	イノウエトラノオ	<i>Asplenium varians</i>
VP1826	準絶滅危惧(NT)	タイワンホウビシダ	<i>Hymenasplenium apogamum</i>
VP1827	準絶滅危惧(NT)	ミヤマイワデンダ	<i>Woodsia ilvensis</i>
VP1828	準絶滅危惧(NT)	イヌイワデンダ	<i>Woodsia intermedia</i>
VP1829	準絶滅危惧(NT)	ホソバオオカグマ	<i>Woodwardia kempii</i>
VP1830	準絶滅危惧(NT)	オオシケシダ	<i>Deparia bonincola</i>
VP1831	準絶滅危惧(NT)	イブダケキノボリシダ	<i>Diplazium crassiusculum</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1832	準絶滅危惧 (NT)	オキナワコクモウクジャク	<i>Diplazium okinawaense</i>
VP1833	準絶滅危惧 (NT)	ハンコクシダ	<i>Diplazium pullingeri</i>
VP1834	準絶滅危惧 (NT)	ヒメノコギリシダ	<i>Diplazium wichurae</i> var. <i>amabile</i>
VP1835	準絶滅危惧 (NT)	オオホシダ	<i>Thelypteris boninensis</i>
VP1836	準絶滅危惧 (NT)	ヒメミゾシダ	<i>Thelypteris gymnocarpa</i> subsp. <i>amabilis</i>
VP1837	準絶滅危惧 (NT)	キンモウワラビ	<i>Hypodematium fauriei</i>
VP1838	準絶滅危惧 (NT)	ハチジョウカナワラビ	<i>Arachniodes davalliiformis</i>
VP1839	準絶滅危惧 (NT)	サツマシダ	<i>Ctenitis sinii</i>
VP1840	準絶滅危惧 (NT)	タカサゴシダ	<i>Dryopteris formosana</i>
VP1841	準絶滅危惧 (NT)	ニセヨゴレイタチシダ	<i>Dryopteris hadanoi</i>
VP1842	準絶滅危惧 (NT)	シロウマイタチシダ	<i>Dryopteris shiroumensis</i>
VP1843	準絶滅危惧 (NT)	コスギイタチシダ	<i>Dryopteris yakusilvicola</i>
VP1844	準絶滅危惧 (NT)	イナデンダ	<i>Polystichum capillipes</i>
VP1845	準絶滅危惧 (NT)	ナンピイノデ	<i>Polystichum otomasui</i>
VP1846	準絶滅危惧 (NT)	ホソバクリハラン	<i>Lepisorus boninensis</i>
VP1847	準絶滅危惧 (NT)	トサノアオイ	<i>Asarum costatum</i>
VP1848	準絶滅危惧 (NT)	クロフネサイシン	<i>Asarum dimidiatum</i>
VP1849	準絶滅危惧 (NT)	オモロカンアオイ	<i>Asarum dissitum</i>
VP1850	準絶滅危惧 (NT)	キンチャクアオイ	<i>Asarum hexalobum</i> var. <i>perfectum</i>
VP1851	準絶滅危惧 (NT)	オオバカンアオイ	<i>Asarum lutchuense</i>
VP1852	準絶滅危惧 (NT)	コシノカンアオイ	<i>Asarum megacalyx</i>
VP1853	準絶滅危惧 (NT)	ズソウカンアオイ	<i>Asarum savatieri</i> subsp. <i>pseudosavatieri</i> var. <i>pseudosavatieri</i>
VP1854	準絶滅危惧 (NT)	オトメアオイ	<i>Asarum savatieri</i> subsp. <i>savatieri</i>
VP1855	準絶滅危惧 (NT)	トカラカンアオイ	<i>Asarum tokareense</i>
VP1856	準絶滅危惧 (NT)	シデコブシ	<i>Magnolia stellata</i>
VP1857	準絶滅危惧 (NT)	アカハダクスノキ	<i>Beilschmiedia erythrophloia</i>
VP1858	準絶滅危惧 (NT)	ケスナヅル	<i>Cassytha filiformis</i> var. <i>duripraticola</i>
VP1859	準絶滅危惧 (NT)	マルバニッケイ	<i>Cinnamomum daphnoides</i>
VP1860	準絶滅危惧 (NT)	ニッケイ	<i>Cinnamomum sieboldii</i>
VP1861	準絶滅危惧 (NT)	マイヅルテンナンショウ	<i>Arisaema heterophyllum</i>
VP1862	準絶滅危惧 (NT)	オモゴウテンナンショウ	<i>Arisaema iyoanum</i> subsp. <i>iyoanum</i>
VP1863	準絶滅危惧 (NT)	ユキモチソウ	<i>Arisaema sikokianum</i>
VP1864	準絶滅危惧 (NT)	ヒメカイウ	<i>Calla palustris</i>
VP1865	準絶滅危惧 (NT)	アギナシ	<i>Sagittaria aginashi</i>
VP1866	準絶滅危惧 (NT)	ウミヒルモ	<i>Halophila ovalis</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1867	準絶滅危惧 (NT)	トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i>
VP1868	準絶滅危惧 (NT)	サガミトリゲモ	<i>Najas chinensis</i>
VP1869	準絶滅危惧 (NT)	イトトリゲモ	<i>Najas gracillima</i>
VP1870	準絶滅危惧 (NT)	ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i>
VP1871	準絶滅危惧 (NT)	リュウキュウスガモ	<i>Thalassia hemprichii</i>
VP1872	準絶滅危惧 (NT)	オオシバナ	<i>Triglochin maritima</i>
VP1873	準絶滅危惧 (NT)	シバナ	<i>Triglochin maritima</i> subsp. <i>asiatica</i>
VP1874	準絶滅危惧 (NT)	エビアマモ	<i>Phyllospadix japonicus</i>
VP1875	準絶滅危惧 (NT)	スゲアマモ	<i>Zostera caespitosa</i>
VP1876	準絶滅危惧 (NT)	イトモ	<i>Potamogeton berchtoldii</i>
VP1877	準絶滅危惧 (NT)	リュウノヒゲモ	<i>Potamogeton pectinatus</i>
VP1878	準絶滅危惧 (NT)	カワツルモ	<i>Ruppia maritima</i>
VP1879	準絶滅危惧 (NT)	ベニアマモ	<i>Cymodocea rotundata</i>
VP1880	準絶滅危惧 (NT)	リュウキュウアマモ	<i>Cymodocea serrulata</i>
VP1881	準絶滅危惧 (NT)	マツバウミジグサ	<i>Halodule pinifolia</i>
VP1882	準絶滅危惧 (NT)	ウミジグサ	<i>Halodule uninervis</i>
VP1883	準絶滅危惧 (NT)	シオニラ	<i>Syringodium isoetifolium</i>
VP1884	準絶滅危惧 (NT)	ホンゴウソウ	<i>Sciaphila nana</i>
VP1885	準絶滅危惧 (NT)	ヒメカカラ	<i>Smilax biflora</i> var. <i>biflora</i>
VP1886	準絶滅危惧 (NT)	ホソバナコバイモ	<i>Fritillaria amabilis</i>
VP1887	準絶滅危惧 (NT)	トサコバイモ	<i>Fritillaria shikokiana</i>
VP1888	準絶滅危惧 (NT)	ヤマスカシユリ	<i>Lilium maculatum</i> var. <i>monticola</i>
VP1889	準絶滅危惧 (NT)	ヒメサユリ	<i>Lilium rubellum</i>
VP1890	準絶滅危惧 (NT)	タカクマホトギス	<i>Tricyrtis ohsumiensis</i>
VP1891	準絶滅危惧 (NT)	シラン	<i>Bletilla striata</i> var. <i>striata</i>
VP1892	準絶滅危惧 (NT)	マメヅタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>
VP1893	準絶滅危惧 (NT)	ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i>
VP1894	準絶滅危惧 (NT)	ミヤマムギラン	<i>Bulbophyllum japonicum</i>
VP1895	準絶滅危惧 (NT)	エビネ	<i>Calanthe discolor</i> var. <i>discolor</i>
VP1896	準絶滅危惧 (NT)	ユウシュンラン	<i>Cephalanthera erecta</i> var. <i>subaphylla</i>
VP1897	準絶滅危惧 (NT)	キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>
VP1898	準絶滅危惧 (NT)	トクサラン	<i>Cephalantheropsis obcordata</i>
VP1899	準絶滅危惧 (NT)	サガミラン	<i>Cymbidium nipponicum</i>
VP1900	準絶滅危惧 (NT)	コアツモリソウ	<i>Cypripedium debile</i>
VP1901	準絶滅危惧 (NT)	レブンアツモリソウ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>rebunense</i>
VP1902	準絶滅危惧 (NT)	ユウレイラン	<i>Didymoplexis pallens</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1903	準絶滅危惧 (NT)	タシロラン	<i>Epipogium roseum</i>
VP1904	準絶滅危惧 (NT)	カモメラン	<i>Galearis cyclochila</i>
VP1905	準絶滅危惧 (NT)	ミズトンボ	<i>Habenaria sagittifera</i>
VP1906	準絶滅危惧 (NT)	ウチョウラン	<i>Hemipilia graminifolia</i> var. <i>graminifolia</i>
VP1907	準絶滅危惧 (NT)	ニョホウチドリ	<i>Hemipilia joo-iokiana</i>
VP1908	準絶滅危惧 (NT)	ウスギムヨウラン	<i>Lecanorchis kiusiana</i>
VP1909	準絶滅危惧 (NT)	オキナワムヨウラン	<i>Lecanorchis triloba</i>
VP1910	準絶滅危惧 (NT)	シラヒゲムヨウラン	<i>Lecanorchis vietnamica</i>
VP1911	準絶滅危惧 (NT)	ボウラン	<i>Luisia teres</i>
VP1912	準絶滅危惧 (NT)	フウラン	<i>Neofinetia falcata</i>
VP1913	準絶滅危惧 (NT)	ヤエヤマヒトツボクロ	<i>Nervilia aragoana</i>
VP1914	準絶滅危惧 (NT)	ムカゴサイシン	<i>Nervilia nipponica</i>
VP1915	準絶滅危惧 (NT)	ヤクシマヒメアリドオシラン	<i>Odontochilus yakushimensis</i>
VP1916	準絶滅危惧 (NT)	サギソウ	<i>Pecteilis radiata</i>
VP1917	準絶滅危惧 (NT)	トキソウ	<i>Pogonia japonica</i>
VP1918	準絶滅危惧 (NT)	カゲロウラン	<i>Zeuxine agyokuana</i>
VP1919	準絶滅危惧 (NT)	ヤンバルキヌラン	<i>Zeuxine leucochila</i>
VP1920	準絶滅危惧 (NT)	ヒメシャガ	<i>Iris gracilipes</i>
VP1921	準絶滅危惧 (NT)	カキツバタ	<i>Iris laevigata</i>
VP1922	準絶滅危惧 (NT)	シブツアサツキ	<i>Allium schoenoprasum</i> var. <i>shibutuense</i>
VP1923	準絶滅危惧 (NT)	イトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>virgunculae</i>
VP1924	準絶滅危惧 (NT)	オクスダレギボウシ	<i>Hosta polyneuronoides</i>
VP1925	準絶滅危惧 (NT)	コウライワニグチソウ	<i>Polygonatum x desoulavyi</i>
VP1926	準絶滅危惧 (NT)	ヤエヤマヤシ	<i>Satakentia liukiensis</i>
VP1927	準絶滅危惧 (NT)	ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i>
VP1928	準絶滅危惧 (NT)	ミクリ	<i>Sparganium erectum</i> var. <i>erectum</i>
VP1929	準絶滅危惧 (NT)	ヤマトミクリ	<i>Sparganium fallax</i>
VP1930	準絶滅危惧 (NT)	タマミクリ	<i>Sparganium glomeratum</i> var. <i>glomeratum</i>
VP1931	準絶滅危惧 (NT)	ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>
VP1932	準絶滅危惧 (NT)	クロイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon atrum</i>
VP1933	準絶滅危惧 (NT)	クロホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i>
VP1934	準絶滅危惧 (NT)	ミヤマイ	<i>Juncus beringensis</i>
VP1935	準絶滅危惧 (NT)	タカネイ	<i>Juncus triglumis</i>
VP1936	準絶滅危惧 (NT)	クモマスズメノヒエ	<i>Luzula arcuata</i> subsp. <i>unalaschkensis</i>
VP1937	準絶滅危惧 (NT)	コゴメヌカボシ	<i>Luzula piperi</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP1938	準絶滅危惧 (NT)	イトテンツキ	<i>Bulbostylis densa</i> var. <i>capitata</i>
VP1939	準絶滅危惧 (NT)	クリイロスゲ	<i>Carex diandra</i>
VP1940	準絶滅危惧 (NT)	ネムロスゲ	<i>Carex gmelinii</i>
VP1941	準絶滅危惧 (NT)	ヤマクボスゲ	<i>Carex hymenodon</i>
VP1942	準絶滅危惧 (NT)	クジュウツリスゲ	<i>Carex kujuzana</i>
VP1943	準絶滅危惧 (NT)	タカネヤガミスゲ	<i>Carex lachenalii</i>
VP1944	準絶滅危惧 (NT)	アサマスゲ	<i>Carex lithophila</i>
VP1945	準絶滅危惧 (NT)	キノクニスゲ	<i>Carex matsumurae</i>
VP1946	準絶滅危惧 (NT)	ヤクシマカンスゲ	<i>Carex morrowii</i> var. <i>laxa</i>
VP1947	準絶滅危惧 (NT)	ヒゲハリスゲ	<i>Carex myosuroides</i>
VP1948	準絶滅危惧 (NT)	ホソバオゼヌマスゲ	<i>Carex nemurensis</i>
VP1949	準絶滅危惧 (NT)	シマタヌキラン	<i>Carex okuboi</i>
VP1950	準絶滅危惧 (NT)	タカネハリスゲ	<i>Carex pauciflora</i>
VP1951	準絶滅危惧 (NT)	オオクグ	<i>Carex rugulosa</i>
VP1952	準絶滅危惧 (NT)	ジングウスゲ	<i>Carex sacrosancta</i>
VP1953	準絶滅危惧 (NT)	サコスゲ	<i>Carex sakonis</i>
VP1954	準絶滅危惧 (NT)	アシボソスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>tenuiseta</i>
VP1955	準絶滅危惧 (NT)	ヒメウシオスゲ	<i>Carex subspathacea</i>
VP1956	準絶滅危惧 (NT)	オキナワヒメナキリ	<i>Carex tamakii</i>
VP1957	準絶滅危惧 (NT)	ヒロハオゼヌマスゲ	<i>Carex traiziscana</i>
VP1958	準絶滅危惧 (NT)	エゾサウスゲ	<i>Carex viridula</i>
VP1959	準絶滅危惧 (NT)	コケハリガネスゲ	<i>Carex yakushimensis</i>
VP1960	準絶滅危惧 (NT)	ヤリテンツキ	<i>Fimbristylis ovata</i>
VP1961	準絶滅危惧 (NT)	ヒメワタスゲ	<i>Trichophorum alpinum</i>
VP1962	準絶滅危惧 (NT)	ヒメコヌカグサ	<i>Agrostis valvata</i>
VP1963	準絶滅危惧 (NT)	ミギワトダシバ	<i>Arundinella riparia</i>
VP1964	準絶滅危惧 (NT)	ヒナザサ	<i>Coelachne japonica</i>
VP1965	準絶滅危惧 (NT)	ウンヌケモドキ	<i>Eulalia quadrinervis</i>
VP1966	準絶滅危惧 (NT)	イブキトボシガラ	<i>Festuca parvigluma</i> var. <i>breviaristata</i>
VP1967	準絶滅危惧 (NT)	タイワンアシカキ	<i>Leersia hexandra</i>
VP1968	準絶滅危惧 (NT)	コゴメビエ	<i>Setaria distans</i>
VP1969	準絶滅危惧 (NT)	ネズミシバ	<i>Tripogon chinensis</i>
VP1970	準絶滅危惧 (NT)	ナガミノツルキケマン	<i>Corydalis raddeana</i>
VP1971	準絶滅危惧 (NT)	ヤチマタイカリソウ	<i>Epimedium grandiflorum</i> var. <i>grandiflorum</i>
VP1972	準絶滅危惧 (NT)	シオミイカリソウ	<i>Epimedium trifoliatobinatum</i> subsp.

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
			<i>maritimum</i>
VP1973	準絶滅危惧 (NT)	トガクシソウ	<i>Ranzania japonica</i>
VP1974	準絶滅危惧 (NT)	イブキレイジンソウ	<i>Aconitum chrysopilum</i>
VP1975	準絶滅危惧 (NT)	ミチノクフケジュソウ	<i>Adonis multiflora</i>
VP1976	準絶滅危惧 (NT)	フタマタイチゲ	<i>Anemone dichotoma</i>
VP1977	準絶滅危惧 (NT)	カザグルマ	<i>Clematis patens</i>
VP1978	準絶滅危惧 (NT)	ハコネシロカネソウ	<i>Dichocarpum hakonense</i>
VP1979	準絶滅危惧 (NT)	セツブンソウ	<i>Eranthis pinnatifida</i>
VP1980	準絶滅危惧 (NT)	ミスミソウ	<i>Hepatica nobilis</i> var. <i>japonica</i>
VP1981	準絶滅危惧 (NT)	オキナグサ	<i>Pulsatilla cernua</i>
VP1982	準絶滅危惧 (NT)	シコタンキンポウゲ	<i>Ranunculus grandis</i> var. <i>austrokurilensis</i>
VP1983	準絶滅危惧 (NT)	イトキンポウゲ	<i>Ranunculus reptans</i>
VP1984	準絶滅危惧 (NT)	ヒメキツネノボタン	<i>Ranunculus silerifolius</i> var. <i>yaegatazensis</i>
VP1985	準絶滅危惧 (NT)	マンセンカラマツ	<i>Thalictrum aquilegiifolium</i> var. <i>sibiricum</i>
VP1986	準絶滅危惧 (NT)	タイシャクカラマツ	<i>Thalictrum kubotae</i>
VP1987	準絶滅危惧 (NT)	ヒメミヤマカラマツ	<i>Thalictrum nakamurae</i>
VP1988	準絶滅危惧 (NT)	チョウセンヒメツゲ	<i>Buxus microphylla</i> var. <i>insularis</i>
VP1989	準絶滅危惧 (NT)	ヤマシャクヤク	<i>Paeonia japonica</i>
VP1990	準絶滅危惧 (NT)	キリシマミズキ	<i>Corylopsis glabrescens</i>
VP1991	準絶滅危惧 (NT)	トサミズキ	<i>Corylopsis spicata</i>
VP1992	準絶滅危惧 (NT)	アテツマンサク	<i>Hamamelis japonica</i> var. <i>bitchuensis</i>
VP1993	準絶滅危惧 (NT)	ヤシャビシャク	<i>Ribes ambiguum</i> var. <i>ambiguum</i>
VP1994	準絶滅危惧 (NT)	モミジチャルメルソウ	<i>Asimitellaria acerina</i>
VP1995	準絶滅危惧 (NT)	ツクシチャルメルソウ	<i>Asimitellaria kiusiana</i>
VP1996	準絶滅危惧 (NT)	タキミチャルメルソウ	<i>Asimitellaria stylosa</i>
VP1997	準絶滅危惧 (NT)	ミカワショウマ	<i>Astilbe odontophylla</i> var. <i>okuyamae</i>
VP1998	準絶滅危惧 (NT)	ツクシアカショウマ	<i>Astilbe thunbergii</i> var. <i>longipedicellata</i>
VP1999	準絶滅危惧 (NT)	キバナハナネコノメ	<i>Chrysosplenium album</i> var. <i>flavum</i>
VP2000	準絶滅危惧 (NT)	ムカゴネコノメ	<i>Chrysosplenium maximowiczii</i>
VP2001	準絶滅危惧 (NT)	アズマツメクサ	<i>Crassula aquatica</i>
VP2002	準絶滅危惧 (NT)	ツメレンゲ	<i>Orostachys japonica</i>
VP2003	準絶滅危惧 (NT)	ハママンネングサ	<i>Sedum formosanum</i>
VP2004	準絶滅危惧 (NT)	マツノハママンネングサ	<i>Sedum hakonense</i>
VP2005	準絶滅危惧 (NT)	オオメノマンネングサ	<i>Sedum rupifragum</i>
VP2006	準絶滅危惧 (NT)	サツママンネングサ	<i>Sedum satumense</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP2007	準絶滅危惧 (NT)	タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>
VP2008	準絶滅危惧 (NT)	タチモ	<i>Myriophyllum ussuriense</i>
VP2009	準絶滅危惧 (NT)	コウシュンモダマ	<i>Entada phaseoloides</i>
VP2010	準絶滅危惧 (NT)	サツマハギ	<i>Lespedeza thunbergii</i> subsp. <i>satsumensis</i>
VP2011	準絶滅危惧 (NT)	イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i>
VP2012	準絶滅危惧 (NT)	ワニグチモダマ	<i>Mucuna gigantea</i>
VP2013	準絶滅危惧 (NT)	ヒナノキンチャク	<i>Polygala tatarinowii</i>
VP2014	準絶滅危惧 (NT)	ハゴロモグサ	<i>Alchemilla japonica</i>
VP2015	準絶滅危惧 (NT)	テンノウメ	<i>Osteomeles anthyllidifolia</i> var. <i>subrotunda</i>
VP2016	準絶滅危惧 (NT)	シマカナメモチ	<i>Photinia wrightiana</i>
VP2017	準絶滅危惧 (NT)	サンショウバラ	<i>Rosa hirtula</i>
VP2018	準絶滅危惧 (NT)	ハスノハイチゴ	<i>Rubus peltatus</i>
VP2019	準絶滅危惧 (NT)	ミヤマモミジイチゴ	<i>Rubus pseudoacer</i>
VP2020	準絶滅危惧 (NT)	サナギイチゴ	<i>Rubus pungens</i> var. <i>oldhamii</i>
VP2021	準絶滅危惧 (NT)	リシリトウウチソウ	<i>Sanguisorba canadensis</i> subsp. <i>latifolia</i> var. <i>riishirensis</i>
VP2022	準絶滅危惧 (NT)	キイシモツケ	<i>Spiraea nipponica</i> var. <i>ogawae</i>
VP2023	準絶滅危惧 (NT)	ハコネグミ	<i>Elaeagnus matsunoana</i>
VP2024	準絶滅危惧 (NT)	ハマナツメ	<i>Paliurus ramosissimus</i>
VP2025	準絶滅危惧 (NT)	ヤエヤマネコノチチ	<i>Rhamnella franguloides</i> var. <i>inaequilatera</i>
VP2026	準絶滅危惧 (NT)	キビノクロウメモドキ	<i>Rhamnus yoshinoi</i>
VP2027	準絶滅危惧 (NT)	オオトキワイヌビワ	<i>Ficus nishimurae</i>
VP2028	準絶滅危惧 (NT)	タイワントリアシ	<i>Boehmeria formosana</i>
VP2029	準絶滅危惧 (NT)	ヤエヤマラセイタソウ	<i>Boehmeria yaeyamensis</i>
VP2030	準絶滅危惧 (NT)	トキホコリ	<i>Elatostema densiflorum</i>
VP2031	準絶滅危惧 (NT)	クニガミサンショウヅル	<i>Elatostema suzukii</i>
VP2032	準絶滅危惧 (NT)	サクラバハノキ	<i>Alnus trabeculosa</i>
VP2033	準絶滅危惧 (NT)	ヤエガワカンバ	<i>Betula davurica</i> var. <i>davurica</i>
VP2034	準絶滅危惧 (NT)	マルヤマシュウカイドウ	<i>Begonia formosana</i>
VP2035	準絶滅危惧 (NT)	ヒメマサキ	<i>Euonymus boninensis</i>
VP2036	準絶滅危惧 (NT)	ハリツルマサキ	<i>Gymnosporia diversifolia</i>
VP2037	準絶滅危惧 (NT)	コバノクロヅル	<i>Tripterygium doianum</i>
VP2038	準絶滅危惧 (NT)	ノウルシ	<i>Euphorbia adenochlora</i>
VP2039	準絶滅危惧 (NT)	マルミノウルシ	<i>Euphorbia ebracteolata</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP2040	準絶滅危惧 (NT)	センダイタイゲキ	<i>Euphorbia sendaica</i>
VP2041	準絶滅危惧 (NT)	コウシュンカズラ	<i>Tristellateia australasiae</i>
VP2042	準絶滅危惧 (NT)	ミヤマヤチヤナギ	<i>Salix fuscescens</i>
VP2043	準絶滅危惧 (NT)	ユビソヤナギ	<i>Salix hukaoana</i>
VP2044	準絶滅危惧 (NT)	タライカヤナギ	<i>Salix taraiensis</i>
VP2045	準絶滅危惧 (NT)	アワガタケスミレ	<i>Viola awagataensis</i>
VP2046	準絶滅危惧 (NT)	タカネスミレ	<i>Viola crassa</i> subsp. <i>crassa</i>
VP2047	準絶滅危惧 (NT)	チシマウスバスミレ	<i>Viola hultenii</i>
VP2048	準絶滅危惧 (NT)	オオバタチツボスミレ	<i>Viola langsdorfii</i> subsp. <i>sachalinensis</i>
VP2049	準絶滅危惧 (NT)	ハコネオトギリ	<i>Hypericum hakonense</i>
VP2050	準絶滅危惧 (NT)	イヨフウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>shikokianum</i>
VP2051	準絶滅危惧 (NT)	アサマフウロ	<i>Geranium soboliferum</i> var. <i>hakusanense</i>
VP2052	準絶滅危惧 (NT)	ヤクシマサルスベリ	<i>Lagerstroemia subcostata</i> var. <i>fauriei</i>
VP2053	準絶滅危惧 (NT)	シマサルスベリ	<i>Lagerstroemia subcostata</i> var. <i>subcostata</i>
VP2054	準絶滅危惧 (NT)	ミズマツバ	<i>Rotala mexicana</i>
VP2055	準絶滅危惧 (NT)	ミズキカシグサ	<i>Rotala rosea</i>
VP2056	準絶滅危惧 (NT)	マヤブシギ	<i>Sonneratia alba</i>
VP2057	準絶滅危惧 (NT)	ウスゲチョウジタデ	<i>Ludwigia epilobioides</i> subsp. <i>greatrexii</i>
VP2058	準絶滅危惧 (NT)	ミヤマハシカンボク	<i>Blastus cochinchinensis</i>
VP2059	準絶滅危惧 (NT)	ヒメノボタン	<i>Osbeckia chinensis</i>
VP2060	準絶滅危惧 (NT)	タチバナ	<i>Citrus tachibana</i>
VP2061	準絶滅危惧 (NT)	シマイヌザンショウ	<i>Zanthoxylum schinifolium</i> var. <i>okinawense</i>
VP2062	準絶滅危惧 (NT)	ムニンアオガンピ	<i>Wikstroemia pseudoretusa</i>
VP2063	準絶滅危惧 (NT)	コカイタネツケバナ	<i>Cardamine kokaiensis</i>
VP2064	準絶滅危惧 (NT)	コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i>
VP2065	準絶滅危惧 (NT)	ヤクシマツチトリモチ	<i>Balanophora yakushimensis</i>
VP2066	準絶滅危惧 (NT)	ニンドウバノヤドリギ	<i>Taxillus nigrans</i>
VP2067	準絶滅危惧 (NT)	ハマサジ	<i>Limonium tetragonum</i>
VP2068	準絶滅危惧 (NT)	サイコクヌカボ	<i>Persicaria foliosa</i> var. <i>nikaii</i>
VP2069	準絶滅危惧 (NT)	ヤナギヌカボ	<i>Persicaria foliosa</i> var. <i>paludicola</i>
VP2070	準絶滅危惧 (NT)	ナガバノウナギツカミ	<i>Persicaria hastatosagittata</i>
VP2071	準絶滅危惧 (NT)	ホソバイヌタデ	<i>Persicaria trigonocarpa</i>
VP2072	準絶滅危惧 (NT)	コギシギシ	<i>Rumex dentatus</i> subsp. <i>klotzschianus</i>
VP2073	準絶滅危惧 (NT)	イシモチソウ	<i>Drosera peltata</i> var. <i>nipponica</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP2074	準絶滅危惧 (NT)	ゲンカイミミナグサ	<i>Cerastium fischerianum</i> var. <i>molle</i>
VP2075	準絶滅危惧 (NT)	オオビランジ	<i>Silene keiskei</i> var. <i>keiskei</i>
VP2076	準絶滅危惧 (NT)	エゾゴゼンタチバナ	<i>Cornus suecica</i>
VP2077	準絶滅危惧 (NT)	リュウキュウコンテリギ	<i>Hydrangea liukiuensis</i>
VP2078	準絶滅危惧 (NT)	ヤクシマガクウツギ	<i>Hydrangea luteovenosa</i> var. <i>yakusimensis</i>
VP2079	準絶滅危惧 (NT)	ヤエヤマコクタン	<i>Diospyros egbertwalkerii</i>
VP2080	準絶滅危惧 (NT)	シマギンレイカ	<i>Lysimachia decurrens</i>
VP2081	準絶滅危惧 (NT)	ツルマンリョウ	<i>Myrsine stolonifera</i>
VP2082	準絶滅危惧 (NT)	サクラソウ	<i>Primula sieboldii</i>
VP2083	準絶滅危惧 (NT)	シナノコザクラ	<i>Primula tosaensis</i> var. <i>brachycarpa</i>
VP2084	準絶滅危惧 (NT)	イワザクラ	<i>Primula tosaensis</i> var. <i>tosaensis</i>
VP2085	準絶滅危惧 (NT)	ハイハマボックス	<i>Samolus parviflorus</i>
VP2086	準絶滅危惧 (NT)	シマイワウチワ	<i>Shortia rotundifolia</i>
VP2087	準絶滅危惧 (NT)	オオウメガサソウ	<i>Chimaphila umbellata</i>
VP2088	準絶滅危惧 (NT)	ゲンカイツツジ	<i>Rhododendron mucronulatum</i> var. <i>ciliatum</i>
VP2089	準絶滅危惧 (NT)	ツクシアケボノツツジ	<i>Rhododendron pentaphyllum</i> var. <i>pentaphyllum</i>
VP2090	準絶滅危惧 (NT)	ニコゲルリミノキ	<i>Lasianthus hispidulus</i>
VP2091	準絶滅危惧 (NT)	シチョウゲ	<i>Leptodermis pulchella</i>
VP2092	準絶滅危惧 (NT)	シマソナレムグラ	<i>Leptopetalum biflorum</i>
VP2093	準絶滅危惧 (NT)	シマザクラ	<i>Leptopetalum grayi</i>
VP2094	準絶滅危惧 (NT)	ヨコヤマリンドウ	<i>Gentiana glauca</i>
VP2095	準絶滅危惧 (NT)	チシマリンドウ	<i>Gentianella auriculata</i>
VP2096	準絶滅危惧 (NT)	シロウマリンドウ	<i>Gentianopsis yabei</i> var. <i>yabei</i>
VP2097	準絶滅危惧 (NT)	ムラサキセンブリ	<i>Swertia pseudochinensis</i>
VP2098	準絶滅危惧 (NT)	イヌセンブリ	<i>Swertia tosaensis</i>
VP2099	準絶滅危惧 (NT)	テングノコヅチ	<i>Tripterospermum japonicum</i> var. <i>involubile</i>
VP2100	準絶滅危惧 (NT)	チョウジソウ	<i>Amsonia elliptica</i>
VP2101	準絶滅危惧 (NT)	クサタチバナ	<i>Vincetoxicum acuminatum</i>
VP2102	準絶滅危惧 (NT)	フナバラソウ	<i>Vincetoxicum atratum</i>
VP2103	準絶滅危惧 (NT)	スズサイコ	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i>
VP2104	準絶滅危惧 (NT)	ケナシツルモウリンカ	<i>Vincetoxicum tanakae</i> var. <i>glabrescens</i>
VP2105	準絶滅危惧 (NT)	ヤマトレンギョウ	<i>Forsythia japonica</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP2106	準絶滅危惧 (NT)	オキナワソケイ	<i>Jasminum superfluum</i>
VP2107	準絶滅危惧 (NT)	ウスギモクセイ	<i>Osmanthus fragrans</i> var. <i>aurantiacus</i> f. <i>thunbergii</i>
VP2108	準絶滅危惧 (NT)	マルバノサウトウガラシ	<i>Deinostema adenocaulum</i>
VP2109	準絶滅危惧 (NT)	キクガラクサ	<i>Ellisiophyllum pinnatum</i> var. <i>reptans</i>
VP2110	準絶滅危惧 (NT)	ウルップソウ	<i>Lagotis glauca</i>
VP2111	準絶滅危惧 (NT)	ハマクワガタ	<i>Veronica javanica</i>
VP2112	準絶滅危惧 (NT)	イヌノフグリ	<i>Veronica polita</i> subsp. <i>lilacina</i>
VP2113	準絶滅危惧 (NT)	カワデシャ	<i>Veronica undulata</i>
VP2114	準絶滅危惧 (NT)	ゴマノハグサ	<i>Scrophularia buergeriana</i>
VP2115	準絶滅危惧 (NT)	ハマヒナノウスツボ	<i>Scrophularia grayanoides</i>
VP2116	準絶滅危惧 (NT)	タチキランソウ	<i>Ajuga makinoi</i>
VP2117	準絶滅危惧 (NT)	タニジャコウソウ	<i>Chelonopsis longipes</i>
VP2118	準絶滅危惧 (NT)	コケトウバナ	<i>Clinopodium multicaule</i> var. <i>yakusimense</i>
VP2119	準絶滅危惧 (NT)	キタダケオドリコソウ	<i>Lamium album</i> var. <i>kitadakense</i>
VP2120	準絶滅危惧 (NT)	マネキグサ	<i>Loxocalyx ambiguus</i>
VP2121	準絶滅危惧 (NT)	ヒメハッカ	<i>Mentha japonica</i>
VP2122	準絶滅危惧 (NT)	オオヤマジソ	<i>Mosla japonica</i> var. <i>hadae</i>
VP2123	準絶滅危惧 (NT)	ヤマジソ	<i>Mosla japonica</i> var. <i>japonica</i>
VP2124	準絶滅危惧 (NT)	ミズネコノオ	<i>Pogostemon stellatus</i>
VP2125	準絶滅危惧 (NT)	ミゾコウジュ	<i>Salvia plebeia</i>
VP2126	準絶滅危惧 (NT)	アツバタツナミソウ	<i>Scutellaria tsusimensis</i>
VP2127	準絶滅危惧 (NT)	テイネニガクサ	<i>Teucrium teinense</i>
VP2128	準絶滅危惧 (NT)	ゴマクサ	<i>Centranthera cochinchinensis</i> subsp. <i>lutea</i>
VP2129	準絶滅危惧 (NT)	スズメハコベ	<i>Microcarpaea minima</i>
VP2130	準絶滅危惧 (NT)	オオヒキヨモギ	<i>Siphonostegia laeta</i>
VP2131	準絶滅危惧 (NT)	イヌタヌキモ	<i>Utricularia australis</i>
VP2132	準絶滅危惧 (NT)	オオタヌキモ	<i>Utricularia macrorhiza</i>
VP2133	準絶滅危惧 (NT)	ヒメタヌキモ	<i>Utricularia minor</i>
VP2134	準絶滅危惧 (NT)	ムラサキミミカキグサ	<i>Utricularia uliginosa</i>
VP2135	準絶滅危惧 (NT)	タヌキモ	<i>Utricularia</i> × <i>japonica</i>
VP2136	準絶滅危惧 (NT)	タイワンサギゴケ	<i>Staurogyne concinnula</i>
VP2137	準絶滅危惧 (NT)	リュウキュウハナイカダ	<i>Helwingia japonica</i> subsp. <i>liukiensis</i>
VP2138	準絶滅危惧 (NT)	ムニンイヌツゲ	<i>Ilex matanoana</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP2139	準絶滅危惧 (NT)	シマモチ	<i>Ilex mertensii</i> var. <i>mertensii</i>
VP2140	準絶滅危惧 (NT)	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorus</i>
VP2141	準絶滅危惧 (NT)	ガガブタ	<i>Nymphoides indica</i>
VP2142	準絶滅危惧 (NT)	アサザ	<i>Nymphoides peltata</i>
VP2143	準絶滅危惧 (NT)	アソノコギリソウ	<i>Achillea alpina</i> subsp. <i>subcartilaginea</i>
VP2144	準絶滅危惧 (NT)	フクド	<i>Artemisia fukudo</i>
VP2145	準絶滅危惧 (NT)	ヒロハヤマヨモギ	<i>Artemisia stolonifera</i>
VP2146	準絶滅危惧 (NT)	タテヤマギク	<i>Aster dimorphophyllus</i>
VP2147	準絶滅危惧 (NT)	ブゼンノギク	<i>Aster hispidus</i> var. <i>koidzumianus</i>
VP2148	準絶滅危惧 (NT)	オオシマノジギク	<i>Chrysanthemum crassum</i>
VP2149	準絶滅危惧 (NT)	トカラノギク	<i>Chrysanthemum ornatum</i> var. <i>tokarense</i>
VP2150	準絶滅危惧 (NT)	キクタニギク	<i>Chrysanthemum seticuspe</i> f. <i>boreale</i>
VP2151	準絶滅危惧 (NT)	ワカサハマギク	<i>Chrysanthemum wakasaense</i>
VP2152	準絶滅危惧 (NT)	ナカガワノギク	<i>Chrysanthemum yoshinaganthum</i>
VP2153	準絶滅危惧 (NT)	サツママアザミ	<i>Cirsium austrokiushianum</i>
VP2154	準絶滅危惧 (NT)	オガサワラアザミ	<i>Cirsium boninense</i>
VP2155	準絶滅危惧 (NT)	チョウカイアザミ	<i>Cirsium chokaiense</i>
VP2156	準絶滅危惧 (NT)	ミヤマコアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>ibukiense</i>
VP2157	準絶滅危惧 (NT)	テリハアザミ	<i>Cirsium lucens</i>
VP2158	準絶滅危惧 (NT)	ヤクシマアザミ	<i>Cirsium yakusimense</i>
VP2159	準絶滅危惧 (NT)	モクビャクコウ	<i>Crossostephium chinense</i>
VP2160	準絶滅危惧 (NT)	イズハハコ	<i>Eschenbachia japonica</i>
VP2161	準絶滅危惧 (NT)	フジバカマ	<i>Eupatorium japonicum</i>
VP2162	準絶滅危惧 (NT)	リュウキュウツワブキ	<i>Farfugium japonicum</i> var. <i>luchuense</i>
VP2163	準絶滅危惧 (NT)	マンシュウスイラン	<i>Hololeion maximowiczii</i>
VP2164	準絶滅危惧 (NT)	ドロニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> subsp. <i>kitayamense</i>
VP2165	準絶滅危惧 (NT)	コスギニガナ	<i>Ixeridium yakuinsulare</i>
VP2166	準絶滅危惧 (NT)	カワラニガナ	<i>Ixeris tamagawaensis</i>
VP2167	準絶滅危惧 (NT)	モミジコウモリ	<i>Japonicalia kiusiana</i>
VP2168	準絶滅危惧 (NT)	ヒメウスユキソウ	<i>Leontopodium shinanense</i>
VP2169	準絶滅危惧 (NT)	コモチミミコウモリ	<i>Parasenecio auriculata</i> var. <i>bulbifera</i>
VP2170	準絶滅危惧 (NT)	ヤクシマコウモリ	<i>Parasenecio yakusimensis</i>
VP2171	準絶滅危惧 (NT)	タイキンギク	<i>Senecio scandens</i>
VP2172	準絶滅危惧 (NT)	ヤマザトタンポポ	<i>Taraxacum arakii</i>
VP2173	準絶滅危惧 (NT)	タカネコウリンカ	<i>Tephrosieris takedana</i>
VP2174	準絶滅危惧 (NT)	ウラギク	<i>Tripolium pannonicum</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP2175	準絶滅危惧 (NT)	チョウジガマズミ	<i>Viburnum carlesii</i> var. <i>bitchiense</i>
VP2176	準絶滅危惧 (NT)	コヤスノキ	<i>Pittosporum illicioides</i>
VP2177	準絶滅危惧 (NT)	エキサイゼリ	<i>Apodicarpum ikenoi</i>
VP2178	準絶滅危惧 (NT)	ヌマゼリ	<i>Sium suave</i> var. <i>nipponicum</i>
VP2179	情報不足 (DD)	マツバコケシダ	<i>Crepidomanes latemarginale</i>
VP2180	情報不足 (DD)	オトメイタチシダ	<i>Dryopteris melanocarpa</i> var. <i>elegans</i>
VP2181	情報不足 (DD)	コマチイワヒトデ	<i>Leptochilus elegans</i>
VP2182	情報不足 (DD)	イズモサイシン	<i>Asarum maruyamae</i>
VP2183	情報不足 (DD)	ヒゴコバイモ	<i>Fritillaria kiusiana</i>
VP2184	情報不足 (DD)	オクシリエビネ	<i>Calanthe puberula</i> var. <i>okushirensis</i>
VP2185	情報不足 (DD)	カラフトアツモリソウ	<i>Cypripedium calceolus</i>
VP2186	情報不足 (DD)	マルバオウセイ	<i>Polygonatum falcatum</i> var. <i>trichosantherum</i>
VP2187	情報不足 (DD)	シマクマタケラン	<i>Alpinia boninsimensis</i>
VP2188	情報不足 (DD)	オクトネホシクサ	<i>Paepalanthus kanaii</i>
VP2189	情報不足 (DD)	オキナワイ	<i>Juncus decipiens</i> f. <i>filiformis</i>
VP2190	情報不足 (DD)	チシマスズメノヒエ	<i>Luzula kjellmanniana</i>
VP2191	情報不足 (DD)	オオミネヒナノガリヤス	<i>Calamagrostis nana</i> subsp. <i>ohminensis</i>
VP2192	情報不足 (DD)	オニコメススキ	<i>Deschampsia cespitosa</i> var. <i>macrothyrsa</i>
VP2193	情報不足 (DD)	コツブチゴザサ	<i>Isachne globosa</i> var. <i>brevispicula</i>
VP2194	情報不足 (DD)	アイヌムギ	<i>Leymus komarovii</i>
VP2195	情報不足 (DD)	タニイチゴツナギ	<i>Poa yatsugataakensis</i>
VP2196	情報不足 (DD)	台湾ンヤマモガシ	<i>Helicia formosana</i>
VP2197	情報不足 (DD)	アポイミセバヤ	<i>Hylotelephium cauticola</i> f. <i>montana</i>
VP2198	情報不足 (DD)	タネガシマアリノトウグサ	<i>Haloragis walkeri</i>
VP2199	情報不足 (DD)	シバナム	<i>Smithia ciliata</i>
VP2200	情報不足 (DD)	エゾサンザシ	<i>Crataegus jozana</i>
VP2201	情報不足 (DD)	オオバサンザシ	<i>Crataegus maximowiczii</i>
VP2202	情報不足 (DD)	オトギリマオ	<i>Gonostegia pentandra</i> var. <i>hypericifolia</i>
VP2203	情報不足 (DD)	ツシマカンコノキ	<i>Glochidion puberum</i>
VP2204	情報不足 (DD)	シオカゼオトギリ	<i>Hypericum iwatelittorale</i>
VP2205	情報不足 (DD)	キタミオトギリ	<i>Hypericum kitamense</i>
VP2206	情報不足 (DD)	フウセンアカメガシワ	<i>Kleinhovia hospita</i>
VP2207	情報不足 (DD)	エチゴボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>toriiiana</i>
VP2208	情報不足 (DD)	ヒメタデ	<i>Persicaria erectominor</i>
VP2209	情報不足 (DD)	エゾセンノウ	<i>Silene fulgens</i>

掲載 No.	レッドリストカテゴリー	和名	学名
VP2210	情報不足 (DD)	エゾヤママンテマ	<i>Silene harae</i>
VP2211	情報不足 (DD)	ハリザクロ	<i>Catunaregam spinosa</i>
VP2212	情報不足 (DD)	ホウライアオカズラ	<i>Gymnema sylvestre</i>
VP2213	情報不足 (DD)	タイワンキジョラン	<i>Marsdenia formosana</i>
VP2214	情報不足 (DD)	サツマビャクゼン	<i>Vincetoxicum doianum</i>
VP2215	情報不足 (DD)	ハイルリソウ	<i>Nihon proliferum</i>
VP2216	情報不足 (DD)	ヒメクチバシグサ	<i>Bonnaya tenuifolia</i>
VP2217	情報不足 (DD)	トウシャジン	<i>Adenophora stricta</i> var. <i>stricta</i>
VP2218	情報不足 (DD)	オオナガバハグマ	<i>Ainsliaea oblonga</i> var. <i>latifolia</i>
VP2219	情報不足 (DD)	マシュウヨモギ	<i>Artemisia tsuneoi</i>
VP2220	情報不足 (DD)	ウサギソウ	<i>Ixeris chinensis</i> subsp. <i>chinensis</i>
VP2221	情報不足 (DD)	タンバヤブレガサ	<i>Syneilesis aconitifolia</i> var. <i>longilepis</i>
VP2222	情報不足 (DD)	ホソバノダケ	<i>Angelica decursiva</i> var. <i>angustiloba</i>

第5次レッドデータブック(維管束植物)の掲載内容

本書では、上記のレッドリストに掲載された種の概要を示すため、種ごとに以下の項目と内容を記載した。

(1) 判定対象種情報

1) 評価分科会名

判定対象種を評価した分科会名を記載した。

2) 高次分類群名

門名、科名を記載した。

3) 和名

標準和名を記載した。

4) 学名等

学名を記載した。

5) 日本における固有性

日本にのみ生育すると考えられる場合、「日本固有」と記載した。

(2) カテゴリー判定結果

1) カテゴリー区分

カテゴリーの記号と、名称として、「EX (絶滅)」、「EW (野生絶滅)」、「CR (絶滅危惧IA 類)」、「EN (絶滅危惧IB 類)」、「VU (絶滅危惧II類)」、「NT (準絶滅危惧)」、「DD (情報不足)」の、いずれかの区分を記載した。

2) カテゴリー判定基準

環境省レッドリストカテゴリーと判定基準により、どの判定基準によりカテゴリーが決定されたか明示するとともに、各判定基準適用の判断理由を記載した。

(3) 基礎情報

1) 形態

その種の体高、葉や繁殖器官の形状等について基本的事項を簡潔に記載した。近縁種がある場合はその識別点も含めた。

2) 生活史

生育の様式 (木本、草本等)、葉の生態的特性 (常緑、落葉等)、開花の時期等について判明している事項を記載した。

3) 生育環境

対象種の一般的な生育環境について簡潔に記載した。ただし、生育環境の現状や悪化状況などに関しては、本項目ではなく「現在の生育状況」に記載した。

4) 分布域

個体群が縮小する以前の健全と考えられる時代の分布域を、分かる範囲で記載した。近縁種がある場

合は分布域の違いを記述した。

※なお、NT、DD カテゴリーと判定された種は、上記 1) ～ 4) の項目を細分化せず、判明している事項をまとめて「基礎情報」として記載した。

(4) 現在の生育状況

各種の生育地の現況について記載した。基本的には国内の生育地について、後述する現地調査の集計結果に基づいた個体数の現存状況を記載した。過去と比べた現在の生育範囲の縮小の変遷等が判明している場合は、その内容も併記した。なお、現況が分からない場合は不明とした。

(5) 現地調査の集計結果

今回の 2018 年調査によって得られたメッシュデータのうち、「現存する株数」別のメッシュ数、並びに「存続を脅かす要因」として挙げられたものの上位 3 位までの件数を表として掲載した。

種によっては現況に変化がないと判断され、今回のレッドリスト作成に当たって現地調査を行っていないものがある。それらについては、2000 年、2007 年、2012 年のレッドデータブックやレッドリストの作成時に得られたデータを掲載し、その公表年を併記した。

表 1 現地調査の集計結果の表の例 (2018 年)

現地調査の集計結果 2018年調査								
【「現存する株数」別のメッシュ数】								
<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	2	0	0	0	5	3	2
【存続を脅かす要因上位3項目の件数】								
1番目			2番目			3番目		
要因 管理放棄			自然遷移			園芸採取		
件数 4			4			2		

1) 「現存する株数」別のメッシュ数

「第 5 次レッドリスト（維管束植物）作成の手順」の 2) で示した「<10、<50、<100、<1,000、<10,000、>10,000」の 6 段階の区分ごとのメッシュ数を示した。なお、2012 年調査では「>10,000」の区分を設けていたものの、調査対象とした全種にわたり「>10,000」の回答がなかったため、「>10,000」の欄を「－」とした。また、2000 年調査では、「<10、<100、<1,000、<10,000」の 4 段階の区分で調査が行われたため、「<50」及び「>10,000」の欄を「－」とした。

「合計」の欄には、上記 6 区分のメッシュ数の合計を示した。また、「その他」の欄には、2018 年、2012 年、2007 年調査における「未調査」、「未発見」との回答数、あるいは 2000 年調査における「個体数が不明」との回答数をそれぞれ示した。

2) 存続を脅かす要因上位3項目の件数

調査員は、1つのメッシュにつき最大3件まで、対象種の存続を脅かす要因を別表のコード番号で回答した。それらの件数を集計し、上位3件の要因名と件数を示した。なお、存続を脅かす要因についての回答は、1)で集計された「現存する株数」を記入したメッシュだけでなく、個体数の把握が困難であるため現存個体数に代わって集団数を記入したメッシュでも行われた※。そのため、各要因の件数には、これら両方のメッシュの回答結果が含まれる場合がある。

なお、この現地調査の集計結果のメッシュ数は、あくまでも調査票の回答のみに基づくものである。

※現地調査の集計結果の表には集団数を記入したメッシュの数は記載されていない。

(6) 特記事項

特筆すべき学術的重要性や、保護の意義、必要性等について記載した。また、分類学的に独立種としての実態が疑われる種や、前回の見直し以降、あるいはレッドリスト公表後に、学名又は和名の変更等につながる分類群の変更（種・亜種の統合等）があった種については、この項目にその旨を記載した。未記載種（学名が正式に出版されていない、あるいは命名規約の要件を完全には満たしていない種）の場合は、その旨も記載した。

(7) 旧レッドリストカテゴリーと掲載名

過去のレッドリストからのカテゴリー及び学名並びに和名の変更の経過を、公表年次とともに記載した。

(8) 都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況

2023年3月時点における47都道府県のレッドリスト・レッドデータブックに掲載されているカテゴリーについて記載した。なお、都道府県により対象種の分類体系が異なる場合があるため注意が必要である。

(9) 保護に係る法令指定状況

2023年3月時点における、種の保存法に基づく国内希少野生動植物の指定状況、保護増殖事業計画策定状況、国指定天然記念物指定状況について記載した。

(10) 参考文献

原則として、カテゴリー判定の根拠になった文献（最近の分布や生育地の状況、推移等がわかるもの）を中心に本書を活用する方に役立つと考えられる文献名を掲載した。また、未記載種であっても種・亜種・変種（sp., subsp., var.）レベルで評価されているものは、学名並びに和名表記の根拠、及び既知種とは異なる種とされている根拠となる文献を挙げた。

(11) アセスメントサマリー

カテゴリー判定結果、存続を脅かす要因及び保護に係る法令指定状況（国指定のみ）について定型の英文を記載した。

(12) 解説執筆者

レッドデータブックの執筆者として「日本植物分類学会」と記載した。

※第5次レッドデータブックでは、NT、DD カテゴリーと判定された種について、上記の（4）及び（5）の項目は掲載されていない。

別表 存続を脅かす要因とコード番号

要因	コード	要因	コード
森林伐採	11	農薬汚染	32
池沼開発	12	園芸採取	41
河川開発	13	薬用採取	42
海岸開発	14	人の踏みつけ	51
湿地開発	15	シカ食害	52-1
草地開発	16	その他の動物食害	52-2
石灰採掘	17	管理放棄	53
ゴルフ場	21	自然遷移	54
スキー場	22	火山噴火	55
土地造成	23	帰化競合	56
道路工事	24	産地局限	61
ダム建設	25	その他	71
水質汚濁	31	不明	99

■協力者一覧(敬称略)

第5次レッドリスト・レッドデータブックは、下記の方々のご協力によって作成されたものです。ご協力いただきました方々のお名前を掲載し、厚く御礼申し上げます。

愛知植物の会

青木 修一

青木 雅夫

赤井 伸江

赤木 康

安藝 昌彦

秋丸 浩毅

秋山 幸也

秋山 敬典

浅井 幹夫

浅井 元朗

浅岡 賢一

浅川 幸子

浅見 卓

安嶋 隆

芦谷 美奈子

東 義詔

跡部 浩一

阿部 篤志

阿部 利夫

阿部 裕紀子

天野 誠

天野 安夫

安見 珠子

安藤 志郎

安東 愛美

安藤 義範

五百川 裕

伊賀 和子

五十嵐 彰

五十嵐 博

猪狩 資子

池内 伸

池田 十三生(故人)

池田 博

生駒 敬

石川 真一

石川 慎吾

石川 美智子

石澤 岩央

石澤 進

石沢 成実

石須 秀知

石田 賢也

石田 未基

石田 祐子

石貫 泰三

石橋 正行

石間 妙子

泉 治夫

磯田 進

井田 秀行

市川 正人

一澤 麻子

市原 通雄

井手 義信

伊藤 彩乃

伊藤 幸子

伊藤 静夫

伊藤 隆之(故人)

伊東 拓朗

稲垣 典年

井上 喜美子

井上 茂

井上 千鳥

井上 哲也

井上 伸之

猪上 信義

井上 英幸

井上 雅仁

井上 康彦

猪俣 健之介

茨木 靖

岩切 勝彦

岩瀬 文人

岩田 豊太郎

岩槻 秀明

岩村 政浩

岩本 浩二

植田 周平

上田 洋史

上野 勝典

上野 雄規

上野 由貴枝

上村 恭子

魚澤 伊佐子

宇賀 裕生

薄井 創太

薄葉 満

宇田 英一

内野 秀重

内山 治男

宇都宮 靖博

梅原 徹

江頭 一政

江口 秋美

榎 弘實(故人)

榎本 敬

榎本 博之

恵美 泰子

遠藤 優年

遠藤 雄一

大上 幹彦(故人)
大越 秀樹
太田 道人
大平 満
大高 茂範
大竹 邦暁
大塚 一紀
大塚 孝一
大西 憲太郎
大西 亘
大野 清志
大野 美香
大畑 弘
大原 隆明
大日向 貞英
大洞 浩一(故人)
大森 威宏
大森 文雄
大屋 哲
大類 貞夫
岡崎 綾子
岡崎 純子
岡田 祐哉
岡山大学資源植物科学研究所
小川 信正
小川 誠
沖田 貞敏
荻山 恒弘
小倉 洋志
小澤 潤
押岡 茂紀
小代 連枝
尾関 雅章
織田 二郎
小田 毅
乙幡 康之
鬼丸 和幸
小野 ふみゑ

尾上 聖子
小幡 和男
尾鼻 陽介
尾本 靖高
小山田 智彰
折笠 常弘
御宮知 伸彦
甲斐 数美
垣内 信一
葛西 英明
片野 光一
片野 伸雄
片山 千賀志
加藤 沙織
加藤 英寿
加藤 ゆき恵
角田 まさ子
神奈川県植物誌調査会
金子 洋平
金光 浩伸
鍋木 紘一
上赤 博文
神川 建彦
上條 隆志
神山 隆之
刈谷 寿
仮屋崎 忠
狩山 俊悟
川上 美保子
川口 大朗
川住 清貴
川田 如久
川竹 守
川内野 善治
川浪 誠
河野 耕三
川端 一弘
川原 勝征

川村 恒介(故人)
河室 信義
木内 静子
菊地 卓弥
菊池 健
菊間 泰氾
北川 博正
木下 覺
木村 宏(故人)
木村 雅之
木村 陽子
木村 和喜夫
清末 幸久
草加 伸吾
楠瀬 雄三
沓沢 周弘
國井 秀伸
国京 潤一
國永 知裕
久保 紘史郎
熊谷 信孝
久米 修
倉敷市立自然史博物館
倉俣 武男
栗山 由佳子
黒岩 展子
黒岩 宣仁
黒川 康子
黒木 秀一
黒崎 史平
黒田 明穂
桑田 健吾
源内 伸秀
小池 周司
小池 英毅
鴻上 泰
郷原 匡史
古賀 常司

古賀 保匡
小島 邦弘
五所野尾 優
小玉 愛子
児玉 勉
後藤 雅文
後藤 美和子
小西 民人
古場田 良次(故人)
小林 健人
小林 敏男
小林 禧樹
小林 則夫
小林 正明
駒井 千恵子
駒倉 政夫
小松澤 靖
小峯 洋一
権藤 啓子
近藤 芳子
斎藤 俊治
斉藤 政美
斉藤 弥生
齋藤 佑樹
斎藤 芳夫
齋藤 若菜
酒井 恵子
酒井 藤夫
酒井 泰一
坂口 竣弥
坂下 諭
坂田 成孝
坂本 彰
阪本 英樹
佐久間 大輔
櫻井 幸枝
櫻井 信夫
桜井 八州彦

櫻木 成二
櫻庭 春彦
櫻庭 三恵
笹川 通博
篠筥 公隆
佐々木 純一
佐々木 菜摘
佐々木 博昭
佐治 達三
佐治 まゆみ
佐田 博子
佐竹 恵一
咲花 文隆
佐藤 明
佐藤 謙
佐藤 健司
佐藤 滋子
佐藤 省三
佐藤 孝彦
佐藤 民雄
佐藤 千芳
佐藤 広行
佐藤 雅彦
佐藤 美紀雄
佐藤 三千代
佐藤 光雄
佐藤 康
沢 和浩
澤江 宏
汐田 達哉
志賀 隆
志鎌 節郎
七黒 勝二郎
篠原 弘一
篠原 涉
柴田 一樹
柴田 貴行
嶋崎 太郎

清水 修
清水 敬司
清水 淳子
清水 英彦
下田 路子
首藤 光太郎
首藤 房子
首藤 昌子
莊司 健
白井 伸和
城坂 結実
信太 富夫
神代植物公園植物多様性センター
末廣 喜代一
菅 昭和
菅沼 住子
菅沼 孝之
杉浦 まゆみ
杉野 孝雄
杉山 多喜子
鈴木 武
鈴木 暁(故人)
鈴木 まほろ
須田 隆一
須藤 秋夫
須山 知香
瀬井 純雄
清正 斉
瀬尾 明弘
関 太郎
関田 泰子
瀬口 三樹弘
薛 孝夫
瀬戸 剛
世羅 徹哉
芹沢 俊介
園部 力雄
平 誠

高家 和彦
高木 政喜
高木 真人
高木 美奈子
高島 路久
高嶋 八千代
高杉 茂雄
高田 順
高田 みちよ
田金 秀一郎
高野 温子
高野 憲太郎
高野 祐晃
高橋 晃
高橋 信弥
高橋 英樹
高橋 弘
高橋 眞起
高橋 和吉
高原 郁子
高原 豊
高松 隆吉
高山 浩司
滝口 政彦
瀧崎 吉伸
滝澤 玲子
武内 一恵
竹内 清治
竹内 佐枝子
竹内 紀夫
竹内 久宜
武田 茂男
竹田 正博
竹原 明秀
竹村 健一
田代 俊夫
田城 松幸(故人)
田城 光子

多田 雅充
楯 誠治
田中 徳久
田中 正人
田中 光彦
田中 實
田邊 由紀
田畑 伊織
田畑 満大
田丸 豊生
田村 淳
田村 晋
田屋 裕樹
俵 京子
丹後 亜興
千々布 義朗
千葉 悟志
月田 禮次郎
辻 寛文
辻井 要介
辻野 亮
津島 辰雄
堤 久
常木 静河
坪田 博美
寺峰 孜
寺村 朋輝
寺森 正行
藤内 広三
時岡 昭人
得居 修(故人)
登坂 裕一
土肥 健司
戸町 チヅル
富沢 由美子
富永 明良
富永 藤泰
友坂 豊

土門 尚三
内藤 麻子
内藤 宇佐彦
中 優
長井 幸雄
永井 要明
長池 卓男
仲川 邦広
中川 清太郎
中川 博之
中川 幸夫
中込 司郎
永坂 正夫
中崎 保洋
長島 永幸
中島 義則
中田 政司
中西 弘樹
中野 真理子
中平 勝也
中平 謙一
永松 大
長棟 光祐
中村 彰夫
中村 香代子
中村 剛
中村 幸世
中村 千賀
中山 洌
中山 博子
成田 愛治
成迫 平五郎
成島 明
新沼 好一
西井 武秀
西岡 登
西田 謙二
西野 友子

西村 明洋
新田 紀敏
二瓶 重和
沼宮内 信之
根本 秀一
能見 三郎
野口 達也
野村 外喜子(故人)
蘆原 桂
橋越 清一
橋本 季正
蓮沼 憲二
長谷川 順一
長谷川 匡弘
長谷川 泰洋
花井 隆晃
濱野 一郎
早川 宗志
林 二良(故人)
林 鈴以
早瀬 裕也
原 千代子
半田 俊彦
伴ノ内 珠喜
日朝 直樹
比嘉 基紀
東出 幸真
久江 信雄
久藤 広志
久本 洋子
姫野 諒太郎
兵頭 正治(故人)
平 恵子
平野 修生
平野 康美
平山 大輔
蛭間 啓
廣 達也

深瀬 元靖
深谷 治
福岡 豪
福岡 義洋
福田 良市
福永 一美
福原 達人
福原 宏
福松 東一
藤井 聖子
藤井 良造
藤尾 正博
藤岡 ユ力
藤川 和美
藤田 繁治
藤田 淳一
藤田 弘道
藤田 玲
藤富 信之
藤原 文子
藤本 勝典
藤森 祥平
古池 博
古川 眞智子
星 直斗
星 義男
星山 耕一
細川 音治(故人)
細川 公子
細川 健太郎
細谷 治夫
堀江 健二
堀江 満
本多 郁夫
本多 丘人
本多 隆
本間 大貴
前崎 光生

前田 綾子
前田 雄一
牧 静枝
牧野 彰吾
眞崎 久
眞崎 博(故人)
真柴 茂彦
増尾 宏枝
増田 和明
増田 証人
松井 淳
松井 健一
松井 茂生
松井 千代子
松井 浩
松井 宏光
松井 雅之
松浦 雄三
松尾 美和子
松岡 成久
松田 貴子
松田 朋子
松永 和久(故人)
松村 雅文
松本 功
松本 淳
松本 忠博(故人)
松本 満夫
真鍋 徹
曲渕 詩織
丸岡 道行
丸野 勝敏
丸山 健一郎
丸山 友一
三浦 勝美
三浦 憲人
三上 忠仁
三瓶 ゆりか

三島木 進
水野 重紀
三谷 有幸
御手洗 望
光田 重幸
南 敦
南谷 忠志
箕浦 博之
蓑田 清隆
三宅 貞敏
宮崎 一夫
宮本 恵子
宮本 誠一郎
宮本 太
向 哲嗣
村田 章
村長 昭義
村松 正雄
持田 誠
望月 一二
本池 祐貴
元島 清人
森 幸子
森田 敬三
森田 奈菜
森田 秀一
森廣 信子
森本 範正
八板 美智夫
柳浦 正夫
矢口 末吉
矢島 民夫
谷城 勝弘
安 昌美
安田 祥子
矢田貝 繁明
矢野 愛子
矢野 啓介

矢部 幸太
山口 和洋
山口 昌子
山崎 工
山崎 俊哉
山崎 憲男
山崎 治行
山崎 真実
山路 武夫(故人)
山下 純
山下 俊之
山下 寿之
山下 大明
山下 裕
山下 博
山下 由美
山住 一郎
山田 一郎
山田 寛爾
山田 恒人
山田 利明
山中 直秋
山根 明
山根 文人
山ノ内 崇志
山室 一樹
山本 薫
山本 和彦
山本 航平
山本 斗志江
山本 伸子
山森 茂
山脇 和也
湯浅 保雄
湯澤 陽一
横川 昌史
横田 岳人
横山 正弘

横山 美穂
吉井 広始
吉川 誠
吉沢 敏江
吉田 一右
吉中 弘介
吉野 由紀夫(故人)
吉原 博司
米山 競一
依光 忠宏
林 蘇娟
若杉 集
若杉 孝生(故人)
若杉 美仁
我妻 尚広
若原 正博
脇 悠太
脇坂 良子
鷲尾 和行
和田 登志子
渡辺 定路
渡部 秀哉
渡辺 長敬
渡邊 将人
渡邊 祐紀

第5次レッドデータブック（維管束植物）各種の解説

コウヨウザンカズラ

Phlegmariurus cunninghamioides

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は疎らに二叉分枝しながら垂下。葉は1本の単条の脈をもつ小葉で、二形性があり、長さ 8.0-13 mm、線状披針形、鋭尖頭、全縁、葉の色は濃黄緑色。孢子囊穂をつくらない。

【生活史】

常緑。着生（樹上）。

【生育環境】

樹幹に生育する。

【分布域】

琉球列島（奄美大島）。国外では台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

1959 年竣工の新住用川ダム（鹿児島県奄美市）建設後に一度採集されたとの情報があるが、その後再発見できていないため、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番 目	2 番 目	3 番 目
要因 河川開発	ダム建設	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウヨウザンカズラ	<i>Lycopodium cunninghamioides</i>	EX
第4次 2019:	コウヨウザンカズラ	<i>Lycopodium cunninghamioides</i>	EX
第4次 2018:	コウヨウザンカズラ	<i>Lycopodium cunninghamioides</i>	EX
第4次 2017:	コウヨウザンカズラ	<i>Lycopodium cunninghamioides</i>	EX
第4次 2015:	コウヨウザンカズラ	<i>Lycopodium cunninghamioides</i>	EX
第4次:	コウヨウザンカズラ	<i>Lycopodium cunninghamioides</i>	EX
第3次:	コウヨウザンカズラ	<i>Lycopodium cunninghamioides</i>	EX
第2次:	コウヨウザンカズラ	<i>Lycopodium cunninghamioides</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Phlegmariurus cunninghamioides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Phlegmariurus cunninghamioides* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	River development, Dam construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネハナワラビ

Botrychium boreale

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。担孢子体と担栄養体が立体的につき、共通柄で支持される。担栄養体は1回羽状複生～2回羽状中裂、柄の長さ0.2-0.9 cm、葉身長2.2-3.2 cm、五角形、最終裂片の辺縁は粗い鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は緑色。担孢子体は、穂状に分枝、柄の長さ1.6 cm、孢子囊穂の長さ2.7 cm。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

山地の林床に生育する。

【分布域】

北海道（有珠山）。国外では、ロシア、中国（内モンゴル）、ヨーロッパ、北米（グリーンランド）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

再発見されておらず、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2000年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	—	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネハナワラビ	<i>Botrychium boreale</i>	EX
第4次 2019:	タカネハナワラビ	<i>Botrychium boreale</i>	EX
第4次 2018:	タカネハナワラビ	<i>Botrychium boreale</i>	EX
第4次 2017:	タカネハナワラビ	<i>Botrychium boreale</i>	EX
第4次 2015:	タカネハナワラビ	<i>Botrychium boreale</i>	EX
第4次:	タカネハナワラビ	<i>Botrychium boreale</i>	EX
第3次:	タカネハナワラビ	<i>Botrychium boreale</i>	EX
第2次:	タカネハナワラビ	<i>Botrychium boreale</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅種(Ex)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Botrychium boreale has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Botrychium boreale* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to

be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イオウジマハナヤスリ

Ophioglossum parvifolium

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立（塊状）で、根生不定芽を出す。担孢子体と担栄養体が立体的につき、共通柄で支持される。担栄養体は、単葉、柄の長さは不明瞭、葉身長 0.8-1.2 cm、長楕円形～狭長楕円形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は厚い革質、葉の色は黄緑色。担孢子体は、単葉（棒状）、柄の長さ 0.9-2.2 cm、孢子囊穂の長さ 0.3-0.9 cm。

【生活史】

常緑？地上生。

【生育環境】

明るい草地に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（硫黄島）に分布。国外では、中国、東南アジア、南アジア、南太平洋、ハワイに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

1930 年代に採集された標本が存在するが、2004 年の小笠原諸島硫黄島における現地調査でも再発見されなかったため、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イオウジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvifolium</i>	EX
第4次 2019:	イオウジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvifolium</i>	EX
第4次 2018:	イオウジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvifolium</i>	EX
第4次 2017:	イオウジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvifolium</i>	EX
第4次 2015:	イオウジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvifolium</i>	EX
第4次:	イオウジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvifolium</i>	EX
第3次:	イオウジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvifolium</i>	EX
第2次:	イオウジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum nudicaule</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Ophioglossum parvifolium has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ophioglossum parvifolium* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to

be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオイワヒメワラビ

Hypolepis tenuifolia

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は3回羽状複生～4回羽状深裂、10-30対の側羽片があり、葉柄は長さ35-150 cm、葉身は長さ25-150 cm、三角形～三角状卵形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁、葉の色は淡緑色、葉質は紙質。孢子嚢群は裂片の辺縁の脈端につき、円形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の明るい林床や林縁に生育。

【分布域】

琉球列島（沖縄島）・小笠原諸島（母島・南硫黄島）、中国・台湾・東南アジア・オーストラリア・南太平洋に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

沖縄島の1ヶ所で採集された記録があるが、最近では再確認されていない。絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオイワヒメワラビ	<i>Hypolepis tenuifolia</i>	EX
第4次 2019:	オオイワヒメワラビ	<i>Hypolepis tenuifolia</i>	EX
第4次 2018:	オオイワヒメワラビ	<i>Hypolepis tenuifolia</i>	EX
第4次 2017:	オオイワヒメワラビ	<i>Hypolepis tenuifolia</i>	EX
第4次 2015:	オオイワヒメワラビ	<i>Hypolepis tenuifolia</i>	EX
第4次:	オオイワヒメワラビ	<i>Hypolepis tenuifolia</i>	EX
第3次:	オオイワヒメワラビ	<i>Hypolepis tenuifolia</i>	EX
第2次:	オオイワヒメワラビ	<i>Hypolepis tenuifolia</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hypolepis tenuifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hypolepis tenuifolia* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウスバシダモドキ

Tectaria dissecta

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は短く、直立。葉は2回羽状深裂、葉柄は長さ20-40 cm、葉身は長さ45-60 cm、三角状長卵形。孢子嚢群は円形、包膜は円腎形。

【生活史】

常緑の多年草。

【生育環境】

湿った林床に生育する。

【分布域】

沖縄県中部に分布。国外では、台湾、フィリピン、マレーシア、インド、ポリネシア、オーストラリアに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

沖縄島の1ヶ所で採集された標本があるのみであり、再発見されていない。絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウスバシダモドキ	<i>Tectaria dissecta</i>	EX
第4次 2019:	ウスバシダモドキ	<i>Tectaria dissecta</i>	EX
第4次 2018:	ウスバシダモドキ	<i>Tectaria dissecta</i>	EX
第4次 2017:	ウスバシダモドキ	<i>Tectaria dissecta</i>	EX
第4次 2015:	ウスバシダモドキ	<i>Tectaria dissecta</i>	EX
第4次:	ウスバシダモドキ	<i>Tectaria dissecta</i>	EX
第3次:	ウスバシダモドキ	<i>Tectaria dissecta</i>	EX
第2次:	ウスバシダモドキ	<i>Tectaria dissecta</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tectaria dissecta has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tectaria dissecta* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒトツバノキシノブ

Pyrrosia angustissima

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は長く横走り、葉柄は短く、ほとんど基部まで葉身が流れる。葉身は長さ 5-12 cm、線形、葉縁は裏面に向けて巻き込まれ、そのため葉の幅は 1.5-3.5 mm となる。葉の両面には星状毛がある。孢子嚢群は網目の外側の遊離脈につき、中肋の両側に各 1 列線状に配列する。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

乾燥地等に生育。

【分布域】

徳島県、中国中南部・台湾・タイに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

1948 年に落下した樹木の枝に着生していた個体が採集されて以来確認されておらず、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒトツバノキシノブ	<i>Pyrrosia angustissima</i>	EX
第4次 2019:	ヒトツバノキシノブ	<i>Pyrrosia angustissima</i>	EX
第4次 2018:	ヒトツバノキシノブ	<i>Pyrrosia angustissima</i>	EX
第4次 2017:	ヒトツバノキシノブ	<i>Pyrrosia angustissima</i>	EX
第4次 2015:	ヒトツバノキシノブ	<i>Pyrrosia angustissima</i>	EX
第4次:	ヒトツバノキシノブ	<i>Pyrrosia angustissima</i>	EX
第3次:	ヒトツバノキシノブ	<i>Pyrrosia angustissima</i>	EX
第2次:	ヒトツバノキシノブ	<i>Pyrrosia angustissimum</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 岩槻邦男（編），1992．日本の野生植物 シダ．311pp., 192pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pyrrosia angustissima has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pyrrosia angustissima* is listed as EX under criteria ①.
The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメソクシンラン

Aletris scopulorum

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根出葉は長さ 5-15 cm、ふつう 3 個、まれに 4 個、線形、黄緑色。花茎は高さ 10-28 cm、1-2 個の小型の葉がある。花は穂状花序に 3-14 個がまばらにつく。花被は 6 個で、白黄緑色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山麓の流れの縁に生育。

【分布域】

四国（香川県）、中国南東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

1979 年に自生が記録されたが、それ以後 1980 年代に自然遷移が原因で消滅した。自生地はそのまま残されており、毎年確認が行われているが再発見されていないため、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメソクシンラン	<i>Aletris makiyataroi</i>	EX
第4次 2019:	ヒメソクシンラン	<i>Aletris makiyataroi</i>	EX
第4次 2018:	ヒメソクシンラン	<i>Aletris makiyataroi</i>	EX
第4次 2017:	ヒメソクシンラン	<i>Aletris makiyataroi</i>	EX
第4次 2015:	ヒメソクシンラン	<i>Aletris makiyataroi</i>	EX
第4次:	ヒメソクシンラン	<i>Aletris makiyataroi</i>	EX
第3次:	ヒメソクシンラン	<i>Aletris makiyataroi</i>	EX
第2次:	ヒメソクシンラン	<i>Aletris makiyataroi</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

香川県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aletris scopulorum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aletris scopulorum* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to

be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミドリシャクジョウ

Burmannia coelestris

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-25 cm。茎は単立して葉をまばらにつける。根生葉は狭卵形、長さ 1-1.5 mm。茎葉は狭卵形、長さ 1-2.5 mm。花は淡青色で、花茎の先に 1-3 個つく。花筒に著しい翼がある。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿った草地や砂地に生育する。

【分布域】

琉球（西表島）に分布。国外では、中国（蘭嶼）、インドシナ、タイ、マレーシア、インドネシア、ニューギニア、ミャンマー、バングラデシュ、インド、ネパールに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

1950 年代に採集されたが、その後の調査で自生地をくまなく探しても見つからないため、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミドリシャクジョウ	<i>Burmannia coelestris</i>	EX
第4次 2019:	ミドリシャクジョウ	<i>Burmannia coelestris</i>	EX
第4次 2018:	ミドリシャクジョウ	<i>Burmannia coelestris</i>	EX
第4次 2017:	ミドリシャクジョウ	<i>Burmannia coelestris</i>	EX
第4次 2015:	ミドリシャクジョウ	<i>Burmannia coelestris</i>	EX
第4次:	ミドリシャクジョウ	<i>Burmannia coelestris</i>	EX
第3次:	ミドリシャクジョウ	<i>Burmannia coelestris</i>	EX
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Burmannia coelestris has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Burmannia coelestris* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キリシマタヌキノショクダイ

*Thismia tuberculata***カテゴリー判定結果** 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 3-5 m で、少数の鱗片葉がまばらにつく。鱗片葉は卵形～狭卵形、長さ 2-3 mm。花は淡褐色でつぼ型。花筒と花被片には一面にいぼのような突起がある。

【生活史】

菌従属栄養性の多年草。

【生育環境】

照葉樹林下の落葉の下に生育する。

【分布域】

鹿児島県霧島神宮の裏山（海拔 520 m）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

再発見の可能性は低いため、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	2	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キシマタヌキノシヨクダイ	<i>Thismia tuberculata</i>	EX
第4次 2019:	キシマタヌキノシヨクダイ	<i>Thismia tuberculata</i>	EX
第4次 2018:	キシマタヌキノシヨクダイ	<i>Thismia tuberculata</i>	EX
第4次 2017:	キシマタヌキノシヨクダイ	<i>Thismia tuberculata</i>	EX
第4次 2015:	キシマタヌキノシヨクダイ	<i>Thismia tuberculata</i>	EX
第4次:	キシマタヌキノシヨクダイ	<i>Thismia tuberculata</i>	EX
第3次:	キシマタヌキノシヨクダイ	<i>Thismia tuberculata</i>	EX
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅(EX-r)] 鹿児島県[絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thismia tuberculata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thismia tuberculata* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

台湾アオイラン

Acanthephippium striatum

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は直立し、数個が接して並び、棍棒状で、長さ 5-15 cm、先に 1 葉をつける。葉は長楕円形、長さ 20-30 cm、幅 7-10 mm、5 脈がある。総状花序は側生し、3-5 花をつける。花は白色で、淡紫色の細い線が入る。萼片と花弁は約半分癒合し筒状となり、長さ 3-4 cm、先は平開する。唇弁は白色で先端は紅紫色、長さ 3 cm、矢形で、先は浅く 3 裂する。台湾ショウキランやエンレイショウキランとは、本種は葉が 1 枚であること、花色が白く淡紫の筋が入る点で区別できる。

【生活史】

常緑の地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

沖縄島・屋久島、台湾・インド・タイ・インドシナ・ジャワ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2007 年調査では屋久島（少なくとも 2000 年以前）、沖縄県に自生していたが、園芸採取によって絶滅した。その後、再発見されていないため、絶滅と判断した。沖縄県の分布については、沖縄生物学会誌に記録されたのが最初で最後の記録である。栽培されている個体が残されている可能性がある。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾アオイラン	<i>Acanthephippium striatum</i>	EX
第4次 2019:	台湾アオイラン	<i>Acanthephippium striatum</i>	EX
第4次 2018:	台湾アオイラン	<i>Acanthephippium striatum</i>	EX
第4次 2017:	台湾アオイラン	<i>Acanthephippium striatum</i>	EX
第4次 2015:	台湾アオイラン	<i>Acanthephippium striatum</i>	EX
第4次:	台湾アオイラン	<i>Acanthephippium striatum</i>	EX
第3次:	台湾アオイラン	<i>Acanthephippium striatum</i>	EX
第2次:	台湾アオイラン	<i>Acanthephippium striatum</i>	EW
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 豊見山元・播磨保治，1992. 琉球列島植物分布資料 8. 沖縄生物学会誌，30: 75-77.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Acanthephippium striatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Acanthephippium striatum* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ジンヤクラン

Arachnis labrosa

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 30-50 cm、葉を2列に互生、葉は革質で、広線形、長さ 20 cm、先は2裂する。総状花序は腋生し、長さ 30-150 cm になり、時に分枝し、数～多花をつける。花は径 3 cm、黄緑色で、紅紫色の斑紋が入る。萼片と花弁は長さ 1.5-1.9 cm、線状倒披針形。唇弁は淡黄色、上面に赤褐色の斑紋が入り、長さ 7-9 mm、舌状で3裂し、基部に円柱形の距がある。

【生活史】

常緑で着生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林内の樹幹に着生する。

【分布域】

石垣島、台湾・中国南部・ヒマラヤ・タイ・ベトナム。国内ではかつて1度記録されただけで、近年は全く確認されていない。

現在の生育状況

【生育地の現況】

石垣島において1970年に標本（鹿大収蔵）が1度採集された記録があるだけで、現在は再確認できていないため、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ジンヤクラン	<i>Renanthera labrosa</i>	EX
第4次 2019:	ジンヤクラン	<i>Renanthera labrosa</i>	EX
第4次 2018:	ジンヤクラン	<i>Renanthera labrosa</i>	EX
第4次 2017:	ジンヤクラン	<i>Renanthera labrosa</i>	EX
第4次 2015:	ジンヤクラン	<i>Renanthera labrosa</i>	EX
第4次:	ジンヤクラン	<i>Renanthera labrosa</i>	EX
第3次:	ジンヤクラン	<i>Renanthera labrosa</i>	EX
第2次:	ジンヤクラン	<i>Renanthera (=Arachnis) labrosa</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Arachnis labrosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arachnis labrosa* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシサカネラン

Neottia kiusiana

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 6-21 cm、直径 3.5-4 mm、鞘状葉は 3-5 個つく。花序は総状で 10-28 個の花からなり、長さ 4.6-13 cm、花柄はまばらに腺毛がある。花は褐色を帯びた汚白色。エゾサカネランに似るが、草丈が低く、花軸と子房に腺毛があり、唇弁の先の裂片が短い。また、サカネランにも似るが、サカネランの草丈は高く、茎と花柄子房の腺毛は密で、唇弁の先の裂片は細長く両側に開き、柱頭裂片の発達も少ない。

【生活史】

菌従属栄養植物で地生の多年草。花期は 5-6 月頃。

【生育環境】

生育していた当時は、常緑広葉樹林の林床にみられた。

【分布域】

本州（千葉県・愛知県）・九州（鹿児島県）、済州島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2012 年調査では確実な自生を確認できなかった。報告のあった 2 メッシュは、絶滅と未発見であった。その後も生育が確認されておらず、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	ツクシサカネラン	<i>Neottia kiusiana</i>	EX
第4次 2019:	ツクシサカネラン	<i>Neottia kiusiana</i>	EX
第4次 2018:	ツクシサカネラン	<i>Neottia kiusiana</i>	EX
第4次 2017:	ツクシサカネラン	<i>Neottia kiusiana</i>	EX
第4次 2015:	ツクシサカネラン	<i>Neottia kiusiana</i>	EX
第4次:	ツクシサカネラン	<i>Neottia kiusiana</i>	EX
第3次:	ツクシサカネラン	<i>Neottia kiusiana</i>	CR
第2次:	ツクシサカネラン	<i>Neottia kiusiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 愛知県[絶滅(EX)] 鹿児島県[絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Hashimoto, T. and S. Hatsushima, 1991. A new *Neottia* (Orchidaceae) species from Kyushu, Japan. *Annals of the Tsukuba Botanical Garden*, 10: 41-44.
- Yukawa, T., Yagame, T., Lee, N.S., 2009. A Taxonomic Reappraisal of *Neottia* (Orchidaceae) from East Asia. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series B (Botany)*, 35: 57-62.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Neottia kiusiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Neottia kiusiana* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

ツシマラン

Odontochilus poilanei

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 8-15 cm。地中に分枝した地下茎があり、赤褐色。萼裂片と側花弁は赤色、唇弁は濃黄色。唇弁の縁は波状、全体に毛が生える。

【生活史】

菌従属栄養植物で地生の多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

山中の林下に生育する。

【分布域】

長崎県（対馬）、中国南部～インドシナ。国内では発見以来、再発見されていない。

現在の生育状況

【生育地の現況】

1976 年 10 月に開花した 2 個体が確認され、その後数年は発生していた。1980 年代以降、自生地では見つからないため、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツシマラン	<i>Odontochilus poilanei</i>	EX
第4次 2019:	ツシマラン	<i>Odontochilus poilanei</i>	EX
第4次 2018:	ツシマラン	<i>Odontochilus poilanei</i>	EX
第4次 2017:	ツシマラン	<i>Odontochilus poilanei</i>	EX
第4次 2015:	ツシマラン	<i>Odontochilus poilanei</i>	EX
第4次:	ツシマラン	<i>Odontochilus poilanei</i>	EX
第3次:	ツシマラン	<i>Evrardianthe poilanei</i>	EX
第2次:	ツシマラン	<i>Evrardia poilanei</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 長崎県県民生活環境部自然保護課，2001．ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック 2001．長崎県県民生活環境部自然保護課，568pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Odontochilus poilanei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Odontochilus poilanei* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカノホシクサ

Eriocaulon setaceum

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立して長く伸び、長さ 4-20 cm。葉は長さ 3-9 cm、線形で 1 脈あり、茎に螺旋状に密生する。花茎は長さ 8-20 cm、茎頂に集まって付く。頭花は径 3-4 mm で扁球形、黒色。総苞片は長さ約 1 mm、やや円形、膜質で黒色を帯びる。雄花・雌花ともに花弁・萼片は 3 個。種子は長さ約 0.4 mm で楕円形、表面に棍棒状の突起がある。

【生活史】

水生の 1 年草。

【生育環境】

浅瀬の水中に生育する。

【分布域】

群馬県、韓国・インド・オーストラリア。国内では群馬県館林市多々良沼が唯一の産地であったが、度重なる標本採集や汚染水の流入による影響に加え、干拓に伴う水位変化が直接的な原因となり、1956 年から 1962 年の間に絶滅したとされる。

現在の生育状況

【生育地の現況】

第二次大戦後の開発によって環境が変わり、絶滅した。自生地において再生事業が行われているが、再確認はされていない。

現地調査の集計結果 2000 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	—	0	0	0	—	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカノホシクサ	<i>Eriocaulon cauliferum</i>	EX
第4次 2019:	タカノホシクサ	<i>Eriocaulon cauliferum</i>	EX
第4次 2018:	タカノホシクサ	<i>Eriocaulon cauliferum</i>	EX
第4次 2017:	タカノホシクサ	<i>Eriocaulon cauliferum</i>	EX
第4次 2015:	タカノホシクサ	<i>Eriocaulon cauliferum</i>	EX
第4次:	タカノホシクサ	<i>Eriocaulon cauliferum</i>	EX
第3次:	タカノホシクサ	<i>Eriocaulon cauliferum</i>	EX
第2次:	タカノホシクサ	<i>Eriocaulon cauliferum</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 群馬県環境森林部自然環境課，2012．群馬県の絶滅のおそれのある野生生物（群馬県レッドデータブック）植物編 2012 年改訂版．群馬県環境森林部自然環境課，285pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon setaceum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Eriocaulon setaceum is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

タチガヤツリ

Cyperus diaphanus

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カワラスガナに似るが、果実の表面が平滑ではなく、細かい横の波状線がある点で区別される。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

青森県・栃木県、朝鮮半島・中国・アムール・インドネシア～中央アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

1930年代に採集された標本以後、再発見されていないため、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タチガヤツリ	<i>Cyperus diaphanus</i>	EX
第4次 2019:	タチガヤツリ	<i>Cyperus diaphanus</i>	EX
第4次 2018:	タチガヤツリ	<i>Cyperus diaphanus</i>	EX
第4次 2017:	タチガヤツリ	<i>Cyperus diaphanus</i>	EX
第4次 2015:	タチガヤツリ	<i>Cyperus diaphanus</i>	EX
第4次:	タチガヤツリ	<i>Cyperus diaphanus</i>	EX
第3次:	タチガヤツリ	<i>Cyperus diaphanus</i>	EX
第2次:	タチガヤツリ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[絶滅野生生物(EX ランク)] 栃木県[絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cyperus diaphanus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cyperus diaphanus* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

ホクトガヤツリ

Cyperus procerus

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オニガヤツリに似るが、花序の中軸は無毛で、小穂の幅がやや広い。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

鹿児島県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

1992年に鹿児島県内の湿地で発見された。その約5年後には自生地が埋め立てられ消失した。その後も個体群は復活しないため、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 湿地開発		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホクトガヤツリ	<i>Cyperus procerus</i>	EX
第4次 2019:	ホクトガヤツリ	<i>Cyperus procerus</i>	EX
第4次 2018:	ホクトガヤツリ	<i>Cyperus procerus</i>	EX
第4次 2017:	ホクトガヤツリ	<i>Cyperus procerus</i>	EX
第4次 2015:	ホクトガヤツリ	<i>Cyperus procerus</i>	EX
第4次:	ホクトガヤツリ	<i>Cyperus procerus</i>	EX
第3次:	ホクトガヤツリ	<i>Cyperus procerus</i>	EX
第2次:	ホクトガヤツリ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 初島住彦, 1992. 日本新産植物 5 種. 植物地理・分類研究, 40(2): 89-90.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cyperus procerus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cyperus procerus* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	Wetland development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チャイロテンツキ

Fimbristylis leptoclada var. *takamineana***カテゴリー判定結果** 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

叢生する。高さ 20-30 cm。小穂は長さ 4-6 mm、散形花序に 5-10 個つき、長楕円形。果実は長さ 0.7 mm、広倒卵形。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

低地の湿地に生育。

【分布域】

琉球（石垣島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

石垣島で採集された標本がある。1938 年に 1 度だけ発見されているが、その後確認されていない。現在は懸命な探索にもかかわらず見つからない。水田の消失で絶滅したと判断した。

現地調査の集計結果

2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チャイロテンツキ	<i>Fimbristylis leptoclada</i> var. <i>takamineana</i>	EX
第4次 2019:	チャイロテンツキ	<i>Fimbristylis leptoclada</i> var. <i>takamineana</i>	EX
第4次 2018:	チャイロテンツキ	<i>Fimbristylis leptoclada</i> var. <i>takamineana</i>	EX
第4次 2017:	チャイロテンツキ	<i>Fimbristylis leptoclada</i> var. <i>takamineana</i>	EX
第4次 2015:	チャイロテンツキ	<i>Fimbristylis leptoclada</i> var. <i>takamineana</i>	EX
第4次:	チャイロテンツキ	<i>Fimbristylis leptoclada</i> var. <i>takamineana</i>	EX
第3次:	チャイロテンツキ	<i>Fimbristylis leptoclada</i> var. <i>takamineana</i>	EX
第2次:	チャイロテンツキ	<i>Fimbristylis leptoclada</i> var. <i>takamineana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fimbristylis leptoclada var. *takamineana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Fimbristylis leptoclada* var. *takamineana* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.	
Threat types:	Wetland development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

イシガキトテンツキ

Fimbristylis pauciflora

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

密に叢生する。基部に葉身のない鞘がある。小穂は長さ 3-6 mm、茎頂部に 1 個つく。果実は長さ 0.8-0.9 mm、倒卵形、3 稜、黄褐色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の湿地に生育。

【分布域】

琉球（石垣島）、インドシナ・マレーシア・ミクロネシア・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

石垣島で採集された標本があるが、現在は懸命な探索にもかかわらず、見つからない。水田の消失で絶滅したと判断した。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イシガキイトテンツキ	<i>Fimbristylis pauciflora</i>	EX
第4次 2019:	イシガキイトテンツキ	<i>Fimbristylis pauciflora</i>	EX
第4次 2018:	イシガキイトテンツキ	<i>Fimbristylis pauciflora</i>	EX
第4次 2017:	イシガキイトテンツキ	<i>Fimbristylis pauciflora</i>	EX
第4次 2015:	イシガキイトテンツキ	<i>Fimbristylis pauciflora</i>	EX
第4次:	イシガキイトテンツキ	<i>Fimbristylis pauciflora</i>	EX
第3次:	イシガキイトテンツキ	<i>Fimbristylis pauciflora</i>	EX
第2次:	イシガキイトテンツキ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fimbristylis pauciflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Fimbristylis pauciflora* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カラクサキンポウゲ

Ranunculus gmelinii

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は細く、泥上を長く這い、長さ 30 cm に達する。茎葉の葉身は長さ 0.4-1 cm。葉柄は 0.5-3 cm。花は径約 6-8 mm、集散花序に 2-5 個つくか葉腋に単生する。瘦果は長さ 1-1.5 mm、卵状円形、無毛。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湖沼の浅水中に生育。

【分布域】

北海道（釧路地方）、シベリア・サハリン・アラスカ・カナダ・北ヨーロッパに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2012 年調査で情報は得られなかった。1968 年に北海道の霧多布湿原で採集された標本がある。当時、測溝に生えていたため、湿原の一角に移植されたが現在は確認できないため、絶滅と判断した。栽培個体群の現状は不明だが、野生絶滅の可能性も残されている。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 池沼開発		

件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カラクサキンポウゲ	<i>Ranunculus gmelinii</i>	EX
第4次 2019:	カラクサキンポウゲ	<i>Ranunculus gmelinii</i>	EX
第4次 2018:	カラクサキンポウゲ	<i>Ranunculus gmelinii</i>	EX
第4次 2017:	カラクサキンポウゲ	<i>Ranunculus gmelinii</i>	EX
第4次 2015:	カラクサキンポウゲ	<i>Ranunculus gmelinii</i>	EX
第4次:	カラクサキンポウゲ	<i>Ranunculus gmelinii</i>	EX
第3次:	カラクサキンポウゲ	<i>Ranunculus gmelinii</i>	EX
第2次:	カラクサキンポウゲ	<i>Ranunculus gmelinii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ranunculus gmelinii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ranunculus gmelinii* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to

be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	Pond development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ソロハギ

Flemingia strobilifera

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 150 cm に達する。若枝は茶色の斜状あるいは伏した軟毛を密生する。葉は 1 小葉で葉柄は長さ 3-10 mm、卵形～楕円形、長さ 4.5-20 cm、幅 3.5-11 cm、鈍頭または鋭頭、基部は円形、両面とも脈上に伏した短い軟毛があり、裏面はより多毛で腺点が多くある。花序は短い集散花序で 3-5 花をつけ腋生および頂生、基部に長さ 2-2.5 cm、幅 3.5-4 cm の大型の総苞に包まれ、多数が枝先に総状き、長さ 3-12 cm の複合花序となる。花は長さ 6-7 mm、旗弁は淡黄色で赤色の脈が目立つ。豆果は長さ 7-12 mm、幅 6-7 mm、伏した軟毛に覆われ、2 種子を入れる。

【生活史】

小低木。

【生育環境】

原野や林縁に生える。

【分布域】

琉球（伊江島・宮古島・石垣島・西表島）、台湾・中国・東南アジア・インド・ヒマラヤ・西インド諸島。国内では琉球にまれに野生していたが、原野の農耕地や放牧地等への開発が進んだために絶滅したと考えられる。

現在の生育状況

【生育地の現況】

再発見されておらず、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ソロハギ	<i>Flemingia strobilifera</i>	EX
第4次 2019:	ソロハギ	<i>Flemingia strobilifera</i>	EX
第4次 2018:	ソロハギ	<i>Flemingia strobilifera</i>	EX
第4次 2017:	ソロハギ	<i>Flemingia strobilifera</i>	EX
第4次 2015:	ソロハギ	<i>Flemingia strobilifera</i>	EX
第4次:	ソロハギ	<i>Flemingia strobilifera</i>	EX
第3次:	ソロハギ	<i>Flemingia strobilifera</i>	EX
第2次:	ソロハギ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Flemingia strobilifera has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Flemingia strobilifera is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サガミメドハギ

*Lespedeza hisauchii***カテゴリー判定結果** 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

大陸産のオオバメドハギに似るが、葉の上面に短伏毛が生え、小葉の側脈が不明瞭であり、葉柄に対する葉軸の相対長がより短いこと、1花序当たりの花数が4-8と少ないこと、小苞が萼筒とほぼ同長で、萼は花冠の長さの約半分であること、萼裂片が狭三角形で頂萼裂片の切れ込みが萼裂片の長さの半分より短いこと、翼弁が竜骨弁とほぼ同長であること、花序のとくに小花柄に多細胞からなる腺毛を持つことが異なる。

【生活史】

小低木。花期は9-10月。

【生育環境】

海岸近くの松林に生育していたと考えられる。

【分布域】

東京都（蒲田）・神奈川県（平塚・葉山）。以前オオバメドハギとされていた標本の再検討によって、独立種として記載された。土地開発によって絶滅したと考えられる。

現在の生育状況

【生育地の現況】

1930年代に神奈川県平塚、東京都蒲田、神奈川県葉山で採集された後、日本では近年見つかっていないので、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サガミメドハギ	<i>Lespedeza hisauchii</i>	EX
第4次 2019:	サガミメドハギ	<i>Lespedeza hisauchii</i>	EX
第4次 2018:	サガミメドハギ	<i>Lespedeza hisauchii</i>	EX
第4次 2017:	サガミメドハギ	<i>Lespedeza hisauchii</i>	EX
第4次 2015:	サガミメドハギ	<i>Lespedeza hisauchii</i>	EX
第4次:	サガミメドハギ	<i>Lespedeza hisauchii</i>	EX
第3次:	サガミメドハギ	<i>Lespedeza hisauchii</i>	EX
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

神奈川県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- Nemoto, T. and H. Ohashi, 1999. A new species of *Lespedeza* (Leguminosae) from Japan. The Journal of Japanese Botany, 74: 268-281.
- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館，2022. 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編. 神奈川県，438pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lespedeza hisauchii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Lespedeza hisauchii is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae バラ科 Rosaceae

ツクシアキツルイチゴ

Rubus hatsushimae

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シマバライチゴに似るが、茎、花柄、萼片、葉などに棘毛や腺毛を密生する。花序は頂生もしくは上部の葉腋につき、萼片は長さ 7-9 mm。

【生活史】

つる性の常緑低木。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

長崎県島原半島に分布。国外では中国東南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

初島住彦によって長崎県で発見された。標本(KYO、FU?)があるのみで、自生地周辺を探しても見つからない。園芸用の採取によって絶滅したと判断した。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシアキツルイチゴ	<i>Rubus hatsushimae</i>	EX
第4次 2019:	ツクシアキツルイチゴ	<i>Rubus hatsushimae</i>	EX
第4次 2018:	ツクシアキツルイチゴ	<i>Rubus hatsushimae</i>	EX
第4次 2017:	ツクシアキツルイチゴ	<i>Rubus hatsushimae</i>	EX
第4次 2015:	ツクシアキツルイチゴ	<i>Rubus hatsushimae</i>	EX
第4次:	ツクシアキツルイチゴ	<i>Rubus hatsushimae</i>	EX
第3次:	ツクシアキツルイチゴ	<i>Rubus hatsushimae</i>	EX
第2次:	ツクシアキツルイチゴ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅] 長崎県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rubus hatsushimae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rubus hatsushimae* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオミコゴメグサ

Euphrasia insignis subsp. *insignis* var. *omiensis*

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマコゴメグサに似るが、葉が倒卵状長楕円形で、1-2 対の浅い鋸歯がある。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

高山の草地に生育する。

【分布域】

滋賀県比良山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

1927 年採集の標本が 2 点存在するのみである(TNS、KYO)。それ以外の生育確認や目撃の情報もない。生育地の滋賀県比良山武奈ヶ岳西南陵を、村田らが 40 年ほど前に調査したが再発見できていない。このルートは比良山登山のメインコースで、多数の登山者が訪れており、生育していれば何らかの情報が得られるはずだが、前述の標本以外の情報は今のところ皆無である。以上のことから絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオミコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>omiensis</i>	EX
第4次 2019:	オオミコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>omiensis</i>	EX
第4次 2018:	オオミコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>omiensis</i>	EX
第4次 2017:	オオミコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>omiensis</i>	EX
第4次 2015:	オオミコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>omiensis</i>	EX
第4次:	オオミコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>omiensis</i>	EX
第3次:	オオミコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>omiensis</i>	EX
第2次:	オオミコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> var. <i>omiensis</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

滋賀県[絶滅種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 滋賀県生きものの総合調査委員会，2015. 滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県レッドデータブック 2015 年版—. 滋賀県自然環境保全課，646pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphrasia insignis subsp. *insignis* var. *omiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphrasia insignis* subsp. *insignis* var. *omiensis* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マツラコゴメグサ

Euphrasia insignis subsp. *insignis* var. *pubigera*

カテゴリー判定結果 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマコゴメグサに似るが、鋸歯は鋭頭だが全体が小さく、萼は長さ 4 mm ほど、花冠長は萼のほぼ 2 倍。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

高山の草地に生育する。

【分布域】

三重県の大台ヶ原に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

1922 年に奈良県大台ヶ原で採集された標本記録のみで、それ以降の情報はなく、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マツラコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>pubigera</i>	EX
第4次 2019:	マツラコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>pubigera</i>	EX
第4次 2018:	マツラコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>pubigera</i>	EX
第4次 2017:	マツラコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>pubigera</i>	EX
第4次 2015:	マツラコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>pubigera</i>	EX
第4次:	マツラコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>pubigera</i>	EX
第3次:	マツラコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>pubigera</i>	EX
第2次:	マツラコゴメグサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

奈良県[絶滅種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphrasia insignis subsp. *insignis* var. *pubigera* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphrasia insignis* subsp. *insignis* var. *pubigera* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

- ①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クモイコゴメグサ

Euphrasia multifolia var. *kirisimana***カテゴリー判定結果** 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ツクシコゴメグサに似るが、葉の鋸歯が尖る。

【生活史】

1年草。

【生育環境】

高山の草地に生育する。

【分布域】

九州の霧島山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2007年調査では自生地（中岳・甕岳）のミヤマキリシマの下層植生はシカによる摂食で壊滅状態であった。1995年以降探索されているが本種は再確認されず、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 シカ食害		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クモイコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>kirisimana</i>	EX
第4次 2019:	クモイコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>kirisimana</i>	EX
第4次 2018:	クモイコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>kirisimana</i>	EX
第4次 2017:	クモイコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>kirisimana</i>	EX
第4次 2015:	クモイコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>kirisimana</i>	EX
第4次:	クモイコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>kirisimana</i>	EX
第3次:	クモイコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>kirisimana</i>	EX
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅(EX-r)] 鹿児島県[絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphrasia multifolia var. *kirisimana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphrasia multifolia* var. *kirisimana* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トヨシマアザミ

*Cirsium toyoshimae***カテゴリー判定結果** 絶滅 (EX)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後も生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハチジョウアザミに似るが、根出葉は花期に生存せず、大型の茎葉が茎の下部に集まり、中型の頭花が直立して長い柄の先に咲く。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸近くの疎林に生育。

【分布域】

小笠原諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

1936年採集の標本があるが、それ以来再発見されておらず、絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トヨシマアザミ	<i>Cirsium toyoshimae</i>	EX
第4次 2019:	トヨシマアザミ	<i>Cirsium toyoshimae</i>	EX
第4次 2018:	トヨシマアザミ	<i>Cirsium toyoshimae</i>	EX
第4次 2017:	トヨシマアザミ	<i>Cirsium toyoshimae</i>	EX
第4次 2015:	トヨシマアザミ	<i>Cirsium toyoshimae</i>	EX
第4次:	トヨシマアザミ	<i>Cirsium toyoshimae</i>	EX
第3次:	トヨシマアザミ	<i>Cirsium toyoshimae</i>	EX
第2次:	トヨシマアザミ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium toyoshimae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium toyoshimae* is listed as EX under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and is now considered extinct, including individuals in captivity and cultivation. Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハイミミガタシダ

Phegopteris aurita

カテゴリー判定結果 野生絶滅 (EW)

①

第4次レッドリストですでに野生絶滅と判断され、その後のレッドリスト随時見直しでも自然分布域での生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉の切れ込みは2回羽状中裂～深裂、18-21対の側羽片があり、葉柄は長さ25-36 cm、葉身は長さ27-43 cm、広卵状披針形、最終裂片の辺縁は波状縁、葉質は厚い紙質、葉の色は淡緑色（裏面は白色を帯びる）。孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間～やや辺縁寄り（主脈の両側にほぼ2列に並ぶ）につき、楕円形～円形、長さ0.9-1.1 mm、包膜はない。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

林縁で日当たりの良い斜面に生育する。

【分布域】

九州（福岡県）、屋久島。国外では中国、台湾、南アジア、東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

自然分布域では絶滅したが、小石川植物園、筑波実験植物園に栽培個体（福岡産）が存在しており、野生絶滅とした。

現地調査の集計結果

2007年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハイミミガタシダ	<i>Thelypteris aurita</i>	EW
第4次 2019:	ハイミミガタシダ	<i>Thelypteris aurita</i>	EW
第4次 2018:	ハイミミガタシダ	<i>Thelypteris aurita</i>	EW
第4次 2017:	ハイミミガタシダ	<i>Thelypteris aurita</i>	EW
第4次 2015:	ハイミミガタシダ	<i>Thelypteris aurita</i>	EW
第4次:	ハイミミガタシダ	<i>Thelypteris aurita</i>	EW
第3次:	ハイミミガタシダ	<i>Thelypteris aurita</i>	EX
第2次:	ハイミミガタシダ	<i>Thelypteris aurita</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅] 鹿児島県[野生絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Phegopteris aurita has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Phegopteris aurita* is listed as EW under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and continues to exist only in

captivity, in cultivation, or as a naturalized population (populations) well outside the past range, but is considered extinct in the wild within its original natural habitats in Japan.

Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コバヤシカナワラビ

Arachniodes yasu-inoueii var. *angustipinnula***カテゴリー判定結果** 野生絶滅 (EW)

①

第4次レッドリストですでに絶滅と判断され、その後のレッドリスト随時見直しでも自然分布域での生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は2回羽状複生、16-22対の側羽片があり、葉柄は長さ50-60 cm、葉身は長さ50-55 cm、卵状広披針形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁（先端は芒状）、葉質は硬い紙質、葉の色は緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、頂生、裂片のやや中肋寄り～中肋と辺縁の間中生、円形、直径1.1-1.4 mm、包膜は円腎形（毛状突起縁）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

低山の自然林内に生育。

【分布域】

九州（宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2007年調査、2012年調査で発見されず、その後も生育が確認されていないため、絶滅と判断した。産地は1ヶ所のみが報告されていたが、産地の森林が伐採されてから10年間発見されていない。減少要因は、園芸採取やシカ食害、森林伐採と推定される。栽培株が存在しているため、野生絶滅とした。

現地調査の集計結果 2012年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 園芸採取	シカ食害	森林伐採
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コバヤシカナワラビ	<i>Arachniodes yasu-inouei</i> var. <i>angustipinnula</i>	EW
第4次 2019:	コバヤシカナワラビ	<i>Arachniodes yasu-inouei</i> var. <i>angustipinnula</i>	EW
第4次 2018:	コバヤシカナワラビ	<i>Arachniodes yasu-inouei</i> var. <i>angustipinnula</i>	EW
第4次 2017:	コバヤシカナワラビ	<i>Arachniodes yasu-inouei</i> var. <i>angustipinnula</i>	EW
第4次 2015:	コバヤシカナワラビ	<i>Arachniodes yasu-inouei</i> var. <i>angustipinnula</i>	EX
第4次:	コバヤシカナワラビ	<i>Arachniodes yasu-inouei</i> var. <i>angustipinnula</i>	EX
第3次:	コバヤシカナワラビ	<i>Arachniodes</i> sp.	CR
第2次:	コバヤシカナワラビ	<i>Arachniodes</i> sp.	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-d)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会, 2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課, 380pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Arachniodes yasui-inoueii var. *angustipinnula* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arachniodes yasui-inoueii* var. *angustipinnula* is listed as EW under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and continues to exist only in captivity, in cultivation, or as a naturalized population (populations) well outside the past range, but is considered extinct in the wild within its original natural habitats in Japan.

Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Deer feeding damage, Logging and wood harvesting
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シビイタチシダ

*Dryopteris shibipedis***カテゴリー判定結果** 野生絶滅 (EW) ①

第4次レッドリストですでに野生絶滅と判断され、その後のレッドリスト随時見直しでも自然分布域での生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は2回羽状複生～3回羽状浅裂、20-26対の側羽片があり、葉柄は長さ18-40 cm、葉身は長さ27-68 cm、卵状広披針形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁、葉質は硬い紙質、葉の色は緑色。孢子嚢群はほぼ全体につき、中肋と辺縁の中間生、円形、直径1.0-1.2 mm、包膜は円腎形（ほぼ全縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

石垣の隙間に生育。

【分布域】

九州（鹿児島県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2012年調査では確実な自生を確認できなかった。その後も生育が確認されておらず、野生個体群は絶滅したと考えられる。栽培下で存続していることが判明しているため、野生絶滅とした。

現地調査の集計結果 2007年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

園芸採取		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シビイタチシダ	<i>Dryopteris shibipedis</i>	EW
第4次 2019:	シビイタチシダ	<i>Dryopteris shibipedis</i>	EW
第4次 2018:	シビイタチシダ	<i>Dryopteris shibipedis</i>	EW
第4次 2017:	シビイタチシダ	<i>Dryopteris shibipedis</i>	EW
第4次 2015:	シビイタチシダ	<i>Dryopteris shibipedis</i>	EW
第4次:	シビイタチシダ	<i>Dryopteris shibipedis</i>	EW
第3次:	シビイタチシダ	<i>Dryopteris shibipedis</i>	EX
第2次:	シビイタチシダ	<i>Dryopteris shibipedis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[野生絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris shibipedis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dryopteris shibipedis* is listed as EW under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and continues to exist only in captivity, in cultivation, or as a naturalized population (populations) well outside the past range, but

is considered extinct in the wild within its original natural habitats in Japan.

Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コブシモドキ

*Magnolia pseudokobus***カテゴリー判定結果** 野生絶滅 (EW) ①

第4次レッドリストですでに野生絶滅と判断され、その後のレッドリスト随時見直しでも自然分布域での生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 6 m、胸高直径 15 cm 程度になる。葉は互生し、倒卵形ないし広倒卵形、長さ 13-18 cm、幅 7.5-10.5 cm、鋭尖頭、基部は鈍形～広いくさび形、表面は無毛、裏面はまばらに伏した絹毛がある。葉柄は長さ 0.8-1.8 cm。花弁は 6 枚、白色、広倒卵形～円形、基部はときに淡紅色を帯び、長さ 6.5-9.5 cm、幅 5-7 cm。萼片は 3 枚、白色、表面基部の中央脈はときに淡桃色、長さ 1.4-1.8 cm、幅 0.5 cm。3 倍体で結実しない。

【生活史】

落葉高木。花期は 3-4 月。

【生育環境】

発見時はスギ植林地の林床に生育していた。

【分布域】

四国（徳島県）。1 個体が原産で再発見されておらず、挿し木からの栽培品しか知られていない。

現在の生育状況

【生育地の現況】

1948 年発見当時 1 個体のみで、その後調査が行われたが発見されなかった。現在は挿し木で増やしたものが数ヶ所に植えられており、野生絶滅とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コブシモドキ	<i>Magnolia pseudokobus</i>	EW
第4次 2019:	コブシモドキ	<i>Magnolia pseudokobus</i>	EW
第4次 2018:	コブシモドキ	<i>Magnolia pseudokobus</i>	EW
第4次 2017:	コブシモドキ	<i>Magnolia pseudokobus</i>	EW
第4次 2015:	コブシモドキ	<i>Magnolia pseudokobus</i>	EW
第4次:	コブシモドキ	<i>Magnolia pseudokobus</i>	EW
第3次:	コブシモドキ	<i>Magnolia pseudokobus</i>	EW
第2次:	コブシモドキ	<i>Magnolia pseudokobus</i>	EW
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[準絶滅危惧(NT-g)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Ueda, K., 1986. Taxonomical note on a little-known species, *Magnolia pseudokobus* Abe et Akasawa. Journal of Phytogeography and Taxonomy, 34: 15–19.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Magnolia pseudokobus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Magnolia pseudokobus* is listed as EW under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and continues to exist only in captivity, in cultivation, or as a naturalized population (populations) well outside the past range, but is considered extinct in the wild within its original natural habitats in Japan.

Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キバナホウチャクソウ

Disporum uniflorum

カテゴリー判定結果 野生絶滅 (EW)

②

シカ食害により野外では絶滅したと判断された。栽培株のみが現存している。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

短い根茎に茎が密生する。花は花序に 1-3 個束生する。花は釣状。花被は平開せず倒卵形～へら状、黄色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

日当たりのよい林縁に生育。

【分布域】

長崎県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

シカ食害により野外では絶滅したと判断された。栽培株が系統保存されているため、野生絶滅とした。

現地調査の集計結果

2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キバナホウチャクソウ	<i>Disporum uniflorum</i>	CR
第4次 2019:	キバナホウチャクソウ	<i>Disporum uniflorum</i>	CR
第4次 2018:	キバナホウチャクソウ	<i>Disporum uniflorum</i>	CR
第4次 2017:	キバナホウチャクソウ	<i>Disporum uniflorum</i>	CR
第4次 2015:	キバナホウチャクソウ	<i>Disporum uniflorum</i>	CR
第4次:	キバナホウチャクソウ	<i>Disporum uniflorum</i>	CR
第3次:	キバナホウチャクソウ	<i>Disporum uniflorum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2015. レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物— 8 植物 I（維管束植物）. 646pp. ぎょうせい，東京.
- 國分英俊・國分愛子，2018. 対馬の植物. 363pp. 株式会社あるむ，名古屋.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Disporum uniflorum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Disporum uniflorum* is listed as EW under criteria ②.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and continues to exist only in captivity, in cultivation, or as a naturalized population (populations) well outside the past range, but is considered extinct in the wild within its original natural habitats in Japan.

Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

②Multiple reliable surveys could not confirm the existence of this species.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キノエササラン

Liparis bootanensis var. *uchiyamae***カテゴリー判定結果** 野生絶滅 (EW)

①

第4次レッドリストですでに野生絶滅と判断され、その後のレッドリスト随時見直しでも自然分布域での生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

チケイランに似るが、葉を2個つけること、葉面にほとんど縦筋がないこと、偽球茎がほぼ球形であること、花茎が細く翼状の稜がないこと、花柄は開出して出て屈曲すること、蕊柱上部の突起が著しくないことなどの点で異なる。

【生活史】

常緑で着生の多年草。

【生育環境】

樹上に着生する。

【分布域】

奄美大島。かつて採集され、現地ではその後再発見されていないが、当時の系統が栽培されている。

現在の生育状況

【生育地の現況】

過去の調査では現存を確認できなかった。過去に1回採集されているだけである。昭和40年代から再確認できておらず、野生個体群は絶滅したと思われる。栽培個体があるため、野生絶滅とした。

現地調査の集計結果

 2007年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キノエササラン	<i>Liparis uchiyamae</i>	EW
第4次 2019:	キノエササラン	<i>Liparis uchiyamae</i>	EW
第4次 2018:	キノエササラン	<i>Liparis uchiyamae</i>	EW
第4次 2017:	キノエササラン	<i>Liparis uchiyamae</i>	EW
第4次 2015:	キノエササラン	<i>Liparis uchiyamae</i>	EW
第4次:	キノエササラン	<i>Liparis uchiyamae</i>	EW
第3次:	キノエササラン	<i>Liparis uchiyamae</i>	EW
第2次:	キノエササラン	<i>Liparis uchiyamae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[野生絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Liparis bootanensis var. *uchiyamae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th

edition. *Liparis bootanensis* var. *uchiyamae* is listed as EW under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and continues to exist only in captivity, in cultivation, or as a naturalized population (populations) well outside the past range, but is considered extinct in the wild within its original natural habitats in Japan.

Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コシガヤホシクサ

*Eriocaulon heleocharioides***カテゴリー判定結果** 野生絶滅 (EW) ①

第4次レッドリストですでに野生絶滅と判断され、その後のレッドリスト随時見直しでも自然分布域での生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 7-15 cm で線形、先端は鋭く尖る。花茎は高さ 12-25 cm、径約 2 mm でほとんどねじれない。頭花は高さ 6-7 mm、径 3-6 mm、卵状円錐形。総苞片は広倒卵形で、頭花より短い。花床は無毛。葯は白色。雌花の萼片は仏炎苞状で上縁が 3 浅裂。種子は長さ約 1 mm で長楕円形、表面に T 字状の突起がある。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿地に生える。

【分布域】

埼玉県・茨城県。埼玉県では戦後の河川改修、茨城県では生育地の水位管理の変化により絶滅した。埼玉県・茨城県のかつての自生地において、保全活動や野生復帰事業が進められている。

現在の生育状況

【生育地の現況】

かつて埼玉、茨城県の 2 メッシュにおいて現存していたが、2007 年調査で野生集団の絶滅が確認された。自生地由来の栽培個体が残されているため、野生絶滅とした。この栽培個体を用いて、過去の自生地周辺において、野生復帰への試みが行われている。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	2	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 土地造成	その他	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コシガヤホシクサ	<i>Eriocaulon heleocharioides</i>	EW
第4次 2019:	コシガヤホシクサ	<i>Eriocaulon heleocharioides</i>	EW
第4次 2018:	コシガヤホシクサ	<i>Eriocaulon heleocharioides</i>	EW
第4次 2017:	コシガヤホシクサ	<i>Eriocaulon heleocharioides</i>	EW
第4次 2015:	コシガヤホシクサ	<i>Eriocaulon heleocharioides</i>	EW
第4次:	コシガヤホシクサ	<i>Eriocaulon heleocharioides</i>	EW
第3次:	コシガヤホシクサ	<i>Eriocaulon heleocharioides</i>	EW
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅] 埼玉県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon heleocharioides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Eriocaulon heleocharioides is listed as EW under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and continues to exist only in captivity, in cultivation, or as a naturalized population (populations) well outside the past range, but is considered extinct in the wild within its original natural habitats in Japan.

Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	Land development, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リュウキュウベンケイ

Kalanchoe spathulata var. *spathulata*

カテゴリー判定結果 野生絶滅 (EW) ①

第4次レッドリストですでに野生絶滅と判断され、その後のレッドリスト随時見直しでも自然分布域での生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-160 cm。花茎は斜上または直立し、ふつう枝分かれしない。葉はさじ形で、長さ 5-20 cm。花序は頂生で、集散状。花は直立し、長さ 0.5-2 cm の柄がある。花冠は高杯形、黄色または橙黄色でふつう基部のみ緑色となる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩礫地や岩上に生育する。

【分布域】

与論島、沖縄本島、伊江島、宮古島に分布。国外では、中国・東南アジア・インドヒマラヤにかけて広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

沖縄県において栽培個体から逸出し野生化したと思われる集団があるため、野生絶滅と判断した。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウベンケイ	<i>Kalanchoe spathulata</i>	EW
第4次 2019:	リュウキュウベンケイ	<i>Kalanchoe spathulata</i>	EW
第4次 2018:	リュウキュウベンケイ	<i>Kalanchoe spathulata</i>	EW
第4次 2017:	リュウキュウベンケイ	<i>Kalanchoe spathulata</i>	EW
第4次 2015:	リュウキュウベンケイ	<i>Kalanchoe spathulata</i>	EW
第4次:	リュウキュウベンケイ	<i>Kalanchoe spathulata</i>	EW
第3次:	リュウキュウベンケイ	<i>Kalanchoe spathulata</i>	EW
第2次:	リュウキュウベンケイ	<i>Kalanchoe integra</i>	EW
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[野生絶滅] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Kalanchoe spathulata var. *spathulata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Kalanchoe spathulata* var. *spathulata* is listed as EW under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and continues to exist only in captivity, in cultivation, or as a naturalized population (populations) well outside the past range, but

is considered extinct in the wild within its original natural habitats in Japan.

Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナルトオウギ

Astragalus sikokianus

カテゴリー判定結果 野生絶滅 (EW) ①

第4次レッドリストですでに野生絶滅と判断され、その後のレッドリスト随時見直しでも自然分布域での生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は基部で分岐し斜上して広がり、まばらに白色毛がある。托葉は離生、披針状三角形、長さ 8-10 mm。葉は長さ 20-25 cm、小葉は 10-14 対。小葉は長さ 15-25 mm、幅 7-10 mm、狭楕円形～楕円形または長楕円形、先端は鈍頭または円頭で微凸端、表面は無毛、下面にはまばらに白色毛がある。花序は長さ 1-3 cm、密に 5-20 花をつける。花は黄白色で細く、長さ約 1.3 cm。萼には縁毛があり、萼筒は長さ 3-3.5 mm でまばらに軟毛があり、萼裂片は狭三角形で同長で白軟毛があり、長さ 2-3 mm。豆果は無柄、微小な立毛があり、円柱状の狭長楕円形～狭卵形、長さ 2-3.5 cm、先端は花柱が残り鋭くとがる。

【生活史】

多年草。花期は 8 月。

【生育環境】

海岸に生える。

【分布域】

徳島県（鳴門市）、韓国。鳴門市の海岸砂浜で 1950 年に発見され、原産地ではすでに絶滅したが、保存されていた種子から 1972 年に発芽に成功し、その系統から栽培が続けられている。近年韓国の海岸 2 ヶ所でも発見された。

現在の生育状況

【生育地の現況】

自生地では発見後まもなく絶滅した。標本から種子発芽に成功し、栽培で保存されているため、野生絶滅とした。現地への復元計画がある。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他

0	0	0	0	0	0	0	1	0
【存続を脅かす要因上位3項目の件数】								
1 番目			2 番目			3 番目		
要因								
件数								

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナルトオウギ	<i>Astragalus sikokianus</i>	EW
第4次 2019:	ナルトオウギ	<i>Astragalus sikokianus</i>	EW
第4次 2018:	ナルトオウギ	<i>Astragalus sikokianus</i>	EW
第4次 2017:	ナルトオウギ	<i>Astragalus sikokianus</i>	EW
第4次 2015:	ナルトオウギ	<i>Astragalus sikokianus</i>	EW
第4次:	ナルトオウギ	<i>Astragalus sikokianus</i>	EW
第3次:	ナルトオウギ	<i>Astragalus sikokianus</i>	EW
第2次:	ナルトオウギ	<i>Astragalus sikokianus</i>	EW
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[野生絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 小川誠・木下覺，2017. ナルトオウギとワタヨモギ. 阿波学会紀要，61: 185-188.

- 徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会，2001．徳島県の絶滅のおそれのある野生生物 徳島県版レッドデータブック．徳島県環境生活部環境政策課，438pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Astragalus sikokianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Astragalus sikokianus is listed as EW under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and continues to exist only in captivity, in cultivation, or as a naturalized population (populations) well outside the past range, but is considered extinct in the wild within its original natural habitats in Japan.

Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae スミレ科 Violaceae

オリヅルスミレ

Viola stoloniflora

カテゴリー判定結果 野生絶滅 (EW) ①

第4次レッドリストですでに野生絶滅と判断され、その後のレッドリスト随時見直しでも自然分布域での生育が確認されていない。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 3-6 cm。葉柄は長さ 0.4-1.1(-1.6) cm、葉身は卵形で長さ 1 cm 内外。花は白色で 2~4 月に開く。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

溪流沿いの湿った岩上に生育する。

【分布域】

沖縄本島北部の辺野喜川に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

基準産地の辺野喜川では絶滅した。沖縄記念公園都市緑化植物園、広島県広島市植物園、岡山県半田山植物園、東京都新宿御苑植物園などに栽培系統があるため、野生絶滅とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オリヅルスミレ	<i>Viola stoloniflora</i>	EW
第4次 2019:	オリヅルスミレ	<i>Viola stoloniflora</i>	EW
第4次 2018:	オリヅルスミレ	<i>Viola stoloniflora</i>	EW
第4次 2017:	オリヅルスミレ	<i>Viola stoloniflora</i>	EW
第4次 2015:	オリヅルスミレ	<i>Viola stoloniflora</i>	EW
第4次:	オリヅルスミレ	<i>Viola stoloniflora</i>	EW
第3次:	オリヅルスミレ	<i>Viola stoloniflora</i>	EW
第2次:	オリヅルスミレ	<i>Viola stoloniflora</i>	EW
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[野生絶滅(EW)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola stoloniflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola stoloniflora* is listed as EW under criteria ①.

The species that was confirmed to have inhabited Japan in the past and continues to exist only in captivity, in cultivation, or as a naturalized population (populations) well outside the past range, but

is considered extinct in the wild within its original natural habitats in Japan.

Specifically, the following criteria is anticipated to be met.

①Reliable surveys and records have confirmed that this species is already extinct in the wild.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コスギトウゲシバ

Huperzia somae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は基部近くで疎らに二叉分枝し、直立。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、二形性はなく、長さ 2.6-3.6 mm、狭披針形、鋭尖頭、全縁、葉の色は黄緑色。孢子囊穂をつくらない。

【生活史】

常緑。崖地生／岩上生。

【生育環境】

コケの多い湿った岩の上に生育する。

【分布域】

屋久島に分布。国外では、台湾、フィリピンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コスギトウゲシバ	<i>Lycopodium somae</i>	CR
第4次 2019:	コスギトウゲシバ	<i>Lycopodium somae</i>	CR
第4次 2018:	コスギトウゲシバ	<i>Lycopodium somae</i>	CR
第4次 2017:	コスギトウゲシバ	<i>Lycopodium somae</i>	CR
第4次 2015:	コスギトウゲシバ	<i>Lycopodium somae</i>	CR
第4次:	コスギトウゲシバ	<i>Lycopodium somae</i>	CR
第3次:	コスギトウゲシバ	<i>Lycopodium somae</i>	CR
第2次:	コスギトウゲシバ	<i>Lycopodium somae</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Huperzia somae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Huperzia somae* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イヌヤチスギラン

*Lycopodiella caroliniana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐茎と直立茎があり、匍匐茎は疎らに二叉分枝、直立茎は分枝しない。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、二形性があり、長さ 3.1-4.5 mm (直立茎)、5.2-5.5 mm (匍匐茎)、狭披針形、鋭尖頭、全縁、葉の色は黄緑色。孢子嚢がつく部分は直立茎の先端 (1 個)、孢子嚢穂の長さ 1.1-3.2 cm。

【生活史】

夏緑 (匍匐茎の先端部のみ越冬)。地上生 (湿地)。

【生育環境】

湿地に生育する。

【分布域】

本州 (滋賀県) に分布。国外では、中国、インド、スリランカ、マダガスカル、アフリカ、北米、中米、南米に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発	人の踏みつけ	自然遷移

件数		
2	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イヌヤチスギラン	<i>Lycopodium carolinianum</i>	CR
第4次 2019:	イヌヤチスギラン	<i>Lycopodium carolinianum</i>	CR
第4次 2018:	イヌヤチスギラン	<i>Lycopodium carolinianum</i>	CR
第4次 2017:	イヌヤチスギラン	<i>Lycopodium carolinianum</i>	CR
第4次 2015:	イヌヤチスギラン	<i>Lycopodium carolinianum</i>	CR
第4次:	イヌヤチスギラン	<i>Lycopodium carolinianum</i>	CR
第3次:	イヌヤチスギラン	<i>Lycopodium carolinianum</i>	EN
第2次:	イヌヤチスギラン	<i>Lycopodium carolinianum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

滋賀県[絶滅危惧種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lycopodiella caroliniana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lycopodiella caroliniana is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Wetland development, Human trampling, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リュウキュウヒモラン

Lycopodium sieboldii var. *christensenianum*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

ヒモランに似るが、茎基部の葉が目立って開出する。ただし「日本産シダ植物標準図鑑」ではヒモランと形態的に区別できないとされている。

【生活史】

着生。

【生育環境】

山地の樹幹や岩上に生育する。

【分布域】

本州、九州南部以南、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>christensenianum</i>	CR
第4次 2019:	リュウキュウヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>christensenianum</i>	CR
第4次 2018:	リュウキュウヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>christensenianum</i>	CR
第4次 2017:	リュウキュウヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>christensenianum</i>	CR
第4次 2015:	リュウキュウヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>christensenianum</i>	CR
第4次:	リュウキュウヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>christensenianum</i>	CR
第3次:	リュウキュウヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>christensenianum</i>	CR
第2次:	リュウキュウヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>christensenianum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lycopodium sieboldii var. *christensenianum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lycopodium sieboldii* var. *christensenianum* is listed as CR under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Unknown

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ボウカズラ

Phlegmariurus carinatus

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は疎らに二叉分枝しながら垂下。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、二形性があり、長さ 7.6-10 mm、披針形～線状披針形、鋭尖頭、全縁、葉の色は緑色。孢子囊穂をつくらない。

【生活史】

常緑。着生（樹上）。

【生育環境】

林中の樹幹に生育する。

【分布域】

琉球列島（石垣島、魚釣島）に分布。国外では、中国、台湾、東南アジア、オーストラリア、南太平洋に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ボウカズラ	<i>Lycopodium laxum</i>	CR
第4次 2019:	ボウカズラ	<i>Lycopodium laxum</i>	CR
第4次 2018:	ボウカズラ	<i>Lycopodium laxum</i>	CR
第4次 2017:	ボウカズラ	<i>Lycopodium laxum</i>	CR
第4次 2015:	ボウカズラ	<i>Lycopodium laxum</i>	CR
第4次:	ボウカズラ	<i>Lycopodium laxum</i>	CR
第3次:	ボウカズラ	<i>Lycopodium laxum</i>	CR
第2次:	ボウカズラ	<i>Lycopodium laxum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Phlegmariurus carinatus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Phlegmariurus carinatus is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒモスギラン

Phlegmariurus fargesii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は疎らに二叉分枝しながら垂下。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、二形性はなく、長さ 3.8-5.2 mm、線状披針形、鋭頭、全縁、葉の色は濃黄緑色。孢子囊穂をつくらない。

【生活史】

常緑。着生（樹上）。

【生育環境】

照葉樹林などの樹幹に生育する。

【分布域】

屋久島に分布。国外では、中国、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	不明	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒモスギラン	<i>Lycopodium fargesii</i>	CR
第4次 2019:	ヒモスギラン	<i>Lycopodium fargesii</i>	CR
第4次 2018:	ヒモスギラン	<i>Lycopodium fargesii</i>	CR
第4次 2017:	ヒモスギラン	<i>Lycopodium fargesii</i>	CR
第4次 2015:	ヒモスギラン	<i>Lycopodium fargesii</i>	CR
第4次:	ヒモスギラン	<i>Lycopodium fargesii</i>	CR
第3次:	ヒモスギラン	<i>Lycopodium fargesii</i>	CR
第2次:	ヒモスギラン	<i>Lycopodium fargesii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Phlegmariurus fargesii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Phlegmariurus fargesii* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Human trampling, Unknown

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメヨウラクヒバ

Phlegmariurus salvinoides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は疎らに二叉分枝しながら垂下。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、二形性があり、長さ 5.7-13 mm、三角状卵形、鋭頭、全縁、葉の色は濃黄緑色。孢子囊穂は茎の先端につき、孢子囊穂の長さ 5.3-9.8 cm。

【生活史】

常緑。着生（樹上）。

【生育環境】

林中の樹幹に生育する。

【分布域】

琉球列島（西表島）に分布。国外では、台湾、フィリピンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査ではかつて確認されていた 1 メッシュでほぼ絶滅していた。周囲に自生している可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメヨウラクヒバ	<i>Lycopodium salvinoides</i>	CR
第4次 2019:	ヒメヨウラクヒバ	<i>Lycopodium salvinoides</i>	CR
第4次 2018:	ヒメヨウラクヒバ	<i>Lycopodium salvinoides</i>	CR
第4次 2017:	ヒメヨウラクヒバ	<i>Lycopodium salvinoides</i>	CR
第4次 2015:	ヒメヨウラクヒバ	<i>Lycopodium salvinoides</i>	CR
第4次:	ヒメヨウラクヒバ	<i>Lycopodium salvinoides</i>	CR
第3次:	ヒメヨウラクヒバ	<i>Lycopodium salvinoides</i>	CR
第2次:	ヒメヨウラクヒバ	<i>Lycopodium salvinoides</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Phlegmariurus salvinoides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Phlegmariurus salvinoides is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チシマヒメドクサ

Equisetum variegatum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は分枝せず、長さ 18-22 cm、直径 1.2 mm、断面は中空で髓腔の大きさは直径の約 1/5、節間長 0.1-0.7 cm、隆条上の突起はない。1 つの節に生じる歯片は 6 枚、長さ 1.5-1.9 mm、宿存性、辺縁は淡褐色で中心部は褐色。孢子囊穂は、柄は不明瞭で、長さ 0.4-0.5 cm。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

湿った草地に生育する。

【分布域】

北海道に分布。国外では、ロシア、中国、モンゴル、ヨーロッパ、北米（北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チシマヒメドクサ	<i>Equisetum variegatum</i>	CR
第4次 2019:	チシマヒメドクサ	<i>Equisetum variegatum</i>	CR
第4次 2018:	チシマヒメドクサ	<i>Equisetum variegatum</i>	CR
第4次 2017:	チシマヒメドクサ	<i>Equisetum variegatum</i>	CR
第4次 2015:	チシマヒメドクサ	<i>Equisetum variegatum</i>	CR
第4次:	チシマヒメドクサ	<i>Equisetum variegatum</i>	CR
第3次:	チシマヒメドクサ	<i>Equisetum variegatum</i>	VU
第2次:	チシマヒメドクサ	<i>Equisetum variegatum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Equisetum variegatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Equisetum variegatum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤマハナワラビ

Botrychium lanceolatum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。担孢子体と担栄養体が立体的につき、共通柄で支持される。担栄養体は、1 回羽状複生、柄の長さ 0.5-1.0 cm、葉身長 2.9-4.8 cm、狭長楕円状披針形、最終裂片の辺縁は波状縁、葉質は草質、葉の色は黄緑色。担孢子体は、穂状から複穂状に分枝、柄の長さ 2.5-4.9 cm、孢子囊穂の長さ 2.1-4.4 cm。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

高山帯の岩の間など、比較的日当りの良い場所に生育する。

【分布域】

北海道、本州（中部地方）に分布。国外では、ロシア、中国、モンゴル、ヨーロッパ、北米に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	シカ食害	産地局限
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマハナワラビ	<i>Botrychium lanceolatum</i>	CR
第4次 2019:	ミヤマハナワラビ	<i>Botrychium lanceolatum</i>	CR
第4次 2018:	ミヤマハナワラビ	<i>Botrychium lanceolatum</i>	CR
第4次 2017:	ミヤマハナワラビ	<i>Botrychium lanceolatum</i>	CR
第4次 2015:	ミヤマハナワラビ	<i>Botrychium lanceolatum</i>	CR
第4次:	ミヤマハナワラビ	<i>Botrychium lanceolatum</i>	CR
第3次:	ミヤマハナワラビ	<i>Botrychium lanceolatum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 福島県[情報不足(DD)] 新潟県[地域個体群(LP)] 富山県[情報不足] 石川県[情報不足(DD)] 山梨県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I A類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Botrychium lanceolatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Botrychium lanceolatum is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Human trampling, Deer feeding damage, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミドリハナワラビ

*Botrychium triangularifolium***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。担孢子体と担栄養体が立体的につき、共通柄で支持される。担栄養体は、2 回羽状複生～3 回羽状複生、柄の長さ 9.1-11 cm、葉身長 6.8-10 cm、広五角形～広三角形、最終裂片の辺縁は不規則な細鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は緑色、冬季は葉緑が赤紫色を帯びる。担孢子体は、複穂状に分枝、柄の長さ 22-29 cm、孢子囊穂の長さ 6.3-11 cm。

【生活史】

冬緑。地上生。

【生育環境】

ツバキ林や竹林に生育する。

【分布域】

本州（伊豆大島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミドリハナワラビ	<i>Botrychium triangularifolium</i>	VU
第4次 2019:	ミドリハナワラビ	<i>Botrychium triangularifolium</i>	VU
第4次 2018:	ミドリハナワラビ	<i>Botrychium triangularifolium</i>	VU
第4次 2017:	ミドリハナワラビ	<i>Botrychium triangularifolium</i>	VU
第4次 2015:	ミドリハナワラビ	<i>Botrychium triangularifolium</i>	VU
第4次:	ミドリハナワラビ	<i>Botrychium triangularifolium</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Botrychium triangularifolium has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Botrychium triangularifolium is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒノタニリュウビンタイ

Angiopteris fokiensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D+C

推定成熟個体数が 50 個体未満/推定成熟個体数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は 2 回羽状複生、7-15 対の側羽片があり、葉柄は長さ最大 1.5 m、葉身は長さ最大 3 m 以上、楕円形、小羽片の縁辺は鈍鋸歯縁、葉質は革質、葉の色は緑色。胞子嚢群は縁辺にほぼ接してつき、小羽片の側脈の両側に胞子嚢が 2 列に並び、楕円形、長さ 0.9-1.2 mm、包膜は欠く。リュウビンタイによく似ているが、小羽片に下行脈がない。

【生活史】

地上生。常緑。

【生育環境】

森林内の谷間に生育する。

【分布域】

九州（宮崎県・鹿児島県）、中国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	その他

シカ食害		
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒノタニリュウビンタイ	<i>Angiopteris fokiensis</i>	CR
第4次 2019:	ヒノタニリュウビンタイ	<i>Angiopteris fokiensis</i>	CR
第4次 2018:	ヒノタニリュウビンタイ	<i>Angiopteris fokiensis</i>	CR
第4次 2017:	ヒノタニリュウビンタイ	<i>Angiopteris fokiensis</i>	CR
第4次 2015:	ヒノタニリュウビンタイ	<i>Angiopteris fokiensis</i>	CR
第4次:	ヒノタニリュウビンタイ	<i>Angiopteris fokiensis</i>	CR
第3次:	ヒノタニリュウビンタイ	<i>Angiopteris fokiensis</i>	CR
第2次:	ヒノタニリュウビンタイ	<i>Angiopteris fokiensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2016．日本産シダ植物標準図鑑 1．475pp．学研，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Angiopteris fokiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Angiopteris fokiensis is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:	
1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キクモバホラゴケ

Callistopteris apiifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は 3 回羽状全裂～4 回羽状深裂、16-19 対の側羽片があり、葉柄は長さ 8.4-9.9 cm、葉身は長さ 15-18 cm、三角状卵形～楕円形、最終裂片の辺縁は全縁、葉の色は淡黄緑色。孢子嚢群は裂片先端の脈端につき、倒三角形～狭倒三角形、包膜はコップ状（唇部は全縁、明瞭に反転）、長さ 0.9-1.2 mm。

【生活史】

常緑で着生。

【生育環境】

山林内の川沿いの岩上や樹幹に着生。

【分布域】

琉球列島（屋久島・西表島）、中国・台湾・東南アジア・インド・南太平洋に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 97%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因不明		
件数		

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キクモバホラゴケ	<i>Callistopteris apiifolia</i>	CR
第4次 2019:	キクモバホラゴケ	<i>Callistopteris apiifolia</i>	CR
第4次 2018:	キクモバホラゴケ	<i>Callistopteris apiifolia</i>	CR
第4次 2017:	キクモバホラゴケ	<i>Callistopteris apiifolia</i>	CR
第4次 2015:	キクモバホラゴケ	<i>Callistopteris apiifolia</i>	CR
第4次:	キクモバホラゴケ	<i>Callistopteris apiifolia</i>	CR
第3次:	キクモバホラゴケ	<i>Cephalomanes apiifolium</i>	CR
第2次:	キクモバホラゴケ	<i>Cephalomanes apiifolium</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Callistopteris apiifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Callistopteris apiifolia is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サキシマホラゴケ

Cephalomanes atrovirens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～直立。葉は 1 回羽状複生、7-15 対の側羽片があり、葉柄は長さ 2.1-3.9 cm、葉身は長さ 5.5-12 cm、卵状長楕円形～狭卵状長楕円形、最終裂片の辺縁は歯牙縁、葉の色は暗黄緑色。孢子嚢群は裂片先端の脈端につき、狭倒三角形、包膜はコップ状（唇部は全縁、わずかだが明瞭に反転）、長さ 3.2-3.9 mm。

【生活史】

常緑で崖地生。

【生育環境】

山地林内の陰湿な地上等に生育。

【分布域】

琉球列島（西表島）、東南アジア・ミクロネシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。近年複数の産地が発見されているが、個体数は限られていることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サキシマホラゴケ	<i>Cephalomanes atrovirens</i>	CR
第4次 2019:	サキシマホラゴケ	<i>Cephalomanes atrovirens</i>	CR
第4次 2018:	サキシマホラゴケ	<i>Cephalomanes atrovirens</i>	CR
第4次 2017:	サキシマホラゴケ	<i>Cephalomanes atrovirens</i>	CR
第4次 2015:	サキシマホラゴケ	<i>Cephalomanes atrovirens</i>	CR
第4次:	サキシマホラゴケ	<i>Cephalomanes atrovirens</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cephalomanes atrovirens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Cephalomanes atrovirens is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マルバコケシダ

Didymoglossum bimarginatum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は単葉（浅～中裂）、葉柄は長さ 0.1-10 cm、葉身は長さ 0.8-1.5 cm、倒卵状長楕円形～狭倒卵状長楕円形、最終裂片の辺縁は全縁、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片の脈端につき、狭倒三角形、包膜はコップ状（唇部は全縁、反転する）、長さ 2.0-2.8 mm。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

高地の陰湿な岩上に生育。

【分布域】

琉球列島（魚釣島）、台湾・南アジア・東南アジア・南太平洋・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の報告があった。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マルバコケシダ	<i>Didymoglossum bimarginatum</i>	CR
第4次 2019:	マルバコケシダ	<i>Didymoglossum bimarginatum</i>	CR
第4次 2018:	マルバコケシダ	<i>Didymoglossum bimarginatum</i>	CR
第4次 2017:	マルバコケシダ	<i>Didymoglossum bimarginatum</i>	CR
第4次 2015:	マルバコケシダ	<i>Didymoglossum bimarginatum</i>	CR
第4次:	マルバコケシダ	<i>Didymoglossum bimarginatum</i>	CR
第3次:	マルバコケシダ	<i>Trichomanes bimarginatum</i>	CR
第2次:	マルバコケシダ	<i>Trichomanes bimarginatum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Didymoglossum bimarginatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Didymoglossum bimarginatum* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユビコケシノブ

Hymenophyllum digitatum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は一回羽状複葉で掌状または扇状の場合もある。葉柄は長さ 1-3(-5) cm、葉身は長さ 5-10(-20) cm、最終裂片の長さは変化に富み、幅 1-2.2 mm、辺縁は全縁、まばらに刺状の毛を生じ、葉質は薄く膜状で、暗緑色。胞子嚢群は最終裂片の先端につき、鐘形、包膜はコップ状、長さ 3 mm。

【生活史】

常緑性多年草。

【生育環境】

空中湿度の高い山頂近くの常緑広葉樹林下で、大きな花崗岩の側面を覆うように生育する。

【分布域】

沖縄県石垣島の 1 地点に分布。国外では旧熱帯に広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

国内では 2013 年に初めて採集された。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Ebihara. A. and T. Nakasone, 2022. *Hymenophyllum digitatum* (Hymenophyllaceae) in Ishigaki-jima Island, a New Record for Japan. Journal of Japanese Botany, 97: 323–328.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hymenophyllum digitatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hymenophyllum digitatum* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムクゲコケシノブ

Hymenophyllum pilosissimum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は二回～三回羽状複葉、10 対以上の側羽片があり、葉柄は長さ 2-4 cm、葉身は長さ(1.5-)4-7(-12) cm、長楕円状披針形から披針形、辺縁は全縁、全体に密に星状毛を生じ、葉質は薄く膜状で、淡緑色。孢子嚢群は最終裂片の先端につき、歪んだ円形、二弁状の包膜を持ち、基部は浅くコップ状、長さ 0.8 mm。

【生活史】

常緑性多年草。

【生育環境】

溪流沿いの岩上および崖地にパッチ状に生育。

【分布域】

沖縄県西表島南部の 2 地点に分布。国外では台湾、フィリピン、ボルネオ、ニューギニアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

国内では 2021～2022 年に実施された調査の際に初めて確認された。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Naiki, A., T. Yamamoto, A. Hasegawa, T. Fujiwara, K. Yoneoka and A. Ebihara, 2023. *Hymenophyllum pilosissimum* C. Chr. (Hymenophyllaceae) on Iriomote Island, a New Record for Japan. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica, 74: 131–133.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hymenophyllum pilosissimum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Hymenophyllum pilosissimum is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマヤマソテツ

Plagiogyria stenoptera

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～直立。葉は二形性がある。孢子葉は 1 回羽状複生、21-27 対の側羽片があり、葉柄は長さ 16-22 cm、葉身は長さ 23-40 cm、狭楕円形、最終裂片の辺縁は波状縁～鋸歯縁。栄養葉は 1 回羽状全裂、33-38 対の側羽片があり、葉柄は長さ 8-12 cm、葉身は長さ 31-45 cm、長楕円状披針形、最終裂片の辺縁は波状縁～鋸歯縁。葉質は厚い草質、葉の色は濃黄緑色。孢子嚢は孢子葉の脈上につき、線形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の林床に生育。

【分布域】

屋久島、中国・台湾・フィリピン（ルソン島）・ベトナムに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。2008 年に得られた情報を用い、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
14	10	0	0	0	0	24	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマヤマソテツ	<i>Plagiogyria stenoptera</i>	CR
第4次 2019:	シマヤマソテツ	<i>Plagiogyria stenoptera</i>	CR
第4次 2018:	シマヤマソテツ	<i>Plagiogyria stenoptera</i>	CR
第4次 2017:	シマヤマソテツ	<i>Plagiogyria stenoptera</i>	CR
第4次 2015:	シマヤマソテツ	<i>Plagiogyria stenoptera</i>	CR
第4次:	シマヤマソテツ	<i>Plagiogyria stenoptera</i>	CR
第3次:	シマヤマソテツ	<i>Plagiogyria stenoptera</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Plagiogyria stenoptera has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Plagiogyria stenoptera* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イヌイノモトソウ

Lindsaea ensifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉はやや二形。1 回羽状複生、3-5 対の側羽片があり、葉柄は長さ 24-33 cm、葉身は長さ 21-31 cm、卵形～狭長楕円形、最終裂片の辺縁は孢子嚢群のつく箇所はわずかな波状縁～歯牙縁となり他は全縁、葉質は紙質、葉の色は黄緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁（多数の脈端を連ねる）につき、線形、包膜は線形、包膜の辺縁は波状～歯牙縁。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

リュウキュウマツの低木林の林床、乾いた原野等、日当たりが良い酸性土壤に生える。

【分布域】

琉球列島（奄美大島以南：奄美大島・徳之島・沖縄島・石垣島・西表島・小浜島・与那国島）、旧世界の熱帯～亜熱帯。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

土地造成		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イヌイノモトソウ	<i>Lindsaea ensifolia</i>	CR
第4次 2019:	イヌイノモトソウ	<i>Lindsaea ensifolia</i>	CR
第4次 2018:	イヌイノモトソウ	<i>Lindsaea ensifolia</i>	CR
第4次 2017:	イヌイノモトソウ	<i>Lindsaea ensifolia</i>	CR
第4次 2015:	イヌイノモトソウ	<i>Lindsaea ensifolia</i>	CR
第4次:	イヌイノモトソウ	<i>Lindsaea ensifolia</i>	CR
第3次:	イヌイノモトソウ	<i>Lindsaea ensifolia</i>	CR
第2次:	イヌイノモトソウ	<i>Lindsaea ensifolia</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lindsaea ensifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lindsaea ensifolia* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.	
Threat types:	Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シノブホングウシダ

Lindsaea kawabatae

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は 3 回羽状複生、10-11 対の側羽片があり、葉柄は長さ 11-18 cm、葉身は長さ 9.2-12 cm、三角状卵形、最終裂片の辺縁は孢子嚢群のつく箇所は葉牙縁となり他は全縁、葉質は草質、葉の色は暗黄緑色。孢子嚢群は裂片の先端、辺縁から約 0.7-1.0 mm 内側につき、長楕円形、包膜は長楕円形、包膜の辺縁は波状縁～歯牙縁。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

やや乾いた林下にまれに生育する。

【分布域】

屋久島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	不明
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シノブホングウシダ	<i>Lindsaea kawabatae</i>	CR
第4次 2019:	シノブホングウシダ	<i>Lindsaea kawabatae</i>	CR
第4次 2018:	シノブホングウシダ	<i>Lindsaea kawabatae</i>	CR
第4次 2017:	シノブホングウシダ	<i>Lindsaea kawabatae</i>	CR
第4次 2015:	シノブホングウシダ	<i>Lindsaea kawabatae</i>	CR
第4次:	シノブホングウシダ	<i>Lindsaea kawabatae</i>	CR
第3次:	シノブホングウシダ	<i>Lindsaea kawabatae</i>	CR
第2次:	シノブホングウシダ	<i>Lindsaea kawabatae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lindsaea kawabatae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lindsaea kawabatae* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Unknown

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コビトホラシノブ

*Odontosoria minutula***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。2 回羽状複生、5-6 対の側羽片があり、葉柄は長さ 0.8-1.4 cm、葉身は長さ 2.1-3.2 cm、卵形～狭卵形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は薄い革質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は裂片の先端（脈端）につき、ポケット状（包膜は卵形）、包膜の辺縁は波状縁。

【生活史】

常緑。岩上生。

【生育環境】

川沿いの岩上に生育する。

【分布域】

琉球列島（奄美大島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コビトホラシノブ	<i>Odontosoria minutula</i>	CR
第4次 2019:	コビトホラシノブ	<i>Odontosoria minutula</i>	CR
第4次 2018:	コビトホラシノブ	<i>Odontosoria minutula</i>	CR
第4次 2017:	コビトホラシノブ	<i>Odontosoria minutula</i>	CR
第4次 2015:	コビトホラシノブ	<i>Odontosoria minutula</i>	CR
第4次:	コビトホラシノブ	<i>Odontosoria minutula</i>	CR
第3次:	コビトホラシノブ	<i>Sphenomeris minutula</i>	CR
第2次:	コビトホラシノブ	<i>Sphenomeris minutula</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Odontosoria minutula has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Odontosoria minutula is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤエヤマホラシノブ

*Odontosoria yaeyamensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は 3 回羽状深裂～複葉、18-22 対の側羽片があり、葉柄は長さ 22-40 cm、葉身は長さ 24-54 cm、卵形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は薄い革質、葉の色は淡緑色～淡褐色。孢子嚢群は羽片の辺縁先端側（脈端）につき、ポケット状（包膜は卵形）、包膜の辺縁は波状縁。

【生活史】

常緑。岩上生。

【生育環境】

山地林下の溪流沿いに生える。

【分布域】

琉球列島（八重山諸島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数個体のみ現存していた。現状は 2007 年調査時と変化がないと考えられる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤエヤマホラシノブ	<i>Odontosoria yaeyamensis</i>	CR
第4次 2019:	ヤエヤマホラシノブ	<i>Odontosoria yaeyamensis</i>	CR
第4次 2018:	ヤエヤマホラシノブ	<i>Odontosoria yaeyamensis</i>	CR
第4次 2017:	ヤエヤマホラシノブ	<i>Odontosoria yaeyamensis</i>	CR
第4次 2015:	ヤエヤマホラシノブ	<i>Odontosoria yaeyamensis</i>	CR
第4次:	ヤエヤマホラシノブ	<i>Odontosoria yaeyamensis</i>	CR
第3次:	ヤエヤマホラシノブ	<i>Sphenomeris yaeyamensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Odontosoria yaeyamensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Odontosoria yaeyamensis is listed as CR under criteria D.
 D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマタキミシダ

Antrophyum formosanum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐～斜上。葉は単葉、葉柄は不明瞭、葉身は長さ 6.1-13 cm、狭倒披針形～狭長楕円形、葉身の辺縁は全縁、葉質は革質、葉の色は緑色～やや青みがかった緑色。胞子嚢群は葉裏面の脈状（浅い溝の中）につき、線形（時々網目をつくる）。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

空中湿度の高い自然林内の岩上に生育。

【分布域】

琉球列島、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマタキミシダ	<i>Antrophyum formosanum</i>	CR
第4次 2019:	シマタキミシダ	<i>Antrophyum formosanum</i>	CR
第4次 2018:	シマタキミシダ	<i>Antrophyum formosanum</i>	CR
第4次 2017:	シマタキミシダ	<i>Antrophyum formosanum</i>	CR
第4次 2015:	シマタキミシダ	<i>Antrophyum formosanum</i>	CR
第4次:	シマタキミシダ	<i>Antrophyum formosanum</i>	CR
第3次:	シマタキミシダ	<i>Antrophyum formosanum</i>	CR
第2次:	シマタキミシダ	<i>Antrophyum formosanum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Antrophyum formosanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Antrophyum formosanum* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イワウラジロ

Cheilanthes krameri

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～直立。葉は 2 回羽状中裂～深裂、8-13 対の側羽片があり、葉柄は長さ 6.5-14 cm、葉身は長さ 4.7-9.3 cm、三角状卵形、最終裂片の辺縁は波状縁～鈍鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は濃黄緑色（裏面はやや淡く粉白に覆われる）。孢子嚢群は裂片の辺縁につき（互いに合着して連なる）、線形。

【生活史】

夏緑で岩上生。

【生育環境】

日当たりの良い山地の石灰岩上に生育。

【分布域】

本州（群馬県・埼玉県・東京都）、台湾・タイに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 石灰採掘	園芸採取	産地局限
件数	2	2

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イワウラジロ	<i>Cheilanthes krameri</i>	EN
第4次 2019:	イワウラジロ	<i>Cheilanthes krameri</i>	EN
第4次 2018:	イワウラジロ	<i>Cheilanthes krameri</i>	EN
第4次 2017:	イワウラジロ	<i>Cheilanthes krameri</i>	EN
第4次 2015:	イワウラジロ	<i>Cheilanthes krameri</i>	EN
第4次:	イワウラジロ	<i>Cheilanthes krameri</i>	EN
第3次:	イワウラジロ	<i>Cheilanthes krameri</i>	EN
第2次:	イワウラジロ	<i>Cheilanthes krameri</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2023. 東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版—. 東京都環境局自然環境部, 879pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cheilanthes krameri has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cheilanthes krameri* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Limestone mining, Collecting plants in gardening, Limited distribution
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバイワガネソウ

*Coniogramme gracilis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は 1-2 回羽状複生（基部では 2 回羽状）、3-4 対の側羽片があり、葉柄は長さ 26-40 cm、葉身は長さ 27-33 cm、卵形～広卵形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁、葉質は紙質、葉の色は緑色。孢子嚢群は葉裏面の脈状につき（中肋から辺縁近くまで伸びる）、線形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

路傍の木陰や山地の林縁に生育。

【分布域】

琉球列島（奄美大島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバイワガネソウ	<i>Coniogramme gracilis</i>	CR
第4次 2019:	ホソバイワガネソウ	<i>Coniogramme gracilis</i>	CR
第4次 2018:	ホソバイワガネソウ	<i>Coniogramme gracilis</i>	CR
第4次 2017:	ホソバイワガネソウ	<i>Coniogramme gracilis</i>	CR
第4次 2015:	ホソバイワガネソウ	<i>Coniogramme gracilis</i>	CR
第4次:	ホソバイワガネソウ	<i>Coniogramme gracilis</i>	CR
第3次:	ホソバイワガネソウ	<i>Coniogramme gracilis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Coniogramme gracilis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Coniogramme gracilis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イトシシラン

Haplopteris mediosora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は単葉、葉柄は不明瞭、葉身は長さ 16 cm、線形、葉身の辺縁は全縁、葉質は肉質、葉の色は緑色。孢子嚢群は辺縁と中肋の中間にあり、葉裏を埋めるようにつき、長い線形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山林中に生育。

【分布域】

本州（関東地方）、中国・台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
産地局限		
件数		
1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イトシシラン	<i>Haplopteris mediosora</i>	CR
第4次 2019:	イトシシラン	<i>Haplopteris mediosora</i>	CR
第4次 2018:	イトシシラン	<i>Haplopteris mediosora</i>	CR
第4次 2017:	イトシシラン	<i>Haplopteris mediosora</i>	CR
第4次 2015:	イトシシラン	<i>Haplopteris mediosora</i>	CR
第4次:	イトシシラン	<i>Haplopteris mediosora</i>	CR
第3次:	イトシシラン	<i>Vittaria mediosora</i>	CR
第2次:	イトシシラン	<i>Vittaria mediosora</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Haplopteris mediosora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Haplopteris mediosora is listed as CR under criteria D.
 D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオバシシラン

*Haplopteris yakushimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は単葉、葉柄は不明瞭、葉身は長さ 21-32 cm、線形、葉身の辺縁は全縁、葉質は厚い紙質、葉の色は暗黄緑色。孢子嚢群は辺縁から 1-2 mm 内側に左右 1 列でつき、長い線形。

【生活史】

常緑で着生あるいはまれに地上生。

【生育環境】

低地の常緑広葉樹林中に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数個体の現存が推定された。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	0	0	0	0	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	
件数 2	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオバシシラン	<i>Haplopteris forrestiana</i>	CR
第4次 2019:	オオバシシラン	<i>Haplopteris forrestiana</i>	CR
第4次 2018:	オオバシシラン	<i>Haplopteris forrestiana</i>	CR
第4次 2017:	オオバシシラン	<i>Haplopteris forrestiana</i>	CR
第4次 2015:	オオバシシラン	<i>Haplopteris forrestiana</i>	CR
第4次:	オオバシシラン	<i>Haplopteris forrestiana</i>	CR
第3次:	オオバシシラン	<i>Vittaria forrestiana</i>	CR
第2次:	オオバシシラン	<i>Vittaria forrestiana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Haplopteris yakushimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Haplopteris yakushimensis is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アシガタシダ

*Pteris grevilleana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状深裂、2-3 対の側羽片があり、葉柄は長さ 21-27 cm、葉身は長さ 12-17 cm、五角状卵形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁、葉質は紙質、葉の色は暗黄緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁につき、線形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

よく茂った山地の常緑広葉樹林下に生育。

【分布域】

琉球列島、中国・台湾・南アジア・東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アシガタシダ	<i>Pteris grevilleana</i>	CR
第4次 2019:	アシガタシダ	<i>Pteris grevilleana</i>	CR
第4次 2018:	アシガタシダ	<i>Pteris grevilleana</i>	CR
第4次 2017:	アシガタシダ	<i>Pteris grevilleana</i>	CR
第4次 2015:	アシガタシダ	<i>Pteris grevilleana</i>	CR
第4次:	アシガタシダ	<i>Pteris grevilleana</i>	CR
第3次:	アシガタシダ	<i>Pteris grevilleana</i>	CR
第2次:	アシガタシダ	<i>Pteris grevilleana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pteris grevilleana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pteris grevilleana* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カワバタハチジョウシダ

Pteris kawabatae

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状全裂（最下羽片の下向き第一小羽片のみ 3 回羽状）、3-5 対の側羽片があり、葉柄は長さ 32-44 cm、葉身は長さ 26-33 cm、三角状卵形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は薄い紙質、葉の色は淡黄緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁につき、線形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

疎林中の沢沿いに生育。

【分布域】

屋久島、台湾・中国（広西省）・ベトナムに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	不明
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カワバタハチジョウシダ	<i>Pteris kawabatae</i>	CR
第4次 2019:	カワバタハチジョウシダ	<i>Pteris kawabatae</i>	CR
第4次 2018:	カワバタハチジョウシダ	<i>Pteris kawabatae</i>	CR
第4次 2017:	カワバタハチジョウシダ	<i>Pteris kawabatae</i>	CR
第4次 2015:	カワバタハチジョウシダ	<i>Pteris kawabatae</i>	CR
第4次:	カワバタハチジョウシダ	<i>Pteris kawabatae</i>	CR
第3次:	カワバタハチジョウシダ	<i>Pteris kawabatae</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pteris kawabatae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pteris kawabatae* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Unknown

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバコウシュンシダ

Microlepia obtusiloba var. *angustata***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は 2 回羽状複生、27-30 対の側羽片があり、葉柄は長さ 22-35 cm、葉身は長さ 40-52 cm、長楕円形～三角状卵形、最終裂片の辺縁は波状縁～鈍鋸歯縁、葉の色は緑色、葉質は草質。孢子嚢群は裂片の辺縁から 0.5-1.0 mm 内側につき、扁円形、包膜はポケット状（波状縁）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の林下に生育。

【分布域】

琉球列島（屋久島・沖縄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査時には 50 個体未満の現存情報が得られた。屋久島ではシカ被害によって減少した。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバコウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>angustata</i>	CR
第4次 2019:	ホソバコウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>angustata</i>	CR
第4次 2018:	ホソバコウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>angustata</i>	CR
第4次 2017:	ホソバコウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>angustata</i>	CR
第4次 2015:	ホソバコウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>angustata</i>	CR
第4次:	ホソバコウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>angustata</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Microlepia obtusiloba var. *angustata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Microlepia obtusiloba* var. *angustata* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホウライウスヒメワラビ

Acystopteris tenuisecta

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐～斜上。葉の切れ込みは 3 回羽状深裂、23-28 対の側羽片があり、葉柄は長さ 21-35 cm、葉身は長さ 23-40 cm、広三角状披針形～広卵状披針形、最終裂片の辺縁は先端側は鈍鋸歯縁、他は全縁、葉質は薄い草質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は裂片の基部、中肋と辺縁の中間につき、円形、直径 0.6-0.7 mm、包膜はあり、楕円（腺毛あり）。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

暗く湿った林床に生育する。

【分布域】

屋久島に分布。国外では、中国、台湾、南アジア、南太平洋に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホウライウスヒメワラビ	<i>Acystopteris tenuisecta</i>	CR
第4次 2019:	ホウライウスヒメワラビ	<i>Acystopteris tenuisecta</i>	CR
第4次 2018:	ホウライウスヒメワラビ	<i>Acystopteris tenuisecta</i>	CR
第4次 2017:	ホウライウスヒメワラビ	<i>Acystopteris tenuisecta</i>	CR
第4次 2015:	ホウライウスヒメワラビ	<i>Acystopteris tenuisecta</i>	CR
第4次:	ホウライウスヒメワラビ	<i>Acystopteris tenuisecta</i>	CR
第3次:	ホウライウスヒメワラビ	<i>Acystopteris tenuisecta</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Acystopteris tenuisecta has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Acystopteris tenuisecta* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤマドリトラノオ

Asplenium castaneoviride

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 D
推定成熟個体数が 50 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は斜上～直立。葉はやや二形で栄養葉は孢子葉よりも背が低い。葉の切れ込みは 1 回羽状全裂、7-12 対の側羽片があり、葉柄は長さ 2.6-5.3 cm、葉身は長さ 5.7-9.8 cm、披針形、最終裂片の辺縁は波状縁、葉質は厚い革質、葉の色は淡黄緑色。孢子嚢群は羽片の中肋寄りにつき、線形～長楕円形、長さ 1.4-1.8 mm。

【生活史】

常緑。岩上生。

【生育環境】

山地の石灰岩地に生育する。

【分布域】

北海道（後志）、本州（関東地方以西）、九州（宮崎県）に分布。国外では、朝鮮、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		

件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤマドリトラノオ	<i>Asplenium castaneoviride</i>	CR
第4次 2019:	ヤマドリトラノオ	<i>Asplenium castaneoviride</i>	CR
第4次 2018:	ヤマドリトラノオ	<i>Asplenium castaneoviride</i>	CR
第4次 2017:	ヤマドリトラノオ	<i>Asplenium castaneoviride</i>	CR
第4次 2015:	ヤマドリトラノオ	<i>Asplenium castaneoviride</i>	CR
第4次:	ヤマドリトラノオ	<i>Asplenium castaneoviride</i>	CR
第3次:	ヤマドリトラノオ	<i>Asplenium x castaneoviride</i>	CR
第2次:	ヤマドリトラノオ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 秋田県[CR] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 富山県[情報不足] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅(EX-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課, 2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道, 309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asplenium castaneoviride has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Asplenium castaneoviride is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホコガタシダ

Asplenium ensiforme

カテゴリー判定結果

絶滅危惧 I A 類 (CR)

基準 D+C

推定成熟個体数が 50 個体未満/推定成熟個体数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は単葉、葉柄は葉身との区別が不明瞭、葉身は長さ 12-23 cm、狭倒披針形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は薄い革質、葉の色は緑色。孢子嚢群は中肋と辺縁の中間～やや中肋寄りにつき、線形、長さ 7.4-12 mm。

【生活史】

常緑。岩上生。

【生育環境】

山林中の溪流の近くの岩の上や樹幹に生育する。

【分布域】

九州（熊本県、宮崎県）に分布。国外では、中国、台湾、インドシナ半島、南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	園芸採取	その他

件数		
4	4	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホコガタシダ	<i>Asplenium ensiforme</i>	CR
第4次 2019:	ホコガタシダ	<i>Asplenium ensiforme</i>	CR
第4次 2018:	ホコガタシダ	<i>Asplenium ensiforme</i>	CR
第4次 2017:	ホコガタシダ	<i>Asplenium ensiforme</i>	CR
第4次 2015:	ホコガタシダ	<i>Asplenium ensiforme</i>	CR
第4次:	ホコガタシダ	<i>Asplenium ensiforme</i>	CR
第3次:	ホコガタシダ	<i>Asplenium ensiforme</i>	CR
第2次:	ホコガタシダ	<i>Asplenium ensiforme</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Asplenium ensiforme has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Asplenium ensiforme is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フササジラン

Asplenium griffithianum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は単葉、葉柄は葉身との区別が不明瞭、葉身は長さ 8.5-15 cm、狭倒卵状披針形～狭披針形（ほぼ上下相称形）、最終裂片の辺縁は全縁で先端近くでは欠刻あり、葉質は厚い肉質、葉の色は濃緑色。胞子嚢群は中肋寄りに（基部はほぼ中肋に接して）つき、線形、長さ 5.3-7.5 mm。

【生活史】

常緑。岩上生。

【生育環境】

低地の溪流沿いの湿った山林中で岩の上に生育する。

【分布域】

屋久島に分布。国外では、中国、台湾、インドシナ半島、南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では確実な自生を確認できなかった。現存する可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	2	0	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フササジラン	<i>Asplenium griffithianum</i>	CR
第4次 2019:	フササジラン	<i>Asplenium griffithianum</i>	CR
第4次 2018:	フササジラン	<i>Asplenium griffithianum</i>	CR
第4次 2017:	フササジラン	<i>Asplenium griffithianum</i>	CR
第4次 2015:	フササジラン	<i>Asplenium griffithianum</i>	CR
第4次:	フササジラン	<i>Asplenium griffithianum</i>	CR
第3次:	フササジラン	<i>Asplenium griffithianum</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Asplenium griffithianum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Asplenium griffithianum is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イエジマチャセンシダ

Asplenium oligophlebium var. *iezimaense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～直立。葉の切れ込みは 1 回羽状複生～2 回羽状浅裂、11-20 対の側羽片があり、葉柄は長さ 1.0-4.8 cm、葉身は長さ 5.8-13 cm、披針形～狭披針形、最終裂片の辺縁は歯牙縁、葉質は薄い草質、葉の色は黄緑色。胞子嚢群は羽片のやや辺縁寄りにつき、長楕円形、長さ 1.1-1.4 mm。

【生活史】

常緑。岩上生。

【生育環境】

岩壁や崖面に生育する。

【分布域】

琉球列島（伊江島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イエジマチャセンシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> var. <i>iezimaense</i>	EN
第4次 2019:	イエジマチャセンシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> var. <i>iezimaense</i>	EN
第4次 2018:	イエジマチャセンシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> var. <i>iezimaense</i>	EN
第4次 2017:	イエジマチャセンシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> var. <i>iezimaense</i>	EN
第4次 2015:	イエジマチャセンシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> var. <i>iezimaense</i>	EN
第4次:	イエジマチャセンシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> var. <i>iezimaense</i>	EN
第3次:	イエジマチャセンシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> var. <i>iezimaense</i>	EN
第2次:	イエジマチャセンシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> var. <i>iezimaense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asplenium oligophlebium var. *iezimaense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asplenium oligophlebium* var. *iezimaense* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメタニワタリ

Hymenasplenium cardiophyllum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや長く匍匐。葉は単葉、葉柄は長さ 5.4-9.7 cm、葉身は長さ 4.6-6.8 cm、卵形（基部は心形）、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は厚い紙質、葉の色は緑色。孢子嚢群は中肋と辺縁の中間につき、線形、長さ 7.5-12 mm。

【生活史】

常緑。岩上生（石灰岩）。

【生育環境】

森林中のやや湿った石灰岩上に生育する。

【分布域】

琉球列島（北大東島）、小笠原諸島（母島）に分布。国外では、中国（海南島）、ベトナム、タイに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。平均減少率は 85%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
産地局限		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメタニワタリ	<i>Hymenasplenium cardiophyllum</i>	CR
第4次 2019:	ヒメタニワタリ	<i>Hymenasplenium cardiophyllum</i>	CR
第4次 2018:	ヒメタニワタリ	<i>Hymenasplenium cardiophyllum</i>	CR
第4次 2017:	ヒメタニワタリ	<i>Hymenasplenium cardiophyllum</i>	CR
第4次 2015:	ヒメタニワタリ	<i>Hymenasplenium cardiophyllum</i>	CR
第4次:	ヒメタニワタリ	<i>Hymenasplenium cardiophyllum</i>	CR
第3次:	ヒメタニワタリ	<i>Hymenasplenium cardiophyllum</i>	CR
第2次:	ヒメタニワタリ	<i>Asplenium cardiophyllum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Hymenasplenium cardiophyllum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hymenasplenium cardiophyllum* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Limited distribution

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウスイロホウビシダ

Hymenasplenium subnormale

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや長く匍匐。葉の切れ込みは 1 回羽状複生、11-13 対の側羽片があり、葉柄は長さ 6.2-9.1 cm、葉身は長さ 9.2-12 cm、広卵状披針形、最終裂片の辺縁は頂点側は歯牙縁、他は全縁、葉質は草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は羽片の中肋と辺縁の中間（羽片の先端側半分）につき、長楕円形、長さ 3.9-6.2 mm。

【生活史】

常緑。崖地生／岩上生。

【生育環境】

隆起サンゴ礁の上に生育する。

【分布域】

琉球列島（与那国島）に分布。国外では、中国、台湾、東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで絶滅、1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	ウスイロハウビシダ	<i>Hymenasplenium subnormale</i>	CR
第4次 2019:	ウスイロハウビシダ	<i>Hymenasplenium subnormale</i>	CR
第4次 2018:	ウスイロハウビシダ	<i>Hymenasplenium subnormale</i>	CR
第4次 2017:	ウスイロハウビシダ	<i>Hymenasplenium subnormale</i>	CR
第4次 2015:	ウスイロハウビシダ	<i>Hymenasplenium subnormale</i>	CR
第4次:	ウスイロハウビシダ	<i>Hymenasplenium subnormale</i>	CR
第3次:	ウスイロハウビシダ	<i>Hymenasplenium subnormale</i>	CR
第2次:	ウスイロハウビシダ	<i>Asplenium subnormale</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Hymenasplenium subnormale has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Hymenasplenium subnormale is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キタダケデンダ

Woodsia subcordata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～直立。葉は 1 回羽状複生、16-21 対の側羽片があり、葉柄は長さ 2.6-4.8 cm、葉身は長さ 6.3-12 cm、披針形～狭披針形、最終裂片の辺縁は全縁～微鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁寄りにつき（脈上）、円形、直径 0.5-0.7 mm、包膜は浅い椀状、縁が裂けて縁毛になる。

【生活史】

夏緑で岩上生。

【生育環境】

高山帯の岩の割れ目などに生育。

【分布域】

北海道・本州（中部地方・群馬県）、ロシア（極東地方）・朝鮮・中国・モンゴルに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。数個体の現存情報が得られた。自然遷移による減少の可能性がある。基準 D より CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キタダケデンド	<i>Woodsia subcordata</i>	CR
第4次 2019:	キタダケデンド	<i>Woodsia subcordata</i>	CR
第4次 2018:	キタダケデンド	<i>Woodsia subcordata</i>	CR
第4次 2017:	キタダケデンド	<i>Woodsia subcordata</i>	CR
第4次 2015:	キタダケデンド	<i>Woodsia subcordata</i>	CR
第4次:	キタダケデンド	<i>Woodsia subcordata</i>	CR
第3次:	ヒメデンド	<i>Woodsia subcordata</i>	CR
第2次:	ヒメデンド	<i>Woodsia subcordata</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 群馬県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 山梨県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)] 静岡県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.
- 大森威宏・黒沢高秀・志賀隆・薄葉満・根本秀一・吉井広始・海老原淳・田中徳久・天野誠, 2022. 尾瀬の維管束植物目録の見直し. 低温科学, 80: 199-223.
<https://doi.org/10.14943/lowtemsci.80.199>

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Woodsia subcordata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Woodsia*

<i>subcordata</i> is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンアリサンイヌワラビ

Athyrium arisanense var. *arisanense*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状全裂、14-21 対の側羽片があり、葉柄は長さ 16-27 cm、葉身は長さ 15-31 cm、長楕円状広披針形、小羽片の辺縁は鈍鋸歯縁～鋸歯縁、葉質はやや厚い革質、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片の中肋寄りにつき、長楕円形～わずかに鉤形、長さ 2.0-3.4 mm、包膜は長楕円形～わずかに鉤形、包膜の辺縁はほぼ全縁。羽軸の向軸側に刺状突起がある。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

山地の林床に生育する。

【分布域】

屋久島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾アリサンイヌワラビ	<i>Athyrium arisanense</i>	CR
第4次 2019:	台湾アリサンイヌワラビ	<i>Athyrium arisanense</i>	CR
第4次 2018:	台湾アリサンイヌワラビ	<i>Athyrium arisanense</i>	CR
第4次 2017:	台湾アリサンイヌワラビ	<i>Athyrium arisanense</i>	CR
第4次 2015:	台湾アリサンイヌワラビ	<i>Athyrium arisanense</i>	CR
第4次:	台湾アリサンイヌワラビ	<i>Athyrium arisanense</i>	CR
第3次:	台湾アリサンイヌワラビ	<i>Athyrium arisanense</i>	CR
第2次:	台湾アリサンイヌワラビ	<i>Athyrium arisanense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Athyrium arisanense var. *arisanense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Athyrium arisanense* var. *arisanense* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シビイヌワラビ

Athyrium arisanense var. *kenzo-satakei*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状深裂～全裂、20-22 対の側羽片があり、葉柄は長さ 17-28 cm、葉身は長さ 26-36 cm、卵状広披針形～三角状広長楕円形、小羽片の辺縁は鈍鋸歯縁、葉質はやや厚い革質、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片の中肋寄りにつき、長楕円形、長さ 2.4-3.2 mm、包膜は長楕円形、包膜の辺縁はほぼ全縁。羽軸の向軸側に刺状突起はほとんどない。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

山地の湿った林床に生育する。

【分布域】

本州（鹿児島県）・屋久島、中国（南部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シビイヌワラビ	<i>Athyrium kenzo-satakei</i>	CR
第4次 2019:	シビイヌワラビ	<i>Athyrium kenzo-satakei</i>	CR
第4次 2018:	シビイヌワラビ	<i>Athyrium kenzo-satakei</i>	CR
第4次 2017:	シビイヌワラビ	<i>Athyrium kenzo-satakei</i>	CR
第4次 2015:	シビイヌワラビ	<i>Athyrium kenzo-satakei</i>	CR
第4次:	シビイヌワラビ	<i>Athyrium kenzo-satakei</i>	CR
第3次:	シビイヌワラビ	<i>Athyrium kenzo-satakei</i>	CR
第2次:	シビイヌワラビ	<i>Athyrium kenzo-satakei</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Athyrium arisanense var. *kenzo-satakei* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Athyrium arisanense* var. *kenzo-satakei* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクイヌワラビ

*Athyrium masamunei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 3 回羽状深裂～4 回羽状中裂、17-21 対の側羽片があり、葉柄は長さ 16-27 cm、葉身は長さ 20-33 cm、卵状広披針形、小羽片の辺縁は鋸歯縁（～深裂）、葉質は草質、葉の色緑色。孢子嚢群は裂片の中肋寄りにつき、長楕円形～鉤形、長さ 1.3-1.7 mm、包膜は長楕円形～鉤形、包膜の辺縁は不規則な突起縁。羽軸・小羽片の向軸側に小さい刺状突起がある。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

山地の林床に生育する。

【分布域】

屋久島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では、トガリバイヌワラビと混同している可能性があり、個体数過大評価の可能性があった。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
25	8	0	0	0	0	33	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクイヌワラビ	<i>Athyrium masamunei</i>	CR
第4次 2019:	ヤクイヌワラビ	<i>Athyrium masamunei</i>	CR
第4次 2018:	ヤクイヌワラビ	<i>Athyrium masamunei</i>	CR
第4次 2017:	ヤクイヌワラビ	<i>Athyrium masamunei</i>	CR
第4次 2015:	ヤクイヌワラビ	<i>Athyrium masamunei</i>	CR
第4次:	ヤクイヌワラビ	<i>Athyrium masamunei</i>	CR
第3次:	ヤクイヌワラビ	<i>Athyrium masamunei</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Athyrium masamunei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Athyrium masamunei is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シイバサトメシダ

Athyrium neglectum subsp. *australe***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状複生～3 回羽状浅裂、16-19 対の側羽片があり、葉柄は長さ 16-23 cm、葉身は長さ 20-26 cm、三角状卵形、小羽片の縁辺は鋸歯縁（～浅裂）、葉質は草質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は裂片のやや中肋寄りにつき、長楕円形～わずかに鉤形、長さ 1.1-1.4 mm、包膜は長楕円形～わずかに鉤形、包膜の辺縁は不規則な鋸歯縁。コシノサトメシダとの形態的な差異はわずかであるが、葉質がやや厚く、辺縁の鋸歯が小さく、孢子嚢群が中肋から若干離れ、葉柄基部の鱗片の密度が高い傾向がある。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

冷温帯の山地の明るい林内や林縁、丈の低いササ群落などに生育する。

【分布域】

四国・九州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 95%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	0	0	0	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	道路工事

シカ食害		
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シイバサトメシダ	<i>Athyrium neglectum</i> subsp. <i>australe</i>	CR
第4次 2019:	シイバサトメシダ	<i>Athyrium neglectum</i> subsp. <i>australe</i>	CR
第4次 2018:	シイバサトメシダ	<i>Athyrium neglectum</i> subsp. <i>australe</i>	CR
第4次 2017:	シイバサトメシダ	<i>Athyrium neglectum</i> subsp. <i>australe</i>	CR
第4次 2015:	シイバサトメシダ	<i>Athyrium neglectum</i> subsp. <i>australe</i>	CR
第4次:	シイバサトメシダ	<i>Athyrium neglectum</i> subsp. <i>australe</i>	CR
第3次:	シイバサトメシダ	<i>Athyrium neglectum</i> subsp. <i>australe</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 熊本県希少野生動植物検討委員会，2019．レッドデータブックくまもと 2019 ―熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物―．熊本県環境生活部自然保護課，632pp．
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022．宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版．宮崎県環境森林部自然環境課，380pp．
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022．高知県レッドデータブック 2022 植物編．高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp．

- 大分県自然環境学術調査会，2022. レッドデータブックおおいた2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—. <https://www.rdb-oita.jp/>（2024年9月5日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Athyrium neglectum subsp. *australe* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Athyrium neglectum* subsp. *australe* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025年3月

ナンゴクシケチシダ

Athyrium opacum f. *glabrescens*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は 2 回羽状深裂～全裂、17-19 対の側羽片があり、葉柄は長さ 19-28 cm、葉身は長さ 32-41 cm、三角状卵形、小羽片の辺縁は浅い鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は淡黄緑色～淡緑色（乾燥すると褐変）。孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間につき、長楕円形、長さ 1.8-2.4 mm、包膜は欠く。タイプ標本は葉軸・羽軸の向軸側が有毛のアリサンシケチシダ f. *opacum* で、無毛の品種が狭義のナンゴクシケチシダ f. *glabrescens* (Sa. Kurata) Seriz. にあたるが、種全体を指す和名として、日本で広く用いられてきたナンゴクシケチシダを用いる。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

山地の陰湿な林床に生育する。

【分布域】

九州（鹿児島県）・種子島・屋久島、中国（南部）・台湾・南アジア・東南アジア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンゴクシケチシダ	<i>Cornopteris opaca</i>	VU
第4次 2019:	ナンゴクシケチシダ	<i>Cornopteris opaca</i>	VU
第4次 2018:	ナンゴクシケチシダ	<i>Cornopteris opaca</i>	VU
第4次 2017:	ナンゴクシケチシダ	<i>Cornopteris opaca</i>	VU
第4次 2015:	ナンゴクシケチシダ	<i>Cornopteris opaca</i>	VU
第4次:	ナンゴクシケチシダ	<i>Cornopteris opaca</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 岩槻邦男（編），1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Athyrium opacum f. *glabrescens* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Athyrium opacum* f. *glabrescens* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サカバイヌワラビ

Athyrium reflexipinnum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状浅裂～全裂、14-18 対の側羽片があり、葉柄は長さ 4.7-9.8 cm、葉身は長さ 9.8-16 cm、長楕円状披針形（下側 3/4 程度の羽片は下向き）、小羽片の辺縁は鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片のやや中肋寄りにつき、長楕円形～鉤形、長さ 1.0-1.2 mm、包膜は長楕円形～鉤形、包膜の辺縁は不規則な突起縁。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

高地の山地の明るく湿った林床に生える。

【分布域】

四国（愛媛県・高知県）・屋久島、朝鮮（済州島）・台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	その他

件数		
1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サカバイヌワラビ	<i>Athyrium reflexipinnum</i>	EN
第4次 2019:	サカバイヌワラビ	<i>Athyrium reflexipinnum</i>	EN
第4次 2018:	サカバイヌワラビ	<i>Athyrium reflexipinnum</i>	EN
第4次 2017:	サカバイヌワラビ	<i>Athyrium reflexipinnum</i>	EN
第4次 2015:	サカバイヌワラビ	<i>Athyrium reflexipinnum</i>	EN
第4次:	サカバイヌワラビ	<i>Athyrium reflexipinnum</i>	EN
第3次:	サカバイヌワラビ	<i>Athyrium reflexipinnum</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会, 2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課, 229pp.
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会, 2014. 愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 623pp.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Athyrium reflexipinnum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Athyrium reflexipinnum is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカサゴイヌワラビ

Athyrium silvicola

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 3 回羽状浅裂～深裂、21-22 対の側羽片があり、葉柄は長さ 26-38 cm、葉身は長さ 27-34 cm、三角状広卵形～三角状卵形、小羽片の辺縁は粗い鋸歯縁（～深裂）、葉質は厚い革質、葉の色は緑色。孢子嚢群は小羽片の中肋寄りにつき、長橢円形、長さ 2.1-2.5、包膜は長橢円形、包膜の辺縁は不規則な突起縁。羽軸・小羽軸の向軸側に顕著な刺状突起がある。日本の個体群の大半は、軸が紫色を帯びるキノクニイヌワラビ f. *kinokuniense* の型で、狭義のタカサゴイヌワラビ f. *silvicola* は稀である。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

山地の湿った林下に生える。

【分布域】

本州（三重県）・九州（鹿児島県）・屋久島、中国・台湾・ネパール。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、2 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	森林伐採	自然遷移

シカ食害		
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカサゴイヌワラビ	<i>Athyrium silvicola</i>	CR
第4次 2019:	タカサゴイヌワラビ	<i>Athyrium silvicola</i>	CR
第4次 2018:	タカサゴイヌワラビ	<i>Athyrium silvicola</i>	CR
第4次 2017:	タカサゴイヌワラビ	<i>Athyrium silvicola</i>	CR
第4次 2015:	タカサゴイヌワラビ	<i>Athyrium silvicola</i>	CR
第4次:	タカサゴイヌワラビ	<i>Athyrium silvicola</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[EX] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Athyrium silvicola has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Athyrium silvicola* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Logging and wood harvesting, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トゲヤマヌワラビ

*Athyrium spinescens***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 3 回羽状浅裂～深裂、18-23 対の側羽片があり、葉柄は長さ 28-33 cm、葉身は長さ 32-38 cm、卵状広披針形（最下羽片は若干短縮）、小羽片の縁辺は鈍鋸歯縁、葉質は薄い草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片のやや中肋寄りにつき、長楕円形～鉤形、長さ 1.1-1.9 mm、包膜は長楕円形～鉤形、包膜の辺縁は不規則な突起縁。羽軸・小羽片の中肋向軸側に顕著な刺状突起がある。ヤマヌワラビとホソバイヌワラビの中間の性質を持ち、ヤマヌワラビ×ホソバイヌワラビの不稔性雑種であるヤマホソバイヌワラビとの区別が難しいが、正常な孢子を形成することと、葉柄基部の鱗片が黒褐色であることが識別点。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

谷の源流部の陰湿な落葉林内に生育する。

【分布域】

九州（福岡県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トゲヤマイヌワラビ	<i>Athyrium spinescens</i>	CR
第4次 2019:	トゲヤマイヌワラビ	<i>Athyrium spinescens</i>	CR
第4次 2018:	トゲヤマイヌワラビ	<i>Athyrium spinescens</i>	CR
第4次 2017:	トゲヤマイヌワラビ	<i>Athyrium spinescens</i>	CR
第4次 2015:	トゲヤマイヌワラビ	<i>Athyrium spinescens</i>	CR
第4次:	トゲヤマイヌワラビ	<i>Athyrium spinescens</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

広島県[情報不足(DD)] 福岡県[絶滅危惧 I A 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 福岡県環境部自然環境課, 2011. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—. 福岡県環境部自然環境課, 240pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Athyrium spinescens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Athyrium spinescens is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマタニイヌワラビ

Athyrium yakusimense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D+C

推定成熟個体数が 50 個体未満/推定成熟個体数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状複生、15-17 対の側羽片があり、葉柄は長さ 19-28 cm、葉身は長さ 20-26 cm、三角状広卵形～三角状卵形、小羽片の縁辺は波状縁～粗い鈍鋸歯縁、葉質はやや厚い草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は小羽片の中肋近く（ほぼ小羽軸に接する）につき、長楕円形、長さ 2.2-3.1 mm、包膜は長楕円形、包膜の辺縁はほぼ全縁～不規則な突起縁。羽軸の向軸側に刺状突起はほとんどない。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

山地の林床に生育する。

【分布域】

九州（鹿児島県）・屋久島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマタニイヌワラビ	<i>Athyrium yakusimense</i>	CR
第4次 2019:	ヤクシマタニイヌワラビ	<i>Athyrium yakusimense</i>	CR
第4次 2018:	ヤクシマタニイヌワラビ	<i>Athyrium yakusimense</i>	CR
第4次 2017:	ヤクシマタニイヌワラビ	<i>Athyrium yakusimense</i>	CR
第4次 2015:	ヤクシマタニイヌワラビ	<i>Athyrium yakusimense</i>	CR
第4次:	ヤクシマタニイヌワラビ	<i>Athyrium yakusimense</i>	CR
第3次:	ヤクシマタニイヌワラビ	<i>Athyrium yakusimense</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Athyrium yakusimense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Athyrium yakusimense is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals. C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and: 1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ジャコウシダ

Deparia formosana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 1 回羽状深裂～複生、4-5 対の側羽片があり、葉柄は長さ 22-30 cm、葉身は長さ 26-32 cm、長楕円状広披針形、最終裂片の縁辺は全縁～波状縁、葉質は厚い草質、葉の色は濃緑色。孢子嚢群は裂片の中肋寄りにつき、線形（長さは不揃い）、長さ 6.2-8.1 mm、包膜は線形、包膜の辺縁はわずかに突起のある波状縁。葉に芳香がある。

【生活史】

常緑。岩上生。

【生育環境】

深山の溪流沿いの岩場に生育する。

【分布域】

屋久島、中国（雲南省）・台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	園芸採取	シカ食害
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ジャコウシダ	<i>Deparia formosana</i>	CR
第4次 2019:	ジャコウシダ	<i>Deparia formosana</i>	CR
第4次 2018:	ジャコウシダ	<i>Deparia formosana</i>	CR
第4次 2017:	ジャコウシダ	<i>Deparia formosana</i>	CR
第4次 2015:	ジャコウシダ	<i>Deparia formosana</i>	CR
第4次:	ジャコウシダ	<i>Deparia formosana</i>	CR
第3次:	ジャコウシダ	<i>Deparia formosana</i>	CR
第2次:	ジャコウシダ	<i>Diplazium heterophlebium</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Deparia formosana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Deparia formosana* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウライヌワラビモドキ

Deparia henryi

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は 2 回羽状深裂、25-27 対の側羽片があり、葉柄は長さ 24-24 cm、葉身は長さ 53-74 cm、三角状披針形、鋸歯縁、草質、鮮緑色。孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間かやや中肋寄りにつき、円形～鉤形、直径 1.2-1.8 mm、包膜は円腎形～鉤形でほぼ全縁。

【生活史】

夏緑性多年草。

【生育環境】

やや日当たりのよい小さな流れ沿いの礫の隙間に生育。

【分布域】

国内では近畿地方（京都府・大阪府・奈良県）に分布するが、現存を確認できない産地が多数。国外では中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

三倍体無融合生殖種で、オオヒメワラビと未知種の交雑に起源すると推定されている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

京都府[絶滅寸前種] 奈良県[絶滅寸前種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Hori, K., 2018. Hybrid origin of some species in the *Deparia okuboana* complex (Athyriaceae, Polypodiidae) verified with DNA analysis. *Hikobia*, 17: 315–320.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Deparia henryi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Deparia henryi* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒュウガシケシダ

*Deparia minamitanii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は 2 回羽状深裂、二形、栄養葉では 13-21 対の側羽片があり、葉柄は長さ 8.4-13 cm、葉身は長さ 9.3-21 cm、卵状披針形、孢子葉では 12-21 対の側羽片があり、葉柄はより長く 14-35 cm、葉身はより細長く長さ 13-33 cm、卵状披針形、最終裂片の辺縁は波状縁～浅い鈍鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は鮮緑色。孢子囊群は孢子葉の裂片のやや中肋よりにつき、長橢円形、長さ 1.8-2.4、包膜は長橢円形、包膜の辺縁はわずかな突起縁。根に不定芽を生じる。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

常緑広葉樹林の沢沿いの林内に生育する。

【分布域】

九州（熊本県・宮崎県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数十個体の現存が推定された。
ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	2	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	不明	管理放棄

自然遷移		
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒユウガシケシダ	<i>Deparia minamitanii</i>	CR
第4次 2019:	ヒユウガシケシダ	<i>Deparia minamitanii</i>	CR
第4次 2018:	ヒユウガシケシダ	<i>Deparia minamitanii</i>	CR
第4次 2017:	ヒユウガシケシダ	<i>Deparia minamitanii</i>	CR
第4次 2015:	ヒユウガシケシダ	<i>Deparia minamitanii</i>	CR
第4次:	ヒユウガシケシダ	<i>Deparia minamitanii</i>	CR
第3次:	ヒユウガシケシダ	<i>Deparia minamitanii</i>	EN
第2次:	ヒユウガシケシダ	<i>Deparia minamitanii</i>	EW
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会, 2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課, 380pp.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Deparia minamitanii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Deparia minamitanii* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession, Unknown, Abandonment of management
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

モツチヨムシダ

Diplazium kawabatae

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は直立する。葉柄は淡緑色、基部は褐色で長さ 80 cm 前後、鱗片は長さ 1.5 cm 前後の狭披針形～線状披針形で、淡褐色で辺縁が黒色の縁取り状になり縁に小突起をもち、葉柄基部に密につく。葉身は 2 回羽状複葉から 3 回羽状浅裂で、長さ 70 cm、幅 50 cm 前後の三角状卵形。側羽辺は長楕円状披針形で 15 対前後、長さ 30 cm、幅 15 cm 前後、柄は長さ 3 cm 前後、小羽片は長楕円形長さ 6 cm、幅 1.5 cm 前後、有柄。裂片は全縁から鈍鋸歯縁、孢子嚢群は裂片と中肋の中間生、狭長楕円形で長さ 4 mm 前後、孢子嚢群を包み込む狭長楕円形で不規則な突起縁を持つ胞膜で覆われる。ヒロハノコギリシダ *Diplazium dilatatum* var. *dilatatum* とニセコクモウクジャク *Diplazium conterminum* との雑種として記載されたが、稔性を持つ独立種とされた。葉柄鱗片が黒色でなく淡褐色で辺縁が黒色の縁取り状で、小突起縁をもつ鱗片であることはヒロハノコギリシダに一致し、孢子嚢群が小羽片の中肋を離れて中間生である点はニセシロヤマシダに近似する。

【生活史】

常緑性。その他の生活史に関しては一切不明。

【生育環境】

山地中腹の林床に稀に生育。

【分布域】

屋久島・石垣島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他

0	0	0	0	0	0	0	0	0
【存続を脅かす要因上位3項目の件数】								
1 番目			2 番目			3 番目		
要因								
件数								

特記事項

屋久島と石垣島のように生育する固有種で、学術上重要である。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 川原勝征, 2022. 九州のシダ植物検索図鑑. 260pp. 南方新社, 鹿児島.
- 倉田悟, 1968. シダ類ノート (四十四). 北陸の植物, 16: 64-67.

- 高宮正之, 2006. 鳥瞰だけではなく地域情報を活かした虫瞰の植物分類学 : ノコギリシダ属を例として. 分類, 6: 1-24.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Diplazium kawabatae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Diplazium kawabatae is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
 Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月 : 2025 年 3 月

アオイガワラビ

Diplazium kawakamii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～短く匍匐。葉は 3 回羽状複生～4 回羽状中裂、17-21 対の側羽片があり、葉柄は長さ 27-46 cm、葉身は長さ 47-65 cm、三角状広卵形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は深緑色。孢子嚢群は裂片の中肋にほぼ接するようにつき、狭長楕円形、長さ 1.7-2.2 cm、包膜は狭長楕円形（孢子嚢群を包み込む）、包膜の辺縁は全縁で成熟すると不規則に裂ける。葉柄に針状鱗片がない型をウスゲアオイガワラビ f. *subglabratum* (Tagawa) Nakai という。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

山地林下の陰湿な立地に生育する。

【分布域】

屋久島、中国（雲南省）・台湾・南アジア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	

シカ食害		
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アオイガワラビ	<i>Diplazium kawakamii</i>	CR
第4次 2019:	アオイガワラビ	<i>Diplazium kawakamii</i>	CR
第4次 2018:	アオイガワラビ	<i>Diplazium kawakamii</i>	CR
第4次 2017:	アオイガワラビ	<i>Diplazium kawakamii</i>	CR
第4次 2015:	アオイガワラビ	<i>Diplazium kawakamii</i>	CR
第4次:	アオイガワラビ	<i>Diplazium kawakamii</i>	CR
第3次:	アオイガワラビ	<i>Diplazium kawakamii</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diplazium kawakamii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Diplazium kawakamii is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.	
Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムシャシダ

Diplazium megaphyllum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は 1 回羽状複葉、6 対前後の側羽片があり、葉柄は長さ約 40 cm、葉身は長さ 60 cm、卵状広披針形、小羽片の辺縁は鈍鋸歯縁、葉質は紙質、葉の色は緑色、表面に光沢がある。孢子嚢群は葉脈沿いにつき、線形、長さ最大 1 cm、包膜に覆われる。

【生活史】

岩上生。

【生育環境】

隆起石灰岩地に生育。

【分布域】

鹿児島県（徳之島）、台湾・ベトナム・ミャンマーに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムシャシダ	<i>Diplazium megaphyllum</i>	CR
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳・森田秀一・山室一樹，2018．徳之島で発見された日本新産種ムシャシダ（メシダ科）．植物研究雑誌，93: 404-406

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diplazium megaphyllum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Diplazium megaphyllum is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Land development, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フクレギシダ

Diplazium pinfaense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 1 回羽状複生、3-4 対の側羽片があり、葉柄は長さ 20-24 cm、葉身は長さ 27-31 cm、三角状長楕円形、最終裂片の辺縁は不規則な鋸歯縁または重鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は羽片の中肋寄りにつき、線形、長さ 14-17 mm、包膜は線形、包膜の辺縁は全縁。

【生活史】

常緑。地上生・岩上生。

【生育環境】

山地の陰湿な林床や水のしたたる岩上に生育する。

【分布域】

九州（佐賀県・熊本県・鹿児島県）、中国・インド（北東部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 81%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	管理放棄	自然遷移
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フクレギシダ	<i>Diplazium pin-faense</i>	CR
第4次 2019:	フクレギシダ	<i>Diplazium pin-faense</i>	CR
第4次 2018:	フクレギシダ	<i>Diplazium pin-faense</i>	CR
第4次 2017:	フクレギシダ	<i>Diplazium pin-faense</i>	CR
第4次 2015:	フクレギシダ	<i>Diplazium pin-faense</i>	CR
第4次:	フクレギシダ	<i>Diplazium pin-faense</i>	CR
第3次:	フクレギシダ	<i>Diplazium pin-faense</i>	EN
第2次:	フクレギシダ	<i>Diplazium pin-faense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 佐賀県希少野生動植物調査検討会植物分科会, 2010. レッドデータブックさが 2010 植物編—佐賀県の絶滅のおそれのある野生生物—. 佐賀県くらし環境本部有明海再生・自然環境課, 329pp.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diplazium pinfaense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Diplazium pinfaense is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Deer feeding damage, Abandonment of management, Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンミドリシダ

*Diplazium subtripinnatum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや長く匍匐。葉は 3 回羽状中裂～複生、21-25 対の側羽片があり、葉柄は長さ 17-27 cm、葉身は長さ 33-44 cm、三角状広卵形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は鮮緑色。孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間につき、長楕円形、長さ 1.1-1.7 mm、包膜は長楕円形、包膜の辺縁は全縁。ヒカゲワラビに似るが、葉柄はわら色で、2 次小羽片は小羽軸にほぼ直角につき、円頭。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

陰湿な林床や岩上に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（父島・母島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 産地局限	その他	

件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンミドリシダ	<i>Diplazium subtripinnatum</i>	CR
第4次 2019:	ムニンミドリシダ	<i>Diplazium subtripinnatum</i>	CR
第4次 2018:	ムニンミドリシダ	<i>Diplazium subtripinnatum</i>	CR
第4次 2017:	ムニンミドリシダ	<i>Diplazium subtripinnatum</i>	CR
第4次 2015:	ムニンミドリシダ	<i>Diplazium subtripinnatum</i>	CR
第4次:	ムニンミドリシダ	<i>Diplazium subtripinnatum</i>	CR
第3次:	ムニンミドリシダ	<i>Diplazium subtripinnatum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024年9月6日閲覧).

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diplazium subtripinnatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Diplazium subtripinnatum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Limited distribution, Other
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイヨウシダ

Thelypteris erubescens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉の切れ込みは 2 回羽状深裂、38-49 対の側羽片があり、葉柄は長さ 92 cm、葉身は長さ 118 cm、広披針形、最終裂片の辺縁は全縁（有毛）、葉質は紙質、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片の中肋寄りに狭い間隔でつき、円形、長さ 0.7-1.3 mm、包膜はなし。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

林中の小川沿いに生育する。

【分布域】

九州（熊本県）、屋久島〔絶滅〕。国外では、中国、台湾、ベトナム、南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タイヨウシダ	<i>Thelypteris erubescens</i>	CR
第4次 2019:	タイヨウシダ	<i>Thelypteris erubescens</i>	CR
第4次 2018:	タイヨウシダ	<i>Thelypteris erubescens</i>	CR
第4次 2017:	タイヨウシダ	<i>Thelypteris erubescens</i>	CR
第4次 2015:	タイヨウシダ	<i>Thelypteris erubescens</i>	CR
第4次:	タイヨウシダ	<i>Thelypteris erubescens</i>	CR
第3次:	タイヨウシダ	<i>Thelypteris erubescens</i>	EX
第2次:	タイヨウシダ	<i>Thelypteris erubescens</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Thelypteris erubescens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Thelypteris erubescens is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Logging and wood harvesting

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマヤワラシダ

Thelypteris gracilescens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐～斜上。葉の切れ込みは 2 回羽状全裂、21-25 対の側羽片があり、葉柄は長さ 15-26 cm、葉身は長さ 20-27 cm、狭三角状長楕円形、最終裂片の辺縁は波状縁（有毛）、葉質は紙質、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間（主脈の両側に 2 列に並ぶ）につき、円形、長さ 0.4-0.5 mm、包膜はあり、円腎形でほぼ無毛。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

暗く湿った林床に生育する。

【分布域】

屋久島に分布。国外では、中国（南部）、台湾、南アジア、東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマヤワラシダ	<i>Thelypteris gracilescens</i>	CR
第4次 2019:	シマヤワラシダ	<i>Thelypteris gracilescens</i>	CR
第4次 2018:	シマヤワラシダ	<i>Thelypteris gracilescens</i>	CR
第4次 2017:	シマヤワラシダ	<i>Thelypteris gracilescens</i>	CR
第4次 2015:	シマヤワラシダ	<i>Thelypteris gracilescens</i>	CR
第4次:	シマヤワラシダ	<i>Thelypteris gracilescens</i>	CR
第3次:	シマヤワラシダ	<i>Thelypteris gracilescens</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Thelypteris gracilescens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thelypteris gracilescens* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リュウキュウキンモウワラビ

Hypodematium fordii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は 3 回羽状中裂～複生、7-8 対の側羽片があり、葉柄は長さ 2.5-4.4 cm、葉身は長さ 3.5-4.8 cm、五角状広三角形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は草質、葉の色は鮮緑色。孢子嚢群は中肋と辺縁の中間生～辺縁寄りにつき、歪んだ円形、直径 0.8-1.0 mm、包膜は歪んだ円腎形（不規則な突起縁、辺縁にまばらに腺毛がある）。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

石灰岩の隙間などに生育。

【分布域】

琉球列島（沖縄島）、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が確認された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウキンモウワラビ	<i>Hypodematium fordii</i>	CR
第4次 2019:	リュウキュウキンモウワラビ	<i>Hypodematium fordii</i>	CR
第4次 2018:	リュウキュウキンモウワラビ	<i>Hypodematium fordii</i>	CR
第4次 2017:	リュウキュウキンモウワラビ	<i>Hypodematium fordii</i>	CR
第4次 2015:	リュウキュウキンモウワラビ	<i>Hypodematium fordii</i>	CR
第4次:	リュウキュウキンモウワラビ	<i>Hypodematium fordii</i>	CR
第3次:	リュウキュウキンモウワラビ	<i>Hypodematium fordii</i>	CR
第2次:	リュウキュウキンモウワラビ	<i>Hypodematium fordii</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Hypodematium fordii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Hypodematium fordii is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イツキカナワラビ

*Arachniodes cantilenae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は 3 回羽状複生～4 回羽状複生、18-19 対の側羽片があり、葉柄は長さ 38-52 cm、葉身は長さ 44-57 cm、三角状広卵形～三角状卵形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁（先端は芒状）、葉質は柔らかい紙質、葉の色は淡緑色（若干光沢あり）。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、頂生、裂片の中肋と辺縁の中間生、円形、直径 0.8-0.9 mm、包膜は円腎形（毛状突起縁）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

溪側の山地林床に生育。

【分布域】

九州（佐賀県・熊本県・宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	シカ食害	

件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イツキカナワラビ	<i>Arachniodes cantilenae</i>	CR
第4次 2019:	イツキカナワラビ	<i>Arachniodes cantilenae</i>	CR
第4次 2018:	イツキカナワラビ	<i>Arachniodes cantilenae</i>	CR
第4次 2017:	イツキカナワラビ	<i>Arachniodes cantilenae</i>	CR
第4次 2015:	イツキカナワラビ	<i>Arachniodes cantilenae</i>	CR
第4次:	イツキカナワラビ	<i>Arachniodes cantilenae</i>	CR
第3次:	イツキカナワラビ	<i>Arachniodes cantilenae</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arachniodes cantilenae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arachniodes cantilenae* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アタシカカナワラビ

Arachniodes exilis f. *oohorae*

カテゴリー判定結果

絶滅危惧 I A 類 (CR)

ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は二形性がある。孢子葉は 4 回羽状複生、6-7 対の側羽片があり、葉柄は長さ 44-51 cm、葉身は長さ 35-39 cm、三角状楕円形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁（先端は芒状）。栄養葉は 4 回羽状複生、5-6 対の側羽片があり、葉柄は長さ 38-51 cm、葉身は長さ 31-39 cm、三角状楕円形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁（先端は芒状）。葉質は硬い紙質、葉の色は緑色（光沢あり）。孢子嚢群はほぼ全体につき、頂生、裂片のやや中肋寄りにつき、円形、直径 0.9-1.0 mm、包膜は円腎形（辺縁無毛）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

スギ林の林床に生育。

【分布域】

三重県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。平均減少率は 85%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アタシカカナワラビ	<i>Arachniodes oohorae</i>	CR
第4次 2019:	アタシカカナワラビ	<i>Arachniodes oohorae</i>	CR
第4次 2018:	アタシカカナワラビ	<i>Arachniodes oohorae</i>	CR
第4次 2017:	アタシカカナワラビ	<i>Arachniodes oohorae</i>	CR
第4次 2015:	アタシカカナワラビ	<i>Arachniodes oohorae</i>	CR
第4次:	アタシカカナワラビ	<i>Arachniodes oohorae</i>	CR
第3次:	アタシカカナワラビ	<i>Arachniodes oohorae</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 伊藤洋, 1991. 新種アタシカカナワラビ(オシダ科). 植物研究雑誌, 66: 191-193.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Arachniodes exilis f. *oohorae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Arachniodes exilis f. *oohorae* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒュウガカナワラビ

*Arachniodes hiugana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は 3 回羽状複生～4 回羽状複生、18-19 対の側羽片があり、葉柄は長さ 24-32 cm、葉身は長さ 30-41 cm、卵状楕円形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁（先端は芒状）、葉質は柔らかい紙質、葉の色は緑色（光沢あり）。胞子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、頂生、小羽片の辺縁寄りにつき、円形、直径 0.8-1.2 mm、包膜は円腎形（突起縁・表面にも突起あり）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

林内溪側の陰湿な地上に生育。

【分布域】

九州（熊本県・宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	シカ食害	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒュウガカナワラビ	<i>Arachniodes hiugana</i>	CR
第4次 2019:	ヒュウガカナワラビ	<i>Arachniodes hiugana</i>	CR
第4次 2018:	ヒュウガカナワラビ	<i>Arachniodes hiugana</i>	CR
第4次 2017:	ヒュウガカナワラビ	<i>Arachniodes hiugana</i>	CR
第4次 2015:	ヒュウガカナワラビ	<i>Arachniodes hiugana</i>	CR
第4次:	ヒュウガカナワラビ	<i>Arachniodes hiugana</i>	CR
第3次:	ヒュウガカナワラビ	<i>Arachniodes hiugana</i>	CR
第2次:	ヒュウガカナワラビ	<i>Arachniodes hiugana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Arachniodes hiugana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arachniodes hiugana* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒロハナライシダ

Arachniodes quadripinnata subsp. *fimbriata*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 4 回羽状中裂～全裂、22-24 対の側羽片があり、葉柄は長さ 29-35 cm、葉身は長さ 37-46 cm、広五角状、最終裂片の辺縁は粗い歯牙縁、葉質は薄い草質、葉の色は黄緑色（光沢あり）。孢子嚢群はほぼ全体につき、頂生、裂片の切れ込みの近くで、円形、直径 0.9-1.0 mm、包膜は円腎形（長い縁毛がある）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地林床に生育。

【分布域】

本州（岐阜県・三重県・奈良県）、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	
件数	3	

4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒロハナライシダ	<i>Arachniodes quadripinnata</i> subsp. <i>fimbriata</i>	EN
第4次 2019:	ヒロハナライシダ	<i>Arachniodes quadripinnata</i> subsp. <i>fimbriata</i>	EN
第4次 2018:	ヒロハナライシダ	<i>Arachniodes quadripinnata</i> subsp. <i>fimbriata</i>	EN
第4次 2017:	ヒロハナライシダ	<i>Arachniodes quadripinnata</i> subsp. <i>fimbriata</i>	EN
第4次 2015:	ヒロハナライシダ	<i>Arachniodes quadripinnata</i> subsp. <i>fimbriata</i>	EN
第4次:	ヒロハナライシダ	<i>Arachniodes quadripinnata</i> subsp. <i>fimbriata</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

石川県[情報不足(DD)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 奈良県[絶滅寸前種] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Arachniodes quadripinnata subsp. *fimbriata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arachniodes quadripinnata* subsp. *fimbriata* is listed as CR under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒゴカナワラビ

Arachniodes simulans

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は 3 回羽状複生、18 対の側羽片があり、葉柄は長さ 32-38 cm、葉身は長さ 50-53 cm、広五角形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁（先端は芒状）、葉質は柔らかい紙質、葉の色は緑色（若干光沢あり）。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、頂生、裂片の中肋と辺縁の中間からやや辺縁寄りにつき、円形、直径 0.8-1.3 mm、包膜は円腎形（毛状突起縁）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

常緑林内の溪流近くに生育。

【分布域】

九州（熊本県）、中国・ベトナム・インドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。シカ食害と水害によって産地が壊滅し、僅かに残るのみとなっている。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒゴカナワラビ	<i>Arachniodes simulans</i>	CR
第4次 2019:	ヒゴカナワラビ	<i>Arachniodes simulans</i>	CR
第4次 2018:	ヒゴカナワラビ	<i>Arachniodes simulans</i>	CR
第4次 2017:	ヒゴカナワラビ	<i>Arachniodes simulans</i>	CR
第4次 2015:	ヒゴカナワラビ	<i>Arachniodes simulans</i>	CR
第4次:	ヒゴカナワラビ	<i>Arachniodes simulans</i>	CR
第3次:	ヒゴカナワラビ	<i>Arachniodes simulans</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 熊本県希少野生動植物検討委員会，2019．レッドデータブックくまもと 2019 ―熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物―．熊本県環境生活部自然保護課，632pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arachniodes simulans has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Arachniodes simulans is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツルダカナワラビ

Arachniodes yaoshanensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや長く匍匐。葉は 2 回羽状複生～3 回羽状複生、20-21 対の側羽片があり、葉柄は長さ 40-47 cm、葉身は長さ 38-44 cm、三角状卵形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁（先端は芒状）、葉質は硬い紙質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、頂生、裂片の中肋と辺縁の中間生、円形、直径 0.8-1.1 mm、包膜は円腎形（辺縁無毛）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の林床に生育。

【分布域】

九州、中国・インドシナ半島・マレー半島・ニューギニアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	2	0	0	0	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他	シカ食害	人の踏みつけ
件数	1	1

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツルダカナワラビ	<i>Arachniodes chinensis</i>	CR
第4次 2019:	ツルダカナワラビ	<i>Arachniodes chinensis</i>	CR
第4次 2018:	ツルダカナワラビ	<i>Arachniodes chinensis</i>	CR
第4次 2017:	ツルダカナワラビ	<i>Arachniodes chinensis</i>	CR
第4次 2015:	ツルダカナワラビ	<i>Arachniodes chinensis</i>	CR
第4次:	ツルダカナワラビ	<i>Arachniodes chinensis</i>	CR
第3次:	ツルダカナワラビ	<i>Arachniodes chinensis</i>	EN
第2次:	ツルダカナワラビ	<i>Arachniodes chinensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Arachniodes yaoshanensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arachniodes yaoshanensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Other, Deer feeding damage, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クマヤブソテツ

Cyrtomium anomophyllum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 1 回羽状複生（下部裂片下側が 2 回羽状に切れ込むことがある）、5-8 対の側羽片があり、葉柄は長さ 19-31 cm、葉身は長さ 29-47 cm、長楕円状広披針形、最終裂片の辺縁は波状縁～微鋸歯縁、葉質は厚い紙質、葉の色は黄緑色（やや光沢あり）。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、辺縁から 2-3 mm の範囲を除く全体に散在、円形、直径 1.1-1.4 mm、包膜は円形、孢子嚢群の大きさの半分程度（突起縁、褐色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

常緑林内の陰湿な岩礫地に生育。

【分布域】

九州（熊本県）、中国（南部）・台湾・南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。1 メッシュで絶滅、1 メッシュで現存が確認され、現存個体数は数個体と推定される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クマヤブソテツ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> var. <i>microindusium</i>	CR
第4次 2019:	クマヤブソテツ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> var. <i>microindusium</i>	CR
第4次 2018:	クマヤブソテツ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> var. <i>microindusium</i>	CR
第4次 2017:	クマヤブソテツ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> var. <i>microindusium</i>	CR
第4次 2015:	クマヤブソテツ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> var. <i>microindusium</i>	CR
第4次:	クマヤブソテツ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> var. <i>microindusium</i>	CR
第3次:	クマヤブソテツ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> var. <i>microindusium</i>	CR
第2次:	クマヤブソテツ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> var. <i>microindusium</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cyrtomium anomophyllum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Cyrtomium anomophyllum</i> is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クマイワヘゴ

*Dryopteris anthracinisquama***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は 1 回羽状複生、23-30 対の側羽片があり、葉柄は長さ 16-40 cm、葉身は長さ 38-57 cm、長楕円状披針形、最終裂片の辺縁は浅い鋸歯縁、葉質は紙質、葉の色は緑色。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、中肋寄り、羽軸の両側に 1～数列に並び、円形、直径 1.0-1.1 mm、包膜は円腎形（ほぼ全縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地林内に生育。

【分布域】

九州（福岡県・熊本県・宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	園芸採取
件数	2	1

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クマイワヘゴ	<i>Dryopteris anthracinisquama</i>	CR
第4次 2019:	クマイワヘゴ	<i>Dryopteris anthracinisquama</i>	CR
第4次 2018:	クマイワヘゴ	<i>Dryopteris anthracinisquama</i>	CR
第4次 2017:	クマイワヘゴ	<i>Dryopteris anthracinisquama</i>	CR
第4次 2015:	クマイワヘゴ	<i>Dryopteris anthracinisquama</i>	CR
第4次:	クマイワヘゴ	<i>Dryopteris anthracinisquama</i>	CR
第3次:	クマイワヘゴ	<i>Dryopteris anthracinisquama</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-d)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Dryopteris anthracinisquama has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dryopteris anthracinisquama* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エビノオオクジャク

Dryopteris dickinsii x *D. polylepis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマクマワラビとオオクジャクシダの推定雑種。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地林内の陰湿な地上に生育。

【分布域】

本州（奈良県）・九州（熊本県・宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

無融合生殖を行い、胞子は稔性を持つことが知られている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エビノオオクジャク	<i>Dryopteris ebinoensis</i>	CR
第4次 2019:	エビノオオクジャク	<i>Dryopteris ebinoensis</i>	CR
第4次 2018:	エビノオオクジャク	<i>Dryopteris ebinoensis</i>	CR
第4次 2017:	エビノオオクジャク	<i>Dryopteris ebinoensis</i>	CR
第4次 2015:	エビノオオクジャク	<i>Dryopteris ebinoensis</i>	CR
第4次:	エビノオオクジャク	<i>Dryopteris ebinoensis</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris dickinsii x *D. polylepis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dryopteris dickinsii* x *D. polylepis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバヌカイトチシダ

Dryopteris gymnosora x *D. koidzumiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ホコザキベニシダとヌカイトチシダの推定雑種。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の林床に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では、2 メッシュで計数個体と推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

無融合生殖を行い、胞子は稔性を持つことが知られている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバヌカイトチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i> var. <i>angustata</i>	CR
第4次 2019:	ホソバヌカイトチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i> var. <i>angustata</i>	CR
第4次 2018:	ホソバヌカイトチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i> var. <i>angustata</i>	CR
第4次 2017:	ホソバヌカイトチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i> var. <i>angustata</i>	CR
第4次 2015:	ホソバヌカイトチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i> var. <i>angustata</i>	CR
第4次:	ホソバヌカイトチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i> var. <i>angustata</i>	CR
第3次:	ホソバヌカイトチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i> var. <i>angustata</i>	CR
第2次:	ホソバヌカイトチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i> var. <i>angustata</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris gymnosora x *D. koidzumiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dryopteris gymnosora* x *D. koidzumiana* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キリシマイワヘゴ

Dryopteris hangchowensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は2回羽状浅裂（下部羽片の上向き第1小羽片は全裂）、33-39対の側羽片があり、葉柄は長さ17-19 cm、葉身は長さ37-52 cm、広披針形～長橢円状広披針形、最終裂片の辺縁は浅い鋸歯縁、葉質は紙質、葉の色は緑色。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、中肋寄り、羽軸の両側に1～数列に並び、円形、直径0.8-1.0 mm、包膜は円腎形（ほぼ全縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山中林内に生育。

【分布域】

四国（徳島県）・九州、朝鮮・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では2メッシュで絶滅し、3メッシュで計数個体の現存が推定された。平均減少率は75%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	0	0	0	0	3	2	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 森林伐採	シカ食害	園芸採取

件数 4	4	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キシシマイワヘゴ	<i>Dryopteris hangchowensis</i>	CR
第4次 2019:	キシシマイワヘゴ	<i>Dryopteris hangchowensis</i>	CR
第4次 2018:	キシシマイワヘゴ	<i>Dryopteris hangchowensis</i>	CR
第4次 2017:	キシシマイワヘゴ	<i>Dryopteris hangchowensis</i>	CR
第4次 2015:	キシシマイワヘゴ	<i>Dryopteris hangchowensis</i>	CR
第4次:	キシシマイワヘゴ	<i>Dryopteris hangchowensis</i>	CR
第3次:	キシシマイワヘゴ	<i>Dryopteris hangchowensis</i>	CR
第2次:	キシシマイワヘゴ	—	NT
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IA 類] 熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris hangchowensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dryopteris hangchowensis* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Deer feeding damage, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオミネイワヘゴ

Dryopteris lunanensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状浅裂～中裂、下部羽片基部では全裂、25-28 対の側羽片があり、葉柄は長さ 23-29 cm、葉身は長さ 32-43 cm、卵形、最終裂片の辺縁は浅い鋸歯縁、葉質は紙質、葉の色は黄緑色。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、羽軸の両側に 1～数列にならび、円形、直径 0.9-1.0 mm、包膜は円腎形（ほぼ全縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の斜面に生育。

【分布域】

本州、中国・ブータンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	シカ食害	自然遷移
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオミネイワハゴ	<i>Dryopteris lunanensis</i>	CR
第4次 2019:	オオミネイワハゴ	<i>Dryopteris lunanensis</i>	CR
第4次 2018:	オオミネイワハゴ	<i>Dryopteris lunanensis</i>	CR
第4次 2017:	オオミネイワハゴ	<i>Dryopteris lunanensis</i>	CR
第4次 2015:	オオミネイワハゴ	<i>Dryopteris lunanensis</i>	CR
第4次:	オオミネイワハゴ	<i>Dryopteris lunanensis</i>	CR
第3次:	オオミネイワハゴ	<i>Dryopteris lunanensis</i>	CR
第2次:	オオミネイワハゴ	<i>Dryopteris lunanensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 奈良県[絶滅寸前種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Dryopteris lunanensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Dryopteris lunanensis is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Road construction, Deer feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アラゲミサキカグマ

Dryopteris subtsushimensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は、2-3 回羽状複葉、8-10 対の側羽片があり、葉柄は長さ 5-15 cm、基部には卵形、不規則な鋸歯縁で褐色（稀に中心部が暗褐色）の鱗片が密につく。葉身は長さ 5-10 cm、三角形、裂片の先端は細鋸歯縁、柔らかい革質、鮮緑色。孢子嚢群は辺縁近くにつき、円形、直径約 10 mm、包膜は円腎形で全縁。

【生活史】

常緑性多年草。

【生育環境】

常緑広葉樹林下の林縁で、岩の隙間に生育。

【分布域】

長崎県対馬、同じ形態的特徴を示す個体が中国江蘇省に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

ミサキカグマと *Dryopteris tsoongii* の交雑起源の四倍体無融合生殖種。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Hori, K., X. Zhou, Y. Inoue and N. Murakami. 2018. Evidence for maternal ability in hybridization of apogamous fern species: *Dryopteris tsushimensis* K. Hori & N. Murak. and *D. subtsushimensis* K. Hori & N. Murak. (Dryopteridaceae), new tetraploid apogamous pteridophytes of hybrid origin from Tsushima, Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 69: 143–160.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris subtsushimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dryopteris subtsushimensis* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マルバヌカイトチシダモドキ

Dryopteris tsuguiwoi

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D+C

推定成熟個体数が 50 個体未満/推定成熟個体数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状複生～3 回羽状中裂、18-21 対の側羽片があり、葉柄は長さ 28-36 cm、葉身は長さ 35-41 cm、三角状卵形（側羽片は葉軸に対し直角に近い角度でつく）、最終裂片の辺縁は鋸歯縁、葉質は硬い紙質、葉の色は緑色。孢子嚢群はほぼ全ての羽片につき（部分的に孢子嚢群をつける最下部の羽片内でのつきかたはやや不規則）、中肋寄り、円形、直径 0.9-1.0 mm、包膜は円腎形（ほぼ全縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の林内に生育。

【分布域】

本州（紀伊半島）・四国（高知県）・九州（熊本県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	1	0	0	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	産地局限	不明

森林伐採		
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マルバヌカイトチシダモドキ	<i>Dryopteris tsugiwoi</i>	CR
第4次 2019:	マルバヌカイトチシダモドキ	<i>Dryopteris tsugiwoi</i>	CR
第4次 2018:	マルバヌカイトチシダモドキ	<i>Dryopteris tsugiwoi</i>	CR
第4次 2017:	マルバヌカイトチシダモドキ	<i>Dryopteris tsugiwoi</i>	CR
第4次 2015:	マルバヌカイトチシダモドキ	<i>Dryopteris tsugiwoi</i>	CR
第4次:	マルバヌカイトチシダモドキ	<i>Dryopteris tsugiwoi</i>	CR
第3次:	マルバヌカイトチシダモドキ	<i>Dryopteris tsugiwoi</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[CR] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 熊本県希少野生動植物検討委員会，2019．レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課，632pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris tsugiwoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Dryopteris tsugiwoi is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:	
1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Logging and wood harvesting, Limited distribution, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツツイワヘゴ

*Dryopteris tsutsuiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は 1 回羽状複生、24-28 対の側羽片があり、葉柄は長さ 19-28 cm、葉身は長さ 41-52 cm、披針形～長楕円状広披針形、最終裂片の辺縁はごく浅い鋸歯縁（鋸歯の先端が羽片の先端側に向く）、葉質は紙質、葉の色は緑色。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、辺縁寄り、辺縁から 4 mm 内側の範囲まで 1-3 列に並び、円形、直径 1.0-1.2 mm、包膜は円腎形（ほぼ全縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の溪流沿いの林下に生育。

【分布域】

九州（福岡県・熊本県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	

件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツツイイワヘゴ [*]	<i>Dryopteris tsutsuiana</i>	CR
第4次 2019:	ツツイイワヘゴ [*]	<i>Dryopteris tsutsuiana</i>	CR
第4次 2018:	ツツイイワヘゴ [*]	<i>Dryopteris tsutsuiana</i>	CR
第4次 2017:	ツツイイワヘゴ [*]	<i>Dryopteris tsutsuiana</i>	CR
第4次 2015:	ツツイイワヘゴ [*]	<i>Dryopteris tsutsuiana</i>	CR
第4次:	ツツイイワヘゴ [*]	<i>Dryopteris tsutsuiana</i>	CR
第3次:	ツツイイワヘゴ [*]	<i>Dryopteris tsutsuiana</i>	CR
第2次:	ツツイイワヘゴ [*]	<i>Dryopteris tsutsuiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris tsutsuiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dryopteris tsutsuiana* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオヤグルマシダ

Dryopteris wallichiana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は 2 回羽状深裂～全裂、44-50 対の側羽片があり、葉柄は長さ 20-33 cm、葉身は長さ 77-116 cm、長楕円状披針形（中心より先端側で幅が最大となる）、最終裂片の辺縁は不規則な鋸歯縁、葉質はやや硬い紙質、葉の色は緑色～暗緑色（やや光沢あり）。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、裂片の中肋と辺縁の中間～中肋寄りに各 1 列に並び、円形、直径 1.0-1.6 mm、包膜は円腎形（ほぼ全縁、成熟すると縦に 2 裂して裂開し、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

溶岩の風穴に生育。

【分布域】

九州（鹿児島県）、中国・台湾・南アジア・東南アジア・ハワイ・中南米に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオヤグルマシダ	<i>Dryopteris wallichiana</i>	CR
第4次 2019:	オオヤグルマシダ	<i>Dryopteris wallichiana</i>	CR
第4次 2018:	オオヤグルマシダ	<i>Dryopteris wallichiana</i>	CR
第4次 2017:	オオヤグルマシダ	<i>Dryopteris wallichiana</i>	CR
第4次 2015:	オオヤグルマシダ	<i>Dryopteris wallichiana</i>	CR
第4次:	オオヤグルマシダ	<i>Dryopteris wallichiana</i>	CR
第3次:	オオヤグルマシダ	<i>Dryopteris wallichiana</i>	CR
第2次:	オオヤグルマシダ	<i>Dryopteris wallichiana</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris wallichiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Dryopteris wallichiana is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オキナワアツイタ

Elaphoglossum callifolium

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は二形性がある。孢子葉は単葉、葉柄は長さ 20 cm、葉身は長さ 25 cm、狭披針形、最終裂片の辺縁は全縁。栄養葉は単葉、葉柄は長さ 10-18 cm、葉身は長さ 35-48 cm、披針形、最終裂片の辺縁は全縁。葉質は革質、葉の色は緑色（やや光沢あり）。孢子嚢群は孢子葉の葉身裏面全体につき、包膜はない。

【生活史】

常緑で着生。

【生育環境】

山地の樹上に生育。

【分布域】

琉球列島（沖縄島）、台湾・東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 個体群のみが知られていたが、着生していた木が倒れて消失した。周囲に生育している可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキナワアツイタ	<i>Elaphoglossum callifolium</i>	CR
第4次 2019:	オキナワアツイタ	<i>Elaphoglossum callifolium</i>	CR
第4次 2018:	オキナワアツイタ	<i>Elaphoglossum callifolium</i>	CR
第4次 2017:	オキナワアツイタ	<i>Elaphoglossum callifolium</i>	CR
第4次 2015:	オキナワアツイタ	<i>Elaphoglossum callifolium</i>	CR
第4次:	オキナワアツイタ	<i>Elaphoglossum callifolium</i>	CR
第3次:	オキナワアツイタ	<i>Elaphoglossum callifolium</i>	CR
第2次:	オキナワアツイタ	<i>Elaphoglossum callifolium</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elaphoglossum callifolium has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Elaphoglossum callifolium is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キュウシュウイノデ

Polystichum grandifrons

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は 2 回羽状複生、20-23 対の側羽片があり、葉柄は長さ 30-37 cm、葉身は長さ 53-66 cm、楕円形～狭楕円形、最終裂片の辺縁は浅い鋭鋸歯縁、葉質はやや硬い紙質、葉の色は緑色（やや光沢あり）。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、背生と頂生が混在、中肋と辺縁の間に 1 列に並び（小羽片の耳片周辺では複数列になる）、円形、直径 0.8-1.0 mm、包膜はない。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

低地の林中に生育。

【分布域】

九州（熊本県・鹿児島県）、中国・台湾・インド（北東部）・ベトナムに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 73% であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	森林伐採

件数 4	4	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キュウシュウイノデ	<i>Polystichum grandifrons</i>	CR
第4次 2019:	キュウシュウイノデ	<i>Polystichum grandifrons</i>	CR
第4次 2018:	キュウシュウイノデ	<i>Polystichum grandifrons</i>	CR
第4次 2017:	キュウシュウイノデ	<i>Polystichum grandifrons</i>	CR
第4次 2015:	キュウシュウイノデ	<i>Polystichum grandifrons</i>	CR
第4次:	キュウシュウイノデ	<i>Polystichum grandifrons</i>	CR
第3次:	キュウシュウイノデ	<i>Polystichum grandifrons</i>	CR
第2次:	キュウシュウイノデ	<i>Polystichum kiusiense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polystichum grandifrons has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Polystichum grandifrons* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Logging and wood harvesting
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネシダ

Polystichum lachenense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は 1 回羽状複生～2 回羽状深裂、21-25 対の側羽片があり、葉柄は長さ 6.7-8.5 cm、葉身は長さ 14-17 cm、狭披針形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁または浅裂～深裂、葉質はやや硬い草質、葉の色は黄緑色（光沢なし）。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、頂生、中肋寄りで、円形、直径 1.2-1.3 mm、包膜は円形で楕着（不規則な突起縁、灰白色）。

【生活史】

夏緑で岩上生。

【生育環境】

亜高山～高山の岩上や岩隙に生育。

【分布域】

本州（山梨県・長野県・静岡県）、中国・台湾・南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。1 メッシュで数個体の現存が推定される。自然遷移、産地局限により減少している。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	4

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネシダ	<i>Polystichum lachenense</i>	CR
第4次 2019:	タカネシダ	<i>Polystichum lachenense</i>	CR
第4次 2018:	タカネシダ	<i>Polystichum lachenense</i>	CR
第4次 2017:	タカネシダ	<i>Polystichum lachenense</i>	CR
第4次 2015:	タカネシダ	<i>Polystichum lachenense</i>	CR
第4次:	タカネシダ	<i>Polystichum lachenense</i>	CR
第3次:	タカネシダ	<i>Polystichum lachenense</i>	CR
第2次:	タカネシダ	<i>Polystichum lachenense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課, 2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課, 501pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polystichum lachenense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Polystichum lachenense is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤシャイノデ

Polystichum neolobatum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 2 回羽状全裂、37-42 対の側羽片があり、葉柄は長さ 16-24 cm、葉身は長さ 47-61 cm、長楕円状披針形、最終裂片の辺縁は少数の鋭鋸歯縁（先端は芒状）がある他は全縁、葉質は硬い革質、葉の色は緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身・羽片の先端側からつき、頂生、中肋寄りで、円形、表面に凸出があり、直径 1.2-1.7 mm、包膜は円形で楕着（ほぼ全縁～波状縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生または崖地生。

【生育環境】

山地の樹林内に生育。

【分布域】

本州（神奈川県・山梨県・長野県）、中国・南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤシャイノデ	<i>Polystichum neolobatum</i>	EN
第4次 2019:	ヤシャイノデ	<i>Polystichum neolobatum</i>	EN
第4次 2018:	ヤシャイノデ	<i>Polystichum neolobatum</i>	EN
第4次 2017:	ヤシャイノデ	<i>Polystichum neolobatum</i>	EN
第4次 2015:	ヤシャイノデ	<i>Polystichum neolobatum</i>	EN
第4次:	ヤシャイノデ	<i>Polystichum neolobatum</i>	EN
第3次:	ヤシャイノデ	<i>Polystichum neolobatum</i>	CR
第2次:	ヤシャイノデ	<i>Polystichum neo-lobatum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

神奈川県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館, 2022. 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編. 神奈川県, 438pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Polystichum neolobatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Polystichum neolobatum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Deer feeding damage
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミデンド

*Polystichum obae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 1 回羽状複生～2 回羽状複生、11-16 対の側羽片があり、葉柄は長さ 1.1-3.8 cm、葉身は長さ 4.8-8.3 cm、長楕円状披針形、最終裂片の辺縁は歯牙縁、葉質はやや硬い紙質、葉の色は黄緑色（光沢なし）。孢子嚢群は葉身の頂点側からつき、頂生、中肋と辺縁の中間生、円形、直径 0.6-0.9 mm、包膜は円形で楕着（全縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

溪流沿いの湿った岩上に生育。

【分布域】

琉球列島（奄美大島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミデング	<i>Polystichum obae</i>	CR
第4次 2019:	アマミデング	<i>Polystichum obae</i>	CR
第4次 2018:	アマミデング	<i>Polystichum obae</i>	CR
第4次 2017:	アマミデング	<i>Polystichum obae</i>	CR
第4次 2015:	アマミデング	<i>Polystichum obae</i>	CR
第4次:	アマミデング	<i>Polystichum obae</i>	CR
第3次:	アマミデング	<i>Polystichum obae</i>	CR
第2次:	アマミデング	<i>Polystichum obai</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polystichum obae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Polystichum obae is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サクラジマイノデ

Polystichum piceopaleaceum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 2 回羽状複生、26-30 対の側羽片があり、葉柄は長さ 25-33 cm、葉身は長さ 28-39 cm、三角状狭卵形、最終裂片の辺縁は浅い鋸歯縁、葉質はやや硬い紙質、葉の色は濃黄緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、部分的に孢子嚢群をつける羽片では小羽片の後ろ側につきはじめることが多く、頂生、やや中肋寄り、円形、直径 0.8-1.0 mm、包膜は円形で楕着（不規則な突起縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山林の溶岩の風穴に生育。

【分布域】

九州（佐賀県・鹿児島県）、中国・台湾・南アジア・フィリピンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	産地局限	その他

件数		
1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サクラジミノデ	<i>Polystichum piceopaleaceum</i>	CR
第4次 2019:	サクラジミノデ	<i>Polystichum piceopaleaceum</i>	CR
第4次 2018:	サクラジミノデ	<i>Polystichum piceopaleaceum</i>	CR
第4次 2017:	サクラジミノデ	<i>Polystichum piceopaleaceum</i>	CR
第4次 2015:	サクラジミノデ	<i>Polystichum piceopaleaceum</i>	CR
第4次:	サクラジミノデ	<i>Polystichum piceopaleaceum</i>	CR
第3次:	サクラジミノデ	<i>Polystichum piceopaleaceum</i>	CR
第2次:	サクラジミノデ	<i>Polystichum piceopaleaceum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 鹿児島県[地域絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳，2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polystichum piceopaleaceum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Polystichum piceopaleaceum is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Logging and wood harvesting, Limited distribution, Other
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シムライノデ

Polystichum shimurae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 C

推定成熟個体数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 2 回羽状複生、26-29 対の側羽片があり、葉柄は長さ 23-32 cm、葉身は長さ 42-55 cm、卵状狭楕円形、最終裂片の辺縁は浅い鋭鋸歯縁（先端は芒状）、葉質はやや硬い紙質、葉の色は緑色（やや光沢あり）。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、部分的に孢子嚢群をつける羽片では小羽片の先端付近からつきはじめ、頂生、辺縁寄り、円形、直径 1.1-1.2 mm、包膜は円形で楕着（欠刻縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

低山の沢筋に沿ったスギ植林の林床等に生育。

【分布域】

本州（東京都・静岡県）、中国（浙江省）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	自然遷移	

件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シムライノデ	<i>Polystichum shimurae</i>	CR
第4次 2019:	シムライノデ	<i>Polystichum shimurae</i>	EN
第4次 2018:	シムライノデ	<i>Polystichum shimurae</i>	EN
第4次 2017:	シムライノデ	<i>Polystichum shimurae</i>	EN
第4次 2015:	シムライノデ	<i>Polystichum shimurae</i>	EN
第4次:	シムライノデ	<i>Polystichum shimurae</i>	EN
第3次:	シムライノデ	<i>Polystichum shimurae</i>	EN
第2次:	シムライノデ	<i>Polystichum shimurae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅(EX)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2023. 東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版一. 東京都環境局自然環境部, 879pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polystichum shimurae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Polystichum shimurae* is listed as CR under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Logging and wood harvesting, Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ワラビツナギ

Arthropteris palisotii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉の切れ込みは 1 回羽状複生、26-32 対の側羽片があり、葉柄は長さ 0.7-1.2 cm、葉身は長さ 29-41 cm、披針形、最終裂片の辺縁は波状縁～鈍鋸歯縁、葉質は硬い草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は羽片のやや辺縁寄りや葉脈に頂生してつき、円形、直径 0.9-1.0 mm、包膜はあり、円腎形。

【生活史】

常緑。よじ登り生（樹幹・岩上）。

【生育環境】

山林地内の樹幹や岩上に生育する。

【分布域】

琉球列島（奄美大島以南）に分布。国外では、中国、台湾のほか、旧世界の熱帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ワラビツナギ	<i>Arthropteris palisotii</i>	CR
第4次 2019:	ワラビツナギ	<i>Arthropteris palisotii</i>	CR
第4次 2018:	ワラビツナギ	<i>Arthropteris palisotii</i>	CR
第4次 2017:	ワラビツナギ	<i>Arthropteris palisotii</i>	CR
第4次 2015:	ワラビツナギ	<i>Arthropteris palisotii</i>	CR
第4次:	ワラビツナギ	<i>Arthropteris palisotii</i>	CR
第3次:	ワラビツナギ	<i>Arthropteris palisotii</i>	CR
第2次:	ワラビツナギ	<i>Arthropteris palisotii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Arthropteris palisotii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arthropteris palisotii* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コモチナナバケシダ

Tectaria fauriei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は単葉～1 回羽状深裂（最下羽片は下向きに小羽片が 1 つ発達）、2-3 対の側羽片があり、葉柄は長さ 29-47 cm、葉身は長さ 30-40 cm、三角状広卵形～三角状卵形、単葉の場合は披針形（ほぼ上下相称形）、最終裂片の辺縁は全縁～波状縁、葉質はやや硬い紙質、葉の色は緑色～深緑色。孢子嚢群は裏面全体に散在したり葉脈に頂生または背生、円形～楕円形、直径 0.8-0.9 mm、包膜はあり、円腎形。

【生活史】

常緑。地上生／岩上生（石灰岩）。

【生育環境】

暗く湿った林中の岩の多い地面に生育する。

【分布域】

琉球列島（徳之島、沖永良部、沖縄島）に分布。国外では、中国（海南島、雲南省）、台湾、インド（北東部）、ブータン、インドシナ半島、マレー半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コモチナナバケシダ	<i>Tectaria fauriei</i>	CR
第4次 2019:	コモチナナバケシダ	<i>Tectaria fauriei</i>	CR
第4次 2018:	コモチナナバケシダ	<i>Tectaria fauriei</i>	CR
第4次 2017:	コモチナナバケシダ	<i>Tectaria fauriei</i>	CR
第4次 2015:	コモチナナバケシダ	<i>Tectaria fauriei</i>	CR
第4次:	コモチナナバケシダ	<i>Tectaria fauriei</i>	CR
第3次:	コモチナナバケシダ	<i>Tectaria fauriei</i>	CR
第2次:	コモチナナバケシダ	<i>Tectaria fauriei</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Tectaria fauriei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tectaria fauriei* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガバウスバシダ

Tectaria kusukusensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉の切れ込みは 2 回羽状中裂～深裂、20-24 対の側羽片があり、葉柄は長さ 26-35 cm、葉身は長さ 45-55 cm、長楕円状広披針形、最終裂片の辺縁は全縁～まばらな鈍鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は深緑色。孢子嚢群は羽片の中肋寄り、中肋の両側に各 1 列や葉脈に頂生し、円形、直径 0.8-1.0 mm、包膜はあり、円腎形。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

溪流に近い暗く湿った林内に生育する。

【分布域】

琉球列島（沖縄島、石垣島）に分布。国外では、中国（南部）、台湾、ベトナムに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガバウスバシダ	<i>Tectaria kusukusensis</i>	CR
第4次 2019:	ナガバウスバシダ	<i>Tectaria kusukusensis</i>	CR
第4次 2018:	ナガバウスバシダ	<i>Tectaria kusukusensis</i>	CR
第4次 2017:	ナガバウスバシダ	<i>Tectaria kusukusensis</i>	CR
第4次 2015:	ナガバウスバシダ	<i>Tectaria kusukusensis</i>	CR
第4次:	ナガバウスバシダ	<i>Tectaria kusukusensis</i>	CR
第3次:	ナガバウスバシダ	<i>Tectaria kusukusensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Tectaria kusukusensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Tectaria kusukusensis is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カザリシダ

Aglaomorpha coronans

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや長く匍匐。葉は 1 回羽状深裂、19-27 対の側羽片があり、葉柄は不明瞭、葉身は長さ 75-94 cm、狭長楕円形（基部は三角状狭長楕円形に広がる）、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は硬い革質、葉の色は緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、裂片の主側脈の間に 1 列に並び、長楕円形、長さ 0.9-2.2 mm。

【生活史】

常緑で着生。

【生育環境】

明るい林内の樹上または岩上に着生。

【分布域】

琉球列島（沖縄島・石垣島）、中国南部・台湾・南アジア・インドシナ半島・マレー半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、1 個体のみの現存が確認された。他に少なくとも 1 メッシュに分布記録があったが、近年見つかっていない。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カザリシダ	<i>Aglaomorpha coronans</i>	CR
第4次 2019:	カザリシダ	<i>Aglaomorpha coronans</i>	CR
第4次 2018:	カザリシダ	<i>Aglaomorpha coronans</i>	CR
第4次 2017:	カザリシダ	<i>Aglaomorpha coronans</i>	CR
第4次 2015:	カザリシダ	<i>Aglaomorpha coronans</i>	CR
第4次:	カザリシダ	<i>Aglaomorpha coronans</i>	CR
第3次:	カザリシダ	<i>Aglaomorpha coronans</i>	CR
第2次:	カザリシダ	<i>Aglaomorpha coronans</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aglaomorpha coronans has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Aglaomorpha coronans is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハカマウラボシ

Drynaria roosii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は普通葉と単葉の二形性。普通葉は 1 回羽状全裂、5-12 対の側羽片があり、葉柄は不明瞭、葉身は長さ 18-27 cm、三角状楕円形、最終裂片の辺縁は全縁、単葉は葉柄は不明瞭、葉身は長さ 3.9-6.8 cm、卵形、最終裂片の辺縁は全縁。葉質は柔らかい革質、葉の色は淡緑色（やや光沢あり）。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、裂片の主側脈の間に 1 列に並び、円形、直径 1.0-2.0 mm。

【生活史】

冬緑で着生。

【生育環境】

明るい林内の樹上または岩上に着生。

【分布域】

琉球列島（沖縄島）、中国・台湾・インドシナ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数個体のみの現存が確認された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハカマウラボシ	<i>Drynaria roosii</i>	CR
第4次 2019:	ハカマウラボシ	<i>Drynaria roosii</i>	CR
第4次 2018:	ハカマウラボシ	<i>Drynaria roosii</i>	CR
第4次 2017:	ハカマウラボシ	<i>Drynaria roosii</i>	CR
第4次 2015:	ハカマウラボシ	<i>Drynaria roosii</i>	CR
第4次:	ハカマウラボシ	<i>Drynaria roosii</i>	CR
第3次:	ハカマウラボシ	<i>Drynaria roosii</i>	CR
第2次:	ハカマウラボシ	<i>Drynaria fortunei</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Drynaria roosii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Drynaria roosii* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミアオネカズラ

*Goniophlebium amamianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は 1 回羽状深裂、19-24 対の側羽片があり、葉柄は長さ 9-12 cm、葉身は長さ 14-19 cm、三角状楕円形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は厚い草質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、裂片の中肋近くの両側に各 1 列に並び、円形、直径 1.4-1.9 mm。

【生活史】

冬緑で着生。

【生育環境】

山林内の樹幹に着生。

【分布域】

琉球列島（奄美大島・徳之島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミアオネカズラ	<i>Goniophlebium amamianum</i>	CR
第4次 2019:	アマミアオネカズラ	<i>Goniophlebium amamianum</i>	CR
第4次 2018:	アマミアオネカズラ	<i>Goniophlebium amamianum</i>	CR
第4次 2017:	アマミアオネカズラ	<i>Goniophlebium amamianum</i>	CR
第4次 2015:	アマミアオネカズラ	<i>Goniophlebium amamianum</i>	CR
第4次:	アマミアオネカズラ	<i>Goniophlebium amamianum</i>	CR
第3次:	アマミアオネカズラ	<i>Polypodium amamianum</i>	CR
第2次:	アマミアオネカズラ	<i>Polypodium amamianum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Goniophlebium amamianum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Goniophlebium amamianum* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トヨグチウラボシ

Lepisorus clathratus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや長く匍匐。葉は単葉、葉柄は長さ 0.5-1.9 cm、葉身は長さ 6.4-11 cm、長楕円状倒披針形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は厚い草質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、中肋と辺縁の中間生～中肋寄りで中肋の両側に各 1 列に並び、円形、直径 2.1-2.6 mm。

【生活史】

夏緑で岩上生。

【生育環境】

山地の石灰岩上に生育。

【分布域】

本州（長野県）、中国・台湾・南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トヨグチウラボシ	<i>Lepisorus clathratus</i>	EN
第4次 2019:	トヨグチウラボシ	<i>Lepisorus clathratus</i>	EN
第4次 2018:	トヨグチウラボシ	<i>Lepisorus clathratus</i>	EN
第4次 2017:	トヨグチウラボシ	<i>Lepisorus clathratus</i>	EN
第4次 2015:	トヨグチウラボシ	<i>Lepisorus clathratus</i>	EN
第4次:	トヨグチウラボシ	<i>Lepisorus clathratus</i>	EN
第3次:	トヨグチウラボシ	<i>Lepisorus clathratus</i>	EN
第2次:	トヨグチウラボシ	<i>Lepisorus clathratus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lepisorus clathratus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lepisorus clathratus is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウロコノキシノブ

Lepisorus oligolepidus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は単葉、葉柄は長さ 0.9-3.7 cm、葉身は長さ 8.4-14 cm、卵状披針形～卵状狭披針形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は革質、葉の色は緑色。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、やや中肋寄りで両側に各 1 列に並び、円形～楕円形、直径 2.6-4.0 mm。

【生活史】

常緑で着生または岩上生。

【生育環境】

林中の岩上や樹幹に着生。

【分布域】

本州（長野県）、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2 メッシュで計数個体の現存が推定される。着生している樹木の保全に十分な注意が望まれる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	—	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウロコノキシノブ	<i>Lepisorus oligolepidus</i>	CR
第4次 2019:	ウロコノキシノブ	<i>Lepisorus oligolepidus</i>	CR
第4次 2018:	ウロコノキシノブ	<i>Lepisorus oligolepidus</i>	CR
第4次 2017:	ウロコノキシノブ	<i>Lepisorus oligolepidus</i>	CR
第4次 2015:	ウロコノキシノブ	<i>Lepisorus oligolepidus</i>	CR
第4次:	ウロコノキシノブ	<i>Lepisorus oligolepidus</i>	CR
第3次:	ウロコノキシノブ	<i>Lepisorus oligolepidus</i>	CR
第2次:	ウロコノキシノブ	<i>Lepisorus oligolepidus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lepisorus oligolepidus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lepisorus oligolepidus is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オニマメツタ

Lepisorus pyriformis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は単葉、葉柄は長さ 0.9-1.5 cm、葉身は長さ 4.3-6.1 cm、披針形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は革質、葉の色は緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、裂片の中肋の両側に各 1 列に並び、円形～楕円形、直径 1.9-2.6 mm。

【生活史】

常緑で着生。

【生育環境】

林中の樹幹や岩上に着生。

【分布域】

本州（島根県）・屋久島、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	道路工事	自然遷移
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オニマメヅタ	<i>Lemmaphyllum pyriforme</i>	CR
第4次 2019:	オニマメヅタ	<i>Lemmaphyllum pyriforme</i>	CR
第4次 2018:	オニマメヅタ	<i>Lemmaphyllum pyriforme</i>	CR
第4次 2017:	オニマメヅタ	<i>Lemmaphyllum pyriforme</i>	CR
第4次 2015:	オニマメヅタ	<i>Lemmaphyllum pyriforme</i>	CR
第4次:	オニマメヅタ	<i>Lemmaphyllum pyriforme</i>	CR
第3次:	オニマメヅタ	<i>Lemmaphyllum pyriforme</i>	CR
第2次:	オニマメヅタ	<i>Lemmaphyllum pyriforme</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lepisorus pyriformis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lepisorus pyriformis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Road construction, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オキノクリハラン

Leptochilus decurrens

カテゴリー判定結果

絶滅危惧 I A 類 (CR)

基準 D+C

推定成熟個体数が 50 個体未満/推定成熟個体数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや長く匍匐。葉は二形性がある。孢子葉は単葉、葉柄は長さ 20-32 cm、葉身は長さ 18-32 cm、線形、最終裂片の辺縁は全縁。栄養葉は単葉、葉柄は長さ 3.0-7.9 cm、葉身は長さ 25-37 cm、狭披針形、最終裂片の辺縁は全縁。葉質は硬い紙質、葉の色は緑色（光沢あり）。孢子嚢群は孢子葉の裏面全体につき、線形、長さ 12-16 mm。

【生活史】

常緑で地上生または岩上生。

【生育環境】

樹林の陰湿な岩上に生育。

【分布域】

小笠原諸島（母島）、中国南部・台湾・南アジア・東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		

件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキノクリハラン	<i>Leptochilus decurrens</i>	CR
第4次 2019:	オキノクリハラン	<i>Leptochilus decurrens</i>	CR
第4次 2018:	オキノクリハラン	<i>Leptochilus decurrens</i>	CR
第4次 2017:	オキノクリハラン	<i>Leptochilus decurrens</i>	CR
第4次 2015:	オキノクリハラン	<i>Leptochilus decurrens</i>	CR
第4次:	オキノクリハラン	<i>Leptochilus decurrens</i>	CR
第3次:	オキノクリハラン	<i>Leptochilus decurrens</i>	CR
第2次:	オキノクリハラン	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024 年 9 月 6 日閲覧).

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Leptochilus decurrens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Leptochilus decurrens is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and: 1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒロハヒメウラボシ

*Oreogrammitis nipponica***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は単葉、葉柄は長さ 0.4-0.7 cm、葉身は長さ 2.0-3.6 cm、狭倒披針形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は紙質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、裂片の中肋の両側に各 1 列に並び、円形～楕円形、直径 0.7-1.9 mm。

【生活史】

常緑で着生または岩上生。

【生育環境】

川沿いの飛沫の届く場所で生育。

【分布域】

本州（伊豆諸島・伊豆半島以西）・四国（徳島県・高知県）・九州・屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 84%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	0	0	0	0	3	0	10

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因不明	自然遷移	
件数 4	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒロハヒメウラボシ	<i>Oreogrammitis nipponica</i>	CR
第4次 2019:	ヒロハヒメウラボシ	<i>Oreogrammitis nipponica</i>	CR
第4次 2018:	ヒロハヒメウラボシ	<i>Oreogrammitis nipponica</i>	CR
第4次 2017:	ヒロハヒメウラボシ	<i>Oreogrammitis nipponica</i>	CR
第4次 2015:	ヒロハヒメウラボシ	<i>Oreogrammitis nipponica</i>	CR
第4次:	ヒロハヒメウラボシ	<i>Oreogrammitis nipponica</i>	CR
第3次:	ヒロハヒメウラボシ	<i>Grammitis nipponica</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[CR] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅(EX)] 佐賀県[絶滅種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Oreogrammitis nipponica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Oreogrammitis nipponica is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Unknown, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒトツバマメツタ

Pyrrosia adnascens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は二形性がある。孢子葉は単葉、葉柄は長さ 2.2-3.1 cm、葉身は長さ 10-15 cm、狭披針形、最終裂片の辺縁は全縁。栄養葉は単葉、葉柄は長さ 0.6-1.4 cm、葉身は長さ 5-6.5 cm、卵状楕円形～卵状披針形、最終裂片の辺縁は全縁。葉質は革質、葉の色は緑色。孢子嚢群は孢子葉の先端側からつき（先端 1/3 から 1/2 程度）、裏面全体にあり、円形～楕円形。

【生活史】

常緑で着生または岩上生。

【生育環境】

林中の岩上や樹上に着生。

【分布域】

琉球列島（沖縄島）、中国・台湾・南アジア・東南アジア・南太平洋に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が報告された。園芸用の採取により激減している。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒトツバマメヅタ	<i>Pyrrosia adnascens</i>	CR
第4次 2019:	ヒトツバマメヅタ	<i>Pyrrosia adnascens</i>	CR
第4次 2018:	ヒトツバマメヅタ	<i>Pyrrosia adnascens</i>	CR
第4次 2017:	ヒトツバマメヅタ	<i>Pyrrosia adnascens</i>	CR
第4次 2015:	ヒトツバマメヅタ	<i>Pyrrosia adnascens</i>	CR
第4次:	ヒトツバマメヅタ	<i>Pyrrosia adnascens</i>	CR
第3次:	ヒトツバマメヅタ	<i>Pyrrosia adnascens</i>	CR
第2次:	ヒトツバマメヅタ	<i>Pyrrosia adnascens</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pyrrosia adnascens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pyrrosia adnascens* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シダ植物門 Pteridophyta ウラボシ科 Polypodiaceae

タイワンビロードシダ

Pyrrosia linearifolia var. *heterolepis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定成熟個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準変種のビロードシダに似るが、鱗片が幅広い点で区別される。ただし「日本産シダ植物標準図鑑」ではビロードシダと区別されていない。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

日光や風がよく当たる岩盤に生育。

【分布域】

琉球列島（沖縄島北部・渡名喜島）、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。自生地が開発され、個体数が減少している。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾ビロードシダ	<i>Pyrrosia linearifolia</i> var. <i>heterolepis</i>	CR
第4次 2019:	台湾ビロードシダ	<i>Pyrrosia linearifolia</i> var. <i>heterolepis</i>	CR
第4次 2018:	台湾ビロードシダ	<i>Pyrrosia linearifolia</i> var. <i>heterolepis</i>	CR
第4次 2017:	台湾ビロードシダ	<i>Pyrrosia linearifolia</i> var. <i>heterolepis</i>	CR
第4次 2015:	台湾ビロードシダ	<i>Pyrrosia linearifolia</i> var. <i>heterolepis</i>	CR
第4次:	台湾ビロードシダ	<i>Pyrrosia linearifolia</i> var. <i>heterolepis</i>	CR
第3次:	台湾ビロウドシダ	<i>Pyrrosia linearifolia</i> var. <i>heterolepis</i>	CR
第2次:	台湾ビロウドシダ	<i>Pyrrosia linearifolia</i> var. <i>heterolepis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pyrrosia linearifolia var. *heterolepis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pyrrosia linearifolia* var. *heterolepis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キレハオオクボシダ

*Tomophyllum sakaguchianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は1回羽状全裂、17-27対の側羽片があり、葉柄は長さ0.5-0.7 cm、葉身は長さ5.1-6.3 cm、披針形、最終裂片の辺縁は鈍鋸歯縁、葉質は薄い紙質、葉の色は緑色。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、裂片の側脈上、1裂片あたり1から数個あり、円形～長楕円形、直径0.5-0.7 mm。

【生活史】

常緑で着生または岩上生。

【生育環境】

山地の深い森林中の樹幹や岩上で、コケに混じり生育。

【分布域】

本州（関東地方・中部地方・紀伊半島）・九州（熊本県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では2メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は62%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 園芸採取	自然遷移	不明
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キレハオオクボシダ	<i>Tomophyllum sakaguchianum</i>	EN
第4次 2019:	キレハオオクボシダ	<i>Tomophyllum sakaguchianum</i>	EN
第4次 2018:	キレハオオクボシダ	<i>Tomophyllum sakaguchianum</i>	EN
第4次 2017:	キレハオオクボシダ	<i>Tomophyllum sakaguchianum</i>	EN
第4次 2015:	キレハオオクボシダ	<i>Tomophyllum sakaguchianum</i>	EN
第4次:	キレハオオクボシダ	<i>Tomophyllum sakaguchianum</i>	EN
第3次:	キレハオオクボシダ	<i>Ctenopteris sakaguchiana</i>	EN
第2次:	キレハオオクボシダ	<i>Ctenopteris sakaguchiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅(EX)] 東京都(西多摩)[絶滅(EX)]
山梨県[情報不足(DD)] 長野県[絶滅(EX)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 奈良県[絶滅寸前種,注目種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Tomophyllum sakaguchianum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Tomophyllum sakaguchianum is listed as CR under criteria ACD.
The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Unknown
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメコウホネ

Nuphar subintegerrima

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

全体に小型で、水上葉は円形、長さ 4-17 cm。花は黄色、径 2-3.5 cm。

【生活史】

多年生。

【生育環境】

浅い池沼に生育する。

【分布域】

東海地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、10 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	2	4	0	0	10	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 水質汚濁	自然遷移	帰化競合
件数 5	5	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i>	VU
第4次 2019:	ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i>	VU
第4次 2018:	ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i>	VU
第4次 2017:	ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i>	VU
第4次 2015:	ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i>	VU
第4次:	ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i>	VU
第3次:	ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i>	VU
第2次:	ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrimum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[情報不足] 神奈川県[絶滅(EX)] 富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 石川県[情報不足(DD)] 長野県[情報不足(DD)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[情報不足(DD)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[VU] 滋賀県[要注目種] 奈良県[絶滅危惧種] 徳島県[絶滅危惧Ⅱ類] 愛媛県[情報不足(DD)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020—植物編—．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Nuphar subintegerrima has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Nuphar subintegerrima* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Water pollution, Natural succession, Invasive species competition
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シモツケコウホネ

*Nuphar submersa***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

水中葉は狭長楕円形～三角形、長さ 10–18 cm。花は黄色で径 2–3 cm。

【生活史】

多年生。

【生育環境】

低地～丘陵地の河川や水路に生育する。

【分布域】

栃木県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	2	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	園芸採取	管理放棄
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シモツケコウホネ	<i>Nuphar submersa</i>	CR
第4次 2019:	シモツケコウホネ	<i>Nuphar submersa</i>	CR
第4次 2018:	シモツケコウホネ	<i>Nuphar submersa</i>	CR
第4次 2017:	シモツケコウホネ	<i>Nuphar submersa</i>	CR
第4次 2015:	シモツケコウホネ	<i>Nuphar submersa</i>	CR
第4次:	シモツケコウホネ	<i>Nuphar submersa</i>	CR
第3次:	シモツケコウホネ	<i>Nuphar submersa</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 栃木県環境森林部自然環境課・栃木県立博物館，2018．レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物．栃木県環境森林部自然環境課，991pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Nuphar submersa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Nuphar submersa* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Land development, Collecting plants in gardening, Abandonment of management

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイヨウフウトウカズラ

Piper postelsianum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-2 m。直立性、葉身は長さ幅ともに 15-20 cm。花序は葉腋に 1-3 個が束生する。

【生活史】

半低木。

【生育環境】

林内に生育。

【分布域】

小笠原諸島（母島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
その他		
件数		
1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タイヨウフウトウカズラ	<i>Piper postelsianum</i>	CR
第4次 2019:	タイヨウフウトウカズラ	<i>Piper postelsianum</i>	CR
第4次 2018:	タイヨウフウトウカズラ	<i>Piper postelsianum</i>	CR
第4次 2017:	タイヨウフウトウカズラ	<i>Piper postelsianum</i>	CR
第4次 2015:	タイヨウフウトウカズラ	<i>Piper postelsianum</i>	CR
第4次:	タイヨウフウトウカズラ	<i>Piper postelsianum</i>	CR
第3次:	タイヨウフウトウカズラ	<i>Piper postelsianum</i>	CR
第2次:	タイヨウフウトウカズラ	<i>Piper postelsianum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Piper postelsianum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Piper postelsianum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Other

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オナガサイシン

Asarum caudigerum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

全草に長毛があり、茎は地上をはう。葉身は長さ 7-15 cm、卵状三角形、基部は心形、深緑色で光沢がある。萼筒は長さ 1 cm、上部はゆるくくびれ、淡緑褐色。萼裂片は長さ 10-25 mm、三角状披針形、先は細長く伸びる。

【生活史】

多年草。花期は 2-3 月。

【生育環境】

山地の常緑広葉樹の林床に生育。

【分布域】

沖縄県（嘉津宇岳・安和岳）、台湾・中国南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オナガサイシン	<i>Asarum caudigerum</i>	CR
第4次 2019:	オナガサイシン	<i>Asarum caudigerum</i>	CR
第4次 2018:	オナガサイシン	<i>Asarum caudigerum</i>	CR
第4次 2017:	オナガサイシン	<i>Asarum caudigerum</i>	CR
第4次 2015:	オナガサイシン	<i>Asarum caudigerum</i>	CR
第4次:	オナガサイシン	<i>Asarum caudigerum</i>	CR
第3次:	オナガサイシン	<i>Asarum caudigerum</i>	CR
第2次:	オナガサイシン	<i>Asarum leptophyllum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum caudigerum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum caudigerum* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

グスクカンアオイ

*Asarum gusk***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 8-9 cm、卵状三角形、基部は心形、暗緑色で光沢はない。葉の縁や葉脈、葉柄に毛が散生する。花は淡褐色～緑褐色。萼筒は長さ 11 mm、上方に向かって細くなり、とっくり状。萼裂片は長さ 7 mm、表面はなめらかで無毛、縁が反り返ることがある。

【生活史】

多年草。花期は 3-4 月。

【生育環境】

山地の常緑広葉樹の林床に生育。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	グスクカンアオイ	<i>Asarum gusk</i>	CR
第4次 2019:	グスクカンアオイ	<i>Asarum gusk</i>	CR
第4次 2018:	グスクカンアオイ	<i>Asarum gusk</i>	CR
第4次 2017:	グスクカンアオイ	<i>Asarum gusk</i>	CR
第4次 2015:	グスクカンアオイ	<i>Asarum gusk</i>	CR
第4次:	グスクカンアオイ	<i>Asarum gusk</i>	CR
第3次:	グスクカンアオイ	<i>Asarum gusk</i>	CR
第2次:	グスクカンアオイ	<i>Heterotropa gusuk</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum gusk has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum gusk* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シジキカンアオイ

Asarum hexalobum var. *controversum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

サンヨウアオイに似るが、葉身は長さ 4-5 cm、幅 3-4 cm と小さくて厚く、表面が葉脈に沿って凹む。花もより小さい。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

長崎県（平戸島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	産地局限	
件数 2	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シシキカンアオイ	<i>Asarum hexalobum</i> var. <i>controversum</i>	CR
第4次 2019:	シシキカンアオイ	<i>Asarum hexalobum</i> var. <i>controversum</i>	CR
第4次 2018:	シシキカンアオイ	<i>Asarum hexalobum</i> var. <i>controversum</i>	CR
第4次 2017:	シシキカンアオイ	<i>Asarum hexalobum</i> var. <i>controversum</i>	CR
第4次 2015:	シシキカンアオイ	<i>Asarum hexalobum</i> var. <i>controversum</i>	CR
第4次:	シシキカンアオイ	<i>Asarum hexalobum</i> var. <i>controversum</i>	CR
第3次:	シシキカンアオイ	<i>Asarum hexalobum</i> var. <i>controversum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 長崎県県民生活環境部自然保護課，2001．ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック 2001．長崎県県民生活環境部自然保護課，568pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum hexalobum var. *controversum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum hexalobum* var. *controversum* is listed as CR under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Limited distribution
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ジュロウカンアオイ

*Asarum kinoshitae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉がカンアオイに似るが、萼筒は長さ 13-16 mm と大きく、中間で一度くびれた形状。冬期に開花する。

【生活史】

多年草。花期は 12-1 月。

【生育環境】

山中に生育。

【分布域】

三重県南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ジュロウカンアオイ	<i>Asarum kinoshitae</i>	CR
第4次 2019:	ジュロウカンアオイ	<i>Asarum kinoshitae</i>	CR
第4次 2018:	ジュロウカンアオイ	<i>Asarum kinoshitae</i>	CR
第4次 2017:	ジュロウカンアオイ	<i>Asarum kinoshitae</i>	CR
第4次 2015:	ジュロウカンアオイ	<i>Asarum kinoshitae</i>	CR
第4次:	ジュロウカンアオイ	<i>Asarum kinoshitae</i>	CR
第3次:	ジュロウカンアオイ	<i>Heterotropa kinoshitae</i>	CR
第2次:	ジュロウカンアオイ	<i>Heterotropa kinoshitae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 三重県農林水産部みどり共生推進課，2015．三重県レッドデータブック 2015．三重県農林水産部みどり共生推進課，757pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum kinoshitae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum kinoshitae* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タニムラアオイ

Asarum leucosepalum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

日本産カンアオイ属で白色の花をつける唯一の種であり、世界的にも類似の種はない。花の直径は 15-20 mm、萼裂片の表面に多細胞の毛を散生し、全体に白色から淡紫色で、口環部周辺は同心円状に隆起があり赤紫色を呈する。蕊柱には雄蕊が 12、柱頭が 6 つあり、花柱先端には短く二股に分かれた付属突起が存在する。萼筒は円筒形で幅 6-10 mm、長さ 8-11 mm、内部には横に 4-7 列、縦に 8-24 列の格子状に発達した隆起がある。葉は卵形から三角状卵形で長さ 6-12 cm、幅 3-7 cm、表面は暗緑色でほとんど光沢が無く、斑は無いがあまり目立たず、葉縁や葉脈上、葉柄に毛を散生する。

【生活史】

常緑多年草。花期は 2 月から 3 月。基本的に他殖性であり、ハエ目昆虫が送粉することで結実する。花にはモノテルペン類を主成分とする芳香がある。種子には休眠性がなく、散布された翌春に発芽する。開花サイズに達するまで発芽から栽培下では 3 年以上が必要。

【生育環境】

隆起珊瑚礁石灰岩地の陰湿な林内斜面に生育。

【分布域】

徳之島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

自生地がきわめて限られており、開花個体数も非常に少ない。鑑賞価値が高いため、園芸採取による減少が危惧される。また自生地の多くは国立公園区域外であるため、周辺地域も含めて開発や環境の人為的改変による減少が懸念される。また自然災害による斜面の崩落や植生遷移などによっても悪影響が懸念されるため、自生地のきめ細かなモニタリングが重要である。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Iwatsuki, K., D. E. Boufford and H. Ohba, 2006. Flora of Japan, Vol. IIa, Kodansha, Tokyo. 564pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Asarum leucosepalum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Asarum leucosepalum is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
 Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オナガカンアオイ

*Asarum minamitanianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 C

推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 8-12 cm、広卵形～卵形、基部は心形、表面に雲紋状の斑がある。葉縁に毛が密生する。萼筒は長さ 5-8 mm、上端はいちじるしくくびれ、半球形。萼裂片は長さ 5-10 cm、卵状三角形、先は細長く鞭状に伸び、黒紫色。

【生活史】

多年草。花期は 4-5 月。

【生育環境】

低山地の照葉樹林下に生育。

【分布域】

宮崎県（日向市付近）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	6	0	0	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	園芸採取	自然遷移
件数 6	6	6

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オナガカンアオイ	<i>Asarum minamitanianum</i>	CR
第4次 2019:	オナガカンアオイ	<i>Asarum minamitanianum</i>	CR
第4次 2018:	オナガカンアオイ	<i>Asarum minamitanianum</i>	CR
第4次 2017:	オナガカンアオイ	<i>Asarum minamitanianum</i>	CR
第4次 2015:	オナガカンアオイ	<i>Asarum minamitanianum</i>	CR
第4次:	オナガカンアオイ	<i>Asarum minamitanianum</i>	CR
第3次:	オナガカンアオイ	<i>Asarum minamitanianum</i>	CR
第2次:	オナガカンアオイ	<i>Heterotropa minamitaniana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-g)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum minamitanianum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Asarum minamitanianum is listed as CR under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フクエジマカンアオイ

*Asarum mitoanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

サンヨウアオイ類に似るが、萼筒はやや台形状、子房は半下位で、内外 2 輪に配置する雄蕊のうち、外側の 6 個が完全に消失する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

常緑広葉樹林内の急斜面に生育。

【分布域】

長崎県福江島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

園芸採取による減少がとくに懸念される。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フクエジマカンアオイ	<i>Asarum mitoanum</i>	CR
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- Sugawara, T., 1996. A new species of *Asarum* (Aristolochiaceae) from Goto Islands, Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 47: 135–141.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum mitoanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum mitoanum* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

モノドラカンアオイ

*Asarum monodoriflorum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

エクボサイシンに似るが、雄蕊は 12 個、花柱は 6 個であり、口環が発達して萼筒入口が狭まる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林床に生育。

【分布域】

西表島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	モノドラカンアオイ	<i>Asarum monodoriflorum</i>	CR
第4次 2019:	モノドラカンアオイ	<i>Asarum monodoriflorum</i>	CR
第4次 2018:	モノドラカンアオイ	<i>Asarum monodoriflorum</i>	CR
第4次 2017:	モノドラカンアオイ	<i>Asarum monodoriflorum</i>	CR
第4次 2015:	モノドラカンアオイ	<i>Asarum monodoriflorum</i>	CR
第4次:	モノドラカンアオイ	<i>Asarum monodoriflorum</i>	CR
第3次:	モノドラカンアオイ	<i>Asarum monodoriflorum</i>	CR
第2次:	モノドラカンアオイ	<i>Heterotropa monodraeflora</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum monodoriflorum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Asarum monodoriflorum is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナゼカンアオイ

*Asarum nazeanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 4-8 cm、卵状三角形、光沢と白斑はなく、暗緑色。萼筒は長さ 11-13 mm、盃形、緑褐色。萼裂片は長さ 7-12 mm、卵状三角形、表面に短毛がある。萼筒内壁の襞は複雑、縦襞は 9-12 個。

【生活史】

多年草。花期は 2-3 月。

【生育環境】

山地の広葉樹林下に生育。

【分布域】

鹿児島県（奄美大島中部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナゼカンアオイ	<i>Asarum nazeanum</i>	EN
第4次 2019:	ナゼカンアオイ	<i>Asarum nazeanum</i>	EN
第4次 2018:	ナゼカンアオイ	<i>Asarum nazeanum</i>	EN
第4次 2017:	ナゼカンアオイ	<i>Asarum nazeanum</i>	EN
第4次 2015:	ナゼカンアオイ	<i>Asarum nazeanum</i>	EN
第4次:	ナゼカンアオイ	<i>Asarum nazeanum</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum nazeanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum nazeanum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒナカンアオイ

*Asarum okinawense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤビカンアオイに似るが、葉柄が緑色、葉の表面に雲紋状の斑がある。萼筒はくびれがない。萼裂片は長さ 5 mm 内外、卵形、縁は反り返らず、基部に小突起がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の石灰岩地帯の林床に生育。

【分布域】

沖縄県（嘉津宇岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 10 年前に数個体を確認した自生地では、発見できなかった。絶滅したおそれがあるが、再発見の可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第4次 2019:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第4次 2018:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第4次 2017:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第4次 2015:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第4次:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第3次:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第2次:	ヒナカンアオイ	<i>Heterotropa okinawensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum okinawense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum okinawense* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トリガミネカンアオイ

*Asarum pellucidum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

グスクカンアオイに似るが、花柱が 3 個、雄蕊が 6 個へ半減し、開花が早い。萼裂片の上面に長毛が密生する。

【生活史】

多年草。花期は 12-1 月。

【生育環境】

常緑樹林の林床に生育。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	トリガミネカンアオイ	<i>Asarum pellucidum</i>	CR
第4次 2019:	トリガミネカンアオイ	<i>Asarum pellucidum</i>	CR
第4次 2018:	トリガミネカンアオイ	<i>Asarum pellucidum</i>	CR
第4次 2017:	トリガミネカンアオイ	<i>Asarum pellucidum</i>	CR
第4次 2015:	トリガミネカンアオイ	<i>Asarum pellucidum</i>	CR
第4次:	トリガミネカンアオイ	<i>Asarum pellucidum</i>	CR
第3次:	トリガミネカンアオイ	<i>Asarum pellucidum</i>	CR
第2次:	トリガミネカンアオイ	<i>Heterotropa (=Asarum) pellucidum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum pellucidum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum pellucidum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サツマアオイ

*Asarum satsumense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

タイリンアオイに似るが、萼筒はやや小型で、入口はより広く、萼裂片の縁はより強いねりがある。花柱上部の付属突起は短い耳状か角状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

常緑樹林の林床や林縁に生育。

【分布域】

鹿児島県（薩摩半島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	園芸採取	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サツマアオイ	<i>Asarum satsumense</i>	CR
第4次 2019:	サツマアオイ	<i>Asarum satsumense</i>	CR
第4次 2018:	サツマアオイ	<i>Asarum satsumense</i>	CR
第4次 2017:	サツマアオイ	<i>Asarum satsumense</i>	CR
第4次 2015:	サツマアオイ	<i>Asarum satsumense</i>	CR
第4次:	サツマアオイ	<i>Asarum satsumense</i>	CR
第3次:	サツマアオイ	<i>Asarum satsumense</i>	CR
第2次:	サツマアオイ	<i>Heterotropa satsumensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum satsumense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum satsumense* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

センカクカンアオイ

*Asarum senkakuinsulare***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オモロカンアオイに似るが、葉の表面に白斑はなく、萼筒は長さ 1.5 cm 内外で大きく、花柱は 6 個。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林床に生育。

【分布域】

尖閣諸島（魚釣島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。過去の情報として 1 メッシュ 50 個体未満と報告された。引き続き、ノヤギの食害による影響が強く懸念される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	センカクカンアオイ	<i>Asarum senkakuinsulare</i>	CR
第4次 2019:	センカクカンアオイ	<i>Asarum senkakuinsulare</i>	CR
第4次 2018:	センカクカンアオイ	<i>Asarum senkakuinsulare</i>	CR
第4次 2017:	センカクカンアオイ	<i>Asarum senkakuinsulare</i>	CR
第4次 2015:	センカクカンアオイ	<i>Asarum senkakuinsulare</i>	CR
第4次:	センカクカンアオイ	<i>Asarum senkakuinsulare</i>	CR
第3次:	センカクカンアオイ	<i>Asarum senkakuinsulare</i>	CR
第2次:	センカクカンアオイ	<i>Heterotropa senkakuinsularis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum senkakuinsulare has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum senkakuinsulare* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アサトカンアオイ

*Asarum tabatanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ナゼカンアオイに似るが、萼筒は長さ 12-16 mm と大きく、丸みがある。萼筒内壁の襞は 19-24 個と複雑に発達する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採		
件数 3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アサトカンアオイ	<i>Asarum tabatanum</i>	CR
第4次 2019:	アサトカンアオイ	<i>Asarum tabatanum</i>	CR
第4次 2018:	アサトカンアオイ	<i>Asarum tabatanum</i>	CR
第4次 2017:	アサトカンアオイ	<i>Asarum tabatanum</i>	CR
第4次 2015:	アサトカンアオイ	<i>Asarum tabatanum</i>	CR
第4次:	アサトカンアオイ	<i>Asarum tabatanum</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum tabatanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum tabatanum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Logging and wood harvesting

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シモダカンアオイ

Heterotropa muramatsui var. *shimodana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は卵円形～広楕円形で、アマギカンアオイより広いが、タマノカンアオイよりは狭い。葉柄は基部が紫色を帯び、葉身表面の光沢や脈の陥入の程度は両者の中間的性質を帯びる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸近くの峠等に生育。

【分布域】

伊豆半島（下田市）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数十個体と推定された。園芸用の採取と森林伐採のために減少傾向にあった。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シモダカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>shimodanum</i>	CR
第4次 2019:	シモダカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>shimodanum</i>	CR
第4次 2018:	シモダカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>shimodanum</i>	CR
第4次 2017:	シモダカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>shimodanum</i>	CR
第4次 2015:	シモダカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>shimodanum</i>	CR
第4次:	シモダカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>shimodanum</i>	CR
第3次:	シモダカンアオイ	<i>Asarum muramatsui</i> var. <i>shimodanum</i>	CR
第2次:	シモダカンアオイ	<i>Heterotropa muramatsui</i> var. <i>shimodana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 前川文夫, 1980. シモダカンアオイとその一群. 植物研究雑誌, 55: 129-131.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Heterotropa muramatsui var. *shimodana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Heterotropa muramatsui* var. *shimodana* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クロボウモドキ

Monoon liukuense

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 15 m。葉は互生、葉身は卵形か長楕円形、長さ 10-25 cm。葉腋に緑色から黄緑色に変色する花を 1-6 個つける。分果は楕円形、長さ 2-2.5 cm、液質で黒熟する。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

石灰岩上に生育する。

【分布域】

琉球（西表島、波照間島）に分布。国外では台湾（蘭嶼）に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロボウモドキ	<i>Polyalthia liukuensis</i>	CR
第4次 2019:	クロボウモドキ	<i>Polyalthia liukuensis</i>	CR
第4次 2018:	クロボウモドキ	<i>Polyalthia liukuensis</i>	CR
第4次 2017:	クロボウモドキ	<i>Polyalthia liukuensis</i>	CR
第4次 2015:	クロボウモドキ	<i>Polyalthia liukuensis</i>	CR
第4次:	クロボウモドキ	<i>Polyalthia liukuensis</i>	CR
第3次:	クロボウモドキ	<i>Polyalthia liukuensis</i>	CR
第2次:	クロボウモドキ	<i>Polyalthia liukuensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Monoon liukuense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Monoon liukuense* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

テングノハナ

Illigera luzonensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

長さ 4-5 m。葉は 3 小葉からなり、葉柄で他物にからみつき、葉柄は長さ 5-10 cm。小葉は卵形または卵円形、長さ 5-10 cm、表面脈上に短毛がある他は無毛。7-8 月、葉腋から長さ 8-20 cm の花序を伸ばし、花は淡赤紫色で長さ 13-15 mm。果実は楕円形、2 枚の半円形の大きな翼と 2 枚の半楕円形の狭い翼があり、長さ 1.5-2 cm、幅は長翼を含めて 3-4.5 cm。

【生活史】

藤本。

【生育環境】

海岸林に生育する。

【分布域】

琉球（石垣島）に分布。国外では、台湾南部、フィリピンに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。過去に 4 ケ所で採集された記録がある。2007 年調査では 1 つのメッシュで絶滅と報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	テングノハナ	<i>Illigera luzonensis</i>	CR
第4次 2019:	テングノハナ	<i>Illigera luzonensis</i>	CR
第4次 2018:	テングノハナ	<i>Illigera luzonensis</i>	CR
第4次 2017:	テングノハナ	<i>Illigera luzonensis</i>	CR
第4次 2015:	テングノハナ	<i>Illigera luzonensis</i>	CR
第4次:	テングノハナ	<i>Illigera luzonensis</i>	CR
第3次:	テングノハナ	<i>Illigera luzonensis</i>	CR
第2次:	テングノハナ	<i>Illigera luzonensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Illigera luzonensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Illigera*

<i>luzonensis</i> is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オドリコテンナンショウ

*Arisaema aprile***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 2 個でほぼ同大。小葉は楕円形ないし広楕円形で両端はしだいに狭まり、ときに不規則なあらい鋸歯がある。花期は 4-5 月、仏炎苞は緑色で白条は目立たず、縁のみ紫がかかることがあり、口部はやや開出し、舷部は長卵形で先はしだいにとがる。花序付属体は淡色で有柄、棒状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

ブナ帯林下。

【分布域】

本州（静岡県・山梨県・神奈川県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 85% であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	0	0	0	3	0	4

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因不明	産地局限	園芸採取
件数	1	1

4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オドリコテンナンショウ	<i>Arisaema aprile</i>	CR
第4次 2019:	オドリコテンナンショウ	<i>Arisaema aprile</i>	CR
第4次 2018:	オドリコテンナンショウ	<i>Arisaema aprile</i>	CR
第4次 2017:	オドリコテンナンショウ	<i>Arisaema aprile</i>	CR
第4次 2015:	オドリコテンナンショウ	<i>Arisaema aprile</i>	CR
第4次:	オドリコテンナンショウ	<i>Arisaema aprile</i>	CR
第3次:	オドリコテンナンショウ	<i>Arisaema aprile</i>	CR
第2次:	オドリコテンナンショウ	<i>Arisaema aprile</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

神奈川県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema aprile has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema aprile* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Unknown, Limited distribution, Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホロテンナンショウ

*Arisaema cucullatum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D+C

推定開花株数が 50 個体未満/推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 1 個で、小葉は鳥足状に 7-13 枚つき、狭長卵形で、頂小葉は長さ 10-24 cm。花期は 5-6 月、仏炎苞は長さ 10-22 cm で、筒部は長さ 3.5-6 cm。舷部は濃紫色で、3-4 本の白条があり、舷部と口辺部が内側に曲がり、ほろ状となり、先端は急に狭まり尾状に長く伸びる。付属体は基部でやや太く、しだいに細く伸びて先端はややふくらみ、径 3-5 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林下。

【分布域】

奈良県・三重県。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	園芸採取	

不明		
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホロテンナンショウ	<i>Arisaema cucullatum</i>	CR
第4次 2019:	ホロテンナンショウ	<i>Arisaema cucullatum</i>	CR
第4次 2018:	ホロテンナンショウ	<i>Arisaema cucullatum</i>	CR
第4次 2017:	ホロテンナンショウ	<i>Arisaema cucullatum</i>	CR
第4次 2015:	ホロテンナンショウ	<i>Arisaema cucullatum</i>	CR
第4次:	ホロテンナンショウ	<i>Arisaema cucullatum</i>	CR
第3次:	ホロテンナンショウ	<i>Arisaema cucullatum</i>	CR
第2次:	ホロテンナンショウ	<i>Arisaema cucullatum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 奈良県[絶滅寸前種,注目種] 和歌山県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema cucullatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Arisaema cucullatum is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and: 1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Unknown, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオアマミテンナンショウ

Arisaema heterocephalum subsp. *majus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アマミテンナンショウの亜種であるが、基本種と比較して全体大型、植物体が緑色で色斑がほとんどない。花序付属体が棒状で長く、仏炎苞の筒部から明らかに露出するなどの特徴がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低地の崖や林縁。

【分布域】

徳之島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオアマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>majus</i>	CR
第4次 2019:	オオアマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>majus</i>	CR
第4次 2018:	オオアマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>majus</i>	CR
第4次 2017:	オオアマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>majus</i>	CR
第4次 2015:	オオアマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>majus</i>	CR
第4次:	オオアマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>majus</i>	CR
第3次:	オオアマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>majus</i>	CR
第2次:	オオアマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> ssp. <i>majus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema heterocephalum subsp. *majus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema heterocephalum* subsp. *majus* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オキナワテンナンショウ

Arisaema heterocephalum subsp. *okinawense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アマミテンナンショウの亜種であるが、基本種と比較して小葉の数が少なく、全体に大型で高さ約 70 cm になり、仏炎苞の腋部は内面濃紫色。小葉は花をつけた個体で 11-15 枚、披針形から楕円形、長さ 10-20 cm。付属体は雌花序で長さ 8-11 cm、頭部の径 4-8 mm、雄花序で長さ 6-10 cm、頭部の径 4-10 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩山地の常緑樹林下。

【分布域】

沖縄本島（嘉津宇岳など）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキナワテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>okinawense</i>	CR
第4次 2019:	オキナワテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>okinawense</i>	CR
第4次 2018:	オキナワテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>okinawense</i>	CR
第4次 2017:	オキナワテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>okinawense</i>	CR
第4次 2015:	オキナワテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>okinawense</i>	CR
第4次:	オキナワテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>okinawense</i>	CR
第3次:	オキナワテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>okinawense</i>	CR
第2次:	オキナワテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> ssp. <i>okinawaense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema heterocephalum subsp. *okinawense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema heterocephalum* subsp. *okinawense* is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イナヒロハテンナンショウ

Arisaema inaense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D+C

推定開花株数が 50 個体未満/推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は通常 1 個。小葉は全縁、狭楕円形で先がとがる。花期は 5-6 月、仏炎苞は葉身に遅れて開き、淡紫褐色でやや緑色をおび、筒部にいちじるしく隆起する白色の縦条が多数あって舷部に続き、筒部の口辺は狭く開出し、舷部は倒卵形で先がとがり、筒部よりも長い。花序付属体は有柄で太棒状、先はやや頭状にふくらみ、仏炎苞筒部から短く露出し、淡紫褐色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地ブナ帯の林縁など。

【分布域】

本州（長野県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	0	0	0	3	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	不明	

自然遷移		
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イナヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema inaense</i>	CR
第4次 2019:	イナヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema inaense</i>	CR
第4次 2018:	イナヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema inaense</i>	CR
第4次 2017:	イナヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema inaense</i>	CR
第4次 2015:	イナヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema inaense</i>	CR
第4次:	イナヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema inaense</i>	CR
第3次:	イナヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema ovale</i> var. <i>inaense</i>	CR
第2次:	イナヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema ovale</i> var. <i>inaense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema inaense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema inaense* is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and: 1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Natural succession, Unknown
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イシヅチテンナンショウ

*Arisaema ishizuchiense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 1 個、鳥足状に 5 小葉をつけ、小葉は楕円形、時に倒卵形。花序は葉より早く開き、花柄は長さ 7-17 cm、多くは葉柄とほぼ同長。仏炎苞はやや大型、紫褐色あるいは緑紫色で、筒部に白条がある。付属体は棍棒状で、先は少し膨らみ、径 6-10 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

ブナ帯の山地の林中。

【分布域】

四国の石鎚および剣山系。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 86% であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	3	0	0	0	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	シカ食害
件数 7	6	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イシヅチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> subsp. <i>ishizuchiense</i>	CR
第4次 2019:	イシヅチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> subsp. <i>ishizuchiense</i>	CR
第4次 2018:	イシヅチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> subsp. <i>ishizuchiense</i>	CR
第4次 2017:	イシヅチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> subsp. <i>ishizuchiense</i>	CR
第4次 2015:	イシヅチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> subsp. <i>ishizuchiense</i>	CR
第4次:	イシヅチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> subsp. <i>ishizuchiense</i>	CR
第3次:	イシヅチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i>	CR
第2次:	イシヅチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IA 類] 愛媛県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 高知県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema ishizuchiense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema ishizuchiense* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トクノシマテンナンショウ

*Arisaema kawashimae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は通常 2 個。小葉は 9-13 枚、狭楕円形で全縁。花期は 2 月頃、仏炎苞は紫褐色または黄褐色で白い縦条が目立ち、筒部はやや細い円筒形、口辺部が耳条に開出し、舷部は筒部より長く、三角状卵形～狭卵形で先が長くとがる。花序付属体は細棒状で、仏炎苞口部から明らかに外に出る。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿った岩の多い林下。

【分布域】

琉球（徳之島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トクノシマテンナンショウ	<i>Arisaema kawashimae</i>	CR
第4次 2019:	トクノシマテンナンショウ	<i>Arisaema kawashimae</i>	CR
第4次 2018:	トクノシマテンナンショウ	<i>Arisaema kawashimae</i>	CR
第4次 2017:	トクノシマテンナンショウ	<i>Arisaema kawashimae</i>	CR
第4次 2015:	トクノシマテンナンショウ	<i>Arisaema kawashimae</i>	CR
第4次:	トクノシマテンナンショウ	<i>Arisaema kawashimae</i>	CR
第3次:	トクノシマテンナンショウ	<i>Arisaema kawashimae</i>	CR
第2次:	トクノシマテンナンショウ	<i>Arisaema kawashimae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema kawashimae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Arisaema kawashimae is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマギテンナンショウ

*Arisaema kuratae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 1 個。小葉は 5-7 枚、狭楕円形で両端はとがり、全縁またはあらい鋸歯縁。仏炎苞は紫褐色または緑色で、3-5 本の白い縦条があり、中央のものがもっとも幅広い。筒部は基部に向かって淡色となり、口部は狭く反曲し、舷部は広卵形で鋭頭。花序付属体は基部に柄があり、太棒状で白色または淡緑色、先は仏炎苞の筒口部より少し高い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林下の斜面。

【分布域】

静岡県伊豆半島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られず、2012 年調査では確実な自生を確認できなかった。主な減少要因は自然遷移と園芸用の採取と考えられる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマギテンナンショウ	<i>Arisaema kuratae</i>	CR
第4次 2019:	アマギテンナンショウ	<i>Arisaema kuratae</i>	CR
第4次 2018:	アマギテンナンショウ	<i>Arisaema kuratae</i>	CR
第4次 2017:	アマギテンナンショウ	<i>Arisaema kuratae</i>	CR
第4次 2015:	アマギテンナンショウ	<i>Arisaema kuratae</i>	CR
第4次:	アマギテンナンショウ	<i>Arisaema kuratae</i>	CR
第3次:	アマギテンナンショウ	<i>Arisaema kuratae</i>	CR
第2次:	アマギテンナンショウ	<i>Arisaema kuratae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧 I A類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema kuratae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema kuratae* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シコクヒロハテンナンショウ

Arisaema longipedunculatum var. *longipedunculatum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 1 個、あるいはごくまれに 2 個で、5 小葉をつける。小葉は卵形または楕円形で、長さ 7-11 cm。仏炎苞は緑色で、長さ 7-10 cm。付属体は棒状で、長さは 7-25 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地のブナ林中。

【分布域】

本州（静岡県・山梨県）・四国・九州（宮崎県・屋久島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 9 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	3	0	0	0	0	9	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	シカ食害	自然遷移
件数 5	5	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シコクヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i> <i>longipedunculatum</i>	var.	EN
第4次 2019:	シコクヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i> <i>longipedunculatum</i>	var.	EN
第4次 2018:	シコクヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i> <i>longipedunculatum</i>	var.	EN
第4次 2017:	シコクヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i> <i>longipedunculatum</i>	var.	EN
第4次 2015:	シコクヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i> <i>longipedunculatum</i>	var.	EN
第4次:	シコクヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i> <i>longipedunculatum</i>	var.	EN
第3次:	シコクヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i>		EN
第2次:	シコクヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i>		EN
第1次:	—	—		—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema longipedunculatum var. *longipedunculatum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema longipedunculatum* var. *longipedunculatum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Deer feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒュウガヒロハテンナンショウ

Arisaema minamitanii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D+C

推定開花株数が 50 個体未満/推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 1 個。小葉は 5-7 枚、狭楕円形～楕円形で両端はとがり、全縁または鋸歯縁。仏炎苞は緑色で、半透明の白い縦条が多数有り、3-5 本の白い縦条があり、筒部は淡色、やや上に開き、口部は狭く反曲し、舷部は三角状卵形で前傾する。花序付属体は基部に柄があり、太棒状で白色、先は仏炎苞の筒口部とほぼ同じ高さ。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林下。

【分布域】

九州（宮崎県・鹿児島県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	園芸採取	

件数 3	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒュウガヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema minamitanii</i>	CR
第4次 2019:	ヒュウガヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema minamitanii</i>	CR
第4次 2018:	ヒュウガヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema minamitanii</i>	CR
第4次 2017:	ヒュウガヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema minamitanii</i>	CR
第4次 2015:	ヒュウガヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema minamitanii</i>	CR
第4次:	ヒュウガヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema minamitanii</i>	CR
第3次:	ヒュウガヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema minamitanii</i>	CR
第2次:	ヒュウガヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema minamitanii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema minamitanii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Arisaema minamitanii is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Human trampling, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナギヒロハテンナンショウ

Arisaema nagiense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 C

推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は通常 1 個。葉身は 5-7 小葉に分裂し、小葉間の葉軸は発達しない。小葉は全縁、線形～狭披針形で先がとがる。花期は 5-6 月、仏炎苞はふつう紫褐色でやや緑色をおび、筒部にいちじるしく隆起する白色の縦条があり、筒部の口辺は狭く開出し、舷部は内面が紫褐色で光沢があり、狭三角形～三角状狭卵形で先が細まり、筒部よりも長い。花序付属体は有柄で棒状、仏炎苞筒部からはほとんど露出せず、紫褐色で先は色が薄く黄色かかっている。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地林縁の笹原など。

【分布域】

本州（兵庫県・岡山県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	2	2	0	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	園芸採取	自然遷移

森林伐採		
件数 3	3	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナギヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema nagiense</i>	CR
第4次 2019:	ナギヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema nagiense</i>	CR
第4次 2018:	ナギヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema nagiense</i>	CR
第4次 2017:	ナギヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema nagiense</i>	CR
第4次 2015:	ナギヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema nagiense</i>	CR
第4次:	ナギヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema nagiense</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

兵庫県[A ランク] 鳥取県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema nagiense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema nagiense* is listed as CR under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシテンナンショウ

*Arisaema ogatae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 2 個。小葉は 5-7 枚で狭倒卵形。仏炎苞は緑色、舷部は広卵形で、筒部とほぼ同長。付属体は短く、筒部とほぼ同長あるいはわずかに長く、太い棒状で、長さ 3-4 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林下。

【分布域】

大分県・宮崎県・熊本県。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	園芸採取	自然遷移
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オガタテンナンショウ	<i>Arisaema ogatae</i>	CR
第4次 2019:	オガタテンナンショウ	<i>Arisaema ogatae</i>	CR
第4次 2018:	オガタテンナンショウ	<i>Arisaema ogatae</i>	CR
第4次 2017:	ツクシテンナンショウ	<i>Arisaema ogatae</i>	CR
第4次 2015:	ツクシテンナンショウ	<i>Arisaema ogatae</i>	CR
第4次:	ツクシテンナンショウ	<i>Arisaema ogatae</i>	CR
第3次:	ツクシテンナンショウ	<i>Arisaema ogatae</i>	CR
第2次:	ツクシテンナンショウ	<i>Arisaema ogatae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema ogatae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema ogatae* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening, Natural succession

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

セツピコテンナンショウ

*Arisaema seppikoense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D+C

推定開花株数が 50 個体未満/推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 1 個で、5-9 枚の小葉を鳥足状につける。小葉は披針形から狭長卵形。舷部は狭卵形で長鋭尖頭、先はしだいに狭まって長く伸び、暗紫色で白条がある。付属体は棒状で、長さ 2-3.5 cm、円頭あるいはやや膨らむ。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山中の林下や湿った岩場。

【分布域】

兵庫県の雪彦山およびその付近。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	セッピーコテンナンショウ	<i>Arisaema seppikoense</i>	CR
第4次 2019:	セッピーコテンナンショウ	<i>Arisaema seppikoense</i>	CR
第4次 2018:	セッピーコテンナンショウ	<i>Arisaema seppikoense</i>	CR
第4次 2017:	セッピーコテンナンショウ	<i>Arisaema seppikoense</i>	CR
第4次 2015:	セッピーコテンナンショウ	<i>Arisaema seppikoense</i>	CR
第4次:	セッピーコテンナンショウ	<i>Arisaema seppikoense</i>	CR
第3次:	セッピーコテンナンショウ	<i>Arisaema seppikoense</i>	CR
第2次:	セッピーコテンナンショウ	<i>Arisaema seppikoense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

兵庫県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema seppikoense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Arisaema seppikoense is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユズノハカズラ

Pothos chinensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は細く、葉は互生し長さ 5-12 cm。葉の形はユズの葉に似ており、広披針形。花序柄は長さ 3-20 mm。肉穂花序は卵形で、淡緑色の仏炎苞が花序柄の中途につく。

【生活史】

常緑藤本。

【生育環境】

樹幹や岩など。

【分布域】

大東島、台湾から中国南部・インドシナ半島・インド北部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ユズノハカズラ	<i>Pothos chinensis</i>	CR
第4次 2019:	ユズノハカズラ	<i>Pothos chinensis</i>	CR
第4次 2018:	ユズノハカズラ	<i>Pothos chinensis</i>	CR
第4次 2017:	ユズノハカズラ	<i>Pothos chinensis</i>	CR
第4次 2015:	ユズノハカズラ	<i>Pothos chinensis</i>	CR
第4次:	ユズノハカズラ	<i>Pothos chinensis</i>	CR
第3次:	ユズノハカズラ	<i>Pothos chinensis</i>	CR
第2次:	ユズノハカズラ	<i>Pothos chinensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pothos chinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pothos chinensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae サトイモ科 Araceae

サキシマハブカズラ

Rhaphidophora korthalsii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

幼植物の葉は心状長卵形で切れ込みがなく、互いに重なり合って 2 列に並び対象物に密着する。成葉は 50 cm にもなる長い葉柄があり、葉身は長さ 90 cm に達する。花序は 1 ～数個まとまってつき、太い花序柄とともにほぼ直立し、仏炎苞は円筒形で緑色、長さ 25 cm に達する。肉穂花序は柱状で黄緑色、淡褐色の花粉におおわれる。

【生活史】

常緑のつる性草本。

【生育環境】

山地の自然林。

【分布域】

石垣島・西表島、フィリピンから東南アジアの熱帯域。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サキシマハブカズラ	<i>Rhaphidophora kortharthii</i>	CR
第4次 2019:	サキシマハブカズラ	<i>Rhaphidophora kortharthii</i>	CR
第4次 2018:	サキシマハブカズラ	<i>Rhaphidophora kortharthii</i>	CR
第4次 2017:	サキシマハブカズラ	<i>Rhaphidophora kortharthii</i>	CR
第4次 2015:	サキシマハブカズラ	<i>Rhaphidophora kortharthii</i>	CR
第4次:	サキシマハブカズラ	<i>Rhaphidophora kortharthii</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhaphidophora korthalsii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhaphidophora korthalsii* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae サトイモ科 Araceae

ヒメハブカズラ

Rhaphidophora liukiuensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は狭卵形または長楕円形で全縁、長さ 17-30 cm、幅 5-11 cm。花序柄は長さ 8-10 cm。仏炎苞は多肉質で長楕円形、長さ約 12 cm、径約 2 cm。肉穂花序は無柄、円筒形、長さ 8-9 cm、径約 1 cm。

【生活史】

常緑のつる植物。

【生育環境】

山地の溪谷やマングローブ林内。

【分布域】

石垣島・西表島、台湾・フィリピン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメハブカズラ	<i>Rhaphidophora liukiensis</i>	CR
第4次 2019:	ヒメハブカズラ	<i>Rhaphidophora liukiensis</i>	CR
第4次 2018:	ヒメハブカズラ	<i>Rhaphidophora liukiensis</i>	CR
第4次 2017:	ヒメハブカズラ	<i>Rhaphidophora liukiensis</i>	CR
第4次 2015:	ヒメハブカズラ	<i>Rhaphidophora liukiensis</i>	CR
第4次:	ヒメハブカズラ	<i>Rhaphidophora liukiensis</i>	CR
第3次:	ヒメハブカズラ	<i>Rhaphidophora liukiensis</i>	CR
第2次:	ヒメハブカズラ	<i>Raphidophora liukiensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhaphidophora liukiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhaphidophora liukiensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガエチャボゼキショウ

Tofieldia coccinea var. *kiusiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

チシマゼキショウの変種。チャボゼキショウに似るが、花茎は高さ 15-30 cm、花被片は長さ 3.5-4 mm と長い。頂に短い総状花序をつける。葯は淡紫色。

【生活史】

夏緑性の多年草。

【生育環境】

岩峰の岩上に生育する。

【分布域】

宮崎県の洞岳に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では 1 メッシュで現存が確認され、現存個体数は数個体と推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガエチャボゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>kiusiana</i>	CR
第4次 2019:	ナガエチャボゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>kiusiana</i>	CR
第4次 2018:	ナガエチャボゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>kiusiana</i>	CR
第4次 2017:	ナガエチャボゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>kiusiana</i>	CR
第4次 2015:	ナガエチャボゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>kiusiana</i>	CR
第4次:	ナガエチャボゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>kiusiana</i>	CR
第3次:	ナガエチャボゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>kiusiana</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tofieldia coccinea var. *kiusiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tofieldia coccinea* var. *kiusiana* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒュウガハナゼキショウ

Tofieldia yoshii var. *hyugaensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

屋久島のヤクシマチャボゼキショウの変種で、ヤクシマハナゼキショウは走出枝をもち、6-7 月に 5-22 個の花をつけるのに対し、ヒュウガハナゼキショウは走出枝を欠き、7-8 月に 22-23 個の花をつける。本州のヤシュウハナゼキショウとも似ているが両者は別種で、ヤシュウハナゼキショウでは花序の全形が細長く、葉先はまっすぐかわずかに曲がるだけだが、ヒュウガハナゼキショウでは花序の全形が太く、葉先は急に曲がる。

【生活史】

走出枝を欠く多年草。花期は 7 月から 8 月。

【生育環境】

溪流沿いの水が滴る岩上あるいは土壁上に生育。

【分布域】

宮崎県日向市に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	その他
件数	2	2

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Tamura, M. N., S. Fuse, N. S. Lee, J. O. Kim, J. Yamashita and T. Ishii, 2011. Biosystematic studies on the family Tofieldiaceae III. Classification of *Tofieldia nuda* into three species and three varieties. *Taxon*, 60: 1339–1348.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tofieldia yoshiiiana var. *hyugaensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tofieldia yoshiiiana* var. *hyugaensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アズミノヘラオモダカ

Alisma canaliculatum var. *azuminoense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヘラオモダカに似るが、小型で全高 15-20 cm。ふつう花茎は葉より上に出ず、花茎の節間と花柄が短く、花が密集する。葯は黄色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

水田、湿地、湖沼の浅水域に生育。

【分布域】

長野県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アズミノヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>azuminoense</i>	EN
第4次 2019:	アズミノヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>azuminoense</i>	EN
第4次 2018:	アズミノヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>azuminoense</i>	EN
第4次 2017:	アズミノヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>azuminoense</i>	EN
第4次 2015:	アズミノヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>azuminoense</i>	EN
第4次:	アズミノヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>azuminoense</i>	EN
第3次:	アズミノヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>azuminoense</i>	EN
第2次:	アズミノヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var.	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Alisma canaliculatum var. *azuminoense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Alisma canaliculatum* var. *azuminoense* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバヘラオモダカ

Alisma canaliculatum var. *harimense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヘラオモダカに似るが、葉身が長さ 8-20 cm、細長い。葯は褐紫色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

水田、湿地、湖沼の浅水域に生育。

【分布域】

兵庫県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 85%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバハラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>harimense</i>	CR
第4次 2019:	ホソバハラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>harimense</i>	CR
第4次 2018:	ホソバハラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>harimense</i>	CR
第4次 2017:	ホソバハラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>harimense</i>	CR
第4次 2015:	ホソバハラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>harimense</i>	CR
第4次:	ホソバハラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>harimense</i>	CR
第3次:	ホソバハラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>harimense</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

兵庫県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Alisma canaliculatum var. *harimense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Alisma canaliculatum* var. *harimense* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カラフトグワイ

Sagittaria natans

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

水底の直立茎に葉を根生する。直立茎から走出枝が出て、その先端に塊茎ができる。沈水葉は線形、浮葉は長さ 5-12 cm、矢じり形～ほこ形。花は花茎に 3 個ずつ、2-6 段につく。花弁は長さ 5 mm、円形。葯は黄色。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

湖沼や河川に生育。

【分布域】

北海道、ユーラシアの亜寒帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カラフトグワイ	<i>Sagittaria natans</i>	CR
第4次 2019:	カラフトグワイ	<i>Sagittaria natans</i>	CR
第4次 2018:	カラフトグワイ	<i>Sagittaria natans</i>	CR
第4次 2017:	カラフトグワイ	<i>Sagittaria natans</i>	CR
第4次 2015:	カラフトグワイ	<i>Sagittaria natans</i>	CR
第4次:	カラフトグワイ	<i>Sagittaria natans</i>	CR
第3次:	カラフトグワイ	<i>Sagittaria natans</i>	CR
第2次:	カラフトグワイ	<i>Sagittaria natans</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sagittaria natans has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sagittaria natans* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

セトヤナギスブタ

Blyxa alternifolia

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報								
【形態】								
ヤナギスブタに似るが、葉は長く太い。種子の表面に半円盤状の突起が約 10 個散在する。								
【生活史】								
沈水植物。								
【生育環境】								
ため池や水田、水路に生育する。								
【分布域】								
本州中部以西・九州、東南アジアに分布。								
現在の生育状況								
【生育地の現況】								
2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。								
現地調査の集計結果 2018 年調査								
【「現存する株数」別のメッシュ数】								
<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	2
【存続を脅かす要因上位3項目の件数】								
1 番目			2 番目			3 番目		
要因 自然遷移			不明					
件数 1			1					

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	セトヤナギスブタ	<i>Blyxa alternifolia</i>	EN
第4次 2019:	セトヤナギスブタ	<i>Blyxa alternifolia</i>	EN
第4次 2018:	セトヤナギスブタ	<i>Blyxa alternifolia</i>	EN
第4次 2017:	セトヤナギスブタ	<i>Blyxa alternifolia</i>	EN
第4次 2015:	セトヤナギスブタ	<i>Blyxa alternifolia</i>	EN
第4次:	セトヤナギスブタ	<i>Blyxa alternifolia</i>	EN
第3次:	セトヤナギスブタ	<i>Blyxa alternifolia</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[絶滅(EX)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 佐賀県[準絶滅危惧種] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-g)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 京都府環境部自然環境保全課，2015．京都府レッドデータブック 2015 第2巻：野生植物・菌類編．京都府環境部自然環境保全課，611pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Blyxa alternifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Blyxa alternifolia* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメイバラモ

*Najas tenuicaulis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 2-2.5 cm。イバラモに似るが、葉の形、鋸歯が少ない、茎の皮下細胞が 1 層といった部分で異なる。

【生活史】

沈水性の 1 年草。

【生育環境】

湖沼や流水に生育する。

【分布域】

本州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅した。調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメイバラモ	<i>Najas tenuicaulis</i>	CR
第4次 2019:	ヒメイバラモ	<i>Najas tenuicaulis</i>	CR
第4次 2018:	ヒメイバラモ	<i>Najas tenuicaulis</i>	CR
第4次 2017:	ヒメイバラモ	<i>Najas tenuicaulis</i>	CR
第4次 2015:	ヒメイバラモ	<i>Najas tenuicaulis</i>	CR
第4次:	ヒメイバラモ	<i>Najas tenuicaulis</i>	CR
第3次:	ヒメイバラモ	<i>Najas tenuicaulis</i>	CR
第2次:	ヒメイバラモ	<i>Najas tenuicaulis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

秋田県[EX] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 山梨県[情報不足(DD)] 長野県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 新潟県環境生活部環境企画課，2001．レッドデータブックにいがた．新潟県環境生活部環境企画課，467pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Najas tenuicaulis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Najas tenuicaulis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ガシャモク

Potamogeton lucens subsp. *sinicus* var. *teganumensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉はすべて沈水葉で、葉身は長楕円形で無柄、長さ 5-12 mm、葉縁に明瞭な鋸歯がある。穂状花序に多数の花がつく。果実の長さは 3-4.5 mm。

【生活史】

沈水生の多年草。

【生育環境】

淡水の湖沼やため池に生育する。

【分布域】

関東と九州の一部に分布。世界的にはユーラシア大陸の冷温帯に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数百個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ガシャモク	<i>Potamogeton lucens</i> var. <i>teganumensis</i>	CR
第4次 2019:	ガシャモク	<i>Potamogeton lucens</i> var. <i>teganumensis</i>	CR
第4次 2018:	ガシャモク	<i>Potamogeton lucens</i> var. <i>teganumensis</i>	CR
第4次 2017:	ガシャモク	<i>Potamogeton lucens</i> var. <i>teganumensis</i>	CR
第4次 2015:	ガシャモク	<i>Potamogeton lucens</i> var. <i>teganumensis</i>	CR
第4次:	ガシャモク	<i>Potamogeton lucens</i> var. <i>teganumensis</i>	CR
第3次:	ガシャモク	<i>Potamogeton dentatus</i>	CR
第2次:	ガシャモク	<i>Potamogeton dentatus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 茨城県[絶滅] 群馬県[絶滅(EX)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 神奈川県[絶滅(EX)] 滋賀県[要注目種] 福岡県[絶滅危惧 I A 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Potamogeton lucens subsp. *sinicus* var. *teganumensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Potamogeton lucens* subsp. *sinicus* var. *teganumensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Abandonment of management

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イヌイトモ

Potamogeton obtusifolius

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は発達せず水中茎が盛んに分枝する。葉は全て沈水葉で無柄、葉身は狭線形で長さ 4-7 cm。穂状花序で 6-8 個の花をつける。

【生活史】

沈水性の多年草。

【生育環境】

淡水の湖沼や水路に生育する。

【分布域】

北海道に分布。世界的には北半球の冷温帯に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では、2 メッシュで現存を確認、計数百個体と推定された。1 メッシュで絶滅が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 池沼開発	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イヌイトモ	<i>Potamogeton obtusifolius</i>	CR
第4次 2019:	イヌイトモ	<i>Potamogeton obtusifolius</i>	CR
第4次 2018:	イヌイトモ	<i>Potamogeton obtusifolius</i>	CR
第4次 2017:	イヌイトモ	<i>Potamogeton obtusifolius</i>	CR
第4次 2015:	イヌイトモ	<i>Potamogeton obtusifolius</i>	CR
第4次:	イヌイトモ	<i>Potamogeton obtusifolius</i>	CR
第3次:	イヌイトモ	<i>Potamogeton obtusifolius</i>	CR
第2次:	イヌイトモ	<i>Potamogeton obtusifolius</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 栃木県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Potamogeton obtusifolius has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Potamogeton obtusifolius is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Pond development, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

ナガバエビモ

Potamogeton praelongus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒロハノエビモに似るが、葉の長さが 10-20 cm になり、先端が内側に反る。葉の基部の茎の抱き方は浅い。

【生活史】

沈水性の多年草。

【生育環境】

淡水の湖沼に生育する。

【分布域】

北海道に分布。世界的には北半球に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガバエビモ	<i>Potamogeton praelongus</i>	CR
第4次 2019:	ナガバエビモ	<i>Potamogeton praelongus</i>	CR
第4次 2018:	ナガバエビモ	<i>Potamogeton praelongus</i>	CR
第4次 2017:	ナガバエビモ	<i>Potamogeton praelongus</i>	CR
第4次 2015:	ナガバエビモ	<i>Potamogeton praelongus</i>	CR
第4次:	ナガバエビモ	<i>Potamogeton praelongus</i>	CR
第3次:	ナガバエビモ	<i>Potamogeton praelongus</i>	CR
第2次:	ナガバエビモ	<i>Potamogeton praelongus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Potamogeton praelongus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Potamogeton praelongus is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ネジリカワツルモ

Ruppia megacarpa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

水中茎はよく分枝する。葉身は長さ 5-20 cm、葉端は切形～凹形、基部の葉鞘は長さ 1.5-2.5 cm。花は穂状花序に 2 個つく。果序柄は長さ 10-35 cm、らせん状に 10 回以上巻く。果実は長さ 3-5 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸近くの汽水域の水中に生育。

【分布域】

新潟県、極東ロシア・オーストラリア南部・ニュージーランドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ネジリカワツルモ	<i>Ruppia cirrhosa</i>	NT
第4次 2019:	ネジリカワツルモ	<i>Ruppia cirrhosa</i>	NT
第4次 2018:	ネジリカワツルモ	<i>Ruppia cirrhosa</i>	NT
第4次 2017:	ネジリカワツルモ	<i>Ruppia cirrhosa</i>	NT
第4次 2015:	ネジリカワツルモ	<i>Ruppia cirrhosa</i>	NT
第4次:	ネジリカワツルモ	<i>Ruppia cirrhosa</i>	NT
第3次:	ネジリカワツルモ	<i>Ruppia cirrhosa</i>	CR
第2次:	ネジリカワツルモ	<i>Ruppia maritima</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[要調査野生生物(D ランク)] 茨城県[情報不足①注目種] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ruppia megacarpa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ruppia megacarpa* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カワツルモ科 Ruppiaceae

ヤハズカワツルモ

Ruppia x truncatifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉鞘は長さ 2-5 cm、葉身は長さ 10-30 cm、葉端が切形～凹形。

【生活史】

沈水生。

【生育環境】

水湿地に生育。

【分布域】

北海道、朝鮮に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤハズカワツルモ	<i>Ruppia occidentalis</i>	CR
第4次 2019:	ヤハズカワツルモ	<i>Ruppia occidentalis</i>	CR
第4次 2018:	ヤハズカワツルモ	<i>Ruppia occidentalis</i>	CR
第4次 2017:	ヤハズカワツルモ	<i>Ruppia occidentalis</i>	CR
第4次 2015:	ヤハズカワツルモ	<i>Ruppia occidentalis</i>	CR
第4次:	ヤハズカワツルモ	<i>Ruppia occidentalis</i>	CR
第3次:	ヤハズカワツルモ	<i>Ruppia occidentalis</i>	CR
第2次:	ヤハズカワツルモ	<i>Ruppia truncatifolia</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 宮城県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ruppia x truncatifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ruppia x truncatifolia* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒナノボンボリ

*Saionia hyodoi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は単立し、高さ 2-3 cm。鱗片葉は卵状長楕円形か長楕円形。花は濃青緑色で径 3-5 mm、総状に 3 個つける。

【生活史】

菌従属栄養植物。

【生育環境】

常緑広葉樹林下に生育する。

【分布域】

愛媛県南西部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では 1 メッシュで絶滅とされ、現存するという情報が得られなかった。1989 年には現存していたが、2001 年と 2004 年の調査では発生は見られず、絶滅した可能性がある。現存する可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒナノボンボリ	<i>Oxygyne hyodoi</i>	CR
第4次 2019:	ヒナノボンボリ	<i>Oxygyne hyodoi</i>	CR
第4次 2018:	ヒナノボンボリ	<i>Oxygyne hyodoi</i>	CR
第4次 2017:	ヒナノボンボリ	<i>Oxygyne hyodoi</i>	CR
第4次 2015:	ヒナノボンボリ	<i>Oxygyne hyodoi</i>	CR
第4次:	ヒナノボンボリ	<i>Oxygyne hyodoi</i>	CR
第3次:	ヒナノボンボリ	<i>Oxygyne hyodoi</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛媛県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saionia hyodoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Saionia hyodoi* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホシザキシャクジョウ

*Saionia shinzatoi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は単一または少し分枝し、長さ 1-1.5 cm、径 1 mm。鱗片は卵形。花は青色で総状に 2-5 個つける。

【生活史】

菌従属栄養植物。

【生育環境】

山地中腹のリュウキュウマツ、イジュ、ナカハラクロキなどが混生する二次林のやや乾いた林床に生育する。

【分布域】

沖縄県国頭村に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。最初に発見された場所では確認されなくなったが、新産地で数個体が現存する。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホシザキシクジョウ	<i>Oxygyne shinzatoi</i>	CR
第4次 2019:	ホシザキシクジョウ	<i>Oxygyne shinzatoi</i>	CR
第4次 2018:	ホシザキシクジョウ	<i>Oxygyne shinzatoi</i>	CR
第4次 2017:	ホシザキシクジョウ	<i>Oxygyne shinzatoi</i>	CR
第4次 2015:	ホシザキシクジョウ	<i>Oxygyne shinzatoi</i>	CR
第4次:	ホシザキシクジョウ	<i>Oxygyne shinzatoi</i>	CR
第3次:	ホシザキシクジョウ	<i>Oxygyne shinzatoi</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saionia shinzatoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Saionia shinzatoi* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクノヒナホシ

*Saionia yamashitae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立して高さ約 1 cm。総状に 1-3 個の淡青色の花をつける。外花被片の壁の中央に孔があり、雄蕊が出る。雄蕊は 3 個あり、基部に 2 対の三角形の突起がある。

【生活史】

菌従属栄養植物。

【生育環境】

常緑広葉樹林下に生育する。

【分布域】

屋久島南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクノヒナホシ	<i>Oxygyne yamashitae</i>	CR
第4次 2019:	ヤクノヒナホシ	<i>Oxygyne yamashitae</i>	CR
第4次 2018:	ヤクノヒナホシ	<i>Oxygyne yamashitae</i>	CR
第4次 2017:	ヤクノヒナホシ	<i>Oxygyne yamashitae</i>	CR
第4次 2015:	ヤクノヒナホシ	<i>Oxygyne yamashitae</i>	CR
第4次:	ヤクノヒナホシ	<i>Oxygyne yamashitae</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saionia yamashitae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Saionia yamashitae* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タヌキノシヨクダイ

*Thismia abei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎は高さ 1-4 cm であるが、ほとんど落葉の下に隠れている。花茎は繊細で無毛、数個の鱗片葉がある。花は白色で花茎の頂に 1 個つき、花筒は長さ 10 mm 内外。

【生活史】

菌従属栄養性の多年草。

【生育環境】

照葉樹林下の落葉の下に生育する。

【分布域】

徳島県那賀郡太龍寺山麓、沢谷村に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タヌキノシヨクダイ	<i>Thismia abei</i>	EN
第4次 2019:	タヌキノシヨクダイ	<i>Thismia abei</i>	EN
第4次 2018:	タヌキノシヨクダイ	<i>Thismia abei</i>	EN
第4次 2017:	タヌキノシヨクダイ	<i>Thismia abei</i>	EN
第4次 2015:	タヌキノシヨクダイ	<i>Thismia abei</i>	EN
第4次:	タヌキノシヨクダイ	<i>Thismia abei</i>	EN
第3次:	タヌキノシヨクダイ	<i>Thismia abei</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 徳島県[絶滅危惧 IA 類] 愛媛県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 宮崎県[絶滅(EX-r)] 鹿児島県[地域絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thismia abei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thismia abei* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウバタヌキノショクダイ

*Thismia kobensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎の高さ 1 mm ほど、花の大きさ 1 cm ほどの極めて小型の菌従属栄養植物。開花期の僅かな期間のみ、白～淡いオレンジ色の花を地上部に姿を現す。タヌキノショクダイに似るが、タヌキノショクダイは植物体全体が白色でほぼ無毛であるのに対し、本種は花の上部がオレンジ色であること、植物体全体が毛でおおわれることで容易に区別できる。

【生活史】

菌従属栄養性の多年生草本。

【生育環境】

暗い林床に生育。

【分布域】

近畿・東海地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

兵庫県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., K. Yamana and H. Okada, 2023. Rediscovery of the presumably extinct fairy lantern *Thismia kobensis* (Thismiaceae) in Hyogo Prefecture, Japan, with discussions on its taxonomy, evolutionary history, and conservation. *Phytotaxa*, 585: 102–112.
- Suetsugu, K., O. Nakanishi, T. Kobayashi and N. Kurosaki, 2018. *Thismia kobensis* (Burmanniaceae), a new and presumably extinct species from Hyogo Prefecture, Japan. *Phytotaxa*, 369: 121–125.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thismia kobensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thismia kobensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ルゾンヤマノイモ

Dioscorea luzonensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地中に長さ 20 cm になる塊茎がある。茎は白色をおび、無刺で、幼個体では葉を互生するが、成熟個体では葉を対生する。葉は狭心形、5-7 脈があり、長さ 6-15 cm、無毛。雌雄異花で、花序は腋生し、多数の花をつける。朔果は長さ約 22 mm、幅約 15 mm。種子は長さ 2 mm、翼がある。

【生活史】

常緑のつる性多年草。

【生育環境】

石灰岩地の自然林内に生える。

【分布域】

琉球（北大東島・南大東島）、フィリピン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存とされた。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ルゾンヤマノイモ	<i>Dioscorea luzonensis</i>	CR
第4次 2019:	ルゾンヤマノイモ	<i>Dioscorea luzonensis</i>	CR
第4次 2018:	ルゾンヤマノイモ	<i>Dioscorea luzonensis</i>	CR
第4次 2017:	ルゾンヤマノイモ	<i>Dioscorea luzonensis</i>	CR
第4次 2015:	ルゾンヤマノイモ	<i>Dioscorea luzonensis</i>	CR
第4次:	ルゾンヤマノイモ	<i>Dioscorea luzonensis</i>	CR
第3次:	ルゾンヤマノイモ	<i>Dioscorea luzonensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dioscorea luzonensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dioscorea luzonensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユワンオニドコロ

*Dioscorea tabatae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は対生。大型葉は先端は尾状。葉縁基部が下方に丸く突き出し、その結果基部が広い心形になる。小型葉は三角状卵形、先端は漸鋭尖形、基部は切形～円形。葉に大小 2 型があることでヤマノイモやキールンヤマノイモから区別されるが、茎と葉の形態のみが知られ、花や果実の形態はまだ知られていない。

【生活史】

つる性多年草。

【生育環境】

常緑林の林縁に生える。

【分布域】

奄美大島・徳之島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ユワンオニドコロ	<i>Dioscorea tabatae</i>	CR
第4次 2019:	ユワンオニドコロ	<i>Dioscorea tabatae</i>	CR
第4次 2018:	ユワンオニドコロ	<i>Dioscorea tabatae</i>	CR
第4次 2017:	ユワンオニドコロ	<i>Dioscorea tabatae</i>	CR
第4次 2015:	ユワンオニドコロ	<i>Dioscorea tabatae</i>	CR
第4次:	ユワンオニドコロ	<i>Dioscorea tabatae</i>	CR
第3次:	ユワンドコロ	<i>Dioscorea tabatae</i>	CR
第2次:	ユワンドコロ	<i>Dioscorea tabatae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dioscorea tabatae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dioscorea tabatae* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミタチドコロ

Dioscorea zentaroana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は互生、幅広くて基部は心形、13-15 脈、葉縁はわずかに波状。雄花序は分枝して多数の花をつけ、巻きつく。雄花はほとんど無柄で、花被片は 6、雄蕊は 3、仮雄蕊はない。

【生活史】

つる性の多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

奄美大島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミタチドコロ	<i>Dioscorea zentaroana</i>	CR
第4次 2019:	アマミタチドコロ	<i>Dioscorea zentaroana</i>	CR
第4次 2018:	アマミタチドコロ	<i>Dioscorea zentaroana</i>	CR
第4次 2017:	アマミタチドコロ	<i>Dioscorea zentaroana</i>	CR
第4次 2015:	アマミタチドコロ	<i>Dioscorea zentaroana</i>	CR
第4次:	アマミタチドコロ	<i>Dioscorea zentaroana</i>	CR
第3次:	アマミタチドコロ	<i>Dioscorea zemaroana</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dioscorea zentaroana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Dioscorea zentaroana is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Road construction

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウツシマソウ

Sciaphila kozushimensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

草丈 4-8 cm ほどの菌従属栄養植物。ウエマツソウに似るが、ウエマツソウよりも植物体そのものもやや小型で、より幅広で小型の花被片を持つ雄花をつけることが区別できる。ウエマツソウはほぼ同形の花被片を付けるのに対し、花被片の形が不揃いな点も本種の特徴である。

【生活史】

菌従属栄養性の多年生草本。

【生育環境】

暗い林床下に生育。

【分布域】

神津島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布し、近年個体数が減少している。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K. and A. Kinoshita, 2020. *Sciaphila kozushimensis* (Triuridaceae), a new mycoheterotrophic plant from Kozu Island, Izu Islands, Japan, based on morphological and molecular data. *Phytotaxa*, 436: 157–166.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sciaphila kozushimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sciaphila kozushimensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イシガキソウ

Sciaphila multiflora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地上茎はほとんど分岐せず、高さ 3-13 cm、径 0.3-0.8 cm、赤～赤紫色を帯びる。総状花序は長さ 5-8 cm、10-15 個の雌雄異花をつける。雄花は雌花の間に混生し、径約 1 mm、花被片は 6 個で大小 3 個が交互に並び、反曲し、先端にひげがある。雄蕊は 3 個、葯は黄色。雌花は径約 1 mm、花被片は 6 個で雄花のものに似ており、先端は無毛またはひげがある。心皮は 15-18 個、花柱は棍棒形で乳頭状突起があり長さ 0.8 mm。

【生活史】

菌従属栄養性の多年草。

【生育環境】

海岸の常緑樹林下の落葉の間に生える。

【分布域】

石垣島、フィリピン(ミンダナオ島)・ニューギニア・ミクロネシア(パラオ)。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イシガキソウ	<i>Sciaphila multiflora</i>	CR
第4次 2019:	イシガキソウ	<i>Sciaphila multiflora</i>	CR
第4次 2018:	イシガキソウ	<i>Sciaphila multiflora</i>	CR
第4次 2017:	イシガキソウ	<i>Sciaphila multiflora</i>	CR
第4次 2015:	イシガキソウ	<i>Sciaphila multiflora</i>	CR
第4次:	イシガキソウ	<i>Sciaphila multiflora</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Ohashi, H., Kato, H., Kobayashi, S., Murata, J., 2008. A revision of Triuridaceae of Japan. Journal of Japanese Botany, 83: 20–35.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sciaphila multiflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sciaphila multiflora* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オモトソウ

Sciaphila sugimotoi

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎は高さ 5-7 cm、直立で無毛、紫色～赤紫色、約 1.5 mm の鱗片葉をつける。花は総状花序に 10-35 個つき、基部側に雌花、上部に雄花がある。雄花は長さ 1.5-2.0 mm、花被は 6 個でほぼ同長である。花被の先端の全てに球状の突起を持つ点で、日本産の他のホンゴウソウ属と区別できる。雌花は長さ 1.0-1.5 mm、花被は 6 個。

【生活史】

菌従属栄養性の多年草。

【生育環境】

常緑広葉樹林内に生育。

【分布域】

石垣島・西表島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オモトソウ	<i>Sciaphila sugimotoi</i>	CR
第4次 2019:	オモトソウ	<i>Sciaphila sugimotoi</i>	CR
第4次 2018:	オモトソウ	<i>Sciaphila sugimotoi</i>	CR
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K. and T. Nishioka, 2017. *Sciaphila sugimotoi* (Triuridaceae), a new mycoheterotrophic plant from Ishigaki Island, Japan. *Phytotaxa*, 314: 279-284
- 末次健司・加島幹男・天野正晴・米倉浩司・阿部篤志, 2021. オモトソウ（ホンゴウソウ科）を西表島に記録する. *植物地理・分類研究*, 69: 189-191.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sciaphila sugimotoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sciaphila sugimotoi* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカクマソウ

Sciaphila tenella

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地上茎は枝分かれせず、高さ 5-10 cm、全体に赤紫色を帯びる。総状花序は長さ 2-5 cm、花は 4-25 個、上部に雄花、下部に両性花をつける。花被片は 4 (-6) 個。雄蕊は 4 (-6) 個で、葯は横方向に長い。心皮は約 20 個、楕円形で白色。花柱は心皮の腹面につき、棍棒形で乳頭状突起があり、約 0.7 mm。

【生活史】

菌従属栄養性の多年草。花期は 9 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林の林床に生育する。

【分布域】

九州（鹿児島県・宮崎県）・琉球（沖縄島・西表島）、台湾・中国（海南島）・マレーシア・スリランカ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害	自然遷移	

件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカクマソウ	<i>Sciaphila tenella</i>	EN
第4次 2019:	タカクマソウ	<i>Sciaphila tenella</i>	EN
第4次 2018:	タカクマソウ	<i>Sciaphila tenella</i>	EN
第4次 2017:	タカクマソウ	<i>Sciaphila tenella</i>	EN
第4次 2015:	タカクマソウ	<i>Sciaphila tenella</i>	EN
第4次:	タカクマソウ	<i>Sciaphila tenella</i>	EN
第3次:	タカクマソウ	<i>Sciaphila takakumensis</i>	EN
第2次:	タカクマソウ	<i>Sciaphila takakumensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Ohashi, H., Kato, H., Kobayashi, S., Murata, J., 2008. A revision of Triuridaceae of Japan. Journal of Japanese Botany, 83: 20–35.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Sciaphila tenella has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sciaphila tenella* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Other animal feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマソウ

*Sciaphila yakushimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

植物体は高さ 3-9 cm、直立で無毛、黒紫色、約 2 mm の鱗片葉をつける。花は総状花序に 6-15 個つき、基部側に雌花、上部に雄花がある。花は径 1-1.5 mm。雄花の花被は 6 個、そのうち 3 個は他の 3 個より大きく、大小交互に並ぶ。雌花の花被は 6 個、同形同大。雌花の花柱が短く多数の突起を持つ点で、長く平滑な突起を持つホンゴウソウと区別できる。

【生活史】

菌従属栄養性の多年草。

【生育環境】

常緑広葉樹林内に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマソウ	<i>Sciaphila yakushimensis</i>	CR
第4次 2019:	ヤクシマソウ	<i>Sciaphila yakushimensis</i>	CR
第4次 2018:	ヤクシマソウ	<i>Sciaphila yakushimensis</i>	CR
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Suetsugu, K., H. Tsukaya and H. Ohashi, 2016. *Sciaphila yakushimensis* (Triuridaceae), a new mycoheterotrophic plant from Yakushima Island, Japan. The Journal of Japanese Botany, 91: 1–6.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sciaphila yakushimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sciaphila yakushimensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソミアダン

Pandanus daitoensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アダンに似るが、雌蕊の先が開出し、心皮に明瞭な縫合線がある。

【生活史】

常緑の小高木。

【生育環境】

島内陸の非耕作地に生育する。

【分布域】

北大東島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソミアダン	<i>Pandanus daitoensis</i>	CR
第4次 2019:	ホソミアダン	<i>Pandanus daitoensis</i>	CR
第4次 2018:	ホソミアダン	<i>Pandanus daitoensis</i>	CR
第4次 2017:	ホソミアダン	<i>Pandanus daitoensis</i>	CR
第4次 2015:	ホソミアダン	<i>Pandanus daitoensis</i>	CR
第4次:	ホソミアダン	<i>Pandanus daitoensis</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- Susanti, R. and J. Miyamoto, 2009. A new species of *Pandanus* (Pandanaceae) from the Daito Islands of Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 60: 71–78.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pandanus daitoensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pandanus daitoensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クロカミシライトソウ

Chionographis koidzumiana var. *kurokamiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 C

推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シライトソウに似るが、上位の花被片の長さが 4-12 mm で、先がやや太い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生える。

【分布域】

佐賀県（黒髪山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロカミシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第4次 2019:	クロカミシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第4次 2018:	クロカミシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第4次 2017:	クロカミシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第4次 2015:	クロカミシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第4次:	クロカミシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第3次:	クロカミシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第2次:	クロカミシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 原寛，1971．クロカミシライトソウ（新変種）．植物研究雑誌，46:282．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chionographis koidzumiana var. *kurokamiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chionographis koidzumiana* var. *kurokamiana* is listed as CR under criteria C. C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:
1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウケユリ

Lilium alexandrae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

鱗茎は卵形で径4-5 cm、白色、苦味はない。茎は高さ1-1.2 m。葉は披針形～広披針形、長さ18-20 cm、短い柄がある。花は茎頂に1-2個付き、白色、漏斗形、花の香りが強い。花被片は倒卵状へら形で長さ16-18 cm、先は反る。花粉は赤褐色。蒴果は長橢円形、長さ5 cmほど。

【生活史】

落葉性多年草。花は5月下旬～6月。

【生育環境】

明るい林内や岩場。

【分布域】

奄美大島、徳之島とその間の請島などの島に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では3メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は99%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 道路工事	園芸採取	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウケユリ	<i>Lilium alexandrae</i>	CR
第4次 2019:	ウケユリ	<i>Lilium alexandrae</i>	CR
第4次 2018:	ウケユリ	<i>Lilium alexandrae</i>	CR
第4次 2017:	ウケユリ	<i>Lilium alexandrae</i>	CR
第4次 2015:	ウケユリ	<i>Lilium alexandrae</i>	CR
第4次:	ウケユリ	<i>Lilium alexandrae</i>	CR
第3次:	ウケユリ	<i>Lilium alexandrae</i>	CR
第2次:	ウケユリ	<i>Lilium alexandrae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lilium alexandrae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lilium alexandrae* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	Road construction, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae グリ科 Liliaceae

キバナスゲユリ

Lilium callosum var. *flaviflorum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 40–100 cm。茎は線形で無柄。茎の上部に黄色～橙黄色の花を 2–9 個つける。花は横向きまたは斜め下向きに開き、花被片は長さ 3–4 cm、平開し先が反り返る。ノヒメユリの変種で、花が黄色～橙黄色である。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

日当たりのよい草地、低地の原野に生える。

【分布域】

九州（長崎県）・琉球（沖縄島・久米島・渡名喜島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キバナスゲユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>flaviflorum</i>	CR
第4次 2019:	キバナスゲユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>flaviflorum</i>	CR
第4次 2018:	キバナスゲユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>flaviflorum</i>	CR
第4次 2017:	キバナスゲユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>flaviflorum</i>	CR
第4次 2015:	キバナスゲユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>flaviflorum</i>	CR
第4次:	キバナスゲユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>flaviflorum</i>	CR
第3次:	キバナスゲユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>flaviflorum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lilium callosum var. *flaviflorum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lilium callosum* var. *flaviflorum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タモトユリ

*Lilium nobilissimum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

鱗茎は球形、径 6.5 cm になり、黄白色、苦みはない。茎は高さ 1.5 m になる。葉は幅広く、長楕円形～卵形、長さ 18 cm になり、短い柄がある。花は茎頂に数個付き、白色、ラッパ形で上向きに開き、香りが強い。花被片は長さ 14 cm になる。花粉は黄色。蒴果は卵状長楕円形。

【生活史】

落葉多年草。花は 7-8 月上旬。

【生育環境】

海沿いの岩場に生える。

【分布域】

トカラ列島（口之島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タモトユリ	<i>Lilium nobilissimum</i>	CR
第4次 2019:	タモトユリ	<i>Lilium nobilissimum</i>	CR
第4次 2018:	タモトユリ	<i>Lilium nobilissimum</i>	CR
第4次 2017:	タモトユリ	<i>Lilium nobilissimum</i>	CR
第4次 2015:	タモトユリ	<i>Lilium nobilissimum</i>	CR
第4次:	タモトユリ	<i>Lilium nobilissimum</i>	CR
第3次:	タモトユリ	<i>Lilium nobilissimum</i>	CR
第2次:	タモトユリ	<i>Lilium nobilissimum</i>	EW
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lilium nobilissimum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lilium nobilissimum* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サツマホトトギス

Tricyrtis hirta var. *masamunei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準変種のホトトギスに似るが、茎や葉に毛はない。分類群として独立するか再検討が必要との見解もある。

【生活史】

落葉性多年草。

【生育環境】

山中の半日陰地に生育する。

【分布域】

九州（南部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では1メッシュで数十個体の現存が推定された。平均減少率は85%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 道路工事	園芸採取	自然遷移
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サツマホトトギス	<i>Tricyrtis hitra</i> var. <i>masamunei</i>	CR
第4次 2019:	サツマホトトギス	<i>Tricyrtis hitra</i> var. <i>masamunei</i>	CR
第4次 2018:	サツマホトトギス	<i>Tricyrtis hitra</i> var. <i>masamunei</i>	CR
第4次 2017:	サツマホトトギス	<i>Tricyrtis hitra</i> var. <i>masamunei</i>	CR
第4次 2015:	サツマホトトギス	<i>Tricyrtis hitra</i> var. <i>masamunei</i>	CR
第4次:	サツマホトトギス	<i>Tricyrtis hitra</i> var. <i>masamunei</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tricyrtis hirta var. *masamunei* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Tricyrtis hirta var. *masamunei* is listed as CR under criteria ACD.
The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Road construction, Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

エンレイショウキラン

Acanthephippium pictum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は直立して数個が接して並び、先に 2-3 葉をつける。タイワンショウキランに似るが、葉に 5 脈があり、花は外面は黄色～黄緑色で、開出部の内面は濃赤色で光沢があり、萼片と花弁の先は反り返り、唇弁は淡黄色、唇弁の中央裂片は長楕円形、やや反り返ることなどが異なる。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

琉球（石垣島・西表島・与那国島）、台湾。鹿児島県の島嶼の記録は花による確認はなされていない。花が確認された個体は、沖縄島以北ではすべてタイワンショウキランであり、これまでのところエンレイショウキランの確実な分布域は八重山諸島に限られる。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

不明		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エンレイショウキラン	<i>Acanthephippium pictum</i>	CR
第4次 2019:	エンレイショウキラン	<i>Acanthephippium pictum</i>	CR
第4次 2018:	エンレイショウキラン	<i>Acanthephippium pictum</i>	CR
第4次 2017:	エンレイショウキラン	<i>Acanthephippium pictum</i>	CR
第4次 2015:	エンレイショウキラン	<i>Acanthephippium pictum</i>	CR
第4次:	エンレイショウキラン	<i>Acanthephippium pictum</i>	CR
第3次:	エンレイショウキラン	<i>Acanthephippium sylhetense</i> var. <i>pictum</i>	CR
第2次:	エンレイショウキラン	<i>Acanthephippium sylhetense</i> var. <i>pictum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Acanthephippium pictum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Acanthephippium pictum</i> is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

タイワンショウキラン

Acanthephippium sylhetense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は直立して数個が接して並び、卵状円柱形で、長さ 10 cm、先に 2-3 葉をつける。葉は楕円形で長さ 20-30 cm、幅 7-10 cm、9 脈がある。総状花序は側生し、3-5 花をつけ、下部は数枚の包葉で包まれる。花は外面は淡黄色で、開出部の内面は赤紫色、萼片と花弁は基部で癒合し、先は平開し、長さ 4-4.5 cm、唇弁は白色で先端は黄色、長さ 4 cm、3 裂し、唇弁の中央裂片は倒匙形、上面に 3 裂の板状突起があり、側裂片は広腎形、直立する。蕊柱の基部は下方に長く伸びて、側花弁と癒合する。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

屋久島・奄美大島・徳之島・琉球、台湾・中国～ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	不明	

自然遷移		
件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾ショウキラン	<i>Acanthephippium sylhetense</i>	CR
第4次 2019:	台湾ショウキラン	<i>Acanthephippium sylhetense</i>	CR
第4次 2018:	台湾ショウキラン	<i>Acanthephippium sylhetense</i>	CR
第4次 2017:	台湾ショウキラン	<i>Acanthephippium sylhetense</i>	CR
第4次 2015:	台湾ショウキラン	<i>Acanthephippium sylhetense</i>	CR
第4次:	台湾ショウキラン	<i>Acanthephippium sylhetense</i>	CR
第3次:	台湾ショウキラン	<i>Acanthephippium sylhetense</i>	CR
第2次:	台湾ショウキラン	<i>Acanthephippium sylhetense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Acanthephippium sylhetense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Acanthephippium sylhetense is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キバナシュスラン

Anoectochilus formosanus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐し、先は直立し、花序を含めて長さ 20 cm、3-4 葉を互生。葉は広卵形で長さ 3.5-4.5 cm、上面は帯紫暗緑色で、脈上に白色または淡黄色の網目模様が入り、下面は帯赤紫色。総状花序は頂生、3-5 花をまばらにつける。萼片は赤褐色で、背萼片は長さ 6-7 mm、側萼片は長さ 8-10 mm。側花弁は白色で長さ 8 mm、唇弁は長さ 18 mm で白色、先端は 2 裂して Y 字形、基部から中央にかけて櫛の歯状に 5-7 対の黄色の糸状突起があり、基部は短い距がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

高地の自然林の林床に生える。

【分布域】

沖縄島・石垣島・西表島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キバナシュスラン	<i>Anoetochilus formosanus</i>	CR
第4次 2019:	キバナシュスラン	<i>Anoetochilus formosanus</i>	CR
第4次 2018:	キバナシュスラン	<i>Anoetochilus formosanus</i>	CR
第4次 2017:	キバナシュスラン	<i>Anoetochilus formosanus</i>	CR
第4次 2015:	キバナシュスラン	<i>Anoetochilus formosanus</i>	CR
第4次:	キバナシュスラン	<i>Anoetochilus formosanus</i>	CR
第3次:	キバナシュスラン	<i>Anoetochilus formosanus</i>	CR
第2次:	キバナシュスラン	<i>Anoetochilus formosanus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Anoetochilus formosanus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Anoetochilus formosanus</i> is listed as CR under criteria ACD. The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウシュンシュスラン

Anoectochilus koshunensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐し、先は直立し、花序を含めて長さ 20 cm、3-4 葉を互生。葉は広卵形で長さ 3.5-4.5 cm、上面は帯紫暗緑色で、通常脈上に白色または淡黄色の網目模様が入り、下面は帯赤紫色。総状花序は頂生、3-5 花をまばらにつける。萼片は淡赤褐色、背萼片は長さ 6 mm、側萼片は長さ 8 mm。側花弁は白色で長さ 6 mm、唇弁は長さ 12 mm で白色、先端は 2 裂して Y 字形、中央に 1 対の狭三角形の突起があり、基部に長さ 7 mm の 2 浅裂する距がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

高地の自然林の林床に生える。

【分布域】

屋久島・沖縄島・石垣島・西表島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では減少率情報が得られなかった。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウシュンシュスラン	<i>Anoectochilus koshunensis</i>	CR
第4次 2019:	コウシュンシュスラン	<i>Anoectochilus koshunensis</i>	CR
第4次 2018:	コウシュンシュスラン	<i>Anoectochilus koshunensis</i>	CR
第4次 2017:	コウシュンシュスラン	<i>Anoectochilus koshunensis</i>	CR
第4次 2015:	コウシュンシュスラン	<i>Anoectochilus koshunensis</i>	CR
第4次:	コウシュンシュスラン	<i>Anoectochilus koshunensis</i>	CR
第3次:	コウシュンシュスラン	<i>Anoectochilus koshunensis</i>	CR
第2次:	コウシュンシュスラン	<i>Anoectochilus koshunensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Anoectochilus koshunensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Anoetochilus koshunensis</i> is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クスクスラン

Bulbophyllum affine

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は匍匐し、3–7 cm 間隔で長さ 2–4 cm の円柱形の偽球茎をつけ、その先に 1 葉をつける。葉は革質、線状長楕円形で長さ 10–18 cm、基部は葉柄状。花序は偽球茎の基部から出て長さ 1.5 cm、1 花をつける。花は淡黄色～黄褐色で、紫色の数本の条線が入り、平開しない。萼片は長さ 1.7–2 cm。側花弁は長さ 1.3–1.6 cm、唇弁は長さ 8–10 mm、卵形～三角状卵形で朱紅色、基部に関節がある。

【生活史】

常緑で着生の多年草。

【生育環境】

空中湿度の高い自然林の樹幹に着生する。

【分布域】

奄美大島・石垣島・西表島、台湾・中国南部・ヒマラヤ・タイ・インドシナ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	その他	

件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クスクスラン	<i>Bulbophyllum affine</i>	CR
第4次 2019:	クスクスラン	<i>Bulbophyllum affine</i>	CR
第4次 2018:	クスクスラン	<i>Bulbophyllum affine</i>	CR
第4次 2017:	クスクスラン	<i>Bulbophyllum affine</i>	CR
第4次 2015:	クスクスラン	<i>Bulbophyllum affine</i>	CR
第4次:	クスクスラン	<i>Bulbophyllum affine</i>	CR
第3次:	クスクスラン	<i>Bulbophyllum affine</i>	CR
第2次:	クスクスラン	<i>Bulbophyllum affine</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Bulbophyllum affine has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Bulbophyllum affine is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シコウラン

Bulbophyllum macraei var. *macraei*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐して仮軸分枝を繰り返し、上部は卵形に肥厚して先端に 1 葉をつける。葉は革質で卵状狭長楕円形、表面に光沢があり、長さ 10-17 cm、幅 3-5 cm、やや鈍頭。茎の基部より長さ 10-15 cm の花茎を側生し、先端に淡黄色地に紫紅色をおびた 2-6 花をつける。萼片は斜開し、背萼片は狭長楕円形で長さ 8-10 mm。側萼片は線状披針形で先は針状、長さ 25-30 mm、2 個の縁は一部で接し、先端は離れて突出する。側花弁は長楕円状卵形で長さ 6 mm。唇弁は舌状で小さい。

【生活史】

常緑で着生の多年草。花期は 7-9 月。

【生育環境】

山地の常緑広葉樹林の自然林の樹上や岩上に着生する。

【分布域】

奄美大島・徳之島・沖縄島・西表島、台湾・スリランカ・インド。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>macraei</i>	EN
第4次 2019:	シコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>macraei</i>	EN
第4次 2018:	シコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>macraei</i>	EN
第4次 2017:	シコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>macraei</i>	EN
第4次 2015:	シコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>macraei</i>	EN
第4次:	シコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>macraei</i>	EN
第3次:	シコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i>	EN
第2次:	シコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Bulbophyllum macraei var. *macraei* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th

edition. *Bulbophyllum macraei* var. *macraei* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タネガシマシコウラン

Bulbophyllum macraei var. *tanegashimense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準変種のシコウランに似るが、葉が広楕円形で、葉質は厚いばかりでなく硬く、花は紅紫色。

【生活史】

常緑で着生の多年草。

【生育環境】

樹上に生育する。

【分布域】

屋久島・種子島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	園芸採取	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タネガシマシコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>tanegashimense</i>	CR
第4次 2019:	タネガシマシコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>tanegashimense</i>	CR
第4次 2018:	タネガシマシコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>tanegashimense</i>	CR
第4次 2017:	タネガシマシコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>tanegashimense</i>	CR
第4次 2015:	タネガシマシコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>tanegashimense</i>	CR
第4次:	タネガシマシコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>tanegashimense</i>	CR
第3次:	タネガシマシコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>tanegashimense</i>	CR
第2次:	タネガシマシコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>tanegashimense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編），1982．日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類．305pp., 208pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Bulbophyllum macraei var. *tanegashimense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Bulbophyllum macraei* var. *tanegashimense* is listed as CR under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キソエビネ

Calanthe alpina

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は球状で、連珠状に連なり、葉は3-4個つき、倒卵状狭長楕円形、長さ15-30 cm、幅3-4 cm、無毛、鋭頭、葉柄は不明瞭。花茎は高さ20-30 cm。3-8花をつける。花は淡い紫紅色。萼片は広披針形で長さ15-17 mm、幅4-6 mm。側花弁は披針形で萼片より短く、幅も狭い。唇弁は萼片より少し短く、ほぼ半円形で全縁、縁は細かい櫛の歯状に切れこむ。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は6-7月。

【生育環境】

冷温帯～亜高山帯の樹林の湿り気のある林床に生える。

【分布域】

本州（東北～中部地方）・四国、台湾・中国～ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では1メッシュで絶滅し、5メッシュで計数十個体の現存が推定された。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	0	0	0	0	0	5	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 園芸採取	人の踏みつけ	産地局限

件数		
2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キソエビネ	<i>Calanthe alpina</i> var. <i>schlechteri</i>	CR
第4次 2019:	キソエビネ	<i>Calanthe alpina</i> var. <i>schlechteri</i>	CR
第4次 2018:	キソエビネ	<i>Calanthe alpina</i> var. <i>schlechteri</i>	CR
第4次 2017:	キソエビネ	<i>Calanthe alpina</i> var. <i>schlechteri</i>	CR
第4次 2015:	キソエビネ	<i>Calanthe alpina</i> var. <i>schlechteri</i>	CR
第4次:	キソエビネ	<i>Calanthe alpina</i> var. <i>schlechteri</i>	CR
第3次:	キソエビネ	<i>Calanthe alpina</i> var. <i>schlechteri</i>	CR
第2次:	キソエビネ	<i>Calanthe schlechteri</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅(EX)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 岐阜県環境生活部自然環境保全課，2014．岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物（植物編）改訂版—岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版—．<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/11109.html>（2024 月 9 月 5 日閲覧）．
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002．長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物．維管束植物編．長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Calanthe alpina has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe alpina* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Human trampling, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミエビネ

*Calanthe amamiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

エビネより全体に大きく、葉質が硬く、花色が白色～淡桃色。また、キリシマエビネに似るが、距の長さが 7-13 mm と短い。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

林床に生える。

【分布域】

奄美大島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	4	0	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	土地造成	園芸採取
件数 4	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミエビネ	<i>Calanthe amamiana</i>	CR
第4次 2019:	アマミエビネ	<i>Calanthe amamiana</i>	CR
第4次 2018:	アマミエビネ	<i>Calanthe amamiana</i>	CR
第4次 2017:	アマミエビネ	<i>Calanthe amamiana</i>	CR
第4次 2015:	アマミエビネ	<i>Calanthe amamiana</i>	CR
第4次:	アマミエビネ	<i>Calanthe amamiana</i>	CR
第3次:	アマミエビネ	<i>Calanthe amamiana</i>	CR
第2次:	アマミエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i> var. <i>amamiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編），1982．日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類．305pp., 208pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe amamiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe amamiana* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Logging and wood harvesting, Land development, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タガネラン

Calanthe davidii var. *bungoana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は短い。葉は 5-6 個つき、線状倒披針形、長さ 30-50 cm、幅 1.5-2 cm、無毛、鋭尖頭。花茎は高さ約 50-60 cm、白色の短い軟毛があり、黄緑色の花を密に多数つける。萼片は卵形、長さ 7 mm、外面に短毛がある。側花弁は倒披針形、萼片より少し短い。唇弁は萼片より少し長く、3 裂し、基部に 3 個のとさか状の隆起線があり、側裂片は楕円形、中裂片の先は広がって 2 裂し、裂片は卵形で鈍頭。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 6 月。

【生育環境】

石灰岩の丘陵地林縁や林内に生育する。

【分布域】

大分県。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。平均減少率は 85%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	石灰採掘	園芸採取

件数		
1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タガネラン	<i>Calanthe davidii</i>	CR
第4次 2019:	タガネラン	<i>Calanthe davidii</i>	CR
第4次 2018:	タガネラン	<i>Calanthe davidii</i>	CR
第4次 2017:	タガネラン	<i>Calanthe davidii</i>	CR
第4次 2015:	タガネラン	<i>Calanthe davidii</i>	CR
第4次:	タガネラン	<i>Calanthe davidii</i>	CR
第3次:	タガネラン	<i>Calanthe bungoana</i>	CR
第2次:	タガネラン	<i>Calanthe bungoana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 大分県自然環境学術調査会，2022．レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—．<https://www.rdb-oita.jp/>（2024年9月5日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe davidii var. *bungoana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe davidii* var. *bungoana* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	Logging and wood harvesting, Limestone mining, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タマザキエビネ

Calanthe densiflora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は 10 cm 程度匍匐し、先は偽球茎となり、数葉を束生。葉は狭長楕円形、長さ 40-50 cm。総状花序は偽球茎の基部から生じ、長さ 10-30 cm、多数の花を密につける。花は長い包葉で包まれ、苞葉は脱落する。花は黄色、半開し、萼片と側花弁は長さ 1.5 cm、倒披針形。唇弁は 3 裂し、側裂片はやや三角形、中央裂片は四角形。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

徳之島・沖縄島・西表島、台湾・中国（南部）・ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タマザキエビネ	<i>Calanthe densiflora</i>	CR
第4次 2019:	タマザキエビネ	<i>Calanthe densiflora</i>	CR
第4次 2018:	タマザキエビネ	<i>Calanthe densiflora</i>	CR
第4次 2017:	タマザキエビネ	<i>Calanthe densiflora</i>	CR
第4次 2015:	タマザキエビネ	<i>Calanthe densiflora</i>	CR
第4次:	タマザキエビネ	<i>Calanthe densiflora</i>	CR
第3次:	タマザキエビネ	<i>Calanthe densiflora</i>	CR
第2次:	タマザキエビネ	<i>Calanthe densiflora</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe densiflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe densiflora* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホシツルラン

*Calanthe hoshii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ツルランに似るが、花がやや大きく、花柄はより長く長さ約5 cm となり、また唇弁の形が異なり、唇弁基部の隆起が白く、距は上部で曲がらずまっすぐに伸びて長さ3.5-4 cm と長い。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（母島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では1メッシュで数個体の現存が推定された。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 その他		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホシツルラン	<i>Calanthe hoshii</i>	CR
第4次 2019:	ホシツルラン	<i>Calanthe hoshii</i>	CR
第4次 2018:	ホシツルラン	<i>Calanthe hoshii</i>	CR
第4次 2017:	ホシツルラン	<i>Calanthe hoshii</i>	CR
第4次 2015:	ホシツルラン	<i>Calanthe hoshii</i>	CR
第4次:	ホシツルラン	<i>Calanthe hoshii</i>	CR
第3次:	ホシツルラン	<i>Calanthe hoshii</i>	CR
第2次:	ホシツルラン	<i>Calanthe hoshii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe hoshii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe hoshii* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Other

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サクラジマエビネ

Calanthe mannii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は短く太い。葉は 3-4 個束生し、長さ 40-50 cm、幅 3-6 cm。花茎には短毛があり、緑黄色の花を密に多数つける。背萼片は卵状長楕円形、側萼片は楕円形、ともに長さ約 9 mm。側花弁は線状倒披針形で萼片と同長。唇弁は直立し萼片と同長、3 裂し、側裂片は小型、中裂片は倒三角形。中裂片の内面に 3 個の不規則な条線が発達する。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 5 月。

【生育環境】

林床に生える。

【分布域】

九州（鹿児島県）、中国（南部）～ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	4

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	不明	自然遷移
件数	2	1

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サクラジマエビネ	<i>Calanthe mannii</i>	CR
第4次 2019:	サクラジマエビネ	<i>Calanthe mannii</i>	CR
第4次 2018:	サクラジマエビネ	<i>Calanthe mannii</i>	CR
第4次 2017:	サクラジマエビネ	<i>Calanthe mannii</i>	CR
第4次 2015:	サクラジマエビネ	<i>Calanthe mannii</i>	CR
第4次:	サクラジマエビネ	<i>Calanthe mannii</i>	CR
第3次:	サクラジマエビネ	<i>Calanthe oblanceolata</i>	CR
第2次:	サクラジマエビネ	<i>Calanthe oblanceolata</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe mannii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe mannii* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Unknown, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アリサンムヨウラン

Cheirostylis takeoi

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや肥厚して匍匐し、先は直立、花序を含めて長さ 10-20 cm、2-5 葉を互生する。葉は卵形で長さ 2-4.5 cm、淡緑色。総状花序は頂生し、3-5 花をつける。花は白色、時にわずかに淡紅色を帯び、平開しない。萼片は中央まで癒合し筒状となり、長さ 5-6 mm。側花弁は長楕円状倒披針形、長さ 5-6 mm。唇弁は長さ 5-6 mm、舌状、全縁。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

自然林の林床に生育する。

【分布域】

奄美大島・沖縄島・久米島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アリサンムヨウラン	<i>Cheirostylis takeoi</i>	CR
第4次 2019:	アリサンムヨウラン	<i>Cheirostylis takeoi</i>	CR
第4次 2018:	アリサンムヨウラン	<i>Cheirostylis takeoi</i>	CR
第4次 2017:	アリサンムヨウラン	<i>Cheirostylis takeoi</i>	CR
第4次 2015:	アリサンムヨウラン	<i>Cheirostylis takeoi</i>	CR
第4次:	アリサンムヨウラン	<i>Cheirostylis takeoi</i>	CR
第3次:	アリサンムヨウラン	<i>Cheirostylis takeoi</i>	CR
第2次:	アリサンムヨウラン	<i>Cheirostylis takeoi</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cheirostylis takeoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Cheirostylis takeoi is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

モイワラン

Cremastra aphylla

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

サイハイランに似るが、根茎がサンゴ状に分枝し、葉が退化して通常葉がなく、花色が赤く、蕊柱の下部がふくらまないなどの点で異なる。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は6月頃。

【生育環境】

冷涼な林内の林床に生育する。

【分布域】

北海道・本州（東北地方北部・関東～近畿地方）・四国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では1メッシュで絶滅し、6メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は83%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	1	0	0	0	0	6	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 自然遷移	森林伐採	園芸採取
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	モイワラン	<i>Cremastra aphylla</i>	CR
第4次 2019:	モイワラン	<i>Cremastra aphylla</i>	CR
第4次 2018:	モイワラン	<i>Cremastra aphylla</i>	CR
第4次 2017:	モイワラン	<i>Cremastra aphylla</i>	CR
第4次 2015:	モイワラン	<i>Cremastra aphylla</i>	CR
第4次:	モイワラン	<i>Cremastra aphylla</i>	CR
第3次:	モイワラン	<i>Cremastra aphylla</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[情報不足] 三重県[CR] 滋賀県[絶滅危惧種] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 五十嵐勇治・吉田弓子，2013．秩父演習林維管束植物目録．演習林（東大），54: 107-155．
- 松井洋，2009．空知支庁のラン科アツモリソウとモイワランの記録．北方山草，26: 37-44．
- 青森県レッドデータブック改訂検討会，2020．青森県の希少な野生生物—青森県レッドデータブック（2020年版）—．青森県，397pp．
- 岐阜県環境生活部自然環境保全課，2014．岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物（植物編）改訂版—岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版—．<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/11109.html>（2024 月 9 月 5 日閲覧）．
- 富山県生活環境文化部自然保護課，2012．富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま 2012—．富山県生活環境文化部自然保護課，451pp．

- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cremastra aphylla has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cremastra aphylla* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession, Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマホザキラン

*Crepidium boninense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

草丈 15–25 cm、葉は卵状披針形～長楕円形で先は尖り、長さ 5–10 cm、幅 2–4 cm、基部は長さ 2–4 cm の柄に流れる。花は淡緑色で、総状花序に 10–30 個つく。

【生活史】

地生の多年草。

【生育環境】

やや湿った樹林の林床や岩上に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（父島・北硫黄島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定され推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマホザキラン	<i>Malaxis boninensis</i>	CR
第4次 2019:	シマホザキラン	<i>Malaxis boninensis</i>	CR
第4次 2018:	シマホザキラン	<i>Malaxis boninensis</i>	CR
第4次 2017:	シマホザキラン	<i>Malaxis boninensis</i>	CR
第4次 2015:	シマホザキラン	<i>Malaxis boninensis</i>	CR
第4次:	シマホザキラン	<i>Malaxis boninensis</i>	CR
第3次:	シマホザキラン	<i>Malaxis boninensis</i>	CR
第2次:	シマホザキラン	<i>Malaxis boninensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024 年 9 月 6 日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crepidium boninense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Crepidium boninense is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オキナワヒメラン

Crepidium purpureum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は円柱形で長さ 5-8 cm、3-4 葉を互生する。葉は卵状披針形で長さ 7-11 cm。総状花序は頂生して長さ 10-25 cm になり、ややまばらに 20 花程度をつけ、苞葉はつぼみより短い。花は紫褐色で径 5 mm。萼片と花弁は長さ 4-5 mm。萼片は長楕円形、側花弁は線形。唇弁は長さ 7 mm、狭卵形、先は 2 裂し、基部は耳状になり蕊柱を包む。

【生活史】

夏緑性で地生の多年草。

【生育環境】

山地の明るい林床や草地に生える。

【分布域】

沖縄島、フィリピン・スリランカ・ヒマラヤ・中国（南部）・タイ・インドシナ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年の調査では、2 メッシュの現存個体数は計数十個体と推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキナワヒメラン	<i>Crepidium purpureum</i>	CR
第4次 2019:	オキナワヒメラン	<i>Crepidium purpureum</i>	CR
第4次 2018:	オキナワヒメラン	<i>Crepidium purpureum</i>	CR
第4次 2017:	オキナワヒメラン	<i>Crepidium purpureum</i>	CR
第4次 2015:	オキナワヒメラン	<i>Crepidium purpureum</i>	CR
第4次:	オキナワヒメラン	<i>Crepidium purpureum</i>	CR
第3次:	オキナワヒメラン	<i>Malaxis purpurea</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crepidium purpureum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Crepidium purpureum* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオスズムシラン

Cryptostylis arachnites

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根はやや肥厚する。茎はごく短く、1-2 葉をつける。葉は卵形～卵状楕円形、長さ 15 cm で、上面はほぼ緑色、葉柄は長さ約 10 cm。総状花序は頂生して長さ 50 cm になり、10-18 花をつける。萼片と側花弁は黄緑色、線形、萼片は長さ 1.3-1.7 cm、側花弁は長さ 1.1 cm。唇弁は橙色で、先端に赤褐色の細点が入り、長さ 1.5-2 cm、狭卵形。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

石垣島・西表島、台湾（北部）・中国（南部）・スリランカ・インド・タイ・インドシナ・マレーシア・ニューギニア・オーストラリア（北部）・ニューカレドニア・フィジー諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では既知産地すべてで絶滅が報告され、確実な自生地はなかった。再発見の可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	3	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオスズムシラン	<i>Cryptostylis arachnites</i>	CR
第4次 2019:	オオスズムシラン	<i>Cryptostylis arachnites</i>	CR
第4次 2018:	オオスズムシラン	<i>Cryptostylis arachnites</i>	CR
第4次 2017:	オオスズムシラン	<i>Cryptostylis arachnites</i>	CR
第4次 2015:	オオスズムシラン	<i>Cryptostylis arachnites</i>	CR
第4次:	オオスズムシラン	<i>Cryptostylis arachnites</i>	CR
第3次:	オオスズムシラン	<i>Cryptostylis arachnites</i>	CR
第2次:	オオスズムシラン	<i>Cryptostylis arachnites</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cryptostylis arachnites has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Cryptostylis arachnites</i> is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカオオオスズムシラン

Cryptostylis taiwaniana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根はやや肥厚する。茎はごく短く、1-2 葉をつける。葉は卵形～卵状楕円形で長さ 15 cm、上面に暗緑色の斑点があり、長さ約 10 cm の葉柄がある。総状花序は頂生して長さ 45 cm、約 20 花をつける。花は径 4 cm、萼片と側花弁は線形、帯紫緑色、萼片は長さ 1.8 cm、側花弁は長さ 1.1 cm。唇弁は橙色で、全面に赤褐色の細点が入り、長さ 2.5 cm、楕円側状菱形。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の陰湿な林床に生える。

【分布域】

西表島、台湾（南部）・フィリピン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカオオオスズムシラン	<i>Cryptostylis taiwaniana</i>	CR
第4次 2019:	タカオオオスズムシラン	<i>Cryptostylis taiwaniana</i>	CR
第4次 2018:	タカオオオスズムシラン	<i>Cryptostylis taiwaniana</i>	CR
第4次 2017:	タカオオオスズムシラン	<i>Cryptostylis taiwaniana</i>	CR
第4次 2015:	タカオオオスズムシラン	<i>Cryptostylis taiwaniana</i>	CR
第4次:	タカオオオスズムシラン	<i>Cryptostylis taiwaniana</i>	CR
第3次:	タカオオオスズムシラン	<i>Cryptostylis taiwaniana</i>	CR
第2次:	タカオオオスズムシラン	<i>Cryptostylis taiwaniana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cryptostylis taiwaniana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Cryptostylis taiwaniana</i> is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヘツカラン

Cymbidium dayanum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は束生し、長さ 30-50 cm、革質で光沢があり、鋭尖頭。花茎は 10-15 cm、偽球茎の側方から出て下垂し、まばらに 10-15 個の花をつける。萼片は倒披針形、長さ 3-3.2 cm、白色で中脈に沿って幅広い暗紅紫色の条がある。側花弁は萼片と同形で同色。唇弁は暗紅紫色で長さ 2 cm、上方が浅く 3 裂し、側裂片は小型で鈍頭、中裂片は反曲し表面に短毛があり、内面中央に白色の 2 本のひだ状隆起がある。

【生活史】

常緑で着生の多年草。

【生育環境】

常緑樹林内の老木の樹上に生える。

【分布域】

九州（南部）・種子島、亜熱帯～熱帯アジアに広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 28%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	2	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	森林伐採	

件数 4	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハツカラン	<i>Cymbidium dayanum</i> var. <i>leachianum</i>	CR
第4次 2019:	ハツカラン	<i>Cymbidium dayanum</i> var. <i>leachianum</i>	CR
第4次 2018:	ハツカラン	<i>Cymbidium dayanum</i> var. <i>leachianum</i>	CR
第4次 2017:	ハツカラン	<i>Cymbidium dayanum</i> var. <i>leachianum</i>	CR
第4次 2015:	ハツカラン	<i>Cymbidium dayanum</i> var. <i>leachianum</i>	CR
第4次:	ハツカラン	<i>Cymbidium dayanum</i> var. <i>leachianum</i>	CR
第3次:	ハツカラン	<i>Cymbidium dayanum</i> var. <i>leachianum</i>	CR
第2次:	ハツカラン	<i>Cymbidium dayanum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cymbidium dayanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cymbidium dayanum* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Logging and wood harvesting
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

スルガラン

Cymbidium ensifolium

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は束生、線形で長さ 30-90 cm、縁はざらつかない。花茎は葉より低い。花は淡黄緑色～淡紅紫色で濃色の脈が入り、3-9 個つける。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 6-10 月。

【生育環境】

暖温帯～亜熱帯の林下に生える。

【分布域】

九州、亜熱帯～熱帯アジア・ニューギニアまで広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では、1 メッシュで数十個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	スルガラン	<i>Cymbidium ensifolium</i>	CR
第4次 2019:	スルガラン	<i>Cymbidium ensifolium</i>	CR
第4次 2018:	スルガラン	<i>Cymbidium ensifolium</i>	CR
第4次 2017:	スルガラン	<i>Cymbidium ensifolium</i>	CR
第4次 2015:	スルガラン	<i>Cymbidium ensifolium</i>	CR
第4次:	スルガラン	<i>Cymbidium ensifolium</i>	CR
第3次:	スルガラン	<i>Cymbidium ensifolium</i>	CR
第2次:	スルガラン	<i>Cymbidium ensifolium</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cymbidium ensifolium has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cymbidium ensifolium* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カンラン

Cymbidium kanran

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は束生し、広線形で革質、多少外曲し、長さ20-70 cm、幅6-17 mm。花茎は直立して高さ25-60 cm、鞘状葉をまばらにつける。緑色で紫色を帯びた5-10花を花序にまばらにつける。萼片は広線形で長さ3-4 cm、幅3.5-4.5 mm、鋭尖頭。側花弁は萼片よりやや短く披針状線形。唇弁は舌状で肉質、萼片より短く淡黄色で紫紅色の斑紋があり、中央に2本のひだ状隆起がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は11-1月。

【生育環境】

常緑広葉樹林下に生える。

【分布域】

本州（東海地方以西）・四国・九州・琉球、韓国（済州島）・台湾・中国（南部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では10メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は90%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
8	2	0	0	0	0	10	0	14

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 園芸採取	その他動物食害	その他

件数		
28	8	6

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>	EN
第4次 2019:	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>	EN
第4次 2018:	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>	EN
第4次 2017:	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>	EN
第4次 2015:	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>	EN
第4次:	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>	EN
第3次:	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>	CR
第2次:	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cymbidium kanran has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cymbidium kanran* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Other animal feeding damage, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コラン

Cymbidium koran

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は束生、線形、縁はざらつかない。花茎は葉より低い。花は総状花序に 3-4 花つき、ふつう淡紅紫色、花被片には濃色の脈がある。スルガランに似るが、葉の長さが 30-35 cm 程と小型。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

林床に生える。

【分布域】

熊本県。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では確実な自生を確認できなかった。現存している可能性が高いと考えられたため、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コラン	<i>Cymbidium koran</i>	CR
第4次 2019:	コラン	<i>Cymbidium koran</i>	CR
第4次 2018:	コラン	<i>Cymbidium koran</i>	CR
第4次 2017:	コラン	<i>Cymbidium koran</i>	CR
第4次 2015:	コラン	<i>Cymbidium koran</i>	CR
第4次:	コラン	<i>Cymbidium koran</i>	CR
第3次:	コラン	<i>Cymbidium koran</i>	CR
第2次:	コラン	<i>Cymbidium koran</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cymbidium koran has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cymbidium koran* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アキザキナギラン

Cymbidium lancifolium

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立し、高さ 30-55 cm になり、数枚の葉を互生する。葉は長楕円状披針形、長さ 5-20 cm、薄い革質。総状花序は偽球茎の下部から出る。萼片と花弁は長さ 2-2.5 cm。唇弁は長さ 2 cm、長楕円形、白色で上面に紅紫色の斑点が入り、下方に折れ曲がる。ナギランに似るが、葉縁に鋸歯がなく、花色が淡緑色、花茎は葉よりも低く、晩秋に開花する。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 10-11 月。茎の下部に新芽を作り栄養繁殖で増殖することもある。

【生育環境】

常緑広葉樹林のやや乾いた林床に生える。

【分布域】

本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球、韓国（済州島）・台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	その他動物食害	自然遷移

件数		
1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アキザキナギラン	<i>Cymbidium lancifolium</i>	EN
第4次 2019:	アキザキナギラン	<i>Cymbidium lancifolium</i>	EN
第4次 2018:	アキザキナギラン	<i>Cymbidium lancifolium</i>	EN
第4次 2017:	アキザキナギラン	<i>Cymbidium lancifolium</i>	EN
第4次 2015:	アキザキナギラン	<i>Cymbidium lancifolium</i>	EN
第4次:	アキザキナギラン	<i>Cymbidium lancifolium</i>	EN
第3次:	アキザキナギラン	<i>Cymbidium lancifolium</i>	EN
第2次:	アキザキナギラン	<i>Cymbidium javanicum</i> var. <i>aspidistrifolium</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Cymbidium lancifolium has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Cymbidium lancifolium is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Other animal feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホウサイラン

Cymbidium sinense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は卵状円錐形。葉は 2-4 枚つき、線状倒披針形で長さ 30-50 cm、革質で表面には光沢がある。花茎は偽球茎の側方から出て、長さ 60-70 cm、5-10 花をまばらにつける。花は淡黄色、暗紫紅色の条斑がある。萼片は線状倒披針形で長さ 2.5-3 cm、幅 5 mm。側花弁は卵状披針形で萼片より少し短い。唇弁は卵形で側花弁よりも短く、鈍頭、いちじるしく反曲し、下部は広円形、中央部に 2 本のひだ状隆起があり、舷部は長楕円形。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 2-4 月。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

屋久島・琉球（石垣島・西表島）、中国・台湾～ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	0	0	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	森林伐採	

園芸採取		
件数 5	4	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハウサイラン	<i>Cymbidium sinense</i>	CR
第4次 2019:	ハウサイラン	<i>Cymbidium sinense</i>	CR
第4次 2018:	ハウサイラン	<i>Cymbidium sinense</i>	CR
第4次 2017:	ハウサイラン	<i>Cymbidium sinense</i>	CR
第4次 2015:	ハウサイラン	<i>Cymbidium sinense</i>	CR
第4次:	ハウサイラン	<i>Cymbidium sinense</i>	CR
第3次:	ハウサイラン	<i>Cymbidium sinense</i>	CR
第2次:	ハウサイラン	<i>Cymbidium sinense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cymbidium sinense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Cymbidium sinense is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Logging and wood harvesting
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオナギラン

Cymbidium syunitianum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立し、高さ 55 cm になり、数葉を互生する。葉は長楕円状披針形、長さ 5-20 cm、薄い革質。総状花序は偽球茎の下部から出て、3-20 花をつける。花は黄緑色で、萼片と花弁は長さ 2-2.5 cm、唇弁は長さ 2 cm、長楕円形、白色で上面に紅紫色の斑点が入り、下方に折れ曲がる。アキザキナギランと比べて、花と植物体が大きく、花期が遅い。

【生活史】

夏緑性多年草。開花期は 12 月から 1 月。

【生育環境】

亜熱帯の常緑広葉樹林の石灰岩地の林床に生育。

【分布域】

鹿児島県（徳之島）・沖縄県（沖縄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

非常に採集圧が高く、現在も確認される個体は極めて少ない。自生地の一部は、石灰岩の採石で失われている。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cymbidium syunitianum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Cymbidium syunitianum is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

チョウセンキバナアツモリソウ

Cypripedium guttatum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

キバナノアツモリソウに似るが、2 枚の葉が 17-20 mm ほど離れてつき、花色が白地に赤紫で、側花弁上部がくびれなく、唇弁の柄が短い点で区別できる。

【生活史】

地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

山地の草地に生育する。

【分布域】

秋田県、周北極地域（北アメリカ北西部、アジア北東部～ヨーロッパ東部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チョウセンキバナアツモリソウ	<i>Cypripedium guttatum</i>	CR
第4次 2019:	チョウセンキバナアツモリソウ	<i>Cypripedium guttatum</i>	CR
第4次 2018:	チョウセンキバナアツモリソウ	<i>Cypripedium guttatum</i>	CR
第4次 2017:	チョウセンキバナアツモリソウ	<i>Cypripedium guttatum</i>	CR
第4次 2015:	チョウセンキバナアツモリソウ	<i>Cypripedium guttatum</i>	CR
第4次:	チョウセンキバナアツモリソウ	<i>Cypripedium guttatum</i>	CR
第3次:	チョウセンキバナアツモリソウ	<i>Cypripedium guttatum</i>	CR
第2次:	チョウセンキバナアツモリソウ	<i>Cypripedium guttatum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

秋田県[絶滅危惧種 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 井上健，1997．チョウセンキバナアツモリソウ，日本新産植物．植物研究雑誌，72: 62-65．
- 佐藤彰咲，2000．男鹿半島におけるラン科植物の保護について．平成 11 年度森林・林業技術交流発表集．25-29．
- 秋田県生活環境部自然保護課，2014．秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 秋田県版レッドデータブック 2014—維管束植物—．秋田県生活環境部自然保護課，204pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cypripedium guttatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Cypripedium guttatum is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホテイアツモリ

Cypripedium macranthos var. *macranthos*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 C

推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 20-40 cm、葉とともに有毛。葉は 3-5 枚で互生、長楕円形、基部は短い鞘となる。花は茎頂に 1 個つき、唇弁は袋状で丸く、径 3-5 cm、側花弁は唇弁を抱く。アツモリソウに似るが、花が紅紫色でアツモリソウより濃い。

【生活史】

地生の多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

亜高山帯草原に生える。

【分布域】

北海道・本州（中部・北陸）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	園芸採取	人の踏みつけ
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホテиаツモリ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>macranthos</i>	CR
第4次 2019:	ホテиаツモリ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>macranthos</i>	CR
第4次 2018:	ホテиаツモリ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>macranthos</i>	CR
第4次 2017:	ホテиаツモリ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>macranthos</i>	CR
第4次 2015:	ホテиаツモリ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>macranthos</i>	CR
第4次:	ホテиаツモリ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>macranthos</i>	CR
第3次:	ホテиаツモリ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>macranthos</i>	CR
第2次:	ホテиаツモリ	<i>Cypripedium macranthum</i> var. <i>hoteiatsumorianum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[情報不足] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.
- 福井県安全環境部自然環境課，2016. 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016. 福井県安全環境部自然環境課，536pp.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018. 2018 山梨県レッドデータブック. 山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Cypripedium macranthos var. *macranthos* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cypripedium macranthos* var. *macranthos* is listed as CR under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Human trampling
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

ドウトウアツモリソウ

Cypripedium shanxiense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アツモリソウに似るが、花全体が栗褐色、側花弁が線状披針形、側萼片が基部のみ合着する。また、カラフトアツモリソウでは萼片と側花弁は濃赤紫～黒紫色ときに栗色まれに緑色、唇弁は通常黄色ときに茶褐色の小斑点が入り、花は 2 色性となるのに対し、本種の花は唇弁は時に他の弁よりも淡色になることはあるが、全体が淡い茶褐～黄褐色で多少とも単色である。

【生活史】

地生の多年草。花期は 6 月。

【生育環境】

やや暗い落葉広葉樹林の斜面林床に生育し、時に石灰岩地にもみられる。

【分布域】

北海道（東部）、サハリン・ロシア沿海州・中国東北部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ドウトウアツモリソウ	<i>Cypripedium shanxiense</i>	CR
第4次 2019:	ドウトウアツモリソウ	<i>Cypripedium shanxiense</i>	CR
第4次 2018:	ドウトウアツモリソウ	<i>Cypripedium shanxiense</i>	CR
第4次 2017:	ドウトウアツモリソウ	<i>Cypripedium shanxiense</i>	CR
第4次 2015:	ドウトウアツモリソウ	<i>Cypripedium shanxiense</i>	CR
第4次:	ドウトウアツモリソウ	<i>Cypripedium shanxiense</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 高橋英樹，2009. 北海道東部の”カラフトアツモリソウ *Cypripedium calceolus*” とされていた植物はドウトウアツモリソウ *C. shanxiense* である. 北方山草, 26: 9-12.
- 高橋英樹，2009. 日本産アツモリソウ属 *Cypripedium*（ラン科）の地理分布パターン. 分類, 9: 143-157.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cypripedium shanxiense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Cypripedium shanxiense is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホザキヒメラン

Dienia ophrydis

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

偽球茎は円柱形、長さ 10 cm、4-5 葉を互生。葉は楕円形、長さ 12-20 cm。総状花序は頂生し、長さ 20 cm、密に多数の花をつける。花は淡黄緑色で、赤紫色を帯び、径 5 mm。萼片と側花弁は長さ 3 mm、萼片は長楕円形、側花弁は線形。唇弁は長さ 2 mm、卵形で先は浅く 3 裂する。

【生活史】

夏緑性で地生の多年草。

【生育環境】

山地の溪流沿いの岩上や林縁の湿った立地に生える。

【分布域】

沖縄島・石垣島・西表島・与那国島、台湾・フィリピン・インド・タイ・インドシナ・マレーシア・オーストラリア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホザキヒメラン	<i>Dienia ophrydis</i>	CR
第4次 2019:	ホザキヒメラン	<i>Dienia ophrydis</i>	CR
第4次 2018:	ホザキヒメラン	<i>Dienia ophrydis</i>	CR
第4次 2017:	ホザキヒメラン	<i>Dienia ophrydis</i>	CR
第4次 2015:	ホザキヒメラン	<i>Dienia ophrydis</i>	CR
第4次:	ホザキヒメラン	<i>Dienia ophrydis</i>	CR
第3次:	ホザキヒメラン	<i>Malaxis latifolia</i>	CR
第2次:	ホザキヒメラン	<i>Malaxis latifolia</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dienia ophrydis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dienia ophrydis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サガリラン

Diploprora championii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は分枝せず、気根がまばらに側生、長さ 5–20 cm、垂れ下がるが先は上を向く。葉は常緑で 2 列生、数枚～十数枚。葉身は革質で狭長楕円形、長さ 5–7 cm、幅 15 mm 内外。花茎は腋生して垂れ、長さ 3–8 cm、上下径約 15 mm の花が数個。萼片は淡黄色、先の縁が紫色を帯び、背面が竜骨状に隆起、長さ約 7 mm。側花弁は淡黄色で少し小さい。唇弁は淡紅紫色、基部中央に白い肉質隆起があり、先は細く、先端はさらに 2 裂。花粉塊は大小 2 個が 1 対、計 4 個。

【生活史】

常緑で着生の多年草。花期は 6–7 月。

【生育環境】

溪谷の常緑林内の岩壁や樹上に着生する。

【分布域】

奄美大島、台湾・中国（南部）・東南アジア～インド。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

園芸採取		
件数		
1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サガリラン	<i>Diploprora championii</i>	CR
第4次 2019:	サガリラン	<i>Diploprora championii</i>	CR
第4次 2018:	サガリラン	<i>Diploprora championii</i>	CR
第4次 2017:	サガリラン	<i>Diploprora championii</i>	CR
第4次 2015:	サガリラン	<i>Diploprora championii</i>	CR
第4次:	サガリラン	<i>Diploprora championii</i>	CR
第3次:	サガリラン	<i>Diploprora championii</i>	CR
第2次:	サガリラン	<i>Diploprora championii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diploprora championii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Diploprora championii</i> is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ジョウロウラン

Disperis neilgherrensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

塊根は長楕円形。茎は花序を含めて長さ 6-17 cm、1-2 葉をつける。葉は卵形、長さ 1 cm。総状花序は頂生し、1-3 花をつける。花は藤色。背萼片は披針形で長さ 6 mm、側萼片は癒合し Y 字状、短い距がある。側花弁は長楕円状披針形、背萼片と側花弁は癒合して胄状になる。唇弁は長さ 3 mm、黄色で 3 裂し、先端に付属物がある。

【生活史】

夏緑性で地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の暗い林床に生える。

【分布域】

石垣島・西表島、台湾（蘭嶼）・フィリピン・タイ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュの現存個体数が計数十個体と報告された。基準 D より CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ジョウロウラン	<i>Disperis neilgherrensis</i>	CR
第4次 2019:	ジョウロウラン	<i>Disperis neilgherrensis</i>	CR
第4次 2018:	ジョウロウラン	<i>Disperis neilgherrensis</i>	CR
第4次 2017:	ジョウロウラン	<i>Disperis neilgherrensis</i>	CR
第4次 2015:	ジョウロウラン	<i>Disperis neilgherrensis</i>	CR
第4次:	ジョウロウラン	<i>Disperis neilgherrensis</i>	CR
第3次:	ジョウロウラン	<i>Disperis philippinensis</i>	CR
第2次:	ジョウロウラン	<i>Disperis philippiensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Disperis neilgherrensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Disperis neilgherrensis is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオオサラン

Eria scabrilinguis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は楕円体、少し扁平で基部に鱗片葉がある。葉は 2-3 個が茎の先端部につき、倒卵状披針形で長さ 20-30 cm、幅 4-5 cm、鋭尖頭、無毛で関節がある。花茎は側生し、多少湾曲し約 20 cm、3 個の鞘状葉に包まれ多数の花をつける。背萼片は卵状披針形で長 10 mm、幅 3-4 mm、やや鈍頭。側萼片は背萼片よりやや短く、基部は耳状に広がって合着する。側花弁は萼片よりわずかに短く線状楕円形。唇弁は舌状で反曲し、3 裂、側裂片は鈍頭、中裂片は三角形で基部に 5 個の隆起線がある。

【生活史】

常緑で着生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林内の自然林の樹幹や岩上に着生する。

【分布域】

屋久島・種子島・奄美大島・徳之島・沖縄島・石垣島、台湾・中国（南部）・インドシナ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオオサラン	<i>Eria corneri</i>	EN
第4次 2019:	オオオサラン	<i>Eria corneri</i>	EN
第4次 2018:	オオオサラン	<i>Eria corneri</i>	EN
第4次 2017:	オオオサラン	<i>Eria corneri</i>	EN
第4次 2015:	オオオサラン	<i>Eria corneri</i>	EN
第4次:	オオオサラン	<i>Eria corneri</i>	EN
第3次:	オオオサラン	<i>Eria corneri</i>	EN
第2次:	オオオサラン	<i>Eria corneri</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Eria scabrilinguis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eria scabrilinguis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソフデラン

Erythrodites blumei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐し、先端は直立し、長さ 30-60 cm、3-4 枚の葉を互生し、先端に総状花序をつける。葉は斜楕円形、長さ 5-10 cm、3 脈が目立つ。総状花序は長さ 20-40 cm、多花を密につける。花は赤褐色、萼片と花弁は長さ 5-6 mm。唇弁は長さ 7 mm、3 浅裂し、白色、基部は長さ 3 mm の距となり、距は先端が 2 浅裂し、内部には突起がない。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

石垣島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。1990 年代半ばに 1 メッシュ、1 個体が確認されたが、その後、自生地は開発によって消滅した。他にも生育している可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソフデラン	<i>Erythroides blumei</i>	CR
第4次 2019:	ホソフデラン	<i>Erythroides blumei</i>	CR
第4次 2018:	ホソフデラン	<i>Erythroides blumei</i>	CR
第4次 2017:	ホソフデラン	<i>Erythroides blumei</i>	CR
第4次 2015:	ホソフデラン	<i>Erythroides blumei</i>	CR
第4次:	ホソフデラン	<i>Erythroides blumei</i>	CR
第3次:	ホソフデラン	<i>Erythroides formosana</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Erythroides blumei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Erythroides blumei* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカツルラン

Erythrorchis altissima

カテゴリー判定結果

絶滅危惧 I A 類 (CR)

基準 D+C

推定開花株数が 50 個体未満/推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地上茎は赤褐色で著しく長く伸び、樹幹によじ登って、その高さは時に 5 m にも及ぶ。花序は円錐状で黄色花を多数つける。花被片は線状長楕円形、長さ 1-1.5 cm。唇弁は舟形、上縁に細波状歯があり、内面中央に肥厚したうねがあり、毛が固まって生えている。果実は棍棒状で長さ 10-15 cm、赤熟する。

【生活史】

菌従属栄養性でつる性の多年草。花期は 4-5 月。

【生育環境】

山地の自然林の林床や林縁に生え、樹幹に這い上がる。

【分布域】

屋久島・種子島・トカラ列島・奄美大島・徳之島・伊平屋島・沖縄島・石垣島・西表島・与那国島、台湾・東南アジア・ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	1	0	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	火山噴火	その他

森林伐採		
件数		
1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカツラン	<i>Erythrorchis altissima</i>	CR
第4次 2019:	タカツラン	<i>Erythrorchis altissima</i>	CR
第4次 2018:	タカツラン	<i>Erythrorchis altissima</i>	CR
第4次 2017:	タカツラン	<i>Erythrorchis altissima</i>	CR
第4次 2015:	タカツラン	<i>Erythrorchis altissima</i>	CR
第4次:	タカツラン	<i>Erythrorchis altissima</i>	CR
第3次:	タカツラン	<i>Erythrorchis altissima</i>	CR
第2次:	タカツラン	<i>Galeola altissima</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Erythrorchis altissima has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Erythrorchis altissima is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Volcanic eruption, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカサゴヤガラ

Eulophia dentata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は卵形～球形、長さ 1.5–3 cm。葉は線形、長さ 30–50 cm。総状花序は数～15 花をつける。花は半開し、紫色を帯びた淡黄緑色、径 1.5 cm。萼片と花弁は長さ 11 mm。唇弁は長さ 1 cm、白色、3 浅裂し、上面に 3 列の長い板状突起と多数の糸状突起があり、距は長さ 4～5 mm。

【生活史】

冬緑性で地生の多年草。

【生育環境】

日当りのよい湿った草地や明るい林床に生える。

【分布域】

沖縄島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで絶滅、1 メッシュで数個体が確認されただけであった。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカサゴヤガラ	<i>Eulophia taiwanensis</i>	CR
第4次 2019:	タカサゴヤガラ	<i>Eulophia taiwanensis</i>	CR
第4次 2018:	タカサゴヤガラ	<i>Eulophia taiwanensis</i>	CR
第4次 2017:	タカサゴヤガラ	<i>Eulophia taiwanensis</i>	CR
第4次 2015:	タカサゴヤガラ	<i>Eulophia taiwanensis</i>	CR
第4次:	タカサゴヤガラ	<i>Eulophia taiwanensis</i>	CR
第3次:	タカサゴヤガラ	<i>Eulophia taiwanensis</i>	CR
第2次:	タカサゴヤガラ	<i>Eulophia taiwanensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eulophia dentata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eulophia dentata* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クロシマヤツシロラン

*Gastrodia kuroshimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

トカラヤツシロランに似るが、1) トカラヤツシロランは開放花のみをつけるのに対し、クロシマヤツシロランはスリット状の隙間ができることはあるものの、機能的には常に閉鎖花のみをつけること、2) トカラヤツシロランの花筒の長さは 15-21 mm 程度であるのに対し、クロシマヤツシロランのそれは 11-13 mm 程度であること、3) トカラヤツシロランの唇弁基部には発達した金平糖状のこぶ状突起が見られるのに対し、クロシマヤツシロランの唇弁基部の突起は平滑でほとんど目立たないこと、4) トカラヤツシロランのずい柱には自家受粉を防ぐ発達した小嘴体があるのに対して、クロシマヤツシロランでは小嘴体が見られず自動自家受粉することで区別できる。

【生活史】

菌従属栄養の多年草。

【生育環境】

暗い林床下に生育。

【分布域】

鹿児島県黒島・竹島・屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

< 10	< 50	< 100	< 1000	< 10000	> 10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., 2016. *Gastrodia kuroshimensis* (Orchidaceae: Epidendroideae: Gastrodieae), a new mycoheterotrophic and complete cleistogamous plant from Japan. *Phytotaxa*, 278: 265–272.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia kuroshimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gastrodia kuroshimensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

ツツザキヤツシロラン

Gastrodia okinawensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ツツザキヤツシロランは、植物体の高さが 10-17 cm で、長さ 20 mm ほどの淡褐色の花を 1-4 個ほどつける。同所的に生育するヤンバルヤツシロランと近縁であるが、本種は、植物体の高さが 3-6 cm で、長さ 15 mm ほどの黒褐色の花をつけるため容易に区別できる。

【生活史】

菌従属栄養性の多年生草本。

【生育環境】

暗い林床下に生育。

【分布域】

沖縄本島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., 2017. Two new species of *Gastrodia* (Gastrodieae, Epidendroideae, Orchidaceae) from Okinawa Island, Ryukyu Islands, Japan. *Phytotaxa*, 302: 251–258.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia okinawensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gastrodia okinawensis* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

ナンゴクヤツシロラン

Gastrodia shimizuana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立し、花序を含めて長さ 3.5-5 cm。総状花序は頂生し、1-4 花をつける。花は淡褐色、萼片と花弁は半分以上にわたって癒合し鐘形となり、広く開き、長さ 1.2 cm。唇弁は淡褐色で先は朱色を帯び、長さ 8 mm、広三角状卵形で、基部に 1 対の有毛で球状の隆起がある。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 2-3 月。

【生育環境】

山地の川沿いの自然林の林床や石灰岩地に生育する。

【分布域】

奄美大島・沖縄島・西表島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンゴクヤツシロラン	<i>Gastrodia shimizuana</i>	CR
第4次 2019:	ナンゴクヤツシロラン	<i>Gastrodia shimizuana</i>	CR
第4次 2018:	ナンゴクヤツシロラン	<i>Gastrodia shimizuana</i>	CR
第4次 2017:	ナンゴクヤツシロラン	<i>Gastrodia shimizuana</i>	CR
第4次 2015:	ナンゴクヤツシロラン	<i>Gastrodia shimizuana</i>	CR
第4次:	ナンゴクヤツシロラン	<i>Gastrodia shimizuana</i>	CR
第3次:	ナンゴクヤツシロラン	<i>Gastrodia shimizuana</i>	CR
第2次:	ナンゴクヤツシロラン	<i>Gastrodia shimizuana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., M. Nakama, T. Watanabe, H. Watanabe and M. Yokota, 2012. The northernmost locality of *Gastrodia shimizuana* (Orchidaceae). The Journal of Japanese Botany, 87: 67-69.
- 末次健司・田代洋平・原千代子・森田秀一・山室一樹, 2020. ナンゴクヤツシロラン（ラン科）を奄美大島に記録する. 植物地理・分類研究, 68: 43-45.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia shimizuana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Gastrodia shimizuana is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤブミョウガラン

Goodyera fumata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐し、先は直立し、花序を含めて長さ 70 cm になり、4-6 葉を互生。葉は広披針形、長さ 20 cm。総状花序は頂生し、多数の花をつけ、数個ずつ順次咲かせる。花は赤褐色。萼片は長さ 7-8 mm、長楕円形～卵状長楕円形。側花弁は長さ 7-8 mm、線状倒披針形。唇弁は長さ 7-8 mm、卵形で、先は尖り下方に反り返り、基部はやや嚢状になり、上面に短毛が生える。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 3-5 月。

【生育環境】

山地の石灰岩地の林床に生える。

【分布域】

沖縄島、台湾・中国（南部）・フィリピン・スリランカ・インド・タイ・ジャワ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤブミョウガラン	<i>Goodyera fumata</i>	CR
第4次 2019:	ヤブミョウガラン	<i>Goodyera fumata</i>	CR
第4次 2018:	ヤブミョウガラン	<i>Goodyera fumata</i>	CR
第4次 2017:	ヤブミョウガラン	<i>Goodyera fumata</i>	CR
第4次 2015:	ヤブミョウガラン	<i>Goodyera fumata</i>	CR
第4次:	ヤブミョウガラン	<i>Goodyera fumata</i>	CR
第3次:	ヤブミョウガラン	<i>Goodyera fumata</i>	CR
第2次:	ヤブミョウガラン	<i>Goodyera fumata</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Goodyera fumata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Goodyera fumata* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメクリソラン

Hancockia uniflora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は肥厚し円錐形、頂部に葉を 1 個つける。葉卵状長楕円形で長さ 4-6 cm、幅 1.5-2.5 cm、鋭頭、表面は緑紫色、裏面は暗紫色。花茎は弧状に湾曲して上向き、茎頂に淡紅色の 1 花をつける。背萼片は総状長楕円形で長さ 23 mm。側萼片はへら状倒披針形で背萼片と同長。側花弁は萼片より少し広い。唇弁は楕円形で長さ 19 mm、幅 11 mm、鋭頭、基部は急に狭くなり、蕊柱の下部を抱いてその下部は長さ 2 cm の距となる。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 7 月。

【生育環境】

林床に生える。

【分布域】

屋久島、台湾・中国（雲南省）・ベトナム。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメクリソラン	<i>Hancockia uniflora</i>	CR
第4次 2019:	ヒメクリソラン	<i>Hancockia uniflora</i>	CR
第4次 2018:	ヒメクリソラン	<i>Hancockia uniflora</i>	CR
第4次 2017:	ヒメクリソラン	<i>Hancockia uniflora</i>	CR
第4次 2015:	ヒメクリソラン	<i>Hancockia uniflora</i>	CR
第4次:	ヒメクリソラン	<i>Hancockia uniflora</i>	CR
第3次:	ヒメクリソラン	<i>Chrysoglossella japonica</i>	CR
第2次:	ヒメクリソラン	<i>Hancockia japonica</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hancockia uniflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Hancockia uniflora is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アワチドリ

Hemipilia graminifolia var. *suzukiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準変種のウチョウランに似るが、側萼片がそり反り返らず斜めに立ち、距が細い傾向がある。

【生活史】

着生または地生の多年草。花期は 6 月。

【生育環境】

丘陵の日陰から半日陰の岩場の岩隙などに生える。

【分布域】

本州（千葉県房総半島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。1 メッシュで現存が確認され、現存個体数は数個体と推定される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アワチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>suzukiana</i>	CR
第4次 2019:	アワチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>suzukiana</i>	CR
第4次 2018:	アワチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>suzukiana</i>	CR
第4次 2017:	アワチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>suzukiana</i>	CR
第4次 2015:	アワチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>suzukiana</i>	CR
第4次:	アワチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>suzukiana</i>	CR
第3次:	アワチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>suzukiana</i>	CR
第2次:	アワチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>suzukiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[最重要保護生物(A)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会，2023．千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック（植物・菌類編）2023 年改訂版．千葉県環境生活部自然保護課，579pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hemipilia graminifolia var. *suzukiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hemipilia graminifolia* var. *suzukiana* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クシロチドリ

Herminium monorchis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根は短く、一部が球状に肥厚する。茎は高さ 10-35 cm、基部にふつう 2 個の葉をつける。葉は狭長楕円形または広披針形で長さ 3-10 cm、幅 1-2 cm、鋭頭。淡緑色の小花を穂状につける。苞は緑色、披針形で先端は尾状。背萼片は卵形で長さ 2 mm。側萼片は背萼片よりわずかに長く幅は狭い。側花弁は長楕円形で長さ 3-4 mm。唇弁は長さ 4-5 mm、基部で 3 裂し、中裂片は線形で鈍頭、側裂片は中裂片より短く鈍頭、距はない。

【生活史】

地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

樹林下の湿った立地や草地に生育する。石灰岩地にもみられる。

【分布域】

本州（下北半島）・北海道（釧路・十勝）、朝鮮半島・中国・ヒマラヤ・シベリア・ヨーロッパ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュの限られた場所に数十個体が確認されただけであった。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クシロチドリ	<i>Herminium monorchis</i>	CR
第4次 2019:	クシロチドリ	<i>Herminium monorchis</i>	CR
第4次 2018:	クシロチドリ	<i>Herminium monorchis</i>	CR
第4次 2017:	クシロチドリ	<i>Herminium monorchis</i>	CR
第4次 2015:	クシロチドリ	<i>Herminium monorchis</i>	CR
第4次:	クシロチドリ	<i>Herminium monorchis</i>	CR
第3次:	クシロチドリ	<i>Herminium monorchis</i>	CR
第2次:	クシロチドリ	<i>Herminium monorchis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.
- 青森県レッドデータブック改訂検討会，2020．青森県の希少な野生生物—青森県レッドデータブック（2020 年版）—．青森県，397pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Herminium monorchis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Herminium monorchis is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミスズラン

Herminium pusillum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

塊根は卵形。茎は高さ8-15 cm。葉は1個、倒披針状楕円形、長さ2-3 cm、幅0.7-1 cm、鈍頭、基部は細くなり葉柄状になる。花茎に鱗片葉はない。花は淡緑色で、数花を穂状につける。背萼片は楕円形で長さ1 mm、側萼片は長楕円形で背萼片より少し長く、不ぞろいの小歯牙がある。側花弁は斜卵円形で背萼片より短く、縁に不ぞろいの歯牙がある。唇弁は舌状披針形で長さ1.5 mm、距がない。蕊柱は短い。

【生活史】

地生の多年草。花期は6-7月。

【生育環境】

亜高山帯の針葉樹林下に蘚苔類に混じって生育する。

【分布域】

本州（東北～中部地方）、朝鮮半島・台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では4メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は74%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	1	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 自然遷移	産地局限	

件数		
2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミスズラン	<i>Androcorys pusillus</i>	CR
第4次 2019:	ミスズラン	<i>Androcorys pusillus</i>	CR
第4次 2018:	ミスズラン	<i>Androcorys pusillus</i>	CR
第4次 2017:	ミスズラン	<i>Androcorys pusillus</i>	CR
第4次 2015:	ミスズラン	<i>Androcorys pusillus</i>	CR
第4次:	ミスズラン	<i>Androcorys pusillus</i>	CR
第3次:	ミスズラン	<i>Androcorys japonensis</i>	CR
第2次:	ミスズラン	<i>Androcorys japonensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024 年 9 月 6 日閲覧）.
- 埼玉県環境部自然環境課，2012. 埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編. 埼玉県. 433pp.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002. 長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物. 維管束植物編. 長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Herminium pusillum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Herminium pusillum is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオカゲロウラン

Hetaeria oblongifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや匍匐し、先は直立して長さ 20-25 cm になり、6-7 葉を互生する。葉は卵状披針形で長さ 5-9 cm、上面には光沢がある。頂生する総状花序は長さ 25 cm に達し、密に 30-40 花をつける。花は白色で外面は淡緑褐色を帯び、平開しない。萼片と側花弁は長さ 4 mm。唇弁は長さ 3 mm、卵形、子房はねじれず、花序の先端側に位置する。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

自然林の林床に生える。

【分布域】

石垣島・与那国島、タイ・フィリピン・マレーシア・ニューギニア・オーストラリア・ニューカレドニア・フィジー諸島・サモア諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオカゲロウラン	<i>Hetaeria oblongifolia</i>	CR
第4次 2019:	オオカゲロウラン	<i>Hetaeria oblongifolia</i>	CR
第4次 2018:	オオカゲロウラン	<i>Hetaeria oblongifolia</i>	CR
第4次 2017:	オオカゲロウラン	<i>Hetaeria oblongifolia</i>	CR
第4次 2015:	オオカゲロウラン	<i>Hetaeria oblongifolia</i>	CR
第4次:	オオカゲロウラン	<i>Hetaeria oblongifolia</i>	CR
第3次:	オオカゲロウラン	<i>Hetaeria oblongifolia</i>	CR
第2次:	オオカゲロウラン	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hetaeria oblongifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Hetaeria oblongifolia is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミムヨウラン

*Lecanorchis moritae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

全草の背丈は 15 cm ほどで、側花弁とがく片はオリーブ色で唇弁の側縁が赤いことから、同所的に生育し同じく小型のムヨウラン類であるシラヒゲムヨウランやウスキムヨウランと区別できる。

【生活史】

菌従属栄養性の多年生草本。

【生育環境】

暗い林床下に生育。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., S. Kaida, T. C. Hsu and S. Sawa, 2019. *Lecanorchis moritae* (Orchidaceae, Vanilloideae), a new mycoheterotrophic species from Amami-Oshima Island, Japan, based on morphological and molecular data. *Phytotaxa*, 404: 137–145.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lecanorchis moritae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lecanorchis moritae* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクムヨウラン

Lecanorchis nigricans var. *yakusimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花被片は 3 脈。唇弁は深い僧帽状で、唇弁先端部に多細胞毛がややまばらにある。蕊柱の側面は細柔毛がある。葯は褐色がかった淡黄褐色。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。

【生育環境】

常緑広葉樹の自然林の林床に生育する。

【分布域】

屋久島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化はない。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第4次 2019:	ヤクムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第4次 2018:	ヤクムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第4次 2017:	ヤクムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第4次 2015:	ヤクムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第4次:	ヤクムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第3次:	ヤクムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第2次:	ヤクムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lecanorchis nigricans var. *yakusimensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lecanorchis nigricans* var. *yakusimensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アワムヨウラン

Lecanorchis purpurea

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地上茎はよく分枝し直立、高さは 30-50 cm になり、黒色、短い突起がまばらに生える。萼片と側花弁は淡い黄褐色、長さ約 15 mm、倒披針形で斜上する。唇弁は萼片と同長、下半部は蕊柱と合着し、離生部は倒卵形で内面に毛を密生する。蕊柱は萼片より短い。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

常緑広葉樹の自然林の林床に生育する。

【分布域】

本州（和歌山県）・四国（徳島県）・九州（種子島・屋久島・奄美大島）・琉球（沖縄島）、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 74%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	1	0	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	不明

件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アワムヨウラン	<i>Lecanorchis trachycaula</i>	CR
第4次 2019:	アワムヨウラン	<i>Lecanorchis trachycaula</i>	CR
第4次 2018:	アワムヨウラン	<i>Lecanorchis trachycaula</i>	CR
第4次 2017:	アワムヨウラン	<i>Lecanorchis trachycaula</i>	CR
第4次 2015:	アワムヨウラン	<i>Lecanorchis trachycaula</i>	CR
第4次:	アワムヨウラン	<i>Lecanorchis trachycaula</i>	CR
第3次:	アワムヨウラン	<i>Lecanorchis trachycaula</i>	CR
第2次:	アワムヨウラン	<i>Lecanorchis trachycaula</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lecanorchis purpurea has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lecanorchis purpurea is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	Natural succession, Human trampling, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

タブガワムヨウラン

Lecanorchis tabugawaensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

本種は、ムロトムヨウランに似るが、1) ずい柱がほとんど湾曲しないこと、2) 唇弁の幅が狭いこと、3) 唇弁の先端部がほぼ全縁であること、4) 唇弁の離生部内部がほぼ無毛であること、5) ずい柱の腹部が無毛であること、6) ずい柱の全長のうち唇弁と癒合する部分の長さが2分の1以下であることで区別が可能である。

【生活史】

菌従属栄養の多年草。

【生育環境】

暗い林床下に生育。

【分布域】

福江島・屋久島・奄美大島・沖縄本島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K. and H. Fukunaga, 2016. *Lecanorchis tabugawaensis* (Orchidaceae, Vanilloideae), a new mycoheterotrophic plant from Yakushima Island, Japan. *PhytoKeys*, 73: 125–135.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lecanorchis tabugawaensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lecanorchis tabugawaensis* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミドリムヨウラン

Lecanorchis virella

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

ムヨウランに似るが、花が平開せず、萼片・側花弁上部が外側に強く湾曲し、唇弁の中裂片は広げるとほぼ横長の方形で、前方はほぼ切形で全縁に近く、両側には目立った不整欠刻があり、萼片・花弁ともに緑褐色を呈する。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 5 月。

【生育環境】

常緑広葉樹の自然林の林床に生育する。

【分布域】

九州（宮崎県・大分県）・屋久島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミドリムヨウラン	<i>Lecanorchis virella</i>	CR
第4次 2019:	ミドリムヨウラン	<i>Lecanorchis virella</i>	CR
第4次 2018:	ミドリムヨウラン	<i>Lecanorchis virella</i>	CR
第4次 2017:	ミドリムヨウラン	<i>Lecanorchis virella</i>	CR
第4次 2015:	ミドリムヨウラン	<i>Lecanorchis virella</i>	CR
第4次:	ミドリムヨウラン	<i>Lecanorchis virella</i>	CR
第3次:	ミドリムヨウラン	<i>Lecanorchis virella</i>	CR
第2次:	ミドリムヨウラン	<i>Lecanorchis virellus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧 I B 類(EN-r)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 末次健司・菊田彰夫，2018. ミドリムヨウラン（ラン科）を大分県に記録する. 植物地理・分類研究，66: 173-174.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lecanorchis virella has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Lecanorchis virella is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コゴメキノエラン

Liparis elliptica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は扁平で長楕円形～卵状長楕円形。偽球茎から葉は 2 枚出て、倒披針形、長さ 14 cm、葉柄はほとんどない。花茎は長さ 20–25 cm、偏平、花序の部分は長さ 10–15 cm、花は 3–7 mm の間隔で密につく。キノエササランに似るが、茎は扁平で花茎が下垂し、全体により小さい。

【生活史】

常緑で着生の多年草。

【生育環境】

樹上に生育する。

【分布域】

屋久島・奄美大島、台湾～熱帯アジア・オセアニア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コゴメキノエラン	<i>Liparis viridiflora</i>	CR
第4次 2019:	コゴメキノエラン	<i>Liparis viridiflora</i>	CR
第4次 2018:	コゴメキノエラン	<i>Liparis viridiflora</i>	CR
第4次 2017:	コゴメキノエラン	<i>Liparis viridiflora</i>	CR
第4次 2015:	コゴメキノエラン	<i>Liparis viridiflora</i>	CR
第4次:	コゴメキノエラン	<i>Liparis viridiflora</i>	CR
第3次:	コゴメキノエラン	<i>Liparis viridiflora</i>	CR
第2次:	コゴメキノエラン	<i>Liparis elliptica</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Liparis elliptica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Liparis elliptica* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.	
Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマクモキリソウ

*Liparis hostifolia***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

2 枚の葉の付け根に球状の偽球茎がある。葉は長さ約 12 cm、幅約 7 cm。花茎は約 20 cm、総状に約 10 個の花を咲かせる。スズムシソウに似るが、葉は卵形で大きく、花は淡紫色で、唇弁は広卵形で強く反り、濃い紫色の脈を持ち、開花期も異なる。

【生活史】

地生または着生の多年草。花期は 11-3 月。

【生育環境】

山地のやや湿った岩上や樹上に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（父島・南硫黄島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマクモキリソウ	<i>Liparis hostifolia</i>	CR
第4次 2019:	シマクモキリソウ	<i>Liparis hostifolia</i>	CR
第4次 2018:	シマクモキリソウ	<i>Liparis hostifolia</i>	CR
第4次 2017:	シマクモキリソウ	<i>Liparis hostifolia</i>	CR
第4次 2015:	シマクモキリソウ	<i>Liparis hostifolia</i>	CR
第4次:	シマクモキリソウ	<i>Liparis hostifolia</i>	CR
第3次:	シマクモキリソウ	<i>Liparis hostifolia</i>	CR
第2次:	シマクモキリソウ	<i>Liparis hostaefolia</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Liparis hostifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Liparis hostifolia* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメスズムシソウ

Liparis krameri var. *nikkoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-10 cm。偽球茎は卵形～卵円形で長さ 4-7 mm。葉は 2 枚、1.5-6 cm、披針形～卵形で全縁。花茎は 3.5-8 cm、茎頂に 2-6 個の花をつける。花は淡黄緑色。萼片は線形で長さ 6 mm、淡黄緑色。側花弁は糸状で長さ 5.5 mm 程、帯黄色、後方に展開しやや下垂する。唇弁は倒卵形で長さ 5.5 mm 程、基部から先端にかけて薄紫色の脈があり、基部はくぼみ、中部付近でやや反り返り、先端部は急に狭まる。

【生活史】

地生の多年草。花期は 7 月。

【生育環境】

亜高山帯の草原に生育する。

【分布域】

本州（岩手県・栃木県・山梨県・長野県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメスズムシソウ	<i>Liparis nikkoensis</i>	CR
第4次 2019:	ヒメスズムシソウ	<i>Liparis nikkoensis</i>	CR
第4次 2018:	ヒメスズムシソウ	<i>Liparis nikkoensis</i>	CR
第4次 2017:	ヒメスズムシソウ	<i>Liparis nikkoensis</i>	CR
第4次 2015:	ヒメスズムシソウ	<i>Liparis nikkoensis</i>	CR
第4次:	ヒメスズムシソウ	<i>Liparis nikkoensis</i>	CR
第3次:	ヒメスズムシソウ	<i>Liparis nikkoensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 長野県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Nakai, T., 1931. Notulae ad Plantas Japoniae & Korae XL. Botanical Magazine, Tokyo, 45: 91–137.
- 鈴木まほろ・八重樫理彦，2018. 東北地方におけるヒメスズムシソウの初記録. 植物地理・分類研究, 66: 175–176.
- 高島路久・堤千絵・遊川知久，2017. 栃木県で近年再発見されたヒメスズムシソウ（ラン科）の分類学的再検討. 日本植物分類学会第16回大会研究発表要旨集. 65.
- 山梨県みどり自然課，2019. 山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例に基づく指定希少野生動植物種及び特定希少野生動植物種の指定について. 第56回山梨県環境保全審議会審議事項(2) 資料. <https://www.pref.yamanashi.jp/documents/5766/singijikou2.pdf> (2024年9月12日閲覧).

- 栃木県環境森林部自然環境課・栃木県立博物館，2018. レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物. 栃木県環境森林部自然環境課，991pp.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002. 長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物. 維管束植物編. 長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Liparis krameri var. *nikkoensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Liparis krameri* var. *nikkoensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キバナコ克蘭

Liparis sootenzanensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は円筒形で長さ 15-25 cm。葉は数枚つき、斜楕円形で長さ 15-25 cm、幅 6-12 cm、鋭頭、基部は葉柄に流れる。花序は長さ 20-30 cm、花は 5-15 個つき、緑黄色。背萼片は線形～狭楕円形で長さ 13-16 mm、幅 3-4 mm、先端は鋭く、縁は反り返る。側萼片はやや斜めにつく。側花弁は糸状で長さ 12-15 mm。唇形は卵形で長さ約 14 mm、幅約 11 mm、基部は縮み中央付近から反り返り、先端縁は明瞭な鋸歯状となる。ユウコ克蘭に似るが、花全体が緑黄色。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

やや湿潤な林床に生育する。

【分布域】

屋久島、中国（南部）・台湾・インドシナ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キバナコ克蘭	<i>Liparis nigra</i> var. <i>sootenzanensis</i>	CR
第4次 2019:	キバナコ克蘭	<i>Liparis nigra</i> var. <i>sootenzanensis</i>	CR
第4次 2018:	キバナコ克蘭	<i>Liparis nigra</i> var. <i>sootenzanensis</i>	CR
第4次 2017:	キバナコ克蘭	<i>Liparis nigra</i> var. <i>sootenzanensis</i>	CR
第4次 2015:	キバナコ克蘭	<i>Liparis nigra</i> var. <i>sootenzanensis</i>	CR
第4次:	キバナコ克蘭	<i>Liparis nigra</i> var. <i>sootenzanensis</i>	CR
第3次:	キバナコ克蘭	<i>Liparis nigra</i> var. <i>sootenzanensis</i>	CR
第2次:	キバナコ克蘭	<i>Liparis nigra</i> var. <i>sootenzanensis</i>	EW
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Su, H. J., 2000. *Liparis*. in Editorial committee of the Flora of Taiwan (eds.) Flora of Taiwan 2nd edition, volume 5, 936-952., Department of Botany, National Taiwan University, Taipei, Taiwan.
- Chen, S. C., P. Ormerod and J. J. Wood, 2009. *Liparis*. in Wu, Z.Y., Raven, P.H., Hong, D.Y.(eds.) Flora of China. Vol.25 (Orchidaceae). 211-228. Science Press, Beijing, and Missouri Botanical Garden Press, St. Louis.

- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Liparis sootenzanensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Liparis sootenzanensis is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クモイジガバチ

*Liparis truncata***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 3-10 cm。偽球茎は卵形で、2 個の葉を出す。葉は卵形、葉面に縦じわ、光沢がある。花は淡緑色、3-5 個つく。側萼片は広線形で横に伸び、側花弁は下垂する。唇弁は倒三角形で強く巻き込み、脈は赤紫色となり、先端は中央に鈍い短突起になるほかはほぼ切形、唇弁の基部にある隆起は正面から見るとほぼ三角形。ジガバチソウに似るが、樹上に着生し、唇弁基部が切形で先端は短く尖り、唇弁基部の隆起の形も異なる。

【生活史】

着生の多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

冷温帯落葉広葉樹林の樹幹の高所に着生する。

【分布域】

本州・九州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 85% であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	園芸採取	自然遷移

件数		
2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クモイジガバチ	<i>Liparis truncata</i>	CR
第4次 2019:	クモイジガバチ	<i>Liparis truncata</i>	CR
第4次 2018:	クモイジガバチ	<i>Liparis truncata</i>	CR
第4次 2017:	クモイジガバチ	<i>Liparis truncata</i>	CR
第4次 2015:	クモイジガバチ	<i>Liparis truncata</i>	CR
第4次:	クモイジガバチ	<i>Liparis truncata</i>	CR
第3次:	クモイジガバチ	<i>Liparis truncata</i>	CR
第2次:	クモイジガバチ	<i>Liparis truncata</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 秋田県[情報不足種(DD)] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[情報不足] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[A ランク] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 京都府環境部自然環境保全課，2015. 京都府レッドデータブック 2015 第2巻：野生植物・菌類編. 京都府環境部自然環境保全課，611pp.
- 大分県自然環境学術調査会，2022. レッドデータブックおおいだ 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—. <https://www.rdb-oita.jp/>（2024年9月5日閲覧）.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024年9月6日閲覧）.

- 岐阜県環境生活部自然環境保全課，2014. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物（植物編）改訂版—岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版—. <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/11109.html>（2024 年 9 月 5 日閲覧）.
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，501pp.
- 兵庫県環境部自然鳥獣共生課，2020. 兵庫県版レッドデータブック 2020（植物・植物群落）. https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/%21drafts/leg_8362（2024 年 9 月 5 日閲覧）.
- 永松大・鶴崎展巨・有川智己・（株）エスジーズ，2022. レッドデータブックとっとり第3版 2022. 鳥取県生活環境部緑豊かな自然課，414pp.
- 栃木県環境森林部自然環境課・栃木県立博物館，2018. レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物. 栃木県環境森林部自然環境課，991pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Liparis truncata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Liparis truncata* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

ナンバンカモメラン

Macodes petola

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐し、先は直立し、3-6 葉を互生し、花序を含めて長さ 20-30 cm。葉は卵形、上面は深緑色で銀白色の網目模様が入り、下面は緑白色、長さ 5-6.5 cm。総状花序は頂生し、15-40 花をつける。花は左右非対称で、淡黄緑色で赤褐色を帯び、花被片の先は白色、萼片は長さ 5-6 mm で卵形。側花弁は長さ 5 mm で三日月形。唇弁は長さ 6 mm で 3 裂し、ねじれる。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

低地の自然林の林床に生える。

【分布域】

西表島、フィリピン・インドシナ・マレー半島・スマトラ・ジャワ・ボルネオ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンバンカモメラン	<i>Macodes petola</i>	CR
第4次 2019:	ナンバンカモメラン	<i>Macodes petola</i>	CR
第4次 2018:	ナンバンカモメラン	<i>Macodes petola</i>	CR
第4次 2017:	ナンバンカモメラン	<i>Macodes petola</i>	CR
第4次 2015:	ナンバンカモメラン	<i>Macodes petola</i>	CR
第4次:	ナンバンカモメラン	<i>Macodes petola</i>	CR
第3次:	ナンバンカモメラン	<i>Macodes petola</i>	CR
第2次:	ナンバンカモメラン	<i>Macodes petola</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Macodes petola has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Macodes petola* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カイサカネラン

Neottia furusei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-15 cm。サカネランに似るが、全体が緑色を帯び、茎・花序や子房はより多毛で短い白毛を密生し、唇弁は萼片よりやや大きい程度で、また 2 裂（裂片の中央に微突起が出て 3 裂となる場合もある）する位置は先端付近で縁はやや波打ち、花期も異なる。

【生活史】

菌従属栄養性で地生する多年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

落葉広葉樹林の腐葉土の厚く堆積した立地に生育する。石灰岩地にもみられる。

【分布域】

北海道（東部）・本州（山梨県・長野県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュの現存個体数が数十個体であり、1 メッシュが未発見であった。減少要因として踏みつけが考えられた。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カイサカネラン	<i>Neottia furusei</i>	CR
第4次 2019:	カイサカネラン	<i>Neottia furusei</i>	CR
第4次 2018:	カイサカネラン	<i>Neottia furusei</i>	CR
第4次 2017:	カイサカネラン	<i>Neottia furusei</i>	CR
第4次 2015:	カイサカネラン	<i>Neottia furusei</i>	CR
第4次:	カイサカネラン	<i>Neottia furusei</i>	CR
第3次:	カイサカネラン	<i>Neottia japonica</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 今井建樹・井上健，1988. カイサカネラン再発見される. 植物分類，地理，49: 197-199.
- 内田暁友・滝田謙譲，2007. 北海道におけるカイサカネラン（ラン科）の産地. 知床博物館研究報告，28: 7-8.
- Yukawa, T., T. Yagame and N. S. Lee, 2009. A Taxonomic Reappraisal of *Neottia* (Orchidaceae) from East Asia. Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series B (Botany), 57-62.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002. 長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物. 維管束植物編. 長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Neottia furusei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Neottia furusei* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾサカネラン

Neottia nidus-avis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎の高さ 20-40 cm、上部は密な総状花序となり、下部は鞘状葉が互生する。唇弁は 2 裂し、裂片は狭楕円形。近縁種のサカネランに比べて全草がより濃い茶色を帯び、また無毛であることが異なる。

【生活史】

菌従属栄養の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

山地の針葉樹林に生育。

【分布域】

本州・北海道、ユーラシア・アフリカ北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 産地局限		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Jersáková, J., J. Minasiewicz and M-A. Selosse, 2022. Biological flora of Britain and Ireland: *Neottia nidus-avis*. Journal of Ecology, 110: 2246–2263.
- Yagame, T., Y. Ogura–Tsujita, A. Kinoshita, K. Iwase and T. Yukawa, 2016, Fungal partner shifts during the evolution of mycoheterotrophy in *Neottia*. American Journal of Botany, 103: 1630–1641.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Neottia nidus-avis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Neottia nidus-avis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオハクウンラン

*Odontochilus fissus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

草丈は約 10 cm。葉は茎の下部に 2-6 枚つき、卵円形または円形。花は白色、茎の上部に 1-7 個つく。側萼片は基部のみ合着し、唇弁の基部を包む。唇弁の基部は膨らんだ距となり、先は四角形。ハクウンランに似るが、全体により大きく、葉の長さはハクウンランが 3-7 mm であるのに対し、本種では 9-13 mm、側萼片の長さはハクウンランが 4.5-5 mm であるのに対し、本種では 5-6 mm となる。また、主に冷温帯の落葉広葉樹林に生育するハクウンランに対し、本種は主に暖温帯の常緑広葉樹林に生育する。

【生活史】

地生の多年草。

【生育環境】

常緑広葉樹林や常緑・落葉広葉樹の混交林、竹林の林床に生育する。

【分布域】

本州（千葉県・神奈川県・静岡県）・伊豆諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオハクウンラン	<i>Kuhlhasseltia nakaiana</i> var. <i>fissa</i> (in schedule)	VU
第4次 2019:	オオハクウンラン	<i>Kuhlhasseltia nakaiana</i> var. <i>fissa</i> (in schedule)	VU
第4次 2018:	オオハクウンラン	<i>Kuhlhasseltia nakaiana</i> var. <i>fissa</i> (in schedule)	VU
第4次 2017:	オオハクウンラン	<i>Kuhlhasseltia nakaiana</i> var. <i>fissa</i> (in schedule)	VU
第4次 2015:	オオハクウンラン	<i>Kuhlhasseltia nakaiana</i> var. <i>fissa</i> (in schedule)	VU
第4次:	オオハクウンラン	<i>Kuhlhasseltia nakaiana</i> var. <i>fissa</i> (in schedule)	VU
第3次:	オオハクウンラン	<i>Vexillabium fissum</i>	VU
第2次:	オオハクウンラン	<i>Vexillabium fissum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 山内好考，1987．三浦半島のオオハクウンラン．神奈川自然誌資料，8: 59-60．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．
- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館，2022．神奈川県レッドデータブック 2022 植物編．神奈川県，438pp．
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020．まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—．静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp．

- 富山県生活環境文化部自然保護課，2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま 2012—. 富山県生活環境文化部自然保護課，451pp.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002. 長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物. 維管束植物編. 長野県自然保護研究所，297pp.
- 千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会，2023. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック（植物・菌類編）2023 年改訂版. 千葉県環境生活部自然保護課，579pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Odontochilus fissus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Odontochilus fissus* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメシラヒゲラン

*Odontochilus nanlingensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イナバランに似るが、唇弁にイナバランのようなくしの歯状の突起があり、花被片の基部と葯帽は赤色を帯びる。

【生活史】

地生の多年草。

【生育環境】

常緑樹林内に生育。

【分布域】

奄美大島、台湾・中国（南部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメシラヒゲラン	<i>Pristiglottis rubricentra</i>	CR
第4次 2019:	ヒメシラヒゲラン	<i>Pristiglottis rubricentra</i>	CR
第4次 2018:	ヒメシラヒゲラン	<i>Pristiglottis rubricentra</i>	CR
第4次 2017:	ヒメシラヒゲラン	<i>Pristiglottis rubricentra</i>	CR
第4次 2015:	ヒメシラヒゲラン	<i>Pristiglottis rubricentra</i>	CR
第4次:	ヒメシラヒゲラン	<i>Pristiglottis rubricentra</i>	CR
第3次:	ヒメシラヒゲラン	<i>Pristiglottis rubricentra</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 矢原徹一・藤井伸二・伊藤元己・海老原淳，2015．レッドデータプランツ増補改訂新版. 782pp. 山と溪谷社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Odontochilus nanlingensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Odontochilus nanlingensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオギミラン

Odontochilus tashiroi

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

開花時の茎は高さ 10-20 cm、下部は無毛、数葉を互生する。葉は卵状長楕円形で鋭頭、基部は円く長さ 4-5 cm、幅 2 cm。葉柄は長さ 2 cm、基部は鞘となる。茎の上部は鱗片葉を少数つけ有毛。花は帯紅色、総状花序に 2-3 花をつける。背萼片は卵形で長さ 5-6 mm、やや尾状で鈍頭。側萼片は長楕円形。萼片の外側は腺状の毛がある。側花弁は彼針形で背萼片に密着する。唇弁は長さ約 2 cm で基部は袋状にふくれ、爪部は糸状となって縁は房状に分裂し、舷部の先端は V 字形に 2 裂する。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

山地の自然林の林床や竹藪などに生える。

【分布域】

屋久島・種子島・沖縄島・西表島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	2	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオギミラン	<i>Odontochilus tashiroi</i>	EN
第4次 2019:	オオギミラン	<i>Odontochilus tashiroi</i>	EN
第4次 2018:	オオギミラン	<i>Odontochilus tashiroi</i>	EN
第4次 2017:	オオギミラン	<i>Odontochilus tashiroi</i>	EN
第4次 2015:	オオギミラン	<i>Odontochilus tashiroi</i>	EN
第4次:	オオギミラン	<i>Odontochilus tashiroi</i>	EN
第3次:	オオギミラン	<i>Odontochilus tashiroi</i>	EN
第2次:	オオギミラン	<i>Odontochilus tashiroi</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—．沖縄県環境部自然保護課，690pp．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Odontochilus tashiroi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Odontochilus tashiroi is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシアリドオシラン

*Odontochilus tsukusianus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アリドオリランに似るが、唇弁は萼片より短く、舷部は広がらず切形である。

【生活史】

地生の多年草。

【生育環境】

林内の岩場や林床に生育する。

【分布域】

四国（剣山・石鎚山など）・九州（霧島山・高隈山など）・屋久島。アリドオシランより南に偏る。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシアリドオシラン	<i>Myrmechis tsukusiana</i>	CR
第4次 2019:	ツクシアリドオシラン	<i>Myrmechis tsukusiana</i>	CR
第4次 2018:	ツクシアリドオシラン	<i>Myrmechis tsukusiana</i>	CR
第4次 2017:	ツクシアリドオシラン	<i>Myrmechis tsukusiana</i>	CR
第4次 2015:	ツクシアリドオシラン	<i>Myrmechis tsukusiana</i>	CR
第4次:	ツクシアリドオシラン	<i>Myrmechis tsukusiana</i>	CR
第3次:	ツクシアリドオシラン	<i>Myrmechis tsukusiana</i>	CR
第2次:	ツクシアリドオシラン	<i>Myrmechis tsukusiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Odontochilus tsukusianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Odontochilus tsukusianus is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コケイランモドキ

Oreorchis coreana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は地下の球茎から展開し長楕円または披針形、長さ 25-35 cm、1-2 枚をつける。花序は総状、高さ 35-70 cm、約 15-30 個の花をつける。萼片と側花弁は黄褐色で長さ 5-6 mm。唇弁は白色で紫色の斑点があり、中ほどで 3 裂し中心に板状の隆起がある。近縁のコケイランに比べて、花が小さいこと、蕊柱が短く湾曲しないこと、葯帽が開花直後に離脱すること、唇弁の隆起が板状であること、花期が遅いことなどで区別できる。開花直後に花粉塊柄が外に曲がり柱頭に接触する、特殊な自動自家受粉をおこなう。

【生活史】

花期は 6 月下旬から 7 月上旬。

【生育環境】

標高約 400 m から 1200 m の暖温帯上部から冷温帯下部の落葉広葉樹林あるいは針葉樹林の林床で、斜面や沢沿いの土壤がやや不安定な環境に生育。

【分布域】

栃木県・群馬県・岐阜県・広島県・愛媛県・高知県・福岡県・大分県・佐賀県・熊本県、韓国（済州島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。別途調査により、十数集団での現存が確認された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 園芸採取	人の踏みつけ	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Takashima, M., J. Hasegawa and T. Yukawa, 2016. *Oreorchis coreana* (Orchidaceae), a new addition to the flora of Japan. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica, 67: 61–66.
- Takashima, M., Y. Yamashita and T. Yukawa, 2023. New localities and unique, automatic self-pollination system of *Oreorchis coreana* (Orchidaceae). Bulletin of the National Museum of Nature and Science. Series B, Botany, 49: 145–153.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Oreorchis coreana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Oreorchis coreana* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コハクラン

Oreorchis indica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地中の根茎は樹枝状に分枝し、先端がラッキョウ形で白色の偽球茎となり、連珠状に並ぶ。偽球茎には 1 個の葉と 1 個の花茎がつく。葉は狭披針形、長さ 14-16 cm、幅 2-2.5 cm。花茎は高さ 30-40 cm で、5-10 花を総状花序につける。萼片と側花弁は黄褐色、狭楕円形でやや鋭頭、斜開し、長さ 1-1.2 cm、幅 4-4.5 mm。唇弁は白地にあずき色の斑紋があり、先端が 3 裂し、中裂片は大きく先端部は多少内曲する。

【生活史】

地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

亜高山帯の針葉樹林の林床や林縁に生育する。

【分布域】

本州（栃木県・山梨県・静岡県・長野県）、台湾・中国西部・ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コハクラン	<i>Oreorchis itoana</i>	CR
第4次 2019:	コハクラン	<i>Oreorchis itoana</i>	CR
第4次 2018:	コハクラン	<i>Oreorchis itoana</i>	CR
第4次 2017:	コハクラン	<i>Oreorchis itoana</i>	CR
第4次 2015:	コハクラン	<i>Oreorchis itoana</i>	CR
第4次:	コハクラン	<i>Oreorchis itoana</i>	CR
第3次:	コハクラン	<i>Kitigorchis itoana</i>	CR
第2次:	コハクラン	<i>Kitigorchis itoana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]
静岡県[要注目種(N-Ⅲ部会注目種)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002．長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物．維管束植物編．長野県自然保護研究所，297pp.
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，2020．まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—．静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，501pp.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018．2018 山梨県レッドデータブック．山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.

- 栃木県環境森林部自然環境課・栃木県立博物館，2018. レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物. 栃木県環境森林部自然環境課，991pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Oreorchis indica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Oreorchis indica* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒゲナガトンボ

Peristylus calcaratus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は卵形の偽球茎から出て、高さ 20-50 cm。下部の 3-5 枚の葉は広披針形で鋭尖頭、長さ 4-10 cm、幅 1-2.5 cm。花は総状花序にやや多くつく。ムカゴトンボに似るが、葉の位置がムカゴトンボより上でまばらにつき、花のつかない苞葉は 2 個程度と少なく、唇弁の側裂片が 10-21 mm と長い。

【生活史】

地生の多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

明るい林内に生育する。

【分布域】

九州（宮崎県・鹿児島県）・種子島、台湾・中国（南部）・ベトナム。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	園芸採取	自然遷移
件数	2	2

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒゲナガトンボ	<i>Peristylus calcaratus</i>	CR
第4次 2019:	ヒゲナガトンボ	<i>Peristylus calcaratus</i>	CR
第4次 2018:	ヒゲナガトンボ	<i>Peristylus calcaratus</i>	CR
第4次 2017:	ヒゲナガトンボ	<i>Peristylus calcaratus</i>	CR
第4次 2015:	ヒゲナガトンボ	<i>Peristylus calcaratus</i>	CR
第4次:	ヒゲナガトンボ	<i>Peristylus calcaratus</i>	CR
第3次:	ヒゲナガトンボ	<i>Habenaria flagellifera</i> var. <i>yosiei</i>	CR
第2次:	ヒゲナガトンボ	<i>Habenaria flagellifera</i> var. <i>yosiei</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022．宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版．宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Peristylus calcaratus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Peristylus calcaratus is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タコガタサギソウ

Peristylus lacertifer var. *triangularis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

タカサゴサギソウに似るが、タカサゴサギソウの花は淡黄緑色で、唇弁の側裂片は糸状で長く伸び、花期は 10-3 月であるのに対し、花は白色で、唇弁の側裂片は三角形で短く、花期が一定している点が異なる。

【生活史】

地生の多年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

明るい湿り気のある草地に生育する。

【分布域】

九州（熊本県・宮崎県）、琉球（伊平屋島）、台湾・中国（南部）・フィリピン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タコガタサギソウ	<i>Peristylus lacertifer</i>	CR
第4次 2019:	タコガタサギソウ	<i>Peristylus lacertifer</i>	CR
第4次 2018:	タコガタサギソウ	<i>Peristylus lacertifer</i>	CR
第4次 2017:	タコガタサギソウ	<i>Peristylus lacertifer</i>	CR
第4次 2015:	タコガタサギソウ	<i>Peristylus lacertifer</i>	CR
第4次:	タコガタサギソウ	<i>Peristylus lacertifer</i>	CR
第3次:	タコガタサギソウ	<i>Habenaria lacertifera</i> var. <i>triangularis</i>	CR
第2次:	タコガタサギソウ	<i>Habenaria lacertifera</i> var. <i>triangularis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 熊本県希少野生動植物検討委員会，2019．レッドデータブックくまもと 2019 ―熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物―．熊本県環境生活部自然保護課，632pp.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）―レッドデータおきなわ―．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Peristylus lacertifer var. *triangularis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th

edition. *Peristylus lacertifer* var. *triangularis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメカクラン

Phaius mishmensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は束生し、棒状で、長さ 40-60 cm、数葉をまばらに互生。葉は倒卵状長楕円形、長さ 20-30 cm。総状花序は偽球茎の途中から生じ、長さ 8-30 cm、まばらに 8 花ほどをつける。花は淡紅紫色、唇弁の上面には紅紫色の細点が多数入る。萼片と側花弁は長さ 3-3.5 cm、萼片は長楕円形、側花弁は線状倒披針形。唇弁は長さ 2.5-2.8 cm、先端は 3 浅裂し、側裂片は半卵形、中央裂片はやや四角形、小凹頭、中央に毛の生えた 4 列の板状突起があり、基部に長さ 1 cm の距がある。

【生活史】

常緑で地生する多年草。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

沖縄島・石垣島・西表島、台湾・中国南部・ヒマラヤ・タイ・フィリピン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメカクラン	<i>Phaius mishmensis</i>	CR
第4次 2019:	ヒメカクラン	<i>Phaius mishmensis</i>	CR
第4次 2018:	ヒメカクラン	<i>Phaius mishmensis</i>	CR
第4次 2017:	ヒメカクラン	<i>Phaius mishmensis</i>	CR
第4次 2015:	ヒメカクラン	<i>Phaius mishmensis</i>	CR
第4次:	ヒメカクラン	<i>Phaius mishmensis</i>	CR
第3次:	ヒメカクラン	<i>Phaius mishmensis</i>	CR
第2次:	ヒメカクラン	<i>Phaius mishmensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Phaius mishmensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Phaius*

mishmensis is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマチドリ

*Platanthera amabilis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根はややひも状で横に這う。茎は前年の根の中央よりも先端寄りから出て、高さ 10-25 cm。最下葉が最も大きく、長楕円状披針形、長さ 2-5 cm、幅 1-3 cm、先端はやや尖り、基部は茎を抱く。上方の葉はしだいに小さくなり、披針形。淡黄緑色花をまばらに 3-7 個、穂状につける。背萼片は狭卵形で長さ 4-7 mm。側萼片は線状披針形で背萼片より少し長い。側花弁は斜卵形で先端は細くなり、背萼片より長い。唇弁は線状披針形、長さ 8-15 mm。距は細長く水平に伸び、長さ 12-17 mm。

【生活史】

地生の多年草。花期は 8 月。

【生育環境】

冷温帯の樹林下や林縁に生える。

【分布域】

屋久島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマチドリ	<i>Platanthera amabilis</i>	EN
第4次 2019:	ヤクシマチドリ	<i>Platanthera amabilis</i>	EN
第4次 2018:	ヤクシマチドリ	<i>Platanthera amabilis</i>	EN
第4次 2017:	ヤクシマチドリ	<i>Platanthera amabilis</i>	EN
第4次 2015:	ヤクシマチドリ	<i>Platanthera amabilis</i>	EN
第4次:	ヤクシマチドリ	<i>Platanthera amabilis</i>	EN
第3次:	ヤクシマチドリ	<i>Platanthera amabilis</i>	EN
第2次:	ヤクシマチドリ	<i>Platanthera ophrydioides</i> var. <i>amabilis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Platanthera amabilis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Platanthera amabilis</i> is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

ツクシチドリ

Platanthera brevicarata subsp. *yakumontana*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準亜種のニイタカチドリに似るが、根がひも状でありあまり肥厚せず、また花は 2-3 花と少なく、かつ小型で唇弁は細い。

【生活史】

地生の多年草。

【生育環境】

常緑広葉樹林の林床や林縁に生える。

【分布域】

九州（大分県・鹿児島県）・奄美大島・屋久島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシチドリ	<i>Platanthera brevicealcarata</i> subsp. <i>yakumontana</i>	EN
第4次 2019:	ツクシチドリ	<i>Platanthera brevicealcarata</i> subsp. <i>yakumontana</i>	EN
第4次 2018:	ツクシチドリ	<i>Platanthera brevicealcarata</i> subsp. <i>yakumontana</i>	EN
第4次 2017:	ツクシチドリ	<i>Platanthera brevicealcarata</i> subsp. <i>yakumontana</i>	EN
第4次 2015:	ツクシチドリ	<i>Platanthera brevicealcarata</i> subsp. <i>yakumontana</i>	EN
第4次:	ツクシチドリ	<i>Platanthera brevicealcarata</i> subsp. <i>yakumontana</i>	EN
第3次:	ツクシチドリ	<i>Platanthera brevicealcarata</i> subsp. <i>yakumontana</i>	EN
第2次:	ツクシチドリ	<i>Platanthera (brevicealcarata</i> var.) <i>yakumontana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 大分県自然環境学術調査会，2022．レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—．<https://www.rdb-oita.jp/>（2024年9月5日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Platanthera brevicealcarata subsp. *yakumontana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Platanthera brevicealcarata* subsp. *yakumontana* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオバナオオヤマサギソウ

*Platanthera hondoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-60 cm、葉はふつう下部の 2 個が大きく、倒卵状狭長楕円形、長さ 10-20 cm、幅 4-8 cm、上部の葉は 2-7 枚つき、狭楕円形、表面は光沢がある。花は穂状につき、淡緑白色。オオヤマサギソウに比べて、花の各部分がやや大きく、花の径約 10 mm、背萼片は長さ約 5 mm、側萼片が長さ約 8 mm になり、また距の長さが 30-40 mm と長く、唇弁基部に肉質隆起が目立たない点が異なる。

【生活史】

地生する多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

冷温帯の山地樹林下に生育する。

【分布域】

本州 (東北～近畿地方)・四国・九州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、2 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	1	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	シカ食害	人の踏みつけ

件数		
2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオバナオオヤマサギソウ	<i>Platanthera hondoensis</i>	CR
第4次 2019:	オオバナオオヤマサギソウ	<i>Platanthera hondoensis</i>	CR
第4次 2018:	オオバナオオヤマサギソウ	<i>Platanthera hondoensis</i>	CR
第4次 2017:	オオバナオオヤマサギソウ	<i>Platanthera hondoensis</i>	CR
第4次 2015:	オオバナオオヤマサギソウ	<i>Platanthera hondoensis</i>	CR
第4次:	オオバナオオヤマサギソウ	<i>Platanthera hondoensis</i>	CR
第3次:	オオバナオオヤマサギソウ	<i>Platanthera hondoensis</i>	CR
第2次:	オオバナオオヤマサギソウ	<i>Platanthera sachalinensis</i> var. <i>hondoensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

埼玉県[絶滅(EX)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館，2022. 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編. 神奈川県，438pp.
- 東京都環境局自然環境部，2023. 東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版一. 東京都環境局自然環境部，879pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Platanthera hondoensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Platanthera hondoensis is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Deer feeding damage, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミトンボ

Platanthera mandarinorum subsp. *hachijoensis* var. *amamiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハチジョウチドリに似るが、苞が子房とほぼ同長ないし短い点異なる。

【生活史】

地生の多年草。

【生育環境】

林床や林縁、路傍草地に生育する。

【分布域】

トカラ列島・奄美諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>amamiana</i>	VU
第4次 2019:	アマミトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>amamiana</i>	VU
第4次 2018:	アマミトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>amamiana</i>	VU
第4次 2017:	アマミトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>amamiana</i>	VU
第4次 2015:	アマミトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>amamiana</i>	VU
第4次:	アマミトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>amamiana</i>	VU
第3次:	アマミトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>amamiana</i>	VU
第2次:	アマミトンボ	<i>Platanthera amamiana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Platanthera mandarinorum subsp. *hachijoensis* var. *amamiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Platanthera mandarinorum* subsp. *hachijoensis* var. *amamiana* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマトンボ

Platanthera mandarinorum subsp. *hachijoensis* var. *masamunei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アマミトンボに似るが、苞はより長い。

【生活史】

地生する多年草。

【生育環境】

低地～高地林内に生育。

【分布域】

屋久島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>masamunei</i>	CR
第4次 2019:	ヤクシマトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>masamunei</i>	CR
第4次 2018:	ヤクシマトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>masamunei</i>	CR
第4次 2017:	ヤクシマトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>masamunei</i>	CR
第4次 2015:	ヤクシマトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>masamunei</i>	CR
第4次:	ヤクシマトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>masamunei</i>	CR
第3次:	ヤクシマトンボ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>hachijoensis</i> var. <i>masamunei</i>	CR
第2次:	ヤクシマトンボ	—	NT
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Inoue, K., 1982. Taxonomic notes on some species of *Platanthera* (Orchidaceae) in Japan. Journal of the Faculty of Science, University of Tokyo, Section 3, Botany, 13: 175-202.
- Yahara, T., H. Ohba, J. Murata and K. Iwatsuki, 1987. Taxonomic review of vascular plants endemic to Yakushima Island, Japan. Journal of the Faculty of Science, University of Tokyo, Section 3, Botany, 14: 69-119.

- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Platanthera mandarinorum subsp. *hachijoensis* var. *masamunei* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Platanthera mandarinorum* subsp. *hachijoensis* var. *masamunei* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハチジョウツレサギ

*Platanthera okuboi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根は一部が肥厚して紡錘状。茎は高さ 20-45 cm、下部に相接してふつう 2 個の葉を根生状につける。葉は長楕円形、長さ 10-20 cm、幅 3-6 cm、鈍頭、基部は細く柄となる。茎の上部には鱗片葉があり、広披針形。やや密に淡緑色を帯びた白色の花を多数つける。背萼片は広卵形～心形で長さ 6-8 mm。側萼片は背萼片より少し長く広披針形。側花弁はやや肉質で狭斜卵形、背萼片とほぼ同長。唇弁は広線形で長さ 10-13 mm。距は長さ 30-40 mm。

【生活史】

地生する多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

日当たりのよい草地に生育する。

【分布域】

伊豆諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハチジョウツレサギ	<i>Platanthera okuboi</i>	CR
第4次 2019:	ハチジョウツレサギ	<i>Platanthera okuboi</i>	CR
第4次 2018:	ハチジョウツレサギ	<i>Platanthera okuboi</i>	CR
第4次 2017:	ハチジョウツレサギ	<i>Platanthera okuboi</i>	CR
第4次 2015:	ハチジョウツレサギ	<i>Platanthera okuboi</i>	CR
第4次:	ハチジョウツレサギ	<i>Platanthera okuboi</i>	CR
第3次:	ハチジョウツレサギ	<i>Platanthera okuboi</i>	CR
第2次:	ハチジョウツレサギ	<i>Platanthera okuboi</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Platanthera okuboi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Platanthera okuboi is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クニガミトンボソウ

Platanthera sonoharae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地中に紡錘形の塊根がある。茎は高さ 15-25 cm、数枚の葉をつける。葉は茎下部の 1-2 枚は線状披針形で長さ 8-13 cm、茎上部の葉は長さ 1.5 cm 程度。総状花序は頂生し、6-20 花をつける。花は黄緑色で径 7-8 mm。萼片と花弁は長さ 3-4 mm、唇弁は長さ 4-5 mm で、浅く 3 裂し、基部に長さ 4-10 mm の距がある。トンボソウによく似るが、葉が細く幅 5-8 mm。

【生活史】

落葉性で地生の多年草。溪流沿い植物。

【生育環境】

洪水時には水没するような河川の中流域の湿った岩上に生育する。

【分布域】

沖縄島・西表島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クニガミトンボソウ	<i>Platanthera sonoharae</i>	CR
第4次 2019:	クニガミトンボソウ	<i>Platanthera sonoharae</i>	CR
第4次 2018:	クニガミトンボソウ	<i>Platanthera sonoharae</i>	CR
第4次 2017:	クニガミトンボソウ	<i>Platanthera sonoharae</i>	CR
第4次 2015:	クニガミトンボソウ	<i>Platanthera sonoharae</i>	CR
第4次:	クニガミトンボソウ	<i>Platanthera sonoharae</i>	CR
第3次:	クニガミトンボソウ	<i>Platanthera sonoharae</i>	CR
第2次:	クニガミトンボソウ	<i>Platanthera sonoharai</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Platanthera sonoharae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Platanthera sonoharae* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ソハヤキトンボソウ

Platanthera stenoglossa subsp. *hottae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-20 cm。根出葉は基部に 1 枚つき、広楕円形で長さ 8 cm ほど。茎葉は鱗片状で 1 枚かこれを欠く。頂生する花序は 8 cm ほどになり、淡緑色の花を 10 個ほど穂状につける。イリオモテトンボソウに似るが、最下の苞は花柄子房より長く、花はやや大きく、側花弁の前方の縁は凹みがある。

【生活史】

地生の多年草。花期は 6 月。

【生育環境】

山地の溪流沿いなどの湿り気のある岩上、尾根沿いの林内などに生育する。

【分布域】

本州（和歌山県）・九州（大分県・宮崎県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	園芸採取	シカ食害
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ソハヤキトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>hottae</i>	CR
第4次 2019:	ソハヤキトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>hottae</i>	CR
第4次 2018:	ソハヤキトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>hottae</i>	CR
第4次 2017:	ソハヤキトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>hottae</i>	CR
第4次 2015:	ソハヤキトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>hottae</i>	CR
第4次:	ソハヤキトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>hottae</i>	CR
第3次:	ソハヤキトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>hottae</i>	CR
第2次:	ソハヤキトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>hottae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Inoue, K. 1981. Notes on infraspecific taxa in *Platanthera stenoglossa* Hayata from Taiwan and Japan. *Journal of Japanese Botany*, 56: 120–127.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.
- 大分県自然環境学術調査会，2022. レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—. <https://www.rdb-oita.jp/>（2024年9月5日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Platanthera stenoglossa subsp. *hottae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Platanthera stenoglossa* subsp. *hottae* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クロカミラン

Ponerorchis graminifolia var. *kurokamiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準変種のウチョウランに似るが、距が細く、長さ 5-7 mm と子房より短く、側萼片は水平に開出する。

【生活史】

着生または地生の多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

山地の湿った岩壁に生育する。

【分布域】

九州（佐賀県黒髪山周辺）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。平均減少率は 85% であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロカミラン	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第4次 2019:	クロカミラン	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第4次 2018:	クロカミラン	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第4次 2017:	クロカミラン	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第4次 2015:	クロカミラン	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第4次:	クロカミラン	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第3次:	クロカミラン	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第2次:	クロカミラン	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>kurokamiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 佐賀県希少野生動植物調査検討会植物分科会，2010. レッドデータブックさが 2010 植物編—佐賀県の絶滅のおそれのある野生生物—. 佐賀県くらし環境本部有明海再生・自然環境課，329pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ponerorchis graminifolia var. *kurokamiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ponerorchis graminifolia* var. *kurokamiana* is listed as CR under criteria ACD. The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

サツマチドリ

Ponerorchis graminifolia var. *nigropunctata*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準変種のウチョウランに比べ、全体に大きく、距が細く短く、側萼片が反り返らず、唇弁に細かい斑点が入る。

【生活史】

着生または地生の多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

陽地のやや乾燥する岩場に生育する。

【分布域】

鹿児島県（下甕島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 0 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サツマチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>micropunctata</i> (in schedule)	EN
第4次 2019:	サツマチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>micropunctata</i> (in schedule)	EN
第4次 2018:	サツマチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>micropunctata</i> (in schedule)	EN
第4次 2017:	サツマチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>micropunctata</i> (in schedule)	EN
第4次 2015:	サツマチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>micropunctata</i> (in schedule)	EN
第4次:	サツマチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>micropunctata</i>	EN
第3次:	サツマチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>micropunctata</i>	CR
第2次:	サツマチドリ	<i>Orchis graminifolia</i> var. <i>micropunctata</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ponerorchis graminifolia var. *nigropunctata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ponerorchis graminifolia* var. *nigropunctata* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イリオモテラン

Staurochilus luchuensis

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は硬く、直立し、しばしば分枝し、長さ 20-70 cm、多数の葉を 2 列に互生する。葉は厚い革質で線状長楕円形、長さ 10-18 cm。総状花序は腋生し、単一または分枝し、長さ 20-30 cm、まばらに 7-20 花をつける。花は淡黄色で、内面に紫褐色の斑点が入り、唇弁は白色で、上面に紅紫色の小点が入る。萼片と花弁は長さ 1.7 cm。側花弁はへら形。唇弁は長さ 1.6 cm、基部で 3 浅裂し、側裂片は三角形で小さく直立し、中央裂片は菱形状船形で上面に毛が生え、先端は尖り、基部に短い距がある。

【生活史】

常緑で着生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の樹幹に着生する。

【分布域】

石垣島・西表島・魚釣島、台湾・フィリピン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イリオモテラン	<i>Trichoglottis lutchuensis</i>	EN
第4次 2019:	イリオモテラン	<i>Trichoglottis lutchuensis</i>	EN
第4次 2018:	イリオモテラン	<i>Trichoglottis lutchuensis</i>	EN
第4次 2017:	イリオモテラン	<i>Trichoglottis lutchuensis</i>	EN
第4次 2015:	イリオモテラン	<i>Trichoglottis lutchuensis</i>	EN
第4次:	イリオモテラン	<i>Trichoglottis lutchuensis</i>	EN
第3次:	イリオモテラン	<i>Trichoglottis lutchuensis</i>	EN
第2次:	イリオモテラン	<i>Trichoglottis lutchuensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Staurochilus luchuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Staurochilus luchuensis is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イリオモテカヤラン

Thrixspermum annamense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

小形の常緑の多年草。茎は短く、葉を 2 列に接して互生する。葉は革質、狭長楕円形、長さ 3-5 cm。総状花序は腋生し、長さ 4-7 cm、数花を密につけ、1 個ずつ順次咲かせる。花は白色。ハガクレナガミランに似るが、葉が細く肉厚で、萼片がやや細長く、唇弁の中央裂片に密毛があり、中央裂片の基部に角状の突起を欠くことで区別できる。

【生活史】

十分な情報は得られていないが、5 月から 6 月に開花するハガクレナガミランに対して、本種は 2 月に開花することが確認されている。花はいずれも 1 日花である。

【生育環境】

亜熱帯の陰湿な常緑樹林の樹枝上に着生。

【分布域】

西表島の 2 河川の流域に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

これまで数回確認されただけである。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., S. K. Hirota, K. Yonekura, A. Abe, H. Suyama and T. C. Hsu, 2023. First Record of *Thrixspermum annamense* (Orchidaceae) from Iriomote Island, Ryukyu Islands, Japan, with Discussions on its Intraspecific Taxonomy. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 74: 121–129.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thrixspermum annamense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thrixspermum annamense* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

ハガクレナガミラン

Thrixspermum fantasticum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 1-4 cm、葉を 2 列に接して互生。葉は革質、長楕円形で長さ 2-5 cm。総状花序は腋生し、長さ 4-7 cm、数花を密につけ、1 個ずつ順次咲かせる。花は白色で、唇弁には黄褐色の斑点が入る。萼片と花弁は長さ 4 mm で広楕円形。唇弁は長さ 3 mm、基部で 3 裂し、側裂片は斜楕円形で直立して蕊柱を包み、中央裂片は半円形で基部上面に毛の生えた 1 対の突起がある。

【生活史】

常緑で着生の多年草。

【生育環境】

空中湿度の高い山地の自然林の樹枝上に着生する。

【分布域】

西表島、台湾・フィリピン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハガクレナガミラン	<i>Thrixspermum fantasticum</i>	CR
第4次 2019:	ハガクレナガミラン	<i>Thrixspermum fantasticum</i>	CR
第4次 2018:	ハガクレナガミラン	<i>Thrixspermum fantasticum</i>	CR
第4次 2017:	ハガクレナガミラン	<i>Thrixspermum fantasticum</i>	CR
第4次 2015:	ハガクレナガミラン	<i>Thrixspermum fantasticum</i>	CR
第4次:	ハガクレナガミラン	<i>Thrixspermum fantasticum</i>	CR
第3次:	ハガクレナガミラン	<i>Thrixspermum fantasticum</i>	CR
第2次:	ハガクレナガミラン	<i>Thrixspermum fantasticum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thrixspermum fantasticum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Thrixspermum fantasticum is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミカヤラン

Thrixspermum pygmaeum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 2 cm 以下、2 列生の葉が 2-5 枚つく。葉身は長さ 5-12 cm、幅 6-12 mm、先端は不等に 2 裂。2 月頃、細く硬い花茎の先に数花がまばらに咲き、各花は先端の 2 花を除き軸上で約 1 cm ずつ離れる。花径約 12 mm。花は乳白色を帯びた黄色で、唇弁には紫褐色のかすれた横縞がある。側萼片と側花弁は平開。唇弁は内面基部の隆起上に黄色毛が密生、横長の両側裂片が筒を作るような形に立ち上がる。以前は国内のものがケイタオフウラン *Thrixspermum saruwatarii* に充てられていたが、*Thrixspermum pygmaeum* であることが明らかになったため、学名とともに和名が変更された。

【生活史】

常緑で着生の多年草。花期は 2 月頃。

【生育環境】

樹幹や枝に着生する。

【分布域】

奄美大島、ベトナム・ブータン・インド（北東部）・ネパール・中国・台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因 自然遷移		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ケイタオフウラン	<i>Thrixspermum saruwatarii</i>	CR
第4次 2019:	ケイタオフウラン	<i>Thrixspermum saruwatarii</i>	CR
第4次 2018:	ケイタオフウラン	<i>Thrixspermum saruwatarii</i>	CR
第4次 2017:	ケイタオフウラン	<i>Thrixspermum saruwatarii</i>	CR
第4次 2015:	ケイタオフウラン	<i>Thrixspermum saruwatarii</i>	CR
第4次:	ケイタオフウラン	<i>Thrixspermum saruwatarii</i>	CR
第3次:	ケイタオフウラン	<i>Thrixspermum saruwatarii</i>	CR
第2次:	ケイタオフウラン	<i>Thrixspermum saruwatarii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Vuong, T. B., J. Coates, T. Q. Tam, D. A. Thy and N. Hanh, 2017. Review of the genus *Thrixspermum* in Hon Ba nature reserve, Vietnam. *Die Orchidee*, 3: 106–113.
- Yukawa, T., 2016. Taxonomic notes on the Orchidaceae of Japan and adjacent regions. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series B (Botany)*, 42: 103–111.

- Zhang, J. Y., Y. H. Cheng, M. Liao, G. Y. Liu, P. Y. Yang, B. Xu and H. He, 2023. *Thrixspermum taeniophyllum* (Orchidaceae, Epidendroideae), a new species from southwest China, based on molecular and morphological evidence. *PhytoKeys*, 230: 145–156.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Thrixspermum pygmaeum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Thrixspermum pygmaeum is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
 Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオキヌラン

Zeuxine nervosa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐して先は直立し、花序を含めて長さ 30 cm になり、4-5 葉を互生する。葉は卵状披針形、長さ 7 cm になり、しばしば中肋に白色の条が入る。頂生する総状花序にはややまばらに 6-10 花がつく。花は淡黄緑色でやや赤褐色を帯び、半開する。萼片と側花弁は長さ 5 mm、背萼片は卵形、側萼片は長楕円形、花弁は斜卵形。唇弁は白色、長さ 7 mm で Y 字形、先端の裂片は円形、基部は囊状となり、基部上面に 3~4 対の突起がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

自然林の湿った林床に生える。

【分布域】

石垣島・魚釣島、台湾・フィリピン・ヒマラヤ・タイ・インドシナ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオキヌラン	<i>Heterozeuxine nervosa</i>	CR
第4次 2019:	オオキヌラン	<i>Heterozeuxine nervosa</i>	CR
第4次 2018:	オオキヌラン	<i>Heterozeuxine nervosa</i>	CR
第4次 2017:	オオキヌラン	<i>Heterozeuxine nervosa</i>	CR
第4次 2015:	オオキヌラン	<i>Heterozeuxine nervosa</i>	CR
第4次:	オオキヌラン	<i>Heterozeuxine nervosa</i>	CR
第3次:	オオキヌラン	<i>Heterozeuxine nervosa</i>	CR
第2次:	オオキヌラン	<i>Heterozeuxine nervosa</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Zeuxine nervosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Zeuxine*

<i>nervosa</i> is listed as CR under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ヒガンバナ科 Amaryllidaceae

ムジナノカミソリ

Lycoris sanguinea var. *koreana*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

キツネノカミソリに似るが、花被片は長さ 5-6 cm で反り返る。花被片よりも花糸が長い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林縁に生育する。

【分布域】

九州、対馬に分布。国外では朝鮮半島に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	道路工事	
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムジナノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>koreana</i>	EW
第4次 2019:	ムジナノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>koreana</i>	EW
第4次 2018:	ムジナノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>koreana</i>	EW
第4次 2017:	ムジナノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>koreana</i>	EW
第4次 2015:	ムジナノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>koreana</i>	EW
第4次:	ムジナノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>koreana</i>	EW
第3次:	ムジナノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>koreana</i>	EW
第2次:	ムジナノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>koreana</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-1)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lycoris sanguinea var. *koreana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lycoris sanguinea* var. *koreana* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Road construction

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

セトガワギボウシ

Hosta takiminazukiflora subsp. *grandis*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 D
推定開花株数が 50 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

タキミナズキギボウシの典型亜種とは、花序が大型（長さ 31-36 cm）で、葉幅が広く（幅 13-14 cm）、葉の基部が心形、葉裏が粉白色、側脈が 12-13 対あり、葉柄が緑色である点で区別される。

【生活史】

花期は 6 月下旬。

【生育環境】

滝の近くの湿った土壤に生育。

【分布域】

高知県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

新亜種として発表されたことで、採集による減少が危惧される。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Yahara, T., S. K. Hirota, S. Fujii, Y. Kokami, K. Fuse, H. Sato, S. Tagane and Y. Suyama, 2023. Molecular phylogeny and taxonomy of *Hosta* (Asparagaceae) on Shikoku Island, Japan, including five new species, one new subspecies, and two new status assignments. *PhytoKeys*, 235: 137–187.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hosta takiminazukiflora subsp. *grandis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hosta takiminazukiflora* subsp. *grandis* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サツマオモト

Rohdea japonica var. *latifolia***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オモトに似るが、葉が淡緑色、幅が広い点で区別される。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林下に生育。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サツマオモト	<i>Rohdea japonica</i> var. <i>latifolia</i>	CR
第4次 2019:	サツマオモト	<i>Rohdea japonica</i> var. <i>latifolia</i>	CR
第4次 2018:	サツマオモト	<i>Rohdea japonica</i> var. <i>latifolia</i>	CR
第4次 2017:	サツマオモト	<i>Rohdea japonica</i> var. <i>latifolia</i>	CR
第4次 2015:	サツマオモト	<i>Rohdea japonica</i> var. <i>latifolia</i>	CR
第4次:	サツマオモト	<i>Rohdea japonica</i> var. <i>latifolia</i>	CR
第3次:	サツマオモト	<i>Rohdea japonica</i> var. <i>latifolia</i>	CR
第2次:	サツマオモト	<i>Rohdea japonica</i> var. <i>latifolia</i>	EW
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rohdea japonica var. *latifolia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Rohdea japonica var. *latifolia* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ニッパヤシ

Nypa fruticans

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地上茎はなく、地際を這う太い根茎は二叉分枝し、葉を根生する。葉は硬く、高さ 4-10 m になり、羽状複葉、太い葉柄に多数の小葉がつく。小葉は長さ 1 m、幅 2-7 cm で、線形または線状披針形、先端は鋭尖形、全縁、裏面には褐色の圧毛がある。雄花序は根茎から出て、上向きで長さ 1 m、総状で多数の側枝があり、多数の花をつける。雌花序は球形の頭状花序で多くの苞につつまれて枝の頂につき、径約 30 cm、多数の雌花を密集してつける。果実は多数の核果が集合した大型の集合果で、径 30 cm 以上になる。

【生活史】

常緑の小高木。雌雄同株。

【生育環境】

マングローブの後方の湿地に生え、密生する群落を作る。

【分布域】

琉球（西表島・内離島）、インド・マレーシア・ミクロネシア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ニッパヤシ	<i>Nypa fruticans</i>	CR
第4次 2019:	ニッパヤシ	<i>Nypa fruticans</i>	CR
第4次 2018:	ニッパヤシ	<i>Nypa fruticans</i>	CR
第4次 2017:	ニッパヤシ	<i>Nypa fruticans</i>	CR
第4次 2015:	ニッパヤシ	<i>Nypa fruticans</i>	CR
第4次:	ニッパヤシ	<i>Nypa fruticans</i>	CR
第3次:	ニッパヤシ	<i>Nypa fruticans</i>	CR
第2次:	ニッパヤシ	<i>Nypa fruticans</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Nypa fruticans has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Nypa fruticans*

is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ガマ科 Typhaceae

チシマミクリ

Sparganium hyperboreum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は浮水葉、幅 2-4 mm。雌性頭花は 2-3 個、雄性頭花は 1-2 個、柱頭は長さ 1 mm。果実は長さ 2.5 mm、倒卵形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の湿原の池に生育。

【分布域】

北海道、北半球の寒帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チシマミクリ	<i>Sparganium hyperboreum</i>	EN
第4次 2019:	チシマミクリ	<i>Sparganium hyperboreum</i>	EN
第4次 2018:	チシマミクリ	<i>Sparganium hyperboreum</i>	EN
第4次 2017:	チシマミクリ	<i>Sparganium hyperboreum</i>	EN
第4次 2015:	チシマミクリ	<i>Sparganium hyperboreum</i>	EN
第4次:	チシマミクリ	<i>Sparganium hyperboreum</i>	EN
第3次:	チシマミクリ	<i>Sparganium hyperboreum</i>	EN
第2次:	チシマミクリ	<i>Sparganium hyperboreum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sparganium hyperboreum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Sparganium hyperboreum is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマノホシクサ

*Eriocaulon amanoanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

頭花が灰白色であること以外はクロホシクサと変わらないが、同所的に生育する地域においても生育期間が異なることから、分類学的検討が必要である。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿地に生える。

【分布域】

九州（宮崎県・鹿児島県）・奄美大島・徳之島・沖縄島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	3	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	管理放棄	水質汚濁
件数 4	3	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマノホシクサ	<i>Eriocaulon amanoanum</i>	CR
第4次 2019:	アマノホシクサ	<i>Eriocaulon amanoanum</i>	CR
第4次 2018:	アマノホシクサ	<i>Eriocaulon amanoanum</i>	CR
第4次 2017:	アマノホシクサ	<i>Eriocaulon amanoanum</i>	CR
第4次 2015:	アマノホシクサ	<i>Eriocaulon amanoanum</i>	CR
第4次:	アマノホシクサ	<i>Eriocaulon amanoanum</i>	CR
第3次:	アマノホシクサ	<i>Eriocaulon amanoanum</i>	CR
第2次:	アマノホシクサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon amanoanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eriocaulon amanoanum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, Water pollution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒュウガホシクサ

Eriocaulon echinulatum

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

ホシクサに似るが、ホシクサの葯は白色、総苞片は鈍頭、雌花の萼片の背面に翼はないのに対し、本種の葯は灰色、総苞片は先が芒状に長く尖り、頭花は栗のいがのように見え、雌花の萼片は背面に翼がある。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

丘陵地の湿原に生育する。

【分布域】

宮崎県、台湾・中国・フィリピン・インドネシア・マレーシア・タイ・ミャンマー・カンボジア・インド。絶滅していたが、湿原の環境復元によって、50 年以上土中にあった埋土種子により再生した。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		

件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒュウガホシクサ	<i>Eriocaulon seticuspe</i>	CR
第4次 2019:	ヒュウガホシクサ	<i>Eriocaulon seticuspe</i>	CR
第4次 2018:	ヒュウガホシクサ	<i>Eriocaulon seticuspe</i>	CR
第4次 2017:	ヒュウガホシクサ	<i>Eriocaulon seticuspe</i>	CR
第4次 2015:	ヒュウガホシクサ	<i>Eriocaulon seticuspe</i>	EX
第4次:	ヒュウガホシクサ	<i>Eriocaulon seticuspe</i>	EX
第3次:	ヒュウガホシクサ	<i>Eriocaulon seticuspe</i>	EX
第2次:	ヒュウガホシクサ	<i>Eriocaulon seticuspe</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon echinulatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eriocaulon echinulatum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.	
Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾイヌノヒゲ

*Eriocaulon perplexum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 2-6 cm で線状披針形。花茎は高さ 5-14 cm。頭花は幅 3-4 mm で半球形、少数花からなる。雄花・雌花ともに 2 数性と 3 数性のものが混じる。萼は仏炎苞状に合着して上部は 2-3 裂、縁に白色長毛と短毛がある。雌花の萼背面は無毛。葯は黒色。種子は長さ約 1 mm で楕円形、表面に T 字状の突起がある。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿地に生える。

【分布域】

北海道。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。湿地開発により減少している。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	1	0	—	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon perplexum</i>	CR
第4次 2019:	エゾイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon perplexum</i>	CR
第4次 2018:	エゾイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon perplexum</i>	CR
第4次 2017:	エゾイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon perplexum</i>	CR
第4次 2015:	エゾイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon perplexum</i>	CR
第4次:	エゾイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon perplexum</i>	CR
第3次:	エゾイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon perplexum</i>	CR
第2次:	エゾイヌノヒゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon perplexum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Eriocaulon perplexum is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

スイシャホシクサ

Eriocaulon truncatum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 2-7 cm で線形～線状披針形。花茎は高さ 3-15 cm。頭花は扁球形。種子は長さ 0.5 mm 内外、縦線がある。ゴマシオホシクサに似るが、頭花は灰白色、雌花の萼片は 2 個。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿地に生える。

【分布域】

沖縄島・久米島・石垣島・西表島・与那国島、台湾・中国・インドシナ・フィリピン・タイ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	2	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	スイシャホシクサ	<i>Eriocaulon truncatum</i>	CR
第4次 2019:	スイシャホシクサ	<i>Eriocaulon truncatum</i>	CR
第4次 2018:	スイシャホシクサ	<i>Eriocaulon truncatum</i>	CR
第4次 2017:	スイシャホシクサ	<i>Eriocaulon truncatum</i>	CR
第4次 2015:	スイシャホシクサ	<i>Eriocaulon truncatum</i>	CR
第4次:	スイシャホシクサ	<i>Eriocaulon truncatum</i>	CR
第3次:	スイシャホシクサ	<i>Eriocaulon merrillii</i> var. <i>suishaense</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon truncatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eriocaulon truncatum* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イグサ科 Juncaceae

エゾイトイ

Juncus potaninii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イトイに似るが、花被片が狭披針形で幅広く、雄蕊は花被片より長く、種子は長さ約 1 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の岩上に生育。

【分布域】

北海道・本州中部（八ヶ岳・塩見岳）、朝鮮半島・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	1	0	0	0	3	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾイトイ	<i>Juncus potaninii</i>	CR
第4次 2019:	エゾイトイ	<i>Juncus potaninii</i>	CR
第4次 2018:	エゾイトイ	<i>Juncus potaninii</i>	CR
第4次 2017:	エゾイトイ	<i>Juncus potaninii</i>	CR
第4次 2015:	エゾイトイ	<i>Juncus potaninii</i>	CR
第4次:	エゾイトイ	<i>Juncus potaninii</i>	CR
第3次:	エゾイトイ	<i>Juncus potaninii</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 富山県[情報不足] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I A類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Juncus potaninii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Juncus potaninii* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤマゼキショウ

*Juncus yakeisidakensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-40 cm。茎は 2 稜形、圧扁でやや広い翼がある。ヒロハコウガイゼキショウに似て、形態上の区別はできないとする見解がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

岩手県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマゼキショウ	<i>Juncus yakeisidakensis</i>	CR
第4次 2019:	ミヤマゼキショウ	<i>Juncus yakeisidakensis</i>	CR
第4次 2018:	ミヤマゼキショウ	<i>Juncus yakeisidakensis</i>	CR
第4次 2017:	ミヤマゼキショウ	<i>Juncus yakeisidakensis</i>	CR
第4次 2015:	ミヤマゼキショウ	<i>Juncus yakeisidakensis</i>	CR
第4次:	ミヤマゼキショウ	<i>Juncus yakeisidakensis</i>	CR
第3次:	ミヤマゼキショウ	<i>Juncus yakeisidakensis</i>	CR
第2次:	ミヤマゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>kiusiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024 年 9 月 6 日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Juncus yakeisidakensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Juncus yakeisidakensis* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トダスゲ

Carex aequalta

カテゴリー判定結果

絶滅危惧 I A 類 (CR)

基準 D+C

推定開花株数が 50 個体未満/推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎基部の葉鞘は暗褐色。小穂は茎の上方に集まって直立し、ほぼ同高になる。果胞は卵円形、著しく膨らみ、褐色を帯びる。

【生活史】

多年草。果実成熟は 5-6 月。

【生育環境】

平地、川岸の草地に生育。

【分布域】

本州（関東地方・近畿地方）・九州北部、朝鮮半島・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	0	0	0	3	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発	人の踏みつけ	シカ食害
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トダスゲ	<i>Carex aequalta</i>	CR
第4次 2019:	トダスゲ	<i>Carex aequalta</i>	CR
第4次 2018:	トダスゲ	<i>Carex aequalta</i>	CR
第4次 2017:	トダスゲ	<i>Carex aequalta</i>	CR
第4次 2015:	トダスゲ	<i>Carex aequalta</i>	CR
第4次:	トダスゲ	<i>Carex aequalta</i>	CR
第3次:	トダスゲ	<i>Carex aequalta</i>	EN
第2次:	トダスゲ	<i>Carex aequalta</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅] 栃木県[絶滅] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[区部:絶滅危惧Ⅱ類(VU) 本土部:絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 神奈川県[絶滅(EX)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅(EX)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2023．東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版一．東京都環境局自然環境部，879pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex aequalta has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex aequalta* is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Wetland development, Human trampling, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ザラツキシラスゲ

*Carex albidibasis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒカゲシラスゲに似るが、葉の幅がやや狭く、葉の裏面が粉白色を帯び、ざらつきが著しい。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

亜高山帯原生林の溪流沿いに生育。

【分布域】

本州（栃木県・埼玉県・山梨県・長野県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

第4次レッドリストではチチブシラスゲとして掲載されていたが、先に種として記載されたザラツキシラスゲと同一種と判明したため、第5次レッドリストではザラツキシラスゲとして掲載した。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チチブシラスゲ	<i>Carex planiculmis</i> var. <i>urasawae</i>	CR
第4次 2019:	チチブシラスゲ	<i>Carex planiculmis</i> var. <i>urasawae</i>	CR
第4次 2018:	チチブシラスゲ	<i>Carex planiculmis</i> var. <i>urasawae</i>	CR
第4次 2017:	チチブシラスゲ	<i>Carex planiculmis</i> var. <i>urasawae</i>	CR
第4次 2015:	チチブシラスゲ	<i>Carex planiculmis</i> var. <i>urasawae</i>	CR
第4次:	チチブシラスゲ	<i>Carex planiculmis</i> var. <i>urasawae</i>	CR
第3次:	チチブシラスゲ	<i>Carex planiculmis</i> var. <i>urasawae</i>	CR
第2次:	チチブシラスゲ	<i>Carex planiculmis</i> var. <i>urasawae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[準絶滅危惧(C ランク)] 埼玉県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 埼玉県環境部自然環境課，2012. 埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編. 埼玉県. 433pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex albidibasis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex albidibasis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

ホソスゲ

Carex disperma

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

細長い匍枝がある。高さ 20-50 cm。葉は幅 1-1.5 mm。小穂は長さ 2-3 mm、3-5 個、まばらにつく。果胞は長さ 2.5-3 mm、卵形で厚いレンズ形、淡緑黄色で光沢がある。

【生活史】

果実成熟は 6-7 月。

【生育環境】

林中の湿原に生育。

【分布域】

北海道、北半球の亜寒帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

第 4 次レッドリストでは絶滅と判断されていたが、近年北海道で再発見された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソスゲ	<i>Carex disperma</i>	CR
第4次 2019:	ホソスゲ	<i>Carex disperma</i>	CR
第4次 2018:	ホソスゲ	<i>Carex disperma</i>	CR
第4次 2017:	ホソスゲ	<i>Carex disperma</i>	CR
第4次 2015:	ホソスゲ	<i>Carex disperma</i>	EX
第4次:	ホソスゲ	<i>Carex disperma</i>	EX
第3次:	ホソスゲ	<i>Carex disperma</i>	EX
第2次:	ホソスゲ	<i>Carex disperma</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 勝山輝男・藤田玲，2017．北海道にホソスゲを再発見する．植物地理・分類研究，64(2)：89-91．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex disperma has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex disperma* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—



執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トナカイスゲ

Carex globularis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は横走し、ゆるく叢生する。基部の鞘は赤褐色。苞は無鞘、最下のもみに長い葉がある。雌鱗片は果胞より短く、濃褐色。果胞は長さ 2.5-3 mm、有毛、嘴は短く口部は全縁。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

アカエゾマツ林内の湿地に生育。

【分布域】

北海道（東部）、北東アジア～ヨーロッパ北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。1 メッシュで現存が確認され、現存個体数は数百個体と推定される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トナカイスゲ	<i>Carex globularis</i>	CR
第4次 2019:	トナカイスゲ	<i>Carex globularis</i>	CR
第4次 2018:	トナカイスゲ	<i>Carex globularis</i>	CR
第4次 2017:	トナカイスゲ	<i>Carex globularis</i>	CR
第4次 2015:	トナカイスゲ	<i>Carex globularis</i>	CR
第4次:	トナカイスゲ	<i>Carex globularis</i>	CR
第3次:	トナカイスゲ	<i>Carex globularis</i>	CR
第2次:	トナカイスゲ	<i>Carex globularis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex globularis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex globularis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホウザンスゲ

Carex hoozanensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

叢生する。葉は幅 5-12 mm。有花茎はすべて低く基部に埋もれる。果胞は長さ 6-7 mm、脈が多数あり無毛。瘦果は稜の中部が凹み、頂部は長さ 1 mm、幅 0.5 mm の顕著な嘴となる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

樹林内に生育。

【分布域】

八重山諸島（石垣島）、台湾～インドシナに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホウザンスゲ	<i>Carex hoozanensis</i>	CR
第4次 2019:	ホウザンスゲ	<i>Carex hoozanensis</i>	CR
第4次 2018:	ホウザンスゲ	<i>Carex hoozanensis</i>	CR
第4次 2017:	ホウザンスゲ	<i>Carex hoozanensis</i>	CR
第4次 2015:	ホウザンスゲ	<i>Carex hoozanensis</i>	CR
第4次:	ホウザンスゲ	<i>Carex hoozanensis</i>	CR
第3次:	ホウザンスゲ	<i>Carex hoozanensis</i>	CR
第2次:	ホウザンスゲ	<i>Carex hoozanensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex hoozanensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex hoozanensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤリスゲ

Carex kabanovii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 D
推定開花株数が 50 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

根茎は横走し、密に叢生する。葉は幅広く 1-1.5 mm、小穂は長さ 15-25 mm、茎頂に 1 個つき、黄栗色でやや光沢がある。果胞は鱗片より明らかに長く、熟すと斜開し、嘴は長い。

【生活史】

多年草。果実成熟は 6-8 月。

【生育環境】

高山湿原に生育。

【分布域】

北海道、サハリンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュに数十個体が生育するだけであった。減少要因として植生の遷移の影響が指摘された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤリスゲ	<i>Carex kabanovii</i>	CR
第4次 2019:	ヤリスゲ	<i>Carex kabanovii</i>	CR
第4次 2018:	ヤリスゲ	<i>Carex kabanovii</i>	CR
第4次 2017:	ヤリスゲ	<i>Carex kabanovii</i>	CR
第4次 2015:	ヤリスゲ	<i>Carex kabanovii</i>	CR
第4次:	ヤリスゲ	<i>Carex kabanovii</i>	CR
第3次:	ヤリスゲ	<i>Carex kabanovii</i>	CR
第2次:	ヤリスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex kabanovii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex kabanovii* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

センジョウスゲ

Carex lehmannii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-30 cm。小穂は 3-4 個つき、頂小穂は雌雄性、側小穂は長さ 6-8 mm、雌性で楕円形、直立する。果胞は長さ約 2 mm、開出し、楕円形で膨れた 3 稜形、黄色。

【生活史】

多年草。果実成熟は 7-8 月。

【生育環境】

高所の林内に生育。

【分布域】

南アルプス（仙丈ヶ岳）、朝鮮半島北部・インドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	センジョウスゲ	<i>Carex lehmannii</i>	CR
第4次 2019:	センジョウスゲ	<i>Carex lehmannii</i>	CR
第4次 2018:	センジョウスゲ	<i>Carex lehmannii</i>	CR
第4次 2017:	センジョウスゲ	<i>Carex lehmannii</i>	CR
第4次 2015:	センジョウスゲ	<i>Carex lehmannii</i>	CR
第4次:	センジョウスゲ	<i>Carex lehmannii</i>	CR
第3次:	センジョウスゲ	<i>Carex lehmannii</i>	CR
第2次:	センジョウスゲ	<i>Carex lehmannii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex lehmannii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex lehmannii* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Deer feeding damage

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チャボカワズスゲ

Carex omiana var. *yakushimana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヤチカワズスゲに似るが、全体が小型、有花茎は高さ 10 cm 未満。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高地に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チャボカワズスゲ	<i>Carex omiana</i> var. <i>yakushimana</i>	CR
第4次 2019:	チャボカワズスゲ	<i>Carex omiana</i> var. <i>yakushimana</i>	CR
第4次 2018:	チャボカワズスゲ	<i>Carex omiana</i> var. <i>yakushimana</i>	CR
第4次 2017:	チャボカワズスゲ	<i>Carex omiana</i> var. <i>yakushimana</i>	CR
第4次 2015:	チャボカワズスゲ	<i>Carex omiana</i> var. <i>yakushimana</i>	CR
第4次:	チャボカワズスゲ	<i>Carex omiana</i> var. <i>yakushimana</i>	CR
第3次:	チャボカワズスゲ	<i>Carex omiana</i> var. <i>yakushimana</i>	CR
第2次:	チャボカワズスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex omiana var. *yakushimana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex omiana* var. *yakushimana* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トックリスゲ

Carex rhynchachaenium

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

叢生する。葉は幅 1.5-3.5 mm。有花茎は短く葉の基部に埋もれる。果胞は長さ 5.5-6.5 mm、披針形でとっくり状に浅くくびれ、側脈が多数あり、細毛がまばらにある。果実は長さ 4-5 mm、披針状菱形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

常緑広葉樹林内に生育。

【分布域】

沖縄島、台湾・フィリピン・ベトナムに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トックリスゲ	<i>Carex rhynchachaenium</i>	CR
第4次 2019:	トックリスゲ	<i>Carex rhynchachaenium</i>	CR
第4次 2018:	トックリスゲ	<i>Carex rhynchachaenium</i>	CR
第4次 2017:	トックリスゲ	<i>Carex rhynchachaenium</i>	CR
第4次 2015:	トックリスゲ	<i>Carex rhynchachaenium</i>	CR
第4次:	トックリスゲ	<i>Carex rhynchachaenium</i>	CR
第3次:	トックリスゲ	<i>Carex renchachaenium</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 勝山輝男，2006．沖縄本島でトックリスゲ *Carex rhynchachaenium* を見出す．植物地理・分類研究，54: 154-156．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex rhynchachaenium has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Carex rhynchachaenium is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コヌマスゲ

Carex rotundata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は匍匐する。葉は幅 1-1.5 mm、肉質。上方の 1-3 個の小穂は雄性で、下方の 1-2 個の小穂は雌性。果胞は長さ 2.5-3 mm、光沢があり無毛。極めて短い嘴をもつ。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高層湿原に生育。

【分布域】

北海道（大雪山）、周北極地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では、1 メッシュの現存個体数が数十個体と報告された。生育地は 1 つの湿地のみが確認され、1 クローンの可能性がある。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コヌマスゲ	<i>Carex rotundata</i>	CR
第4次 2019:	コヌマスゲ	<i>Carex rotundata</i>	CR
第4次 2018:	コヌマスゲ	<i>Carex rotundata</i>	CR
第4次 2017:	コヌマスゲ	<i>Carex rotundata</i>	CR
第4次 2015:	コヌマスゲ	<i>Carex rotundata</i>	CR
第4次:	コヌマスゲ	<i>Carex rotundata</i>	CR
第3次:	コヌマスゲ	<i>Carex rotundata</i>	CR
第2次:	コヌマスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex rotundata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex rotundata* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ダイセンアシボソスゲ

Carex scita var. *parvisquama***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマアシボソスゲに似るが、果胞は幅 1.7-2.2 mm と幅広く、鱗片は果胞と同長、先は芒にならない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の崩壊地に生育。

【分布域】

鳥取県（大山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	ダイセンアシボソスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>parvisquama</i>	CR
第4次 2019:	ダイセンアシボソスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>parvisquama</i>	CR
第4次 2018:	ダイセンアシボソスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>parvisquama</i>	CR
第4次 2017:	ダイセンアシボソスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>parvisquama</i>	CR
第4次 2015:	ダイセンアシボソスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>parvisquama</i>	CR
第4次:	ダイセンアシボソスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>parvisquama</i>	CR
第3次:	ダイセンアシボソスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>parvisquama</i>	CR
第2次:	ダイセンアシボソスゲ	<i>Carex scita</i> var. <i>parvisquama</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鳥取県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex scita var. *parvisquama* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex scita* var. *parvisquama* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンヒョウタンスゲ

*Carex yasuii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

有花茎が葉と同高、雌鱗片は狭卵形、鋭尖頭または短芒端。果胞は長さ 4.5-5.5 mm、無毛。瘦果は首部に向かって狭まり、基部の柄は長さ 1 mm、上部は長さ 0.5 mm 幅 0.7 mm ほどの円柱状の嘴になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

やや湿った樹林内に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では確実な自生を確認できなかった。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンヒョウタンスゲ	<i>Carex yasuii</i>	CR
第4次 2019:	ムニンヒョウタンスゲ	<i>Carex yasuii</i>	CR
第4次 2018:	ムニンヒョウタンスゲ	<i>Carex yasuii</i>	CR
第4次 2017:	ムニンヒョウタンスゲ	<i>Carex yasuii</i>	CR
第4次 2015:	ムニンヒョウタンスゲ	<i>Carex yasuii</i>	CR
第4次:	ムニンヒョウタンスゲ	<i>Carex yasuii</i>	CR
第3次:	ムニンヒョウタンスゲ	<i>Carex sp.</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex yasuii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex yasuii* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオホウキガヤツリ

Cyperus digitatus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は短く、株立ちする。穂状花序は小穂が密集し、円柱状になる。小穂は密に鱗片をつけ、小穂の中軸は見えない。小穂は長さ 6-20 mm、やや円い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低地の湿地や水田に生育。

【分布域】

琉球（沖縄島・宮古島・石垣島・西表島・与那国島）、台湾・中国・インド・世界の熱帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数個体が現存していた。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオホウキガヤツリ	<i>Cyperus digitatus</i>	CR
第4次 2019:	オオホウキガヤツリ	<i>Cyperus digitatus</i>	CR
第4次 2018:	オオホウキガヤツリ	<i>Cyperus digitatus</i>	CR
第4次 2017:	オオホウキガヤツリ	<i>Cyperus digitatus</i>	CR
第4次 2015:	オオホウキガヤツリ	<i>Cyperus digitatus</i>	CR
第4次:	オオホウキガヤツリ	<i>Cyperus digitatus</i>	CR
第3次:	オオホウキガヤツリ	<i>Cyperus digitatus</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cyperus digitatus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cyperus digitatus* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ニイガタガヤツリ

*Cyperus niigatensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アオガヤツリに似るが、小型で鱗片の先は鈍く、果実は小さく痩せる。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

新潟県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定された。平均減少率は 63%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

過去にニイガタガヤツリとされてきたものは、タイプ標本を除いてウキミガヤツリを誤認したものが多いことが明らかになってきた。2018 年の調査データについても再検討が必要である。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ニイガタガヤツリ	<i>Cyperus niigatensis</i>	CR
第4次 2019:	ニイガタガヤツリ	<i>Cyperus niigatensis</i>	CR
第4次 2018:	ニイガタガヤツリ	<i>Cyperus niigatensis</i>	CR
第4次 2017:	ニイガタガヤツリ	<i>Cyperus niigatensis</i>	CR
第4次 2015:	ニイガタガヤツリ	<i>Cyperus niigatensis</i>	CR
第4次:	ニイガタガヤツリ	<i>Cyperus niigatensis</i>	CR
第3次:	ニイガタガヤツリ	<i>Cyperus niigatensis</i>	CR
第2次:	ニイガタガヤツリ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[準絶滅危惧(NT)] 茨城県[情報不足②現状不明種] 千葉県[重要保護生物(B)] 新潟県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 香川県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 新潟県環境生活部環境企画課，2001．レッドデータブックにいがた．新潟県環境生活部環境企画課，467pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cyperus niigatensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cyperus niigatensis* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Human trampling, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメホウキガヤツリ

Cyperus nutans var. *subprolixus*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

散形花序は大きく、長さ 15-30 cm。小穂は長さ 1-2 cm。鱗片は長さ 2-2.5 mm、側面に 3 脈がみえ、光沢のない赤褐色。果実は長さ約 1.5 mm、長楕円形で 3 稜、鱗片よりわずかに短い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低地の湿地や水田に生育。

【分布域】

琉球（宮古島・石垣島・西表島）、台湾・中国・東南アジア・インド・オーストラリア・アフリカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体が現存と報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメホウキガヤツリ	<i>Cyperus nutans</i> var. <i>subprolixus</i>	CR
第4次 2019:	ヒメホウキガヤツリ	<i>Cyperus nutans</i> var. <i>subprolixus</i>	CR
第4次 2018:	ヒメホウキガヤツリ	<i>Cyperus nutans</i> var. <i>subprolixus</i>	CR
第4次 2017:	ヒメホウキガヤツリ	<i>Cyperus nutans</i> var. <i>subprolixus</i>	CR
第4次 2015:	ヒメホウキガヤツリ	<i>Cyperus nutans</i> var. <i>subprolixus</i>	CR
第4次:	ヒメホウキガヤツリ	<i>Cyperus nutans</i> var. <i>subprolixus</i>	CR
第3次:	ヒメホウキガヤツリ	<i>Cyperus nutans</i> var. <i>subprolixus</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[情報不足] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cyperus nutans var. *subprolixus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cyperus nutans* var. *subprolixus* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウシュンスゲ

Cyperus pedunculatus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は横走する。花序は頭状。小穂は基部に関節があり、5 鱗片をつけ、下から 4 番目の鱗片が結実する。果実はコルク質に肥厚した小穂の軸に包まれる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の砂丘に生育。

【分布域】

石垣島、世界の熱帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウシュンスゲ	<i>Remirea maritima</i>	CR
第4次 2019:	コウシュンスゲ	<i>Remirea maritima</i>	CR
第4次 2018:	コウシュンスゲ	<i>Remirea maritima</i>	CR
第4次 2017:	コウシュンスゲ	<i>Remirea maritima</i>	CR
第4次 2015:	コウシュンスゲ	<i>Remirea maritima</i>	CR
第4次:	コウシュンスゲ	<i>Remirea maritima</i>	CR
第3次:	コウシュンスゲ	<i>Cyperus pedunculatus</i>	CR
第2次:	コウシュンスゲ	<i>Cyperus pedunculatus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cyperus pedunculatus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Cyperus pedunculatus is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

クロミノハリイ

Eleocharis atropurpurea

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハリイやマツバイに似るが、小穂は長さ 3-5 mm、幅 2-2.5 mm、卵形、赤紫色を帯びる。果実は長さ 0.4-0.6 mm、倒卵状三角形、レンズ形、黒色で光沢がある。

【生活史】

一年草。果実成熟は 7-10 月。

【生育環境】

水湿地に生育。

【分布域】

本州～九州、台湾・中国・インド・ヨーロッパ・アフリカ・北アメリカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロミノハリイ	<i>Eleocharis atropurpurea</i>	CR
第4次 2019:	クロミノハリイ	<i>Eleocharis atropurpurea</i>	CR
第4次 2018:	クロミノハリイ	<i>Eleocharis atropurpurea</i>	CR
第4次 2017:	クロミノハリイ	<i>Eleocharis atropurpurea</i>	CR
第4次 2015:	クロミノハリイ	<i>Eleocharis atropurpurea</i>	CR
第4次:	クロミノハリイ	<i>Eleocharis atropurpurea</i>	CR
第3次:	クロミノハリイ	<i>Eleocharis atropurpurea</i>	CR
第2次:	クロミノハリイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

滋賀県[要注目種] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 徳島県[絶滅(EX)] 熊本県[情報不足(DD)] 宮崎県[情報不足(DD-1)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eleocharis atropurpurea has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Eleocharis atropurpurea is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カヤツリマツバイ

Eleocharis retroflexa subsp. *chaetaria*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 D
推定開花株数が 50 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

叢生する。茎は長さ 4-20 cm、稜角があり、外曲する。最上の葉鞘は長さ 0.3-0.5 cm、ゆるく茎を包み、淡褐色から赤褐色。小穂は長さ 3-5 mm、広卵形。小穂の鱗片は長さ 2-3 mm、3-8 個、卵形から卵状楕円形、ほぼ 2 列に並ぶ。果実は長さ 0.7-1.2 mm、広倒卵形、3 稜形、表面は単黄色で縦に並ぶ小孔がある。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

山地の湿地に生育。

【分布域】

琉球（石垣島）、中国・インド・スリランカ・東南アジア・アフリカ・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カヤツリマツバイ	<i>Eleocharis retroflexa</i> subsp. <i>chaetaria</i>	CR
第4次 2019:	カヤツリマツバイ	<i>Eleocharis retroflexa</i> subsp. <i>chaetaria</i>	CR
第4次 2018:	カヤツリマツバイ	<i>Eleocharis retroflexa</i> subsp. <i>chaetaria</i>	CR
第4次 2017:	カヤツリマツバイ	<i>Eleocharis retroflexa</i> subsp. <i>chaetaria</i>	CR
第4次 2015:	カヤツリマツバイ	<i>Eleocharis retroflexa</i> subsp. <i>chaetaria</i>	CR
第4次:	カヤツリマツバイ	<i>Eleocharis retroflexa</i> subsp. <i>chaetaria</i>	CR
第3次:	カヤツリマツバイ	<i>Eleocharis retroflexa</i> subsp. <i>chaetaria</i>	CR
第2次:	カヤツリマツバイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eleocharis retroflexa subsp. *chaetaria* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eleocharis retroflexa* subsp. *chaetaria* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カドハリイ

Eleocharis tetraquetra var. *tsurumachii*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 D+C
推定開花株数が 50 個体未満/推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 40-80 cm。茎は鋭 4 稜がある。小穂は長さ 1-1.5 cm、狭卵状楕円形。鱗片は長さ 4.5-5.5 mm、広卵形、らせん状に並ぶ。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

コケの生える湿地に生育。

【分布域】

本州（茨城県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カドハリイ	<i>Eleocharis tetraquetra</i> var. <i>tsurumachii</i>	CR
第4次 2019:	カドハリイ	<i>Eleocharis tetraquetra</i> var. <i>tsurumachii</i>	CR
第4次 2018:	カドハリイ	<i>Eleocharis tetraquetra</i> var. <i>tsurumachii</i>	CR
第4次 2017:	カドハリイ	<i>Eleocharis tetraquetra</i> var. <i>tsurumachii</i>	CR
第4次 2015:	カドハリイ	<i>Eleocharis tetraquetra</i> var. <i>tsurumachii</i>	CR
第4次:	カドハリイ	<i>Eleocharis tetraquetra</i> var. <i>tsurumachii</i>	CR
第3次:	カドハリイ	<i>Eleocharis tetraquetra</i> var. <i>tsurumachii</i>	CR
第2次:	カドハリイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅危惧 I A 類] 福岡県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- Iwatsuki, K., D. E. Boufford and H. Ohba, 2020. Flora of Japan, Vol. IVa, Kodansha, Tokyo. 448pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eleocharis tetraquetra var. *tsurumachii* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eleocharis tetraquetra* var. *tsurumachii* is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Wetland development, Natural succession

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

エゾワタスゲ

Eriophorum scheuchzeri var. *tenuifolium*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は長く這い、茎はやや丈低く、長さ 10-30 cm。株を作らない。小穂はただ 1 個で頂生する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の湿原に生育。

【分布域】

北海道（大雪山）、ヨーロッパ・シベリア・北アメリカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では減少率情報が得られなかった。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾワタスゲ	<i>Eriophorum scheuchzeri</i> var. <i>tenuifolium</i>	CR
第4次 2019:	エゾワタスゲ	<i>Eriophorum scheuchzeri</i> var. <i>tenuifolium</i>	CR
第4次 2018:	エゾワタスゲ	<i>Eriophorum scheuchzeri</i> var. <i>tenuifolium</i>	CR
第4次 2017:	エゾワタスゲ	<i>Eriophorum scheuchzeri</i> var. <i>tenuifolium</i>	CR
第4次 2015:	エゾワタスゲ	<i>Eriophorum scheuchzeri</i> var. <i>tenuifolium</i>	CR
第4次:	エゾワタスゲ	<i>Eriophorum scheuchzeri</i> var. <i>tenuifolium</i>	CR
第3次:	エゾワタスゲ	<i>Eriophorum scheuchzeri</i> var. <i>tenuifolium</i>	CR
第2次:	エゾワタスゲ	<i>Eriophorum scheuchzeri</i> var. <i>tenuifolium</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriophorum scheuchzeri var. *tenuifolium* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eriophorum scheuchzeri* var. *tenuifolium* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トモエバテンツキ

Fimbristylis fimbristyloides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

叢生する。高さ 4-12 cm。小穂は散形花序に多数つく。小穂は長さ 4-5 mm、扁平で先は尖り、2 列に鱗片が並ぶ。果実は長さ 0.8 mm、広倒卵形で 3 稜がある。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

湿地や原野に生育。

【分布域】

琉球（沖縄島・石垣島・西表島）、朝鮮半島（南部）・ミャンマー・マレーシア・オーストラリア北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トモエバテンツキ	<i>Fimbristylis fimbristyloides</i>	CR
第4次 2019:	トモエバテンツキ	<i>Fimbristylis fimbristyloides</i>	CR
第4次 2018:	トモエバテンツキ	<i>Fimbristylis fimbristyloides</i>	CR
第4次 2017:	トモエバテンツキ	<i>Fimbristylis fimbristyloides</i>	CR
第4次 2015:	トモエバテンツキ	<i>Fimbristylis fimbristyloides</i>	CR
第4次:	トモエバテンツキ	<i>Fimbristylis fimbristyloides</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）―レッドデータおきなわ―．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fimbristylis fimbristyloides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Fimbristylis fimbristyloides is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イッスンテンツキ

*Fimbristylis kadzusana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎はない。高さ 5-15 cm。小穂は散形花序に 1-3 個つく。小穂は長楕円形、光沢はない。鱗片は薄膜質、少し縁毛があり、凹頭、やや太い中肋が短く突出する。果実は長さ 1 mm、広倒卵形、レンズ形、黒褐色。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

海岸近くに生育。

【分布域】

本州（千葉県・東海地方）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イッスンテンツキ	<i>Fimbristylis kadzusana</i>	CR
第4次 2019:	イッスンテンツキ	<i>Fimbristylis kadzusana</i>	CR
第4次 2018:	イッスンテンツキ	<i>Fimbristylis kadzusana</i>	CR
第4次 2017:	イッスンテンツキ	<i>Fimbristylis kadzusana</i>	CR
第4次 2015:	イッスンテンツキ	<i>Fimbristylis kadzusana</i>	CR
第4次:	イッスンテンツキ	<i>Fimbristylis kadzusana</i>	CR
第3次:	イッスンテンツキ	<i>Fimbristylis kadzusana</i>	CR
第2次:	イッスンテンツキ	<i>Fimbristylis kadzusana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020—植物編—．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fimbristylis kadzusana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Fimbristylis kadzusana is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウナヅキテンツキ

Fimbristylis nutans

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は基部の鞘に退化している。小穂は長さ 6-10 mm、茎頂に 1 個つく。果実は長さ 1.2-1.5 mm、広倒卵形、表面に顕著な横しわがある。花柱は扁平、縁に毛がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

琉球（石垣島・西表島）、台湾・中国・東南アジア・ニューギニア・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。石垣島と西表島の合計 4 ヶ所で採集された標本があるが、再発見できていない。水田の消失で絶滅したおそれがある。西表島の 1 ヶ所には現存している可能性が残されているため、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウナヅキテンツキ	<i>Fimbristylis nutans</i>	CR
第4次 2019:	ウナヅキテンツキ	<i>Fimbristylis nutans</i>	CR
第4次 2018:	ウナヅキテンツキ	<i>Fimbristylis nutans</i>	CR
第4次 2017:	ウナヅキテンツキ	<i>Fimbristylis nutans</i>	CR
第4次 2015:	ウナヅキテンツキ	<i>Fimbristylis nutans</i>	CR
第4次:	ウナヅキテンツキ	<i>Fimbristylis nutans</i>	CR
第3次:	ウナヅキテンツキ	<i>Fimbristylis nutans</i>	CR
第2次:	ウナヅキテンツキ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fimbristylis nutans has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Fimbristylis nutans is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ビャツコイ

Isolepis crassiuscula

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 5-10 cm、線形でやや円柱形、平滑。花序のある茎は高さ 5-15 cm、基部の他は葉がない。小穂は長さ 5-7 mm、1 個が頂生し、長楕円形。果実は長さ 1.5-1.7 mm、狭倒卵形、光沢があり、灰褐色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湧水地に生育。

【分布域】

福島県（白河市）、インドネシア・ニューギニア・オーストラリア・ニュージーランドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅した。調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ビャッコイ	<i>Isolepis crassiuscula</i>	CR
第4次 2019:	ビャッコイ	<i>Isolepis crassiuscula</i>	CR
第4次 2018:	ビャッコイ	<i>Isolepis crassiuscula</i>	CR
第4次 2017:	ビャッコイ	<i>Isolepis crassiuscula</i>	CR
第4次 2015:	ビャッコイ	<i>Isolepis crassiuscula</i>	CR
第4次:	ビャッコイ	<i>Isolepis crassiuscula</i>	CR
第3次:	ビャッコイ	<i>Isolepis crassiuscula</i>	VU
第2次:	ビャッコイ	<i>Scirpus crassius</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 栃木県[絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Isolepis crassiuscula has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Isolepis crassiuscula* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミクリガヤ

Rhynchospora malasica

カテゴリー判定結果

絶滅危惧 I A 類 (CR)

基準 D+C

推定開花株数が 50 個体未満/推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地下茎は横走する。高さ 40-100 cm。葉は長さ 40 cm、幅 5-10 mm、広線形。頭状花序は径約 1.5 cm、2-5 個つく。小穂は長さ 6-7 mm、卵状披針形、淡赤わら色。果実は長さ 2 mm、平滑、嘴は線形になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

本州（東海・近畿南部・中国）・九州・琉球、朝鮮半島・台湾・マレー半島・インドネシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果

2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発	自然遷移	産地局限

件数		
1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミクリガヤ	<i>Rhynchospora malasica</i>	EN
第4次 2019:	ミクリガヤ	<i>Rhynchospora malasica</i>	EN
第4次 2018:	ミクリガヤ	<i>Rhynchospora malasica</i>	EN
第4次 2017:	ミクリガヤ	<i>Rhynchospora malasica</i>	EN
第4次 2015:	ミクリガヤ	<i>Rhynchospora malasica</i>	EN
第4次:	ミクリガヤ	<i>Rhynchospora malasica</i>	EN
第3次:	ミクリガヤ	<i>Rhynchospora malasica</i>	EN
第2次:	ミクリガヤ	<i>Rhynchospora malasica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅種] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhynchospora malasica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhynchospora malasica* is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and: 1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Wetland development, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバシンジュガヤ

Scleria biflora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ゆるく叢生し、高さ 25-60 cm。葉は長さ 4-23 cm、縁に毛がある。円錐花序の分花序は長さ 2-4 cm、2-4 個が互いに離れて茎の上部から中部につき、無毛。小穂は長さ 3-4 mm、花序にまばらにつく。果実は径 1.8-2.2 mm、球形、白色で格子模様があり、微毛が生え、光沢がある。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

海岸近くの湿地や原野、水田の畦に生育。

【分布域】

南西諸島、朝鮮半島・台湾・中国・インド・スリランカ・東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバシンジュガヤ	<i>Scleria biflora</i>	EN
第4次 2019:	ホソバシンジュガヤ	<i>Scleria biflora</i>	EN
第4次 2018:	ホソバシンジュガヤ	<i>Scleria biflora</i>	EN
第4次 2017:	ホソバシンジュガヤ	<i>Scleria biflora</i>	EN
第4次 2015:	ホソバシンジュガヤ	<i>Scleria biflora</i>	EN
第4次:	ホソバシンジュガヤ	<i>Scleria biflora</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Scleria biflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Scleria biflora* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キリシマノガリヤス

Calamagrostis autumnalis subsp. *autumnalis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-60 cm。葉身はややかたく、大部分が根生し、表面は細脈がいちじるしい。護穎は 5 脈、芒は背面中央より少し下部から出て、膝折れしない。基毛は長さが護穎の半分程度。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地・草原・火山荒原に生育。

【分布域】

伊豆七島・九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キシシマノガリヤス	<i>Calamagrostis autumnalis</i>	CR
第4次 2019:	キシシマノガリヤス	<i>Calamagrostis autumnalis</i>	CR
第4次 2018:	キシシマノガリヤス	<i>Calamagrostis autumnalis</i>	CR
第4次 2017:	キシシマノガリヤス	<i>Calamagrostis autumnalis</i>	CR
第4次 2015:	キシシマノガリヤス	<i>Calamagrostis autumnalis</i>	CR
第4次:	キシシマノガリヤス	<i>Calamagrostis autumnalis</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[準絶滅危惧(NT)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calamagrostis autumnalis subsp. *autumnalis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calamagrostis autumnalis* subsp. *autumnalis* is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

ビロードメヒシバ

Digitaria mollicoma

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

小穂は長さ約 2 mm、卵状楕円形、やや鈍頭。第 2 小花の護穎は黒褐色。総は長さ 6 cm 以下、2-3 本。葉と小穂に密に銀白毛がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸付近の原野や海岸林の林床に生育。

【分布域】

琉球、台湾～マレーシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。1967 年に標本が採集された自生地（久米島）はホテルが建設され絶滅した。他にも自生している可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ビロードメヒシバ	<i>Digitaria mollicoma</i>	CR
第4次 2019:	ビロードメヒシバ	<i>Digitaria mollicoma</i>	CR
第4次 2018:	ビロードメヒシバ	<i>Digitaria mollicoma</i>	CR
第4次 2017:	ビロードメヒシバ	<i>Digitaria mollicoma</i>	CR
第4次 2015:	ビロードメヒシバ	<i>Digitaria mollicoma</i>	CR
第4次:	ビロードメヒシバ	<i>Digitaria mollicoma</i>	CR
第3次:	ビロードメヒシバ	<i>Digitaria mollicoma</i>	CR
第2次:	ビロードメヒシバ	<i>Digitaria mollicoma</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Digitaria mollicoma has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Digitaria mollicoma* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

タイシャクカモジ

Elymus pendulinus var. *pendulinus*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花穂は細く先が垂れ、小穂は長さ 15-20 mm、包穎は 3-5 脈、披針形でとがる。護穎は無毛。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

本州（中国地方）、朝鮮半島・中国（東北）・シベリア東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	道路工事	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タイシャクカモジ	<i>Elymus koryoensis</i>	CR
第4次 2019:	タイシャクカモジ	<i>Elymus koryoensis</i>	CR
第4次 2018:	タイシャクカモジ	<i>Elymus koryoensis</i>	CR
第4次 2017:	タイシャクカモジ	<i>Elymus koryoensis</i>	CR
第4次 2015:	タイシャクカモジ	<i>Elymus koryoensis</i>	CR
第4次:	タイシャクカモジ	<i>Elymus koryoensis</i>	CR
第3次:	タイシャクカモジ	<i>Elymus koryoensis</i>	CR
第2次:	タイシャクカモジ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

広島県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elymus pendulinus var. *pendulinus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Elymus pendulinus* var. *pendulinus* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Road construction

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

エゾムギ

Elymus sibiricus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カモジグサに似るが、花穂は著しく下垂し、一部に小穂を 2(-3)個ずつつけるところがあり、包穎は短い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

深山の林中に生育。

【分布域】

北海道・本州中部以北、ユーラシアの亜寒帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾムギ	<i>Elymus sibiricus</i>	CR
第4次 2019:	エゾムギ	<i>Elymus sibiricus</i>	CR
第4次 2018:	エゾムギ	<i>Elymus sibiricus</i>	CR
第4次 2017:	エゾムギ	<i>Elymus sibiricus</i>	CR
第4次 2015:	エゾムギ	<i>Elymus sibiricus</i>	CR
第4次:	エゾムギ	<i>Elymus sibiricus</i>	CR
第3次:	エゾムギ	<i>Elymus sibiricus</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[情報不足(DD)] 埼玉県[情報不足(DD)] 長野県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elymus sibiricus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Elymus sibiricus* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネエゾムギ

*Elymus yubaridakensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

エゾムギに似るが、包穎は急鋭頭で、上方に歯牙が1つつく。芒は太くて外曲し、護穎の上端につく。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯に生育。

【分布域】

北海道（夕張岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では1メッシュで数十個体の現存が推定された。平均減少率は96%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネエゾムギ	<i>Elymus yubaridakensis</i>	EN
第4次 2019:	タカネエゾムギ	<i>Elymus yubaridakensis</i>	EN
第4次 2018:	タカネエゾムギ	<i>Elymus yubaridakensis</i>	EN
第4次 2017:	タカネエゾムギ	<i>Elymus yubaridakensis</i>	EN
第4次 2015:	タカネエゾムギ	<i>Elymus yubaridakensis</i>	EN
第4次:	タカネエゾムギ	<i>Elymus yubaridakensis</i>	EN
第3次:	タカネエゾムギ	<i>Elymus yubaridakensis</i>	CR
第2次:	タカネエゾムギ	<i>Elymus yubaridakensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elymus yubaridakensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Elymus yubaridakensis* is listed as CR under criteria ACD.
The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

ケナシハイチゴザサ

Isachne lutchuensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハイチゴザサに似るが、小穂がやや小さく、全草無毛で叢生する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の湿地に生育。

【分布域】

琉球に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ケナシハイチゴザサ	<i>Isachne lutchuensis</i>	CR
第4次 2019:	ケナシハイチゴザサ	<i>Isachne lutchuensis</i>	CR
第4次 2018:	ケナシハイチゴザサ	<i>Isachne lutchuensis</i>	CR
第4次 2017:	ケナシハイチゴザサ	<i>Isachne lutchuensis</i>	CR
第4次 2015:	ケナシハイチゴザサ	<i>Isachne lutchuensis</i>	CR
第4次:	ケナシハイチゴザサ	<i>Isachne lutchuensis</i>	CR
第3次:	ケナシハイチゴザサ	<i>Isachne lutchuensis</i>	CR
第2次:	ケナシハイチゴザサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Isachne lutchuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Isachne lutchuensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメハイチゴザサ

*Isachne myosotis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D+C

推定開花株数が 50 個体未満/推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハイチゴザサに似るが、葉身両面に毛が密生、花序は小さい傾向。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

開けた草原や森林の湿地に生育。

【分布域】

琉球に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメハイチゴザサ	<i>Isachne myosotis</i>	CR
第4次 2019:	ヒメハイチゴザサ	<i>Isachne myosotis</i>	CR
第4次 2018:	ヒメハイチゴザサ	<i>Isachne myosotis</i>	CR
第4次 2017:	ヒメハイチゴザサ	<i>Isachne myosotis</i>	CR
第4次 2015:	ヒメハイチゴザサ	<i>Isachne myosotis</i>	CR
第4次:	ヒメハイチゴザサ	<i>Isachne myosotis</i>	CR
第3次:	ヒメハイチゴザサ	<i>Isachne nipponensis</i> var. <i>minor</i>	CR
第2次:	ヒメハイチゴザサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- Iwatsuki, K., D. E. Boufford and H. Ohba, 2020. Flora of Japan, Vol. IVa, Kodansha, Tokyo. 448pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Isachne myosotis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Isachne myosotis* is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

ヒメカモノハシ

Ischaemum indicum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コハナカモノハシに似るが、短柄小穂の第 1 包穎は卵形。葉身は稈の基部には集まってつかず、稈の基部ははう。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の崖に生育。

【分布域】

沖縄県、中国南部～インドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメカモノハシ	<i>Ischaemum indicum</i>	CR
第4次 2019:	ヒメカモノハシ	<i>Ischaemum indicum</i>	CR
第4次 2018:	ヒメカモノハシ	<i>Ischaemum indicum</i>	CR
第4次 2017:	ヒメカモノハシ	<i>Ischaemum indicum</i>	CR
第4次 2015:	ヒメカモノハシ	<i>Ischaemum indicum</i>	CR
第4次:	ヒメカモノハシ	<i>Ischaemum indicum</i>	CR
第3次:	ヒメカモノハシ	<i>Ischaemum indicum</i>	CR
第2次:	ヒメカモノハシ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[情報不足(DD)] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ischaemum indicum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ischaemum indicum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメウシノシツパイ

Mnesithea laevis var. *cochinchinensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

稈は基部で分枝してゆるく束生、斜上し、高さ 20-40 cm、やや硬質で無毛。葉身は長さ 15 cm 内外、線形、葉鞘は無毛で葉身より長い。穂状花序は長さ 5-10 cm、単立、細長い円柱状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低地原野に生育。

【分布域】

沖縄島・西表島、台湾・中国南部・インドシナ・フィリピン・ミクロネシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。沖縄島の 1 ヶ所で採集記録が確認されているが、開発によって自生地は失われたと考えられる。他の自生地がある可能性を考慮し CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメウシノシッペイ	<i>Thaumastochloa cochinchinensis</i>	CR
第4次 2019:	ヒメウシノシッペイ	<i>Thaumastochloa cochinchinensis</i>	CR
第4次 2018:	ヒメウシノシッペイ	<i>Thaumastochloa cochinchinensis</i>	CR
第4次 2017:	ヒメウシノシッペイ	<i>Thaumastochloa cochinchinensis</i>	CR
第4次 2015:	ヒメウシノシッペイ	<i>Thaumastochloa cochinchinensis</i>	CR
第4次:	ヒメウシノシッペイ	<i>Thaumastochloa cochinchinensis</i>	CR
第3次:	ヒメウシノシッペイ	<i>Thaumastochloa cochinchinensis</i>	CR
第2次:	ヒメウシノシッペイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Mnesithea laevis var. *cochinchinensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Mnesithea laevis* var. *cochinchinensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオヌカキビ

Panicum paludosum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

稈の高さ 1 m。葉身は長さ 15-25 cm。円錐花序は長さ 30 cm。小穂は長さ 4 mm、長楕円状披針形。第 1 包穎は長さ 1 mm、第 2 包穎は長さが第 1 小花の護穎と同長。第 2 小花の包穎は長さ 2.5 mm、無毛。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

水湿地に生育。

【分布域】

沖縄県、熱帯アジア・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオヌカキビ	<i>Panicum paludosum</i>	CR
第4次 2019:	オオヌカキビ	<i>Panicum paludosum</i>	CR
第4次 2018:	オオヌカキビ	<i>Panicum paludosum</i>	CR
第4次 2017:	オオヌカキビ	<i>Panicum paludosum</i>	CR
第4次 2015:	オオヌカキビ	<i>Panicum paludosum</i>	CR
第4次:	オオヌカキビ	<i>Panicum paludosum</i>	CR
第3次:	オオヌカキビ	<i>Panicum paludosum</i>	CR
第2次:	オオヌカキビ	<i>Panicum paludosum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Panicum paludosum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Panicum paludosum* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

イネガヤ

Piptatherum kuoi

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 100 cm。葉身は長さ 10-25 cm、線形。円錐花序は長さ 13-20 cm。包穎は 5-7 脈、第 2 包穎がやや大きい。護穎の先端に長い芒が出る。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩地に生育。

【分布域】

沖縄本島、中国・台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イネガヤ	<i>Piptatherum kuoi</i>	CR
第4次 2019:	イネガヤ	<i>Piptatherum kuoi</i>	CR
第4次 2018:	イネガヤ	<i>Piptatherum kuoi</i>	CR
第4次 2017:	イネガヤ	<i>Piptatherum kuoi</i>	CR
第4次 2015:	イネガヤ	<i>Piptatherum kuoi</i>	CR
第4次:	イネガヤ	<i>Piptatherum kuoi</i>	CR
第3次:	イネガヤ	<i>Oryzopsis obtusa</i>	EN
第2次:	イネガヤ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Piptatherum kuoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Piptatherum kuoi* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キタダケイチゴツナギ

Poa glauca var. *kitadakensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

タカネタチイチゴツナギに似るが、花序の枝がやや長く、包穎は長さ 4-5 mm と大きく、護穎は 4-4.5 mm になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯に生育。

【分布域】

南アルプスに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では確実な自生を確認できなかった。産地局限であり、自然遷移により減少している。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	4

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キタダケイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>kitadakensis</i>	CR
第4次 2019:	キタダケイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>kitadakensis</i>	CR
第4次 2018:	キタダケイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>kitadakensis</i>	CR
第4次 2017:	キタダケイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>kitadakensis</i>	CR
第4次 2015:	キタダケイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>kitadakensis</i>	CR
第4次:	キタダケイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>kitadakensis</i>	CR
第3次:	キタダケイチゴツナギ	<i>Poa glauca</i> var. <i>kitadakensis</i>	CR
第2次:	キタダケイチゴツナギ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 長田武正，1989. 日本イネ科植物図譜. 759pp. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Poa glauca var. *kitadakensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Poa glauca* var. *kitadakensis* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハラヌメリ

Sacciolepis myosuroides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヌメリグサに似るが、小穂が小粒で卵形、上位小花がほぼ小穂と同じ長さになる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

台地、丘陵地に生育。

【分布域】

宮崎県、香港・ネパール等に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では1メッシュで数十個体の現存が推定された。平均減少率は85%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハラヌメリ	<i>Sacciolepis myosuroides</i>	CR
第4次 2019:	ハラヌメリ	<i>Sacciolepis myosuroides</i>	CR
第4次 2018:	ハラヌメリ	<i>Sacciolepis myosuroides</i>	CR
第4次 2017:	ハラヌメリ	<i>Sacciolepis myosuroides</i>	CR
第4次 2015:	ハラヌメリ	<i>Sacciolepis myosuroides</i>	CR
第4次:	ハラヌメリ	<i>Sacciolepis myosuroides</i>	CR
第3次:	ハラヌメリ	<i>Sacciolepis myosuroides</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 許田倉園，1988. 日本産イネ科キビ亜科 C3 植物の一新記録-ハラヌメリ-. 植物研究雑誌，63: 102-111.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sacciolepis myosuroides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sacciolepis myosuroides* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コモロコシガヤ

Sorghum nitidum var. *nitidum*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 90-120 cm。葉身は 10-15 cm、狭線形、刺毛状鋭先頭、鞘下部は円く、上部は稜があり、喉部に長い絹毛を密生する。円錐花序は長さ 10-30 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

原野に生育。

【分布域】

琉球、台湾・中国南部・東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 帰化競合		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コモロコシガヤ	<i>Sorghum nitidum</i>	CR
第4次 2019:	コモロコシガヤ	<i>Sorghum nitidum</i>	CR
第4次 2018:	コモロコシガヤ	<i>Sorghum nitidum</i>	CR
第4次 2017:	コモロコシガヤ	<i>Sorghum nitidum</i>	CR
第4次 2015:	コモロコシガヤ	<i>Sorghum nitidum</i>	CR
第4次:	コモロコシガヤ	<i>Sorghum nitidum</i>	CR
第3次:	コモロコシガヤ	<i>Sorghum nitidum</i>	CR
第2次:	コモロコシガヤ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sorghum nitidum var. *nitidum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sorghum nitidum* var. *nitidum* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Invasive species competition
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメネスミノオ

Sporobolus hancei

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 15-30 cm。根茎は匍枝が出ない。花序は長さ 5-8 cm、広線状。小穂は長さ 1.7-2 mm、光沢があり紫色を帯びる。第 1 包穎は長さが小穂の半分かそれより長く、卵形、先は鋭く尖る。

【生活史】

多年草。花期は 6 月。

【生育環境】

海岸の砂地に生育。

【分布域】

鹿児島県・奄美大島・琉球、中国南部・台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	0	0	0	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメネズミノオ	<i>Sporobolus hancei</i>	CR
第4次 2019:	ヒメネズミノオ	<i>Sporobolus hancei</i>	CR
第4次 2018:	ヒメネズミノオ	<i>Sporobolus hancei</i>	CR
第4次 2017:	ヒメネズミノオ	<i>Sporobolus hancei</i>	CR
第4次 2015:	ヒメネズミノオ	<i>Sporobolus hancei</i>	CR
第4次:	ヒメネズミノオ	<i>Sporobolus hancei</i>	CR
第3次:	ヒメネズミノオ	<i>Sporobolus hancei</i>	CR
第2次:	ヒメネズミノオ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sporobolus hancei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sporobolus hancei* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾオオケマン

Corydalis gigantea

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 1 m 以上に達する。茎は直立し、上方に多数の葉をつける。葉は鮮緑色、茎葉は 2-3 回 3 出羽状複葉、小葉は羽状に中～全裂。花序は総状で、茎頂に 1 個、下方の葉腋に 1-3 個生じる。花は長さ 4-11 cm の花序に 10-20 個つく。花は初め白色、淡紅色から後には紅紫色に変化する。花は距を含めて最大 3 cm に達する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

谷川沿いの広葉樹林下に生育。

【分布域】

北海道中部、極東ロシア・中国東北部・朝鮮半島北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾオオケマン	<i>Corydalis gigantea</i>	EN
第4次 2019:	エゾオオケマン	<i>Corydalis gigantea</i>	EN
第4次 2018:	エゾオオケマン	<i>Corydalis gigantea</i>	EN
第4次 2017:	エゾオオケマン	<i>Corydalis gigantea</i>	EN
第4次 2015:	エゾオオケマン	<i>Corydalis gigantea</i>	EN
第4次:	エゾオオケマン	<i>Corydalis gigantea</i>	EN
第3次:	エゾオオケマン	<i>Corydalis curvicalcarata</i>	CR
第2次:	エゾオオケマン	<i>Corydalis curvicalcarata</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Corydalis gigantea has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Corydalis gigantea* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホウザンツツラフジ

Cocculus orbiculatus

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

アオツツラフジに似るが、葉は無毛、楕円形、全縁で切れ込まない点で区別される。アオツツラフジは形態的変異に富み、両種を区別しない見解もある。

【生活史】

常緑つる性多年草。

【生育環境】

暖地の近海の原野に生育。

【分布域】

鹿児島県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	農薬汚染	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホウザンツツラフジ	<i>Cocculus orbiculatus</i>	CR
第4次 2019:	ホウザンツツラフジ	<i>Cocculus orbiculatus</i>	CR
第4次 2018:	ホウザンツツラフジ	<i>Cocculus orbiculatus</i>	CR
第4次 2017:	ホウザンツツラフジ	<i>Cocculus orbiculatus</i>	CR
第4次 2015:	ホウザンツツラフジ	<i>Cocculus orbiculatus</i>	CR
第4次:	ホウザンツツラフジ	<i>Cocculus orbiculatus</i>	CR
第3次:	ホウザンツツラフジ	<i>Cocculus sarmentosus</i>	CR
第2次:	ホウザンツツラフジ	<i>Cocculus sarmentosus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2015. レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物— 8 植物Ⅰ（維管束植物）. 646pp. ぎょうせい，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cocculus orbiculatus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cocculus orbiculatus* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Land development, Pesticide pollution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホウライツツラフジ

Pericampylus formosanus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は広三角状卵形、長さ 3-8 cm。花序は円錐状で 1.5-10 cm。花弁は 6 個で辺縁は内曲し、雄しべは 6 個で基部がときに癒合する。

【生活史】

つる性木本。

【生育環境】

海岸の岩場に生育する。

【分布域】

琉球（宮古島）に分布。国外では、中国（中南部）、台湾、インドシナ半島、インドネシア、フィリピン、インドに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホウライツツラフジ	<i>Pericampylus formosanus</i>	CR
第4次 2019:	ホウライツツラフジ	<i>Pericampylus formosanus</i>	CR
第4次 2018:	ホウライツツラフジ	<i>Pericampylus formosanus</i>	CR
第4次 2017:	ホウライツツラフジ	<i>Pericampylus formosanus</i>	CR
第4次 2015:	ホウライツツラフジ	<i>Pericampylus formosanus</i>	CR
第4次:	ホウライツツラフジ	<i>Pericampylus formosanus</i>	CR
第3次:	ホウライツツラフジ	<i>Pericampylus formosanus</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pericampylus formosanus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pericampylus formosanus* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イイデトリカブト

*Aconitum iudemontanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 120-200 cm。茎葉の葉身は長さ 9-17 cm、腎円形。上萼片は長さ 19-27 mm、円筒状円錐形、嘴は短い。雄蕊は有毛。袋果は長さ 20-30 mm、斜開する。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

林縁や草地の溪流沿いに生育。

【分布域】

山形県（飯豊山地・月山・朝日山地）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 78%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	2	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イイデトリカブト	<i>Aconitum iidemontanum</i>	CR
第4次 2019:	イイデトリカブト	<i>Aconitum iidemontanum</i>	CR
第4次 2018:	イイデトリカブト	<i>Aconitum iidemontanum</i>	CR
第4次 2017:	イイデトリカブト	<i>Aconitum iidemontanum</i>	CR
第4次 2015:	イイデトリカブト	<i>Aconitum iidemontanum</i>	CR
第4次:	イイデトリカブト	<i>Aconitum iidemontanum</i>	CR
第3次:	イイデトリカブト	<i>Aconitum iidemontanum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山形県[絶滅危惧ⅠA類（CR）]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum iidemontanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Aconitum iidemontanum is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウライブシ

Aconitum jaluense subsp. *jaluense*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 50-150 cm。中部の茎葉の葉身は長さ 9-19 cm、五角形状～五角形状円形、厚く鈍い光沢がある。上萼片は長さ 18-28 mm、僧帽形、ときに上部が内曲し、嘴は長い。雄蕊は斜上毛があるか無毛。袋果は長さ 13-15 mm、斜開する。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

林縁や林内に生育。

【分布域】

九州、朝鮮半島・中国東北部・ロシア沿海地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	その他
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウライブシ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>jaluense</i>	CR
第4次 2019:	コウライブシ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>jaluense</i>	CR
第4次 2018:	コウライブシ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>jaluense</i>	CR
第4次 2017:	コウライブシ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>jaluense</i>	CR
第4次 2015:	コウライブシ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>jaluense</i>	CR
第4次:	コウライブシ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>jaluense</i>	CR
第3次:	コウライブシ	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>jaluense</i>	CR
第2次:	コウライブシ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大阪府[EX] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum jaluense subsp. *jaluense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aconitum jaluense* subsp. *jaluense* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution, Other
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キンポウゲ科 Ranunculaceae

イヤリトリカブト

Aconitum japonicum subsp. *maritimum* var. *iyariense*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヤマトリカブトに似るが、茎は長さ 3 m に達し、上部がつる状になる。花序も大型、花は多数つき、雄蕊に密毛がある。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

湿地や流れに沿って生育。

【分布域】

長野県北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで現存個体数が数十個体とされた。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イヤリトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> subsp. <i>maritimum</i> var. <i>iyariense</i>	CR
第4次 2019:	イヤリトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> subsp. <i>maritimum</i> var. <i>iyariense</i>	CR
第4次 2018:	イヤリトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> subsp. <i>maritimum</i> var. <i>iyariense</i>	CR
第4次 2017:	イヤリトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> subsp. <i>maritimum</i> var. <i>iyariense</i>	CR
第4次 2015:	イヤリトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> subsp. <i>maritimum</i> var. <i>iyariense</i>	CR
第4次:	イヤリトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> subsp. <i>maritimum</i> var. <i>iyariense</i>	CR
第3次:	イヤリトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> subsp. <i>maritimum</i> var. <i>iyariense</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum japonicum subsp. *maritimum* var. *iyariense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aconitum japonicum* subsp. *maritimum* var. *iyariense* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キタダケトリカブト

*Aconitum kitadakense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-35 cm。根出葉は花期に枯れるが生存することもある。茎葉の葉身は長さ 3-7 cm、腎円形、3 深裂し、裂片は羽状深裂する。花は散房状～総状花序に 2-6 個がつくか単生する。上萼片は長さ 20-27 mm、円錐形～僧帽形、長い嘴がある。雄蕊は有毛。袋果は長さ約 16 mm。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

高山草原に生育。

【分布域】

南アルプス北岳に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数十個体と推定された。園芸用の採取、登山者による踏みつけの影響が指摘された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キタダケトリカブト	<i>Aconitum kitadakense</i>	CR
第4次 2019:	キタダケトリカブト	<i>Aconitum kitadakense</i>	CR
第4次 2018:	キタダケトリカブト	<i>Aconitum kitadakense</i>	CR
第4次 2017:	キタダケトリカブト	<i>Aconitum kitadakense</i>	CR
第4次 2015:	キタダケトリカブト	<i>Aconitum kitadakense</i>	CR
第4次:	キタダケトリカブト	<i>Aconitum kitadakense</i>	CR
第3次:	キタダケトリカブト	<i>Aconitum kitadakense</i>	CR
第2次:	キタダケトリカブト	<i>Aconitum kitadakense</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum kitadakense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aconitum kitadakense* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オンタケブシ

*Aconitum metajaponicum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 70-180 cm。中部の茎葉の葉身は長さ 8-15 cm、腎円形。上萼片は長さ 19-27 mm、円筒状僧帽形、嘴は短い。雄蕊は有毛。袋果は長さ 20 mm、直立する。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

林内や林縁に生育。

【分布域】

長野県・群馬県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄	帰化競合	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オンタケブシ	<i>Aconitum metajaponicum</i>	CR
第4次 2019:	オンタケブシ	<i>Aconitum metajaponicum</i>	CR
第4次 2018:	オンタケブシ	<i>Aconitum metajaponicum</i>	CR
第4次 2017:	オンタケブシ	<i>Aconitum metajaponicum</i>	CR
第4次 2015:	オンタケブシ	<i>Aconitum metajaponicum</i>	CR
第4次:	オンタケブシ	<i>Aconitum metajaponicum</i>	CR
第3次:	オンタケブシ	<i>Aconitum metajaponicum</i>	CR
第2次:	オンタケブシ	<i>Aconitum metajaponicum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum metajaponicum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aconitum metajaponicum* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Abandonment of management, Invasive species competition

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオサワトリカブト

Aconitum senanense subsp. *senanense* var. *isidzukaе***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ホソバトリカブトに似るが、根出葉は花期にしばしば生存し、背丈は低いが茎がよく分枝し、花数が多く、花弁の距が太く長い。

【生活史】

疑似一年草。

【生育環境】

草原や低木林の林内や林縁に生育。

【分布域】

富士山（大沢周辺）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計約数十個体と推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオサワトリカブト	<i>Aconitum senanense</i> subsp. <i>senanense</i> var. <i>isidzukaе</i>	CR
第4次 2019:	オオサワトリカブト	<i>Aconitum senanense</i> subsp. <i>senanense</i> var. <i>isidzukaе</i>	CR
第4次 2018:	オオサワトリカブト	<i>Aconitum senanense</i> subsp. <i>senanense</i> var. <i>isidzukaе</i>	CR
第4次 2017:	オオサワトリカブト	<i>Aconitum senanense</i> subsp. <i>senanense</i> var. <i>isidzukaе</i>	CR
第4次 2015:	オオサワトリカブト	<i>Aconitum senanense</i> subsp. <i>senanense</i> var. <i>isidzukaе</i>	CR
第4次:	オオサワトリカブト	<i>Aconitum senanense</i> subsp. <i>senanense</i> var. <i>isidzukaе</i>	CR
第3次:	オオサワトリカブト	<i>Aconitum senanense</i> subsp. <i>senanense</i> var. <i>isidzukaе</i>	CR
第2次:	オオサワトリカブト	<i>Aconitum senanense</i> var. <i>isidzukaе</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aconitum senanense subsp. *senanense* var. *isidzuka* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aconitum senanense* subsp. *senanense* var. *isidzuka* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キリギシソウ

*Callianthemum kirigishiense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 17-30 cm。根出葉は 2-6 個、3 回 3 出複葉。小葉は長さ 1.5-2 cm、扇形。花は径 1.9-2.7 cm、白色。花弁は長さ 9-13.5 mm、5-10 個、狭倒卵形～倒卵形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩地の林下や草地に生育。

【分布域】

北海道（岨山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では、1 メッシュに数十個体が現存した。園芸用の採取のために減少していた。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キリギシソウ	<i>Callianthemum kirigishiense</i>	CR
第4次 2019:	キリギシソウ	<i>Callianthemum kirigishiense</i>	CR
第4次 2018:	キリギシソウ	<i>Callianthemum kirigishiense</i>	CR
第4次 2017:	キリギシソウ	<i>Callianthemum kirigishiense</i> subsp. <i>kirigishiense</i>	CR
第4次 2015:	キリギシソウ	<i>Callianthemum kirigishiense</i> subsp. <i>kirigishiense</i>	CR
第4次:	キリギシソウ	<i>Callianthemum kirigishiense</i> subsp. <i>kirigishiense</i>	CR
第3次:	キリギシソウ	<i>Callianthemum sachalinense</i> subsp. <i>kirigishiense</i>	CR
第2次:	キリギシソウ	<i>Callianthemum sachalinense</i> var. <i>kirigishiense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Callianthemum kirigishiense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Callianthemum kirigishiense* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒダカソウ

*Callianthemum miyabeaenum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-25 cm。根出葉は 3-6 個、1-2 回 3 出複葉。小葉は長さ 2-3 cm、卵状腎形。花は径 1.8-2.5 cm、白色まれに淡紅色。花弁は長さ 8-10 mm、8-12 個、倒卵形～広倒卵形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

超塩基性岩地の草地に生育。

【分布域】

北海道（アポイ岳とその周辺）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。園芸採取と遷移により個体数は激減している。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒダカソウ	<i>Callianthemum miyabeanum</i>	CR
第4次 2019:	ヒダカソウ	<i>Callianthemum miyabeanum</i>	CR
第4次 2018:	ヒダカソウ	<i>Callianthemum miyabeanum</i>	CR
第4次 2017:	ヒダカソウ	<i>Callianthemum miyabeanum</i>	CR
第4次 2015:	ヒダカソウ	<i>Callianthemum miyabeanum</i>	CR
第4次:	ヒダカソウ	<i>Callianthemum miyabeanum</i>	CR
第3次:	ヒダカソウ	<i>Callianthemum miyabeanum</i>	CR
第2次:	ヒダカソウ	<i>Callianthemum miyabeanum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Callianthemum miyabeanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Callianthemum miyabeanum is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウヤハンショウヅル

Clematis obvallata var. *obvallata***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は1回3出の複葉、やや革質、小葉は長さ3-9 cm、粗い鋸歯がある。花は直径1.5-2 cm、鐘形、下向きに咲く。花柄は長さ6-12 cm。小苞は葉状、花の基部につき花を被う。瘦果は長さ5 mm、狭卵形、有毛。

【生活史】

つる性木本。

【生育環境】

林縁や林内に生育。

【分布域】

本州（紀伊山地）・四国（四国山地）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では7メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は63%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
7	0	0	0	0	0	7	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 自然遷移	不明	
件数 3	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウヤハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>obvallata</i>	CR
第4次 2019:	コウヤハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>obvallata</i>	CR
第4次 2018:	コウヤハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>obvallata</i>	CR
第4次 2017:	コウヤハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>obvallata</i>	CR
第4次 2015:	コウヤハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>obvallata</i>	CR
第4次:	コウヤハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>obvallata</i>	CR
第3次:	コウヤハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>obvallata</i>	CR
第2次:	コウヤハンショウヅル	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 奈良県[絶滅危惧種] 和歌山県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 徳島県[絶滅危惧 IA 類] 愛媛県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Clematis obvallata var. *obvallata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Clematis obvallata* var. *obvallata* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キンポウゲ科 Ranunculaceae

リュウキュウヒキノカサ

Ranunculus ternatus var. *lutchuensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒキノカサに似るが、全体に大型となり高さ 30 cm に達し、葉がごく浅く切れ込んで低平な鋸歯がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

日当たりのよい湿った草地に生育。

【分布域】

沖縄県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで数十個体と推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>lutchuensis</i>	CR
第4次 2019:	リュウキュウヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>lutchuensis</i>	CR
第4次 2018:	リュウキュウヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>lutchuensis</i>	CR
第4次 2017:	リュウキュウヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>lutchuensis</i>	CR
第4次 2015:	リュウキュウヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>lutchuensis</i>	CR
第4次:	リュウキュウヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>lutchuensis</i>	CR
第3次:	リュウキュウヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>lutchuensis</i>	CR
第2次:	リュウキュウヒキノカサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ranunculus ternatus var. *lutchuensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ranunculus ternatus* var. *lutchuensis* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウリュウキンポウゲ

*Ranunculus uryuensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-20 cm で、根茎は水平に伸長し、根は紡錘状に肥厚するかひも状。葉は 3 中裂し、基部は浅い心形または心形。集散花序に黄色で径約 1.5 cm の花を 2-4 個つける。茎、葉、花柄、萼片に伏毛がある。陸生する同属近縁種群と比較して、花卉の蜜腺が皿状でこれを覆う唇状の付属体があり、葉が単葉で、匍枝があることで区別される。

【生活史】

多年草。花期は 6 月。

【生育環境】

超塩基性岩地の湿性草地に生育。

【分布域】

北海道道北地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Kadota, Y., 2012. Two New Species of *Ranunculus* (Ranunculaceae) from Japan. *Journal of Japanese Botany*, 87: 375–384.
- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ranunculus uryuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ranunculus uryuensis* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤツガタケキンポウゲ

*Ranunculus yatsugatakensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 13-20 cm。根出葉の葉身は長さ 6-12 mm、腎円形、3 中裂～深裂する。花は径 7-10 mm、単生し、黄色。花弁は長さ 4-5 mm、5 個、円形～広卵形。瘦果は長さ約 1.5 mm、倒卵形、無毛、嘴は先端のみ屈曲する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の苔むした岩上に生育。

【分布域】

本州中部（八ヶ岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤツガタケキンボウゲ	<i>Ranunculus yatsugatakensis</i>	CR
第4次 2019:	ヤツガタケキンボウゲ	<i>Ranunculus yatsugatakensis</i>	CR
第4次 2018:	ヤツガタケキンボウゲ	<i>Ranunculus yatsugatakensis</i>	CR
第4次 2017:	ヤツガタケキンボウゲ	<i>Ranunculus yatsugatakensis</i>	CR
第4次 2015:	ヤツガタケキンボウゲ	<i>Ranunculus yatsugatakensis</i>	CR
第4次:	ヤツガタケキンボウゲ	<i>Ranunculus yatsugatakensis</i>	CR
第3次:	ヤツガタケキンボウゲ	<i>Ranunculus yatsugatakensis</i>	EN
第2次:	ヤツガタケキンボウゲ	<i>Ranunculus yatsugatakensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ranunculus yatsugatakensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Ranunculus yatsugatakensis is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミョウギカラマツ

Thalictrum minus var. *chionophyllum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アキカラマツに似るが、全体が無毛、小葉の上面が青緑色、下面が雪白色、果柄は長さ 15-30 mm、果序はまばらになる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩壁に生育。

【分布域】

本州（群馬県・埼玉県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヨウギカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>chionophyllum</i>	CR
第4次 2019:	ミヨウギカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>chionophyllum</i>	CR
第4次 2018:	ミヨウギカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>chionophyllum</i>	CR
第4次 2017:	ミヨウギカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>chionophyllum</i>	CR
第4次 2015:	ミヨウギカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>chionophyllum</i>	CR
第4次:	ミヨウギカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>chionophyllum</i>	CR
第3次:	ミヨウギカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>chionophyllum</i>	CR
第2次:	ミヨウギカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>chionophyllum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum minus var. *chionophyllum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thalictrum minus* var. *chionophyllum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムラサキカラマツ

Thalictrum uchiyamae

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 15-40 cm。根出葉は 2-4 回 3 出複葉、小葉は長さ幅ともに 1.5-3.5 cm、広倒卵形～倒卵形。花序は散房状。萼片は長さ 2-3 mm、倒卵形、濃紫色。瘦果は長さ 4 mm、2-3 個、紡錘形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩礫地や疎林の林床に生育。

【分布域】

九州（対馬・平戸島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムラサキカラマツ	<i>Thalictrum uchiyamae</i>	EN
第4次 2019:	ムラサキカラマツ	<i>Thalictrum uchiyamae</i>	EN
第4次 2018:	ムラサキカラマツ	<i>Thalictrum uchiyamae</i>	EN
第4次 2017:	ムラサキカラマツ	<i>Thalictrum uchiyamae</i>	EN
第4次 2015:	ムラサキカラマツ	<i>Thalictrum uchiyamae</i>	EN
第4次:	ムラサキカラマツ	<i>Thalictrum uchiyamae</i>	EN
第3次:	ムラサキカラマツ	<i>Thalictrum uchiyamae</i>	EN
第2次:	オオミヤマカラマツ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum uchiyamae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Thalictrum uchiyamae* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウジカラマツ

*Thalictrum ujiinsulare***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒレフリカラマツに似るが、花序は長さ 7-8 cm、径 15 cm と大きく、散房状になる。根出葉も柄を含め長さ 50 cm と大型になり、下面は灰緑色にならない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩壁に生育。

【分布域】

鹿児島県（宇治群島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウジカラマツ	<i>Thalictrum ujiinsulare</i>	CR
第4次 2019:	ウジカラマツ	<i>Thalictrum ujiinsulare</i>	CR
第4次 2018:	ウジカラマツ	<i>Thalictrum ujiinsulare</i>	CR
第4次 2017:	ウジカラマツ	<i>Thalictrum ujiinsulare</i>	CR
第4次 2015:	ウジカラマツ	<i>Thalictrum ujiinsulare</i>	CR
第4次:	ウジカラマツ	<i>Thalictrum ujiinsulare</i>	CR
第3次:	ウジカラマツ	<i>Thalictrum ujiinsulare</i>	CR
第2次:	ウジカラマツ	<i>Thalictrum ujiensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thalictrum ujiinsulare has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Thalictrum ujiinsulare is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

レブンキンバイソウ

Trollius rebunensis

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 40-80 cm で、葉身は腎円形で 3 全裂し、裂片はさらに浅く 3 裂する。花は茎頂に単生し、橙黄色。よく似るチシマノキンバイソウ *Trollius riederianus* とは、萼片が 5-13 個で内側が斜開し花がボウル形となること、花弁がやや肉質で雄蕊よりも長い点で区別できる。またアジア大陸東部に分布するオクキンバイソウ *Trollius ledebourii* にも花弁が長く萼片の数が多い点で似るが、花弁が薄質で蜜腺が発達しないこと、萼片が平開して花が皿形になることでレブンキンバイソウと異なる。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

海岸草原に生育。

【分布域】

北海道礼文島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

< 10	< 50	< 100	< 1000	< 10000	> 10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		

件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- Kadota, Y., 2016. A revision of the Genus *Trollius* (Ranunculaceae) in Japan. Journal of Japanese Botany, 91 Suppl.: 178–200.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Trollius rebunensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Trollius rebunensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ツゲ科 Buxaceae

タイワンアサマツゲ

Buxus microphylla subsp. *sinica*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒメツゲの変種。葉は長さ 1.5-3 cm と長い、幅が 0.5-1 cm と狭く、小枝が灰黄色。

【生活史】

常緑の小高木で、雌雄同株。

【生育環境】

山地の林内に生育する。

【分布域】

琉球（沖縄島、魚釣島）に分布。国外では台湾、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存と報告された。現状不明のメッシュが他に 1 つあるが、ノヤギの影響が危惧されている。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾アサマツゲ	<i>Buxus sinica</i> var. <i>sinica</i>	CR
第4次 2019:	台湾アサマツゲ	<i>Buxus sinica</i> var. <i>sinica</i>	CR
第4次 2018:	台湾アサマツゲ	<i>Buxus sinica</i> var. <i>sinica</i>	CR
第4次 2017:	台湾アサマツゲ	<i>Buxus sinica</i> var. <i>sinica</i>	CR
第4次 2015:	台湾アサマツゲ	<i>Buxus sinica</i> var. <i>sinica</i>	CR
第4次:	台湾アサマツゲ	<i>Buxus sinica</i> var. <i>sinica</i>	CR
第3次:	台湾アサマツゲ	<i>Buxus microphylla</i> subsp. <i>sinica</i>	CR
第2次:	台湾アサマツゲ	<i>Buxus microphylla</i> var. <i>sinica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Buxus microphylla subsp. *sinica* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Buxus microphylla* subsp. *sinica* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒゴミズキ

Corylopsis gotoana var. *pubescens***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 3-5 m。基準変種のコウヤミズキに似るが、若枝に宿存する長軟毛と星状毛が密生し、葉柄や花序軸にも長軟毛が多少とも生える。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

低山地の疎林内。蛇紋岩地に生育する。

【分布域】

九州（熊本県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では数個体の現存が確認された。土地造成によって減少したとされる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒゴミズキ	<i>Corylopsis gotoana</i> var. <i>pubescens</i>	CR
第4次 2019:	ヒゴミズキ	<i>Corylopsis gotoana</i> var. <i>pubescens</i>	CR
第4次 2018:	ヒゴミズキ	<i>Corylopsis gotoana</i> var. <i>pubescens</i>	CR
第4次 2017:	ヒゴミズキ	<i>Corylopsis gotoana</i> var. <i>pubescens</i>	CR
第4次 2015:	ヒゴミズキ	<i>Corylopsis gotoana</i> var. <i>pubescens</i>	CR
第4次:	ヒゴミズキ	<i>Corylopsis gotoana</i> var. <i>pubescens</i>	CR
第3次:	ヒゴミズキ	<i>Corylopsis gotoana</i> var. <i>pubescens</i>	EN
第2次:	ヒゴミズキ	<i>Corylopsis gotoana</i> var. <i>pubescens</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Corylopsis gotoana var. *pubescens* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Corylopsis gotoana* var. *pubescens* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クロミノハリスグリ

Ribes horridum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

幹は高さ 1 m 内外。よく分枝し、枝に細かい棘が密生する。冬芽の鱗片葉は硬い膜質。葉身は長さ幅とも 3.5-6.5 cm。花柄の中ほどに関節がある。総状花序は 7-9 花をつける。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

北海道中部に分布。国外では、朝鮮半島、サハリン、シベリア東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	道路工事	シカ食害
件数 3	3	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クロミノハリスグリ	<i>Ribes horridum</i>	CR
第4次 2019:	クロミノハリスグリ	<i>Ribes horridum</i>	CR
第4次 2018:	クロミノハリスグリ	<i>Ribes horridum</i>	CR
第4次 2017:	クロミノハリスグリ	<i>Ribes horridum</i>	CR
第4次 2015:	クロミノハリスグリ	<i>Ribes horridum</i>	CR
第4次:	クロミノハリスグリ	<i>Ribes horridum</i>	CR
第3次:	クロミノハリスグリ	<i>Ribes horridum</i>	CR
第2次:	クロミノハリスグリ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ribes horridum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ribes horridum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Road construction, Deer feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミチャルメルソウ

*Asimitellaria amamiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒメチャルメルソウに似るが、植物体が明瞭に大きく、花には 0-3 個の花弁が生じる。高さ 6-11 cm。根出葉は長さ 1.7-2.9 cm、卵形、基部は深い心形、両面に白色の粗い毛がある。葉柄は長さ 3-6 cm。托葉は長さ約 2 mm、左右合生して卵形。花は花茎先端に 2-3 個が接近してつく。萼筒は長さ 3.5 mm、鐘状倒円錐形。

【生活史】

多年草。花期は 3-4 月。

【生育環境】

山地の陰湿な岩壁に生育。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

近接した複数の分集団が存在するが、1 箇所を除き個体数は著しく少ない。本種の性質上、これらの分集団が本種の遺伝的多様性の重要な構成要素になっている可能性が高く、調査が必要である。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミチャルメルソウ	<i>Mitella amamiana</i>	CR
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asimitellaria amamiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Asimitellaria amamiana is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオチダケサシ

Astilbe chinensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

チダケサシに似るが、根出葉は 2-3 回 3 出複葉、花軸には長さ 1-2 mm の縮れた綿毛を密生し、花卉はほぼ線形で長さ 5 mm 位になる。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

河川上流部の河辺、河床の岩上などに生育する。

【分布域】

九州（対馬）、中国・朝鮮半島・アムール・ウスリー。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	シカ食害	
件数 2	2	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオチダケサシ	<i>Astilbe rubra</i>	VU
第4次 2019:	オオチダケサシ	<i>Astilbe rubra</i>	VU
第4次 2018:	オオチダケサシ	<i>Astilbe rubra</i>	VU
第4次 2017:	オオチダケサシ	<i>Astilbe rubra</i>	VU
第4次 2015:	オオチダケサシ	<i>Astilbe rubra</i>	VU
第4次:	オオチダケサシ	<i>Astilbe rubra</i>	VU
第3次:	オオチダケサシ	<i>Astilbe rubra</i>	VU
第2次:	オオチダケサシ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 長崎県県民生活環境部自然保護課，2001. ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック 2001. 長崎県県民生活環境部自然保護課，568pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Astilbe chinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Astilbe chinensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Deer feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツシマアカショウマ

*Astilbe tsushimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

九州本島産のツクシアカショウマとは、小葉に光沢がないこと、花軸と花梗に暗紫褐色の腺毛があることで区別される。

【生活史】

花期は 6 月。

【生育環境】

常緑樹林の林縁に生育。

【分布域】

長崎県対馬に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

ツシマジカの採食により大きく減少している。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	産地局限	
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Astilbe tsushimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Astilbe tsushimensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Limited distribution
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キヨシソウ

Saxifraga bracteata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 2–20 cm、単一～数回分枝する。根出葉は有柄で、腋に楕円状の珠芽ができる。葉柄は長さ 1–8 cm。葉身は円腎形、基部は心形、径 1–4 cm、浅く 5–7 裂し、裂片は広卵形で先端は微凸形となる。花は集散花序にまばらにつき、花弁は白色、倒卵形で、長さ約 5 mm、雄蕊は 10 個、子房は中位。蒴果は長さ 8 mm 程、花後発達し広倒卵形。成花期を過ぎるころには根生葉は枯れ、茎の基部から走出枝を出す。

【生活史】

多年草。花期は 6–7 月。

【生育環境】

海岸近くの湿った岩上に生える。

【分布域】

南千島・北海道（根室付近・知床半島）、サハリン・千島列島・カムチャツカ半島・ベーリング海沿岸・アラスカ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キヨシソウ	<i>Saxifraga bracteata</i>	CR
第4次 2019:	キヨシソウ	<i>Saxifraga bracteata</i>	CR
第4次 2018:	キヨシソウ	<i>Saxifraga bracteata</i>	CR
第4次 2017:	キヨシソウ	<i>Saxifraga bracteata</i>	CR
第4次 2015:	キヨシソウ	<i>Saxifraga bracteata</i>	CR
第4次:	キヨシソウ	<i>Saxifraga bracteata</i>	CR
第3次:	キヨシソウ	<i>Saxifraga bracteata</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 梅沢俊，2018. 北海道の草花. 399pp. 北海道新聞社，札幌.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saxifraga bracteata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Saxifraga bracteata is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユウバリクモマグサ

Saxifraga bronchialis subsp. *funstonii* var. *yuparensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D+C

推定開花株数が 50 個体未満/推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シコタンソウに似るが、葉の先端が 3 裂し、縁毛が生える。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の岩上に生える。

【分布域】

北海道（夕張岳）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ユウバリクモマグサ	<i>Saxifraga yuparensis</i>	CR
第4次 2019:	ユウバリクモマグサ	<i>Saxifraga yuparensis</i>	CR
第4次 2018:	ユウバリクモマグサ	<i>Saxifraga yuparensis</i>	CR
第4次 2017:	ユウバリクモマグサ	<i>Saxifraga yuparensis</i>	CR
第4次 2015:	ユウバリクモマグサ	<i>Saxifraga yuparensis</i>	CR
第4次:	ユウバリクモマグサ	<i>Saxifraga yuparensis</i>	CR
第3次:	ユウバリクモマグサ	<i>Saxifraga yuparensis</i>	CR
第2次:	ユウバリクモマグサ	<i>Saxifraga yuparensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saxifraga bronchialis subsp. *funstonii* var. *yuparensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Saxifraga bronchialis* subsp. *funstonii* var. *yuparensis* is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾノクモマグサ

*Saxifraga nishidae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

多年草。根茎は細く、多数の枝を分け、地上茎を束生する。地上茎は短く、高さ 2 cm 以下で、葉を多数密生する。葉は倒披針形で、長さ 3–8 mm、幅 2–3 mm、先端が 3 裂、基部は長いくさび形、縁には短腺毛を散生する。花茎は高さ 2–6 cm、短腺毛があり、上方には数個の披針形～線形の葉をつけ、頂に 1–3 花をつける。花弁は狭長楕円形で鋭頭、長さ 6–7 mm、花時に斜開し白色で、黄色ときに上部のみ紅色の細点があり、裂開直前の葯は淡黄色、子房は上位。

【生活史】

多年草。花期は 7–8 月。

【生育環境】

高山の岩礫地に生える。

【分布域】

北海道（夕張岳・芦別岳）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	産地局限	

自然遷移		
件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾノクモマグサ	<i>Saxifraga nishidae</i>	CR
第4次 2019:	エゾノクモマグサ	<i>Saxifraga nishidae</i>	CR
第4次 2018:	エゾノクモマグサ	<i>Saxifraga nishidae</i>	CR
第4次 2017:	エゾノクモマグサ	<i>Saxifraga nishidae</i>	CR
第4次 2015:	エゾノクモマグサ	<i>Saxifraga nishidae</i>	CR
第4次:	エゾノクモマグサ	<i>Saxifraga nishidae</i>	CR
第3次:	エゾノクモマグサ	<i>Saxifraga nishidae</i>	CR
第2次:	エゾノクモマグサ	<i>Saxifraga nishidae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saxifraga nishidae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Saxifraga nishidae* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオチチツパベンケイ

Hylotelephium sordidum var. *oishii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

チチツパベンケイに似るが、萼、葯、子房に乳頭毛が密に生える。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩礫地に生育する。

【分布域】

太平洋側の茨城県、福島県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 産地局限		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオチチツパベンケイ	<i>Hylotelephium sordidum</i> var. <i>oishii</i>	EN
第4次 2019:	オオチチツパベンケイ	<i>Hylotelephium sordidum</i> var. <i>oishii</i>	EN
第4次 2018:	オオチチツパベンケイ	<i>Hylotelephium sordidum</i> var. <i>oishii</i>	EN
第4次 2017:	オオチチツパベンケイ	<i>Hylotelephium sordidum</i> var. <i>oishii</i>	EN
第4次 2015:	オオチチツパベンケイ	<i>Hylotelephium sordidum</i> var. <i>oishii</i>	EN
第4次:	オオチチツパベンケイ	<i>Hylotelephium sordidum</i> var. <i>oishii</i>	EN
第3次:	オオチチツパベンケイ	<i>Hylotelephium sordidum</i> var. <i>oishii</i>	EN
第2次:	オオチチツパベンケイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 茨城県[絶滅危惧 I B 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hylotelephium sordidum var. *oishii* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hylotelephium sordidum* var. *oishii* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナナツガマンネングサ

Sedum drymarioides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎は長さ5-20 cm。全体に腺状毛がある。葉は互生し、卵形～卵円形、長さ2-4 cm。茎頂や枝頂に総状集散花序を出し、花はややまばらに互生。花弁は白色で基部でわずかに合生。

【生活史】

1年草または越年草。

【生育環境】

石灰岩上に生育する。

【分布域】

長崎県に分布。国外では中国に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では2メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は85%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 園芸採取	自然遷移	産地局限
件数 2	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナナツガママンネングサ	<i>Sedum drymarioides</i>	CR
第4次 2019:	ナナツガママンネングサ	<i>Sedum drymarioides</i>	CR
第4次 2018:	ナナツガママンネングサ	<i>Sedum drymarioides</i>	CR
第4次 2017:	ナナツガママンネングサ	<i>Sedum drymarioides</i>	CR
第4次 2015:	ナナツガママンネングサ	<i>Sedum drymarioides</i>	CR
第4次:	ナナツガママンネングサ	<i>Sedum drymarioides</i>	CR
第3次:	ナナツガママンネングサ	<i>Sedum drymarioides</i>	CR
第2次:	ナナツガママンネングサ	<i>Sedum drymarioides</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sedum drymarioides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sedum drymarioides* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハマヤブガラシ

Causonis maritima

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

常緑の多年生つる植物。若い茎の節は有毛、巻ひげは葉と対生し、通常 3 岐する。葉は 3 小葉からなり、頂小葉は卵形ないし菱形、側小葉は斜形、長さ 2-5 cm、幅 1.5-2.5 cm、葉縁は小円鋸歯状、上面と下面の中肋には圧毛があり、托葉は 2 個、三角形、葉柄は長さ 2-4 cm。花序は腋生し、3-5 個の集散花序に分かれる。萼片と花弁には乳頭状突起があり、花冠は淡緑色ないし淡黄色で、長さ 2 mm、花糸は長さ 1.5 mm、葯は長さ 0.5 mm。液果は黒熟し、中に 2-4 個の種子を含む。

【生活史】

花期は春から夏。

【生育環境】

亜熱帯の海岸林の林縁に生育。周辺の樹木にはい上がる。

【分布域】

沖縄県（新城島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

自生地はごく狭い 1 カ所に限られ、開発される恐れがある。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Causonis maritima has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Causonis maritima* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾモメンヅル

Astragalus japonicus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 25-40 cm。茎は直立。小葉は 7-15 枚、長楕円形または楕円形、先端はやや凹形、長さ 1.5-3 cm、幅 7-13 mm、表面は無毛で裏面に白軟毛がある。花序は総状、4-6 花をつけ、花は紅紫色、長さ約 2 cm。萼は長さ 5-6 mm、白軟毛をやや密生する。豆果は長楕円形で袋状にふくらみ無毛、長さ約 2 cm、下側の縫合線はわずかに凹入して溝状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸から山地の岩場周辺に生育する。

【分布域】

南千島（国後島・択捉島）・北海道（知床半島海岸・斜里岳）、千島列島中部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾモメンヅル	<i>Astragalus japonicus</i>	CR
第4次 2019:	エゾモメンヅル	<i>Astragalus japonicus</i>	CR
第4次 2018:	エゾモメンヅル	<i>Astragalus japonicus</i>	CR
第4次 2017:	エゾモメンヅル	<i>Astragalus japonicus</i>	CR
第4次 2015:	エゾモメンヅル	<i>Astragalus japonicus</i>	CR
第4次:	エゾモメンヅル	<i>Astragalus japonicus</i>	CR
第3次:	エゾモメンヅル	<i>Astragalus japonicus</i>	CR
第2次:	エゾモメンヅル	<i>Astragalus japonicus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016．改訂新版日本の野生植物 2．381pp., 256pls. 平凡社，東京．
- 梅沢俊，2018．北海道の草花．399pp. 北海道新聞社，札幌．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Astragalus japonicus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Astragalus japonicus is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ガランピネムチャ

Chamaecrista garambiensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

匍匐または斜上する。茎は根元で分岐し、高さ5-20 cm。葉は20-40対の小葉からなる偶数羽状複葉、狭長楕円形、長さ3-6 cm、葉柄の上側に円盤状の蜜腺が1個ある。小葉は長さ3-5 mm、幅0.5-1 mmで偏狭長楕円形、上面は無毛、下面と縁には白軟毛がある。総状花序は葉腋のやや上につき、2花つけるが1花のみ開花する。花は黄色で径15-25 mm、花弁は5枚、雄蕊は9個。豆果は狭長楕円形で扁平、一様な軟毛に覆われ、長さ3.5-5 cm、幅約4 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の断崖や原野の風衝地など、強風のため高茎の植物の生育が押さえられるような立地に生育する。

【分布域】

宮古島・石垣島・西表島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では2メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は85%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目

要因 帰化競合		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ガランピネムチャ	<i>Cassia mimosoides</i>	EN
第4次 2019:	ガランピネムチャ	<i>Cassia mimosoides</i>	EN
第4次 2018:	ガランピネムチャ	<i>Cassia mimosoides</i>	EN
第4次 2017:	ガランピネムチャ	<i>Cassia mimosoides</i>	EN
第4次 2015:	ガランピネムチャ	<i>Cassia mimosoides</i>	EN
第4次:	ガランピネムチャ	<i>Cassia mimosoides</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chamaecrista garambiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Chamaecrista garambiensis is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Invasive species competition
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ガクタヌキマメ

Crotalaria calycina

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30–90 cm。全体に絹毛が生える。葉は 1 小葉で長さ 4–9 cm、線形～披針形。頂生の総状花序に 2–12 個の蝶形花をつける。萼は花冠より大きく、長さ 2–3 cm、褐色の絹毛を密生する。花冠は淡黄色。豆果は線状楕円形で長さ約 1.5 cm、無毛、20–30 個の種子を入れる。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

原野に生える。

【分布域】

石垣島・西表島、台湾・中国・東南アジア・西アジア・アフリカ・オーストラリア北部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	–	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ガクタヌキマメ	<i>Crotalaria calycina</i>	CR
第4次 2019:	ガクタヌキマメ	<i>Crotalaria calycina</i>	CR
第4次 2018:	ガクタヌキマメ	<i>Crotalaria calycina</i>	CR
第4次 2017:	ガクタヌキマメ	<i>Crotalaria calycina</i>	CR
第4次 2015:	ガクタヌキマメ	<i>Crotalaria calycina</i>	CR
第4次:	ガクタヌキマメ	<i>Crotalaria calycina</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016．改訂新版日本の野生植物 2．381pp., 256pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crotalaria calycina has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Crotalaria calycina is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤエヤマタヌキマメ

Crotalaria montana var. *angustifolia*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 D
推定開花株数が 50 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 30 cm から 1 m に達する。葉は単葉でほとんど柄がなく、線形～狭倒卵状楕円形、長さ 2-3 cm、幅 3-7 mm。頂生の総状花序は長さ 2-10 cm、長さ 5-7 mm の蝶形花が多数まばらにつく。花弁は鮮黄色で萼より短い。豆果は楕円形、袋状で無毛、長さ 5-6 mm、幅約 4 mm、萼と同長さかやや長く、黒色の光沢のある種子を多数含む。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

草原や道端、牧場や耕作地の周辺など、やや二次的な環境に生える。

【分布域】

久米島・石垣島・西表島、台湾・中国・インドシナ・インド・マレーシア・インドネシア・ニューギニア・オーストラリア北部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。数十個体の現存情報が得られている。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤエヤマタヌキマメ	<i>Crotalaria montana</i> var. <i>angustifolia</i>	CR
第4次 2019:	ヤエヤマタヌキマメ	<i>Crotalaria montana</i> var. <i>angustifolia</i>	CR
第4次 2018:	ヤエヤマタヌキマメ	<i>Crotalaria montana</i> var. <i>angustifolia</i>	CR
第4次 2017:	ヤエヤマタヌキマメ	<i>Crotalaria montana</i> var. <i>angustifolia</i>	CR
第4次 2015:	ヤエヤマタヌキマメ	<i>Crotalaria montana</i> var. <i>angustifolia</i>	CR
第4次:	ヤエヤマタヌキマメ	<i>Crotalaria montana</i> var. <i>angustifolia</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crotalaria montana var. *angustifolia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Crotalaria montana* var. *angustifolia* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エダウチタヌキマメ

Crotalaria uncinella

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-60 cm。葉は 3 小葉、葉柄は 1-1.5 cm、小葉は楕円形～倒卵形、表面は無毛で裏面は短毛を有し、頂小葉は長さ 1.5-2.5 cm、幅約 1 cm。総状花序は頂生または腋生、4-12 花をつける。花は黄色、花弁は長さ 5-6 mm で萼より長く、萼は長さ 3-4 mm で 5 深裂し、裂片は長さ約 2 mm。豆果は長さ 5-6 mm、幅 4-5 mm、球形～広楕円形、短毛で被われ、2 種子を入れる。

【生活史】

多年草、または茎下部が木化して亜低木状。枝の上部はしばしば横臥する。

【生育環境】

海崖上または斜面上部の風衝地に生育する。

【分布域】

伊是名島、台湾南部・中国東南部（広東・海南・広西）・ベトナム・タイ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

伊是名島の集団はその生育状況から自生と考えられる。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エダウチタヌキマメ	<i>Crotalaria uncinella</i>	CR
第4次 2019:	エダウチタヌキマメ	<i>Crotalaria uncinella</i>	CR
第4次 2018:	エダウチタヌキマメ	<i>Crotalaria uncinella</i>	CR
第4次 2017:	エダウチタヌキマメ	<i>Crotalaria uncinella</i>	CR
第4次 2015:	エダウチタヌキマメ	<i>Crotalaria uncinella</i>	CR
第4次:	エダウチタヌキマメ	<i>Crotalaria uncinella</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crotalaria uncinella has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Crotalaria uncinella is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

モダマ

Entada tonkinensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

大きなものでは幹の径 30 cm に達する。葉は長い柄があり、4 個の羽片があり、先端にしばしば巻きひげをつける。各羽片は 2、4 または 6 小葉をつける。小葉は長さ 3-8 cm、全縁、革質で光沢があり、ややゆがんだ長楕円形または倒卵形。穂状花序は有柄、長さ 12-25 cm、密に花をつける。花は黄緑色、長さ約 6 mm、花弁は 5 個。豆果は木質、線形、長さ 80-120 cm、幅 7-12 cm、全体はやや湾曲し、9-13 個の種子を入れる。種子はほぼ円形～広楕円形で直径 5-7.5 cm、厚さ 1.5-2.3 cm と扁平で、濃いあずき色～黒褐色。

【生活史】

大型のつる性常緑木本。花期は 3-8 月。

【生育環境】

海岸近くの常緑樹林内に生える。

【分布域】

鹿児島県（屋久島・奄美大島）、台湾中部・中国南部・ベトナム北部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	モダマ	<i>Entada tonkinensis</i>	CR
第4次 2019:	モダマ	<i>Entada tonkinensis</i>	CR
第4次 2018:	モダマ	<i>Entada tonkinensis</i>	CR
第4次 2017:	モダマ	<i>Entada tonkinensis</i>	CR
第4次 2015:	モダマ	<i>Entada tonkinensis</i>	CR
第4次:	モダマ	<i>Entada tonkinensis</i>	CR
第3次:	モダマ	<i>Entada phaseoloides</i>	CR
第2次:	モダマ	<i>Entada phaseoloides</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Entada tonkinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Entada tonkinensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンミヤマトベラ

Euchresta formosana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 50-150 cm。葉は互生し、小葉は 5-9 個、狭卵形～長楕円形、長さ 7-13 cm、幅 2-5 cm、鋭頭～鋭尖頭、表面は無毛、裏面はやや白色を帯びて淡緑色、短毛を密生する。総状花序は長さ 20 cm に達し、直立。花弁は 5 枚、白色。萼は鐘状、基部は斜形、長さ 7-8 mm、幅 4-5 mm。豆果は長さ 18-22 mm、1 個の種子を入れる。

【生活史】

常緑の低木。花期は 6 月。

【生育環境】

自然林内の陰湿な斜面に生える。

【分布域】

琉球（沖縄島・西表島）、台湾・フィリピン・ジャワ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。1 メッシュで現存が確認され、現存個体数は数個体と推定される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾ミヤマトベラ	<i>Euchresta formosana</i>	CR
第4次 2019:	台湾ミヤマトベラ	<i>Euchresta formosana</i>	CR
第4次 2018:	台湾ミヤマトベラ	<i>Euchresta formosana</i>	CR
第4次 2017:	台湾ミヤマトベラ	<i>Euchresta formosana</i>	CR
第4次 2015:	台湾ミヤマトベラ	<i>Euchresta formosana</i>	CR
第4次:	台湾ミヤマトベラ	<i>Euchresta formosana</i>	CR
第3次:	台湾ミヤマトベラ	<i>Euchresta formosana</i>	CR
第2次:	台湾ミヤマトベラ	<i>Euchresta formosana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euchresta formosana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euchresta formosana* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバツルマメ

Glycine max subsp. formosana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直径 0.5-2 mm、葉は 3 小葉。ダイズの原種とされるツルマメによく似ているが、全体にさらに小型で、小葉がいちじるしく細く、花・豆果・種子もやや小型。小葉は線形から狭卵形、頂小葉は長さ 2-8 cm、幅 0.3-2 cm。花は淡紫色、長さ約 5 mm。豆果は長さ 1-2 cm、幅 3.5-5 mm。種子は長さ 2.3-4 mm。

【生活史】

つる性の 1 年草。

【生育環境】

日当たりの良い野原や道端に生える。

【分布域】

沖縄島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバツルマメ	<i>Glycine max</i> subsp. <i>formosana</i>	CR
第4次 2019:	ホソバツルマメ	<i>Glycine max</i> subsp. <i>formosana</i>	CR
第4次 2018:	ホソバツルマメ	<i>Glycine max</i> subsp. <i>formosana</i>	CR
第4次 2017:	ホソバツルマメ	<i>Glycine max</i> subsp. <i>formosana</i>	CR
第4次 2015:	ホソバツルマメ	<i>Glycine max</i> subsp. <i>formosana</i>	CR
第4次:	ホソバツルマメ	<i>Glycine max</i> subsp. <i>formosana</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Glycine max subsp. *formosana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Glycine max* subsp. *formosana* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ボウコツルマメ

Glycine tabacina

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 3 小葉、長い葉柄があり、小葉は線形～長楕円状狭卵形または楕円形～広楕円形、長さ 1-4 cm、幅 4-10 mm、上面は無毛。葉腋に出る総状花序に 4-12 個の青紫色～紅紫色の花をつけ、花序の基部または葉腋に閉鎖花を 1 個つける。開放花の豆果は線形～長楕円形、扁平、長さ 2-3 cm、5-8 個の種子を入れ、閉鎖花の豆果はやや小型で長さ 1.2-2.5 cm、4-6 個の種子を入れる。

【生活史】

やや小形の匍匐するつる性多年草。花期は 9 月頃。

【生育環境】

海岸の断崖上の風衝草原、琉球石灰岩上に生える。

【分布域】

沖永良部島・伊江島・屋那覇島、台湾（澎湖諸島）・フィリピン・太平洋諸島・オーストラリア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では確実な自生を確認できなかった。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	1

【存続を脅かす要因上位 3 項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ボウコツルマメ	<i>Glycine tabacina</i>	CR
第4次 2019:	ボウコツルマメ	<i>Glycine tabacina</i>	CR
第4次 2018:	ボウコツルマメ	<i>Glycine tabacina</i>	CR
第4次 2017:	ボウコツルマメ	<i>Glycine tabacina</i>	CR
第4次 2015:	ボウコツルマメ	<i>Glycine tabacina</i>	CR
第4次:	ボウコツルマメ	<i>Glycine tabacina</i>	CR
第3次:	ボウコツルマメ	<i>Glycine tabacina</i>	CR
第2次:	ボウコツルマメ	—	NT
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Glycine tabacina has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Glycine*

tabacina is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タシロマメ

Intsia bijuga

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20 m 以上に達する。葉は 2-4 枚まれに 6 枚の小葉をつけ、葉軸は無毛で長さ 2-7 cm。小葉は広楕円形～楕円形、長さ 7-15 cm、幅 4-9 cm、革質で厚く、表面に光沢がある。花序は円錐状で頂生、長さ 6-10 cm、花弁は 1 個のみ発達し、長さ約 13 mm、白色または淡紅色、雄蕊は花から抽出し長さ 35-45 mm。豆果は長楕円形～広線形、長さ 10-25 cm、中に 3-6 個の種子を入れる。

【生活史】

常緑高木。花期は 5-6 月。

【生育環境】

海岸や河口近くの岩が多い斜面に生える。波打ち際近くの砂質の平地や、ときにマングローブ林内にも生える。

【分布域】

石垣島・西表島、台湾・中国南部・東南アジア・インド・ポリネシア・オーストラリア・マダガスカル。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タシロマメ	<i>Intsia bijuga</i>	CR
第4次 2019:	タシロマメ	<i>Intsia bijuga</i>	CR
第4次 2018:	タシロマメ	<i>Intsia bijuga</i>	CR
第4次 2017:	タシロマメ	<i>Intsia bijuga</i>	CR
第4次 2015:	タシロマメ	<i>Intsia bijuga</i>	CR
第4次:	タシロマメ	<i>Intsia bijuga</i>	CR
第3次:	タシロマメ	<i>Intsia bijuga</i>	CR
第2次:	タシロマメ	<i>Intsia bijuga</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Intsia bijuga has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Intsia bijuga* is

listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

レブンソウ

Oxytropis megalantha

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

全体に斜上し、淡黄白色～白色の絹毛を密生する。根茎は木質化し、太くて分岐する。根出葉は長さ 10–29 cm、17–23 枚の小葉がある。小葉は長さ 1–2 cm、幅 5–8 mm、狭長楕円形または狭卵形。高さ 10–20 cm の花茎に 5–15 花をつけ、花は紅紫色、長さ約 2 cm。豆果は長さ 15–20 mm、幅 7–8 mm、かなりふくらみ、卵状長楕円形で白軟毛を密生して黒褐色毛が混じり、先端は花柱が残存して長く尖る。

【生活史】

多年草。花期は 6–7 月。

【生育環境】

礫地や草地に生育する。

【分布域】

北海道（礼文島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事		

件数 3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	レブンソウ	<i>Oxytropis megalantha</i>	EN
第4次 2019:	レブンソウ	<i>Oxytropis megalantha</i>	EN
第4次 2018:	レブンソウ	<i>Oxytropis megalantha</i>	EN
第4次 2017:	レブンソウ	<i>Oxytropis megalantha</i>	EN
第4次 2015:	レブンソウ	<i>Oxytropis megalantha</i>	EN
第4次:	レブンソウ	<i>Oxytropis megalantha</i>	EN
第3次:	レブンソウ	<i>Oxytropis megalantha</i>	EN
第2次:	レブンソウ	<i>Oxytropis megalantha</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 清水建美・木原浩・門田裕一，2014. 高山に咲く花 増補改訂新版（山溪ハンディ図鑑 8）. 512pp. 山と溪谷社，東京.
- 梅沢俊，2018. 北海道の草花. 399pp. 北海道新聞社，札幌.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Oxytropis megalantha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Oxytropis megalantha is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウチワツナギ

Phyllodium pulchellum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 0.5-2.5 m になる。葉は 3 小葉からなる奇数羽状複葉で、両面ともに有毛の脈が目立ち、頂小葉は卵状楕円形、長さ 6-9 cm、側小葉は小さく、頂小葉の半分ほどの長さ。葉腋から葉よりも長い偽総状花序を出し、各節に 5-6 花を束生する。葉状苞の頂小葉は針状で、2 個の広楕円形の側小葉が花を挟む。これらが節ごとに並んで団扇を並べたように見える。花は白色または淡紫色の蝶形花で、長さ 6-7 mm。果実は長さ 7-8 mm、2 個の小節果からなる節果で、各小節果に 1 種子を含む。

【生活史】

常緑低木。花期は 7-8 月。

【生育環境】

山野の草原や林縁に生える。

【分布域】

沖縄島・伊江島、台湾・中国・東南アジア・インド・スリランカ・ヒマラヤ・オーストラリア北部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。産地と個体数が限られている。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウチワツナギ	<i>Phyllodium pulchellum</i>	EN
第4次 2019:	ウチワツナギ	<i>Phyllodium pulchellum</i>	EN
第4次 2018:	ウチワツナギ	<i>Phyllodium pulchellum</i>	EN
第4次 2017:	ウチワツナギ	<i>Phyllodium pulchellum</i>	EN
第4次 2015:	ウチワツナギ	<i>Phyllodium pulchellum</i>	EN
第4次:	ウチワツナギ	<i>Phyllodium pulchellum</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Phyllodium pulchellum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Phyllodium pulchellum* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤエヤマシタン

Pterocarpus vidalianus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 25 m に達する。葉は偶数または奇数個の小葉からなり、長さ 15-25 cm、葉軸は長さ 15-25 cm。小葉は著しく互生し 5-9 枚、長さ 6-15 cm、幅 3-8 cm、広卵形～卵形～卵状楕円形～長楕円形、無毛、革質、表面に光沢がある。花序は偽総状または下部で分枝して偽円錐状、花は多数つき黄色で芳香があり、長さ約 15 mm。豆果はほぼ円形で扁平、径 4-5.5 cm、周囲に幅 1-2 cm の薄い紙質の翼があり、中央部には長い刺があり、中に含まれる 1 (-2) 個の種子は豆果に包まれたまま発芽する。

【生活史】

常緑高木。花期は 4-5 月。

【生育環境】

海岸から山地の林内に生える。

【分布域】

石垣島、フィリピン、インドネシア（セレベス、小スンダ列島、アンボン）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査で情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では、2 メッシュ計数個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤエヤマシタン	<i>Pterocarpus vidalianus</i>	CR
第4次 2019:	ヤエヤマシタン	<i>Pterocarpus vidalianus</i>	CR
第4次 2018:	ヤエヤマシタン	<i>Pterocarpus vidalianus</i>	CR
第4次 2017:	ヤエヤマシタン	<i>Pterocarpus vidalianus</i>	CR
第4次 2015:	ヤエヤマシタン	<i>Pterocarpus vidalianus</i>	CR
第4次:	ヤエヤマシタン	<i>Pterocarpus vidalianus</i>	CR
第3次:	シタン	<i>Pterocarpus santalinus</i>	CR
第2次:	シタン	<i>Pterocarpus indicus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Pterocarpus vidalianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Pterocarpus vidalianus is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシムレスズメ

Sophora franchetiana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 C

推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

若枝は草状で緑色、褐色の圧軟毛が密生するがのち無毛。葉は奇数羽状複葉で 11-15 枚の小葉をつけ、側小葉は互生かほぼ対生する。小葉は楕円形、長さ 2.5-5 cm、表面はやや無毛、裏面と縁に伏した褐色の短毛が密生する。花は白色。萼は長さ約 5 mm、花柄とともに褐色の短毛を密布する。豆果は長さ 4-6 cm、幅約 1.2 cm。

【生活史】

常緑の低木。花期は 4-5 月。

【生育環境】

溪谷沿いの湿った林内、低山地の自然林の林縁に生える。

【分布域】

九州南部（熊本県・宮崎県・鹿児島県）、中国南部（広州・湖南・福建・浙江各省）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	0	0	0	3	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	園芸採取	自然遷移
件数	3	3

4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシムレスズメ	<i>Sophora franchetiana</i>	CR
第4次 2019:	ツクシムレスズメ	<i>Sophora franchetiana</i>	CR
第4次 2018:	ツクシムレスズメ	<i>Sophora franchetiana</i>	CR
第4次 2017:	ツクシムレスズメ	<i>Sophora franchetiana</i>	CR
第4次 2015:	ツクシムレスズメ	<i>Sophora franchetiana</i>	CR
第4次:	ツクシムレスズメ	<i>Sophora franchetiana</i>	CR
第3次:	ツクシムレスズメ	<i>Sophora franchetiana</i>	CR
第2次:	ツクシムレスズメ	<i>Sophora franchetiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sophora franchetiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Sophora franchetiana is listed as CR under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and: 1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タデハギ

Tadehagi triquetrum subsp. *triquetrum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2 m に達する。葉は 1 小葉、葉柄は長さ 1-4 cm、両側に幅 1-6 mm の翼が発達し、翼の縁に白軟毛がまばらに生える。小葉は卵形または広卵形、両面に白毛があり、鋭頭、基部は円形または浅心形、長さ 3-15 cm、幅 1.5-5 cm。長さ 15-30 cm の偽総状花序を出し、長さ 6-7 mm の紅紫色の花をつける。節実は広線形、長さ 2.5-3.5 cm、幅 5-6 mm、縫合線上は白軟毛に覆われるが側面は無毛、5-8 個の小節果に分かれる。大橋ほか (2016) ではタデハギモドキとして扱われている。

【生活史】

常緑低木または半低木。

【生育環境】

原野や林縁や疎林の明るい林床に生える。

【分布域】

琉球 (石垣島)、台湾・中国・東南アジア・インド・ヒマラヤ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タデハギ	<i>Tadehagi triquetrum</i>	CR
第4次 2019:	タデハギ	<i>Tadehagi triquetrum</i>	CR
第4次 2018:	タデハギ	<i>Tadehagi triquetrum</i>	CR
第4次 2017:	タデハギ	<i>Tadehagi triquetrum</i>	CR
第4次 2015:	タデハギ	<i>Tadehagi triquetrum</i>	CR
第4次:	タデハギ	<i>Tadehagi triquetrum</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 大橋広好，2014. 日本産マメ科植物の改訂. 植物研究雑誌，89: 197-204.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tadehagi triquetrum subsp. *triquetrum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tadehagi triquetrum* subsp. *triquetrum* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバフジボグサ

Uraria picta

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 1 m に達する。葉は 5-7 小葉からなり、葉柄は長さ 3.5-7 cm。小葉は線形から線状狭卵形、側脈は 9-11 対あるが葉縁には達しなく、長さ 7-15 cm、幅 7-15 mm、表面は白斑があり、中肋上は開出した硬い短毛があるほかはほぼ無毛、裏面には脈が隆起する。長さ 15-25 cm の偽総状花序に青紫色の花をつける。苞は卵形または狭卵形、開花とともに落下する。節果は無毛、3-5 個の小節果よりなり、小節果は長さ約 3 mm、幅約 2.5 mm。

【生活史】

多年草または半低木。

【生育環境】

日当たりのよい原野に生える。

【分布域】

宮古島・石垣島・西表島・小浜島、台湾・中国・東南アジア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2024 年調査では 2 メッシュで合計十数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバフジボグサ	<i>Uraria picta</i>	CR
第4次 2019:	ホソバフジボグサ	<i>Uraria picta</i>	CR
第4次 2018:	ホソバフジボグサ	<i>Uraria picta</i>	CR
第4次 2017:	ホソバフジボグサ	<i>Uraria picta</i>	CR
第4次 2015:	ホソバフジボグサ	<i>Uraria picta</i>	CR
第4次:	ホソバフジボグサ	<i>Uraria picta</i>	CR
第3次:	ホソバフジボグサ	<i>Uraria picta</i>	CR
第2次:	ホソバフジボグサ	<i>Uraria picta</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Uraria picta has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Uraria picta* is

listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サクヤアカササゲ

Vigna vexillata var. *vexillata*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アカササゲの基準変種で、小葉は楕円形、両面に長毛がやや密に生え、頂小葉は長さ 6-16.5 cm、幅 3-8 cm、狭卵形から卵形、鋭頭または鋭尖頭。托葉は基部両端が耳状にやや伸び、長さ 10-13 mm。長さ約 30 cm に達する偽総状花序は長い花序柄があり、直径約 2-3 cm の淡赤紫色の花を 2-6 個つける。豆果は長さ 6-8 cm で線形、長毛が密生、約 20 個の種子を入れる。アカササゲはサクヤアカササゲに比べて、花や果実、種子が大きく、小葉も狭卵形で形が異なる。

【生活史】

つる性の多年草。花期は 4-10 月。

【生育環境】

海岸の断崖上部の平坦な風衝草地、やや内陸側の土壌がよく堆積した草地に生える。

【分布域】

沖縄島、世界の熱帯・亜熱帯地域。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。1 メッシュで数個体の現存が確認されている。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サクヤアカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>vexillata</i>	CR
第4次 2019:	サクヤアカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>vexillata</i>	CR
第4次 2018:	サクヤアカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>vexillata</i>	CR
第4次 2017:	サクヤアカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>vexillata</i>	CR
第4次 2015:	サクヤアカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>vexillata</i>	CR
第4次:	サクヤアカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>vexillata</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vigna vexillata var. *vexillata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Vigna vexillata</i> var. <i>vexillata</i> is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

スナジマメ

Zornia cantoniensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 5-30 cm。小葉は長楕円形、長さ 1-1.5 cm、幅 2-4 mm、両端は尖り、表面は無毛、裏面と縁に白軟毛がまばらに生え、裏面には腺点が散在する。花は黄色で長さ 8-10 mm、旗弁に淡紫色の脈が目立つ。豆果は刺毛と短白毛があり、長さ 1.2-2 cm、幅 2-3 mm、小節果は長さ約 3 mm、ふつう 4-5 個の種子を入れる。

【生活史】

匍匐性の多年草。花期は 6 月。

【生育環境】

海岸の松林や裸地などの砂地に生える。

【分布域】

四国（高知県）、台湾・中国・東南アジア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。1 メッシュで絶滅、1 メッシュで現存が確認され、現存個体数は数個体と推定される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	スナジマメ	<i>Zornia cantoniensis</i>	CR
第4次 2019:	スナジマメ	<i>Zornia cantoniensis</i>	CR
第4次 2018:	スナジマメ	<i>Zornia cantoniensis</i>	CR
第4次 2017:	スナジマメ	<i>Zornia cantoniensis</i>	CR
第4次 2015:	スナジマメ	<i>Zornia cantoniensis</i>	CR
第4次:	スナジマメ	<i>Zornia cantoniensis</i>	CR
第3次:	スナジマメ	<i>Zornia cantoniensis</i>	CR
第2次:	スナジマメ	<i>Zornia cantoniensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Zornia cantoniensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Zornia cantoniensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リュウキュウヒメハギ

Polygala longifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 25-40 cm。無毛で茎はまばらに分枝する。葉は基部では狭卵形、上部では線状狭卵形～線形、長さ 15-20 mm。総状花序は頂生し 20 cm にも伸びる。花は白色、長さ 2.5-3 mm。蒴果は毛がなく、狭い翼がある。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

明るい林床や草地に生育する。

【分布域】

沖縄（久米島）、中国（南部）・東南アジア・ミャンマー・インド・スリランカ・ネパールおよびオーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウヒメハギ	<i>Polygala longifolia</i>	CR
第4次 2019:	リュウキュウヒメハギ	<i>Polygala longifolia</i>	CR
第4次 2018:	リュウキュウヒメハギ	<i>Polygala longifolia</i>	CR
第4次 2017:	リュウキュウヒメハギ	<i>Polygala longifolia</i>	CR
第4次 2015:	リュウキュウヒメハギ	<i>Polygala longifolia</i>	CR
第4次:	リュウキュウヒメハギ	<i>Polygala longifolia</i>	CR
第3次:	リュウキュウヒメハギ	<i>Polygala longifolia</i>	CR
第2次:	リュウキュウヒメハギ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polygala longifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Polygala longifolia* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シンチクヒメハギ

Polygala polifolia

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 10–20 cm。茎は多少分枝し、粗い毛がある。葉は楕円形～卵状楕円形、長さ 5–15 mm、ほとんど無毛、柄はごく短い。花は総状花序で、青色～すみれ色、長さ 1.5–2.5 mm。蒴果にはごく狭い翼がある。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

原野やリュウキュウマツの低木林の開けた日当たりのよい場所に生育する。

【分布域】

奄美（大島、徳之島）、沖縄諸島（伊是名島、沖縄島、石垣島、西表島）に分布。国外では、台湾、中国、東南アジア、インド、パキスタン、スリランカ、オーストラリアに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シンチクヒメハギ	<i>Polygala polifolia</i>	CR
第4次 2019:	シンチクヒメハギ	<i>Polygala polifolia</i>	CR
第4次 2018:	シンチクヒメハギ	<i>Polygala polifolia</i>	CR
第4次 2017:	シンチクヒメハギ	<i>Polygala polifolia</i>	CR
第4次 2015:	シンチクヒメハギ	<i>Polygala polifolia</i>	CR
第4次:	シンチクヒメハギ	<i>Polygala polifolia</i>	CR
第3次:	シンチクヒメハギ	<i>Polygala polifolia</i>	CR
第2次:	シンチクヒメハギ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polygala polifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Polygala polifolia* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae バラ科 Rosaceae

ツクシカイドウ

Malus hupehensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 6 m。葉は卵形か長楕円形、長さ 5-8 cm。花は白色で径 2-3 cm。ズミとの関係については分類学的検討が必要とされている。果実は球形で径 8-12 mm。

【生活史】

落葉小高木。

【生育環境】

低山地の疎林内に生育する。

【分布域】

九州（熊本県、大分県？）に分布。国外では、中国中南部、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 池沼開発	園芸採取	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシカイドウ	<i>Malus hupehensis</i>	EW
第4次 2019:	ツクシカイドウ	<i>Malus hupehensis</i>	EW
第4次 2018:	ツクシカイドウ	<i>Malus hupehensis</i>	EW
第4次 2017:	ツクシカイドウ	<i>Malus hupehensis</i>	EW
第4次 2015:	ツクシカイドウ	<i>Malus hupehensis</i>	EW
第4次:	ツクシカイドウ	<i>Malus hupehensis</i>	EW
第3次:	ツクシカイドウ	<i>Malus hupehensis</i>	EW
第2次:	ツクシカイドウ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[野生絶滅(EW)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会，2019. レッドデータブックくまもと 2019 ―熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物―. 熊本県環境生活部自然保護課，632pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Malus hupehensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Malus hupehensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Pond development, Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae バラ科 Rosaceae

モロツカウワミズザクラ

Padus nakatakei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シウリザクラに似るが、葉の基部が心形にならず切形または丸みをおびた楔形となる点、小花柄が短く 3-7 mm で軟毛を有する点で区別される。

【生活史】

落葉高木。

【生育環境】

溪流沿いの斜面に生育。

【分布域】

宮崎県北西部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番 目	2 番 目	3 番 目
要因 自然遷移	その他	
件数 3	3	

特記事項

本書では *Padus* を認めず *Prunus* を採用しているが、*Prunus* の下での本種の合法名が発表されていないため *Padus nakatakei* を使用する。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Padus nakatakei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Padus nakatakei* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオカナメモチ

Photinia serratifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 4-6 m。葉は革質、長楕円形、長倒卵形または卵状楕円形、長さ 10-20 cm、縁には基部を除いて鋭い細鋸歯がある。花序は複散房状で、頂生し、多数花をつけ、径 10-16 cm。花は白色、径 6-8 mm、果実はほぼ球形、径 6 mm、紅紫色に熟す。

【生活史】

常緑の高木。

【生育環境】

路傍や林縁に生育する。

【分布域】

奄美諸島、琉球（西表島）に分布。国外では、台湾、中国南部、フィリピン、インドネシアに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオカナメモチ	<i>Photinia serratifolia</i>	CR
第4次 2019:	オオカナメモチ	<i>Photinia serratifolia</i>	CR
第4次 2018:	オオカナメモチ	<i>Photinia serratifolia</i>	CR
第4次 2017:	オオカナメモチ	<i>Photinia serratifolia</i>	CR
第4次 2015:	オオカナメモチ	<i>Photinia serratifolia</i>	CR
第4次:	オオカナメモチ	<i>Photinia serratifolia</i>	CR
第3次:	オオカナメモチ	<i>Photinia serratifolia</i>	CR
第2次:	オオカナメモチ	<i>Photinia serrulata</i>	EW
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岡山県[野生絶滅] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Photinia serratifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Photinia serratifolia* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.	
Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コバノアマミフユイチゴ*Rubus amamianus* var. *minor***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報**【形態】**

基本種アマミフユイチゴに似るが、常に 1 花で小さく、葉は小さく長さ 2-4 cm。基本種と区別しない見解がある。

【生活史】

常緑の匍匐性小低木。

【生育環境】

やや湿った川岸に生育する。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況**【生育地の現況】**

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コバノアマミフユイチゴ	<i>Rubus amamianus</i> var. <i>minor</i>	CR
第4次 2019:	コバノアマミフユイチゴ	<i>Rubus amamianus</i> var. <i>minor</i>	CR
第4次 2018:	コバノアマミフユイチゴ	<i>Rubus amamianus</i> var. <i>minor</i>	CR
第4次 2017:	コバノアマミフユイチゴ	<i>Rubus amamianus</i> var. <i>minor</i>	CR
第4次 2015:	コバノアマミフユイチゴ	<i>Rubus amamianus</i> var. <i>minor</i>	CR
第4次:	コバノアマミフユイチゴ	<i>Rubus amamianus</i> var. <i>minor</i>	CR
第3次:	コバノアマミフユイチゴ	<i>Rubus amamianus</i> var. <i>minor</i>	CR
第2次:	コバノアマミフユイチゴ	<i>Rubus amamiana</i> var. <i>minor</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 初島住彦，1969．日・台産イチゴ雑記．北陸の植物，17: 82-84.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rubus amamianus var. *minor* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Rubus amamianus var. *minor* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チシマイチゴ

Rubus arcticus

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 D
推定開花株数が 50 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

ヤチイチゴに似るが、葉は 3 出複葉で花は紅色を帯びる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山に生育する。

【分布域】

南千島、北海道に分布。世界的には、北半球の寒帯に広く分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで絶滅し、2 メッシュで計約百個体の現存が確認された。北海道の道東地域の湿地にも生育している可能性があるが、未だ調査されていない。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チシマイチゴ	<i>Rubus arcticus</i>	CR
第4次 2019:	チシマイチゴ	<i>Rubus arcticus</i>	CR
第4次 2018:	チシマイチゴ	<i>Rubus arcticus</i>	CR
第4次 2017:	チシマイチゴ	<i>Rubus arcticus</i>	CR
第4次 2015:	チシマイチゴ	<i>Rubus arcticus</i>	CR
第4次:	チシマイチゴ	<i>Rubus arcticus</i>	CR
第3次:	チシマイチゴ	<i>Rubus arcticus</i>	CR
第2次:	チシマイチゴ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rubus arcticus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rubus arcticus* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae バラ科 Rosaceae

チヂマイチゴ

Rubus nakaii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

樹幹は緑色。葉は互生、3 深裂、無毛、葉脈は明瞭。葉縁は二重鋸歯。本土に分布するカジイチゴと同種とする見解がある。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

道路脇の林縁に生育する。

【分布域】

小笠原諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チチジマイチゴ	<i>Rubus nakaii</i>	CR
第4次 2019:	チチジマイチゴ	<i>Rubus nakaii</i>	CR
第4次 2018:	チチジマイチゴ	<i>Rubus nakaii</i>	CR
第4次 2017:	チチジマイチゴ	<i>Rubus nakaii</i>	CR
第4次 2015:	チチジマイチゴ	<i>Rubus nakaii</i>	CR
第4次:	チチジマイチゴ	<i>Rubus nakaii</i>	CR
第3次:	チチジマイチゴ	<i>Rubus nakaii</i>	CR
第2次:	チチジマイチゴ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rubus nakaii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rubus nakaii* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タンゴグミ

*Elaeagnus arakiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 3-6 cm、倒卵状楕円形、やや厚く、表面はやや密に宿存性赤褐色鱗片があり、裏面は銀色の鱗片に褐色の鱗片が混生する。葉柄は長さ 3-6 mm。花は葉腋に 1 個、まれに 2 個つく。萼筒は内面に星状毛がなく、上面に星状毛がある。果実は長さ 10-12 mm、赤色。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

蛇紋岩地に生育。

【分布域】

京都府大江山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タンゴグミ	<i>Elaeagnus arakiana</i>	CR
第4次 2019:	タンゴグミ	<i>Elaeagnus arakiana</i>	CR
第4次 2018:	タンゴグミ	<i>Elaeagnus arakiana</i>	CR
第4次 2017:	タンゴグミ	<i>Elaeagnus arakiana</i>	CR
第4次 2015:	タンゴグミ	<i>Elaeagnus arakiana</i>	CR
第4次:	タンゴグミ	<i>Elaeagnus arakiana</i>	CR
第3次:	タンゴグミ	<i>Elaeagnus arakiana</i>	CR
第2次:	タンゴグミ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

京都府[絶滅寸前種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elaeagnus arakiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Elaeagnus arakiana is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメクロウメモドキ

*Rhamnus kanagusukii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 3 m ほど。葉身は長さ 1-4 cm、長楕円状倒披針形、革質に近く、厚くて硬く、狭小で、縁に不明の細鋸歯がある。花は淡緑白色、葉腋に単生。核果は長さ約 3 mm、広倒卵形、暗赤色。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

断崖に生育。

【分布域】

沖縄県（万座毛）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報が得られなかったが、近年再発見された。しかし、10 個体未満である。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメクロウメモドキ	<i>Rhamnus kanagusukui</i>	CR
第4次 2019:	ヒメクロウメモドキ	<i>Rhamnus kanagusukui</i>	CR
第4次 2018:	ヒメクロウメモドキ	<i>Rhamnus kanagusukui</i>	CR
第4次 2017:	ヒメクロウメモドキ	<i>Rhamnus kanagusukui</i>	CR
第4次 2015:	ヒメクロウメモドキ	<i>Rhamnus kanagusukui</i>	CR
第4次:	ヒメクロウメモドキ	<i>Rhamnus kanagusukui</i>	CR
第3次:	ヒメクロウメモドキ	<i>Rhamnus kanagusukii</i>	CR
第2次:	ヒメクロウメモドキ	<i>Rhamnus kanagusuki</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhamnus kanagusukii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhamnus kanagusukii* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アサ科 Cannabaceae

サキシマエノキ

Celtis biondii var. *insularis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コバノチョウセンエノキに似るが、葉の毛が少ない。

【生活史】

落葉小高木。

【生育環境】

低地の石灰岩地に生育。

【分布域】

琉球（宮古島・伊良部島）、インドネシア（スラウェシ島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数個体が見られるだけであり、現存個体数は 50 個体未満の可能性があった。断崖上にあり、岩場の環境の保全に十分な注意が必要である。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サキシマエノキ	<i>Celtis biondii</i> var. <i>insularis</i>	CR
第4次 2019:	サキシマエノキ	<i>Celtis biondii</i> var. <i>insularis</i>	CR
第4次 2018:	サキシマエノキ	<i>Celtis biondii</i> var. <i>insularis</i>	CR
第4次 2017:	サキシマエノキ	<i>Celtis biondii</i> var. <i>insularis</i>	CR
第4次 2015:	サキシマエノキ	<i>Celtis biondii</i> var. <i>insularis</i>	CR
第4次:	サキシマエノキ	<i>Celtis biondii</i> var. <i>insularis</i>	CR
第3次:	サキシマエノキ	<i>Celtis biondii</i> var. <i>insularis</i>	CR
第2次:	サキシマエノキ	<i>Celtis biondii</i> var. <i>insularis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Celtis biondii var. *insularis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Celtis biondii* var. *insularis* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオヤマイチジク

*Ficus iidaiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D+C

推定開花株数が 50 個体未満/推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-8 m。葉身は長さ 10-25 cm、卵状広楕円形または卵円形、先は短く尾状に尖り、基部は円形または浅心形、表面は無毛、裏面は脈上の下部に微毛が密生する他は無毛、全縁。花嚢は長さ 1.5-2.5 cm、楕円形または洋梨形、紫褐色に熟す。

【生活史】

常緑高木。

【生育環境】

山地の林内のやや湿気の多い場所に生育。

【分布域】

小笠原諸島（母島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因不明		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオヤマイチジク	<i>Ficus iidaiana</i>	CR
第4次 2019:	オオヤマイチジク	<i>Ficus iidaiana</i>	CR
第4次 2018:	オオヤマイチジク	<i>Ficus iidaiana</i>	CR
第4次 2017:	オオヤマイチジク	<i>Ficus iidaiana</i>	CR
第4次 2015:	オオヤマイチジク	<i>Ficus iidaiana</i>	CR
第4次:	オオヤマイチジク	<i>Ficus iidaiana</i>	CR
第3次:	オオヤマイチジク	<i>Ficus iidaiana</i>	EN
第2次:	オオヤマイチジク	<i>Ficus iidaiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ficus iidaiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ficus iidaiana* is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オガサワラグワ

*Morus boninensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 C

推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 8-15 m。葉身は長さ 8-25 cm、卵円形、先は短く尾状に尖り、基部は浅心形、縁に先の鈍い広三角形の鋸歯がある。雄花序は長さ約 2 cm、円筒形。雌花序は長さ 1-2 cm、円筒形。複合果は円筒形、紫黒色に熟す。

【生活史】

落葉高木。

【生育環境】

林内に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島・兄島・弟島・母島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害	その他	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オガサワラグワ	<i>Morus boninensis</i>	CR
第4次 2019:	オガサワラグワ	<i>Morus boninensis</i>	CR
第4次 2018:	オガサワラグワ	<i>Morus boninensis</i>	CR
第4次 2017:	オガサワラグワ	<i>Morus boninensis</i>	CR
第4次 2015:	オガサワラグワ	<i>Morus boninensis</i>	CR
第4次:	オガサワラグワ	<i>Morus boninensis</i>	CR
第3次:	オガサワラグワ	<i>Morus boninensis</i>	EN
第2次:	オガサワラグワ	<i>Morus boninensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Morus boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Morus boninensis* is listed as CR under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Other animal feeding damage, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミサンショウソウ

*Elatostema oshimense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐して分枝し、毛がある。葉身は長さ 3-7 mm、卵形、全縁か 1-2 個鋸歯があり、まばらに毛がある。雄花の花被片は 4 個。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地溪流沿いの湿った岩場に生育。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	その他	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミサンショウソウ	<i>Elatostema oshimense</i>	CR
第4次 2019:	アマミサンショウソウ	<i>Elatostema oshimense</i>	CR
第4次 2018:	アマミサンショウソウ	<i>Elatostema oshimense</i>	CR
第4次 2017:	アマミサンショウソウ	<i>Elatostema oshimense</i>	CR
第4次 2015:	アマミサンショウソウ	<i>Elatostema oshimense</i>	CR
第4次:	アマミサンショウソウ	<i>Elatostema oshimense</i>	CR
第3次:	アマミサンショウソウ	<i>Elatostema oshimense</i>	CR
第2次:	アマミサンショウソウ	<i>Elatostema oshimensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elatostema oshimense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Elatostema oshimense* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメトキホコリ

*Elatostema yakushimense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヤマトキホコリに似るが、より小さく、高さ 10 cm 以下、葉も小型。花序の総苞片は基部のみで合着する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高地に生育。

【分布域】

九州南部（霧島山）・屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメトキホコリ	<i>Elatostema yakushimense</i>	CR
第4次 2019:	ヒメトキホコリ	<i>Elatostema yakushimense</i>	CR
第4次 2018:	ヒメトキホコリ	<i>Elatostema yakushimense</i>	CR
第4次 2017:	ヒメトキホコリ	<i>Elatostema yakushimense</i>	CR
第4次 2015:	ヒメトキホコリ	<i>Elatostema yakushimense</i>	CR
第4次:	ヒメトキホコリ	<i>Elatostema yakushimense</i>	CR
第3次:	ヒメトキホコリ	<i>Elatostema yakushimense</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elatostema yakushimense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Elatostema yakushimense is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヨナクニトキホコリ

*Elatostema yonakuniense***カテゴリーー判定結果** 絶滅危惧 I A類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

全体無毛。葉身は長さ 2-4 cm、鋸歯が少なく内側辺で 2-3 個、外側辺で 4 個程度。雄花序の柄は長さ 1-3 cm、総苞はない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩地に生育。

【分布域】

与那国島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヨナクニトキホコリ	<i>Elatostema yonakuniense</i>	CR
第4次 2019:	ヨナクニトキホコリ	<i>Elatostema yonakuniense</i>	CR
第4次 2018:	ヨナクニトキホコリ	<i>Elatostema yonakuniense</i>	CR
第4次 2017:	ヨナクニトキホコリ	<i>Elatostema yonakuniense</i>	CR
第4次 2015:	ヨナクニトキホコリ	<i>Elatostema yonakuniense</i>	CR
第4次:	ヨナクニトキホコリ	<i>Elatostema yonakuniense</i>	CR
第3次:	ヨナクニトキホコリ	<i>Elatostema yonakuniense</i>	CR
第2次:	ヨナクニトキホコリ	<i>Elatostema yonakuniense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Elatostema yonakuniense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Elatostema yonakuniense is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

セキモンウライソウ

*Procris boninensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 C

推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 7-15 cm、互生、左右非対称の倒披針形。花序は頭状で、柄は短く、下部の節につく。瘦果は平滑。

【生活史】

多肉の亜低木。

【生育環境】

石灰岩上に生育。

【分布域】

小笠原諸島（母島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	セキモンウライソウ	<i>Procris boninensis</i>	CR
第4次 2019:	セキモンウライソウ	<i>Procris boninensis</i>	CR
第4次 2018:	セキモンウライソウ	<i>Procris boninensis</i>	CR
第4次 2017:	セキモンウライソウ	<i>Procris boninensis</i>	CR
第4次 2015:	セキモンウライソウ	<i>Procris boninensis</i>	CR
第4次:	セキモンウライソウ	<i>Procris boninensis</i>	CR
第3次:	セキモンウライソウ	<i>Procris boninensis</i>	CR
第2次:	セキモンウライソウ	<i>Procris boninensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Procris boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Procris boninensis* is listed as CR under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Other

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イシガキカラスウリ

Trichosanthes homophylla var. *ishigakiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

主茎は太さ 0.5-1 cm、木質化して分枝し、白色を帯び、暗褐色の皮目がある。草質の茎は長さ 15-30 cm、巻きひげは 2-3 回分岐して、葉と互生。葉身は長さ 2.5-4.5 cm、鋭頭、基部は心臓形。花は 6-10 mm の花序につき、白色。萼は長さ 1-1.5 cm、漏斗形。萼片は長さ 7 mm、反り返る。

【生活史】

つる性多年草。

【生育環境】

やや開けた山地林道沿いに生育。

【分布域】

琉球（石垣島・宮古島・西表島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イシガキカラスウリ	<i>Trichosanthes homophylla</i> var. <i>ishigakiensis</i>	CR
第4次 2019:	イシガキカラスウリ	<i>Trichosanthes homophylla</i> var. <i>ishigakiensis</i>	CR
第4次 2018:	イシガキカラスウリ	<i>Trichosanthes homophylla</i> var. <i>ishigakiensis</i>	CR
第4次 2017:	イシガキカラスウリ	<i>Trichosanthes homophylla</i> var. <i>ishigakiensis</i>	CR
第4次 2015:	イシガキカラスウリ	<i>Trichosanthes homophylla</i> var. <i>ishigakiensis</i>	CR
第4次:	イシガキカラスウリ	<i>Trichosanthes homophylla</i> var. <i>ishigakiensis</i>	CR
第3次:	イシガキカラスウリ	<i>Trichosanthes homophylla</i> var. <i>ishigakiensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Trichosanthes homophylla var. *ishigakiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Trichosanthes homophylla* var. *ishigakiensis* is listed as CR under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サツマスズメウリ

Zehneria perpusilla var. *deltifrons***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎には若いとき短毛がある。葉柄は長さ 2-5 cm。葉身は長さ 4-7 cm、三角状卵形、鋭尖頭で、縁には微鋸歯があるか浅く 3-5 裂する。花は長さ 4-5 mm、白色。

【生活史】

つる性多年草。

【生育環境】

半日陰の湿った林縁や林道に生育。

【分布域】

鹿児島県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サツマスズメウリ	<i>Zehneria perpusilla</i> var. <i>deltifrons</i>	CR
第4次 2019:	サツマスズメウリ	<i>Zehneria perpusilla</i> var. <i>deltifrons</i>	CR
第4次 2018:	サツマスズメウリ	<i>Zehneria perpusilla</i> var. <i>deltifrons</i>	CR
第4次 2017:	サツマスズメウリ	<i>Zehneria perpusilla</i> var. <i>deltifrons</i>	CR
第4次 2015:	サツマスズメウリ	<i>Zehneria perpusilla</i> var. <i>deltifrons</i>	CR
第4次:	サツマスズメウリ	<i>Zehneria perpusilla</i> var. <i>deltifrons</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- Iwatsuki, K., D. E. Boufford and H. Ohba, 1999. Flora of Japan, Vol. IIc, Kodansha, Tokyo. 342pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Zehneria perpusilla var. *deltifrons* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Zehneria perpusilla* var. *deltifrons* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Road construction

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガバヒゼンマユミ

Euonymus oblongifolius

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	ACD 基準
平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報								
【形態】								
ヒゼンマユミに似るが、葉はより長く、長楕円形。								
【生活史】								
低木。								
【生育環境】								
低地林内に生育する。								
【分布域】								
九州に分布。国外では、中国に分布。								
現在の生育状況								
【生育地の現況】								
2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定された。平均減少率は 68%であった。ACD 基準により CR とした。								
現地調査の集計結果 2018 年調査								
【「現存する株数」別のメッシュ数】								
<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0
【存続を脅かす要因上位3項目の件数】								
1 番目			2 番目			3 番目		
要因 森林伐採			自然遷移			産地局限		
件数 2			2			2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガバヒゼンマユミ	<i>Euonymus oblongifolius</i>	CR
第4次 2019:	ナガバヒゼンマユミ	<i>Euonymus oblongifolius</i>	CR
第4次 2018:	ナガバヒゼンマユミ	<i>Euonymus oblongifolius</i>	CR
第4次 2017:	ナガバヒゼンマユミ	<i>Euonymus oblongifolius</i>	CR
第4次 2015:	ナガバヒゼンマユミ	<i>Euonymus oblongifolius</i>	CR
第4次:	ナガバヒゼンマユミ	<i>Euonymus oblongifolius</i>	CR
第3次:	ナガバヒゼンマユミ	<i>Euonymus oblongifolius</i>	CR
第2次:	ナガバヒゼンマユミ	<i>Euonymus</i> sp.	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大分県自然環境学術調査会，2022. レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—. <https://www.rdb-oita.jp/>（2024年9月5日閲覧）.
- 初島住彦，1991. 日本新産植物 2 種. 植物分類・地理研究，39: 39-40.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euonymus oblongifolius has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euonymus oblongifolius* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アンドンマユミ

*Euonymus oligospermus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2 m。葉身は薄く、長楕円形、長さ 3-12 cm、縁に細鋸歯がある。花序は下方の 1-2 対の葉腋に生ずる。花は 4 数性。蒴果は狭倒三角形、紅紫色に熟し、4 翼があり、長さ約 1.5 cm。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

温帯の山地に生育する。

【分布域】

本州（福島県桧枝岐村）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アンドンマユミ	<i>Euonymus oligospermus</i>	CR
第4次 2019:	アンドンマユミ	<i>Euonymus oligospermus</i>	CR
第4次 2018:	アンドンマユミ	<i>Euonymus oligospermus</i>	CR
第4次 2017:	アンドンマユミ	<i>Euonymus oligospermus</i>	CR
第4次 2015:	アンドンマユミ	<i>Euonymus oligospermus</i>	CR
第4次:	アンドンマユミ	<i>Euonymus oligospermus</i>	CR
第3次:	アンドンマユミ	<i>Euonymus oligospermus</i>	CR
第2次:	アンドンマユミ	<i>Euonymus oligospermus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euonymus oligospermus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Euonymus oligospermus is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミカタバミ

Oxalis exilis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は細く、分枝し、長さ 10-20 cm。小葉は長さ 3-5 mm、狭心形、両面に細毛を散生する。花は径 5 mm、黄色。花弁は長さ 2 mm、倒卵状楕円形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿った岩上のコケの中に生育。

【分布域】

奄美大島、オーストラリア・ニュージーランドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミカタバミ	<i>Oxalis amamiana</i>	CR
第4次 2019:	アマミカタバミ	<i>Oxalis amamiana</i>	CR
第4次 2018:	アマミカタバミ	<i>Oxalis amamiana</i>	CR
第4次 2017:	アマミカタバミ	<i>Oxalis amamiana</i>	CR
第4次 2015:	アマミカタバミ	<i>Oxalis exilis</i>	CR
第4次:	アマミカタバミ	<i>Oxalis exilis</i>	CR
第3次:	アマミカタバミ	<i>Oxalis exilis</i>	CR
第2次:	アマミカタバミ	<i>Oxalis exilis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Oxalis exilis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Oxalis exilis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

セキモンノキ

*Claoxylon centinarium***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 4-5 m、時に 8 m になる。全株無毛。葉は単葉で互生し、葉身は長楕円形～卵状長楕円形または広倒披針形、基部はゆがんだ円形で、長さ 10-20 cm、縁は波打ち、細かい鋸歯がある。雌雄同株。花序は腋生し、総状。雄花は緑白色で、径約 3 mm。雌花は半球形で、球形の子房が目立つ。蒴果は三角状球形、いぼ状の黒点があり、熟して黄褐色になる。

【生活史】

常緑小高木。

【生育環境】

湿った林内に生育する。

【分布域】

小笠原（母島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 86% であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害		

件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	セキモンノキ	<i>Claoxylon centinarium</i>	CR
第4次 2019:	セキモンノキ	<i>Claoxylon centinarium</i>	CR
第4次 2018:	セキモンノキ	<i>Claoxylon centinarium</i>	CR
第4次 2017:	セキモンノキ	<i>Claoxylon centinarium</i>	CR
第4次 2015:	セキモンノキ	<i>Claoxylon centinarium</i>	CR
第4次:	セキモンノキ	<i>Claoxylon centinarium</i>	CR
第3次:	セキモンノキ	<i>Claoxylon centinarium</i>	CR
第2次:	セキモンノキ	<i>Claoxylon centenarium</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Claoxylon centinarium has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Claoxylon centinarium* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Other animal feeding damage
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リュウキュウタイゲキ

*Euphorbia liukuensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上し、長さ 5-30 cm、無毛またはまばらに長毛がある。葉身は長さ 0.7-1 cm で、楕円形。杯状花序は集散状に頂生する。

【生活史】

常緑の多年草。

【生育環境】

海岸の隆起石灰岩に生育する。

【分布域】

琉球に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。1 メッシュで数個体の現存が推定される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウタイゲキ	<i>Chamaesyce liukuensis</i>	CR
第4次 2019:	リュウキュウタイゲキ	<i>Chamaesyce liukuensis</i>	CR
第4次 2018:	リュウキュウタイゲキ	<i>Chamaesyce liukuensis</i>	CR
第4次 2017:	リュウキュウタイゲキ	<i>Chamaesyce liukuensis</i>	CR
第4次 2015:	リュウキュウタイゲキ	<i>Chamaesyce liukuensis</i>	CR
第4次:	リュウキュウタイゲキ	<i>Chamaesyce liukuensis</i>	CR
第3次:	リュウキュウタイゲキ	<i>Chamaesyce liukuensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016．改訂新版日本の野生植物 3．338pp., 264pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphorbia liukuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Euphorbia liukuensis is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミナツトウダイ

Euphorbia sieboldiana var. *ohsumiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D+C

推定開花株数が 50 個体未満/推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オオスミナツトウダイと混同されるが、染色体の倍数性が 4 倍体である点で区別できるとされる。

【生活史】

やや常緑的な夏緑の多年草。

【生育環境】

林縁や路傍に生育する。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果

 2018 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	その他	
件数 1	1	

特記事項

本種の学名は有効に出版されていないため、裸名である。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミナツトウダイ	<i>Euphorbia</i> sp.	CR
第4次 2019:	アマミナツトウダイ	<i>Euphorbia</i> sp.	CR
第4次 2018:	アマミナツトウダイ	<i>Euphorbia</i> sp.	CR
第4次 2017:	アマミナツトウダイ	<i>Euphorbia</i> sp.	CR
第4次 2015:	アマミナツトウダイ	<i>Euphorbia</i> sp.	CR
第4次:	アマミナツトウダイ	<i>Euphorbia</i> sp.	CR
第3次:	アマミナツトウダイ	<i>Euphorbia sieboldiana</i> var. <i>amamiana</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- Shiuchi, T., 2000. Chromosome numbers of plants cultivated in the Botanic Gardens of Toyama. Bulletin of the Botanic Gardens of Toyama, 5: 59–63.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphorbia sieboldiana var. *ohsumiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphorbia sieboldiana* var. *ohsumiensis* is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and: 1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.	
Threat types:	Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒュウガタイゲキ

Euphorbia watanabei subsp. *minamitanii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 C

推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

フジタイゲキに似るが、輪生葉がより長く、4.5-9 cm。種子表面にしわがある。

【生活史】

夏緑性多年草。

【生育環境】

丘陵地の草原に生育する。

【分布域】

九州（宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	園芸採取	自然遷移
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒユウガタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>minamitanii</i>	CR
第4次 2019:	ヒユウガタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>minamitanii</i>	CR
第4次 2018:	ヒユウガタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>minamitanii</i>	CR
第4次 2017:	ヒユウガタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>minamitanii</i>	CR
第4次 2015:	ヒユウガタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>minamitanii</i>	CR
第4次:	ヒユウガタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>minamitanii</i>	CR
第3次:	ヒユウガタイゲキ	<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>minamitanii</i>	CR
第2次:	ヒユウガタイゲキ	<i>Euphorbia</i> sp.	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphorbia watanabei subsp. *minamitanii* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphorbia watanabei* subsp. *minamitanii* is listed as CR under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Land development, Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アカハダコバンノキ

Margaritaria indica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さは 10-15 m に達する。葉は互生し無毛。葉柄は長さ 7-10 mm。葉身は楕円形、長さ 6-13 cm、幅 3.3-6.5 cm、全縁、先端は鈍形または鋭形、基部はくさび形で葉柄に沿下する。花序は小集散花序で葉に腋生。萼片は 4 枚。雄花は花序あたり数～数十個、花柄は長さ 4-12 mm。雌花は花序あたり 1-3 個、1.2-1.4 cm の柄がある。蒴果は扁球形、径約 8 mm。

【生活史】

落葉小高木。雌雄異株。花期は 6 月。

【生育環境】

山地の自然林に生える。

【分布域】

徳之島・沖縄島・石垣島・西表島、台湾・中国南部・インド・マレーシア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アカハダコバンノキ	<i>Margaritaria indica</i>	CR
第4次 2019:	アカハダコバンノキ	<i>Margaritaria indica</i>	CR
第4次 2018:	アカハダコバンノキ	<i>Margaritaria indica</i>	CR
第4次 2017:	アカハダコバンノキ	<i>Margaritaria indica</i>	CR
第4次 2015:	アカハダコバンノキ	<i>Margaritaria indica</i>	CR
第4次:	アカハダコバンノキ	<i>Margaritaria indica</i>	CR
第3次:	アカハダコバンノキ	<i>Margaritaria indica</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Margaritaria indica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Margaritaria indica* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ドナンコバンノキ

Phyllanthus oligospermus subsp. *donanensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1.5-2 m。分枝様式はコミカンソウ型（主茎につく葉は鱗片葉でその腋から分枝する）。葉は互生し無毛、小枝に 10-18 枚つき、葉身は楕円形、長さ 2-5 cm、幅 1.3-2.7 cm。葉腋に小集散花序をつけ、雄花は花序当たり 5-7 個、雄花の萼片は黄緑色、雄蕊は 3-4 個。雌花は花序当たり 1-3 個、花柱は長さ 2-3 mm。萼片は 4-5 枚で全縁で無毛。漿果は直径 6-7 mm、暗赤色に熟す。

【生活史】

落葉低木。雌雄同株。花期は 9-1 月。

【生育環境】

常緑樹林の林縁に生える。

【分布域】

琉球（与那国島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体が現存と報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ドナンコバンノキ	<i>Phyllanthus oligospermus</i> subsp. <i>donanensis</i>	CR
第4次 2019:	ドナンコバンノキ	<i>Phyllanthus oligospermus</i> subsp. <i>donanensis</i>	CR
第4次 2018:	ドナンコバンノキ	<i>Phyllanthus oligospermus</i> subsp. <i>donanensis</i>	CR
第4次 2017:	ドナンコバンノキ	<i>Phyllanthus oligospermus</i> subsp. <i>donanensis</i>	CR
第4次 2015:	ドナンコバンノキ	<i>Phyllanthus oligospermus</i> subsp. <i>donanensis</i>	CR
第4次:	ドナンコバンノキ	<i>Phyllanthus oligospermus</i> subsp. <i>donanensis</i>	CR
第3次:	ドナンコバンノキ	<i>Phyllanthus oligospermus</i> subsp. <i>donanensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Phyllanthus oligospermus subsp. *donanensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Phyllanthus oligospermus* subsp. *donanensis* is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ササキカズラ

Ryssopterys timoriensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 10-15 cm、卵円形、短鋭尖頭、両面ははじめ絹毛があるがのちに無毛。花は散房花序に 15 個ほどつく。花弁は 5 個、黄色。翼果は長さ約 3 cm、半倒卵形。

【生活史】

常緑藤本。

【生育環境】

マングローブ内に生育。

【分布域】

琉球（沖縄島・宮古島・石垣島・西表島・波照間島・与那国島）、フィリピン・インドネシア・オーストラリア北東部・メラネシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。近年開発によって生育地が失われている。少なくともあと 2 メッシュにおいて過去の記録があるが、近年確認されていない。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ササキカズラ	<i>Ryssopterys timoriensis</i>	CR
第4次 2019:	ササキカズラ	<i>Ryssopterys timoriensis</i>	CR
第4次 2018:	ササキカズラ	<i>Ryssopterys timoriensis</i>	CR
第4次 2017:	ササキカズラ	<i>Ryssopterys timoriensis</i>	CR
第4次 2015:	ササキカズラ	<i>Ryssopterys timoriensis</i>	CR
第4次:	ササキカズラ	<i>Ryssopterys timoriensis</i>	CR
第3次:	ササキカズラ	<i>Ryssopterys timoriensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ryssopterys timoriensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Ryssopterys timoriensis is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾマメヤナギ

Salix nummularia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

幹は地中を横に這って分枝。葉は革質、倒卵形、倒卵状楕円形、長さ 6-13 mm、幅 3-10 mm、ほぼ全縁、先端は円形または鈍形あるいは円頭でやや鋭端、基部は鈍形ないし円形、両面とも光沢があり、表面は緑色で無毛、裏面はやや淡緑色で無毛または主脈上に長毛を散生、側脈は 4-6 対で弓状に湾曲する。托葉はない。雄花穂は球形ないし楕円形、長さ 4-10 mm、5-30 花、雄花の腺体は 2 個、雄蕊は 2 個、葯は紅色。雌花穂は卵状球形あるいは楕円形、長さ 3-7 mm、4-25 花、雌花の腺体は 1 個。

【生活史】

落葉矮性低木。雌雄異株。花期は 6 月下旬-7 月上旬。

【生育環境】

高山の礫地に生える。

【分布域】

北海道 (大雪山)、北シベリア・シベリア南部～モンゴル・カムチャツカ半島・白頭山 (中国・北朝鮮国境)。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾマメヤナギ	<i>Salix nummularia</i>	CR
第4次 2019:	エゾマメヤナギ	<i>Salix nummularia</i>	CR
第4次 2018:	エゾマメヤナギ	<i>Salix nummularia</i>	CR
第4次 2017:	エゾマメヤナギ	<i>Salix nummularia</i>	CR
第4次 2015:	エゾマメヤナギ	<i>Salix nummularia</i>	CR
第4次:	エゾマメヤナギ	<i>Salix nummularia</i>	CR
第3次:	エゾマメヤナギ	<i>Salix nummularia</i>	CR
第2次:	エゾマメヤナギ	<i>Salix nummularia</i> ssp. <i>pauciflora</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 梅沢俊，2018. 北海道の草花. 399pp. 北海道新聞社，札幌.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Salix nummularia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Salix*

nummularia is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミスミレ

*Viola amamiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さは 3-5 cm。葉はロゼット状で葉身は卵形、長さ 0.5-1 cm。花は白く中心部は黄緑色。

【生活史】

常緑多年草。

【生育環境】

滝の下や溪流付近の岩上に生育する。

【分布域】

奄美大島、沖縄本島（北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミスミレ	<i>Viola amamiana</i>	CR
第4次 2019:	アマミスミレ	<i>Viola amamiana</i>	CR
第4次 2018:	アマミスミレ	<i>Viola amamiana</i>	CR
第4次 2017:	アマミスミレ	<i>Viola amamiana</i>	CR
第4次 2015:	アマミスミレ	<i>Viola amamiana</i>	CR
第4次:	アマミスミレ	<i>Viola amamiana</i>	CR
第3次:	アマミスミレ	<i>Viola amamiana</i>	CR
第2次:	アマミスミレ	<i>Viola amamiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola amamiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola amamiana* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae スミレ科 Violaceae

シロコスミレ

Viola lactiflora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 3-8 cm、長三角状披針形、表面は緑色、裏面は淡緑色で無毛。花柄は長さ 8-10 cm、無毛。花冠は径 1.5-2 cm、白色。側弁は有毛。唇弁は少数の淡紫条がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

田畑の畦地や道路沿いの草地に生育する。

【分布域】

長崎県、朝鮮半島・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では長崎県対馬の 2 ヶ所に自生地があったが、1 ヶ所は消滅、もう 1 ヶ所は現状不明であった。現存している可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シロコスミレ	<i>Viola lactiflora</i>	CR
第4次 2019:	シロコスミレ	<i>Viola lactiflora</i>	CR
第4次 2018:	シロコスミレ	<i>Viola lactiflora</i>	CR
第4次 2017:	シロコスミレ	<i>Viola lactiflora</i>	CR
第4次 2015:	シロコスミレ	<i>Viola lactiflora</i>	CR
第4次:	シロコスミレ	<i>Viola lactiflora</i>	CR
第3次:	シロコスミレ	<i>Viola lactiflora</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 浜栄助, 1975. 原色日本のスミレ. 280pp. 誠文堂新光社, 東京.
- 長崎県県民生活環境部自然保護課, 2001. ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック 2001. 長崎県県民生活環境部自然保護課, 568pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola lactiflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola lactiflora* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマジリスミレ

*Viola okinawensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オキナワスミレに似る。唇弁の背面には縫合したような浅い溝があり、エゾタチツボスミレと共通した特徴も持つ。高さ 8–12 cm、花色は淡紅紫色～白色。

【生活史】

常緑多年草。

【生育環境】

内陸の石灰岩壁で、くぼみや割れ目などの日陰に生育する。

【分布域】

沖縄本島の石灰岩地に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

本種の学名は有効に出版されていないため、裸名である。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマジリスミレ	<i>Viola okinawensis</i>	CR
第4次 2019:	シマジリスミレ	<i>Viola okinawensis</i>	CR
第4次 2018:	シマジリスミレ	<i>Viola okinawensis</i>	CR
第4次 2017:	シマジリスミレ	<i>Viola okinawensis</i>	CR
第4次 2015:	シマジリスミレ	<i>Viola okinawensis</i>	CR
第4次:	シマジリスミレ	<i>Viola okinawensis</i>	CR
第3次:	シマジリスミレ	<i>Viola okinawensis</i>	CR
第2次:	シマジリスミレ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 中島邦雄，1970. 琉球植物覚書（三）. 北陸の植物，18: 7-14.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola okinawensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola okinawensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イシガキスミレ

Viola tashiroi var. *tairae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヤエヤマスミレによく似るが、葉は三角形である。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

溪流の岩上に生育する。

【分布域】

石垣島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イシガキスミレ	<i>Viola tashiroi</i> var. <i>tairae</i>	CR
第4次 2019:	イシガキスミレ	<i>Viola tashiroi</i> var. <i>tairae</i>	CR
第4次 2018:	イシガキスミレ	<i>Viola tashiroi</i> var. <i>tairae</i>	CR
第4次 2017:	イシガキスミレ	<i>Viola tashiroi</i> var. <i>tairae</i>	CR
第4次 2015:	イシガキスミレ	<i>Viola tashiroi</i> var. <i>tairae</i>	CR
第4次:	イシガキスミレ	<i>Viola tashiroi</i> var. <i>tairae</i>	CR
第3次:	イシガキスミレ	<i>Viola tashiroi</i> var. <i>tairae</i>	EN
第2次:	イシガキスミレ	<i>Viola tashiroi</i> var. <i>tairae</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Viola tashiroi var. *tairae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Viola tashiroi* var. *tairae* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アマ科 Linaceae

マツバニンジン

Linum stelleroides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-60 cm。全体無毛。葉身は長さ 1-3 cm、狭長楕円形、3 脈あり、無柄で基部はしだいに細まる。花は径約 1 cm、淡紫色。花弁は長さ 5-6 mm、広倒卵形。蒴果は径 3-4 mm、球形。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

日当りのよい草地に生育。

【分布域】

本州～九州、東アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	0	0	0	0	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	その他	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マツバニンジン	<i>Linum stelleroides</i>	CR
第4次 2019:	マツバニンジン	<i>Linum stelleroides</i>	CR
第4次 2018:	マツバニンジン	<i>Linum stelleroides</i>	CR
第4次 2017:	マツバニンジン	<i>Linum stelleroides</i>	CR
第4次 2015:	マツバニンジン	<i>Linum stelleroides</i>	CR
第4次:	マツバニンジン	<i>Linum stelleroides</i>	CR
第3次:	マツバニンジン	<i>Linum stelleroides</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[情報不足] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[絶滅種(EX)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 栃木県[絶滅] 群馬県[情報不足(DD)] 埼玉県[絶滅(EX)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅(EX)] 東京都(南多摩)[絶滅(EX)] 神奈川県[絶滅(EX)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 京都府[絶滅種] 兵庫県[絶滅(EX)] 奈良県[情報不足種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[情報不足(DD)] 大分県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Linum stelleroides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Linum stelleroides* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タシロカワゴケソウ

Cladopus fukienensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カワゴケソウに似るが、根は厚さ 0.4-0.5 mm、幅 0.4-1 mm、細いリボン状。葉は分枝の腋に束状につく。花茎は最長 8 mm、苞葉は 12-16 個、それぞれ 3-7 片に裂ける。

【生活史】

一年草、ときに多年草。

【生育環境】

流水中の岩上に生育。

【分布域】

鹿児島県（大隅半島雄川）、中国（東南部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タシロカワゴケソウ	<i>Cladopus fukienensis</i>	CR
第4次 2019:	タシロカワゴケソウ	<i>Cladopus fukienensis</i>	CR
第4次 2018:	タシロカワゴケソウ	<i>Cladopus fukienensis</i>	CR
第4次 2017:	タシロカワゴケソウ	<i>Cladopus fukienensis</i>	CR
第4次 2015:	タシロカワゴケソウ	<i>Cladopus fukienensis</i>	CR
第4次:	タシロカワゴケソウ	<i>Cladopus fukienensis</i>	CR
第3次:	タシロカワゴケソウ	<i>Cladopus austro-osumiensis</i>	CR
第2次:	タシロカワゴケソウ	<i>Cladopus austroosumiensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cladopus fukienensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cladopus fukienensis* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カワゴケソウ

Cladopus japonicus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 C

推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根は厚さ 0.2-0.6 mm、幅 2-6 mm、幅広いリボン状。葉身は長さ 4-8 mm、針状、根が分枝した腋から(3-)7-8(-15)本が束生する。花茎は 2-8 mm、苞葉は 10-12 個、それぞれ 8-10 片に裂ける。花は花茎の先端に 1 個つく。

【生活史】

多年草。花期は 10-12 月。

【生育環境】

流水中の岩上に生育。

【分布域】

鹿児島県（川内川・天降川・犬飼滝・龍門滝・安楽川・万之瀬川・馬渡川）・宮崎県（木城町）、中国（東南部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カワゴケソウ	<i>Cladopus doianus</i>	EN
第4次 2019:	カワゴケソウ	<i>Cladopus doianus</i>	EN
第4次 2018:	カワゴケソウ	<i>Cladopus doianus</i>	EN
第4次 2017:	カワゴケソウ	<i>Cladopus doianus</i>	EN
第4次 2015:	カワゴケソウ	<i>Cladopus doianus</i>	EN
第4次:	カワゴケソウ	<i>Cladopus doianus</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cladopus japonicus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cladopus japonicus* is listed as CR under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	River development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオヨドカワゴロモ

*Hydrobryum koribanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カワゴロモに似るが、葉状体は厚さが 0.2-0.6 mm あって厚く、やや硬く、段ボール紙のようにしわがよって、くすんだ緑色。

【生活史】

一年草、ときに多年草。

【生育環境】

流水中の岩上に生育。

【分布域】

宮崎県（大淀川・岩瀬川）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 水質汚濁		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオヨドカワゴロモ	<i>Hydrobryum koribanum</i>	CR
第4次 2019:	オオヨドカワゴロモ	<i>Hydrobryum koribanum</i>	CR
第4次 2018:	オオヨドカワゴロモ	<i>Hydrobryum koribanum</i>	CR
第4次 2017:	オオヨドカワゴロモ	<i>Hydrobryum koribanum</i>	CR
第4次 2015:	オオヨドカワゴロモ	<i>Hydrobryum koribanum</i>	CR
第4次:	オオヨドカワゴロモ	<i>Hydrobryum koribanum</i>	CR
第3次:	オオヨドカワゴロモ	<i>Hydrobryum koribanum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hydrobryum koribanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hydrobryum koribanum* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Water pollution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

センカクオトギリ

*Hypericum senkakuinsulare***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基部からよく分枝し、高さ 0.6 m。葉身は長さ 2.3–3.5 cm、楕円形～倒卵形、多数の明点がある。花は枝先に単生する。花弁は長さ 25 mm、5 個、倒卵形、鮮黄色。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

山頂岩場などの風衝地に生育。

【分布域】

尖閣諸島（魚釣島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。過去の情報として 1 メッシュ、数個体と報告された。今後も自生地においてノヤギの摂食が続くと予想された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	センカクオトギリ	<i>Hypericum senkakuinsulare</i>	CR
第4次 2019:	センカクオトギリ	<i>Hypericum senkakuinsulare</i>	CR
第4次 2018:	センカクオトギリ	<i>Hypericum senkakuinsulare</i>	CR
第4次 2017:	センカクオトギリ	<i>Hypericum senkakuinsulare</i>	CR
第4次 2015:	センカクオトギリ	<i>Hypericum senkakuinsulare</i>	CR
第4次:	センカクオトギリ	<i>Hypericum senkakuinsulare</i>	CR
第3次:	センカクオトギリ	<i>Hypericum senkakuinsulare</i>	CR
第2次:	センカクオトギリ	<i>Hypericum senkakuinsulare</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hypericum senkakuinsulare has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Hypericum senkakuinsulare is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トサオトギリ

*Hypericum tosaense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-75 cm。茎は上部で分枝する。葉身は長さ 5-20 mm、楕円形～倒卵状楕円形、厚質、無柄、明点が密にある。花は茎頂や上部の枝先の花序につき、花序あたり 3-9 個。花弁は長さ 9-15 mm、5 個、倒卵状楕円形、明点と明線があり、縁には黒点がある。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

超塩基性岩地など岩混じりの草地に生育。

【分布域】

本州（近畿地方西部～中国地方東部）・四国（香川県・高知県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 90% であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	2	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	その他動物食害
件数 3	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トサオトギリ	<i>Hypericum tosaense</i>	CR
第4次 2019:	トサオトギリ	<i>Hypericum tosaense</i>	CR
第4次 2018:	トサオトギリ	<i>Hypericum tosaense</i>	CR
第4次 2017:	トサオトギリ	<i>Hypericum tosaense</i>	CR
第4次 2015:	トサオトギリ	<i>Hypericum tosaense</i>	CR
第4次:	トサオトギリ	<i>Hypericum tosaense</i>	CR
第3次:	トサオトギリ	<i>Hypericum tosaense</i>	CR
第2次:	トサオトギリ	<i>Hypericum tosaense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛知県[絶滅(EX)] 兵庫県[A ランク] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hypericum tosaense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hypericum tosaense* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Other animal feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

テリハモモタマナ

Terminalia nitens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15 m。葉身は長さ 10–15 cm、小枝の先端に集まり、倒卵形～倒卵状披針形、光沢がある。果実は長さ約 5 cm、紡錘状楕円形、緑色。

【生活史】

常緑高木。

【生育環境】

海岸林に生育。

【分布域】

琉球（西表島白浜）・フィリピンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、1 個体のみの現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	テリハモモタマナ	<i>Terminalia nitens</i>	CR
第4次 2019:	テリハモモタマナ	<i>Terminalia nitens</i>	CR
第4次 2018:	テリハモモタマナ	<i>Terminalia nitens</i>	CR
第4次 2017:	テリハモモタマナ	<i>Terminalia nitens</i>	CR
第4次 2015:	テリハモモタマナ	<i>Terminalia nitens</i>	CR
第4次:	テリハモモタマナ	<i>Terminalia nitens</i>	CR
第3次:	テリハモモタマナ	<i>Terminalia nitens</i>	CR
第2次:	テリハモモタマナ	<i>Terminalia nitens</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Terminalia nitens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Terminalia nitens* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミズスギナ

Rotala hippuris

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は細長く横にはう。茎は円柱状で基部より枝を分け、多くの節がある。葉は 5-12 個輪生し、水中葉は糸状線形、先は短く 2 裂、長さ 2-3 cm、水上葉は線形で先は切形、長さ 0.5-1 cm、幅 0.6-1 mm。花は白色、水面に伸びた部分の葉腋に単生し柄はなく、花弁は萼より長く、倒卵形で 2 浅裂。蒴果は球形で径約 1.5 mm、赤みをおびる。

【生活史】

多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

池などの水辺や浅い水中に生える。

【分布域】

本州（関東～近畿南部）・四国・九州、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、3 メッシュで計数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	1	1	0	3	2	6

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 水質汚濁	自然遷移	その他
件数	3	3

5		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミズスギナ	<i>Rotala hippuris</i>	CR
第4次 2019:	ミズスギナ	<i>Rotala hippuris</i>	CR
第4次 2018:	ミズスギナ	<i>Rotala hippuris</i>	CR
第4次 2017:	ミズスギナ	<i>Rotala hippuris</i>	CR
第4次 2015:	ミズスギナ	<i>Rotala hippuris</i>	CR
第4次:	ミズスギナ	<i>Rotala hippuris</i>	CR
第3次:	ミズスギナ	<i>Rotala hippuris</i>	EN
第2次:	ミズスギナ	<i>Rotala hippuris</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅(EX)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 福井県[県域絶滅] 静岡県[情報不足(DD)] 愛知県[絶滅(EX)] 三重県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 兵庫県[絶滅(EX)] 奈良県[絶滅種] 香川県[絶滅(EX)] 愛媛県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 福岡県[絶滅危惧 I A 類] 佐賀県[絶滅危惧 I 類種] 長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-g)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rotala hippuris has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rotala hippuris* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Water pollution, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エダウチアカバナ

Epilobium fastigiatoramosum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ホソバアカバナに似るが、匍枝はない。茎は高さ 15-50 cm、多くの枝を分け、細かい曲がった毛がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

北海道、アムール・ウスリー・モンゴル・中国（東北）・朝鮮半島北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。過去に 1 メッシュ内の限られた場所に少数個体の生育記録が得られた。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エダウチアカバナ	<i>Epilobium fastigiatoramosum</i>	CR
第4次 2019:	エダウチアカバナ	<i>Epilobium fastigiatoramosum</i>	CR
第4次 2018:	エダウチアカバナ	<i>Epilobium fastigiatoramosum</i>	CR
第4次 2017:	エダウチアカバナ	<i>Epilobium fastigiatoramosum</i>	CR
第4次 2015:	エダウチアカバナ	<i>Epilobium fastigiatoramosum</i>	CR
第4次:	エダウチアカバナ	<i>Epilobium fastigiatoramosum</i>	CR
第3次:	エダウチアカバナ	<i>Epilobium fastigiatoramosum</i>	CR
第2次:	エダウチアカバナ	<i>Epilobium fastigiatoramosum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅種(Ex)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Epilobium fastigiatoramosum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Epilobium fastigiatoramosum is listed as CR under criteria D.
 D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンフトモモ

*Metrosideros boninensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 3-5 m。葉は対生し、革質で長楕円形または楕円形、まれに卵形、長さ約 5 cm、全縁で無毛。散房状集散花序は頂生し、長さ 5-6 cm。萼筒は倒円錐形または広鐘形、長さ約 3.5 mm、裂片は 5 個、長さ約 1.5 mm。花弁は 5 個で紅色、円形で幅約 4 mm。雄蕊は多数で紅色、葯は黄色。蒴果は洋こま形、長さ約 4 mm。

【生活史】

常緑小高木。

【生育環境】

沢沿いのやや湿った樹林に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（父島列島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンフトモモ	<i>Metrosideros boninensis</i>	EN
第4次 2019:	ムニンフトモモ	<i>Metrosideros boninensis</i>	EN
第4次 2018:	ムニンフトモモ	<i>Metrosideros boninensis</i>	EN
第4次 2017:	ムニンフトモモ	<i>Metrosideros boninensis</i>	EN
第4次 2015:	ムニンフトモモ	<i>Metrosideros boninensis</i>	EN
第4次:	ムニンフトモモ	<i>Metrosideros boninensis</i>	EN
第3次:	ムニンフトモモ	<i>Metrosideros boninensis</i>	EN
第2次:	ムニンフトモモ	<i>Metrosideros boninensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Metrosideros boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Metrosideros boninensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンノボタン

Melastoma tetramerum var. *tetramerum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1 m。葉は対生し、葉身は披針状長楕円形、長さ 3-8 cm、3-5 行脈があり、葉柄は長さ 2-3 cm。花は枝端の近くの葉腋に単生し、径 3 cm 内外、花弁は 4 個で、白色、雄蕊は 8 個。液果は球形で径 8 mm 程度。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

内陸部の日照が少し遮られるような、地下水位の高い場所に生育する。

【分布域】

小笠原（父島）に分布。兄島にも分布の記録がある。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>tetramerum</i>	CR
第4次 2019:	ムニンノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>tetramerum</i>	CR
第4次 2018:	ムニンノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>tetramerum</i>	CR
第4次 2017:	ムニンノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>tetramerum</i>	CR
第4次 2015:	ムニンノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>tetramerum</i>	CR
第4次:	ムニンノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i> var. <i>tetramerum</i>	CR
第3次:	ムニンノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i>	CR
第2次:	ムニンノボタン	<i>Melastoma tetramerum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Melastoma tetramerum var. *tetramerum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Melastoma tetramerum* var. *tetramerum* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガバキブシ

Stachyurus macrocarpus var. *macrocarpus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 C

推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2 m。葉身は長さ 7-14 cm、ふつう狭長楕円形または狭卵状長楕円形。果実は長さ径ともに 12-20 mm、広楕円形または卵形。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

やや湿った低地林内に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島・兄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガバキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>macrocarpus</i>	EN
第4次 2019:	ナガバキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>macrocarpus</i>	EN
第4次 2018:	ナガバキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>macrocarpus</i>	EN
第4次 2017:	ナガバキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>macrocarpus</i>	EN
第4次 2015:	ナガバキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>macrocarpus</i>	EN
第4次:	ナガバキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>macrocarpus</i>	EN
第3次:	ナガバキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i>	CR
第2次:	ナガバキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Stachyurus macrocarpus var. *macrocarpus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Stachyurus macrocarpus* var. *macrocarpus* is listed as CR under criteria C. C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:
1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハザクラキブシ

Stachyurus macrocarpus var. *prunifolius***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ナガバキブシに似るが、葉身は薄く、鋸歯は細く、長楕円形～狭楕円形、両面無毛で、側脈は 7-11 対になる。果実は長さ 1-1.2 cm、楕円形、無毛。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

やや湿った樹林内に生育。

【分布域】

小笠原諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。平均減少率は 85%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハザクラキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>prunifolius</i>	EN
第4次 2019:	ハザクラキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>prunifolius</i>	EN
第4次 2018:	ハザクラキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>prunifolius</i>	EN
第4次 2017:	ハザクラキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>prunifolius</i>	EN
第4次 2015:	ハザクラキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>prunifolius</i>	EN
第4次:	ハザクラキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>prunifolius</i>	EN
第3次:	ハザクラキブシ	<i>Stachyurus macrocarpus</i> var. <i>prunifolius</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Stachyurus macrocarpus var. *prunifolius* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Stachyurus macrocarpus* var. *prunifolius* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ウルシ科 Anacardiaceae

タイワンフシノキ

Rhus javanica var. *javanica*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヌルデに似るが、葉軸に翼がないことで区別される。

【生活史】

落葉小高木。

【生育環境】

低地の明るい林内や林縁に生育。

【分布域】

本州（東海地方）・琉球（八重山列島）、台湾・中国南部・ヒマラヤ・インドシナ・インドネシア西部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が確認された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾フシノキ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>javanica</i>	CR
第4次 2019:	台湾フシノキ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>javanica</i>	CR
第4次 2018:	台湾フシノキ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>javanica</i>	CR
第4次 2017:	台湾フシノキ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>javanica</i>	CR
第4次 2015:	台湾フシノキ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>javanica</i>	CR
第4次:	台湾フシノキ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>javanica</i>	CR
第3次:	台湾フシノキ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>javanica</i>	CR
第2次:	台湾フシノキ	<i>Rhus javanica</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhus javanica var. *javanica* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Rhus javanica var. *javanica* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミカジカエデ

Acer amamiense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 4 m ほどになる。枝は暗赤色で無毛。葉柄は細く、長さ 4-12 cm、無毛。葉身は紙質、倒卵状円形、長さ 5-10 cm、幅 7-12 cm、基部から掌状に (3-) 5 脈が出て、先は (3-) 5 裂し、基部は切形または広くさび形、両面はほぼ無毛で基部に軟毛がある。雄性総状花序は長さ約 5 cm。雄花では花柄は長さ 5-15 mm、軟毛を密布し、萼片は緑色で 6 個、長楕円形、鈍頭、長さ約 3 mm、幅約 1.5 mm、無毛。子房は密に伏した短軟毛がある。果序は長さ 8-10 cm、5-12 個の翼果をつけ、果序柄はまばらに軟毛がある。分果は長さ約 7 mm、幅 5 mm、短軟毛があり、翼は長さ 17-25 mm、幅 7-10 mm、まばらに短軟毛がある。

【生活史】

落葉小高木。雌雄異株。

【生育環境】

常緑樹林脇の斜面に生える。

【分布域】

奄美大島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミカジカエデ	<i>Acer amamiense</i>	CR
第4次 2019:	アマミカジカエデ	<i>Acer amamiense</i>	CR
第4次 2018:	アマミカジカエデ	<i>Acer amamiense</i>	CR
第4次 2017:	アマミカジカエデ	<i>Acer amamiense</i>	CR
第4次 2015:	アマミカジカエデ	<i>Acer amamiense</i>	CR
第4次:	アマミカジカエデ	<i>Acer amamiense</i>	CR
第3次:	アマミカジカエデ	<i>Acer amamiense</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Acer amamiense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Acer*

amamiense is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウライタチバナ

Citrus nippokoreana

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

タチバナの果実は径 2.5-3 cm であるが、本種の果実は大きく径 6 cm に達し、子室数 9-12、果皮も厚い。葉は卵状長楕円形、葉柄に狭い翼がある。

【生活史】

常緑の低木。

【生育環境】

海岸に近い常緑樹林内に生育する。自生地ではタチバナと混生する。

【分布域】

山口県。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウライタチバナ	<i>Citrus nippokoreana</i>	CR
第4次 2019:	コウライタチバナ	<i>Citrus nippokoreana</i>	CR
第4次 2018:	コウライタチバナ	<i>Citrus nippokoreana</i>	CR
第4次 2017:	コウライタチバナ	<i>Citrus nippokoreana</i>	CR
第4次 2015:	コウライタチバナ	<i>Citrus nippokoreana</i>	CR
第4次:	コウライタチバナ	<i>Citrus nippokoreana</i>	CR
第3次:	コウライタチバナ	<i>Citrus nippokoreana</i>	CR
第2次:	コウライタチバナ	<i>Citrus nippokoreana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Citrus nippokoreana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Citrus nippokoreana* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ミカン科 Rutaceae

ホソバハマセンダン

Tetradium taiwanense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

小葉は 9-17 個。果実表面にいぼ状隆起がある。心皮の長さは約 3 mm。種子は長さ約 2 mm。

【生活史】

落葉高木。

【生育環境】

路傍などの二次林に生育する。

【分布域】

奄美大島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 10 メッシュで現存個体数は計数十個体と推定された。主な減少要因は、道路工事、森林伐採であった。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
10	0	0	0	0	0	10	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバハマセンダン	<i>Tetradium glabrifolium</i>	CR
第4次 2019:	ホソバハマセンダン	<i>Tetradium glabrifolium</i>	CR
第4次 2018:	ホソバハマセンダン	<i>Tetradium glabrifolium</i>	CR
第4次 2017:	ホソバハマセンダン	<i>Tetradium glabrifolium</i>	CR
第4次 2015:	ホソバハマセンダン	<i>Tetradium glabrifolium</i>	CR
第4次:	ホソバハマセンダン	<i>Tetradium glabrifolium</i>	CR
第3次:	ホソバハマセンダン	<i>Euodia ailanthifolia</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp., 264pls. 平凡社，東京.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2015. レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物— 8 植物Ⅰ（維管束植物）. 646pp. ぎょうせい，東京.
- 山崎敬，1993. ハマセンダンとその近縁種について. 植物研究雑誌，68: 215-218.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tetradium taiwanense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tetradium taiwanense* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アオイ科 Malvaceae

センカクトロロアオイ

Abelmoschus moschatus var. *betulifolius*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

リュウキュウトロロアオイに似るが、副萼片が少なく幅広く、茎の毛が少ない。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

海岸の低木林内に生育。

【分布域】

琉球（尖閣諸島）、インドシナ・マレーシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。2007 年調査では過去に 1 メッシュ、数個体あった情報が得られたが、現状は不明である。引き続き、ノヤギの食害による影響が強く懸念される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	センカクトロロアオイ	<i>Abelmoschus moschatus</i> var. <i>betulifolius</i>	CR
第4次 2019:	センカクトロロアオイ	<i>Abelmoschus moschatus</i> var. <i>betulifolius</i>	CR
第4次 2018:	センカクトロロアオイ	<i>Abelmoschus moschatus</i> var. <i>betulifolius</i>	CR
第4次 2017:	センカクトロロアオイ	<i>Abelmoschus moschatus</i> var. <i>betulifolius</i>	CR
第4次 2015:	センカクトロロアオイ	<i>Abelmoschus moschatus</i> var. <i>betulifolius</i>	CR
第4次:	センカクトロロアオイ	<i>Abelmoschus moschatus</i> var. <i>betulifolius</i>	CR
第3次:	センカクトロロアオイ	<i>Abelmoschus moschatus</i> var. <i>betulifolius</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Abelmoschus moschatus var. *betulifolius* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Abelmoschus moschatus* var. *betulifolius* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アオイ科 Malvaceae

ヒシバウオトリギ

Grewia rhombifolia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-2 m。若枝に星状毛が密生する。葉身は長さ 2-4 cm、厚く菱形、先は鈍く基部はくさび形、縁には鋸歯があり、両面に星状毛がまばらに生える。長さ 1-2 cm の散形花序を伸ばし、数個の花をつける。

【生活史】

常緑低木。花期は 7 月。

【生育環境】

海近くの岩上に生育。

【分布域】

琉球（石垣島）、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒシバウオトリギ	<i>Grewia rhombifolia</i>	CR
第4次 2019:	ヒシバウオトリギ	<i>Grewia rhombifolia</i>	CR
第4次 2018:	ヒシバウオトリギ	<i>Grewia rhombifolia</i>	CR
第4次 2017:	ヒシバウオトリギ	<i>Grewia rhombifolia</i>	CR
第4次 2015:	ヒシバウオトリギ	<i>Grewia rhombifolia</i>	CR
第4次:	ヒシバウオトリギ	<i>Grewia rhombifolia</i>	CR
第3次:	ヒシバウオトリギ	<i>Grewia rhombifolia</i>	CR
第2次:	ヒシバウオトリギ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Grewia rhombifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Grewia rhombifolia* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アオイ科 Malvaceae

ブンゴボダイジュ

Tilia chinensis var. *intonsa*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

マンシュウボダイジュからは果実に褐色の長毛が密生することで、ツクシボダイジュからは若枝に長軟毛を密生することおよび苞葉に明瞭な柄を有することで、それぞれ区別される。

【生活史】

落葉高木。

【生育環境】

丘陵地の林縁に生育。

【分布域】

大分県久住山系、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	道路工事	
件数 1	1	

特記事項

最大の1個体は県の天然記念物に指定されている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 大分県自然環境学術調査会，2022. レッドデータブックおおいた 2022-大分県の絶滅のおそれのある野生生物-. <https://www.rdb-oita.jp/>（2024年9月5日閲覧）.
- 大分県自然環境学術調査会野生生物専門部会，2002. レッドデータブックおおいた（普及版）. 99pp. 大分県，大分.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tilia chinensis var. *intonsa* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Tilia chinensis var. *intonsa* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Land development, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チュウゴクボダイジュ

*Tilia chugokuensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

マンシュウボダイジュに似るが、果実に稜があってやや角ばり、長単毛が多い。

【生活史】

落葉高木。

【生育環境】

ダム湖岸に生育。

【分布域】

広島県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チュウゴクボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>chugokuensis</i>	CR
第4次 2019:	チュウゴクボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>chugokuensis</i>	CR
第4次 2018:	チュウゴクボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>chugokuensis</i>	CR
第4次 2017:	チュウゴクボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>chugokuensis</i>	CR
第4次 2015:	チュウゴクボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>chugokuensis</i>	CR
第4次:	チュウゴクボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>chugokuensis</i>	CR
第3次:	チュウゴクボダイジュ	<i>Tilia chugokuensis</i>	CR
第2次:	チュウゴクボダイジュ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

広島県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 生物多様性広島戦略推進会議希少生物分科会，2022. 絶滅のおそれのある野生生物 第4版 レッドデータブックひろしま 2021. 広島県環境県民局自然環境課，761pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tilia chugokuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tilia chugokuensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Abandonment of management

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アオイ科 Malvaceae

マンシュウボダイジュ

Tilia mandshurica var. *mandshurica*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-20 m。葉柄は長さ 3-5 cm、星状毛が密生。葉身は長さ 9-15 cm、ゆがんだ円形、縁には広三角形で鋭く尖る鋸歯がある。花は長さ 8-11 cm の花序に、10-20 個つく。総苞葉は狭長楕円形で先は円く、長さは花時、果時とも 8-12 cm。果実は球形で、径約 7 mm、短い星状毛が密生し、少数の長い単毛が混じり、灰白色。

【生活史】

落葉高木。花期は 7 月。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

山口県、朝鮮半島・中国（北部・東北）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数個体の現存が推定された。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	不明	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マンシュウボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>mandshurica</i>	CR
第4次 2019:	マンシュウボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>mandshurica</i>	CR
第4次 2018:	マンシュウボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>mandshurica</i>	CR
第4次 2017:	マンシュウボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>mandshurica</i>	CR
第4次 2015:	マンシュウボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>mandshurica</i>	CR
第4次:	マンシュウボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i> var. <i>mandshurica</i>	CR
第3次:	マンシュウボダイジュ	<i>Tilia mandshurica</i>	CR
第2次:	マンシュウボダイジュ	<i>Tilia mandschurica</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tilia mandshurica var. *mandshurica* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tilia mandshurica* var. *mandshurica* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Unknown

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アオイ科 Malvaceae

ケナシハテルマカズラ

Triumfetta procumbens var. *glaberrima*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎の基部は木化し、地上を這う枝はよく分枝する。葉は互生し、葉柄は 1-3.5 cm、葉身は広卵形または卵円形で、時に浅く 3 裂し、長さ 1-3 cm、幅 1-4 cm。葉腋またはその反対側から長さ 1-2 cm の花序を伸ばし、1-3 花をつける。花弁は黄色で 5 枚、倒長卵形、長さ 8-10 mm。果実は径 1-1.2 cm。全株全く無毛である点が基本種のハテルマカズラと異なる。

【生活史】

常緑性の匍匐性低木。

【生育環境】

海岸の砂浜に生育。

【分布域】

伊良部島・多良間島、フィリピン・ポリネシア・ミクロネシア・メラネシア、インド洋・マレーシア、オーストラリア・ココス島・セイシェル諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。現存する生育地を確認できているが、産地と個体数は極めて限られる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ケナシハテルマカズラ	<i>Triumfetta procumbens</i> var. <i>glaberrima</i>	CR
第4次 2019:	ケナシハテルマカズラ	<i>Triumfetta procumbens</i> var. <i>glaberrima</i>	CR
第4次 2018:	ケナシハテルマカズラ	<i>Triumfetta procumbens</i> var. <i>glaberrima</i>	CR
第4次 2017:	ケナシハテルマカズラ	<i>Triumfetta procumbens</i> var. <i>glaberrima</i>	CR
第4次 2015:	ケナシハテルマカズラ	<i>Triumfetta procumbens</i> var. <i>glaberrima</i>	CR
第4次:	ケナシハテルマカズラ	<i>Triumfetta procumbens</i> var. <i>glaberrima</i>	CR
第3次:	ケナシハテルマカズラ	<i>Triumfetta procumbens</i> var. <i>glaberrima</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Triumfetta procumbens var. *glaberrima* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List

5th edition. <i>Triumfetta procumbens</i> var. <i>glaberrima</i> is listed as CR under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオシマガンピ

*Diplomorpha phymatoglossa***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 1.5 m。葉は密に螺旋状につき、卵形～卵状長楕円形で、長さ 2–6 cm。円錐花序で、花は両性で黄色。子房は長毛を密生。コガンピに似るが、葉が卵形で多少大型となり、幹がやや明瞭で、花序もまばらである。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

林縁や林内に生育する。

【分布域】

奄美大島、徳之島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 草地開発		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオシマガンピ	<i>Diplomorpha phymatoglossa</i>	CR
第4次 2019:	オオシマガンピ	<i>Diplomorpha phymatoglossa</i>	CR
第4次 2018:	オオシマガンピ	<i>Diplomorpha phymatoglossa</i>	CR
第4次 2017:	オオシマガンピ	<i>Diplomorpha phymatoglossa</i>	CR
第4次 2015:	オオシマガンピ	<i>Diplomorpha phymatoglossa</i>	CR
第4次:	オオシマガンピ	<i>Diplomorpha phymatoglossa</i>	CR
第3次:	オオシマガンピ	<i>Diplomorpha phymatoglossa</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diplomorpha phymatoglossa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Diplomorpha phymatoglossa* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Grassland development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハナナズナ

Berteroella maximowiczii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 D
推定開花株数が 50 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 20–60 cm。全体に星状毛がある。葉身は長さ 1.2–4 cm、倒卵形～広倒披針形、先は円形で小さく尖り、基部はくさび形。花弁は長さ 3–4 mm、長楕円形へら形。

【生活史】

越年草。花期は 5–10 月。

【生育環境】

平地に生育。

【分布域】

対馬・本州（中国地方）、朝鮮半島・中国（東北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅した。調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	2	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	その他
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハナナズナ	<i>Berteroella maximowiczii</i>	CR
第4次 2019:	ハナナズナ	<i>Berteroella maximowiczii</i>	CR
第4次 2018:	ハナナズナ	<i>Berteroella maximowiczii</i>	CR
第4次 2017:	ハナナズナ	<i>Berteroella maximowiczii</i>	CR
第4次 2015:	ハナナズナ	<i>Berteroella maximowiczii</i>	CR
第4次:	ハナナズナ	<i>Berteroella maximowiczii</i>	CR
第3次:	ハナナズナ	<i>Berteroella maximowiczii</i>	CR
第2次:	ハナナズナ	<i>Berteroella maximowiczii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岡山県[絶滅] 広島県[絶滅(EX)] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Berteroella maximowiczii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Berteroella maximowiczii is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヘラハタザオ

Catolobus ligulifolius

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報								
【形態】								
エゾハタザオに似るが、茎葉はへら状長楕円形、無柄でやや茎を抱き、ほぼ全縁。角果は垂れ下がらない。								
【生活史】								
越年草。								
【生育環境】								
石灰岩地に生育。								
【分布域】								
本州（関東地方西部・南アルプス）、朝鮮半島（東北部）に分布。								
現在の生育状況								
【生育地の現況】								
2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。								
現地調査の集計結果 2018 年調査								
【「現存する株数」別のメッシュ数】								
<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0
【存続を脅かす要因上位3項目の件数】								
1 番目			2 番目			3 番目		
要因 シカ食害			自然遷移					
件数 1			1					

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヘラハタザオ	<i>Arabis ligulifolia</i>	CR
第4次 2019:	ヘラハタザオ	<i>Arabis ligulifolia</i>	CR
第4次 2018:	ヘラハタザオ	<i>Arabis ligulifolia</i>	CR
第4次 2017:	ヘラハタザオ	<i>Arabis ligulifolia</i>	CR
第4次 2015:	ヘラハタザオ	<i>Arabis ligulifolia</i>	CR
第4次:	ヘラハタザオ	<i>Arabis ligulifolia</i>	CR
第3次:	ヘラハタザオ	<i>Arabis ligulifolia</i>	CR
第2次:	ヘラハタザオ	<i>Arabis lignlifolium</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

埼玉県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Catolobus ligulifolius has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Catolobus ligulifolius* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハナハタザオ

Dontostemon dentatus var. *dentatus*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 15-50 cm。葉身は長さ 2-7 cm、線状披針形、両端は細まり、全縁または鋭鋸歯縁。花弁は長さ 6-9(-11) mm、倒卵形で先は円形、紅紫色。

【生活史】

越年草。花期は 6-9 月。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

本州（東北地方南部～中部地方の太平洋側）・九州（熊本県）、朝鮮半島・中国（北部）・シベリア（東部）・アムール・ウスリーに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 海岸開発	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハナハタザオ	<i>Dontostemon dentatus</i>	CR
第4次 2019:	ハナハタザオ	<i>Dontostemon dentatus</i>	CR
第4次 2018:	ハナハタザオ	<i>Dontostemon dentatus</i>	CR
第4次 2017:	ハナハタザオ	<i>Dontostemon dentatus</i>	CR
第4次 2015:	ハナハタザオ	<i>Dontostemon dentatus</i>	CR
第4次:	ハナハタザオ	<i>Dontostemon dentatus</i>	CR
第3次:	ハナハタザオ	<i>Dontostemon dentatus</i>	EN
第2次:	ハナハタザオ	<i>Dontostemon dentatus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅(EX)] 福島県[絶滅(EX)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 栃木県[絶滅] 群馬県[絶滅(EX)] 埼玉県[絶滅(EX)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 神奈川県[絶滅(EX)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅(EX)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 広島県[情報不足(DD)] 長崎県[絶滅(EX)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dontostemon dentatus var. *dentatus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dontostemon dentatus* var. *dentatus* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Coastal development, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シリベシナズナ

*Draba igarashii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

モイワナズナに似るが、全体が大型。高さ 18-24 cm。根茎はよく分枝し、有花茎と無花茎を伸ばす。有花茎の根出葉は長さ 3 cm、倒披針形、全縁に近く、両面に星状毛。茎葉は長さ 21 mm、楕円状卵形、少数の鋸歯がある。花は総状花序に 3-23 個つく。花弁は長さ 4.5-5 mm、白色。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

石灰岩地に生育。

【分布域】

北海道（後志地方）の大平山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。2000 年調査以降、生育情報が得られていない。過去の情報を用いて基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2000 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	—	0	0	0	—	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シリベシナズナ	<i>Draba igarashii</i>	CR
第4次 2019:	シリベシナズナ	<i>Draba igarashii</i>	CR
第4次 2018:	シリベシナズナ	<i>Draba igarashii</i>	CR
第4次 2017:	シリベシナズナ	<i>Draba igarashii</i>	CR
第4次 2015:	シリベシナズナ	<i>Draba igarashii</i>	CR
第4次:	シリベシナズナ	<i>Draba igarashii</i>	CR
第3次:	シリベシナズナ	<i>Draba igarashii</i>	CR
第2次:	シリベシナズナ	<i>Draba igarashii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Draba igarashii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Draba igarashii* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ソウンナズナ

*Draba nakaiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-18 cm。根茎はよく分枝し、有花茎と無花茎を伸ばす。有花茎の根出葉は長さ 13 mm、狭披針形、ロゼット状、両面に星状毛。茎葉は長さ 14 mm、楕円状卵形、全縁または 1-2 個の鋸歯がある。花は総状花序に 5-25 個つく。花弁は長さ 4.5-5 mm、白色。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

山地や高山の岩礫地に生育。

【分布域】

北海道（大雪山系・十勝連峰・夕張岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年の調査で情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ソウウンナズナ	<i>Draba nakaiana</i>	CR
第4次 2019:	ソウウンナズナ	<i>Draba nakaiana</i>	CR
第4次 2018:	ソウウンナズナ	<i>Draba nakaiana</i>	CR
第4次 2017:	ソウウンナズナ	<i>Draba nakaiana</i>	CR
第4次 2015:	ソウウンナズナ	<i>Draba nakaiana</i>	CR
第4次:	ソウウンナズナ	<i>Draba nakaiana</i>	CR
第3次:	ソウウンナズナ	<i>Draba nakaiana</i>	CR
第2次:	ソウウンナズナ	<i>Draba nakaiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Draba nakaiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Draba nakaiana* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

センカクハマサジ

*Limonium senkakuense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

台湾ハマサジに似るが、萼は筒状で開かない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の岩上に生育。

【分布域】

尖閣諸島（魚釣島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。30 年前に 1 メッシュで数個体あったとの情報が得られた。引き続き、ノヤギの食害による影響が強く懸念される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	センカクハマサジ	<i>Limonium senkakuense</i>	CR
第4次 2019:	センカクハマサジ	<i>Limonium senkakuense</i>	CR
第4次 2018:	センカクハマサジ	<i>Limonium senkakuense</i>	CR
第4次 2017:	センカクハマサジ	<i>Limonium senkakuense</i>	CR
第4次 2015:	センカクハマサジ	<i>Limonium senkakuense</i>	CR
第4次:	センカクハマサジ	<i>Limonium senkakuense</i>	CR
第3次:	センカクハマサジ	<i>Limonium senkakuense</i>	CR
第2次:	センカクハマサジ	<i>Limonium senkakuense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Limonium senkakuense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Limonium senkakuense is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

台湾ハマサジ

Limonium sinense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はほとんど伸びない。葉は長さ 8-17 cm、根ざわに群生。先は鋭いかやや尖る。花序の枝は下ほど長く、散房花序。萼の縁に鈍鋸歯がある。萼は上部で高杯形に開く。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の岩上に生育。

【分布域】

琉球（八重山諸島の中の御神島）、台湾・中国・ベトナム北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾ハマサジ	<i>Limonium sinense</i>	CR
第4次 2019:	台湾ハマサジ	<i>Limonium sinense</i>	CR
第4次 2018:	台湾ハマサジ	<i>Limonium sinense</i>	CR
第4次 2017:	台湾ハマサジ	<i>Limonium sinense</i>	CR
第4次 2015:	台湾ハマサジ	<i>Limonium sinense</i>	CR
第4次:	台湾ハマサジ	<i>Limonium sinense</i>	CR
第3次:	台湾ハマサジ	<i>Limonium sinense</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Limonium sinense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Limonium sinense* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナンブトラノオ

*Bistorta hayachinensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-30 cm。根出葉は数個つき、有柄、表面は光沢があり、卵形で、長さ 4-11 cm、茎葉は急に小さくなる。花序は短い円柱形、密に淡紅紫色の花をつける。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の蛇紋岩地に生育する。

【分布域】

岩手県早池峰山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンブトラノオ	<i>Bistorta hayachinensis</i>	CR
第4次 2019:	ナンブトラノオ	<i>Bistorta hayachinensis</i>	CR
第4次 2018:	ナンブトラノオ	<i>Bistorta hayachinensis</i>	CR
第4次 2017:	ナンブトラノオ	<i>Bistorta hayachinensis</i>	CR
第4次 2015:	ナンブトラノオ	<i>Bistorta hayachinensis</i>	CR
第4次:	ナンブトラノオ	<i>Bistorta hayachinensis</i>	CR
第3次:	ナンブトラノオ	<i>Bistorta hayachinensis</i>	CR
第2次:	ナンブトラノオ	<i>Bistorta hayachinensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Bistorta hayachinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Bistorta hayachinensis is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae タデ科 Polygonaceae

ダイトウサクラタデ

Persicaria taitoinsularis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

リュウキュウタデに酷似するが、花柱は 2 本で、瘦果はレンズ形。

【生活史】

常緑の多年草。

【生育環境】

池の畔に生育する。

【分布域】

大東諸島に分布。国外では、ミクロネシア～マレーシア東部地域にかけて分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。北大東島では、湿地の埋め立てとボタンウキクサとホテイアオイの繁茂、周辺からの除草剤の流入による生育環境の悪化で減少した。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ダイトウサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i> var. <i>taitoinsularis</i>	CR
第4次 2019:	ダイトウサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i> var. <i>taitoinsularis</i>	CR
第4次 2018:	ダイトウサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i> var. <i>taitoinsularis</i>	CR
第4次 2017:	ダイトウサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i> var. <i>taitoinsularis</i>	CR
第4次 2015:	ダイトウサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i> var. <i>taitoinsularis</i>	CR
第4次:	ダイトウサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i> var. <i>taitoinsularis</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Persicaria taitoinsularis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Persicaria taitoinsularis is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムジナモ

Aldrovanda vesiculosa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 6-25 cm、多少分枝し、節間は短く、関節がある。葉は 6-8 個が放射状に輪生する。葉身は長さ 4-5 mm、中肋部で二枚貝のように内側に折りたたまれ、内面の合わせ目付近にある感覚毛に小動物が触れると葉身が閉じ、葉面にある無柄の腺から分泌される液で消化され、吸収毛によって吸収される。時に葉身のない葉柄だけの葉がつき、その腋に 1 花がつく。花は水面に出て開き、開花は 1-2 時間、花弁は淡緑色、狭長楕円形で長さ 2.5-4 mm。花後に花柄は曲がって水中で蒴果が熟す。種子は楕円形で長さ 1.5 mm。晩秋になると茎の先端が球形～楕円形の殖芽となり水底に沈んで越冬する。

【生活史】

多年生の浮遊性沈水植物。食虫植物。花期は 7-8 月。

【生育環境】

河川や湖沼に生育する。

【分布域】

本州、朝鮮半島・中国（東北）・インド・ヨーロッパ・アフリカ・オーストラリア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、3 メッシュで計数万個体の現存が推定されが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	1	1	3	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因 池沼開発	園芸採取	管理放棄
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムジナモ	<i>Aldrovanda vesiculosa</i>	CR
第4次 2019:	ムジナモ	<i>Aldrovanda vesiculosa</i>	CR
第4次 2018:	ムジナモ	<i>Aldrovanda vesiculosa</i>	CR
第4次 2017:	ムジナモ	<i>Aldrovanda vesiculosa</i>	CR
第4次 2015:	ムジナモ	<i>Aldrovanda vesiculosa</i>	CR
第4次:	ムジナモ	<i>Aldrovanda vesiculosa</i>	CR
第3次:	ムジナモ	<i>Aldrovanda vesiculosa</i>	CR
第2次:	ムジナモ	<i>Aldrovanda vesiculosa</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[絶滅] 群馬県[野生絶滅(EW)] 埼玉県[野生絶滅(EW)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 東京都(本土部)[区部：絶滅(EX) 本土部：絶滅(EX)] 新潟県[絶滅(EX)] 三重県[絶滅(EX)] 京都府[絶滅種] 奈良県[注目種] 広島県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 角野康郎，2014. ネイチャーガイド 日本の水草. 328pp. 文一総合出版，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aldrovanda vesiculosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Aldrovanda vesiculosa is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Pond development, Collecting plants in gardening, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ナデシコ科 Caryophyllaceae

コバノミミナグサ

Cerastium furcatum var. *ibukiense*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-40 cm。茎葉は卵形～楕円形～長楕円形、長さ 10-25 mm。花は白く、まばらな集散花序に 5-15 個つく。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の石灰岩草原に生育する。

【分布域】

滋賀・岐阜県境の伊吹山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	シカ食害	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コバノミミナグサ	<i>Cerastium furcatum</i> var. <i>ibukiense</i>	EN
第4次 2019:	コバノミミナグサ	<i>Cerastium furcatum</i> var. <i>ibukiense</i>	EN
第4次 2018:	コバノミミナグサ	<i>Cerastium furcatum</i> var. <i>ibukiense</i>	EN
第4次 2017:	コバノミミナグサ	<i>Cerastium furcatum</i> var. <i>ibukiense</i>	EN
第4次 2015:	コバノミミナグサ	<i>Cerastium furcatum</i> var. <i>ibukiense</i>	EN
第4次:	コバノミミナグサ	<i>Cerastium furcatum</i> var. <i>ibukiense</i>	EN
第3次:	コバノミミナグサ	<i>Cerastium schizopetalum</i> var. <i>ibukiense</i>	EN
第2次:	コバノミミナグサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 滋賀県[絶滅危惧種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cerastium furcatum var. *ibukiense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cerastium furcatum* var. *ibukiense* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Human trampling, Deer feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾタカネツメクサ

Minuartia arctica var. *arctica*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D+C

推定開花株数が 50 個体未満/推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

タカネツメクサの基準変種。種子の周辺にごく細かい突起がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の岩礫地に生育する。

【分布域】

北海道（夕張山地、日高山脈、大雪山系、知床山地、利尻島、礼文島）に分布。世界的には周北極地方に広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	人の踏みつけ	産地局限
件数 3	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾタカネツメクサ	<i>Minuartia arctica</i> var. <i>arctica</i>	CR
第4次 2019:	エゾタカネツメクサ	<i>Minuartia arctica</i> var. <i>arctica</i>	CR
第4次 2018:	エゾタカネツメクサ	<i>Minuartia arctica</i> var. <i>arctica</i>	CR
第4次 2017:	エゾタカネツメクサ	<i>Minuartia arctica</i> var. <i>arctica</i>	CR
第4次 2015:	エゾタカネツメクサ	<i>Minuartia arctica</i> var. <i>arctica</i>	CR
第4次:	エゾタカネツメクサ	<i>Minuartia arctica</i> var. <i>arctica</i>	CR
第3次:	エゾタカネツメクサ	<i>Arenaria arctica</i> var. <i>arctica</i>	CR
第2次:	エゾタカネツメクサ	<i>Minuartia arctica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Minuartia arctica var. *arctica* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Minuartia arctica var. *arctica* is listed as CR under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Natural succession, Human trampling, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チシマツメクサ

Sagina saginoides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 3-5 cm。葉は線形～針形、長さ 0.5-1.5 cm。花は白色、径 3-5 mm、茎頂ときに腋生で単生。花弁は萼片より短い等長。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の岩礫地や低地の湿地に生育する。

【分布域】

北海道（利尻山、十勝連峰、釧路地方）、本州（白馬連峰、鹿島槍ヶ岳、針ノ木岳）に分布。世界的には、北半球の亜寒帯～寒帯にかけて広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チシマツメクサ	<i>Sagina saginoides</i>	CR
第4次 2019:	チシマツメクサ	<i>Sagina saginoides</i>	CR
第4次 2018:	チシマツメクサ	<i>Sagina saginoides</i>	CR
第4次 2017:	チシマツメクサ	<i>Sagina saginoides</i>	CR
第4次 2015:	チシマツメクサ	<i>Sagina saginoides</i>	CR
第4次:	チシマツメクサ	<i>Sagina saginoides</i>	CR
第3次:	チシマツメクサ	<i>Sagina saginoides</i>	CR
第2次:	チシマツメクサ	<i>Sagina saginoides</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 富山県[準絶滅危惧] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sagina saginoides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sagina saginoides* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アポイマンテマ

Silene repens var. *apoiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 C

推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カラフトマンテマに似ているが、茎は高さ 5-25 cm と低く、葉は細く密につき、茎と葉が紫。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

超塩基性岩地に生育する。

【分布域】

北海道アポイ岳に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アボイマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>apoiensis</i>	CR
第4次 2019:	アボイマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>apoiensis</i>	CR
第4次 2018:	アボイマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>apoiensis</i>	CR
第4次 2017:	アボイマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>apoiensis</i>	CR
第4次 2015:	アボイマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>apoiensis</i>	CR
第4次:	アボイマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>apoiensis</i>	CR
第3次:	アボイマンテマ	<i>Silene repens</i> var. <i>apoiensis</i>	CR
第2次:	アボイマンテマ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Silene repens var. *apoiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Silene repens var. *apoiensis* is listed as CR under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トカチビランジ

*Silene tokachiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-20 cm。無花茎の葉はロゼット状、線状さじ形、有花茎の葉は倒披針形、長さ 1.3-3 cm。花は紅紫色で 3-5 個が集散花序につく。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の岩壁に生育する。

【分布域】

北海道東大雪山系のニペソツ山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トカチビランジ	<i>Silene tokachiensis</i>	CR
第4次 2019:	トカチビランジ	<i>Silene tokachiensis</i>	CR
第4次 2018:	トカチビランジ	<i>Silene tokachiensis</i>	CR
第4次 2017:	トカチビランジ	<i>Silene tokachiensis</i>	CR
第4次 2015:	トカチビランジ	<i>Silene tokachiensis</i>	CR
第4次:	トカチビランジ	<i>Silene tokachiensis</i>	CR
第3次:	トカチビランジ	<i>Silene tokachiensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Silene tokachiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Silene tokachiensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネマンテマ

Silene uralensis

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 10–20 cm。葉は狭倒披針形、長さ 3–8 cm。花は茎頂に 1 個つく。萼は長楕円形であるが果時には卵形となり、長さ 12–15 mm、縁に 5 歯があり、10 脈がある。花弁は淡紅色～白色、舷部は広倒卵形で、ごく小さく長さ 2–3 mm、先端はややへこむ。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の砂礫地や岩壁に生育する。

【分布域】

南アルプスのごく一部に分布。世界的には北半球の高緯度地方に広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネマンテマ	<i>Silene uralensis</i>	CR
第4次 2019:	タカネマンテマ	<i>Silene uralensis</i>	CR
第4次 2018:	タカネマンテマ	<i>Silene uralensis</i>	CR
第4次 2017:	タカネマンテマ	<i>Silene uralensis</i>	CR
第4次 2015:	タカネマンテマ	<i>Silene uralensis</i>	CR
第4次:	タカネマンテマ	<i>Silene uralensis</i>	CR
第3次:	タカネマンテマ	<i>Silene uralensis</i>	CR
第2次:	タカネマンテマ	<i>Silene wahlenbergella</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Silene uralensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Silene uralensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カンチャチハコベ

Stellaria calycantha

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-40 cm。葉は長卵形～披針形～楕円形、長さ 8-22 mm。花はまばらな集散花序となる。花弁は白色、萼より短い、時にはない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の湿地や沢沿いに生育する。

【分布域】

南千島、北海道（中央高地、日高山脈）、本州（尾瀬、白馬岳、南アルプス三峰岳、荒川岳）に分布。世界的には、北半球の高緯度地方に広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査ではかつて記録のあった 2 メッシュで現地調査が行われたが、自生を確認できなかった。現存している可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カンチャチハコベ	<i>Stellaria calycantha</i>	CR
第4次 2019:	カンチャチハコベ	<i>Stellaria calycantha</i>	CR
第4次 2018:	カンチャチハコベ	<i>Stellaria calycantha</i>	CR
第4次 2017:	カンチャチハコベ	<i>Stellaria calycantha</i>	CR
第4次 2015:	カンチャチハコベ	<i>Stellaria calycantha</i>	CR
第4次:	カンチャチハコベ	<i>Stellaria calycantha</i>	CR
第3次:	カンチャチハコベ	<i>Stellaria calycantha</i>	CR
第2次:	カンチャチハコベ	<i>Stellaria calycantha</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 群馬県[情報不足(DD)] 富山県[情報不足] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]
静岡県[絶滅危惧 I A類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Stellaria calycantha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Stellaria calycantha* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イトハコベ

Stellaria filicaulis

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 30-50 cm。葉は柄がなく、線形、長さ 1-3 cm。花は葉腋や茎頂に単生し、花柄は上を向き長さ 2-6 cm、花弁は白色で 2 深裂する。蒴果は長楕円形で長さ 5-6 mm で 6 裂する。種子は楕円形、長さ 0.7 mm。ややしわがある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低地の湿地に生育する。

【分布域】

本州（関東以北）に分布。国外では、朝鮮半島、中国（東北部、東部、北部）に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発	自然遷移	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イトハコベ	<i>Stellaria filicaulis</i>	VU
第4次 2019:	イトハコベ	<i>Stellaria filicaulis</i>	VU
第4次 2018:	イトハコベ	<i>Stellaria filicaulis</i>	VU
第4次 2017:	イトハコベ	<i>Stellaria filicaulis</i>	VU
第4次 2015:	イトハコベ	<i>Stellaria filicaulis</i>	VU
第4次:	イトハコベ	<i>Stellaria filicaulis</i>	VU
第3次:	イトハコベ	<i>Stellaria filicaulis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[情報不足] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山形県[絶滅(EX)] 福島県[絶滅(EX)] 茨城県[絶滅] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Stellaria filicaulis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Stellaria filicaulis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10

years.	
Threat types:	Wetland development, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオイワツメクサ

Stellaria nipponica var. *yezoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イワツメクサに似るが、葉は幅 2-3 mm、萼片は 6-7 mm と大きく、萼片に明瞭な 3 脈がある点で異なる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

超塩基性岩地に生育する。

【分布域】

北海道（夕張山地、日高山脈）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオイワツメクサ	<i>Stellaria nipponica</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第4次 2019:	オオイワツメクサ	<i>Stellaria nipponica</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第4次 2018:	オオイワツメクサ	<i>Stellaria nipponica</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第4次 2017:	オオイワツメクサ	<i>Stellaria nipponica</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第4次 2015:	オオイワツメクサ	<i>Stellaria nipponica</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第4次:	オオイワツメクサ	<i>Stellaria nipponica</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第3次:	オオイワツメクサ	<i>Stellaria nipponica</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第2次:	オオイワツメクサ	<i>Stellaria nipponica</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Stellaria nipponica var. *yezoensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Stellaria nipponica* var. *yezoensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミドリアカザ

Chenopodium bryoniifolium

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 0.4-1 m。葉は長い柄があり、菱状卵形、縁に1対の小裂片があり、長さ 2-6.5 cm。花序は頂生でまばらに花をつけ、花被は5深裂し、裂片は卵形、長さ 1 mm。胞果は水平なレンズ形。

【生活史】

1年草。

【生育環境】

林縁に生育する。

【分布域】

北海道（札幌）、本州に分布。国外では、シベリア東部、アムール、ウスリー、朝鮮半島、中国に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では3メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は82%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 森林伐採	人の踏みつけ	管理放棄
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミドリアカザ	<i>Chenopodium bryoniifolium</i>	CR
第4次 2019:	ミドリアカザ	<i>Chenopodium bryoniifolium</i>	CR
第4次 2018:	ミドリアカザ	<i>Chenopodium bryoniifolium</i>	CR
第4次 2017:	ミドリアカザ	<i>Chenopodium bryoniifolium</i>	CR
第4次 2015:	ミドリアカザ	<i>Chenopodium bryoniifolium</i>	CR
第4次:	ミドリアカザ	<i>Chenopodium bryoniifolium</i>	CR
第3次:	ミドリアカザ	<i>Chenopodium bryoniifolium</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[情報不足] 秋田県[絶滅危惧種ⅠA 類(CR)] 山形県[絶滅(E X)] 福島県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[情報不足(DD)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 長野県[準絶滅危惧(NT)] 静岡県[要注目種(N-Ⅲ部会注目種)] 長崎県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chenopodium bryoniifolium has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chenopodium bryoniifolium* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Human trampling, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イワアカザ

Chenopodium gracilispicum

カテゴリー判定結果	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ACD 基準
平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 35-100 cm。葉身は三角状卵形で1対の鋸歯があり、長さ 1-5 cm。花序は頂生か上部の葉腋から出て、まばらに花をつける。果皮には乳頭状の突起がある。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

岩場や土壌の薄い草地に生育する。

【分布域】

本州、四国に点在して分布。国外では、朝鮮半島南部、中国東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では7メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は63%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	2	0	0	0	0	7	0	4

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	自然遷移	シカ食害
件数 3	3	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イワアカザ	<i>Chenopodium gracilispicum</i>	CR
第4次 2019:	イワアカザ	<i>Chenopodium gracilispicum</i>	CR
第4次 2018:	イワアカザ	<i>Chenopodium gracilispicum</i>	CR
第4次 2017:	イワアカザ	<i>Chenopodium gracilispicum</i>	CR
第4次 2015:	イワアカザ	<i>Chenopodium gracilispicum</i>	CR
第4次:	イワアカザ	<i>Chenopodium gracilispicum</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[Aランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 兵庫県[要調査種] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chenopodium gracilispicum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chenopodium gracilispicum* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Road construction, Natural succession, Deer feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

インドヒモカズラ

*Deeringia polysperma***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さは 2 m に達することがある。葉は卵形で長さ 7-10 cm。穂状花序で花被は白色か淡褐色。果実は液果で白色に熟す。

【生活史】

亜低木。

【生育環境】

日当たりの良い場所や少し陰になるような場所に生育する。

【分布域】

宮古島以南の八重山諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	インドヒモカズラ	<i>Deeringia polysperma</i>	CR
第4次 2019:	インドヒモカズラ	<i>Deeringia polysperma</i>	CR
第4次 2018:	インドヒモカズラ	<i>Deeringia polysperma</i>	CR
第4次 2017:	インドヒモカズラ	<i>Deeringia polysperma</i>	CR
第4次 2015:	インドヒモカズラ	<i>Deeringia polysperma</i>	CR
第4次:	インドヒモカズラ	<i>Deeringia polysperma</i>	CR
第3次:	インドヒモカズラ	<i>Deeringia polysperma</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Deeringia polysperma has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Deeringia polysperma* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤエヤマヤマボウシ

Cornus kousa var. *chinensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

幹は直立あるいは斜上。葉は枝先に対生し、葉身は楕円形、やや全縁、長さ 5-12 cm。短枝の先に長い柄を伸ばし、頭状花序をつける。花序の基部にある総苞は大形で総苞片は 4 枚、へら形で長さ約 2 cm、花弁のように見える。頭状花序は径約 1 cm、緑黄色の小さな花を密集する。果実は黄熟し、萼筒は肥厚して互いに合着し、球形の集合果となる。基準変種のヤマボウシに比べ、葉柄が長さ 3-10 mm と長く、葉身の表面に長軟毛があり、花盤に白粗毛がある。

【生活史】

落葉高木。

【生育環境】

低地から高地までの自然林に生える。

【分布域】

石垣島・西表島、中国南部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤエヤマヤマボウシ	<i>Cornus kousa</i> var. <i>chinensis</i>	CR
第4次 2019:	ヤエヤマヤマボウシ	<i>Cornus kousa</i> var. <i>chinensis</i>	CR
第4次 2018:	ヤエヤマヤマボウシ	<i>Cornus kousa</i> var. <i>chinensis</i>	CR
第4次 2017:	ヤエヤマヤマボウシ	<i>Cornus kousa</i> var. <i>chinensis</i>	CR
第4次 2015:	ヤエヤマヤマボウシ	<i>Cornus kousa</i> var. <i>chinensis</i>	CR
第4次:	ヤエヤマヤマボウシ	<i>Cornus kousa</i> var. <i>chinensis</i>	CR
第3次:	ヤエヤマヤマボウシ	<i>Cornus kousa</i> var. <i>chinensis</i>	CR
第2次:	ヤエヤマヤマボウシ	<i>Cornus hongkongensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cornus kousa var. *chinensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Cornus kousa var. *chinensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コミノヒメウツギ

Deutzia hatusimae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1.5-3 m。よく分枝する。葉身は長さ 4.5-8 cm、狭披針形、先は鋭形～漸尖形で基部は鈍形～くさび形、表面に星状毛が密生する。花は当年枝から出る複 2 出集散花序に多数つく。花筒は長さ 4.5-6 mm、星状毛が密生する。

【生活史】

落葉低木～小高木。花期は 3-5 月。

【生育環境】

山地溪谷の石灰性砂岩の岩上に生育。

【分布域】

九州（大分県・宮崎県・熊本県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかったものの、現存していることは確認された。産地が局限し、個体数も少ないと推察されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	人の踏みつけ	産地局限
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コミノヒメウツギ	<i>Deutzia hatusimae</i>	CR
第4次 2019:	コミノヒメウツギ	<i>Deutzia hatusimae</i>	CR
第4次 2018:	コミノヒメウツギ	<i>Deutzia hatusimae</i>	CR
第4次 2017:	コミノヒメウツギ	<i>Deutzia hatusimae</i>	CR
第4次 2015:	コミノヒメウツギ	<i>Deutzia hatusimae</i>	CR
第4次:	コミノヒメウツギ	<i>Deutzia hatusimae</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Deutzia hatusimae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Deutzia hatusimae* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Road construction, Human trampling, Limited distribution

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オキナワヒメウツギ

Deutzia naseana var. *amanoi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 2–3 cm、卵円形、基部は広いくさび形～やや円形～浅い心形。花は 2 出集散花序に 3–7 個つく。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

岩壁に生育。

【分布域】

琉球（沖縄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキナフヒメウツギ	<i>Deutzia naseana</i> var. <i>amanoi</i>	CR
第4次 2019:	オキナフヒメウツギ	<i>Deutzia naseana</i> var. <i>amanoi</i>	CR
第4次 2018:	オキナフヒメウツギ	<i>Deutzia naseana</i> var. <i>amanoi</i>	CR
第4次 2017:	オキナフヒメウツギ	<i>Deutzia naseana</i> var. <i>amanoi</i>	CR
第4次 2015:	オキナフヒメウツギ	<i>Deutzia naseana</i> var. <i>amanoi</i>	CR
第4次:	オキナフヒメウツギ	<i>Deutzia naseana</i> var. <i>amanoi</i>	CR
第3次:	オキナフヒメウツギ	<i>Deutzia naseana</i> var. <i>amanoi</i>	CR
第2次:	オキナフヒメウツギ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Deutzia naseana var. *amanoi* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Deutzia naseana* var. *amanoi* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トカラタマアジサイ

Hydrangea involucrata var. *tokarensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

タマアジサイやラセイタタマアジサイに似るが、葉身は長さ 15-20 cm、やや革質で厚く、毛が多い。花は心皮数が 3 または 4。蒴果は径 5 mm。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

湿潤な林縁に生育。

【分布域】

トカラ列島（口之島・諏訪瀬島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トカラタマアジサイ	<i>Hydrangea involucrata</i> var. <i>tokarensis</i>	CR
第4次 2019:	トカラタマアジサイ	<i>Hydrangea involucrata</i> var. <i>tokarensis</i>	CR
第4次 2018:	トカラタマアジサイ	<i>Hydrangea involucrata</i> var. <i>tokarensis</i>	CR
第4次 2017:	トカラタマアジサイ	<i>Hydrangea involucrata</i> var. <i>tokarensis</i>	CR
第4次 2015:	トカラタマアジサイ	<i>Hydrangea involucrata</i> var. <i>tokarensis</i>	CR
第4次:	トカラタマアジサイ	<i>Hydrangea involucrata</i> var. <i>tokarensis</i>	CR
第3次:	トカラタマアジサイ	<i>Hydrangea involucrata</i> var. <i>tokarensis</i>	CR
第2次:	トカラタマアジサイ	<i>Hydrangea involucrata</i> var. <i>takaraensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hydrangea involucrata var. *tokarensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hydrangea involucrata* var. *tokarensis* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エンシュウツリフネソウ

Impatiens hypophylla var. *microhypophylla***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハガクレツリフネに似るが、花は小型で長さ 15-20 mm、唇弁は開口部から距に向かって細くなる。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

溪流沿いや湿潤な林内の林道沿いに生育する。

【分布域】

本州（静岡県、長野県、岐阜県）、紀伊山地、四国（徳島県）、九州（大分県、福岡県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エンシュウツリフネソウ	<i>Impatiens hypophylla</i> var. <i>microhypophylla</i>	EN
第4次 2019:	エンシュウツリフネソウ	<i>Impatiens hypophylla</i> var. <i>microhypophylla</i>	EN
第4次 2018:	エンシュウツリフネソウ	<i>Impatiens hypophylla</i> var. <i>microhypophylla</i>	EN
第4次 2017:	エンシュウツリフネソウ	<i>Impatiens hypophylla</i> var. <i>microhypophylla</i>	EN
第4次 2015:	エンシュウツリフネソウ	<i>Impatiens hypophylla</i> var. <i>microhypophylla</i>	EN
第4次:	エンシュウツリフネソウ	<i>Impatiens hypophylla</i> var. <i>microhypophylla</i>	EN
第3次:	エンシュウツリフネソウ	<i>Impatiens hypophylla</i> var. <i>microhypophylla</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧 I 類] 静岡県[絶滅危惧 II 類(VU)] 愛知県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 福岡県[絶滅危惧 I B 類] 熊本県[情報不足(DD)] 大分県[絶滅危惧 II 類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Impatiens hypophylla var. *microhypophylla* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Impatiens hypophylla* var. *microhypophylla* is listed as CR under criteria E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハナシノブ

Polemonium caeruleum subsp. *kiushianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 70-100 cm。葉は下部のものは葉柄があって羽状に全裂し、裂片は 5-11 対あり、広披針形で柄はなく長さ 1.5-4 cm。上部の葉はしだいに小さくなり、葉柄はなく、羽片の数も少なくなる。花は茎の上部に円錐状につき、花冠は青紫色で、長さ 1-1.5 cm、5 中裂。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地草原に生育する。

【分布域】

九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	シカ食害	自然遷移
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハナシノブ	<i>Polemonium kiushianum</i>	CR
第4次 2019:	ハナシノブ	<i>Polemonium kiushianum</i>	CR
第4次 2018:	ハナシノブ	<i>Polemonium kiushianum</i>	CR
第4次 2017:	ハナシノブ	<i>Polemonium kiushianum</i>	CR
第4次 2015:	ハナシノブ	<i>Polemonium kiushianum</i>	CR
第4次:	ハナシノブ	<i>Polemonium kiushianum</i>	CR
第3次:	ハナシノブ	<i>Polemonium kiushianum</i>	CR
第2次:	ハナシノブ	<i>Polemonium kiushianum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polemonium caeruleum subsp. *kiushianum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Polemonium caeruleum* subsp. *kiushianum* is listed as CR under criteria ACD. The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Deer feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ゴバンノアシ

Barringtonia asiatica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 8-15 m。葉身は長さ 20-40 cm、倒卵形または倒卵状長楕円形。無柄。花は総状花序に少数つく。萼筒は長さ約 1 cm。裂片は長さ 2.5 cm、2-3 個、緑色。花弁は長さ 7-8 cm、長楕円形、4 個で白色、後に帯褐色。雄蕊は極めて多数で糸状。果実は長さ 8-14 cm、四角形、まれに五角形で着盤の脚に似る。

【生活史】

常緑高木。

【生育環境】

海岸に生育。

【分布域】

琉球（石垣島・西表島）、台湾（南端部・蘭嶼）・スリランカ・フィリピン・マレーシア・ミクロネシア・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。各地に栽培由来と思われる個体があるが、確実な自生は 1 メッシュ 1 個体のみとされている。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ゴバンノアシ	<i>Barringtonia asiatica</i>	CR
第4次 2019:	ゴバンノアシ	<i>Barringtonia asiatica</i>	CR
第4次 2018:	ゴバンノアシ	<i>Barringtonia asiatica</i>	CR
第4次 2017:	ゴバンノアシ	<i>Barringtonia asiatica</i>	CR
第4次 2015:	ゴバンノアシ	<i>Barringtonia asiatica</i>	CR
第4次:	ゴバンノアシ	<i>Barringtonia asiatica</i>	CR
第3次:	ゴバンノアシ	<i>Barringtonia asiatica</i>	CR
第2次:	ゴバンノアシ	<i>Barringtonia asiatica</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Barringtonia asiatica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Barringtonia asiatica* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クニガミヒサカキ

*Eurya zigzag***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

小枝はいちじるしくジグザグ状に折れ曲がり、また葉柄から沿下する稜角がいちじるしく翼状になり、緑色。葉身は長さ 3.5–8.5 cm、長楕円形～長楕円状披針形、厚革質、表面に光沢があり、鋸歯は小型。花は径 6 mm 以上、葉腋に 1–2 個ついて下向きに咲き、淡緑色。液果は径 4–4.5 mm。

【生活史】

常緑低木ないし高木。

【生育環境】

山地の樹林下や、川沿いの崖に生育。

【分布域】

沖縄島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 5 メッシュで計数十個体と推定された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	1	0	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クニガミヒサカキ	<i>Eurya zigzag</i>	CR
第4次 2019:	クニガミヒサカキ	<i>Eurya zigzag</i>	CR
第4次 2018:	クニガミヒサカキ	<i>Eurya zigzag</i>	CR
第4次 2017:	クニガミヒサカキ	<i>Eurya zigzag</i>	CR
第4次 2015:	クニガミヒサカキ	<i>Eurya zigzag</i>	CR
第4次:	クニガミヒサカキ	<i>Eurya zigzag</i>	CR
第3次:	クニガミヒサカキ	<i>Eurya zigzag</i>	CR
第2次:	クニガミヒサカキ	<i>Eurya zigzag</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eurya zigzag has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eurya zigzag* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメミヤマコナスビ

*Lysimachia liukiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマコナスビに似るが、葉身の長さが 3-5 mm、幅 5-8 mm とより小さく、花冠裂片がより小さい。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

急流河岸。

【分布域】

琉球・奄美大島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメミヤマコナスビ	<i>Lysimachia liukiuensis</i>	CR
第4次 2019:	ヒメミヤマコナスビ	<i>Lysimachia liukiuensis</i>	CR
第4次 2018:	ヒメミヤマコナスビ	<i>Lysimachia liukiuensis</i>	CR
第4次 2017:	ヒメミヤマコナスビ	<i>Lysimachia liukiuensis</i>	CR
第4次 2015:	ヒメミヤマコナスビ	<i>Lysimachia liukiuensis</i>	CR
第4次:	ヒメミヤマコナスビ	<i>Lysimachia liukiuensis</i>	CR
第3次:	ヒメミヤマコナスビ	<i>Lysimachia liukiuensis</i>	CR
第2次:	ヒメミヤマコナスビ	<i>Lysimachia liukiuensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lysimachia liukiuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lysimachia liukiuensis* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マルバタイミンタチバナ

*Myrsine okabeana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シマタイミンタチバナに似るが、葉は倒卵形から倒披針形、円頭でしばしば先端がへこみ、長さ 1.5-3 cm、幅 0.8-1.5 cm。シマタイミンタチバナの種内変異にすぎないとの見解もある。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

尾根や岩場などの乾燥した矮性型の低木林。

【分布域】

小笠原諸島（父島・兄島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マルバタイミンタチバナ	<i>Myrsine okabeana</i>	CR
第4次 2019:	マルバタイミンタチバナ	<i>Myrsine okabeana</i>	CR
第4次 2018:	マルバタイミンタチバナ	<i>Myrsine okabeana</i>	CR
第4次 2017:	マルバタイミンタチバナ	<i>Myrsine okabeana</i>	CR
第4次 2015:	マルバタイミンタチバナ	<i>Myrsine okabeana</i>	CR
第4次:	マルバタイミンタチバナ	<i>Myrsine okabeana</i>	CR
第3次:	マルバタイミンタチバナ	<i>Myrsine okabeana</i>	CR
第2次:	マルバタイミンタチバナ	<i>Myrsine okabeana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Myrsine okabeana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Myrsine okabeana* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Other animal feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チチブイワザクラ

Primula reinii var. *rhodotricha***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

若葉の表面に毛がある。葉柄や花茎に暗赤色の毛がやや密に生え、花は大きく径 2-3.5 cm、筒は長く、長さ 1.4-1.8 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩上。

【分布域】

秩父の武甲山。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 石灰採掘	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チチブイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>rhodotricha</i>	CR
第4次 2019:	チチブイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>rhodotricha</i>	CR
第4次 2018:	チチブイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>rhodotricha</i>	CR
第4次 2017:	チチブイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>rhodotricha</i>	CR
第4次 2015:	チチブイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>rhodotricha</i>	CR
第4次:	チチブイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>rhodotricha</i>	CR
第3次:	チチブイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>rhodotricha</i>	DD
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Primula reinii var. *rhodotricha* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Primula reinii* var. *rhodotricha* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Limestone mining, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウチダシクロキ

*Symplocos kawakamii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-2 m。葉は厚い革質で楕円形、長さ 2-5 cm、全縁で著しく裏面に巻き、側脈は表面で陥入する。11 月頃、葉腋に 3-10 個の白色の花をつける。果実は球形～倒卵形で長さ 14-20 mm、翌年の秋紫黒色に熟す。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

尾根や岩場などの乾燥した矮性型の低木林に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（父島、兄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。平均減少率は 85%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウチダシクロキ	<i>Symplocos kawakamii</i>	CR
第4次 2019:	ウチダシクロキ	<i>Symplocos kawakamii</i>	CR
第4次 2018:	ウチダシクロキ	<i>Symplocos kawakamii</i>	CR
第4次 2017:	ウチダシクロキ	<i>Symplocos kawakamii</i>	CR
第4次 2015:	ウチダシクロキ	<i>Symplocos kawakamii</i>	CR
第4次:	ウチダシクロキ	<i>Symplocos kawakamii</i>	CR
第3次:	ウチダシクロキ	<i>Symplocos kawakamii</i>	CR
第2次:	ウチダシクロキ	<i>Symplocos kawakamii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Symplocos kawakamii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Symplocos kawakamii* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Other animal feeding damage

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミイワウチワ

Shortia rotundifolia f. *amamiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シマイワウチワに似るが、鋸歯縁はより鋭く尖る。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林床や林縁に生育。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミイワウチワ	<i>Shortia rotundifolia</i> var. <i>amamiana</i>	CR
第4次 2019:	アマミイワウチワ	<i>Shortia rotundifolia</i> var. <i>amamiana</i>	CR
第4次 2018:	アマミイワウチワ	<i>Shortia rotundifolia</i> var. <i>amamiana</i>	CR
第4次 2017:	アマミイワウチワ	<i>Shortia rotundifolia</i> var. <i>amamiana</i>	CR
第4次 2015:	アマミイワウチワ	<i>Shortia rotundifolia</i> var. <i>amamiana</i>	CR
第4次:	アマミイワウチワ	<i>Shortia rotundifolia</i> var. <i>amamiana</i>	CR
第3次:	アマミイワウチワ	<i>Shortia rotundifolia</i> f. <i>amamiana</i>	CR
第2次:	アマミイワウチワ	<i>Shortia rotundifolia</i> var. <i>amamiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- Iwatsuki, K., T. Yamazaki, D. E. Boufford and H. Ohba, 1993. Flora of Japan, Vol. IIIa, Kodansha, Tokyo. 496pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Shortia rotundifolia f. *amamiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Shortia rotundifolia* f. *amamiana* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ツツジ科 Ericaceae

イチゲイチヤクソウ

Moneses uniflora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 1-2 cm。7 月、葉の間から高さ 5-10 cm の花茎を伸ばし、下向きに 1 花をつける。花は白色で、径約 2 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

針葉樹林内の暗いコケ群落内に生育する。

【分布域】

北海道中部、北部の数か所に分布。国外では、千島列島北部、サハリン中部以北、カムチャツカ半島、朝鮮半島、中国、台湾、北半球冷温帯～亜熱帯に広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では新しい情報が得られなかったが、2000 年調査以降、現状に変化はないと推測される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2000 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	—	0	0	0	—	0	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イチゲイチャクソウ	<i>Moneses uniflora</i>	CR
第4次 2019:	イチゲイチャクソウ	<i>Moneses uniflora</i>	CR
第4次 2018:	イチゲイチャクソウ	<i>Moneses uniflora</i>	CR
第4次 2017:	イチゲイチャクソウ	<i>Moneses uniflora</i>	CR
第4次 2015:	イチゲイチャクソウ	<i>Moneses uniflora</i>	CR
第4次:	イチゲイチャクソウ	<i>Moneses uniflora</i>	CR
第3次:	イチゲイチャクソウ	<i>Moneses uniflora</i>	CR
第2次:	イチゲイチャクソウ	<i>Moneses uniflora</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Moneses uniflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Moneses uniflora* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キリシマギンリョウソウ

Monotropastrum kirishimense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ギンリョウソウに似るが、1) 花弁とがく片が紅色であること、2) がく片の数が 4～11 枚と、通常 2～3 枚であるギンリョウソウよりも多いこと、3) がく片が花びらと常に接していること、4) 花が開花初期からギンリョウソウより丸みを帯びること、5) 地上部は 5 cm 以下と短いことが多い一方で、地下茎は 10 cm 以上と長いことが多いこと、6) 根はギンリョウソウと比べてはっきりせず、周囲の土壌と一体化し、根の先端がほとんど突出しないため肉眼ではほとんどわからないことで区別できる。

【生活史】

菌従属栄養性の多年生草本。

【生育環境】

針葉樹の林床下に生育。

【分布域】

九州・四国・近畿・東海地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布する。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

< 10	< 50	< 100	< 1000	< 10000	> 10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu K, K. S. Hirota, T. C. Hsu, S. Kurogi, A. Imamura and Y. Suyama, 2023. *Monotropastrum kirishimense* (Ericaceae), a new mycoheterotrophic plant from Japan based on multifaceted evidence. Journal of Plant Research, 136: 3–18.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Monotropastrum kirishimense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Monotropastrum kirishimense* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リュウキュウアセビ

*Pieris koidzumiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アセビの亜種。葉身は倒披針形、長さ 4-7 cm、縁は上から 1/3 ほどまで浅い少数の鈍鋸歯がある。花期は 3-4 月、花冠は筒状つぼ形で長さ約 1 cm、萼は浅く 5 裂。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

溪谷の岩地に生育する。

【分布域】

沖縄島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウアセビ	<i>Pieris koidzumiana</i>	CR
第4次 2019:	リュウキュウアセビ	<i>Pieris koidzumiana</i>	CR
第4次 2018:	リュウキュウアセビ	<i>Pieris koidzumiana</i>	CR
第4次 2017:	リュウキュウアセビ	<i>Pieris koidzumiana</i>	CR
第4次 2015:	リュウキュウアセビ	<i>Pieris koidzumiana</i>	CR
第4次:	リュウキュウアセビ	<i>Pieris koidzumiana</i>	CR
第3次:	リュウキュウアセビ	<i>Pieris koidzumiana</i>	CR
第2次:	リュウキュウアセビ	<i>Pieris japonica</i> var. <i>koidzumiana</i>	EW
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[野生絶滅(EW)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pieris koidzumiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pieris koidzumiana* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンツツジ

*Rhododendron boninense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2-3 m。葉は厚く、葉身は狭長楕円形、長さ 3-5 cm。枝先の 1 個の花芽から 2-3 個の花が開く。花冠はつぼみの時やや緑色、開くと白色、漏斗形で径 4-5 cm、5 中裂。蒴果は披針状長楕円形、長さ 1.5-2 cm。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

岩場に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（父島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンツツジ	<i>Rhododendron boninense</i>	CR
第4次 2019:	ムニンツツジ	<i>Rhododendron boninense</i>	CR
第4次 2018:	ムニンツツジ	<i>Rhododendron boninense</i>	CR
第4次 2017:	ムニンツツジ	<i>Rhododendron boninense</i>	CR
第4次 2015:	ムニンツツジ	<i>Rhododendron boninense</i>	CR
第4次:	ムニンツツジ	<i>Rhododendron boninense</i>	CR
第3次:	ムニンツツジ	<i>Rhododendron boninense</i>	CR
第2次:	ムニンツツジ	<i>Rhododendron boninense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron boninense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron boninense* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Unknown

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ツツジ科 Ericaceae

ハヤトミツバツツジ

Rhododendron dilatatum var. *satsumense*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミツバツツジの変種。葉が広卵形で下部で最も幅が広く、表面に光沢がある。

【生活史】

落葉の低木～小高木。

【生育環境】

明るい岩場に生育する。

【分布域】

鹿児島県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 80%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハヤトミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>satsumense</i>	CR
第4次 2019:	ハヤトミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>satsumense</i>	CR
第4次 2018:	ハヤトミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>satsumense</i>	CR
第4次 2017:	ハヤトミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>satsumense</i>	CR
第4次 2015:	ハヤトミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>satsumense</i>	CR
第4次:	ハヤトミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>satsumense</i>	CR
第3次:	ハヤトミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>satsumense</i>	CR
第2次:	ハヤトミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i> var. <i>satsumense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron dilatatum var. *satsumense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron dilatatum* var. *satsumense* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

センカクツツジ

Rhododendron eriocarpum var. *tawadae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

マルバサツキの変種。夏葉が小さくて幅が広く、倒卵形で長さ 1-1.8 cm。花はやや小さく径 2-3 cm。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

岩場に生育する。

【分布域】

沖縄県尖閣諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。過去に 1 メッシュ、数個体あったとの情報が得られたが近年現地調査が行われていないため現状は不明である。ノヤギの増殖で自生地環境悪化が危惧されている。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	センカクツツジ	<i>Rhododendron eriocarpum</i> var. <i>tawadae</i>	CR
第4次 2019:	センカクツツジ	<i>Rhododendron eriocarpum</i> var. <i>tawadae</i>	CR
第4次 2018:	センカクツツジ	<i>Rhododendron eriocarpum</i> var. <i>tawadae</i>	CR
第4次 2017:	センカクツツジ	<i>Rhododendron eriocarpum</i> var. <i>tawadae</i>	CR
第4次 2015:	センカクツツジ	<i>Rhododendron eriocarpum</i> var. <i>tawadae</i>	CR
第4次:	センカクツツジ	<i>Rhododendron eriocarpum</i> var. <i>tawadae</i>	CR
第3次:	センカクツツジ	<i>Rhododendron eriocarpum</i> var. <i>tawadae</i>	CR
第2次:	センカクツツジ	<i>Rhododendron eriocarpum</i> var. <i>tawadae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhododendron eriocarpum var. *tawadae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhododendron eriocarpum* var. *tawadae* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤドリコケモモ

Vaccinium amamianum

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 20–60 cm。葉身は楕円形～長楕円形で、長さ 1.5–3 cm。5 月、葉腋から短い総状花序を伸ばし、数個の花をつける。花冠は白色で 5 本の紅色の縦条があり、つぼ状鐘形、長さ約 4 mm。花冠の 1/4 ほどまで 5 裂。果実はやや平たい球形で径約 7 mm、熟すと紫黒色になる。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

樹上に着生する。

【分布域】

奄美大島に分布。国外では台湾に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤドリコケモモ	<i>Vaccinium amamianum</i>	CR
第4次 2019:	ヤドリコケモモ	<i>Vaccinium amamianum</i>	CR
第4次 2018:	ヤドリコケモモ	<i>Vaccinium amamianum</i>	CR
第4次 2017:	ヤドリコケモモ	<i>Vaccinium amamianum</i>	CR
第4次 2015:	ヤドリコケモモ	<i>Vaccinium amamianum</i>	CR
第4次:	ヤドリコケモモ	<i>Vaccinium amamianum</i>	CR
第3次:	ヤドリコケモモ	<i>Vaccinium amamianum</i>	CR
第2次:	ヤドリコケモモ	<i>Vaccinium amamianum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vaccinium amamianum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Vaccinium amamianum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Logging and wood harvesting
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガボナツハゼ

*Vaccinium sieboldii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-2 m。葉柄は長さ 1-2 mm。葉身は楕円形または卵状楕円形で、先は鋭く尖り、長さ 3-7 cm。若枝の先に長さ 5-10 cm の総状花序を伸ばし、多数の下向きの花をつける。花冠は白色で 5 本の赤色の縦条があり、鐘形で長さ約 5 mm。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

湿地に生育する。

【分布域】

静岡県西部～愛知県東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 74%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	1	0	0	0	0	6	0	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	園芸採取	湿地開発
件数 5	4	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガボナツハゼ	<i>Vaccinium sieboldii</i>	CR
第4次 2019:	ナガボナツハゼ	<i>Vaccinium sieboldii</i>	CR
第4次 2018:	ナガボナツハゼ	<i>Vaccinium sieboldii</i>	CR
第4次 2017:	ナガボナツハゼ	<i>Vaccinium sieboldii</i>	CR
第4次 2015:	ナガボナツハゼ	<i>Vaccinium sieboldii</i>	CR
第4次:	ナガボナツハゼ	<i>Vaccinium sieboldii</i>	CR
第3次:	ナガボナツハゼ	<i>Vaccinium sieboldii</i>	CR
第2次:	ナガボナツハゼ	<i>Vaccinium sieboldii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[情報不足] 静岡県[絶滅危惧 I B類(EN)] 愛知県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫（編），1989. 日本の野生植物 木本 II. 305pp., 288pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vaccinium sieboldii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Vaccinium sieboldii is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Wetland development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ワダツミノキ

*Nothapodytes amamianus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 10 m。葉柄は長さ 4-8 cm、まばらに毛がある。葉身は長さ 8-23 cm、長楕円形～卵形ないし円形、薄い革質、側脈は 6-7 対ある。花は多数つく。花弁は長楕円形～線形、反り返り、白色。核果は長さ約 10 mm、やや扁平な楕円形、鈍く 2 稜がある。

【生活史】

常緑小高木。

【生育環境】

海岸近くの山林に生育。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ワダツミノキ	<i>Nothapodytes amamianus</i>	CR
第4次 2019:	ワダツミノキ	<i>Nothapodytes amamianus</i>	CR
第4次 2018:	ワダツミノキ	<i>Nothapodytes amamianus</i>	CR
第4次 2017:	ワダツミノキ	<i>Nothapodytes amamianus</i>	CR
第4次 2015:	ワダツミノキ	<i>Nothapodytes amamianus</i>	CR
第4次:	ワダツミノキ	<i>Nothapodytes amamianus</i>	CR
第3次:	ワダツミノキ	<i>Nothapodytes amamianus</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Nothapodytes amamianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Nothapodytes amamianus* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アカネ科 Rubiaceae

ヤエヤマハシカグサ

Exallage auricularia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-50 cm。葉身は長さ 2-7.5 cm、楕円状長楕円形から楕円状披針形。花は葉腋に多数束生し、花柄は 1 mm 未満。花冠は白色で 4 裂、裂片は長さ 0.5-1 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

草原に生育。

【分布域】

与那国島、中国南部・ヒマラヤ・インド・東南アジア・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。近年発見例があるが、産地と個体数は極めて限られる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤエヤマハシカグサ	<i>Hedyotis auricularia</i>	CR
第4次 2019:	ヤエヤマハシカグサ	<i>Hedyotis auricularia</i>	CR
第4次 2018:	ヤエヤマハシカグサ	<i>Hedyotis auricularia</i>	CR
第4次 2017:	ヤエヤマハシカグサ	<i>Hedyotis auricularia</i>	CR
第4次 2015:	ヤエヤマハシカグサ	<i>Hedyotis auricularia</i>	CR
第4次:	ヤエヤマハシカグサ	<i>Hedyotis auricularia</i>	CR
第3次:	ヤエヤマハシカグサ	<i>Hedyotis auricularia</i>	CR
第2次:	ヤエヤマハシカグサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Exallage auricularia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Exallage auricularia* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アカネ科 Rubiaceae

シソノミグサ

Knoxia sumatrensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-100 cm。葉身は長さ 2-10 cm、披針形または狭長楕円形、全縁。花序は長さ 1-3 cm、傘形状の集散花序。花冠は長さ 1.5-2 mm、漏斗状で白色。

【生活史】

一年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

日当たりのよい草地などに生育。

【分布域】

沖縄島・西表島・石垣島、台湾・中国南部・ヒマラヤ・インド・東南アジア・オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。石垣島で採集された標本（1960 年代、東北大所蔵）が 1 点あるが、最近は全く見つからない。自生地の開発が減少要因である。すでに絶滅したかもしれないが、現存する可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シソノミグサ	<i>Knoxia sumatrensis</i>	CR
第4次 2019:	シソノミグサ	<i>Knoxia sumatrensis</i>	CR
第4次 2018:	シソノミグサ	<i>Knoxia sumatrensis</i>	CR
第4次 2017:	シソノミグサ	<i>Knoxia sumatrensis</i>	CR
第4次 2015:	シソノミグサ	<i>Knoxia sumatrensis</i>	CR
第4次:	シソノミグサ	<i>Knoxia sumatrensis</i>	CR
第3次:	シソノミグサ	<i>Knoxia sumatrensis</i>	CR
第2次:	シソノミグサ	<i>Knoxia corymbosa</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Knoxia sumatrensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Knoxia sumatrensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミアワゴケ

*Ophiorrhiza yamashitae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐して分枝。葉身は長さ 2-4 mm、卵形で先は鋭く、基部は円形。花は葉腋に単性し、花冠は直径 3-5 mm、白色。

【生活史】

常緑多年草。

【生育環境】

溪流沿いの苔むした岩上に生育。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	その他
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミアワゴケ	<i>Ophiorrhiza yamashitae</i>	CR
第4次 2019:	アマミアワゴケ	<i>Ophiorrhiza yamashitae</i>	CR
第4次 2018:	アマミアワゴケ	<i>Ophiorrhiza yamashitae</i>	CR
第4次 2017:	アマミアワゴケ	<i>Ophiorrhiza yamashitae</i>	CR
第4次 2015:	アマミアワゴケ	<i>Ophiorrhiza yamashitae</i>	CR
第4次:	アマミアワゴケ	<i>Ophiorrhiza yamashitae</i>	CR
第3次:	アマミアワゴケ	<i>Nertera yamashitae</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ophiorrhiza yamashitae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Ophiorrhiza yamashitae is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒナリンドウ

Gentiana aquatica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやわらかく、基部から少数分枝するか単生し、高さ 3-7 cm。根出葉はロゼット状をなし、へら形または倒卵形で長さ 4-8 mm、茎葉とほぼ同長か少し長い。茎葉は倒披針形で長さ 4-7 mm、縁はざらつく。花は茎頂に 1 個つき、柄はごく短い。萼筒は長さ 6-7 mm で 5 稜があり、裂片は直立、広披針形で先は鋭くとがる。花冠は淡青色、長さ 10-12 mm、裂片は長卵形。蒴果は卵形で長柄があり、花冠から長く超出する。

【生活史】

一年草または越年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

高山帯の湿った草地に生える。

【分布域】

本州（八ヶ岳）、シベリア・中央アジア・コーカサス。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では、2 メッシュで現存が確認され、計数十個体であった。減少要因は不明である。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒナリンドウ	<i>Gentiana aquatica</i>	CR
第4次 2019:	ヒナリンドウ	<i>Gentiana aquatica</i>	CR
第4次 2018:	ヒナリンドウ	<i>Gentiana aquatica</i>	CR
第4次 2017:	ヒナリンドウ	<i>Gentiana aquatica</i>	CR
第4次 2015:	ヒナリンドウ	<i>Gentiana aquatica</i>	CR
第4次:	ヒナリンドウ	<i>Gentiana aquatica</i>	CR
第3次:	ヒナリンドウ	<i>Gentiana aquatica</i>	CR
第2次:	ヒナリンドウ	<i>Gentiana aquatica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 清水建美・木原浩・門田裕一，2014. 高山に咲く花 増補改訂新版（山溪ハンディ図鑑 8）. 512pp. 山と溪谷社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gentiana aquatica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gentiana aquatica* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リュウキュウホウライカズラ

Gardneria liukiuensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は緑色で無毛。葉は革質で対生し両面無毛、卵形～広卵形で先は短く尖り、長さ 4.5-7 cm、幅 2-5 cm、葉柄は 4-7 mm。散形状集散花序にふつう 3 個の花をつける。花冠は蕾の時は長さ 6-7 mm、開花時は最初から淡黄色で深く 5 裂し、内面は有毛。葯は長楕円形で長さ約 4 mm。本種をホウライカズラに含める見解もある。

【生活史】

常緑藤本。花期は 5 月。

【生育環境】

石灰岩上や樹幹を這う。

【分布域】

喜界島・沖永良部島・沖縄島・渡名喜島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

本種の学名は有効に出版されているが、命名規約の要件を完全には満たさないため、非適法名（invalid name）である。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウホウライカズラ	<i>Gardneria liukuensis</i>	CR
第4次 2019:	リュウキュウホウライカズラ	<i>Gardneria liukuensis</i>	CR
第4次 2018:	リュウキュウホウライカズラ	<i>Gardneria liukuensis</i>	CR
第4次 2017:	リュウキュウホウライカズラ	<i>Gardneria liukuensis</i>	CR
第4次 2015:	リュウキュウホウライカズラ	<i>Gardneria liukuensis</i>	CR
第4次:	リュウキュウホウライカズラ	<i>Gardneria liukuensis</i>	CR
第3次:	リュウキュウホウライカズラ	<i>Gardneria liukuensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.
- 初島住彦，1977. 日本産ホウライカズラ属. 北陸の植物，24: 76-78.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gardneria liukiuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Gardneria liukiuensis is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae マチン科 Loganiaceae

タイワンチトセカズラ

Gardneria shimadai

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 8-11 cm、幅 2.5-3.5 cm、長楕円形～長楕円状披針形、乾くと黒変する。チトセカズラに比べ、葉脚が円形～鈍形となる。

【生活史】

常緑藤本。

【生育環境】

山頂部の林内に生える。

【分布域】

宮古島・伊良部島・来間島？、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾チトセカズラ	<i>Gardneria shimadai</i>	CR
第4次 2019:	台湾チトセカズラ	<i>Gardneria shimadai</i>	CR
第4次 2018:	台湾チトセカズラ	<i>Gardneria shimadai</i>	CR
第4次 2017:	台湾チトセカズラ	<i>Gardneria shimadai</i>	CR
第4次 2015:	台湾チトセカズラ	<i>Gardneria shimadai</i>	CR
第4次:	台湾チトセカズラ	<i>Gardneria shimadai</i>	CR
第3次:	台湾チトセカズラ	<i>Gardneria shimadae</i>	CR
第2次:	台湾チトセカズラ	<i>Gardneria shimadae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gardneria shimadai has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gardneria shimadai* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キョウチクトウ科 Apocynaceae

アマミイケマ

Cynanchum boudieri

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

太い根茎がある。葉身は長さ 4-13 cm、卵形～三角状卵形。花は散房状の集散花序に多数つく。花冠は 5 裂し、淡黄緑色。

【生活史】

つる性多年草。

【生育環境】

山の林縁や草地に生育。

【分布域】

奄美大島（奄美大島・徳之島・沖永良部島）、台湾・中国南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミイケマ	<i>Cynanchum boudieri</i>	CR
第4次 2019:	アマミイケマ	<i>Cynanchum boudieri</i>	CR
第4次 2018:	アマミイケマ	<i>Cynanchum boudieri</i>	CR
第4次 2017:	アマミイケマ	<i>Cynanchum boudieri</i>	CR
第4次 2015:	アマミイケマ	<i>Cynanchum boudieri</i>	CR
第4次:	アマミイケマ	<i>Cynanchum boudieri</i>	CR
第3次:	アマミイケマ	<i>Cynanchum boudieri</i>	CR
第2次:	アマミイケマ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cynanchum boudieri has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Cynanchum boudieri is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マメヅタカズラ

Dischidia formosana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 50 cm。葉身は長さ約 1 cm、広倒卵形、多肉質。花は腋生する花序に 1-5 個つく。花冠は長さ約 4-6 mm、つぼ型、白色。

【生活史】

つる性多年草。

【生育環境】

樹木や岩上に生育。

【分布域】

琉球列島（魚釣島）、台湾・中国南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では過去の情報として 1 メッシュ、数個体と報告された。基準 D より CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マメヅタカズラ	<i>Dischidia formosana</i>	CR
第4次 2019:	マメヅタカズラ	<i>Dischidia formosana</i>	CR
第4次 2018:	マメヅタカズラ	<i>Dischidia formosana</i>	CR
第4次 2017:	マメヅタカズラ	<i>Dischidia formosana</i>	CR
第4次 2015:	マメヅタカズラ	<i>Dischidia formosana</i>	CR
第4次:	マメヅタカズラ	<i>Dischidia formosana</i>	CR
第3次:	マメヅタカズラ	<i>Dischidia formosana</i>	CR
第2次:	マメヅタカズラ	<i>Dischidia formosana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dischidia formosana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dischidia formosana* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバヤロード

*Ochrosia hexandra***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2-3 m。全株無毛。樹皮は赤褐色で葉痕が目立つ。葉身は長さ 7-15 cm、3-5 枚が輪生し、全縁。花冠は径 1.5-2 cm、5 裂し、基部は細い筒状となり、内面基部に微毛があり、白色。果実は長さ 3-4 cm、2 分果からなる。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

海岸近くの樹林に生育。

【分布域】

小笠原諸島（北硫黄島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定された。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバヤロード	<i>Excavatia hexandra</i>	CR
第4次 2019:	ホソバヤロード	<i>Excavatia hexandra</i>	CR
第4次 2018:	ホソバヤロード	<i>Excavatia hexandra</i>	CR
第4次 2017:	ホソバヤロード	<i>Excavatia hexandra</i>	CR
第4次 2015:	ホソバヤロード	<i>Excavatia hexandra</i>	CR
第4次:	ホソバヤロード	<i>Excavatia hexandra</i>	CR
第3次:	ホソバヤロード	<i>Excavatia hexandra</i>	NT
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ochrosia hexandra has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ochrosia hexandra* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマソケイ

Ochrosia iwasakiana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

小枝は円くて太く、全株無毛。葉身は長さ 7–20 cm、へら状長楕円形～倒卵状楕円形。花序は複生し、花は多数つく。花冠は長さ約 1 cm、白色。果実は長さ約 6–8 cm、長楕円形。

【生活史】

常緑小高木。

【生育環境】

海岸近くの林内に生育。

【分布域】

宮古島・伊良部島・石垣島・西表島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュの現存個体数が計数個体と報告された。他の地域にも標本の採集記録があるが、現状は不明である。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマソケイ	<i>Ochrosia iwasakiana</i>	CR
第4次 2019:	シマソケイ	<i>Ochrosia iwasakiana</i>	CR
第4次 2018:	シマソケイ	<i>Ochrosia iwasakiana</i>	CR
第4次 2017:	シマソケイ	<i>Ochrosia iwasakiana</i>	CR
第4次 2015:	シマソケイ	<i>Ochrosia iwasakiana</i>	CR
第4次:	シマソケイ	<i>Ochrosia iwasakiana</i>	CR
第3次:	シマソケイ	<i>Neisosperma iwasakianum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ochrosia iwasakiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ochrosia iwasakiana* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾノクサタチバナ

Vincetoxicum inamoenum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30–50 cm。葉身は長さ 6–10 cm、卵形～狭楕円形。花序は総花柄がごく短く、小花柄は 5 mm 内外。花は径約 7 mm、淡黄色。袋果は長さ 4–5 cm、披針形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山野の草地に生育。

【分布域】

北海道、サハリン・朝鮮半島・中国南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。平均減少率は 85%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾノクサタチバナ	<i>Vincetoxicum inamoenum</i>	CR
第4次 2019:	エゾノクサタチバナ	<i>Vincetoxicum inamoenum</i>	CR
第4次 2018:	エゾノクサタチバナ	<i>Vincetoxicum inamoenum</i>	CR
第4次 2017:	エゾノクサタチバナ	<i>Vincetoxicum inamoenum</i>	CR
第4次 2015:	エゾノクサタチバナ	<i>Vincetoxicum inamoenum</i>	CR
第4次:	エゾノクサタチバナ	<i>Vincetoxicum inamoenum</i>	CR
第3次:	エゾノクサタチバナ	<i>Vincetoxicum inamoenum</i>	CR
第2次:	エゾノクサタチバナ	<i>Cynanchum inamoenum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vincetoxicum inamoenum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Vincetoxicum inamoenum* is listed as CR under criteria ACD. The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Logging and wood harvesting
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヨナグニカモメヅル

*Vincetoxicum yonakuniense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はつる状、長く伸びる。葉身は長さ 2.5-8 cm、卵形、ほぼ無毛。花は径 18-25 mm、黄白色でわずかに紫色を帯びる。袋果は長さ 5.5-7 cm、披針形、無毛。

【生活史】

つる性多年草。

【生育環境】

山地林縁や林内に生育。

【分布域】

琉球（与那国島・魚釣島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヨナグニカモメヅル	<i>Vincetoxicum yonakuniense</i>	CR
第4次 2019:	ヨナグニカモメヅル	<i>Vincetoxicum yonakuniense</i>	CR
第4次 2018:	ヨナグニカモメヅル	<i>Vincetoxicum yonakuniense</i>	CR
第4次 2017:	ヨナグニカモメヅル	<i>Vincetoxicum yonakuniense</i>	CR
第4次 2015:	ヨナグニカモメヅル	<i>Vincetoxicum yonakuniense</i>	CR
第4次:	ヨナグニカモメヅル	<i>Vincetoxicum yonakuniense</i>	CR
第3次:	ヨナグニカモメヅル	<i>Vincetoxicum yonakuniense</i>	CR
第2次:	ヨナグニカモメヅル	<i>Tylophora yonakuniensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vincetoxicum yonakuniense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Vincetoxicum yonakuniense is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トゲミノイヌチシャ

Cordia aspera subsp. *kanehirae*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 4–8 m になる。葉は洋紙質で、卵状披針形～披針形、長さ 9–20 cm、幅 3–10 cm、鋭尖頭、まばらに微鋸歯があり、両面ともに粗毛がある。葉柄は長さ 1–3 cm で有毛。萼は円筒形、褐色の粗毛があり、裂片は 5 個で小さく棘状。花筒は萼とほぼ同長、5 裂、裂片は長さ約 3 mm。核果は白色半透明の液果、楕円形で長さ 7–13 mm。

【生活史】

落葉小高木。

【生育環境】

低地部の森林に生える。

【分布域】

石垣島・西表島・魚釣島、台湾・フィリピン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では減少率情報が得られなかった。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トゲミノイヌチシャ	<i>Cordia aspera</i> subsp. <i>kanehirae</i>	CR
第4次 2019:	トゲミノイヌチシャ	<i>Cordia aspera</i> subsp. <i>kanehirae</i>	CR
第4次 2018:	トゲミノイヌチシャ	<i>Cordia aspera</i> subsp. <i>kanehirae</i>	CR
第4次 2017:	トゲミノイヌチシャ	<i>Cordia aspera</i> subsp. <i>kanehirae</i>	CR
第4次 2015:	トゲミノイヌチシャ	<i>Cordia aspera</i> subsp. <i>kanehirae</i>	CR
第4次:	トゲミノイヌチシャ	<i>Cordia aspera</i> subsp. <i>kanehirae</i>	CR
第3次:	トゲミノイヌチシャ	<i>Cordia aspera</i> subsp. <i>kanehirae</i>	CR
第2次:	トゲミイヌチシャ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cordia aspera subsp. *kanehirae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cordia aspera* subsp. *kanehirae* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンルリソウ

Cynoglossum lanceolatum var. *formosanum*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 30-60 cm。全体に長さ 1 mm 以下の短い斜上毛が密に生え、灰白色となり、ざらつく。葉は狭長楕円形、先はやや鈍頭、長さ 4-8 cm、幅 1-2.5 cm。花は 10-20 cm の斜上する花序にやや密につき、白または淡青紫色、径約 3 mm、先は 5 裂。果実は 4 分果からなり、長さ約 2 mm、全面にかぎ状の刺がある。

【生活史】

越年草。花期は 5-8 月。

【生育環境】

海岸や低地の草原や林縁に生える。

【分布域】

九州・奄美大島・徳之島・与論島・伊平屋島・伊是名島・沖縄島・慶良間諸島・西表島、台湾・中国南部・インド・アラビア・アフリカ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	1	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 海岸開発	自然遷移	土地造成

件数		
3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タイワンルリソウ	<i>Cynoglossum lanceolatum</i> var. <i>formosanum</i>	CR
第4次 2019:	タイワンルリソウ	<i>Cynoglossum lanceolatum</i> var. <i>formosanum</i>	CR
第4次 2018:	タイワンルリソウ	<i>Cynoglossum lanceolatum</i> var. <i>formosanum</i>	CR
第4次 2017:	タイワンルリソウ	<i>Cynoglossum lanceolatum</i> var. <i>formosanum</i>	CR
第4次 2015:	タイワンルリソウ	<i>Cynoglossum lanceolatum</i> var. <i>formosanum</i>	CR
第4次:	タイワンルリソウ	<i>Cynoglossum lanceolatum</i> var. <i>formosanum</i>	CR
第3次:	タイワンルリソウ	<i>Cynoglossum lanceolatum</i> var. <i>formosanum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[情報不足] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-d)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cynoglossum lanceolatum var. *formosanum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cynoglossum lanceolatum* var. *formosanum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.	
Threat types:	Coastal development, Natural succession, Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ムラサキ科 Boraginaceae

リュウキュウチャノキ

Ehretia philippinensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-10 m になる。葉は卵状長楕円形、長さ 10-12 cm、幅 3-5.5 cm、洋紙質、ほぼ全縁、両面無毛。集散花序は散房状に集まり頂生または上部の葉腋につき、まばらに花をつける。花冠は白色、漏斗形、径約 3 mm、5 裂して裂片は外反する。果実は球形で径約 4 mm、赤褐色に熟す。

【生活史】

常緑の小高木。花期は 8-12 月。

【生育環境】

低地や海岸にみられ、主として石灰岩地の常緑樹林に生える。

【分布域】

宮古島・石垣島・西表島・竹富島・波照間島・鳩間島・小浜島、台湾（蘭嶼）・フィリピン・マレーシア・オーストラリア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	1	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウチシャノキ	<i>Ehretia philippinensis</i>	CR
第4次 2019:	リュウキュウチシャノキ	<i>Ehretia philippinensis</i>	CR
第4次 2018:	リュウキュウチシャノキ	<i>Ehretia philippinensis</i>	CR
第4次 2017:	リュウキュウチシャノキ	<i>Ehretia philippinensis</i>	CR
第4次 2015:	リュウキュウチシャノキ	<i>Ehretia philippinensis</i>	CR
第4次:	リュウキュウチシャノキ	<i>Ehretia philippinensis</i>	CR
第3次:	リュウキュウチシャノキ	<i>Ehretia philippinensis</i>	CR
第2次:	リュウキュウチシャノキ	<i>Ehretia dichotoma</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ehretia philippinensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ehretia philippinensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾルリムラサキ

Eritrichium nipponicum var. *albiflorum* f. *yesoense*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

基準変種のミヤマムラサキに比べ、全体に剛直で茎はときに高さ 20 cm に達し、植物体の毛は長くて長さ 1-2 mm、花もやや大きく、花冠は径 8-9 mm、萼片は長さ 3-4 mm。分果は少し大きく長さ 2-3 mm、縁のとげは長さ 1-1.8 mm。花はふつう淡青紫色、ときに白色。

【生活史】

多年草。花期は 7 月。

【生育環境】

亜高山～高山の岩礫地に生える。

【分布域】

北海道、サハリン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾルリムラサキ	<i>Eritrichium nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i>	CR
第4次 2019:	エゾルリムラサキ	<i>Eritrichium nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i>	CR
第4次 2018:	エゾルリムラサキ	<i>Eritrichium nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i>	CR
第4次 2017:	エゾルリムラサキ	<i>Eritrichium nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i>	CR
第4次 2015:	エゾルリムラサキ	<i>Eritrichium nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i>	CR
第4次:	エゾルリムラサキ	<i>Eritrichium nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i>	CR
第3次:	エゾルリムラサキ	<i>Eritrichium nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i>	CR
第2次:	エゾルリムラサキ	<i>Eritrichium nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)] 秋田県[絶滅危惧種 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.
- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017．改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 梅沢俊，2018．北海道の草花. 399pp. 北海道新聞社，札幌.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eritrichium nipponicum var. *albiflorum* f. *yesoense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eritrichium nipponicum* var. *albiflorum* f. *yesoense* is listed as CR under criteria

E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.	
Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イワムラサキ

Hackelia deflexa

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は高さ 20-80 cm。全体に上向きの粗い毛がある。葉は長さ 2-9 cm、幅 3-20 mm、両面と縁に長短 2 種類の伏した毛がある。花序は茎頂に 1-数個つき、総状、長さ 3-15 cm。花冠は径 3-5 mm、淡青紫色または白色、喉部は黄色。花柄は花時 1 mm 内外で直立し、果時には長さ 2-5 mm となり下を向く。果実は 4 分果、長さ約 3 mm、縁に 1 列に鉤刺がある。

【生活史】

越年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

高山の岩地に生える。

【分布域】

北海道（石狩支庁）・本州（長野県北部）、サハリン・朝鮮半島・中国東北部・モンゴル～ユーラシア北部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イワムラサキ	<i>Hackelia deflexa</i>	CR
第4次 2019:	イワムラサキ	<i>Hackelia deflexa</i>	CR
第4次 2018:	イワムラサキ	<i>Hackelia deflexa</i>	CR
第4次 2017:	イワムラサキ	<i>Hackelia deflexa</i>	CR
第4次 2015:	イワムラサキ	<i>Hackelia deflexa</i>	CR
第4次:	イワムラサキ	<i>Hackelia deflexa</i>	CR
第3次:	イワムラサキ	<i>Hackelia deflexa</i>	CR
第2次:	イワムラサキ	<i>Hackelia deflexa</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 梅沢俊，2018. 北海道の草花. 399pp. 北海道新聞社，札幌.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hackelia deflexa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hackelia deflexa* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾルリソウ

Mertensia pterocarpa var. *yezoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立し高さ 20-40 cm。根出葉は長さ 4-15 cm の柄があり卵心形。茎葉はほとんど無柄、卵形、基部付近から出て平行する 7-9 本の脈が目立ち、長さ 3-5 cm、表面に圧毛がある。花序は長さ 8-15 cm、苞はなく、圧毛がある。花冠は長さ 10-12 mm、青紫色～紫色。萼は 5 全裂し、萼片は披針形で両面有毛。南千島および中部千島に分布する基準変種のチシマルリソウ var. *pterocarpa* は、萼片が細く背面に毛がない点でエゾルリソウと異なるとされるが、萼片背面の毛の密度には変異があるために両者を区別しない見解もある。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高山の礫地や低茎の草地に生える。

【分布域】

北海道。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾリリソウ	<i>Mertensia pterocarpa</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第4次 2019:	エゾリリソウ	<i>Mertensia pterocarpa</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第4次 2018:	エゾリリソウ	<i>Mertensia pterocarpa</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第4次 2017:	エゾリリソウ	<i>Mertensia pterocarpa</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第4次 2015:	エゾリリソウ	<i>Mertensia pterocarpa</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第4次:	エゾリリソウ	<i>Mertensia pterocarpa</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第3次:	エゾリリソウ	<i>Mertensia pterocarpa</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第2次:	エゾリリソウ	<i>Mertensia pterocarpa</i> var. <i>yezoensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 梅沢俊，2018. 北海道の草花. 399pp. 北海道新聞社，札幌.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Mertensia pterocarpa var. *yezoensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th

edition. *Mertensia pterocarpa* var. *yezoensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガバアサガオ

Aniseia martinicensis

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 D
推定開花株数が 50 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

葉は長楕円形か長楕円倒卵形で長さ 3-8 cm。花は葉腋に 1 個つき、花冠は鐘形で白色、径約 2.5 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地帯に生育する。

【分布域】

北大東島の中央にある池の周辺に分布。国外では、フィリピン、ポリネシア、マレーシア、インド、熱帯アフリカに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が確認された。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガバアサガオ	<i>Aniseia martinicensis</i>	CR
第4次 2019:	ナガバアサガオ	<i>Aniseia martinicensis</i>	CR
第4次 2018:	ナガバアサガオ	<i>Aniseia martinicensis</i>	CR
第4次 2017:	ナガバアサガオ	<i>Aniseia martinicensis</i>	CR
第4次 2015:	ナガバアサガオ	<i>Aniseia martinicensis</i>	CR
第4次:	ナガバアサガオ	<i>Aniseia martinicensis</i>	CR
第3次:	ナガバアサガオ	<i>Aniseia martinicensis</i>	CR
第2次:	ナガバアサガオ	<i>Aniseia martinicensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aniseia martinicensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aniseia martinicensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クシロネナシカズラ

Cuscuta europaea

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は細くて無毛。花冠は広鐘形で、萼のほぼ 2 倍の長さがあり、先は 5 裂。蒴果は扁球形、径約 3 mm、基部で横に裂開する。

【生活史】

つる性の寄生植物。

【生育環境】

日当りのよい山野で、他の植物に巻きついて生育する。

【分布域】

北海道に分布。国外では、ユーラシア、アフリカに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2000 年調査時と変化がないと推測される。2000 年調査以降、生育情報が得られていない。

現地調査の集計結果 2000 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	－	1	0	0	－	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クシロネナシカズラ	<i>Cuscuta europaea</i>	CR
第4次 2019:	クシロネナシカズラ	<i>Cuscuta europaea</i>	CR
第4次 2018:	クシロネナシカズラ	<i>Cuscuta europaea</i>	CR
第4次 2017:	クシロネナシカズラ	<i>Cuscuta europaea</i>	CR
第4次 2015:	クシロネナシカズラ	<i>Cuscuta europaea</i>	CR
第4次:	クシロネナシカズラ	<i>Cuscuta europaea</i>	CR
第3次:	クシロネナシカズラ	<i>Cuscuta europaea</i>	CR
第2次:	クシロネナシカズラ	<i>Cuscuta europaea</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cuscuta europaea has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cuscuta europaea* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イラブナスビ

Solanum miyakojimense

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

長さ 20-40 cm。茎は密に星状毛に覆われ、棘が多い。葉身は卵形、長さ 1.5-4 cm。1-3 個の花をつけ、花冠は白色で径約 8 mm。液果は径約 1 cm の球形で赤色に熟す。

【生活史】

常緑の小低木。

【生育環境】

海岸に生育する。

【分布域】

琉球（宮古島、伊良部島）に分布。国外では台湾（蘭嶼）に分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イラブナスビ	<i>Solanum miyakojimense</i>	CR
第4次 2019:	イラブナスビ	<i>Solanum miyakojimense</i>	CR
第4次 2018:	イラブナスビ	<i>Solanum miyakojimense</i>	CR
第4次 2017:	イラブナスビ	<i>Solanum miyakojimense</i>	CR
第4次 2015:	イラブナスビ	<i>Solanum miyakojimense</i>	CR
第4次:	イラブナスビ	<i>Solanum miyakojimense</i>	CR
第3次:	イラブナスビ	<i>Solanum miyakojimense</i>	CR
第2次:	イラブナスビ	<i>Solanum miyakojimense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Solanum miyakojimense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Solanum miyakojimense* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トゲイボタ

Ligustrum tamakii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30 cm 以下。今年枝は淡褐色で曲がった毛を密生、若枝はしばしばとげとなる。葉は対生し革質で全縁、楕円形～やや倒卵状、長さ 1–2 cm、幅約 0.5–1 cm、鈍頭または凹頭、表面は濃緑、裏面は黄緑色で細点があり、両面無毛、葉柄は長さ 2–3 mm。枝頂に円錐花序を出し、3–4 段、各段に 5–6 花ずつつける。花冠は鐘形で先は 4 裂し、白色、長さ約 3–4 mm。果実は球形で径約 3 mm。

【生活史】

匍匐性の常緑低木。花期は 7 月と 12 月。

【生育環境】

海岸または山地の風衝地の岩場に生える。

【分布域】

琉球（渡名喜島・伊良部島・与那国島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トゲイボタ	<i>Ligustrum tamakii</i>	CR
第4次 2019:	トゲイボタ	<i>Ligustrum tamakii</i>	CR
第4次 2018:	トゲイボタ	<i>Ligustrum tamakii</i>	CR
第4次 2017:	トゲイボタ	<i>Ligustrum tamakii</i>	CR
第4次 2015:	トゲイボタ	<i>Ligustrum tamakii</i>	CR
第4次:	トゲイボタ	<i>Ligustrum tamakii</i>	CR
第3次:	トゲイボタ	<i>Ligustrum tamakii</i>	CR
第2次:	トゲイボタ	<i>Ligustrum tamakii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ligustrum tamakii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ligustrum tamakii* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナガミカズラ

Aeschynanthus acuminatus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

長さ 25-70 cm。茎は分枝する。葉身は長さ 4.5-12 cm、長楕円形～楕円形、革質、両面は無毛。集散花序は腋生する。花冠は長さ 1.5-2 cm、左右相称、外側は無毛で内側は有毛、赤色～緑色。花筒は長さ 0.8-1.6 cm、裂片の上唇は 4.5 mm で 2 裂し、下唇は 5 mm で 3 裂、反り返る。

【生活史】

低木。

【生育環境】

樹幹や岩上に着生。

【分布域】

琉球（西表島）、台湾・中国～インド・ベトナム・マレーシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで数個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナガミカズラ	<i>Aeschynanthus acuminatus</i>	CR
第4次 2019:	ナガミカズラ	<i>Aeschynanthus acuminatus</i>	CR
第4次 2018:	ナガミカズラ	<i>Aeschynanthus acuminatus</i>	CR
第4次 2017:	ナガミカズラ	<i>Aeschynanthus acuminatus</i>	CR
第4次 2015:	ナガミカズラ	<i>Aeschynanthus acuminatus</i>	CR
第4次:	ナガミカズラ	<i>Aeschynanthus acuminatus</i>	CR
第3次:	ナガミカズラ	<i>Aeschynanthus acuminatus</i>	CR
第2次:	ナガミカズラ	<i>Aeschynanthus acuminatus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aeschynanthus acuminatus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Aeschynanthus acuminatus is listed as CR under criteria D.
 D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンシシンラン

Lysionotus apicidens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

長さ 20-50 cm。葉身は長さ 2-7 cm、楕円形～倒披針形、厚い革質、先は鈍く、基部は鈍形～心形。花は葉腋から出た花序に数個つく。花冠は長さ 3-3.5 cm、白色～淡紫色。

【生活史】

低木。

【生育環境】

樹幹や岩上に着生。

【分布域】

琉球（沖縄島）、台湾・中国・ベトナムに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュの限られた場所に数十個体（おそらく 50 未満）が見られるだけであった。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾シシラン	<i>Lysionotus apicidens</i>	CR
第4次 2019:	台湾シシラン	<i>Lysionotus apicidens</i>	CR
第4次 2018:	台湾シシラン	<i>Lysionotus apicidens</i>	CR
第4次 2017:	台湾シシラン	<i>Lysionotus apicidens</i>	CR
第4次 2015:	台湾シシラン	<i>Lysionotus apicidens</i>	CR
第4次:	台湾シシラン	<i>Lysionotus apicidens</i>	CR
第3次:	台湾シシラン	<i>Lysionotus apicidens</i>	CR
第2次:	台湾シシラン	<i>Lysionotus</i> sp.	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lysionotus apicidens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lysionotus apicidens* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リュウキュウスズカケ

*Veronicastrum liukuense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上し、長さ 60–100 cm、軟毛を散生する。葉身は長さ 5–9 cm、卵形～卵状円形。花序は円柱形。花冠は長さ 7 mm、白色で紅紫色を帯び、筒部は長さ約 3 mm、先端は 4 裂する。雄蕊は 2 個、花外へ長くとび出す。

【生活史】

多年草。花期は 9–10 月。

【生育環境】

湿った林縁や林内に生育。

【分布域】

琉球（奄美大島・沖縄北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウスズカケ	<i>Veronicastrum liukiense</i>	CR
第4次 2019:	リュウキュウスズカケ	<i>Veronicastrum liukiense</i>	CR
第4次 2018:	リュウキュウスズカケ	<i>Veronicastrum liukiense</i>	CR
第4次 2017:	リュウキュウスズカケ	<i>Veronicastrum liukiense</i>	CR
第4次 2015:	リュウキュウスズカケ	<i>Veronicastrum liukiense</i>	CR
第4次:	リュウキュウスズカケ	<i>Veronicastrum liukiense</i>	CR
第3次:	リュウキュウスズカケ	<i>Veronicastrum liukiense</i>	CR
第2次:	リュウキュウスズカケ	<i>Veronicastrum liukiense</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Veronicastrum liukiense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Veronicastrum liukiense is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

スズカケソウ

Veronicastrum villosulum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上し、長さ1-1.5 m、長短の腺毛を密生する。葉身は長さ7-11 cm、卵形、先は尾状に長く尖り、縁に三角状の鋸歯がある。花序は球形。花筒は長さ7-8 mm、濃紫色。雄蕊は2個、花外へ長くとび出す。

【生活史】

多年草。花期は7-8月。

【生育環境】

竹林のやや日陰に生育。

【分布域】

岐阜県・徳島県、中匡東南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では2メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は86%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 自然遷移	シカ食害	園芸採取
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	スズカケソウ	<i>Veronicastrum villosulum</i>	CR
第4次 2019:	スズカケソウ	<i>Veronicastrum villosulum</i>	CR
第4次 2018:	スズカケソウ	<i>Veronicastrum villosulum</i>	CR
第4次 2017:	スズカケソウ	<i>Veronicastrum villosulum</i>	CR
第4次 2015:	スズカケソウ	<i>Veronicastrum villosulum</i>	CR
第4次:	スズカケソウ	<i>Veronicastrum villosulum</i>	CR
第3次:	スズカケソウ	<i>Veronicastrum villosulum</i>	CR
第2次:	スズカケソウ	<i>Veronicastrum villosulum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[絶滅危惧 I 類] 徳島県[絶滅危惧 IA 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 岐阜県環境生活部自然環境保全課，2014. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物（植物編）改訂版—岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版—. <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/11109.html>（2024 年 9 月 5 日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Veronicastrum villosulum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Veronicastrum villosulum* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae アゼナ科 Linderniaceae

ツルウリクサ

Torenia concolor

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 30-80 cm。葉身は長さ 6-20 mm、三角状卵形～狭卵形、両面にまばらに軟毛が散生する。花は茎上部の葉腋に単生する。花冠は長さ 3-4 cm、2 唇形、濃青紫色。

【生活史】

常緑多年草。

【生育環境】

湿った林縁に生育。

【分布域】

奄美大島・琉球（沖縄島・宮古島）、台湾・中国（南部・南西部）・ラオス・ベトナムに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツルウリクサ	<i>Torenia concolor</i> var. <i>formosana</i>	EN
第4次 2019:	ツルウリクサ	<i>Torenia concolor</i> var. <i>formosana</i>	EN
第4次 2018:	ツルウリクサ	<i>Torenia concolor</i> var. <i>formosana</i>	EN
第4次 2017:	ツルウリクサ	<i>Torenia concolor</i> var. <i>formosana</i>	EN
第4次 2015:	ツルウリクサ	<i>Torenia concolor</i> var. <i>formosana</i>	EN
第4次:	ツルウリクサ	<i>Torenia concolor</i> var. <i>formosana</i>	EN
第3次:	ツルウリクサ	<i>Torenia concolor</i> var. <i>formosana</i>	EN
第2次:	ツルウリクサ	<i>Torenia concolor</i> var. <i>formosana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Torenia concolor has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Torenia concolor* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマカコソウ

*Ajuga boninsimae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-20 cm。茎は有毛。葉身は長さ 2-6 cm、楕円形～楕円状倒卵形、円頭、両面ともに毛が密生する。花は花序に密につき、花冠は長さ約 1 cm、白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

明るくやや湿った岩の多い草原に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島・母島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマカコソウ	<i>Ajuga boninsimae</i>	EN
第4次 2019:	シマカコソウ	<i>Ajuga boninsimae</i>	EN
第4次 2018:	シマカコソウ	<i>Ajuga boninsimae</i>	EN
第4次 2017:	シマカコソウ	<i>Ajuga boninsimae</i>	EN
第4次 2015:	シマカコソウ	<i>Ajuga boninsimae</i>	EN
第4次:	シマカコソウ	<i>Ajuga boninsimae</i>	EN
第3次:	シマカコソウ	<i>Ajuga boninsimae</i>	CR
第2次:	シマカコソウ	<i>Ajuga boninsimae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ajuga boninsimae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ajuga boninsimae* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Other

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ルリハッカ

Amethystea caerulea

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-80 cm。茎は四角で分枝する。葉柄は長さ 1-2 cm。葉は羽状に 3-5 全裂し、羽片は長さ 3-6 cm。萼は長さ 2.5-3 mm、球状の鐘形。花冠は青紫色、萼より少し長く、雄蕊は花外に長く突出する。

【生活史】

一年草。

【生育環境】

日当たりのよい草地に生育。

【分布域】

北海道・本州（青森県・岩手県）・九州（福岡県・大分県・熊本県）、朝鮮半島・中国・モンゴル・中央アジア・西アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ルリハッカ	<i>Amethystea caerulea</i>	CR
第4次 2019:	ルリハッカ	<i>Amethystea caerulea</i>	CR
第4次 2018:	ルリハッカ	<i>Amethystea caerulea</i>	CR
第4次 2017:	ルリハッカ	<i>Amethystea caerulea</i>	CR
第4次 2015:	ルリハッカ	<i>Amethystea caerulea</i>	CR
第4次:	ルリハッカ	<i>Amethystea caerulea</i>	CR
第3次:	ルリハッカ	<i>Amethystea caerulea</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[情報不足] 熊本県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Amethystea caerulea has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Amethystea caerulea* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホウライムラサキ

Callicarpa formosana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2–5 m。葉身は長さ 5–17 cm、卵形～楕円形、細かい鋸歯があり、裏面には黄褐色の樹枝状毛と腺点がある。集散花序は径 4–5 cm、腋生、密に分枝する。花冠は径約 1.5 mm、4 裂し、紅紫色。果実は径 2–3 mm、球形、藍紫色に熟す。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

低地の明るい林内や林縁に生育。

【分布域】

沖縄島、台湾・中国南部・インドシナ・フィリピンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。自生地は 1 メッシュのごく狭い範囲に限られ、2007 年調査では数個体のみ現存とされた。農業用ダムの建設で自生地の一部が水没した。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホウライムラサキ	<i>Callicarpa formosana</i>	CR
第4次 2019:	ホウライムラサキ	<i>Callicarpa formosana</i>	CR
第4次 2018:	ホウライムラサキ	<i>Callicarpa formosana</i>	CR
第4次 2017:	ホウライムラサキ	<i>Callicarpa formosana</i>	CR
第4次 2015:	ホウライムラサキ	<i>Callicarpa formosana</i>	CR
第4次:	ホウライムラサキ	<i>Callicarpa formosana</i>	CR
第3次:	ホウライムラサキ	<i>Callicarpa formosana</i>	CR
第2次:	ホウライムラサキ	<i>Callicarpa formosana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Callicarpa formosana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Callicarpa formosana is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマムラサキ

*Callicarpa glabra***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ1-2 m。葉身は長さ5-10 cm、長楕円形、ほぼ全縁でときに低い鋸歯があり、裏面には腺点が密生する。集散花序は径3-4 cm、腋生。花冠は径約2 mm、淡紅色。果実は径3-4 mm、球形、紅紫色に熟す。

【生活史】

常緑低木。

【生育環境】

やや湿った林内に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島列島・母島列島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では2メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は80%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 自然遷移		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマムラサキ	<i>Callicarpa glabra</i>	CR
第4次 2019:	シマムラサキ	<i>Callicarpa glabra</i>	CR
第4次 2018:	シマムラサキ	<i>Callicarpa glabra</i>	CR
第4次 2017:	シマムラサキ	<i>Callicarpa glabra</i>	CR
第4次 2015:	シマムラサキ	<i>Callicarpa glabra</i>	CR
第4次:	シマムラサキ	<i>Callicarpa glabra</i>	CR
第3次:	シマムラサキ	<i>Callicarpa glabra</i>	CR
第2次:	シマムラサキ	<i>Callicarpa glabra</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Callicarpa glabra has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Callicarpa glabra* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバムラサキ

Callicarpa pilosissima

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

常緑の低木または灌木で高さ最大 3 m。葉は対生、葉柄は長さ 1-5 mm、葉身は披針形で長さ 11-19 cm、幅 2.5-3.8 cm、側脈は 10-15 対、先端は長く伸び、基部は円形もしくはやや心形。若枝、葉、花序軸、萼に長軟毛が密生する。花は淡紅紫色、果実は白紫色に熟し、直径 3-4 mm。

【生活史】

常緑低木または灌木。花期は 6-9 月。

【生育環境】

溪流沿いの明るい岩崖に生育。

【分布域】

西表島、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

西表島北部にある溪流沿いの明るい岩崖上に 1 個体のみが生息し、2021 年 8 月には開花が観察されていたが、2022 年 1 月には枯死していることが確認された。そのため現在西表島で野生下に生育する個体は確認できない。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 山本武能・米倉浩司・阿部篤志・天野正晴・遠山弘法・設楽拓人・田金秀一郎・長谷川文・加島幹男・梶田忠・副島顕子・内貴章世，2023．沖縄県西表島産希少植物の島内分布調査と記録の確認—維管束植物相解明に向けて．植物研究雑誌，98: 178-191．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Callicarpa pilosissima has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Callicarpa pilosissima* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae シソ科 Lamiaceae/Labiatae

ケサヤバナ

Coleus formosanus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30–50 cm。葉身は長さ 4–6 cm、卵円形～菱状卵形。花冠は長さ約 8 mm、淡紫色。花冠上唇は 3 裂し、下唇はボート形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸岩上に生育。

【分布域】

琉球（与那国島）、台湾（蘭嶼）・フィリピン（バタン諸島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかった。2007 年調査では 1 メッシュ、数個体の現存が報告された。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ケサヤバナ	<i>Coleus formosanus</i>	CR
第4次 2019:	ケサヤバナ	<i>Coleus formosanus</i>	CR
第4次 2018:	ケサヤバナ	<i>Coleus formosanus</i>	CR
第4次 2017:	ケサヤバナ	<i>Coleus formosanus</i>	CR
第4次 2015:	ケサヤバナ	<i>Coleus formosanus</i>	CR
第4次:	ケサヤバナ	<i>Coleus formosanus</i>	CR
第3次:	ケサヤバナ	<i>Coleus formosanus</i>	CR
第2次:	ケサヤバナ	<i>Coleus formosanus</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Coleus formosanus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Coleus formosanus* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメタツナミソウ

*Scutellaria kikai-insularis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はまばらに分岐し、地表を這う。葉身は長さ 5-9 mm、卵形、各側 2-3 個のやや尖った鋸歯がある。花穂は長さ 2-4 cm。花冠は長さ 10-12 mm。淡紫色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿った草地に生育。

【分布域】

琉球（奄美大島喜界島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	農薬汚染	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメタツナミソウ	<i>Scutellaria kikai-insularis</i>	EN
第4次 2019:	ヒメタツナミソウ	<i>Scutellaria kikai-insularis</i>	EN
第4次 2018:	ヒメタツナミソウ	<i>Scutellaria kikai-insularis</i>	EN
第4次 2017:	ヒメタツナミソウ	<i>Scutellaria kikai-insularis</i>	EN
第4次 2015:	ヒメタツナミソウ	<i>Scutellaria kikai-insularis</i>	EN
第4次:	ヒメタツナミソウ	<i>Scutellaria kikai-insularis</i>	EN
第3次:	ヒメタツナミソウ	<i>Scutellaria kikai-insularis</i>	EN
第2次:	ヒメタツナミソウ	<i>Scutellaria kikaiisularis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Scutellaria kikai-insularis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Scutellaria kikai-insularis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Land development, Pesticide pollution
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イヌニガクサ

Teucrium veronicoides var. *brachytrichum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A類 (CR) 基準 C

推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

エゾニガクサに似るが、開出毛が長さ 0.5-1 mm と短く、葉の鋸歯が粗い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の草原に生育。

【分布域】

本州（新潟県以北のおもに日本海側）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	1	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄	草地開発	自然遷移
件数 3	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イヌニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>brachytrichum</i>	CR
第4次 2019:	イヌニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>brachytrichum</i>	CR
第4次 2018:	イヌニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>brachytrichum</i>	CR
第4次 2017:	イヌニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>brachytrichum</i>	CR
第4次 2015:	イヌニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>brachytrichum</i>	CR
第4次:	イヌニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>brachytrichum</i>	CR
第3次:	イヌニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i> var. <i>brachytrichum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[情報不足] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]
秋田県[絶滅危惧種ⅠB 類(EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠA 類 (C R)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類
(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Teucrium veronicoides var. *brachytrichum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Teucrium veronicoides* var. *brachytrichum* is listed as CR under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Abandonment of management, Grassland development, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤエヤマハマゴウ

Vitex bicolor

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報								
【形態】								
ミツバハマゴウに似るが、全体が大きく、葉に 3-5 小葉があり、小葉柄がある。高さ 2 m。								
【生活史】								
低木。								
【生育環境】								
海岸部の低地に生育。								
【分布域】								
琉球（西表島）、東南アジア・ミクロネシア・オーストラリア・インドに分布。								
現在の生育状況								
【生育地の現況】								
2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。								
現地調査の集計結果 2018 年調査								
【「現存する株数」別のメッシュ数】								
<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0
【存続を脅かす要因上位3項目の件数】								
1 番目			2 番目			3 番目		
要因								
件数								

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤエヤマハマゴウ	<i>Vitex bicolor</i>	CR
第4次 2019:	ヤエヤマハマゴウ	<i>Vitex bicolor</i>	CR
第4次 2018:	ヤエヤマハマゴウ	<i>Vitex bicolor</i>	CR
第4次 2017:	ヤエヤマハマゴウ	<i>Vitex bicolor</i>	CR
第4次 2015:	ヤエヤマハマゴウ	<i>Vitex bicolor</i>	CR
第4次:	ヤエヤマハマゴウ	<i>Vitex bicolor</i>	CR
第3次:	ヤエヤマハマゴウ	<i>Vitex bicolor</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vitex bicolor has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Vitex bicolor* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオニンジンボク

Vitex quinata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 4-10 m。葉身は長さ 6-18 cm、長楕円状披針形、鋭先端、全縁か鋸歯縁、全面に腺点がある。花冠は長さ 10 mm 内外。果実は径 6 mm。

【生活史】

常緑高木。

【生育環境】

低地川沿いの森林に生育。

【分布域】

八重山諸島（石垣島・西表島）、台湾・中国南部・東南アジア・マレーシア地域に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオニンジンボク	<i>Vitex quinata</i>	CR
第4次 2019:	オオニンジンボク	<i>Vitex quinata</i>	CR
第4次 2018:	オオニンジンボク	<i>Vitex quinata</i>	CR
第4次 2017:	オオニンジンボク	<i>Vitex quinata</i>	CR
第4次 2015:	オオニンジンボク	<i>Vitex quinata</i>	CR
第4次:	オオニンジンボク	<i>Vitex quinata</i>	CR
第3次:	オオニンジンボク	<i>Vitex quinata</i>	CR
第2次:	オオニンジンボク	<i>Vitex quinata</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vitex quinata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Vitex quinata* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イナコメグサ

Euphrasia multifolia var. *inaensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立し、あまり分枝しない。高さ 25-50 cm。葉は長楕円形、鋭頭～やや鈍頭、基部は楔形、鋸歯は 3-4 対。花冠は長さ 8-10 mm、白色、下唇中央部に黄斑がある。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

低山地の湿地などに生育する。

【分布域】

長野県・岐阜県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イナコメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>inaensis</i>	CR
第4次 2019:	イナコメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>inaensis</i>	CR
第4次 2018:	イナコメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>inaensis</i>	CR
第4次 2017:	イナコメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>inaensis</i>	CR
第4次 2015:	イナコメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>inaensis</i>	CR
第4次:	イナコメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>inaensis</i>	CR
第3次:	イナコメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>inaensis</i>	CR
第2次:	イナコメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>inaensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 岐阜県環境生活部自然環境保全課，2014. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物（植物編）改訂版—岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版—. <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/11109.html>（2024 年 9 月 5 日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphrasia multifolia var. *inaensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphrasia multifolia* var. *inaensis* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Unknown

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ハマウツボ科 Orobanchaceae

エゾノダツタンコゴメグサ

Euphrasia pectinata var. *obtusiserrata*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 6-17 cm。茎に曲がった毛がある。葉は卵円形で長さ幅とも 7-14 mm。上部の葉腋に 1 花をつける。花は白色で紫色の条があり、上唇の先までの長さ 7-8 mm、下唇は上唇より長い。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

草地に生育する。

【分布域】

南千島、北海道（根室地方、利尻島、礼文島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾノダツタンコゴメグサ	<i>Euphrasia pectinata</i> var. <i>obtusiserrata</i>	CR
第4次 2019:	エゾノダツタンコゴメグサ	<i>Euphrasia pectinata</i> var. <i>obtusiserrata</i>	CR
第4次 2018:	エゾノダツタンコゴメグサ	<i>Euphrasia pectinata</i> var. <i>obtusiserrata</i>	CR
第4次 2017:	エゾノダツタンコゴメグサ	<i>Euphrasia pectinata</i> var. <i>obtusiserrata</i>	CR
第4次 2015:	エゾノダツタンコゴメグサ	<i>Euphrasia pectinata</i> var. <i>obtusiserrata</i>	CR
第4次:	エゾノダツタンコゴメグサ	<i>Euphrasia pectinata</i> var. <i>obtusiserrata</i>	CR
第3次:	エゾノダツタンコゴメグサ	<i>Euphrasia pectinata</i> var. <i>obtusiserrata</i>	CR
第2次:	エゾノダツタンコゴメグサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Euphrasia pectinata var. *obtusiserrata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Euphrasia pectinata* var. *obtusiserrata* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ベニシオガマ

Pedicularis koidzumiana

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 3-7 cm。根出葉の柄は長さ 1-2 cm、葉身は長楕円状卵形で長さ 10-20 mm、羽状全裂し、裂片は尖った鋸歯がある。茎先の短い花穂に数花を密につける。花冠は紅紫色、先端下側に 2 個の棘状突起があり、下唇は上唇より短い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩地に生育する。

【分布域】

利尻島に分布。国外ではサハリンに分布する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 産地局限	その他	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ベニシオガマ	<i>Pedicularis koidzumiana</i>	CR
第4次 2019:	ベニシオガマ	<i>Pedicularis koidzumiana</i>	CR
第4次 2018:	ベニシオガマ	<i>Pedicularis koidzumiana</i>	CR
第4次 2017:	ベニシオガマ	<i>Pedicularis koidzumiana</i>	CR
第4次 2015:	ベニシオガマ	<i>Pedicularis koidzumiana</i>	CR
第4次:	ベニシオガマ	<i>Pedicularis koidzumiana</i>	CR
第3次:	ベニシオガマ	<i>Pedicularis koidzumiana</i>	CR
第2次:	ベニシオガマ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pedicularis koidzumiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pedicularis koidzumiana* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Limited distribution, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホザキシオガマ

Pedicularis spicata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-80 cm。葉は狭披針形で長さ 2-6 cm。枝先に数段の密な花穂を作り、各段に 3-4 個の花を輪生する。花冠は紅紫色で長さ 12 mm、上唇は下唇より短い。

【生活史】

1 年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

湿原に生育する。

【分布域】

北海道の十勝地方・本州中部の白山に分布。国外では、朝鮮半島、中国（北部、東北）、シベリア東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかった。別途行われた調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホザキシオガマ	<i>Pedicularis spicata</i>	VU
第4次 2019:	ホザキシオガマ	<i>Pedicularis spicata</i>	VU
第4次 2018:	ホザキシオガマ	<i>Pedicularis spicata</i>	VU
第4次 2017:	ホザキシオガマ	<i>Pedicularis spicata</i>	VU
第4次 2015:	ホザキシオガマ	<i>Pedicularis spicata</i>	VU
第4次:	ホザキシオガマ	<i>Pedicularis spicata</i>	VU
第3次:	ホザキシオガマ	<i>Pedicularis spicata</i>	VU
第2次:	ホザキシオガマ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pedicularis spicata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pedicularis spicata* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

センリゴマ

Rehmannia japonica

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報								
【形態】								
高さ 20-50 cm。根際の葉は卵状楕円形で長さ 20-30 cm、翼のついた葉柄がある。5 月、長さ 3-4 cm の花柄の先に 1 花を開く。花冠は長さ 5-6 cm、筒部は黄色で紫の斑があり、筒の上部から裂片にかけて鮮紅紫色。								
【生活史】								
多年草。								
【生育環境】								
山野に生育する。								
【分布域】								
東海地方の静岡県、岐阜県に分布。中国が原産地とされる。								
現在の生育状況								
【生育地の現況】								
2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。								
現地調査の集計結果								
2018 年調査								
【「現存する株数」別のメッシュ数】								
<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0
【存続を脅かす要因上位3項目の件数】								
1 番目			2 番目			3 番目		
要因								
園芸採取								
件数								
1								

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	センリゴマ	<i>Rehmannia japonica</i>	CR
第4次 2019:	センリゴマ	<i>Rehmannia japonica</i>	CR
第4次 2018:	センリゴマ	<i>Rehmannia japonica</i>	CR
第4次 2017:	センリゴマ	<i>Rehmannia japonica</i>	CR
第4次 2015:	センリゴマ	<i>Rehmannia japonica</i>	CR
第4次:	センリゴマ	<i>Rehmannia japonica</i>	CR
第3次:	センリゴマ	<i>Rehmannia japonica</i>	CR
第2次:	センリゴマ	<i>Rehmannia japonica</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 岐阜県環境生活部自然環境保全課，2014. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物（植物編）改訂版—岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版—. <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/11109.html>（2024 月 9 月 5 日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rehmannia japonica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rehmannia japonica* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメミミカキグサ

Utricularia minutissima

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は地表から地下を横に這う。気中葉は線形～へら形、長さ 3-20 mm。捕虫嚢は卵球形で直径 0.2-1 mm。花茎は高さ 1-3 cm、ピンク～白色の花が 1-5 個つき、距は前へ突き出す。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

泥湿地に生育する。

【分布域】

本州（東海地方～関東地方）に分布。国外では、アジア～オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメミミカキグサ	<i>Utricularia minutissima</i>	EN
第4次 2019:	ヒメミミカキグサ	<i>Utricularia minutissima</i>	EN
第4次 2018:	ヒメミミカキグサ	<i>Utricularia minutissima</i>	EN
第4次 2017:	ヒメミミカキグサ	<i>Utricularia minutissima</i>	EN
第4次 2015:	ヒメミミカキグサ	<i>Utricularia minutissima</i>	EN
第4次:	ヒメミミカキグサ	<i>Utricularia minutissima</i>	EN
第3次:	ヒメミミカキグサ	<i>Utricularia minutissima</i>	EN
第2次:	ヒメミミカキグサ	<i>Utricularia nipponica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

石川県[絶滅(EX)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅(EX)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Utricularia minutissima has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Utricularia minutissima* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤコジマソウ

Hemigraphis reptans

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は卵状円形、長さ 1-3 cm。頂生する長さ 1-7 cm の穂状花序を出し、3-5 個の花をつける。花冠は白色、長さ 1.5 cm、ねじれない。花冠裂片は広楕円形。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩上に生育。

【分布域】

宮古島、台湾・フィリピン・マレーシア・インドネシア・オーストラリア・太平洋諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 海岸開発		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤコジマソウ	<i>Hemigraphis okamotoi</i>	CR
第4次 2019:	ミヤコジマソウ	<i>Hemigraphis okamotoi</i>	CR
第4次 2018:	ミヤコジマソウ	<i>Hemigraphis okamotoi</i>	CR
第4次 2017:	ミヤコジマソウ	<i>Hemigraphis okamotoi</i>	CR
第4次 2015:	ミヤコジマソウ	<i>Hemigraphis okamotoi</i>	CR
第4次:	ミヤコジマソウ	<i>Hemigraphis okamotoi</i>	CR
第3次:	ミヤコジマソウ	<i>Hemigraphis okamotoi</i>	CR
第2次:	ミヤコジマソウ	<i>Hemigraphis reptans</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hemigraphis reptans has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hemigraphis reptans* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Coastal development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミヒイラギモチ

*Ilex dimorphophylla***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2-4 m。若枝には微毛が密生する。葉は互生、成木の葉は長さ 2-3 mm の柄があり、葉身は革質、倒卵形または楕円状円形、先は円く、長さ 1-2 cm、鋸歯がなく、両面無毛。若木の葉は楕円形、長さ 1.5-3 cm、先は棘となって鋭く尖り、縁に深く切れ込み、先が鋭い棘となる 2-4 対の歯牙がある。1-3 個の花が葉腋にあるごく短い短枝に束生する。花弁は緑白色、円形で約 1.5 mm。果実は球形で径約 6 mm、赤熟。

【生活史】

常緑低木。花期は 5 月。

【生育環境】

山地のやや湿潤な常緑樹林の林床に生育する。

【分布域】

奄美大島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採		

件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	アマミヒイラギモチ	<i>Ilex dimorphophylla</i>	CR
第4次 2019:	アマミヒイラギモチ	<i>Ilex dimorphophylla</i>	CR
第4次 2018:	アマミヒイラギモチ	<i>Ilex dimorphophylla</i>	CR
第4次 2017:	アマミヒイラギモチ	<i>Ilex dimorphophylla</i>	CR
第4次 2015:	アマミヒイラギモチ	<i>Ilex dimorphophylla</i>	CR
第4次:	アマミヒイラギモチ	<i>Ilex dimorphophylla</i>	CR
第3次:	アマミヒイラギモチ	<i>Ilex dimorphophylla</i>	CR
第2次:	アマミヒイラギモチ	<i>Ilex dimorphophylla</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ilex dimorphophylla has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ilex dimorphophylla* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	Logging and wood harvesting
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒロハタマミズキ

Ilex macrocarpa

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

短枝はほとんど伸長しない。葉柄は長さ 1-1.5 cm。葉は互生。葉身はやや厚くて軟らかく、楕円形または卵状楕円形、長さ 6-12 cm、幅 4-6 cm、先は尖り、基部は円形～鋭形、縁に伏した鋭鋸歯があり、両面無毛。花は前年の枝にある短枝に葉に混じってつく。花弁は白色、雄花は約 2 mm で卵形、雌花は約 4 mm で長楕円形。果実は球形で径約 1 cm、初め赤色で後に黒紫色になり、果柄は長さ約 0.5-1 cm。

【生活史】

落葉高木。雌雄異株。花期は 4-5 月。

【生育環境】

海岸近くの路傍や林縁部に生育する。

【分布域】

奄美大島、中国（中南部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	土地造成	
件数	1	

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒロハタマミズキ	<i>Ilex macrocarpa</i>	CR
第4次 2019:	ヒロハタマミズキ	<i>Ilex macrocarpa</i>	CR
第4次 2018:	ヒロハタマミズキ	<i>Ilex macrocarpa</i>	CR
第4次 2017:	ヒロハタマミズキ	<i>Ilex macrocarpa</i>	CR
第4次 2015:	ヒロハタマミズキ	<i>Ilex macrocarpa</i>	CR
第4次:	ヒロハタマミズキ	<i>Ilex macrocarpa</i>	CR
第3次:	ヒロハタマミズキ	<i>Ilex macrocarpa</i>	CR
第2次:	ヒロハタマミズキ	<i>Ilex macrocarpa</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ilex macrocarpa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ilex macrocarpa* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.	
Threat types:	Road construction, Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシイワシャジン

*Adenophora hatsushimae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 C

推定開花株数 250 個体未満かつ 10 年間に 61.7%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎の長さ 10-40 cm。根出葉と下方の茎葉は長さ 2-6 cm、卵形～三角形、欠刻状の鋸歯がある。花冠は長さ 10 mm 内外、花柱が長く突き出る。

【生活史】

多年草。花期は 10 月。

【生育環境】

山地の岩場に生育。

【分布域】

九州（宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	その他
件数 2	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシイワシャジン	<i>Adenophora hatsushimae</i>	CR
第4次 2019:	ツクシイワシャジン	<i>Adenophora hatsushimae</i>	CR
第4次 2018:	ツクシイワシャジン	<i>Adenophora hatsushimae</i>	CR
第4次 2017:	ツクシイワシャジン	<i>Adenophora hatsushimae</i>	CR
第4次 2015:	ツクシイワシャジン	<i>Adenophora hatsushimae</i>	CR
第4次:	ツクシイワシャジン	<i>Adenophora hatsushimae</i>	CR
第3次:	ツクシイワシャジン	<i>Adenophora hatsushimae</i>	CR
第2次:	ツクシイワシャジン	<i>Adenophora hatsushimae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Adenophora hatsushimae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Adenophora hatsushimae is listed as CR under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 61.7% within ten years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユウバリシャジン

Adenophora pereskiifolia var. *yamadae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30–60 cm。茎は直立する。茎葉は長さ 2–15 cm、披針形～卵形、鋸歯がある。葉が茎の基部から対生する。花柄は短く、花序は総状花序か円錐状花序。花冠は長さ 1.5–3 cm、鐘形で、淡紫色または白色、花柱は花冠と同じ長さか、長く突出する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

蛇紋岩地帯周辺の草地に生育。

【分布域】

北海道（夕張岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ユウバリシャジン	<i>Adenophora pereskiiifolia</i> var. <i>yamadae</i>	CR
第4次 2019:	ユウバリシャジン	<i>Adenophora pereskiiifolia</i> var. <i>yamadae</i>	CR
第4次 2018:	ユウバリシャジン	<i>Adenophora pereskiiifolia</i> var. <i>yamadae</i>	CR
第4次 2017:	ユウバリシャジン	<i>Adenophora pereskiiifolia</i> var. <i>yamadae</i>	CR
第4次 2015:	ユウバリシャジン	<i>Adenophora pereskiiifolia</i> var. <i>yamadae</i>	CR
第4次:	ユウバリシャジン	<i>Adenophora pereskiiifolia</i> var. <i>yamadae</i>	CR
第3次:	ユウバリシャジン	<i>Adenophora pereskiiifolia</i> var. <i>yamadae</i>	CR
第2次:	ユウバリシャジン	<i>Adenophora pereskiaefolia</i> var. <i>yamadae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Adenophora pereskiiifolia var. *yamadae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Adenophora pereskiiifolia* var. *yamadae* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae キキョウ科 Campanulaceae

タチミゾカクシ

Lobelia dopatrioides var. *cantonensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 2-25 cm。茎は細く軟らかで直立する。葉身は長さ 4-22 mm、卵形または広卵形両面無毛。花は総状花序につき、花冠は長さ 5-6 mm、青紫色。

【生活史】

一年草。花期は 8-10 月。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

琉球、中国・台湾・インドシナ・マレーシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報が得られなかったため、過去の個体数を用い、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タチミゾカクシ	<i>Lobelia chevalieri</i>	CR
第4次 2019:	タチミゾカクシ	<i>Lobelia chevalieri</i>	CR
第4次 2018:	タチミゾカクシ	<i>Lobelia chevalieri</i>	CR
第4次 2017:	タチミゾカクシ	<i>Lobelia chevalieri</i>	CR
第4次 2015:	タチミゾカクシ	<i>Lobelia chevalieri</i>	CR
第4次:	タチミゾカクシ	<i>Lobelia chevalieri</i>	CR
第3次:	タチミゾカクシ	<i>Lobelia chevalieri</i>	CR
第2次:	タチミゾカクシ	<i>Lobelia hancei</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅] 宮崎県[絶滅(EX-r)] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lobelia dopatrioides var. *cantonensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lobelia dopatrioides* var. *cantonensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マルバハタケムシロ

*Lobelia loochooensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は這い、よく分枝する。葉身は長さ 6 mm、円形または広楕円形、全縁。花は葉腋に 1 個つく。花冠は長さ 3 mm、白色または淡紫色。

【生活史】

常緑多年草。

【生育環境】

海岸近くの風衝地に生育。

【分布域】

奄美・久米島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マルバハタケムシロ	<i>Lobelia loochooensis</i>	EN
第4次 2019:	マルバハタケムシロ	<i>Lobelia loochooensis</i>	EN
第4次 2018:	マルバハタケムシロ	<i>Lobelia loochooensis</i>	EN
第4次 2017:	マルバハタケムシロ	<i>Lobelia loochooensis</i>	EN
第4次 2015:	マルバハタケムシロ	<i>Lobelia loochooensis</i>	EN
第4次:	マルバハタケムシロ	<i>Lobelia loochooensis</i>	EN
第3次:	マルバハタケムシロ	<i>Lobelia loochooensis</i>	EN
第2次:	マルバハタケムシロ	<i>Lobelia loochooensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lobelia loochooensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lobelia loochooensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマウスユキソウ

Anaphalis sinica var. *yakusimensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヤハズハハコに似るが、高さ 4-10 cm、茎葉は長さ 1.5-2 cm、披針形～狭長楕円形、白毛が葉の両面、茎、花序柄に密生する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高地に生育。

【分布域】

屋久島（永田岳・黒味岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。現存個体数は数個体と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマウスユキソウ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第4次 2019:	ヤクシマウスユキソウ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第4次 2018:	ヤクシマウスユキソウ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第4次 2017:	ヤクシマウスユキソウ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第4次 2015:	ヤクシマウスユキソウ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第4次:	ヤクシマウスユキソウ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第3次:	ヤクシマウスユキソウ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
第2次:	ヤクシマウスユキソウ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Anaphalis sinica var. *yakusimensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Anaphalis sinica* var. *yakusimensis* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾノチチコグサ

Antennaria dioica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 6-25 cm。ロゼットの葉は長さ 15-25 mm、さじ形、白い綿毛に覆われる。根出葉は長さ 18-35 mm、さじ形。茎葉は長さ 10-15 mm、線形、両面に白い綿毛がある。雌雄異株で、雌頭花は径 8-15 mm。雄頭花は径 8-10 mm。

【生活史】

多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

寒地の乾草原に生育。

【分布域】

南千島・北海道、ユーラシア大陸の寒帯～アラスカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾノチチコグサ	<i>Antennaria dioica</i>	CR
第4次 2019:	エゾノチチコグサ	<i>Antennaria dioica</i>	CR
第4次 2018:	エゾノチチコグサ	<i>Antennaria dioica</i>	CR
第4次 2017:	エゾノチチコグサ	<i>Antennaria dioica</i>	CR
第4次 2015:	エゾノチチコグサ	<i>Antennaria dioica</i>	CR
第4次:	エゾノチチコグサ	<i>Antennaria dioica</i>	CR
第3次:	エゾノチチコグサ	<i>Antennaria dioica</i>	EN
第2次:	エゾノチチコグサ	<i>Antennaria dioica</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)] 長野県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Antennaria dioica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Antennaria dioica* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオイソノギク

Aster ujiinsularis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イソノギクに似るが、より大型で、舌状花の冠毛は筒状花と同長。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の岩上や崖に生育。

【分布域】

鹿児島県（宇治群島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。個体数の増減が大きく、生育地が限られている。2007 年調査では現存個体数は数十個体であった。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオイソノギク	<i>Aster ujiinsularis</i>	CR
第4次 2019:	オオイソノギク	<i>Aster ujiinsularis</i>	CR
第4次 2018:	オオイソノギク	<i>Aster ujiinsularis</i>	CR
第4次 2017:	オオイソノギク	<i>Aster ujiinsularis</i>	CR
第4次 2015:	オオイソノギク	<i>Aster ujiinsularis</i>	CR
第4次:	オオイソノギク	<i>Aster ujiinsularis</i>	CR
第3次:	オオイソノギク	<i>Aster ujiinsularis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aster ujiinsularis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aster ujiinsularis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマノギク

*Aster yakushimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

匍匐する長い地下茎がある。高さ 50-150 cm。ほぼ無毛。葉身は長さ 10-13 cm、長楕円状披針形、3 脈が目立ち、表面は短毛でざらつき、鋭頭、基部はしだいに細くなり短い葉柄をつける。頭花は径 1.8-2.5 cm、総苞は幅 10-12 mm、舌状花は淡紫色。

【生活史】

多年草。花期は 9-11 月。

【生育環境】

やや湿った岩場に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマノギク	<i>Aster yakushimensis</i>	CR
第4次 2019:	ヤクシマノギク	<i>Aster yakushimensis</i>	CR
第4次 2018:	ヤクシマノギク	<i>Aster yakushimensis</i>	CR
第4次 2017:	ヤクシマノギク	<i>Aster yakushimensis</i>	CR
第4次 2015:	ヤクシマノギク	<i>Aster yakushimensis</i>	CR
第4次:	ヤクシマノギク	<i>Aster yakushimensis</i>	CR
第3次:	ヤクシマノギク	<i>Aster yakushimensis</i>	CR
第2次:	ヤクシマノギク	<i>Aster yakushimensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aster yakushimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aster yakushimensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シライワザミ

*Cirsium akimotoi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 70-180 cm。茎は直立する。根出葉は花期に生存しない。茎葉の葉身は長さ 32-40 cm、卵形か広卵形、羽状に深裂し、裂片は 7-10 対あり、鋭い棘がある。頭花は数個が総状にまばらにつく。総苞は径 8-15 mm、くも毛がある。総苞片は 8-10 列。花冠は長さ 19-22 mm、淡紅紫色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩地に生育。

【分布域】

宮崎県白岩山に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。産地と個体数が極めて限られる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査**【「現存する株数」別のメッシュ数】**

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シライワアザミ	<i>Cirsium akimotoi</i>	CR
第4次 2019:	シライワアザミ	<i>Cirsium akimotoi</i>	CR
第4次 2018:	シライワアザミ	<i>Cirsium akimotoi</i>	CR
第4次 2017:	シライワアザミ	<i>Cirsium akimotoi</i>	CR
第4次 2015:	シライワアザミ	<i>Cirsium akimotoi</i>	CR
第4次:	シライワアザミ	<i>Cirsium akimotoi</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium akimotoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium akimotoi* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アポイアザミ

*Cirsium apoense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 70-180 cm。茎は直立～斜上する。根出葉は花期に生存する。根出葉の葉身は長さ 20-40 cm、卵形か広披針形、羽状に深裂し、裂片は 7-12 対あり、葉柄は長さ 5-8 cm。茎葉は無柄、基部は耳状に茎を抱く。頭花は下向きに咲き、2 個か数個が総状にまばらにつく。総苞は径 12-16 mm、まばらにくも毛がある。総苞片は 6-7 列。花冠は長さ 15-18 mm、紅紫色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の草地に生育。

【分布域】

北海道（アポイ岳とその周辺）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害		

件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アボイアザミ	<i>Cirsium apoense</i>	CR
第4次 2019:	アボイアザミ	<i>Cirsium apoense</i>	CR
第4次 2018:	アボイアザミ	<i>Cirsium apoense</i>	CR
第4次 2017:	アボイアザミ	<i>Cirsium apoense</i>	CR
第4次 2015:	アボイアザミ	<i>Cirsium apoense</i>	CR
第4次:	アボイアザミ	<i>Cirsium apoense</i>	CR
第3次:	アボイアザミ	<i>Cirsium apoense</i>	CR
第2次:	アボイアザミ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium apoense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium apoense* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカサゴアザミ

Cirsium japonicum var. *australe*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 50-100 cm。根生葉は倒卵状狭長楕円形、葉縁は 5-6 対、羽状に裂ける。莖葉は長楕円形、基部は茎を抱く。頭花は枝先につき、球形で紫色または紅色を帯びる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸に生育。

【分布域】

魚釣島、台湾・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。2007 年調査では過去の情報として 1 メッシュ、数個体と報告される。引き続き、ノヤギの食害による影響が強く懸念される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカサゴアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>australe</i>	CR
第4次 2019:	タカサゴアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>australe</i>	CR
第4次 2018:	タカサゴアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>australe</i>	CR
第4次 2017:	タカサゴアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>australe</i>	CR
第4次 2015:	タカサゴアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>australe</i>	CR
第4次:	タカサゴアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>australe</i>	CR
第3次:	タカサゴアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>australe</i>	CR
第2次:	タカサゴアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>australe</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium japonicum var. *australe* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium japonicum* var. *australe* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウゼンヒメアザミ

*Cirsium katoanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

トオノアザミに似るが、葉が肉質、総苞片に膜状部分があり、短く開出～反曲する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の風穴地に生育。

【分布域】

山形県（天童市）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発	管理放棄	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウゼンヒメアザミ	<i>Cirsium katoanum</i>	CR
第4次 2019:	ウゼンヒメアザミ	<i>Cirsium katoanum</i>	CR
第4次 2018:	ウゼンヒメアザミ	<i>Cirsium katoanum</i>	CR
第4次 2017:	ウゼンヒメアザミ	<i>Cirsium katoanum</i>	CR
第4次 2015:	ウゼンヒメアザミ	<i>Cirsium katoanum</i>	CR
第4次:	ウゼンヒメアザミ	<i>Cirsium katoanum</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山形県[絶滅危惧ⅠA類（CR）]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 山形県レッドリスト等掲載種選定委員会（植物版），2014. レッドデータブックやまがた 絶滅危惧野生植物 2013 年改訂版. 山形県環境エネルギー部みどり自然課，376pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium katoanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium katoanum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Wetland development, Abandonment of management

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヘイケモリアザミ

Cirsium lucens var. *bracteosum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

テリハアザミに似るが、根出葉が花期に生存し、総苞片は 8-9 列で針状、硬質、総苞片基部の断面は扁平になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩地に生育。

【分布域】

熊本県・宮崎県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。産地と個体数が極めて限られる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハイケモリアザミ	<i>Cirsium lucens</i> var. <i>bracteosum</i>	CR
第4次 2019:	ハイケモリアザミ	<i>Cirsium lucens</i> var. <i>bracteosum</i>	CR
第4次 2018:	ハイケモリアザミ	<i>Cirsium lucens</i> var. <i>bracteosum</i>	CR
第4次 2017:	ハイケモリアザミ	<i>Cirsium lucens</i> var. <i>bracteosum</i>	CR
第4次 2015:	ハイケモリアザミ	<i>Cirsium lucens</i> var. <i>bracteosum</i>	CR
第4次:	ハイケモリアザミ	<i>Cirsium lucens</i> var. <i>bracteosum</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium lucens var. *bracteosum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium lucens* var. *bracteosum* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イナバザミ

*Cirsium magofukui***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 70-150 cm。茎は斜上する。根出葉は花期に生存しない。下部の茎葉の葉身は長さ 35-60 cm、広楕円形、羽状に中裂～深裂し、裂片は 5-8 対ある。頭花は點頭して下向きに咲き、数個が総状にまばらにつく。総苞は径 14-21 mm、無毛。総苞片は 8-9 列。花冠は長さ 18-21 mm、淡紅紫色。

【生活史】

多年草。花期は 9-11 月。

【生育環境】

山地の小さな流れに沿った木陰に生育。

【分布域】

本州中部（鈴鹿山脈・伊吹山地・両白山地）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	管理放棄	
件数	1	

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イナバアザミ	<i>Cirsium magofukui</i>	VU
第4次 2019:	イナバアザミ	<i>Cirsium magofukui</i>	VU
第4次 2018:	イナバアザミ	<i>Cirsium magofukui</i>	VU
第4次 2017:	イナバアザミ	<i>Cirsium magofukui</i>	VU
第4次 2015:	イナバアザミ	<i>Cirsium magofukui</i>	VU
第4次:	イナバアザミ	<i>Cirsium magofukui</i>	VU
第3次:	イナバアザミ	<i>Cirsium magofukui</i>	VU
第2次:	イナバアザミ	<i>Cirsium magofukui</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[情報不足(DD)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 滋賀県[絶滅危機増大種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium magofukui has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium magofukui* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Deer feeding damage, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒュウガアザミ

*Cirsium masami-saitoanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 70-220 cm。茎は直立～斜上する。根出葉は花期に生存しない。茎葉の葉身は長さ 20-40 cm、楕円形～狭楕円形、羽状に中裂～深裂し、裂片は 4-9 対ある。頭花は数個が総状にまばらにつくか塊状に集合してつく。両性頭花は径 8-14 mm、雌性頭花は径 6-7 mm。総苞片は両性頭花で 9-10 列、雌性頭花で 6-7 列。花冠は長さ 13-20 mm、両性小花は淡紅紫色、雌性小花は濃紅紫色。

【生活史】

多年草。花期は 9-11 月。

【生育環境】

林縁や草地に生育。

【分布域】

九州南部の鰐塚山地に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 森林伐採	道路工事	自然遷移

件数		
2	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒュウガアザミ	<i>Cirsium masami-saitoanum</i>	CR
第4次 2019:	ヒュウガアザミ	<i>Cirsium masami-saitoanum</i>	CR
第4次 2018:	ヒュウガアザミ	<i>Cirsium masami-saitoanum</i>	CR
第4次 2017:	ヒュウガアザミ	<i>Cirsium masami-saitoanum</i>	CR
第4次 2015:	ヒュウガアザミ	<i>Cirsium masami-saitoanum</i>	CR
第4次:	ヒュウガアザミ	<i>Cirsium masami-saitoanum</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[準絶滅危惧(NT-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium masami-saitoanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium masami-saitoanum* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Road construction, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ニッポウアザミ

*Cirsium nippoense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 100-190 cm。茎は直立する。根出葉と下部の茎葉は花期に生存しない。中部の茎葉の葉身は長さ 15-40 cm、革質、狭卵形～広卵形、羽状に中裂し、裂片は 3-8 対、長さ 10 mm になる大きな棘がある。頭花は直立または斜上し、多数が円錐状に密につく。総苞は径 15-30 mm、くも毛がある。総苞片は 11-12 列。花冠は長さ 19-20 mm、両性小花は紅紫色、雌性小花は鮮やかな赤紫色。

【生活史】

多年草。花期は 10 月。

【生育環境】

沿海地の夏緑林や常緑林の林縁や林間の草地に生育。

【分布域】

大分県・宮崎県の県境に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。平均減少率は 85%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成	道路工事	シカ食害

件数		
1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ニッポウアザミ	<i>Cirsium nippoense</i>	CR
第4次 2019:	ニッポウアザミ	<i>Cirsium nippoense</i>	CR
第4次 2018:	ニッポウアザミ	<i>Cirsium nippoense</i>	CR
第4次 2017:	ニッポウアザミ	<i>Cirsium nippoense</i>	CR
第4次 2015:	ニッポウアザミ	<i>Cirsium nippoense</i>	CR
第4次:	ニッポウアザミ	<i>Cirsium nippoense</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧 I B 類(EN-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium nippoense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium nippoense* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Land development, Road construction, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アレチアザミ

Cirsium segetum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 30-60 cm、直立し、ふつつ分枝しない。花時に根生葉はない。葉は 5-10 cm、草質で切れ込まない。葉縁は波打つか低い鋸歯がある。4-6 対の鋭い棘があり、より短い棘も散生する。5-6 月ごろに茎頂（および葉腋）から花茎を 1-数本伸ばし、それぞれに 1 個の頭花をつける。

【生活史】

多年生草本。花期は 5-6 月。

【生育環境】

畑地やその周辺の路傍、荒地に群生。

【分布域】

長崎県対馬、朝鮮半島・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cirsium segetum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cirsium segetum* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コヘラナレン

*Crepidiastrum grandicollum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎の地下部は木化し、地中に潜る。葉身は長さ 4-9 cm、卵状楕円形～倒披針形、両面が無毛。頭状花序は散房状につく。総苞は長さ 5 mm、狭筒形。総苞片は 2 列。舌状花は長さ 6-6.5 mm、黄色。

【生活史】

常緑多年草。

【生育環境】

岩場や裸地に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島列島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 97%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コハラナレン	<i>Crepidiastrum grandicollum</i>	CR
第4次 2019:	コハラナレン	<i>Crepidiastrum grandicollum</i>	CR
第4次 2018:	コハラナレン	<i>Crepidiastrum grandicollum</i>	CR
第4次 2017:	コハラナレン	<i>Crepidiastrum grandicollum</i>	CR
第4次 2015:	コハラナレン	<i>Crepidiastrum grandicollum</i>	CR
第4次:	コハラナレン	<i>Crepidiastrum grandicollum</i>	CR
第3次:	コハラナレン	<i>Crepidiastrum grandicollum</i>	CR
第2次:	コハラナレン	<i>Crepidiastrum grandicollum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crepidiastrum grandicollum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Crepidiastrum grandicollum* is listed as CR under criteria ACD.
The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Other animal feeding damage
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フタマタタンポポ

Crepis hokkaidoensis

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 E
10 年間の絶滅確率が 50%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

全体に暗褐色の毛が密生する。茎は 2 又に分かれることが多い。高さ 5-20 cm。根出葉は長さ 5-15 cm、不揃いに羽状に裂ける。頭花は径 3.5 cm、1-4 個、上向きに咲き、黄色。小花は約 70 個。

【生活史】

多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高山の礫地に生育。

【分布域】

南千島・北海道、サハリンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フタマタタンポポ	<i>Crepis hokkaidoensis</i>	EN
第4次 2019:	フタマタタンポポ	<i>Crepis hokkaidoensis</i>	EN
第4次 2018:	フタマタタンポポ	<i>Crepis hokkaidoensis</i>	EN
第4次 2017:	フタマタタンポポ	<i>Crepis hokkaidoensis</i>	EN
第4次 2015:	フタマタタンポポ	<i>Crepis hokkaidoensis</i>	EN
第4次:	フタマタタンポポ	<i>Crepis hokkaidoensis</i>	EN
第3次:	フタマタタンポポ	<i>Crepis hokkaidoensis</i>	EN
第2次:	フタマタタンポポ	<i>Crepis hokkaidoensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 梅沢俊，2007. 新北海道の花. 462pp. 北海道大学出版会，札幌.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crepis hokkaidoensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Crepis hokkaidoensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤマノギク

*Erigeron miyabeanus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 15 cm。根出葉は長さ 2.5-3 cm、広楕円形、縁に少数の鋸歯があり、葉柄がある。総苞は径 1 cm。総苞片は 3 列。頭花は径 3.5 cm。舌状花は雌性、青紫色、筒状花は両性、黄色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山に生育。

【分布域】

北海道北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマノギク	<i>Erigeron miyabeanus</i>	CR
第4次 2019:	ミヤマノギク	<i>Erigeron miyabeanus</i>	CR
第4次 2018:	ミヤマノギク	<i>Erigeron miyabeanus</i>	CR
第4次 2017:	ミヤマノギク	<i>Erigeron miyabeanus</i>	CR
第4次 2015:	ミヤマノギク	<i>Erigeron miyabeanus</i>	CR
第4次:	ミヤマノギク	<i>Erigeron miyabeanus</i>	CR
第3次:	ミヤマノギク	<i>Erigeron miyabeanus</i>	CR
第2次:	ミヤマノギク	<i>Erigeron miyabeanus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Erigeron miyabeanus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Erigeron miyabeanus* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キクバイズハハコ

Eschenbachia aegyptiaca

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イズハハコ、ネバリイズハハコと比べ、頭花は径 1-1.3 cm と大きく、葉は羽状に裂ける。花期に根出葉は生存する。

【生活史】

一年草～越年草。

【生育環境】

日当たりのよい低地の草地に生育。

【分布域】

琉球（先島諸島）、東南アジア・オーストラリア・アフリカの熱帯域に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では 3 メッシュで絶滅の報告があり、確実な自生を確認できなかった。現存する可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	3	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キクバイズハハコ	<i>Conyza aegyptiaca</i>	CR
第4次 2019:	キクバイズハハコ	<i>Conyza aegyptiaca</i>	CR
第4次 2018:	キクバイズハハコ	<i>Conyza aegyptiaca</i>	CR
第4次 2017:	キクバイズハハコ	<i>Conyza aegyptiaca</i>	CR
第4次 2015:	キクバイズハハコ	<i>Conyza aegyptiaca</i>	CR
第4次:	キクバイズハハコ	<i>Conyza aegyptiaca</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eschenbachia aegyptiaca has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Eschenbachia aegyptiaca is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コケセンボンギク

Lagenophora lanata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

細い根茎がある。高さ 3.5-12 cm。根出葉は長さ 12-30 mm、倒卵形、鈍鋸歯があり、軟毛を密生する。総苞は長さ 2.5 mm。頭花は径 3-5 mm、茎頂に単生する。舌状花は長さ 2.5 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低地から山地の草原や林縁に生育。

【分布域】

本州・九州・琉球、台湾・中国南部・東南アジア・オーストラリア・ニュージーランドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コケセンボンギク	<i>Lagenophora lanata</i>	CR
第4次 2019:	コケセンボンギク	<i>Lagenophora lanata</i>	CR
第4次 2018:	コケセンボンギク	<i>Lagenophora lanata</i>	CR
第4次 2017:	コケセンボンギク	<i>Lagenophora lanata</i>	CR
第4次 2015:	コケセンボンギク	<i>Lagenophora lanata</i>	CR
第4次:	コケセンボンギク	<i>Lagenophora lanata</i>	CR
第3次:	コケセンボンギク	<i>Lagenophora lanata</i>	CR
第2次:	コケセンボンギク	<i>Lagenophora lanata</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岡山県[絶滅] 広島県[絶滅(EX)] 愛媛県[情報不足(DD)] 長崎県[情報不足(DD)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lagenophora lanata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lagenophora lanata* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ニッコウコウモリ

Parasenecio hastatus subsp. *orientalis* var. *nantaicus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 50-90 cm。茎葉の葉身は長さ 7-17 cm、三角状矛形、頂裂片と側裂片は尾状、長く尖る。葉柄は無翼、小さな耳があり、基部は半ば茎を抱く。頭花は総状花序につくか単生し、點頭する。花柄は長さ 15-30 mm。総苞は長さ 12-15 mm。総苞片は 7-9 個。小花は頭花当たり 10-15 個。

【生活史】

多年草。花期は 9 月。

【生育環境】

夏緑林の林縁や亜高山帯の灌木林の縁に生育。

【分布域】

関東地方北部（日光山地・谷川連峰）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 96%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害		
件数		

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ニッコウコウモリ	<i>Parasenecio hastatus</i> subsp. <i>orientalis</i> var. <i>nantaicus</i>	CR
第4次 2019:	ニッコウコウモリ	<i>Parasenecio hastatus</i> subsp. <i>orientalis</i> var. <i>nantaicus</i>	CR
第4次 2018:	ニッコウコウモリ	<i>Parasenecio hastatus</i> subsp. <i>orientalis</i> var. <i>nantaicus</i>	CR
第4次 2017:	ニッコウコウモリ	<i>Parasenecio hastatus</i> subsp. <i>orientalis</i> var. <i>nantaicus</i>	CR
第4次 2015:	ニッコウコウモリ	<i>Parasenecio hastatus</i> subsp. <i>orientalis</i> var. <i>nantaicus</i>	CR
第4次:	ニッコウコウモリ	<i>Parasenecio hastatus</i> subsp. <i>orientalis</i> var. <i>nantaicus</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Parasenecio hastatus subsp. *orientalis* var. *nantaicus* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Parasenecio hastatus* subsp. *orientalis* var. *nantaicus* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Deer feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマコウヤボウキ

*Pertya yakushimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 100-120 cm。葉は短枝に 5-9 枚が束生し、無毛。総苞の基部に鱗片状の小葉がある。瘦果の上部にいちじるしく毛がある。頭花は 8-9 個の小花からなり、1 個が頂生する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

溪流沿いの岩上や断崖に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマコウヤボウキ	<i>Pertya yakushimensis</i>	EN
第4次 2019:	シマコウヤボウキ	<i>Pertya yakushimensis</i>	EN
第4次 2018:	シマコウヤボウキ	<i>Pertya yakushimensis</i>	EN
第4次 2017:	シマコウヤボウキ	<i>Pertya yakushimensis</i>	EN
第4次 2015:	シマコウヤボウキ	<i>Pertya yakushimensis</i>	EN
第4次:	シマコウヤボウキ	<i>Pertya yakushimensis</i>	EN
第3次:	シマコウヤボウキ	<i>Pertya yakushimensis</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pertya yakushimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pertya yakushimensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマトウヒレン

*Saussurea insularis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-50 cm。茎は直立する。根出葉は花期に生存する。根出葉の葉身は長さ 9-10 cm、卵状三角形、基部はほこ形。葉柄は長さ 1-2 cm、無翼。頭花は 2 個から十数個が散房状にまばらにつく。総苞は径 11 mm、総苞片は 11-12 列。花冠は長さ 11 mm、淡紅紫色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山頂付近の岩混じりの草地に生育。

【分布域】

対馬（白岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。平均減少率は 85%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマトウヒレン	<i>Saussurea insularis</i>	CR
第4次 2019:	シマトウヒレン	<i>Saussurea insularis</i>	CR
第4次 2018:	シマトウヒレン	<i>Saussurea insularis</i>	CR
第4次 2017:	シマトウヒレン	<i>Saussurea insularis</i>	CR
第4次 2015:	シマトウヒレン	<i>Saussurea insularis</i>	CR
第4次:	シマトウヒレン	<i>Saussurea insularis</i>	CR
第3次:	シマトウヒレン	<i>Saussurea insularis</i>	CR
第2次:	シマトウヒレン	<i>Saussurea insularis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saussurea insularis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Saussurea insularis* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Deer feeding damage

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミクラジマトウヒレン

*Saussurea mikurasimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-55 cm。茎は直立か斜上、狭い翼があるかまたはない。下部の茎葉は長さ 10-14 cm、卵状心形、やや厚く肉質、粗い鋸歯があり、基部は深い心形。上部の茎葉は小型で有柄。頭花は 4-7 個が散房状に密集してつき、径約 10 mm。総苞片は 8-9 列、肉質で鈍い光沢がある。花冠は淡い紅紫色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

常緑林の林縁や林間の草地に生育。

【分布域】

伊豆諸島（御蔵島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミクラジマトウヒレン	<i>Saussurea mikurasimensis</i>	CR
第4次 2019:	ミクラジマトウヒレン	<i>Saussurea mikurasimensis</i>	CR
第4次 2018:	ミクラジマトウヒレン	<i>Saussurea mikurasimensis</i>	CR
第4次 2017:	ミクラジマトウヒレン	<i>Saussurea mikurasimensis</i>	CR
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saussurea mikurasimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Saussurea mikurasimensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマヒゴタイ

Saussurea nipponica subsp. *savatieri* var. *yakusimensis*

カテゴリー	判定結果	絶滅危惧 I A 類 (CR)	基準 D
推定開花株数が 50 個体未満。			
評価分科会： 維管束植物分科会			

基礎情報

【形態】

高さ 40-100 cm。茎は直立する。根出葉は花期に生存しない。下部の茎葉の葉身は長さ 10-18 cm、狭卵形～卵形、基部はほこ形。葉柄は長さ 8-12 cm、無翼。頭花は 15-20 個が茎頂に密集してつく。総苞は径 10-11 mm、総苞片は 6 列。

【生活史】

多年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

山地の頂上付近等に生育。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られず、2012 年調査では確実な自生を確認できなかった。現存する可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	2	0	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマヒゴタイ	<i>Saussurea yakusimensis</i>	CR
第4次 2019:	ヤクシマヒゴタイ	<i>Saussurea yakusimensis</i>	CR
第4次 2018:	ヤクシマヒゴタイ	<i>Saussurea yakusimensis</i>	CR
第4次 2017:	ヤクシマヒゴタイ	<i>Saussurea yakusimensis</i>	CR
第4次 2015:	ヤクシマヒゴタイ	<i>Saussurea yakusimensis</i>	CR
第4次:	ヤクシマヒゴタイ	<i>Saussurea yakusimensis</i>	CR
第3次:	ヤクシマトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>savatieri</i> var. <i>yakusimensis</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- Yahara, T., H. Ohba, J. Murata and K. Iwatsuki, 1987. Taxonomic Review of Vascular Plants Endemic to Yakushima Island, Japan. Journal of the Faculty of Science, University of Tokyo. Sect. 3, Botany, 14: 69–119.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Saussurea nipponica subsp. *savatieri* var. *yakusimensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Saussurea nipponica* subsp. *savatieri* var. *yakusimensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フタナミソウ

*Scorzonera rebunensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根は長さ 22 cm に達し、垂直に伸びる。高さ 4-17 cm。根出葉は長さ 4-8 cm、広倒披針形～狭倒卵形、5 脈がある。頭花は径 4.5-5.5 cm、黄色。総苞片は 4 列。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸の中生草地に生育。

【分布域】

北海道（礼文島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フタナミソウ	<i>Scorzonera rebunensis</i>	CR
第4次 2019:	フタナミソウ	<i>Scorzonera rebunensis</i>	CR
第4次 2018:	フタナミソウ	<i>Scorzonera rebunensis</i>	CR
第4次 2017:	フタナミソウ	<i>Scorzonera rebunensis</i>	CR
第4次 2015:	フタナミソウ	<i>Scorzonera rebunensis</i>	CR
第4次:	フタナミソウ	<i>Scorzonera rebunensis</i>	CR
第3次:	フタナミソウ	<i>Scorzonera rebunensis</i>	CR
第2次:	フタナミソウ	<i>Scorzonera rebunensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Scorzonera rebunensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Scorzonera rebunensis* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤンバルアオヤギバナ

*Solidago yambaruensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

常緑の多年草。根生葉は花時消失する。茎に密生する茎葉は線状披針形、長さ 5 cm 程度。頭状花は黄色。瘦果は無毛。

【生活史】

花期は 11 月から 12 月。

【生育環境】

溪流沿いの岩上に生育。

【分布域】

沖縄島北部（やんばる）の限られた河川の狭い範囲に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

自生地多くは、ダム建設により水没し、消失している。残された自生地には、侵略的外来種であるアメリカハマグルマが侵入し、競合により生育環境が悪化している。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Sakaguchi, S., A. Abe, K. Nakagawa, D. Takahashi, H. Setoguchi, M. Maki, T. Nishino, N. Ishikawa, S. K. Hirota, Y. Suyama and M. Ito, 2021. Functional traits divergence in parallelly evolved rheophytic populations of *Solidago virgaurea* L. Complex (Asteraceae) in Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 72: 93–111.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Solidago yambaruensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Solidago yambaruensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンツクバネウツギ

Abelia chinensis var. *ionandra*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1 m。葉は菱状卵形、卵形、長楕円形で、長さ 7-20 mm。花序は頂生または腋生し、2(-3)花からなる集散花序であるが、枝先では多くの花からなる密な短い円錐花序となる。花冠はほぼ放射相称で漏斗形、長さ 5-10 mm、白色、筒部は長さ 4-5 mm、裂片は 5 個、広卵形、長さ 1.5-3 mm。果実は細長い紡錘形、長さ 4-4.5 mm。

【生活史】

半常緑の低木。

【生育環境】

山地に生育するが、時に石灰岩や露出した岩に生える。

【分布域】

琉球（奄美大島、沖縄島、石垣島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾ツクバネウツギ	<i>Abelia chinensis</i> var. <i>ionandra</i>	CR
第4次 2019:	台湾ツクバネウツギ	<i>Abelia chinensis</i> var. <i>ionandra</i>	CR
第4次 2018:	台湾ツクバネウツギ	<i>Abelia chinensis</i> var. <i>ionandra</i>	CR
第4次 2017:	台湾ツクバネウツギ	<i>Abelia chinensis</i> var. <i>ionandra</i>	CR
第4次 2015:	台湾ツクバネウツギ	<i>Abelia chinensis</i> var. <i>ionandra</i>	CR
第4次:	台湾ツクバネウツギ	<i>Abelia chinensis</i> var. <i>ionandra</i>	CR
第3次:	台湾ツクバネウツギ	<i>Abelia chinensis</i> var. <i>ionandra</i>	CR
第2次:	台湾ツクバネウツギ	<i>Abelia chinensis</i> var. <i>ionandra</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Abelia chinensis var. *ionandra* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Abelia chinensis* var. *ionandra* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オニツクバネウツギ

*Diabelia serrata f. tomentosa***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10年後の個体数が50個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コツクバネウツギに似るが、若い枝、葉の両面、花柄、苞、子房、萼片には、白い開出毛（長さ1mmに達する）が密生する。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

丘陵地に生育する。

【分布域】

愛媛県南西部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018年調査では3メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は62%であった。ACD基準によりCRとした。

現地調査の集計結果 2018年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 シカ食害	道路工事	森林伐採
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オニツクバネウツギ	<i>Abelia serrata</i> var. <i>tomentosa</i>	CR
第4次 2019:	オニツクバネウツギ	<i>Abelia serrata</i> var. <i>tomentosa</i>	CR
第4次 2018:	オニツクバネウツギ	<i>Abelia serrata</i> var. <i>tomentosa</i>	CR
第4次 2017:	オニツクバネウツギ	<i>Abelia serrata</i> var. <i>tomentosa</i>	CR
第4次 2015:	オニツクバネウツギ	<i>Abelia serrata</i> var. <i>tomentosa</i>	CR
第4次:	オニツクバネウツギ	<i>Abelia serrata</i> var. <i>tomentosa</i>	CR
第3次:	オニツクバネウツギ	<i>Abelia serrata</i> var. <i>tomentosa</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会，2014. 愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課，623pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diabelia serrata f. *tomentosa* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Diabelia serrata f. *tomentosa* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Deer feeding damage, Road construction, Logging and wood harvesting

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae スイカズラ科 Caprifoliaceae

ツシマヒョウタンボク

Lonicera fragrantissima

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さは 0.5-2 m。枝は時に硬毛が生え、中実。葉は長楕円形～卵形で長さ 1.5-3 cm。花冠は長さ約 10 mm。白色で淡黄色を帯びる。花は葉に先だって開く。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

夏緑樹林の林下に生育する。

【分布域】

長崎県（対馬）に分布。国外では、朝鮮半島（済州島を含む）に分布し、中国北部（山東半島）にも記録がある。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 産地局限		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツシマヒヨウタンボク	<i>Lonicera fragrantissima</i>	EN
第4次 2019:	ツシマヒヨウタンボク	<i>Lonicera fragrantissima</i>	EN
第4次 2018:	ツシマヒヨウタンボク	<i>Lonicera fragrantissima</i>	EN
第4次 2017:	ツシマヒヨウタンボク	<i>Lonicera fragrantissima</i>	EN
第4次 2015:	ツシマヒヨウタンボク	<i>Lonicera fragrantissima</i>	EN
第4次:	ツシマヒヨウタンボク	<i>Lonicera fragrantissima</i>	EN
第3次:	ツシマヒヨウタンボク	<i>Lonicera fragrantissima</i>	EN
第2次:	ツシマヒヨウタンボク	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 長崎県県民生活環境部自然保護課，2001. ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック 2001. 長崎県県民生活環境部自然保護課，568pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lonicera fragrantissima has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lonicera fragrantissima* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Limited distribution
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメスイカズラ

Lonicera japonica var. *miyagusukiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

スイカズラに似るが、葉は常緑で厚く、円頭～凹頭。円形～卵円形で長さは 1-4 cm。

【生活史】

常緑または半落葉性の低木。

【生育環境】

石灰岩上に生育する。

【分布域】

琉球に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメスイカズラ	<i>Lonicera japonica</i> var. <i>miyagusukiana</i>	CR
第4次 2019:	ヒメスイカズラ	<i>Lonicera japonica</i> var. <i>miyagusukiana</i>	CR
第4次 2018:	ヒメスイカズラ	<i>Lonicera japonica</i> var. <i>miyagusukiana</i>	CR
第4次 2017:	ヒメスイカズラ	<i>Lonicera japonica</i> var. <i>miyagusukiana</i>	CR
第4次 2015:	ヒメスイカズラ	<i>Lonicera japonica</i> var. <i>miyagusukiana</i>	CR
第4次:	ヒメスイカズラ	<i>Lonicera japonica</i> var. <i>miyagusukiana</i>	CR
第3次:	ヒメスイカズラ	<i>Lonicera japonica</i> var. <i>miyagusukiana</i>	CR
第2次:	ヒメスイカズラ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lonicera japonica var. *miyagusukiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lonicera japonica* var. *miyagusukiana* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウゼンベニバナヒョウタンボク

*Lonicera uzensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ベニバナヒョウタンボクに似るが、液果が紡錘形で、萼筒は基部で合着し、赤褐色の短毛が小花柄、葉、小苞、萼筒に生える。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

岩がちの斜面に生育する。

【分布域】

山形県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	園芸採取
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウゼンベニバナヒョウタンボク	<i>Lonicera uzenensis</i>	CR
第4次 2019:	ウゼンベニバナヒョウタンボク	<i>Lonicera uzenensis</i>	CR
第4次 2018:	ウゼンベニバナヒョウタンボク	<i>Lonicera uzenensis</i>	CR
第4次 2017:	ウゼンベニバナヒョウタンボク	<i>Lonicera uzenensis</i>	CR
第4次 2015:	ウゼンベニバナヒョウタンボク	<i>Lonicera uzenensis</i>	CR
第4次:	ウゼンベニバナヒョウタンボク	<i>Lonicera uzenensis</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山形県[絶滅危惧ⅠA類（CR）]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- Kadota, Y., 2001. Two new species of *Lonicera* (Caprifoliaceae) from Yamagata Prefecture, northern Japan. Bulletin of the National Museum of Nature and Science. Series B, Botany, 27: 149–158.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lonicera uzenensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lonicera uzenensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマキンレイカ

Patrinia triloba var. *kozushimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は掌状に中～深裂し、厚く、全株ほとんど無毛で、距は短い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿った山中の岩場に生育する。

【分布域】

伊豆七島（神津島及び御蔵島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>kozushimensis</i>	CR
第4次 2019:	シマキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>kozushimensis</i>	CR
第4次 2018:	シマキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>kozushimensis</i>	CR
第4次 2017:	シマキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>kozushimensis</i>	CR
第4次 2015:	シマキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>kozushimensis</i>	CR
第4次:	シマキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>kozushimensis</i>	CR
第3次:	シマキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>kozushimensis</i>	CR
第2次:	シマキンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>kozushimensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Patrinia triloba var. *kozushimensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Patrinia triloba* var. *kozushimensis* is listed as CR under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホザキツキヌキソウ

Triosteum pinnatifidum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 30 cm。茎は叢生する。葉は 4 対あり、上部の 2 対は接近して輪生状となり、倒卵状菱形で、長いものは 12 cm に達し、羽状に中裂し、裂片は鋭尖頭。穂状花序は直立し、柄を含めて長さ 2-5 cm。花冠は筒状、斜めに開出し、長さ約 10 mm、淡緑色、裂片は短く、内側は褐色を帯びる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山中に生育する。

【分布域】

山梨県に分布。国外では中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。1 メッシュで現存が確認され、現存個体数は数個体と推定される。自然遷移、シカ食害により減少している。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホザキツキヌキソウ	<i>Triosteum pinnatifidum</i>	CR
第4次 2019:	ホザキツキヌキソウ	<i>Triosteum pinnatifidum</i>	CR
第4次 2018:	ホザキツキヌキソウ	<i>Triosteum pinnatifidum</i>	CR
第4次 2017:	ホザキツキヌキソウ	<i>Triosteum pinnatifidum</i>	CR
第4次 2015:	ホザキツキヌキソウ	<i>Triosteum pinnatifidum</i>	CR
第4次:	ホザキツキヌキソウ	<i>Triosteum pinnatifidum</i>	CR
第3次:	ホザキツキヌキソウ	<i>Triosteum pinnatifidum</i>	CR
第2次:	ホザキツキヌキソウ	<i>Triosteum pinnatifidum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Triosteum pinnatifidum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Triosteum pinnatifidum* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオベニウツギ

Weigela florida

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 4-6 cm。花冠は長さ 3-3.5 cm、濃紫紅色で、外面に細毛があり、花筒の上部はやや鐘状に膨らみ、裂片は卵形で長さ 6-8 mm。蒴果は長さ 2-2.5 cm。

【生活史】

落葉低木。

【生育環境】

山頂に生育する。

【分布域】

福岡県古処山に分布。国外では、朝鮮半島、中国北部、モンゴルに広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオベニウツギ	<i>Weigela florida</i>	CR
第4次 2019:	オオベニウツギ	<i>Weigela florida</i>	CR
第4次 2018:	オオベニウツギ	<i>Weigela florida</i>	CR
第4次 2017:	オオベニウツギ	<i>Weigela florida</i>	CR
第4次 2015:	オオベニウツギ	<i>Weigela florida</i>	CR
第4次:	オオベニウツギ	<i>Weigela florida</i>	CR
第3次:	オオベニウツギ	<i>Weigela florida</i>	CR
第2次:	オオベニウツギ	<i>Weigela florida</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧ⅠA類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Weigela florida has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Weigela florida* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コバトベラ

*Pittosporum parvifolium***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 0.5-1.5 m。葉は互生で倒卵形～楕円形、長さ 1.5-4.5 cm。花は頂生、単生または散形状に 2-3 個つく。花弁は乳白色から黄変する。蒴果は球形で、径 8-12 mm。

【生活史】

常緑小低木。

【生育環境】

乾燥した風衝地に生育する。

【分布域】

小笠原諸島父島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コバトベラ	<i>Pittosporum parvifolium</i>	CR
第4次 2019:	コバトベラ	<i>Pittosporum parvifolium</i>	CR
第4次 2018:	コバトベラ	<i>Pittosporum parvifolium</i>	CR
第4次 2017:	コバトベラ	<i>Pittosporum parvifolium</i>	CR
第4次 2015:	コバトベラ	<i>Pittosporum parvifolium</i>	CR
第4次:	コバトベラ	<i>Pittosporum parvifolium</i>	CR
第3次:	コバトベラ	<i>Pittosporum parvifolium</i>	CR
第2次:	コバノトベラ	<i>Pittosporum parvifolium</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種、保護増殖事業対象種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pittosporum parvifolium has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pittosporum parvifolium* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	Other animal feeding damage, Natural succession

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora. Conservation and reproduction programs.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミツバウコギ

Eleitherococcus trifolius

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

常緑のつる性木本で、枝には曲がった棘がある。葉は互生し、掌状で、小葉は 3 個、倒卵形、長さ 4 cm 程度、葉柄には棘がある。花序は側枝の先につき、複数の散形花序からなり、多数の花をつける。花弁は三角形、長さ 2 mm、雄蕊は 5 個、花糸は長さ 3 mm。果実は卵形、長さ 5 mm。

【生活史】

花期は初冬。果実成熟は翌年の春。

【生育環境】

低地の常緑広葉樹林の林内や林縁に生育し、周辺の高木や低木にはい上がる。

【分布域】

沖縄県（宮古島）、東南アジア広域に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

自生地は海岸近くの自然林で、生育地のすぐそばまで耕作地として開発されている。自生地はごく狭い範囲の 1 カ所のみ知られる。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大川智史・林 将之, 2016. 琉球の樹木. 488pp. 文一総合出版, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Eleitherococcus trifolius has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Eleitherococcus trifolius is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤマノダケ

Angelica cryptotaeniifolia var. *cryptotaeniifolia***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、10 年後の個体数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ノダケに似るがより大きく、小葉の基部は葉柄に流れず翼状にならない。花は暗赤色。

【生活史】

一稔性草。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

四国、九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数十個体の現存が推定された。平均減少率は 60%であった。ACD 基準により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	2	0	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	人の踏みつけ
件数 4	3	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤマノダケ	<i>Angelica cryptotaeniifolia</i> var. <i>cryptotaeniifolia</i>	CR
第4次 2019:	ミヤマノダケ	<i>Angelica cryptotaeniifolia</i> var. <i>cryptotaeniifolia</i>	CR
第4次 2018:	ミヤマノダケ	<i>Angelica cryptotaeniifolia</i> var. <i>cryptotaeniifolia</i>	CR
第4次 2017:	ミヤマノダケ	<i>Angelica cryptotaeniifolia</i> var. <i>cryptotaeniifolia</i>	CR
第4次 2015:	ミヤマノダケ	<i>Angelica cryptotaeniifolia</i> var. <i>cryptotaeniifolia</i>	CR
第4次:	ミヤマノダケ	<i>Angelica cryptotaeniifolia</i> var. <i>cryptotaeniifolia</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会，2014. 愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課，623pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Angelica cryptotaeniifolia var. *cryptotaeniifolia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Angelica cryptotaeniifolia* var. *cryptotaeniifolia* is listed as CR under criteria ACD.

The number of individuals is less than 50 after 10 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシミヤマノダケ

Angelica cryptotaeniifolia var. *kyushiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマノダケの典型変種に比べ、果実が大型である（長さ 6 cm に達する）点で区別される（典型変種の果実は長さ 4 cm）。

【生活史】

花期は 9 月。

【生育環境】

石灰岩地の岩場の疎林内に生育。

【分布域】

宮崎県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

キュウシュウジカの採食によって減少し、植生保護柵内でのみ開花個体が残っている。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	自然遷移	
件数 3	3	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Angelica cryptotaeniifolia var. *kyushiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Angelica cryptotaeniifolia* var. *kyushiana* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Deer feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシトウキ

*Angelica pseudoshikokiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

カワゼンゴと同じ系統で、花は緑色になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地岩場に生育する。

【分布域】

九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に評価していると考えられた。現状は 2012 年調査時と変化がないと推測された。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシトウキ	<i>Angelica pseudoshikokiana</i>	VU
第4次 2019:	ツクシトウキ	<i>Angelica pseudoshikokiana</i>	VU
第4次 2018:	ツクシトウキ	<i>Angelica pseudoshikokiana</i>	VU
第4次 2017:	ツクシトウキ	<i>Angelica pseudoshikokiana</i>	VU
第4次 2015:	ツクシトウキ	<i>Angelica pseudoshikokiana</i>	VU
第4次:	ツクシトウキ	<i>Angelica pseudoshikokiana</i>	VU
第3次:	ツクシトウキ	<i>Angelica pseudoshikokiana</i>	VU
第2次:	ツクシトウキ	<i>Angelica pseudo-shikokiana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 大分県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 長崎県県民生活環境部自然保護課，2001. ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック 2001. 長崎県県民生活環境部自然保護課，568pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Angelica pseudoshikokiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Angelica pseudoshikokiana* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シナノダケ

*Angelica sinanomontana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉の形状はノダケモドキに似るが、花序が大きく、花弁が広楕円形～円形で、上縁部が波状である。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

長野県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。1 メッシュで現存が確認され、現存個体数は数個体と推定される。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シナノノダケ	<i>Angelica sinanomontana</i>	CR
第4次 2019:	シナノノダケ	<i>Angelica sinanomontana</i>	CR
第4次 2018:	シナノノダケ	<i>Angelica sinanomontana</i>	CR
第4次 2017:	シナノノダケ	<i>Angelica sinanomontana</i>	CR
第4次 2015:	シナノノダケ	<i>Angelica sinanomontana</i>	CR
第4次:	シナノノダケ	<i>Angelica sinanomontana</i>	CR
第3次:	シナノノダケ	<i>Angelica sinanomontana</i>	CR
第2次:	シナノノダケ	<i>Angelica sinanomontana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Angelica sinanomontana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Angelica sinanomontana* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フジワラサイコ

*Bupleurum quadriradiatum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ホタルサイコに似るが、地下に走出枝を出し、根出葉が小さく、葉が細い。花期は 7 月で、ホタルサイコよりかなり早い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩地の落葉広葉樹林林床に生育。

【分布域】

三重県（藤原岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

狭い範囲に 7~8 の小群落があるが、開花個体数は全部合わせても 10 を僅かに超える程度である。ニホンジカによる食害が進行しており、将来の石灰岩採掘による生育地破壊も懸念される。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[CR]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 市川正人・角田赴宏・渡邊幹男・常木静香・芹沢俊介, 2015. *Bupleurum quadriradiatum*（セリ科）の再発見. シデコブシ, 3: 5-10.
- 北川政夫, 1964. 東亜植物断想録(17). 植物研究雑誌, 39: 250-254.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Bupleurum quadriradiatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Bupleurum quadriradiatum* is listed as CR under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバハナウド

Heracleum lanatum subsp. *akasimontanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 E

10 年間の絶滅確率が 50%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハナウドの変種で、小葉が細長い。

【生活史】

大形の多年草。

【生育環境】

亜高山帯の溪流沿いに生育する。

【分布域】

南アルプスに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では数十個体のみが確認された。2 メッシュが森林伐採によって未発見であった。シカによる摂食の影響が懸念されていた。基準 E により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	—	2	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバハナウド	<i>Heracleum lanatum</i> subsp. <i>akasimontanum</i>	CR
第4次 2019:	ホソバハナウド	<i>Heracleum lanatum</i> subsp. <i>akasimontanum</i>	CR
第4次 2018:	ホソバハナウド	<i>Heracleum lanatum</i> subsp. <i>akasimontanum</i>	CR
第4次 2017:	ホソバハナウド	<i>Heracleum lanatum</i> subsp. <i>akasimontanum</i>	CR
第4次 2015:	ホソバハナウド	<i>Heracleum lanatum</i> subsp. <i>akasimontanum</i>	CR
第4次:	ホソバハナウド	<i>Heracleum lanatum</i> subsp. <i>akasimontanum</i>	CR
第3次:	ホソバハナウド	<i>Heracleum lanatum</i> subsp. <i>akasimontanum</i>	EN
第2次:	ホソバハナウド	<i>Heracleum dulce</i> var. <i>akasimontanum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018. 2018 山梨県レッドデータブック. 山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Heracleum lanatum subsp. *akasimontanum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Heracleum lanatum* subsp. *akasimontanum* is listed as CR under criteria E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 50% within 10 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾノハクサンボウフウ

Peucedanum multivittatum var. *linearilobum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハクサンボウフウの典型変種に比べ、葉の裂片が細い。

【生活史】

花期は 8 月。

【生育環境】

明るい草地に生育。

【分布域】

北海道アポイ岳に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

エゾジカの採食によって減少し、開花個体はほとんど見られない状態に至っている。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Peucedanum multivittatum var. *linearilobum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Peucedanum multivittatum* var. *linearilobum* is listed as CR under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae セリ科 Apiaceae/Umbelliferae

キイウマノミツバ

Sanicula lamelligera var. *wakayamensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒメウマノミツバの変種で、葉の側片が浅く切れている。

【生活史】

多年生草本。

【生育環境】

湿度と照度が保たれた常緑樹林内の林床に生育する。

【分布域】

和歌山県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定されたが、個体数を過大に推定していると考えられる。基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 管理放棄	産地局限	不明
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キイウマノミツバ	<i>Sanicula lamelligera</i> var. <i>wakayamensis</i>	CR
第4次 2019:	キイウマノミツバ	<i>Sanicula lamelligera</i> var. <i>wakayamensis</i>	CR
第4次 2018:	キイウマノミツバ	<i>Sanicula lamelligera</i> var. <i>wakayamensis</i>	CR
第4次 2017:	キイウマノミツバ	<i>Sanicula lamelligera</i> var. <i>wakayamensis</i>	CR
第4次 2015:	キイウマノミツバ	<i>Sanicula lamelligera</i> var. <i>wakayamensis</i>	CR
第4次:	キイウマノミツバ	<i>Sanicula lamelligera</i> var. <i>wakayamensis</i>	CR
第3次:	キイウマノミツバ	<i>Sanicula lamelligera</i> var. <i>wakayamensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.
- 和歌山県環境生活部環境生活総務課，2022. 保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック— 2022 年改訂版. 和歌山県環境生活部環境生活総務課，783pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sanicula lamelligera var. *wakayamensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sanicula lamelligera* var. *wakayamensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	Abandonment of management, Limited distribution, Unknown

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae セリ科 Apiaceae/Umbelliferae

ツシマノダケ

Tilingia tsusimensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-50 cm。茎の上部は分枝する。小葉は長さ 1-3 cm で少数の鋸歯がある。複散形花序をつけ、花弁は白色。萼歯片は目立たない。果実は広卵形で翼は発達しない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育する。

【分布域】

九州（対馬）に分布。国外では朝鮮半島南部に分布するとされる。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。50 個体未満と推定されることから、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2000 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	—	0	1	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツシマノダケ	<i>Tilingia tsusimensis</i>	EN
第4次 2019:	ツシマノダケ	<i>Tilingia tsusimensis</i>	EN
第4次 2018:	ツシマノダケ	<i>Tilingia tsusimensis</i>	EN
第4次 2017:	ツシマノダケ	<i>Tilingia tsusimensis</i>	EN
第4次 2015:	ツシマノダケ	<i>Tilingia tsusimensis</i>	EN
第4次:	ツシマノダケ	<i>Tilingia tsusimensis</i>	EN
第3次:	ツシマノダケ	<i>Tilingia tsusimensis</i>	NT
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tilingia tsusimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tilingia tsusimensis* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

チシマヒカゲノカズラ

Lycopodium alpinum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐茎と直立茎があり、いずれも二叉分枝。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、二形性があり、長さ 4.1-4.9 mm (直立茎)、2.5-3.7 mm (匍匐茎)、披針形、鋭尖頭、全縁、葉の色は濃黄緑色。孢子囊穂は直立茎の先端に 1~2 個つき、長さ 1.2-1.9 cm。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

コケの生えている斜面や日当たりの良い場所、やや酸性の土壌などに生育する。

【分布域】

北海道、本州（福井県以東）に分布。国外では、ロシア（極東）、中央アジア、朝鮮、中国、モンゴル、ヨーロッパ、北米（北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では同定上の問題があり、タカネヒカゲカズラと混同されていた。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	1	1	0	0	0	5	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チシマヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium alpinum</i>	EN
第4次 2019:	チシマヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium alpinum</i>	EN
第4次 2018:	チシマヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium alpinum</i>	EN
第4次 2017:	チシマヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium alpinum</i>	EN
第4次 2015:	チシマヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium alpinum</i>	EN
第4次:	チシマヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium alpinum</i>	EN
第3次:	チシマヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium alpinum</i>	EN
第2次:	チシマヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium alpinum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 栃木県[要注目] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[情報不足] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lycopodium alpinum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lycopodium alpinum is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヨウラクヒバ

Phlegmariurus phlegmaria

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は疎らに二叉分枝しながら垂下。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、二形性があり、長さ 9.2-11 mm、広披針形、鋭頭、全縁、葉の色は濃黄緑色。孢子嚢は茎の先端につき、孢子嚢穂の長さ 4.1-9.9 cm。

【生活史】

常緑。着生（樹上）。

【生育環境】

山林中に生育する。

【分布域】

琉球列島に分布。国外では、中国、台湾、南アジア、東南アジア、オーストラリア、南太平洋、南米に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では個体数は過小評価、減少率は過大評価とされた。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
11	4	0	0	0	0	15	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヨウラクヒバ	<i>Lycopodium phlegmaria</i>	EN
第4次 2019:	ヨウラクヒバ	<i>Lycopodium phlegmaria</i>	EN
第4次 2018:	ヨウラクヒバ	<i>Lycopodium phlegmaria</i>	EN
第4次 2017:	ヨウラクヒバ	<i>Lycopodium phlegmaria</i>	EN
第4次 2015:	ヨウラクヒバ	<i>Lycopodium phlegmaria</i>	EN
第4次:	ヨウラクヒバ	<i>Lycopodium phlegmaria</i>	EN
第3次:	ヨウラクヒバ	<i>Lycopodium phlegmaria</i>	EN
第2次:	ヨウラクヒバ	<i>Lycopodium phlegmaria</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Phlegmariurus phlegmaria has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Phlegmariurus phlegmaria* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒモラン

Phlegmariurus sieboldii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 D
推定成熟個体数が 250 個体未満。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は疎らに二叉分枝しながら垂下。葉は 1 本の単条の脈をもつ小葉で、二形性はなく、長さ 2.6-3.1 mm、披針形、鋭頭～鋭尖頭、全縁、葉の色は濃黄緑色。孢子囊穂をつくらない。

【生活史】

常緑。着生（樹上）／岩上生。

【生育環境】

山林中の樹幹や岩の上に生育する。

【分布域】

本州（伊豆半島以西）、四国、九州、琉球列島（沖縄島以北）に分布。国外では、朝鮮（済州島）、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	1	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	園芸採取	土地造成
件数	2	1

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	EN
第4次 2019:	ヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	EN
第4次 2018:	ヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	EN
第4次 2017:	ヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	EN
第4次 2015:	ヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	EN
第4次:	ヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	EN
第3次:	ヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i>	EN
第2次:	ヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅(EX)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅種] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Phlegmariurus sieboldii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Phlegmariurus sieboldii is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオバシナミズニラ

Isoetes coreana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定成熟個体数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

塊茎は直径 1.3-2.1 m、底部は 3 裂。葉は 1 本の単条の脈をもつ線形の小葉で、長さ 17-22 cm。大孢子は、直径 375-538 μm で鶏冠状周皮。小孢子は、直径 28-38 μm で刺状周皮。シナミズニラとの区別には、顕微鏡で小孢子のサイズを調べる必要がある（オオバシナミズニラの小孢子は直径 30 μm 以上になり、シナミズニラよりのものも大きい）。6 倍体種。

【生活史】

水生（抽水性～沈水性）。夏緑。

【生育環境】

ため池や湿地に生育する。

【分布域】

本州（茨城県・長野県・兵庫県以西）・四国・九州、朝鮮。福岡・大分・宮崎の各県ではシナミズニラと分布が重なるが、混生地は知られていない。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、9 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	3	2	2	0	0	9	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	水質汚濁	その他

管理放棄		
件数 5	4	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオバシナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i> var. <i>coreana</i>	EN
第4次 2019:	オオバシナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i> var. <i>coreana</i>	EN
第4次 2018:	オオバシナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i> var. <i>coreana</i>	EN
第4次 2017:	オオバシナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i> var. <i>coreana</i>	EN
第4次 2015:	オオバシナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i> var. <i>coreana</i>	EN
第4次:	オオバシナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i> var. <i>coreana</i>	EN
第3次:	オオバシナミズニラ	<i>Isoetes sinensis</i> var. <i>coreana</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[情報不足②現状不明種] 長野県[情報不足(DD)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅱ類] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 角野康郎, 2014. ネイチャーガイド 日本の水草. 328pp. 文一総合出版, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Isoetes coreana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Isoetes*

coreana is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Abandonment of management, Water pollution, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イブリハナワラビ

*Botrychium microphyllum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。担孢子体と担栄養体が立体的につき、共通柄で支持される。担栄養体は、2 回羽状複生～3 回羽状複生、柄の長さ 4.9-8.4 cm、葉身長 5.2-8.5 cm、広五角形～広三角形、最終裂片の辺縁は不規則な微鋸歯縁、葉質は厚い革質、葉の色は淡緑色。担孢子体は、複穂状に分枝、柄の長さ 16-21 cm、孢子囊穂の長さ 6.6-11 cm。

【生活史】

冬緑。地上生。

【生育環境】

明るい林床や草原に生育する。

【分布域】

北海道、本州（青森県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。前回評価時から、新産地が発見された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イブリハナワラビ	<i>Botrychium microphyllum</i>	CR
第4次 2019:	イブリハナワラビ	<i>Botrychium microphyllum</i>	CR
第4次 2018:	イブリハナワラビ	<i>Botrychium microphyllum</i>	CR
第4次 2017:	イブリハナワラビ	<i>Botrychium microphyllum</i>	CR
第4次 2015:	イブリハナワラビ	<i>Botrychium microphyllum</i>	CR
第4次:	イブリハナワラビ	<i>Botrychium microphyllum</i>	CR
第3次:	イブリハナワラビ	<i>Botrychium microphyllum</i>	CR
第2次:	イブリハナワラビ	<i>Botrychium microphyllum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Botrychium microphyllum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Botrychium microphyllum is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤコジマハナワラビ

Helminthostachys zeylanica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。担孢子体と担栄養体が立体的につき、共通柄で支持される。担栄養体は、2 回 3 出複葉、ほぼ無柄、葉身長 18-26 cm、半円形～うちわ形、最終裂片の辺縁は不規則な細鋸歯縁、葉質は厚い紙質、葉の色は緑色。担孢子体は、穂状に分枝、柄の長さ 5.2-9.0 cm、孢子囊穂の長さ 4.3-11 cm。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

疎林の下のあまり乾燥していない場所に生育する。

【分布域】

琉球列島（沖永良部島以南）に分布。国外では、中国、台湾、南アジア、東南アジア、オーストラリア、南太平洋に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤコジマハナワラビ	<i>Helminthostachys zeylanica</i>	EN
第4次 2019:	ミヤコジマハナワラビ	<i>Helminthostachys zeylanica</i>	EN
第4次 2018:	ミヤコジマハナワラビ	<i>Helminthostachys zeylanica</i>	EN
第4次 2017:	ミヤコジマハナワラビ	<i>Helminthostachys zeylanica</i>	EN
第4次 2015:	ミヤコジマハナワラビ	<i>Helminthostachys zeylanica</i>	EN
第4次:	ミヤコジマハナワラビ	<i>Helminthostachys zeylanica</i>	EN
第3次:	ミヤコジマハナワラビ	<i>Helminthostachys zeylanica</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Helminthostachys zeylanica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Helminthostachys zeylanica* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サクラジマハナヤスリ

*Ophioglossum kawamurae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立（塊状）で根生不定芽を出す。栄養葉を欠く。担孢子体は、単葉（棒状）、胞子囊穂の長さ 0.3-0.6 cm。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

火山の溶岩原野に生育する。

【分布域】

本州（伊豆諸島青ヶ島）、九州（熊本県、鹿児島県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サクラジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum kawamurae</i>	EN
第4次 2019:	サクラジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum kawamurae</i>	EN
第4次 2018:	サクラジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum kawamurae</i>	EN
第4次 2017:	サクラジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum kawamurae</i>	EN
第4次 2015:	サクラジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum kawamurae</i>	EN
第4次:	サクラジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum kawamurae</i>	EN
第3次:	サクラジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum kawamurae</i>	EN
第2次:	サクラジマハナヤスリ	<i>Ophioglossum kawamurae</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[地域絶滅]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Ophioglossum kawamurae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ophioglossum kawamurae* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コブラン

Ophioglossum pendulum

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は直立（塊状）。担孢子体と担栄養体が立体的につき、共通柄で支持される。担栄養体は、単葉（稀に先端が二叉分岐）、柄は葉身と連続的、葉身長 26-47 cm、線形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は厚い肉質、葉の色は黄緑色。担孢子体は、単葉（棒状）、柄の長さ 3.1-4.6 cm、孢子囊穂の長さ 4.4-7.4 cm。

【生活史】

常緑。着生（樹上）。

【生育環境】

密林中の樹幹に生育する。

【分布域】

琉球列島、小笠原諸島（父島、母島）に分布。国外では、中国、台湾、インド（北東部）、スリランカ、東南アジア、オーストラリア、南太平洋、ハワイ、マダガスカルに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 自然遷移		

件数 4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コブラン	<i>Ophioglossum pendulum</i>	EN
第4次 2019:	コブラン	<i>Ophioglossum pendulum</i>	EN
第4次 2018:	コブラン	<i>Ophioglossum pendulum</i>	EN
第4次 2017:	コブラン	<i>Ophioglossum pendulum</i>	EN
第4次 2015:	コブラン	<i>Ophioglossum pendulum</i>	EN
第4次:	コブラン	<i>Ophioglossum pendulum</i>	EN
第3次:	コブラン	<i>Ophioglossum pendulum</i>	EN
第2次:	コブラン	<i>Ophioglossum pendulum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Ophioglossum pendulum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ophioglossum pendulum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンホラゴケ

*Crepidomanes bonincola***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は単葉（浅裂）、葉柄は長さ 0.1-0.3 mm、葉身は長さ 0.6-0.8 cm、うちわ形、最終裂片の辺縁は全縁（葉身は欠刻状）、葉の色は緑色。孢子嚢群は辺縁の脈端につき、倒釣鐘形、包膜はコップ状（唇部は全縁、明瞭に反転）、長さ 1.8-2.2 mm。

【生活史】

常緑で着生または岩上生。

【生育環境】

湿った岩や樹幹などに着生。

【分布域】

小笠原諸島（父島・母島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンホラゴケ	<i>Crepidomanes bonincola</i>	EN
第4次 2019:	ムニンホラゴケ	<i>Crepidomanes bonincola</i>	EN
第4次 2018:	ムニンホラゴケ	<i>Crepidomanes bonincola</i>	EN
第4次 2017:	ムニンホラゴケ	<i>Crepidomanes bonincola</i>	EN
第4次 2015:	ムニンホラゴケ	<i>Crepidomanes bonincola</i>	EN
第4次:	ムニンホラゴケ	<i>Crepidomanes bonincola</i>	EN
第3次:	ムニンホラゴケ	<i>Crepidomanes minutum</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024年9月6日閲覧).

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crepidomanes bonincola has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Crepidomanes bonincola is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミカワコケシノブ

*Hymenophyllum mikawanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は 2 回羽状深裂～3 回羽状深裂、5-8 対の側羽片があり、葉柄は長さ 0.9-2.7 cm、葉身は長さ 1.8-3.1 cm、卵状広披針形、最終裂片の辺縁は全縁、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片先端の脈端につき、三角状卵形、包膜は二弁状（唇部は歯牙縁）、長さ 1.6-2.1 mm。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

深山の林内、沢沿いの岩上に生育。

【分布域】

本州（静岡県・愛知県・岐阜県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 4 メッシュで計数十個体が現存とされたが、個体数過小評価とされた。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	0	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミカワコケシノブ	<i>Hymenophyllum mikawanum</i>	EN
第4次 2019:	ミカワコケシノブ	<i>Hymenophyllum mikawanum</i>	EN
第4次 2018:	ミカワコケシノブ	<i>Hymenophyllum mikawanum</i>	EN
第4次 2017:	ミカワコケシノブ	<i>Hymenophyllum mikawanum</i>	EN
第4次 2015:	ミカワコケシノブ	<i>Hymenophyllum mikawanum</i>	EN
第4次:	ミカワコケシノブ	<i>Hymenophyllum mikawanum</i>	EN
第3次:	ミカワコケシノブ	<i>Hymenophyllum mikawanum</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(本土部)[本土部:情報不足(DD)] 東京都(西多摩)[情報不足(DD)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 愛知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 愛知県環境調査センター, 2020. レッドデータブックあいち 2020—植物編—. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 810pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hymenophyllum mikawanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hymenophyllum mikawanum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20

years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シノブホラゴケ

Vandenboschia maxima

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐、よじ登る茎は長く匍匐。葉は 1 回羽状複生（孢子嚢群をつける部位は 2 回羽状深裂）、12-15 対の側羽片があり、葉柄は長さ 0.6-1.0 cm、葉身は長さ 20-25 cm、倒披針形、最終裂片の辺縁は全縁（羽片は欠刻状）、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片先端の脈端につき、狭倒三角形、包膜はコップ状（唇部は全縁、ほぼ切形）、長さ 1.4-1.7 mm。

【生活史】

常緑で崖地生または岩上生。

【生育環境】

森林内の湿った岩上や川沿いの砂上等に生育。

【分布域】

琉球列島（屋久島・沖縄島・西表島）、台湾・インド・東南アジア・南太平洋に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。産地と個体数が限られる。リュウキュウホラゴケの誤同定が多いと考えられ、真のシノブホラゴケの個体数はより少ないと推定される。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シノブホラゴケ	<i>Vandenboschia maxima</i>	EN
第4次 2019:	シノブホラゴケ	<i>Vandenboschia maxima</i>	EN
第4次 2018:	シノブホラゴケ	<i>Vandenboschia maxima</i>	EN
第4次 2017:	シノブホラゴケ	<i>Vandenboschia maxima</i>	EN
第4次 2015:	シノブホラゴケ	<i>Vandenboschia maxima</i>	EN
第4次:	シノブホラゴケ	<i>Vandenboschia maxima</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2016．日本産シダ植物標準図鑑 1．475pp．学研，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vandenboschia maxima has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Vandenboschia maxima is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カンザシワラビ

Schizaea dichotoma

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉には部分的に二形性があり、二叉分枝し、葉柄は不明瞭で最初の葉身分岐までの長さ 14-20 cm、扇形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は硬い紙質、葉の色は暗黄緑色。孢子嚢をつける裂片の長さ 2.0-4.6 mm。葉の中肋は明瞭で、背軸側に隆起する。偽包膜に褐色の毛（側糸）あり。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

やや乾燥した山地の林床に生育する。

【分布域】

琉球列島（奄美大島以南）に分布。国外では中国、台湾、東南アジア、インド、オーストラリア、南太平洋、マダガスカルに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カンザシワラビ	<i>Schizaea dichotoma</i>	EN
第4次 2019:	カンザシワラビ	<i>Schizaea dichotoma</i>	EN
第4次 2018:	カンザシワラビ	<i>Schizaea dichotoma</i>	EN
第4次 2017:	カンザシワラビ	<i>Schizaea dichotoma</i>	EN
第4次 2015:	カンザシワラビ	<i>Schizaea dichotoma</i>	EN
第4次:	カンザシワラビ	<i>Schizaea dichotoma</i>	EN
第3次:	カンザシワラビ	<i>Schizaea dichotoma</i>	EN
第2次:	カンザシワラビ	<i>Schizaea dichotoma</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Schizaea dichotoma has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Schizaea dichotoma* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオアカウキクサ

*Azolla japonica***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は水平に伸びながら分枝。葉は単葉で上下 2 裂片に分かれ、ほぼ無柄、葉身は長さ 1.0-1.3 mm、三角状楕円形、辺縁は全縁、葉質は薄い草質、葉の色は淡緑色、秋季に紅変する。孢子嚢果は下側（水中）の裂片につく。

【生活史】

夏緑で水生。

【生育環境】

池、溝、水田の表面に生育。

【分布域】

本州・四国・九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで絶滅し、6 メッシュで計数万個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	2	0	1	2	6	8	13

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 農薬汚染	水質汚濁	自然遷移
件数 4	3	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i>	EN
第4次 2019:	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i>	EN
第4次 2018:	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i>	EN
第4次 2017:	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i>	EN
第4次 2015:	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i>	EN
第4次:	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i>	EN
第3次:	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i>	VU
第2次:	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

秋田県[絶滅種(EX)] 山形県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 栃木県[要注目] 群馬県[絶滅(EX)] 埼玉県[絶滅(EX)] 千葉県[要保護生物(C)] 東京都(本土部)[区部:情報不足(DD) 本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(北多摩)[絶滅(EX)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅(EX)] 神奈川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 岐阜県[情報不足] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[NT] 滋賀県[希少種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[EX] 兵庫県[Aランク] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 鳥取県[絶滅(EX)] 島根県[準絶滅危惧(NT)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[準絶滅危惧(NT)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 福岡県[絶滅] 長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[情報不足(DD)] 大分県[情報不足(DD)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Azolla japonica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Azolla japonica* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Pesticide pollution, Water pollution, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アカウキクサ

Azolla pinnata subsp. *asiatica*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は水平に伸びながら分枝。葉は単葉で上下 2 裂片に分かれ、ほぼ無柄、葉身は長さ 0.9-1.2 mm、三角状楕円形、辺縁は全縁、葉質は薄い草質、葉の色は淡緑色、冬季に紅変する。孢子嚢果は下側（水中）の裂片につく。

【生活史】

常緑で水生。

【生育環境】

池、溝、水田の表面に生育。

【分布域】

本州（関東地方以西）・四国・九州・琉球列島、朝鮮・中国・台湾・南アジア・東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで絶滅し、7 メッシュで計数万個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	2	0	4	7	8	7

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 農薬汚染	自然遷移	水質汚濁
件数	5	4

7		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アカウキクサ	<i>Azolla imbricata</i>	EN
第4次 2019:	アカウキクサ	<i>Azolla imbricata</i>	EN
第4次 2018:	アカウキクサ	<i>Azolla imbricata</i>	EN
第4次 2017:	アカウキクサ	<i>Azolla imbricata</i>	EN
第4次 2015:	アカウキクサ	<i>Azolla imbricata</i>	EN
第4次:	アカウキクサ	<i>Azolla imbricata</i>	EN
第3次:	アカウキクサ	<i>Azolla imbricata</i>	VU
第2次:	アカウキクサ	<i>Azolla imbricata</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

埼玉県[情報不足(DD)] 神奈川県[絶滅(EX)] 岐阜県[情報不足] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[EX] 滋賀県[要注目種] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[EX] 兵庫県[Aランク] 奈良県[絶滅種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 広島県[準絶滅危惧(NT)] 山口県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 高知県[準絶滅危惧(NT)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-d)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Azolla pinnata subsp. *asiatica* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Azolla pinnata subsp. *asiatica* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Pesticide pollution, Natural succession, Water pollution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナンゴクデンジソウ

Marsilea minuta

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は二形性がある。葉は 4 小葉から成る複葉で、葉柄は長さ 5.8-11 cm、葉身の全体形状は四角形状、小葉は長さ 1.1-1.5 cm、辺縁は全縁、葉質は草質、葉の色は淡緑色～暗黄緑色。孢子嚢果の柄は葉柄の基部から出て楕円体形の孢子嚢果が 1-2 個つき、長さ 3.4-4.6 mm。

【生活史】

常緑。水生（抽水性、浮葉性）。

【生育環境】

水田の泥土上に生育する。

【分布域】

九州（福岡県、鹿児島県）、琉球列島に分布。世界的には、旧世界の熱帯、亜熱帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナンゴクデンジソウ	<i>Marsilea crenata</i>	EN
第4次 2019:	ナンゴクデンジソウ	<i>Marsilea crenata</i>	EN
第4次 2018:	ナンゴクデンジソウ	<i>Marsilea crenata</i>	EN
第4次 2017:	ナンゴクデンジソウ	<i>Marsilea crenata</i>	EN
第4次 2015:	ナンゴクデンジソウ	<i>Marsilea crenata</i>	EN
第4次:	ナンゴクデンジソウ	<i>Marsilea crenata</i>	EN
第3次:	ナンゴクデンジソウ	<i>Marsilea crenata</i>	EN
第2次:	ナンゴクデンジソウ	<i>Marsilea crenata</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Marsilea minuta has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Marsilea minuta* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

メヘゴ

Cyathea ogurae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立（木生になり、高さ 3 m に達する）。葉の切れ込みは 3 回羽状浅裂～深裂、14-17 対の側羽片があり、葉柄は長さ最大 1 m 以上、葉身は長さ 2 m 以上、卵状楕円形～倒卵状楕円形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁、葉質は紙質、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間～やや中肋寄りにつき、円形、直径 0.9-1.1 mm、包膜はなし。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

林内の沢沿いなど、湿潤な場所に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（父島、母島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	メヘゴ	<i>Cyathea ogurae</i>	EN
第4次 2019:	メヘゴ	<i>Cyathea ogurae</i>	EN
第4次 2018:	メヘゴ	<i>Cyathea ogurae</i>	EN
第4次 2017:	メヘゴ	<i>Cyathea ogurae</i>	EN
第4次 2015:	メヘゴ	<i>Cyathea ogurae</i>	EN
第4次:	メヘゴ	<i>Cyathea ogurae</i>	EN
第3次:	メヘゴ	<i>Cyathea ogurae</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Cyathea ogurae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cyathea ogurae* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウチワホングウシダ

Lindsaea simulans

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は 1 回羽状複生、12-17 対の側羽片があり、葉柄は長さ 6.5-14 cm、葉身は長さ 8.8-14 cm、披針形、最終裂片の辺縁は孢子嚢群のつく箇所は歯牙縁、先端側は粗い歯牙縁、他は全縁、葉質は薄い革質、葉の色は黄緑色。孢子嚢群は裂片の先端側、辺縁から約 0.7-1.0 mm 内側（多数の脈端を連ねる）につき、包膜の辺縁は波状縁～歯牙縁。中国ではマルバホングウシダと区別されないことが多いが、孢子嚢群が片縁からやや内側に寄ってつくことで認識は難しくない。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

常緑林内や竹林内の溪流沿い、崖状の場所などに生育する。

【分布域】

四国（高知県）・九州（熊本県・鹿児島県）・琉球列島（沖縄島以北）、中国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	2	0	0	5	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	産地局限	その他

自然遷移		
件数		
1	1	1

特記事項

本種の学名は有効に出版されているが、命名規約の要件を完全には満たさないため、非適法名（invalid name）である。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウチワホングウシダ	<i>Lindsaea simulans</i>	EN
第4次 2019:	ウチワホングウシダ	<i>Lindsaea simulans</i>	EN
第4次 2018:	ウチワホングウシダ	<i>Lindsaea simulans</i>	EN
第4次 2017:	ウチワホングウシダ	<i>Lindsaea simulans</i>	EN
第4次 2015:	ウチワホングウシダ	<i>Lindsaea simulans</i>	EN
第4次:	ウチワホングウシダ	<i>Lindsaea simulans</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]
鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会, 2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課, 229pp.

- Delectis Florae Reipublicae Popularis Sinicae Aqendae Academiae Sinicae Edita, 1959. Flora Reipublicae Popularis Sinicae, 2: 371. Science Press, Beijing.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lindsaea simulans has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lindsaea simulans* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月: 2025 年 3 月

ミミモチシダ

Acrostichum aureum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は部分二形性。葉は 1 回羽状複葉、9-12 対の側羽片があり、葉柄は長さ 40-130 cm、葉身は長さ 50-130 cm、長楕円形～狭長楕円形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は厚い革質、葉の色は淡黄緑色。孢子嚢群は上部の羽片の裏面全体につく。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

日当たりのよいマングローブ湿地に生育。

【分布域】

琉球列島（八重山諸島）、世界の熱帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	2	0	0	—	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミミモチシダ	<i>Acrostichum aureum</i>	EN
第4次 2019:	ミミモチシダ	<i>Acrostichum aureum</i>	EN
第4次 2018:	ミミモチシダ	<i>Acrostichum aureum</i>	EN
第4次 2017:	ミミモチシダ	<i>Acrostichum aureum</i>	EN
第4次 2015:	ミミモチシダ	<i>Acrostichum aureum</i>	EN
第4次:	ミミモチシダ	<i>Acrostichum aureum</i>	EN
第3次:	ミミモチシダ	<i>Acrostichum aureum</i>	EN
第2次:	ミミモチシダ	<i>Acrostichum aureum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Acrostichum aureum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Acrostichum aureum* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホウライクジャク

Adiantum capillus-junonis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は 1 回羽状複生、5-8 対の側羽片があり、葉柄は長さ 3.2-4.8 cm、葉身は長さ 15-22 cm、狭披針形、最終裂片の辺縁は前側は波状縁～欠刻縁、他は全縁、葉質は薄い草質、葉の色は緑色～鮮緑色。孢子嚢群は羽片の辺縁につき、扁円形、長さ 0.9-1.1 mm。

【生活史】

夏緑で岩上生。

【生育環境】

石灰岩上に生育。

【分布域】

九州（大分県）、朝鮮・中国・台湾・タイに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数百個体が確認された。石灰岩の採掘、道路工事、園芸用の採取により絶滅するおそれがあるとされた。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホウライクジャク	<i>Adiantum capillus-junonis</i>	EN
第4次 2019:	ホウライクジャク	<i>Adiantum capillus-junonis</i>	EN
第4次 2018:	ホウライクジャク	<i>Adiantum capillus-junonis</i>	EN
第4次 2017:	ホウライクジャク	<i>Adiantum capillus-junonis</i>	EN
第4次 2015:	ホウライクジャク	<i>Adiantum capillus-junonis</i>	EN
第4次:	ホウライクジャク	<i>Adiantum capillus-junonis</i>	EN
第3次:	ホウライクジャク	<i>Adiantum capillus-junonis</i>	EN
第2次:	ホウライクジャク	<i>Adiantum capillus-junonis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Adiantum capillus-junonis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Adiantum capillus-junonis is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オトメクジャク

Adiantum edgeworthii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 1 回羽状複生、16-25 対の側羽片があり、葉柄は長さ 7.3-12 cm、葉身は長さ 12-26 cm、狭披針形、最終裂片の辺縁は前側は鈍鋸歯縁、他は全縁、葉質は薄い紙質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は羽片の辺縁につき、扁円形、長さ 0.9-1.2 mm。

【生活史】

常緑で崖地生。

【生育環境】

日当たりのよい山地の岩上に生育。

【分布域】

九州（大分県）、中国・台湾・南アジア・東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数百個体が現存と推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	2	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オトメクジャク	<i>Adiantum edgeworthii</i>	EN
第4次 2019:	オトメクジャク	<i>Adiantum edgeworthii</i>	EN
第4次 2018:	オトメクジャク	<i>Adiantum edgeworthii</i>	EN
第4次 2017:	オトメクジャク	<i>Adiantum edgeworthii</i>	EN
第4次 2015:	オトメクジャク	<i>Adiantum edgeworthii</i>	EN
第4次:	オトメクジャク	<i>Adiantum edgeworthii</i>	EN
第3次:	オトメクジャク	<i>Adiantum edgeworthii</i>	EN
第2次:	オトメクジャク	<i>Adiantum edgeworthii</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Adiantum edgeworthii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Adiantum edgeworthii* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンアマクサシダ

Pteris formosana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状深裂（羽片下側は切れ込まない）、12-15 対の側羽片があり、葉柄は長さ 34-52 cm、葉身は長さ 52-79 cm、卵状長楕円形、最終裂片の辺縁は全縁～波状縁、葉質はしなやかな革質、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁につき、線形。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

山麓の林縁に生育。

【分布域】

琉球列島（徳之島）、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾アマクサシダ	<i>Pteris formosana</i>	CR
第4次 2019:	台湾アマクサシダ	<i>Pteris formosana</i>	CR
第4次 2018:	台湾アマクサシダ	<i>Pteris formosana</i>	CR
第4次 2017:	台湾アマクサシダ	<i>Pteris formosana</i>	CR
第4次 2015:	台湾アマクサシダ	<i>Pteris formosana</i>	CR
第4次:	台湾アマクサシダ	<i>Pteris formosana</i>	CR
第3次:	台湾アマクサシダ	<i>Pteris formosana</i>	CR
第2次:	台湾アマクサシダ	<i>Pteris formosana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pteris formosana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pteris formosana* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒノタニシダ

Pteris maclurei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状深裂、4-6 対の側羽片があり、葉柄は長さ 29-37 cm、葉身は長さ 41-53 cm、卵状楕円形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は黄緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁につき、線形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

森林内の谷間に生育。

【分布域】

九州（鹿児島県）、中国（南部）・ベトナムに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では 1 メッシュで現存が確認され、現存個体数は数千個体と推定される。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒノタニシダ	<i>Pteris nakasimae</i>	EN
第4次 2019:	ヒノタニシダ	<i>Pteris nakasimae</i>	EN
第4次 2018:	ヒノタニシダ	<i>Pteris nakasimae</i>	EN
第4次 2017:	ヒノタニシダ	<i>Pteris nakasimae</i>	EN
第4次 2015:	ヒノタニシダ	<i>Pteris nakasimae</i>	EN
第4次:	ヒノタニシダ	<i>Pteris nakasimae</i>	EN
第3次:	ヒノタニシダ	<i>Pteris nakasimae</i>	EN
第2次:	ヒノタニシダ	<i>Pteris nakasimae</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pteris maclurei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pteris maclurei* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20

years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トゲハチジョウシダ

Pteris setulosocostulata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D+C

推定成熟個体数が 250 個体未満/推定成熟個体数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状全裂（最下羽片基部 2-4 個の下向き小羽片のみ 3 回羽状）、9-10 対の側羽片があり、葉柄は長さ 35-51 cm、葉身は長さ 37-46 cm、三角状卵形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は草質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁につき、線形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

溪流沿いのよく茂った森林の林床に生育。

【分布域】

屋久島、中国・フィリピン・南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。屋久島でシカ食害によって半数以下に減少した。基準 D と基準 C により CR とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トゲハチジョウシダ	<i>Pteris setulosocostulata</i>	EN
第4次 2019:	トゲハチジョウシダ	<i>Pteris setulosocostulata</i>	EN
第4次 2018:	トゲハチジョウシダ	<i>Pteris setulosocostulata</i>	EN
第4次 2017:	トゲハチジョウシダ	<i>Pteris setulosocostulata</i>	EN
第4次 2015:	トゲハチジョウシダ	<i>Pteris setulosocostulata</i>	EN
第4次:	トゲハチジョウシダ	<i>Pteris setulosocostulata</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pteris setulosocostulata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Pteris setulosocostulata is listed as EN under criteria D+C.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会

Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒカゲアマクサシダ

Pteris tokioi

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状深裂～全裂、4-5 対の側羽片があり、葉柄は長さ 62-78 cm、葉身は長さ 46-59 cm、卵状長楕円形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は黄緑色。孢子嚢群は裂片の辺縁につき、線形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の森林中に生育。

【分布域】

本州（三重県）・四国（高知県）・九州（長崎県福江島・宮崎県・鹿児島県）・屋久島・種子島、中国・台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	1	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	その他
件数	1	1

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒカゲアマクサシダ	<i>Pteris tokioi</i>	EN
第4次 2019:	ヒカゲアマクサシダ	<i>Pteris tokioi</i>	EN
第4次 2018:	ヒカゲアマクサシダ	<i>Pteris tokioi</i>	EN
第4次 2017:	ヒカゲアマクサシダ	<i>Pteris tokioi</i>	EN
第4次 2015:	ヒカゲアマクサシダ	<i>Pteris tokioi</i>	EN
第4次:	ヒカゲアマクサシダ	<i>Pteris tokioi</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pteris tokioi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pteris tokioi* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメイノモトソウ

*Pteris yamatensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は二形性がある。孢子葉は 1-2 回羽状複生、1 対の側羽片があり、葉柄は長さ 7.6-13 cm、葉身は長さ 14-30 cm、狭長楕円形、最終裂片の辺縁は反転して偽包膜となる。栄養葉は 1-2 回羽状複生、1 対の側羽片があり、葉柄は長さ 2.1-6.5 cm、葉身は長さ 6-17 cm、卵形～狭卵形、最終裂片の辺縁は硬い鋸歯縁。葉質は薄い紙質、葉の色は黄緑色。孢子嚢群は孢子葉の羽片の辺縁につき、線形。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

向陽の山地の岩上や路傍の石垣に生育。

【分布域】

本州（奈良県・三重県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 71%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	

件数		
1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメイノモトソウ	<i>Pteris yamatensis</i>	EN
第4次 2019:	ヒメイノモトソウ	<i>Pteris yamatensis</i>	EN
第4次 2018:	ヒメイノモトソウ	<i>Pteris yamatensis</i>	EN
第4次 2017:	ヒメイノモトソウ	<i>Pteris yamatensis</i>	EN
第4次 2015:	ヒメイノモトソウ	<i>Pteris yamatensis</i>	EN
第4次:	ヒメイノモトソウ	<i>Pteris yamatensis</i>	EN
第3次:	ヒメイノモトソウ	<i>Pteris yamatensis</i>	CR
第2次:	ヒメイノモトソウ	<i>Pteris yamatensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 奈良県[絶滅寸前種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Pteris yamatensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pteris yamatensis* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメムカゴシダ

*Monachosorum x arakii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 3 回羽状複生～4 回羽状深裂、29-33 対の側羽片があり、葉柄は長さ 32-49 cm、葉身は長さ 47-56 cm、三角状卵形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁、葉の色は淡緑色、葉質は薄い草質。孢子嚢群は裂片の辺縁からわずかに内側につき、円形。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の林下に生育。

【分布域】

本州（中部地方以西）・四国（徳島県・高知県）・九州（熊本県・鹿児島県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 63%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	1	1	2	0	0	8	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	園芸採取	自然遷移
件数 4	2	2

特記事項

日本に分布しないムカゴシダ *Monachosorum henryi* とオオフジシダの不稔性種間雑種で、遺存的に分布していることが推定されている(Ebihara et al. 2016)。葉に生じるムカゴによる栄養繁殖で維持されている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメムカゴシダ	<i>Monachosorum arakii</i>	EN
第4次 2019:	ヒメムカゴシダ	<i>Monachosorum arakii</i>	EN
第4次 2018:	ヒメムカゴシダ	<i>Monachosorum arakii</i>	EN
第4次 2017:	ヒメムカゴシダ	<i>Monachosorum arakii</i>	EN
第4次 2015:	ヒメムカゴシダ	<i>Monachosorum arakii</i>	EN
第4次:	ヒメムカゴシダ	<i>Monachosorum arakii</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 三重県[CR] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[Aランク] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.
- Ebihara, A., N. Nakato, V. B. Amoroso, A. Hidayat and L.-Y. Kuo, 2016. *Monachosorum arakii* Tagawa (Dennstaedtiaceae) is a relict "international" hybrid: A reassessment of the *Monachosorum* species. Systematic Botany, 41: 586-595.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Monachosorum x arakii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Monachosorum x arakii is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Deer feeding damage, Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マキノシダ

Asplenium formosae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉の切れ込みは 1 回羽状複生、4-6 対の側羽片があり、葉柄は長さ 28-34 cm、葉身は長さ 30-39 cm、三角状卵形、最終裂片の辺縁は波状縁、葉質は柔らかい革質、葉の色は緑色。孢子嚢群は羽片のやや中肋寄りにつき、線形、長さ 4.6-8.9 mm。

【生活史】

常緑。岩上生。

【生育環境】

山地林内の溪流沿いに生育する。

【分布域】

琉球列島（石垣島）に分布。国外では、中国（広東省、海南島）、台湾、ベトナムに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が報告された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	3	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マキノシダ	<i>Asplenium formosae</i>	EN
第4次 2019:	マキノシダ	<i>Asplenium formosae</i>	EN
第4次 2018:	マキノシダ	<i>Asplenium formosae</i>	EN
第4次 2017:	マキノシダ	<i>Asplenium formosae</i>	EN
第4次 2015:	マキノシダ	<i>Asplenium formosae</i>	EN
第4次:	マキノシダ	<i>Asplenium formosae</i>	EN
第3次:	マキノシダ	<i>Asplenium formosae</i>	EN
第2次:	マキノシダ	<i>Asplenium loriceum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 1. 475pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Asplenium formosae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asplenium formosae* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホソバシケチシダ

Athyrium nudum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 3 回羽状深裂、19-22 対の側羽片があり、葉柄は長さ 20-25 cm、葉身は長さ 30-36 cm、三角形～三角状卵形、小羽片の縁辺は鈍鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は鮮緑色（裏面は淡緑色～白味を帯びた緑色）。孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間～やや中肋寄りにつき、円形～楕円形、長さ 0.6-0.7 mm、包膜は欠く。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

山地の陰湿な林床、山頂部雲霧林内に生育する。

【分布域】

屋久島・小笠原諸島（南硫黄島）、台湾・南アジア・フィリピン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では新たに個体群が確認されたとの情報があった。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	1	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホソバシケチシダ	<i>Cornopteris banajaoensis</i>	EN
第4次 2019:	ホソバシケチシダ	<i>Cornopteris banajaoensis</i>	EN
第4次 2018:	ホソバシケチシダ	<i>Cornopteris banajaoensis</i>	EN
第4次 2017:	ホソバシケチシダ	<i>Cornopteris banajaoensis</i>	EN
第4次 2015:	ホソバシケチシダ	<i>Cornopteris banajaoensis</i>	EN
第4次:	ホソバシケチシダ	<i>Cornopteris banajaoensis</i>	EN
第3次:	ホソバシケチシダ	<i>Cornopteris banajaoensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024 年 9 月 6 日閲覧).
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Athyrium nudum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Athyrium*

<i>nudum</i> is listed as EN under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コモチヌワラビ

Athyrium strigillosum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は 2 回羽状複生～3 回羽状深裂、20-26 対の側羽片があり、葉柄は長さ 13-19 cm、葉身は長さ 26-43 cm、長楕円状披針形、小羽片の辺縁は深い鋸歯縁（～浅裂）、葉質は草質、葉の色は鮮緑色～淡緑色。胞子嚢群は裂片の中肋寄りにつき、長楕円形、長さ 1.6-1.9 mm、包膜は長楕円形、包膜の辺縁はほぼ全縁。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

林内の溪流辺の湿った立地に生育する。

【分布域】

九州（熊本県・大分県）、中国・台湾・南アジア。標本が確認できないが、屋久島からも報告がある。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コモチヌワラビ	<i>Athyrium strigillosum</i>	EN
第4次 2019:	コモチヌワラビ	<i>Athyrium strigillosum</i>	EN
第4次 2018:	コモチヌワラビ	<i>Athyrium strigillosum</i>	EN
第4次 2017:	コモチヌワラビ	<i>Athyrium strigillosum</i>	EN
第4次 2015:	コモチヌワラビ	<i>Athyrium strigillosum</i>	EN
第4次:	コモチヌワラビ	<i>Athyrium strigillosum</i>	EN
第3次:	コモチヌワラビ	<i>Athyrium strigillosum</i>	CR
第2次:	コモチヌワラビ	<i>Athyrium strigillosum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.
- 大分県自然環境学術調査会, 2022. レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—. <https://www.rdb-oita.jp/> (2024年9月5日閲覧).
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Athyrium strigillosum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Athyrium strigillosum is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホウライイヌワラビ

Athyrium subrigescens

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 2 回羽状複生～3 回羽状深裂、24-27 対の側羽片があり、葉柄は長さ 20-26 cm、葉身は長さ 34-42 cm、卵状楕円形（下部羽片はやや下向き）、小羽片の辺縁は波状縁～鈍鋸歯縁、葉質はやや硬い草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は裂片の中肋寄りにつき、長楕円形、長さ 1.6-2.2 mm、包膜は長楕円形、包膜の辺縁は波状縁～不規則な浅い突起縁。ケホウライイヌワラビ f. *pubigerum* Sa. Kurata は葉軸・羽軸が有毛の型。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

常緑林内の溪流辺など陰湿な立地に生育する。

【分布域】

本州（山口県）・九州、屋久島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	1	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハウライイヌワラビ	<i>Athyrium subrigescens</i>	EN
第4次 2019:	ハウライイヌワラビ	<i>Athyrium subrigescens</i>	EN
第4次 2018:	ハウライイヌワラビ	<i>Athyrium subrigescens</i>	EN
第4次 2017:	ハウライイヌワラビ	<i>Athyrium subrigescens</i>	EN
第4次 2015:	ハウライイヌワラビ	<i>Athyrium subrigescens</i>	EN
第4次:	ハウライイヌワラビ	<i>Athyrium subrigescens</i>	EN
第3次:	ハウライイヌワラビ	<i>Athyrium subrigescens</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山口県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 山口県環境生活部自然保護課，2019．レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物．<https://www.yamaguchi-rdb.com/site/index.php>（2024年9月6日閲覧）．
- 熊本県希少野生動植物検討委員会，2019．レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—．熊本県環境生活部自然保護課，632pp．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Athyrium subrigescens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Athyrium subrigescens is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマイヌワラビ

Athyrium tozanense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 2 回羽状複生～3 回羽状浅裂、20-21 対の側羽片があり、葉柄は長さ 12-15 cm、葉身は長さ 16-20 cm、長楕円状披針形、小羽片の縁辺は鋸歯縁（～浅裂）、葉質は草質、葉の色は黄緑色～淡緑色。孢子嚢群は裂片の中肋より（ほぼ中肋に接する）につき、長楕円形、長さ 1.3-1.7 mm、包膜は長楕円形、包膜の辺縁は不規則な突起縁。羽軸・小羽片の中肋向軸側に顕著な刺状突起がある。葉軸に短腺毛がある型はケシマイヌワラビ f. *glandulosopilosum* Sa. Kurata, nom. nud. と名付けられており、屋久島に知られる。

【生活史】

常緑、北限近くでは夏緑。地上生・崖地生。

【生育環境】

山地の溪谷沿いなど、陰湿な林下や岩上に生育する。

【分布域】

本州（福井県～岐阜県以西）・四国・九州・屋久島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 74%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	2	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因 森林伐採	土地造成	道路工事
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i>	CR
第4次 2019:	シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i>	CR
第4次 2018:	シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i>	CR
第4次 2017:	シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i>	CR
第4次 2015:	シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i>	CR
第4次:	シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i>	CR
第3次:	シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 京都府[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 熊本県希少野生動植物検討委員会，2019．レッドデータブックくまもと 2019 ―熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物―．熊本県環境生活部自然保護課，632pp．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022．高知県レッドデータブック 2022 植物編．高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp．

- 島根県環境生活部自然環境課，2013．改訂しまねレッドデータブック 2013 植物編―島根県の絶滅のおそれのある野生生物―．島根県環境生活部自然環境課，254pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Athyrium tozanense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Athyrium tozanense* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Logging and wood harvesting, Land development, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アオグキヌワラビ

*Athyrium viridescens***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状複生、23-26 対の側羽片があり、葉柄は長さ 27-38 cm、葉身は長さ 32-41 cm、三角状卵形、小羽片の縁辺は鋸歯縁、葉質はやや硬い草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は小羽片の中肋寄り（ほぼ小羽軸に接する）につき、長楕円形、長さ 1.9-2.2 mm、包膜は長楕円形、包膜の辺縁はほぼ全縁～不規則な突起縁。羽軸の向軸側に顕著な刺状突起がある。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

常緑林内や林縁に生育する。

【分布域】

九州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。2012 年調査では確実な自生を確認できなかった。自然遷移により減少した。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アオグキイヌワラビ	<i>Athyrium viridescens</i>	EN
第4次 2019:	アオグキイヌワラビ	<i>Athyrium viridescens</i>	EN
第4次 2018:	アオグキイヌワラビ	<i>Athyrium viridescens</i>	EN
第4次 2017:	アオグキイヌワラビ	<i>Athyrium viridescens</i>	EN
第4次 2015:	アオグキイヌワラビ	<i>Athyrium viridescens</i>	EN
第4次:	アオグキイヌワラビ	<i>Athyrium viridescens</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2017．日本産シダ植物標準図鑑 2．508pp．学研，東京．
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022．宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版．宮崎県環境森林部自然環境課，380pp．
- 熊本県希少野生動植物検討委員会，2019．レッドデータブックくまもと 2019 ―熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物―．熊本県環境生活部自然保護課，632pp．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp．

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Athyrium viridescens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Athyrium viridescens is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アソシケシダ

*Deparia otomasui***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は 2 回羽状深裂～中裂、16-18 対の側羽片があり、葉柄は長さ 20-30 cm、葉身は長さ 36-44 cm、三角状卵形～広卵状披針形、最終裂片の辺縁は浅い鈍鋸歯縁、葉質は厚い草質、葉の色は濃緑色。孢子嚢群は羽片・裂片の中肋寄りにつき、湾曲した線形、長さ 4.7-6.0 mm、包膜は湾曲した線形、包膜の辺縁は不規則な突起縁。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

丘陵地・低山地の湿り気のある林床に生育する。

【分布域】

四国（愛媛県）・九州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 5 メッシュで計約 400 個体と推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	0	1	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アソシケシダ	<i>Deparia otomasui</i>	EN
第4次 2019:	アソシケシダ	<i>Deparia otomasui</i>	EN
第4次 2018:	アソシケシダ	<i>Deparia otomasui</i>	EN
第4次 2017:	アソシケシダ	<i>Deparia otomasui</i>	EN
第4次 2015:	アソシケシダ	<i>Deparia otomasui</i>	EN
第4次:	アソシケシダ	<i>Deparia otomasui</i>	EN
第3次:	アソシケシダ	<i>Deparia otomasui</i>	EN
第2次:	アソシケシダ	<i>Deparia otomasui</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 632pp.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Deparia otomasui has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Deparia*

<i>otomasui</i> is listed as EN under criteria ACD. The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イヨクジャク

Diplazium okudairae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定成熟個体数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く～やや長く匍匐。葉は 1 回羽状複生、14-16 対の側羽片があり、葉柄は長さ 15-20 cm、葉身は長さ 25-30 cm、三角状披針形、最終裂片の辺縁は不規則な重鋸歯縁、葉質は草質、葉の色は淡緑色～淡黄緑色。孢子嚢群は羽片の中肋寄りにつき、耳片にもつくことが多く、線形、長さ 7.7-9.4 mm、包膜は線形、包膜の辺縁は全縁。

【生活史】

夏緑。地上生。

【生育環境】

丘陵地・山地の溪流沿いのやや暗い湿度の高い林内に生育する。

【分布域】

本州（伊豆半島以西）・四国・九州、中国・台湾。韓国（済州島）からの報告は最初の報告後は生育が確認されておらず、検討を要する。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 10 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	6	2	0	0	0	10	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	その他	不明

件数		
7	3	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イヨクジャク	<i>Diplazium okudairae</i>	EN
第4次 2019:	イヨクジャク	<i>Diplazium okudairae</i>	EN
第4次 2018:	イヨクジャク	<i>Diplazium okudairae</i>	EN
第4次 2017:	イヨクジャク	<i>Diplazium okudairae</i>	EN
第4次 2015:	イヨクジャク	<i>Diplazium okudairae</i>	EN
第4次:	イヨクジャク	<i>Diplazium okudairae</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 三重県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 京都府[絶滅種] 兵庫県[Aランク] 奈良県[絶滅寸前種] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧Ⅱ類] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 京都府環境部自然環境保全課, 2015. 京都府レッドデータブック 2015 第2巻: 野生植物・菌類編. 京都府環境部自然環境保全課, 611pp.
- 山口県環境生活部自然保護課, 2019. レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物. <https://www.yamaguchi-rdb.com/site/index.php> (2024年9月6日閲覧).
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会, 2014. 愛媛県レッドデータブック 2014—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 623pp.

- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.
- 愛知県環境調査センター，2020. レッドデータブックあいち 2020—植物編—. 愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Diplazium okudairae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Diplazium okudairae is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Natural succession, Other, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンハリガネワラビ

Thelypteris uraiensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐～斜上。葉の切れ込みは 2 回羽状深裂～全裂、17-21 対の側羽片があり、葉柄は長さ 12-20 cm、葉身は長さ 13-22 cm、三角形～三角状卵形、最終裂片の辺縁は全縁～波状縁、葉質は紙質、葉の色は淡黄緑色。胞子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間（主脈の両側に 2 列に並ぶ）につき、円形、長さ 0.7-0.9 mm、包膜はあり、円腎形で縁毛あり（1～2 細胞の半透明の毛）。

【生活史】

常緑。地上生。

【生育環境】

暗く湿った林床に生育する。

【分布域】

琉球列島（屋久島、種子島、奄美大島）に分布。国外では、中国、台湾、フィリピンに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。前回評価時より新たに加わった新産地情報から、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾ハリガネワラビ	<i>Thelypteris uraiensis</i>	EN
第4次 2019:	台湾ハリガネワラビ	<i>Thelypteris uraiensis</i>	EN
第4次 2018:	台湾ハリガネワラビ	<i>Thelypteris uraiensis</i>	EN
第4次 2017:	台湾ハリガネワラビ	<i>Thelypteris uraiensis</i>	EN
第4次 2015:	台湾ハリガネワラビ	<i>Thelypteris uraiensis</i>	EN
第4次:	台湾ハリガネワラビ	<i>Thelypteris uraiensis</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳，2016．日本産シダ植物標準図鑑 1．475pp．学研，東京．
- 岩槻邦男（編），1992．日本の野生植物 シダ．311pp., 192pls．平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Thelypteris uraiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Thelypteris uraiensis is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コキンモウイノデ

*Ctenitis microlepigera***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 3 回羽状中裂～深裂、9-13 対の側羽片があり、葉柄は長さ 3.1-13 cm、葉身は長さ 4.9-22 cm、三角状広卵形、最終裂片の辺縁はほぼ全縁で有毛、葉質は草質、葉の色は緑色。孢子嚢群はほぼ全体につき、中肋と辺縁の中間生、円形、直径 0.8-1.1 mm、包膜は円腎形（毛状突起縁、表面も有毛）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

樹林の湿った岩上に生育。

【分布域】

小笠原諸島（母島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コキンモウイノデ	<i>Ctenitis microlepigera</i>	EN
第4次 2019:	コキンモウイノデ	<i>Ctenitis microlepigera</i>	EN
第4次 2018:	コキンモウイノデ	<i>Ctenitis microlepigera</i>	EN
第4次 2017:	コキンモウイノデ	<i>Ctenitis microlepigera</i>	EN
第4次 2015:	コキンモウイノデ	<i>Ctenitis microlepigera</i>	EN
第4次:	コキンモウイノデ	<i>Ctenitis microlepigera</i>	EN
第3次:	コキンモウイノデ	<i>Ctenitis microlepigera</i>	CR
第2次:	コキンモウイノデ	<i>Ctenitis microlepigera</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024年9月6日閲覧).

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Ctenitis microlepigera has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ctenitis microlepigera* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20

years.	
Threat types:	Other
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホウライヒメワラビ

Dryopteris hendersonii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上～短く匍匐。葉は 3 回羽状深裂～4 回羽状深裂、18-21 対の側羽片があり、葉柄は長さ 41-49 cm、葉身は長さ 45-58 cm、三角状卵形、最終裂片の辺縁は鈍鋸歯縁、葉質はやや硬い草質、葉の色は濃緑色。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、中肋寄り、円形、直径 0.9-1.3 mm、包膜は円腎形（早落性、辺縁に不規則な突起、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

深林の樹陰に生育。

【分布域】

本州（島根県）・屋久島、中国（貴州省・雲南省）・台湾・南アジア・ミャンマー・タイ・フィリピン・ボルネオに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホウライヒメワラビ	<i>Dryopteris hendersonii</i>	EN
第4次 2019:	ホウライヒメワラビ	<i>Dryopteris hendersonii</i>	EN
第4次 2018:	ホウライヒメワラビ	<i>Dryopteris hendersonii</i>	EN
第4次 2017:	ホウライヒメワラビ	<i>Dryopteris hendersonii</i>	EN
第4次 2015:	ホウライヒメワラビ	<i>Dryopteris hendersonii</i>	EN
第4次:	ホウライヒメワラビ	<i>Dryopteris hendersonii</i>	EN
第3次:	ホウライヒメワラビ	<i>Dryopteris hendersonii</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris hendersonii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Dryopteris hendersonii is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20

years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンベニシダ

*Dryopteris insularis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状複生～3 回羽状全裂、16-18 対の側羽片があり、葉柄は長さ 22-30 cm、葉身は長さ 27-41 cm、三角状卵形、最終裂片の辺縁は全縁～浅い鋸歯縁、葉質は柔らかい革質、葉の色は濃緑色。孢子嚢群は葉身・羽片・小羽片の頂点側からつき全体に広がることはなく、中肋と辺縁の中間生～やや中肋寄り、円形、直径 1.3-1.7 mm、包膜は円腎形（辺縁に腺状突起あり、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

日の当たる谷筋に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島・母島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンベニシダ ^a	<i>Dryopteris insularis</i>	VU
第4次 2019:	ムニンベニシダ ^a	<i>Dryopteris insularis</i>	VU
第4次 2018:	ムニンベニシダ ^a	<i>Dryopteris insularis</i>	VU
第4次 2017:	ムニンベニシダ ^a	<i>Dryopteris insularis</i>	VU
第4次 2015:	ムニンベニシダ ^a	<i>Dryopteris insularis</i>	VU
第4次:	ムニンベニシダ ^a	<i>Dryopteris insularis</i>	VU
第3次:	ムニンベニシダ ^a	<i>Dryopteris insularis</i>	VU
第2次:	ムニンベニシダ ^a	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024年9月6日閲覧).

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris insularis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dryopteris insularis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイトウベニシダ

Dryopteris polita

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は斜上する。葉柄は淡緑色で長さ 40 cm 前後、黄褐色から褐色で長さ 10 mm 前後の狭披針形～線状披針形でやや硬い鱗片がつく。葉身は 2 回羽状全裂から複生、長さ 25 cm、幅 20 cm 前後の三角形。側羽辺は 15 対前後、やや非相称の三角状卵形から長楕円状披針形で、羽片の柄は 2 cm 前後と長い。小羽片は長さ 1.5 cm、幅 1 cm 前後で、下部以外の小羽片は無柄か広く羽軸に合着しする。辺縁は全線から鈍鋸歯縁、孢子嚢群は葉身の先端側、側羽片では基部側からつき、中肋と辺縁の中間からやや中間よりに位置する。胞膜は無い。ナガバノイタチシダ *Dryopteris sparsa* var. *sparsa* によく似ているが、ナガバノイタチシダでは、葉柄の鱗片が基部では膜質、広披針形から披針形で、上部では早落性、最下羽辺が非相称の三角形、小羽辺が下部から 6 対前後が有柄、円腎形の胞膜を持つなどの点で、本種と区別可能である。

【生活史】

常緑である他は一切不明。

【生育環境】

屋久島の低山地の溪流近くの林床にややまれに生育。

【分布域】

屋久島、中国・台湾・インドシナ半島・マレーシア～ニューギニアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】		
1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

国内では屋久島のみに生育し、分布の北限のため学術上重要である。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 川原勝征, 2022. 九州のシダ植物検索図鑑. 260pp. 南方新社, 鹿児島.
- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris polita has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dryopteris polita* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムラサキベニシダ

*Dryopteris purpurella***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 2 回羽状複生～3 回羽状深裂、18-22 対の側羽片があり、葉柄は長さ 26-33 cm、葉身は長さ 28-33 cm、広三角形～三角状卵形、最終裂片の辺縁は鋸歯縁、葉質はやや硬い草質、葉の色は淡緑色、展葉時は紅紫色。孢子嚢群はほぼ全ての羽片につき、中肋と辺縁の中間生～辺縁より、稀に中肋寄り、円形、直径 0.9-1.1 mm、包膜は円腎形（ほぼ全縁、中心は紅色または灰白色、周縁部は灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

山地の陰湿な林床に生育。

【分布域】

本州（紀伊半島・広島県宮島）・四国（愛媛県・高知県）・九州・琉球列島（屋久島・石垣島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 76%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	4	1	1	0	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	園芸採取	不明

森林伐採		
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris labordei</i> var. <i>purpurascens</i>	CR
第4次 2019:	ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris labordei</i> var. <i>purpurascens</i>	CR
第4次 2018:	ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris labordei</i> var. <i>purpurascens</i>	CR
第4次 2017:	ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris labordei</i> var. <i>purpurascens</i>	CR
第4次 2015:	ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris labordei</i> var. <i>purpurascens</i>	CR
第4次:	ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris labordei</i> var. <i>purpurascens</i>	CR
第3次:	ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris labordei</i> var. <i>purpurascens</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧ⅡB類(EN)] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[準絶滅危惧] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris purpurella has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Dryopteris purpurella</i> is listed as EN under criteria ACD. The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	Logging and wood harvesting, Collecting plants in gardening, Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツシマミサキカグマ

*Dryopteris tsushimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立。葉は、2-3 回羽状複葉、8-10 対の側羽片があり、葉柄は長さ 7-15 cm、基部には披針形、不規則な鋸歯縁で暗褐色の鱗片が密につく。葉身は長さ 5-10 cm、三角形、裂片の先端は細鋸歯縁、草質、鮮緑色。孢子嚢群は辺縁近くにつき、円形、直径約 10 mm、包膜は円腎形で全縁。

【生活史】

夏緑性多年草。

【生育環境】

常緑広葉樹林下の林縁で、岩の隙間に生育。

【分布域】

長崎県対馬に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Hori, K., X. Zhou, Y. Inoue and N. Murakami. 2018. Evidence for maternal ability in hybridization of apogamous fern species: *Dryopteris tsushimense* K. Hori & N. Murak. and *D. subtsushimense* K. Hori & N. Murak. (Dryopteridaceae), new tetraploid apogamous pteridophytes of hybrid origin from Tsushima, Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 69: 143–160.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dryopteris tsushimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Dryopteris tsushimensis* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

センジョウデンダ

Polystichum atkinsonii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は 1 回羽状複生、13-19 対の側羽片があり、葉柄は長さ 2.8-8.4 cm、葉身は長さ 5.2-10 cm、長楕円状披針形、最終裂片の辺縁は歯牙縁、葉質は硬い紙質、葉の色は濃緑色（やや光沢あり）。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、頂生、中肋と辺縁の中間生、円形、直径 1.2-1.9 mm、包膜は円形で楕着（波状縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で岩上生。

【生育環境】

高山の岩の割れ目に生育。

【分布域】

本州（長野県）、中国・台湾・南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数百個体と推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	センジョウデンダ	<i>Polystichum atkinsonii</i>	EN
第4次 2019:	センジョウデンダ	<i>Polystichum atkinsonii</i>	EN
第4次 2018:	センジョウデンダ	<i>Polystichum atkinsonii</i>	EN
第4次 2017:	センジョウデンダ	<i>Polystichum atkinsonii</i>	EN
第4次 2015:	センジョウデンダ	<i>Polystichum atkinsonii</i>	EN
第4次:	センジョウデンダ	<i>Polystichum atkinsonii</i>	EN
第3次:	センジョウデンダ	<i>Polystichum atkinsonii</i>	EN
第2次:	センジョウデンダ	<i>Polystichum gracilipes</i> var. <i>gemmiferum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[情報不足(DD)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I B類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Polystichum atkinsonii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Polystichum atkinsonii* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒイラギデンド

Polystichum lonchitis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立～斜上。葉は 1 回羽状複生、21-28 対の側羽片があり、葉柄は長さ 2.5-4.3 cm、葉身は長さ 13-17 cm、長楕円状披針形、最終裂片の辺縁は鋭鋸歯縁（先端は顕著な芒状）、葉質は革質、葉の色は鮮緑色（やや光沢あり）。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、部分的に孢子嚢群をつける羽片でのつき方はやや不規則、背生、中肋寄りで、円形、直径 1.1-1.3 mm、包膜は円形で楕着（ほぼ全縁～突起縁、灰白色）。

【生活史】

常緑で地上生または岩上生。

【生育環境】

高山帯に生育。

【分布域】

本州（山梨県）、ロシア・中国（新疆ウイグル自治区）・南アジア・中央アジア・ヨーロッパ・北米に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュの限られた場所に数十個体が現存するとされた。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒイラギデンド	<i>Polystichum lonchitis</i>	EN
第4次 2019:	ヒイラギデンド	<i>Polystichum lonchitis</i>	EN
第4次 2018:	ヒイラギデンド	<i>Polystichum lonchitis</i>	EN
第4次 2017:	ヒイラギデンド	<i>Polystichum lonchitis</i>	EN
第4次 2015:	ヒイラギデンド	<i>Polystichum lonchitis</i>	EN
第4次:	ヒイラギデンド	<i>Polystichum lonchitis</i>	EN
第3次:	ヒイラギデンド	<i>Polystichum lonchitis</i>	EN
第2次:	ヒイラギデンド	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polystichum lonchitis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Polystichum lonchitis is listed as EN under criteria ACD.
The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンアオネカズラ

Goniophlebium formosanum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は 1 回羽状深裂、22-29 対の側羽片があり、葉柄は長さ 13-17 cm、葉身は長さ 28-39 cm、三角状狭長楕円形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質はやや厚い草質、葉の色は鮮緑色。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、裂片の中肋近くの両側に各 1 列に並び、円形、直径 1.3-1.8 mm。

【生活史】

冬緑で着生または岩上生。

【生育環境】

自然林内の樹幹に着生。

【分布域】

琉球列島（屋久島・西表島）、中国（福建省）・台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 10 メッシュでの現存個体数は計百数十個体と推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	7	0	0	0	0	10	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾アオネカズラ	<i>Goniophlebium formosanum</i>	EN
第4次 2019:	台湾アオネカズラ	<i>Goniophlebium formosanum</i>	EN
第4次 2018:	台湾アオネカズラ	<i>Goniophlebium formosanum</i>	EN
第4次 2017:	台湾アオネカズラ	<i>Goniophlebium formosanum</i>	EN
第4次 2015:	台湾アオネカズラ	<i>Goniophlebium formosanum</i>	EN
第4次:	台湾アオネカズラ	<i>Goniophlebium formosanum</i>	EN
第3次:	台湾アオネカズラ	<i>Polypodium formosanum</i>	EN
第2次:	台湾アオネカズラ	<i>Polypodium formosanum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Goniophlebium formosanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Goniophlebium formosanum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20

years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオクリハラン

Lepisorus fortunei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は単葉、葉柄は長さ 13-26 cm、葉身は長さ 31-47 cm、狭披針形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は硬い紙質、葉の色は黄緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、中肋寄りで中肋の両側に各 1 列に並び、円形、長さ 1.2-2.5 mm。

【生活史】

常緑で地上生または岩上生。

【生育環境】

樹林の陰湿な岩上や樹幹に着生。

【分布域】

小笠原諸島（父島・母島）・屋久島、中国・台湾・南アジア・インドシナ半島・マレー半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオクリハラン	<i>Neolepisorus fortunei</i>	VU
第4次 2019:	オオクリハラン	<i>Neolepisorus fortunei</i>	VU
第4次 2018:	オオクリハラン	<i>Neolepisorus fortunei</i>	VU
第4次 2017:	オオクリハラン	<i>Neolepisorus fortunei</i>	VU
第4次 2015:	オオクリハラン	<i>Neolepisorus fortunei</i>	VU
第4次:	オオクリハラン	<i>Neolepisorus fortunei</i>	VU
第3次:	オオクリハラン	<i>Neoechiropteris fortunei</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024年9月6日閲覧).

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lepisorus fortunei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lepisorus fortunei* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クラガリシダ

Lepisorus miyoshianus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は短く匍匐。葉は単葉、葉柄は不明瞭、葉身は長さ 25-37 cm、線形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は厚い革質、葉の色は緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身の先端側から半分前後の位置まで、中肋と辺縁の間の溝の中につき、線形、長さ 82-158 mm。

【生活史】

常緑で着生。

【生育環境】

深山の原生林中の樹幹に着生。

【分布域】

本州（中部地方以西）・四国（愛媛県・高知県）・九州（大分県）、中国・台湾・インドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 12 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
7	4	1	0	0	0	12	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明	園芸採取	
件数	2	

4		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クラガリシダ	<i>Lepisorus miyoshianus</i>	EN
第4次 2019:	クラガリシダ	<i>Lepisorus miyoshianus</i>	EN
第4次 2018:	クラガリシダ	<i>Lepisorus miyoshianus</i>	EN
第4次 2017:	クラガリシダ	<i>Lepisorus miyoshianus</i>	EN
第4次 2015:	クラガリシダ	<i>Lepisorus miyoshianus</i>	EN
第4次:	クラガリシダ	<i>Lepisorus miyoshianus</i>	EN
第3次:	クラガリシダ	<i>Dryotaenium miyoshianum</i>	EN
第2次:	クラガリシダ	<i>Dryotaenium miyoshianum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

石川県[絶滅(EX)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[EX] 滋賀県[絶滅危惧種] 京都府[絶滅寸前種] 兵庫県[Aランク] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山口県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅(EX)] 大分県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 311pp., 192pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lepisorus miyoshianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lepisorus miyoshianus is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.	
Threat types:	Unknown, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカウラボシ

Microsorum rubidum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長く匍匐。葉は 1 回羽状深裂～全裂、15-23 対の側羽片があり、葉柄は長さ 21-43 cm、葉身は長さ 46-91 cm、狭卵形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は硬い草質、葉の色は黄緑色（光沢あり）。孢子嚢群は葉身・裂片の頂点側からつき、やや中肋寄りで、中肋の両側に各 1 列に並んでつき、円形～楕円形、直径 2.3-3.0 mm。

【生活史】

常緑で地上生。

【生育環境】

サガリバナ林の林床や放棄水田等の湿地に生育。

【分布域】

琉球列島（沖縄島以南）、中国南部・台湾・南アジア・東南アジアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカウラボシ	<i>Phymatosorus nigrescens</i>	EN
第4次 2019:	タカウラボシ	<i>Phymatosorus nigrescens</i>	EN
第4次 2018:	タカウラボシ	<i>Phymatosorus nigrescens</i>	EN
第4次 2017:	タカウラボシ	<i>Phymatosorus nigrescens</i>	EN
第4次 2015:	タカウラボシ	<i>Phymatosorus nigrescens</i>	EN
第4次:	タカウラボシ	<i>Phymatosorus nigrescens</i>	EN
第3次:	タカウラボシ	<i>Phymatosorus nigrescens</i>	EN
第2次:	タカウラボシ	<i>Microsorium rubidum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[情報不足] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Microsorium rubidum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Microsorium rubidum is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメウラボシ

Oreogrammitis dorsipila

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は斜上。葉は単葉、葉柄は不明瞭、葉身は長さ 3.4-5.5 cm、線状倒披針形、最終裂片の辺縁は全縁、葉質は柔らかい革質、葉の色は淡緑色。孢子嚢群は葉身の先端側からつき、中肋寄りで中肋の両側に各 1 列に並び、円形～楕円形、直径 0.5-0.7 mm。

【生活史】

常緑で着生または岩上生。

【生育環境】

高地の湿度の高い林内の樹幹、または川沿いの岩上に着生。

【分布域】

九州（鹿児島県）・琉球列島、中国（南部）・インドシナ半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメウラボシ	<i>Grammitis dorsipila</i>	EN
第4次 2019:	ヒメウラボシ	<i>Grammitis dorsipila</i>	EN
第4次 2018:	ヒメウラボシ	<i>Grammitis dorsipila</i>	EN
第4次 2017:	ヒメウラボシ	<i>Grammitis dorsipila</i>	EN
第4次 2015:	ヒメウラボシ	<i>Grammitis dorsipila</i>	EN
第4次:	ヒメウラボシ	<i>Grammitis dorsipila</i>	EN
第3次:	ヒメウラボシ	<i>Grammitis dorsipila</i>	EN
第2次:	ヒメウラボシ	<i>Grammitis dorsipila</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Oreogrammitis dorsipila has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Oreogrammitis dorsipila is listed as EN under criteria D.
 D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオエゾデンダ

Polypodium vulgare

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎はやや長く匍匐。葉は 1 回羽状全裂、15-19 対の側羽片があり、葉柄は長さ 5-8.2 cm、葉身は長さ 12-16 cm、三角状長楕円形、最終裂片の辺縁はまばらな微鋸歯、葉質は硬い草質、葉の色は緑色。孢子嚢群は葉身・裂片の頂点側からつき、中肋と辺縁の中間生～やや中肋寄り、円形、直径 1.7-2.3 mm。

【生活史】

常緑で着生または岩上生。

【生育環境】

海岸地方の陰湿な岩上や樹幹に着生。

【分布域】

北海道・本州（青森県・秋田県・鳥取県・島根県隠岐）、ロシア極東・朝鮮・中国・ヨーロッパに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		

件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオエゾデンド	<i>Polypodium vulgare</i>	EN
第4次 2019:	オオエゾデンド	<i>Polypodium vulgare</i>	EN
第4次 2018:	オオエゾデンド	<i>Polypodium vulgare</i>	EN
第4次 2017:	オオエゾデンド	<i>Polypodium vulgare</i>	EN
第4次 2015:	オオエゾデンド	<i>Polypodium vulgare</i>	EN
第4次:	オオエゾデンド	<i>Polypodium vulgare</i>	EN
第3次:	オオエゾデンド	<i>Polypodium vulgare</i>	EN
第2次:	オオエゾデンド	<i>Polypodium vulgare</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 岩手県[A ランク] 福島県[情報不足(DD)] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課, 2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道, 309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polypodium vulgare has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Polypodium vulgare* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20

years.	
Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマウラボシ

Selliguea yakuinsularis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定成熟個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎はやや長く匍匐。葉は 1 回羽状深裂、3-5 対の側羽片があり、葉柄は長さ 4.2-7.5 cm、葉身は長さ 7.7-12 cm、三角状広卵形、最終裂片の辺縁はほぼ全縁～波状縁で浅い欠刻が主側脈の間に 1 つずつあり、葉質は紙質、葉の色は緑色。孢子嚢群は葉身・裂片の頂点側からつき、裂片の辺縁寄りで、中肋の両側に各 1 列に並び、円形、直径 2.6-3.0 mm。

【生活史】

夏緑で着生または岩上生。

【生育環境】

コケに覆われた樹幹や岩上に着生。

【分布域】

本州（紀伊半島）・四国（徳島県・高知県）・屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	園芸採取	産地局限

件数		
3	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマウラボシ	<i>Selligaea yakuinsularis</i>	EN
第4次 2019:	ヤクシマウラボシ	<i>Selligaea yakuinsularis</i>	EN
第4次 2018:	ヤクシマウラボシ	<i>Selligaea yakuinsularis</i>	EN
第4次 2017:	ヤクシマウラボシ	<i>Selligaea yakuinsularis</i>	EN
第4次 2015:	ヤクシマウラボシ	<i>Selligaea yakuinsularis</i>	EN
第4次:	ヤクシマウラボシ	<i>Selligaea yakuinsularis</i>	EN
第3次:	ヤクシマウラボシ	<i>Crypsinus yakuinsularis</i>	EN
第2次:	ヤクシマウラボシ	<i>Crypsinus yakuinsularis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 和歌山県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 徳島県[絶滅危惧 IA 類] 高知県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧 II 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 508pp. 学研, 東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Selligaea yakuinsularis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Selligaea yakuinsularis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤツガタケトウヒ

Picea koyamae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30 m に達する。樹皮は灰褐色で、鱗片状に薄く剥がれる。若枝は腺毛があり淡褐色。葉枕は長さ 1.5-3 mm、顕著でごく高い。葉は線形で長さ 6-12 mm、幅約 1.5 mm、横断面は菱形。球果は長さ 4-10 cm、径約 1.8-2.6 cm、狭卵形～狭卵状楕円形、先は次第に狭まる。種鱗は倒卵状馬蹄形で長さ約 16 mm。ヒメマツハダは本種の変異内である。

【生活史】

常緑の高木。果期は 10 月頃。

【生育環境】

山地帯上部の石灰岩地、亜高山帯の針葉樹林に生育する。

【分布域】

秩父山地西部、長野・山梨県境の八ヶ岳、南アルプス北西部の石灰岩地。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数十個体と推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤツガタケトウヒ	<i>Picea koyamae</i>	EN
第4次 2019:	ヤツガタケトウヒ	<i>Picea koyamae</i>	EN
第4次 2018:	ヤツガタケトウヒ	<i>Picea koyamae</i>	EN
第4次 2017:	ヤツガタケトウヒ	<i>Picea koyamae</i>	EN
第4次 2015:	ヤツガタケトウヒ	<i>Picea koyamae</i>	EN
第4次:	ヤツガタケトウヒ	<i>Picea koyamae</i>	EN
第3次:	ヤツガタケトウヒ	<i>Picea koyamae</i>	EN
第2次:	ヤツガタケトウヒ	<i>Picea koyamae</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 逢沢峰昭・勝木俊雄・梶幹男，2002. 秩父山地西部におけるヤツガタケトウヒの新産地. 分類, 2:77-78.
- 勝木俊雄，2012. 本州産希少トウヒ属樹木の保全に関する研究. 学位論文（第 17624 号）. 129pp. 東京大学，東京.
- 勝木俊雄・逢沢峰昭・明石浩司・島田健一・島田和則，2005. 長野県大鹿村におけるヤツガタケトウヒとヒメバラモミの現状－南限の絶滅危惧植物－. 伊那谷自然史論集, 6: 71-76.

- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002．長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物．維管束植物編．長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Picea koyamae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Picea koyamae* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクタネゴヨウ

Pinus amamiana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ約 25 m に達する。長枝の若枝は灰褐色ではじめ微細毛があるが、すぐに無毛となる。葉は 5 本で短枝上に束生し、長さ 5–8 cm、径約 1 mm、3 稜形。葉の横断面で樹脂道は 3 個あり、1 個は表面の葉肉内にあり、2 個は裏面の下表皮に接する。球果は先が丸く、卵形～卵状楕円形で長さ 5–10 cm。種子は長さ 10–13 mm で翼はない。

【生活史】

常緑の高木。花期は 5 月。果期は翌年の秋頃。

【生育環境】

急峻な尾根筋などに生育する。

【分布域】

九州（屋久島・種子島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では屋久島で約 1500 個体、種子島で約 100 個体の現存が報告された。基準 C により EN とされた。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番 目	2 番 目	3 番 目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクタネゴヨウ	<i>Pinus amamiana</i>	EN
第4次 2019:	ヤクタネゴヨウ	<i>Pinus amamiana</i>	EN
第4次 2018:	ヤクタネゴヨウ	<i>Pinus amamiana</i>	EN
第4次 2017:	ヤクタネゴヨウ	<i>Pinus amamiana</i>	EN
第4次 2015:	ヤクタネゴヨウ	<i>Pinus amamiana</i>	EN
第4次:	ヤクタネゴヨウ	<i>Pinus amamiana</i>	EN
第3次:	ヤクタネゴヨウ	<i>Pinus amamiana</i>	EN
第2次:	ヤクタネゴヨウ	<i>Pinus armandii</i> var. <i>amamiana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 金谷整一・池亀寛治・手塚賢至・寺川眞理・湯本貴和，2004．種子島におけるヤクタネゴヨウの新群生地発見．保全生態学研究，9: 77-82．
- 金谷整一・手塚賢至，2020．屋久島の森林生態系と絶滅危惧種ヤクタネゴヨウの保全．農業新時代，1: 30-37．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pinus amamiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pinus amamiana* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オグラコウホネ

Nuphar oguraensis var. *oguraensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

水上葉は広卵形、長さ 9-19 cm。花は黄色、径 2-3 cm、7-11 月に開く。

【生活史】

多年生。

【生育環境】

池沼やため池などのほか、河川や水路などに生育する。

【分布域】

本州（中部以西）、九州に分布。国外では、朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	1	3	0	0	8	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 水質汚濁	農薬汚染	河川開発
件数 6	6	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i>	VU
第4次 2019:	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i>	VU
第4次 2018:	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i>	VU
第4次 2017:	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i>	VU
第4次 2015:	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i>	VU
第4次:	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i>	VU
第3次:	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i>	VU
第2次:	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[EX] 兵庫県[Bランク] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 広島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 徳島県[絶滅危惧ⅠB類] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 京都府環境部自然環境保全課，2015. 京都府レッドデータブック 2015 第2巻：野生植物・菌類編. 京都府環境部自然環境保全課，611pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Nuphar oguraensis var. *oguraensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Nuphar oguraensis* var. *oguraensis* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.	
Threat types:	Water pollution, Pesticide pollution, River development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オキナワスナゴシヨウ

Peperomia japonica var. *okinawensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

サダソウに似るが、茎や葉が全体的に無毛。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

海岸地帯に生育。

【分布域】

琉球（沖永良部島・沖縄島・大東諸島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。沖縄諸島、大東諸島に断片的に現存する。石灰岩地の崖に生育するため、開発される可能性は少ない。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキナワスナゴショウ	<i>Peperomia okinawensis</i>	EN
第4次 2019:	オキナワスナゴショウ	<i>Peperomia okinawensis</i>	EN
第4次 2018:	オキナワスナゴショウ	<i>Peperomia okinawensis</i>	EN
第4次 2017:	オキナワスナゴショウ	<i>Peperomia okinawensis</i>	EN
第4次 2015:	オキナワスナゴショウ	<i>Peperomia okinawensis</i>	EN
第4次:	オキナワスナゴショウ	<i>Peperomia okinawensis</i>	EN
第3次:	オキナワスナゴショウ	<i>Peperomia okinawensis</i>	CR
第2次:	オキナワスナゴショウ	<i>Peperomia okinawensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Peperomia japonica var. *okinawensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Peperomia japonica* var. *okinawensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミヤビカンアオイ

*Asarum celsum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 5-9 cm、卵状三角形、表面に雲紋状の斑も光沢もない。葉縁に毛が散生する。萼筒は長さ 8-10 mm、上端はいくぶんくびれる。萼裂片は長さ 5-8 mm、広卵状三角形。萼筒内壁の襞は約 12 個。

【生活史】

多年草。花期は 1-3 月。

【生育環境】

常緑広葉樹の林床に生育。

【分布域】

奄美大島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミヤビカンアオイ	<i>Asarum celsum</i>	EN
第4次 2019:	ミヤビカンアオイ	<i>Asarum celsum</i>	EN
第4次 2018:	ミヤビカンアオイ	<i>Asarum celsum</i>	EN
第4次 2017:	ミヤビカンアオイ	<i>Asarum celsum</i>	EN
第4次 2015:	ミヤビカンアオイ	<i>Asarum celsum</i>	EN
第4次:	ミヤビカンアオイ	<i>Asarum celsum</i>	EN
第3次:	ミヤビカンアオイ	<i>Asarum celsum</i>	EN
第2次:	ミヤビカンアオイ	<i>Heterotropa celsa</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum celsum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum celsum* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カギガタアオイ

*Asarum curvistigma***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 5-11 cm、卵状楕円形、表面に光沢と雲紋状の斑があり、葉脈に沿って凹まない。萼筒は長さ 7-13 mm、上端はわずかにくびれる。萼裂片は卵状三角形、上面は濃紫褐色、短毛を密生する。萼筒内壁の襞は約 15-18 個。花柱は 6 個、長靴を逆さにしたような形で直立する。

【生活史】

多年草。花期は 10-11 月。

【生育環境】

低山地の広葉樹林下に生育。

【分布域】

静岡県（中西部）・山梨県（南部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数		

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カギガタアオイ	<i>Asarum curvistigma</i>	EN
第4次 2019:	カギガタアオイ	<i>Asarum curvistigma</i>	EN
第4次 2018:	カギガタアオイ	<i>Asarum curvistigma</i>	EN
第4次 2017:	カギガタアオイ	<i>Asarum curvistigma</i>	EN
第4次 2015:	カギガタアオイ	<i>Asarum curvistigma</i>	EN
第4次:	カギガタアオイ	<i>Asarum curvistigma</i>	EN
第3次:	カギガタアオイ	<i>Asarum curvistigma</i>	EN
第2次:	カギガタアオイ	<i>Heterotropa curvistigma</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum curvistigma has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum curvistigma* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

スエヒロアオイ

*Asarum dilatatum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 6-11 cm、卵状楕円形、基部は心形、白斑があり、明るい緑色で光沢はない。花は淡褐色～暗紫色。萼筒は長さ 4-5 mm、上方に広がる。萼裂片は長さ 6-8 mm、広卵形、表面はなめらか。萼筒内壁に明瞭な襞があり、縦襞は 15-21 個。

【生活史】

多年草。花期は 10-11 月。

【生育環境】

山地の広葉樹林下に生育。

【分布域】

鈴鹿山地南部（野登山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	スエヒロアオイ	<i>Asarum dilatatum</i>	CR
第4次 2019:	スエヒロアオイ	<i>Asarum dilatatum</i>	CR
第4次 2018:	スエヒロアオイ	<i>Asarum dilatatum</i>	CR
第4次 2017:	スエヒロアオイ	<i>Asarum dilatatum</i>	CR
第4次 2015:	スエヒロアオイ	<i>Asarum dilatatum</i>	CR
第4次:	スエヒロアオイ	<i>Asarum dilatatum</i>	CR
第3次:	スエヒロアオイ	<i>Asarum takaoi</i> var. <i>dilatatum</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[情報不足(DD)] 三重県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 和歌山県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum dilatatum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum dilatatum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハツシマカンアオイ

*Asarum hatsushimae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 7-12 cm、卵状三角形、光沢と白斑はなく、暗緑色。葉柄と葉の裏面に長毛がある。萼筒は長さ 15-20 mm、上端は多少くびれる。萼裂片は三角状広卵形、斜めに開き、上面は淡緑色か緑紫色、白毛を密生する。萼筒内壁に襞があるが隆起は弱い。花柱は 6 個。

【生活史】

多年草。花期は 3-4 月。

【生育環境】

常緑広葉樹の林床に生育。

【分布域】

鹿児島県（徳之島北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハツシマカンアオイ	<i>Asarum hatsushimae</i>	EN
第4次 2019:	ハツシマカンアオイ	<i>Asarum hatsushimae</i>	EN
第4次 2018:	ハツシマカンアオイ	<i>Asarum hatsushimae</i>	EN
第4次 2017:	ハツシマカンアオイ	<i>Asarum hatsushimae</i>	EN
第4次 2015:	ハツシマカンアオイ	<i>Asarum hatsushimae</i>	EN
第4次:	ハツシマカンアオイ	<i>Asarum hatsushimae</i>	EN
第3次:	ハツシマカンアオイ	<i>Asarum hatsushimae</i>	EN
第2次:	ハツシマカンアオイ	<i>Heterotropa hatsushimae</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum hatsushimae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum hatsushimae* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コウヤカンアオイ

*Asarum kooyanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 6-10 cm、卵形、光沢と白斑があり、明緑色。萼筒は長さ 10-12 mm、上端は多少くびれ、淡褐色。萼裂片は長さ 4-6 mm、表面は滑らか、無毛。萼筒内壁に襞があるが隆起は弱い。

【生活史】

多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

山地の広葉樹林下に生育。

【分布域】

和歌山県（高野山周辺）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が報告されたが、未調査のメッシュがあり、個体数は大幅に過小評価されていると思われる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コウヤカンアオイ	<i>Asarum kooyanum</i> var. <i>kooyanum</i>	EN
第4次 2019:	コウヤカンアオイ	<i>Asarum kooyanum</i> var. <i>kooyanum</i>	EN
第4次 2018:	コウヤカンアオイ	<i>Asarum kooyanum</i> var. <i>kooyanum</i>	EN
第4次 2017:	コウヤカンアオイ	<i>Asarum kooyanum</i> var. <i>kooyanum</i>	EN
第4次 2015:	コウヤカンアオイ	<i>Asarum kooyanum</i> var. <i>kooyanum</i>	EN
第4次:	コウヤカンアオイ	<i>Asarum kooyanum</i> var. <i>kooyanum</i>	EN
第3次:	コウヤカンアオイ	<i>Asarum kooyanum</i> var. <i>kooyanum</i>	EN
第2次:	コウヤカンアオイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

和歌山県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum kooyanum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum kooyanum* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムラクモアオイ

Asarum kumageanum var. *satakeanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

クワイバカンアオイに似るが、萼筒に毛がほとんどなく、萼裂片内面の凸凹が強い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

常緑樹林の谷筋の林床に生育。

【分布域】

種子島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムラクモアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>satakeanum</i>	EN
第4次 2019:	ムラクモアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>satakeanum</i>	EN
第4次 2018:	ムラクモアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>satakeanum</i>	EN
第4次 2017:	ムラクモアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>satakeanum</i>	EN
第4次 2015:	ムラクモアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>satakeanum</i>	EN
第4次:	ムラクモアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>satakeanum</i>	EN
第3次:	ムラクモアオイ	<i>Asarum kumageanum</i> var. <i>satakeanum</i>	EN
第2次:	ムラクモアオイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 森田康夫, 2004. 種子島における植物採集記録. 鹿児島県立博物館研究報告, 23: 61-73.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum kumageanum var. *satakeanum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum kumageanum* var. *satakeanum* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イワタカンアオイ

*Asarum kurosawae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 5-7 cm、円形、光沢はなく、白斑がある。萼筒は長さ 12-14 mm、鐘形、緑紫色。萼裂片は長さ 10-12 mm、斜めに開き、卵状三角形。萼筒内壁に襞があり、全体網目状、縦襞は約 30 個、横襞は約 10 個。

【生活史】

多年草。花期は 10-11 月。

【生育環境】

低山地の湿った広葉樹林下に生育。

【分布域】

静岡県（磐田市）・静岡県と愛知県の県境に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	土地造成	自然遷移
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イワタカンアオイ	<i>Asarum kurosawae</i>	VU
第4次 2019:	イワタカンアオイ	<i>Asarum kurosawae</i>	VU
第4次 2018:	イワタカンアオイ	<i>Asarum kurosawae</i>	VU
第4次 2017:	イワタカンアオイ	<i>Asarum kurosawae</i>	VU
第4次 2015:	イワタカンアオイ	<i>Asarum kurosawae</i>	VU
第4次:	イワタカンアオイ	<i>Asarum kurosawae</i>	VU
第3次:	イワタカンアオイ	<i>Asarum kurosawae</i>	VU
第2次:	イワタカンアオイ	<i>Heterotropa kurosawae</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum kurosawae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum kurosawae* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Land development, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コトウカンアオイ

*Asarum majale***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 4-7 cm、広卵形、光沢はなく、白斑があり、暗緑色。萼筒は長さ 7.5-11 mm、鐘形。萼裂片は長さ 7-10 mm、卵状三角形、表面は滑らか、斜めに開く。萼筒内壁の襞は複雑、縦襞は 15-21 個。

【生活史】

多年草。花期は 5 月。

【生育環境】

低山地の広葉樹林下に生育。

【分布域】

三重県北部（藤原岳周辺）から滋賀県境に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	1	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コトウカンアオイ	<i>Asarum majale</i>	EN
第4次 2019:	コトウカンアオイ	<i>Asarum majale</i>	EN
第4次 2018:	コトウカンアオイ	<i>Asarum majale</i>	EN
第4次 2017:	コトウカンアオイ	<i>Asarum majale</i>	EN
第4次 2015:	コトウカンアオイ	<i>Asarum majale</i>	EN
第4次:	コトウカンアオイ	<i>Asarum majale</i>	EN
第3次:	コトウカンアオイ	<i>Asarum majale</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

滋賀県[分布上重要種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum majale has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum majale* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

アソサイシン

Asarum misandrum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

萼筒は径 11.5-16 mm、長さは径の半分ほどで、上下に押しつぶされたような扁球形。萼口は広く開く。萼裂片は強く反り返る。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

草原や林縁に生育。

【分布域】

九州（阿蘇山地）、韓国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報が得られなかったが、現状は随時見直しによる評価時と変化がないと推測される。随時見直しでは 250 個体未満と推定されたため、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アソサイシン	<i>Asarum misandrum</i>	EN
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum misandrum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum misandrum* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホシザキカンアオイ

Asarum sakawanum var. *stellatum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

サカワサイシンに似るが、萼裂片の先が尾状に伸びる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿気のある林床や斜面や谷筋の林縁部に生育。

【分布域】

高知県南西部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	2	2	0	0	8	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	その他	自然遷移
件数 8	3	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホシザキカンアオイ	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>stellatum</i>	EN
第4次 2019:	ホシザキカンアオイ	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>stellatum</i>	EN
第4次 2018:	ホシザキカンアオイ	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>stellatum</i>	EN
第4次 2017:	ホシザキカンアオイ	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>stellatum</i>	EN
第4次 2015:	ホシザキカンアオイ	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>stellatum</i>	EN
第4次:	ホシザキカンアオイ	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>stellatum</i>	EN
第3次:	ホシザキカンアオイ	<i>Asarum stellatum</i>	EN
第2次:	ホシザキカンアオイ	<i>Heterotropa stellata</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum sakawanum var. *stellatum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum sakawanum* var. *stellatum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Other, Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マルミカンアオイ

*Asarum subglobosum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 7-10 cm、卵形、光沢はなく、雲紋状の斑があり、暗緑色。萼筒は長さ 10-13 mm、緑褐色。萼裂片は長さ 10 mm、卵状三角形、表面は滑らか。萼筒内壁の襞はいちじるしく隆起する。

【生活史】

多年草。花期は 3-4 月。

【生育環境】

山地の照葉樹林下に生育。

【分布域】

九州（熊本県・宮崎県）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 8 メッシュで計数百個体と推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	4	1	0	0	8	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マルミカンアオイ	<i>Asarum subglobosum</i>	EN
第4次 2019:	マルミカンアオイ	<i>Asarum subglobosum</i>	EN
第4次 2018:	マルミカンアオイ	<i>Asarum subglobosum</i>	EN
第4次 2017:	マルミカンアオイ	<i>Asarum subglobosum</i>	EN
第4次 2015:	マルミカンアオイ	<i>Asarum subglobosum</i>	EN
第4次:	マルミカンアオイ	<i>Asarum subglobosum</i>	EN
第3次:	マルミカンアオイ	<i>Asarum subglobosum</i>	EN
第2次:	マルミカンアオイ	<i>Heterotropa subglobosa</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[準絶滅危惧(NT-g)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum subglobosum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum subglobosum* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サンコカンアオイ

*Asarum trigynum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ツクシアオイに似るが、雄蕊は 6 個、花柱は 3 個に半減。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

常緑樹林の林床に生育。

【分布域】

鹿児島県（甕島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では減少率情報が得られなかった。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	1	1	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サンコカンアオイ	<i>Asarum trigynum</i>	EN
第4次 2019:	サンコカンアオイ	<i>Asarum trigynum</i>	EN
第4次 2018:	サンコカンアオイ	<i>Asarum trigynum</i>	EN
第4次 2017:	サンコカンアオイ	<i>Asarum trigynum</i>	EN
第4次 2015:	サンコカンアオイ	<i>Asarum trigynum</i>	EN
第4次:	サンコカンアオイ	<i>Asarum trigynum</i>	EN
第3次:	サンコカンアオイ	<i>Asarum trigynum</i>	EN
第2次:	サンコカンアオイ	<i>Heterotropa trigyna</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum trigynum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum trigynum* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カケロマカンアオイ

*Asarum trinacriforme***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

エクボサイシンに似て、雄蕊は 6 個、花柱は 3 個に半減するが、萼筒は長さ 6-9 mm とより小さい。口環が発達し、その周囲に襞がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

常緑樹林の林床に生育。

【分布域】

鹿児島県（奄美大島・加計呂麻島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カケロマカンアオイ	<i>Asarum trinacriforme</i>	EN
第4次 2019:	カケロマカンアオイ	<i>Asarum trinacriforme</i>	EN
第4次 2018:	カケロマカンアオイ	<i>Asarum trinacriforme</i>	EN
第4次 2017:	カケロマカンアオイ	<i>Asarum trinacriforme</i>	EN
第4次 2015:	カケロマカンアオイ	<i>Asarum trinacriforme</i>	EN
第4次:	カケロマカンアオイ	<i>Asarum trinacriforme</i>	EN
第3次:	カケロマカンアオイ	<i>Asarum trinacriforme</i>	EN
第2次:	カケロマカンアオイ	<i>Heterotropa trinacriformis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum trinacriforme has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Asarum trinacriforme is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤエヤマカンアオイ

*Asarum yaeyamense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 10-20 cm、卵形、光沢と雲紋状の斑がある。萼筒は長さ 10-15 mm、基部が広がった台形、緑褐色。萼裂片は開出し、卵状三角形、表面に短毛が密生、赤褐色または緑紫色。萼筒内壁に襞が隆起する。

【生活史】

多年草。花期は 3 月。

【生育環境】

常緑広葉樹の林床に生育。

【分布域】

西表島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤエヤマカンアオイ	<i>Asarum yaeyamense</i>	EN
第4次 2019:	ヤエヤマカンアオイ	<i>Asarum yaeyamense</i>	EN
第4次 2018:	ヤエヤマカンアオイ	<i>Asarum yaeyamense</i>	EN
第4次 2017:	ヤエヤマカンアオイ	<i>Asarum yaeyamense</i>	EN
第4次 2015:	ヤエヤマカンアオイ	<i>Asarum yaeyamense</i>	EN
第4次:	ヤエヤマカンアオイ	<i>Asarum yaeyamense</i>	EN
第3次:	ヤエヤマカンアオイ	<i>Asarum yaeyamense</i>	EN
第2次:	ヤエヤマカンアオイ	<i>Heterotropa yaeyamensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum yaeyamense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum yaeyamense* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イトスナヅル

*Cassytha pergracilis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

スナヅルに似るが、全体が繊細、茎が太さ 0.5 cm、花序の花数が 2-4 個と少なく、花も小さい。

【生活史】

つる性草本。

【生育環境】

海岸の砂地に生育。

【分布域】

久米島・伊平屋島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査で詳細な情報は得られなかったが、新産地が見つかった。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イトスナヅル	<i>Cassytha glabella</i>	CR
第4次 2019:	イトスナヅル	<i>Cassytha glabella</i>	CR
第4次 2018:	イトスナヅル	<i>Cassytha glabella</i>	CR
第4次 2017:	イトスナヅル	<i>Cassytha glabella</i>	CR
第4次 2015:	イトスナヅル	<i>Cassytha glabella</i>	CR
第4次:	イトスナヅル	<i>Cassytha glabella</i>	CR
第3次:	イトスナヅル	<i>Cassytha glabella</i>	CR
第2次:	イトスナヅル	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cassytha pergracilis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Cassytha pergracilis is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

テリハコブガシ

*Machilus pseudokobu***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 9-13 cm、長楕円形、革質、表面に光沢がある。葉柄は 15-27 mm。花序は円錐形。

【生活史】

常緑高木。

【生育環境】

やや湿潤な樹林に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島列島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	テリハコブガシ	<i>Machilus pseudokobu</i>	EN
第4次 2019:	テリハコブガシ	<i>Machilus pseudokobu</i>	EN
第4次 2018:	テリハコブガシ	<i>Machilus pseudokobu</i>	EN
第4次 2017:	テリハコブガシ	<i>Machilus pseudokobu</i>	EN
第4次 2015:	テリハコブガシ	<i>Machilus pseudokobu</i>	EN
第4次:	テリハコブガシ	<i>Machilus pseudokobu</i>	EN
第3次:	タブガシ	<i>Machilus pseudokobu</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Machilus pseudokobu has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Machilus pseudokobu* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ダイトウシロダモ

Neolitsea sericea var. *argentea***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シロダモに似るが、葉裏の毛が銀白色で、まったく赤みがなく、果実は長さ 13-15 mm、楕円形。

【生活史】

常緑中高木。

【生育環境】

低地の自然林内に生育。

【分布域】

北大東島・南大東島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数十個体が現存と報告されたが、数百個体が現存すると推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ダイトウシロダモ	<i>Neolitsea sericea</i> var. <i>argentea</i>	EN
第4次 2019:	ダイトウシロダモ	<i>Neolitsea sericea</i> var. <i>argentea</i>	EN
第4次 2018:	ダイトウシロダモ	<i>Neolitsea sericea</i> var. <i>argentea</i>	EN
第4次 2017:	ダイトウシロダモ	<i>Neolitsea sericea</i> var. <i>argentea</i>	EN
第4次 2015:	ダイトウシロダモ	<i>Neolitsea sericea</i> var. <i>argentea</i>	EN
第4次:	ダイトウシロダモ	<i>Neolitsea sericea</i> var. <i>argentea</i>	EN
第3次:	ダイトウシロダモ	<i>Neolitsea sericea</i> var. <i>argentea</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[準絶滅危惧(NT)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Neolitsea sericea var. *argentea* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Neolitsea sericea* var. *argentea* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae サトイモ科 Araceae

ツルギテンナンショウ

Arisaema abei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

植物体はホソバテンナンショウやムロウテンナンショウに似て高さ 90 cm に達する。花期は 5-6 月。仏炎苞は葉身に遅れて展開し全体緑色、筒部は円筒形で口辺部は狭く反曲し、舷部は筒部より短く、広卵径で基部がやや横に張り出し、内面および縁は平滑。花序付属体は有柄で棒状、黄緑色～黄褐色をおび、上部は仏炎苞筒口部から明らかに露出し、舷部に沿って前に曲がり、いちじるしいしわがある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

ブナ帯の林下。

【分布域】

四国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	4	1	0	0	0	8	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	シカ食害

件数 7	4	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツルギテンナンショウ	<i>Arisaema abei</i>	EN
第4次 2019:	ツルギテンナンショウ	<i>Arisaema abei</i>	EN
第4次 2018:	ツルギテンナンショウ	<i>Arisaema abei</i>	EN
第4次 2017:	ツルギテンナンショウ	<i>Arisaema abei</i>	EN
第4次 2015:	ツルギテンナンショウ	<i>Arisaema abei</i>	EN
第4次:	ツルギテンナンショウ	<i>Arisaema abei</i>	EN
第3次:	ツルギテンナンショウ	<i>Arisaema abei</i>	EN
第2次:	ツルギテンナンショウ	<i>Arisaema abei</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IA 類] 愛媛県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 高知県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema abei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema abei* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Deer feeding damage
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミテンナンショウ

Arisaema heterocephalum subsp. *heterocephalum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-50 cm、葉は 2 個まれに 3 個でほぼ同形、葉柄は長さ 5-17 cm。小葉は 15-19 枚、鳥足状。頂小葉はふつう側小葉よりも大型で、長さ 6-16 cm、幅 1-2.5 cm。側小葉は外側へしだいに小型となる。仏炎苞の筒部は基部では細く、上方に向かってやや太まり、長さ 4-5.5 cm、口辺部は反曲し、舷部は卵形から狭卵形、鋭尖頭。付属体は無柄、細い棒状で先端はやや頭状、雌花序では付属体は長さ 4-6.5 cm、雄花序では付属体は長さ 7-8 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の常緑樹林下。

【分布域】

奄美大島・徳之島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>heterocephalum</i>	EN
第4次 2019:	アマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>heterocephalum</i>	EN
第4次 2018:	アマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>heterocephalum</i>	EN
第4次 2017:	アマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>heterocephalum</i>	EN
第4次 2015:	アマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>heterocephalum</i>	EN
第4次:	アマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>heterocephalum</i>	EN
第3次:	アマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i> subsp. <i>heterocephalum</i>	EN
第2次:	アマミテンナンショウ	<i>Arisaema heterocephalum</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema heterocephalum subsp. *heterocephalum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema heterocephalum* subsp. *heterocephalum* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シコクテンナンショウ

Arisaema iyoanum subsp. *nakaianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オモゴウテンナンショウの亜種であるが、基本種に比べて全体に大型。仏炎苞は濃紫色、時に帯紫色、まれに基本種と同じ緑白色で、多数の白条があり、長さ 12-23 cm。舷部はより幅広く、卵形あるいは広卵状三角形で、付属体は棍棒状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林内や林縁、林道の路傍。

【分布域】

四国。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 13 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
8	3	2	0	0	0	13	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	道路工事
件数 10	4	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シコクテンナンショウ	<i>Arisaema iyoanum</i> subsp. <i>nakaianum</i>	EN
第4次 2019:	シコクテンナンショウ	<i>Arisaema iyoanum</i> subsp. <i>nakaianum</i>	EN
第4次 2018:	シコクテンナンショウ	<i>Arisaema iyoanum</i> subsp. <i>nakaianum</i>	EN
第4次 2017:	シコクテンナンショウ	<i>Arisaema iyoanum</i> subsp. <i>nakaianum</i>	EN
第4次 2015:	シコクテンナンショウ	<i>Arisaema iyoanum</i> subsp. <i>nakaianum</i>	EN
第4次:	シコクテンナンショウ	<i>Arisaema iyoanum</i> subsp. <i>nakaianum</i>	EN
第3次:	シコクテンナンショウ	<i>Arisaema iyoanum</i> subsp. <i>nakaianum</i>	EN
第2次:	シコクテンナンショウ	<i>Arisaema iyoanum</i> ssp. <i>nakaianum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧 IA 類] 愛媛県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 高知県[絶滅危惧 II 類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema iyoanum subsp. *nakaianum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema iyoanum* subsp. *nakaianum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマヒロハテンナンショウ

Arisaema longipedunculatum var. *yakumontanum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シコクヒロハテンナンショウの変種であるが、花序柄が葉柄より少し長い傾向がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

適湿な林床。

【分布域】

屋久島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	—	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema</i>	<i>longipedunculatum</i>	var.	CR
		<i>yakumontanum</i>			
第4次 2019:	ヤクシマヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema</i>	<i>longipedunculatum</i>	var.	CR
		<i>yakumontanum</i>			
第4次 2018:	ヤクシマヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema</i>	<i>longipedunculatum</i>	var.	CR
		<i>yakumontanum</i>			
第4次 2017:	ヤクシマヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema</i>	<i>longipedunculatum</i>	var.	CR
		<i>yakumontanum</i>			
第4次 2015:	ヤクシマヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema</i>	<i>longipedunculatum</i>	var.	CR
		<i>yakumontanum</i>			
第4次:	ヤクシマヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema</i>	<i>longipedunculatum</i>	var.	CR
		<i>yakumontanum</i>			
第3次:	ヤクシマヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema</i>	<i>longipedunculatum</i>	var.	CR
		<i>yakumontanum</i>			
第2次:	ヤクシマヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema</i>	<i>longipedunculatum</i>	var.	VU
		<i>yakumontanum</i>			
第1次:	—	—			—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Arisaema longipedunculatum var. *yakumontanum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema longipedunculatum* var. *yakumontanum* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハリマムシグサ

*Arisaema minus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 1-2 個。小葉は 5-9 枚、広線形～披針形でときに細鋸歯またはあらい波状の鋸歯があり、しばしば中脈に沿って白斑がある。花期は 3-4 月。仏炎苞は紫褐色から黄褐色でごくまれに緑色、筒部の口辺はやや狭く開出し、舷部は卵形から長卵形で先がやや伸び、前に曲がる。花序付属体は有柄で棒状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低山地の林下、林縁。

【分布域】

本州（兵庫県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハリマムシグサ	<i>Arisaema minus</i>	VU
第4次 2019:	ハリマムシグサ	<i>Arisaema minus</i>	VU
第4次 2018:	ハリマムシグサ	<i>Arisaema minus</i>	VU
第4次 2017:	ハリマムシグサ	<i>Arisaema minus</i>	VU
第4次 2015:	ハリマムシグサ	<i>Arisaema minus</i>	VU
第4次:	ハリマムシグサ	<i>Arisaema minus</i>	VU
第3次:	ハリマムシグサ	<i>Arisaema minus</i>	VU
第2次:	ハリマムシグサ	<i>Arisaema minus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

兵庫県[B ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema minus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema minus* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオミネテンナンショウ

*Arisaema nikoense subsp. australe***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ユモトマムシグサの亜種であるが、仏炎苞は紫褐色～帯紫色で小さく、長さ 6–12 cm で、舷部の最も幅の広い部分で幅 2.5–5 cm。付属体は棒状で、先端は径 1.5–4 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

温帯林の林床など。

【分布域】

静岡県・山梨県・近畿南部の大峰大台山系。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオミネテンナンショウ	<i>Arisaema nikoense</i> subsp. <i>australe</i>	EN
第4次 2019:	オオミネテンナンショウ	<i>Arisaema nikoense</i> subsp. <i>australe</i>	EN
第4次 2018:	オオミネテンナンショウ	<i>Arisaema nikoense</i> subsp. <i>australe</i>	EN
第4次 2017:	オオミネテンナンショウ	<i>Arisaema nikoense</i> subsp. <i>australe</i>	EN
第4次 2015:	オオミネテンナンショウ	<i>Arisaema nikoense</i> subsp. <i>australe</i>	EN
第4次:	オオミネテンナンショウ	<i>Arisaema nikoense</i> subsp. <i>australe</i>	EN
第3次:	オオミネテンナンショウ	<i>Arisaema nikoense</i> subsp. <i>australe</i>	EN
第2次:	オオミネテンナンショウ	<i>Arisaema nikoense</i> var. <i>australe</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 奈良県[絶滅危惧種,注目種]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，2020．まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—．静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，501pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema nikoense subsp. *australe* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema nikoense* subsp. *australe* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カミコウチテンナンショウ

Arisaema nikoense subsp. *brevicollum*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ユモトマムシグサの亜種。葉は 1 個、まれに 2 個。葉身は 5 小葉に分裂する。小葉は狭楕円形ないし倒披針形で両端はしだいに狭まり、ときに波状の不規則なあらい鋸歯がある。仏炎苞は高さ 4-9 cm、赤紫褐色で細斑があり、筒部は太い円筒状で上に向かって開き、口辺部はやや開出し、舷部は卵形で先はややとがる。花序付属体は仏炎苞とほぼ同じ色、有柄で太棒状～棍棒状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

亜高山帯の林下。

【分布域】

本州（岐阜県・長野県・福井県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	0	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	園芸採取	人の踏みつけ

件数		
1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カミコウチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> subsp. <i>brevicollum</i>	VU
第4次 2019:	カミコウチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> subsp. <i>brevicollum</i>	VU
第4次 2018:	カミコウチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> subsp. <i>brevicollum</i>	VU
第4次 2017:	カミコウチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> subsp. <i>brevicollum</i>	VU
第4次 2015:	カミコウチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> subsp. <i>brevicollum</i>	VU
第4次:	カミコウチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> subsp. <i>brevicollum</i>	VU
第3次:	カミコウチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> subsp. <i>brevicollum</i>	VU
第2次:	カミコウチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> var. <i>brevicollum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 長野県[絶滅危惧ⅡB類(EN)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema nikoense subsp. *brevicollum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Arisaema nikoense* subsp. *brevicollum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Road construction, Collecting plants in gardening, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae サトイモ科 Araceae

カラフトヒロハテンナンショウ

Arisaema sachalinense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 1 または 2 個。葉身は 5-9 小葉に分裂し、楕円形～披針形で先がとがり、全縁。花期は 5-6 月ごろ。仏炎苞は葉身に遅れて開き、緑色で半透明な白色の縦条があり、筒部の口辺は狭く開出し、舷部は卵形で先がとがる。花序付属体は有柄で棒状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林縁の笹やぶなど。

【分布域】

北海道東北部（利尻島・礼文島）、海馬島（サハリン）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カラフトヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema sachalinense</i>	EN
第4次 2019:	カラフトヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema sachalinense</i>	EN
第4次 2018:	カラフトヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema sachalinense</i>	EN
第4次 2017:	カラフトヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema sachalinense</i>	EN
第4次 2015:	カラフトヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema sachalinense</i>	EN
第4次:	カラフトヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema sachalinense</i>	EN
第3次:	カラフトヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema sachalinense</i>	EN
第2次:	カラフトヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema sachalinense</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arisaema sachalinense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Arisaema sachalinense is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae サトイモ科 Araceae

ヒンジモ

Lemna trisulca

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

植物体は水中に浮き、多数個が集まって群体を作る。葉状体は全体にほぼ左右相称の卵状長楕円形。長さ 7-10 mm、幅 2-4 mm。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湖沼や湿原の池塘、河川、水路。

【分布域】

北海道・本州・四国、南アメリカを除く世界に広く分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	3	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒンジモ	<i>Lemna trisulca</i>	VU
第4次 2019:	ヒンジモ	<i>Lemna trisulca</i>	VU
第4次 2018:	ヒンジモ	<i>Lemna trisulca</i>	VU
第4次 2017:	ヒンジモ	<i>Lemna trisulca</i>	VU
第4次 2015:	ヒンジモ	<i>Lemna trisulca</i>	VU
第4次:	ヒンジモ	<i>Lemna trisulca</i>	VU
第3次:	ヒンジモ	<i>Lemna trisulca</i>	VU
第2次:	ヒンジモ	<i>Lemna trisulca</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 福島県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 茨城県[絶滅] 栃木県[絶滅危惧 I 類(A ランク)] 群馬県[情報不足(DD)] 埼玉県[絶滅(EX)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 東京都(本土部)[区部：絶滅(EX) 本土部：絶滅(EX)] 東京都(北多摩)[絶滅(EX)] 神奈川県[絶滅(EX)] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 II 類(VU)] 愛媛県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2015. レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物— 8 植物 I（維管束植物）. 646pp. ぎょうせい，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lemna trisulca has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lemna trisulca* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20

years.	
Threat types:	Wetland development, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アッカゼキショウ

Tofieldia coccinea var. *akkana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未滿かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

チシマゼキショウの変種。ゲイビゼキショウに似るが、外花被片は内花被片の 1/2-1/3 程度の長さしかない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩の岩場に生育する。

【分布域】

岩手県岩泉町安家に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化はないと推察される。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	—	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アッカゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>akkana</i>	EN
第4次 2019:	アッカゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>akkana</i>	EN
第4次 2018:	アッカゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>akkana</i>	EN
第4次 2017:	アッカゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>akkana</i>	EN
第4次 2015:	アッカゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>akkana</i>	EN
第4次:	アッカゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>akkana</i>	EN
第3次:	アッカゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>akkana</i>	CR
第2次:	アッカゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>akkana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024 年 9 月 6 日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tofieldia coccinea var. *akkana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tofieldia coccinea* var. *akkana* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae チシマゼキショウ科 Tofieldiaceae

ゲイビゼキショウ

Tofieldia coccinea var. *geibiensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

チシマゼキショウの変種。花柄は長さ 6-10 mm。花茎は 15-25 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

石灰岩の岩場で水が滴り落ちるような環境に生育する。

【分布域】

岩手県狛鼻溪に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化はないと推測される。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番 目	2 番 目	3 番 目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ゲイビゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>geibiensis</i>	EN
第4次 2019:	ゲイビゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>geibiensis</i>	EN
第4次 2018:	ゲイビゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>geibiensis</i>	EN
第4次 2017:	ゲイビゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>geibiensis</i>	EN
第4次 2015:	ゲイビゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>geibiensis</i>	EN
第4次:	ゲイビゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>geibiensis</i>	EN
第3次:	ゲイビゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>geibiensis</i>	EN
第2次:	ゲイビゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>geibiensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024 年 9 月 6 日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tofieldia coccinea var. *geibiensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tofieldia coccinea* var. *geibiensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae オモダカ科 Alismataceae

トウゴクヘラオモダカ

Alisma rariflorum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヘラオモダカに似るが、葉身は狭長楕円形、葉柄との境界は明瞭。花茎の第 1 節から出る第 2 次花序柄はふつう 2 個。花弁は長さ 6-7 mm、大型で、上縁の鋸歯は大きく歯状になる。葯は紫褐色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

水田、湿地、湖沼の浅水域に生育。

【分布域】

本州～九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、22 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	6	3	4	0	0	22	2	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	湿地開発	管理放棄
件数 14	9	5

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トウゴクヘラオモダカ	<i>Alisma rariflorum</i>	VU
第4次 2019:	トウゴクヘラオモダカ	<i>Alisma rariflorum</i>	VU
第4次 2018:	トウゴクヘラオモダカ	<i>Alisma rariflorum</i>	VU
第4次 2017:	トウゴクヘラオモダカ	<i>Alisma rariflorum</i>	VU
第4次 2015:	トウゴクヘラオモダカ	<i>Alisma rariflorum</i>	VU
第4次:	トウゴクヘラオモダカ	<i>Alisma rariflorum</i>	VU
第3次:	トウゴクヘラオモダカ	<i>Alisma rariflorum</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[絶滅野生生物(EX ランク)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[準絶滅危惧(C ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[要保護生物(C)] 東京都(本土部)[区部:情報不足(DD) 本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(北多摩)[情報不足(DD)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[情報不足(DD)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Alisma rariflorum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Alisma rariflorum* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Natural succession, Wetland development, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウミショウブ

Enhalus acoroides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は砂の中を横に這い、太いひげ根を多数出す。葉はリボン状で長さ 50-150 cm、幅 1-2 cm。葉の基部は鞘となる。雌雄異株。雄花は開花時に花柄が切れ、水面に浮かぶ。花被片は白色。雌花を入れた鞘の柄は水深に応じて伸び、水面まで達する。萼片は赤褐色、花弁は灰緑白色。

【生活史】

沈水性の多年草。

【生育環境】

サンゴ礁のラグーンなど、波の弱い浅い海底の砂～砂泥に生育する。

【分布域】

八重山諸島に分布。国外では、インド洋～西太平洋の熱帯から亜熱帯地域に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数千個体の群生が報告された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウミシヨウブ	<i>Enhalus acoroides</i>	VU
第4次 2019:	ウミシヨウブ	<i>Enhalus acoroides</i>	VU
第4次 2018:	ウミシヨウブ	<i>Enhalus acoroides</i>	VU
第4次 2017:	ウミシヨウブ	<i>Enhalus acoroides</i>	VU
第4次 2015:	ウミシヨウブ	<i>Enhalus acoroides</i>	VU
第4次:	ウミシヨウブ	<i>Enhalus acoroides</i>	VU
第3次:	ウミシヨウブ	<i>Enhalus acoroides</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Enhalus acoroides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Enhalus acoroides* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムサシモ

*Najas ancistrocarpa***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は細く、よく分枝する。糸状の葉は長さ 1.5-2 cm、縁に細かい鋸歯がある。

【生活史】

1 年草で雌雄同株。

【生育環境】

湖沼、ため池、水田に生育する。

【分布域】

本州、四国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、4 メッシュで計数千個体の現存が推定された。
基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	4	0	0	4	1	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 池沼開発	水質汚濁	湿地開発
件数 2	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムサシモ	<i>Najas ancistrocarpa</i>	EN
第4次 2019:	ムサシモ	<i>Najas ancistrocarpa</i>	EN
第4次 2018:	ムサシモ	<i>Najas ancistrocarpa</i>	EN
第4次 2017:	ムサシモ	<i>Najas ancistrocarpa</i>	EN
第4次 2015:	ムサシモ	<i>Najas ancistrocarpa</i>	EN
第4次:	ムサシモ	<i>Najas ancistrocarpa</i>	EN
第3次:	ムサシモ	<i>Najas ancistrocarpa</i>	CR
第2次:	ムサシモ	<i>Najas ancistrocarpa</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 茨城県[絶滅危惧ⅠA類] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 神奈川県[絶滅(EX)] 石川県[絶滅(EX)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 滋賀県[要注目種] 大阪府[EX] 兵庫県[Aランク] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Najas ancistrocarpa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Najas ancistrocarpa* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Pond development, Water pollution, Wetland development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サクライソウ

Petrosavia sakuraii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 7-20 cm。淡黄色で茎は細く硬く、下部に多数の鱗片葉が互生する。鱗片葉は長さ 2-5 mm、広卵形、膜質。花は径 3.5-4 mm、茎頂の総状花序につき、花被片は 6 個。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林床に生育。

【分布域】

本州（長野県・岐阜県・石川県・福井県・京都府）・奄美大島、台湾・中国（海南島）・ベトナム・ミャンマー・スマトラ北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	2	2	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サクライソウ	<i>Petrosavia sakuraii</i>	EN
第4次 2019:	サクライソウ	<i>Petrosavia sakuraii</i>	EN
第4次 2018:	サクライソウ	<i>Petrosavia sakuraii</i>	EN
第4次 2017:	サクライソウ	<i>Petrosavia sakuraii</i>	EN
第4次 2015:	サクライソウ	<i>Petrosavia sakuraii</i>	EN
第4次:	サクライソウ	<i>Petrosavia sakuraii</i>	EN
第3次:	サクライソウ	<i>Petrosavia sakuraii</i>	EN
第2次:	サクライソウ	<i>Protolirion sakuraii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

石川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 京都府[絶滅寸前種] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Petrosavia sakuraii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Petrosavia sakuraii* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシタチドコロ

*Dioscorea asclepiadea***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地下茎は横にはう。茎は無毛、下方が立ち、上方はつる状になる。葉は互生、三角状披針形、質は薄いが硬く、長さ 8-17 cm、基部は心形、先は長くとがる。葉柄の基部に小突起はない。花被片は黄緑色で、平開する。蒴果は円形で長さも幅も 20 mm 内外。

【生活史】

つる性の多年草。花期は 4-5 月。

【生育環境】

林縁や林床に生育する。

【分布域】

九州南部。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで絶滅、13 メッシュで計数百個体の現存が推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	6	2	0	0	0	13	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシタチドコロ	<i>Dioscorea asclepiadea</i>	EN
第4次 2019:	ツクシタチドコロ	<i>Dioscorea asclepiadea</i>	EN
第4次 2018:	ツクシタチドコロ	<i>Dioscorea asclepiadea</i>	EN
第4次 2017:	ツクシタチドコロ	<i>Dioscorea asclepiadea</i>	EN
第4次 2015:	ツクシタチドコロ	<i>Dioscorea asclepiadea</i>	EN
第4次:	ツクシタチドコロ	<i>Dioscorea asclepiadea</i>	EN
第3次:	ツクシタチドコロ	<i>Dioscorea asclepiadea</i>	EN
第2次:	ツクシタチドコロ	<i>Dioscorea asclepiadea</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[準絶滅危惧(NT)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dioscorea asclepiadea has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Dioscorea asclepiadea is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タナカソウ

Sciaphila megastyla

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ウエマツソウとタナカソウは、スリランカで記載され、花被片がほぼ同形の単性花をつけ、雄花と雌花ともにその先端に付属体を持たず、雌花の花柱がこん棒状である点で共通する特徴を持つ *Sciaphila secundiflora* の新参異名とする考え方がごく最近まで支配的であった。しかしながら、これらの 3 種は、花序柄の長さ、花序における花のつき方、小花梗の長さ、花被片の数、雄花の直径、雄花の花被片の形、雌花の直径、花柱の位置、花柱の長さなどで区別できることが近年明らかになった。特に、タナカソウは、学名のとおり、花期では花柱が他種よりも著しく長いことで、容易に区別できる。

【生活史】

菌従属栄養性の多年生草本。

【生育環境】

暗い林床下に生育。

【分布域】

奄美大島・沖縄本島・西表島・与那国島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布する。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K. and A. Kinoshita and T. -C. Hsu, 2019. Emended description and resurrection of *Sciaphila tosaensis* and *S. megastyla* (Triuridaceae). *Phytotaxa*, 413: 231–243.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sciaphila megastyla has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sciaphila megastyla* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメツルアダン

Freycinetia williamsii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎の長さは 5-6 m、長いものは 10 m で、径 6-10 mm、葉は長さ 10-20 cm、幅 8-15 mm。肉穂花序は広楕円形で長さ 8-10 mm。花の軸には数枚の黄白色の総苞片がつく。集合果は広楕円形、長さ 2.5-3 cm、幅 2-2.5 cm。

【生活史】

常緑の藤本。

【生育環境】

林内に生育する。

【分布域】

琉球（西表島）に分布。国外では、台湾（蘭嶼）、フィリピン（バタン諸島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメツルアダン	<i>Freycinetia williamsii</i>	EN
第4次 2019:	ヒメツルアダン	<i>Freycinetia williamsii</i>	EN
第4次 2018:	ヒメツルアダン	<i>Freycinetia williamsii</i>	EN
第4次 2017:	ヒメツルアダン	<i>Freycinetia williamsii</i>	EN
第4次 2015:	ヒメツルアダン	<i>Freycinetia williamsii</i>	EN
第4次:	ヒメツルアダン	<i>Freycinetia williamsii</i>	EN
第3次:	ヒメツルアダン	<i>Freycinetia williamsii</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Freycinetia williamsii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Freycinetia williamsii is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミノシライトソウ

Chionographis hisauchiana subsp. *minoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シライトソウに似るが、上方の 4 花被片の長さが 3-6 mm で、葉が厚く、光沢がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩場の湿った土壤に生える。

【分布域】

岐阜県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミノシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>minoensis</i>	EN
第4次 2019:	ミノシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>minoensis</i>	EN
第4次 2018:	ミノシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>minoensis</i>	EN
第4次 2017:	ミノシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>minoensis</i>	EN
第4次 2015:	ミノシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>minoensis</i>	EN
第4次:	ミノシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>minoensis</i>	EN
第3次:	ミノシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>minoensis</i>	EN
第2次:	ミノシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>minoensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 原寛，1961．ミノシライトソウ．植物研究雑誌，36: 238-239．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Chionographis hisauchiana subsp. *minoensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chionographis hisauchiana* subsp. *minoensis* is listed as EN under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カワユエンレイソウ

*Trillium channellii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-40 cm。花卉は長さ 2.5-3.0 cm、3 個、広卵形、先はやや尖る。雄蕊は花柱と同長か短く、葯は花糸の 2 倍長になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の明るい林内に生育する。

【分布域】

北海道（東部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カワユエンレイソウ	<i>Trillium channellii</i>	EN
第4次 2019:	カワユエンレイソウ	<i>Trillium channellii</i>	EN
第4次 2018:	カワユエンレイソウ	<i>Trillium channellii</i>	EN
第4次 2017:	カワユエンレイソウ	<i>Trillium channellii</i>	EN
第4次 2015:	カワユエンレイソウ	<i>Trillium channellii</i>	EN
第4次:	カワユエンレイソウ	<i>Trillium channellii</i>	EN
第3次:	カワユエンレイソウ	<i>Trillium channellii</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 梅沢俊, 2007. 新北海道の花. 462pp. 北海道大学出版会, 札幌.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Trillium channellii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Trillium channellii* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae シオデ科 Smilacaceae

アラガタオオサンキライ

Smilax bracteata var. *verruculosa*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

サツマサンキライに似るが、小枝に粒状突起が密布し、ざらつく点で区別される。

【生活史】

常緑つる性低木。

【生育環境】

山地の常緑樹林に生育。

【分布域】

九州南部～琉球、台湾・インドシナ・フィリピン・ミクロネシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アラガタオオサンキライ	<i>Smilax bracteata</i> subsp. <i>verruculosa</i>	EN
第4次 2019:	アラガタオオサンキライ	<i>Smilax bracteata</i> subsp. <i>verruculosa</i>	EN
第4次 2018:	アラガタオオサンキライ	<i>Smilax bracteata</i> subsp. <i>verruculosa</i>	EN
第4次 2017:	アラガタオオサンキライ	<i>Smilax bracteata</i> subsp. <i>verruculosa</i>	EN
第4次 2015:	アラガタオオサンキライ	<i>Smilax bracteata</i> subsp. <i>verruculosa</i>	EN
第4次:	アラガタオオサンキライ	<i>Smilax bracteata</i> subsp. <i>verruculosa</i>	EN
第3次:	アラガタオオサンキライ	<i>Smilax bracteata</i> subsp. <i>verruculosa</i>	EN
第2次:	アラガタオオサンキライ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Smilax bracteata var. *verruculosa* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Smilax bracteata* var. *verruculosa* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カイコバイモ

*Fritillaria kaiensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-20 cm 程。茎の上部に 2 枚の葉が対生し、さらにその上部に 3 枚の葉が輪生する。茎の上部に 1 個の花を下向きにつける。花被片は 6 枚、長さ 1.2-2 cm で同形同大。内部の中肋や縁に突起はない。花被片の外部には淡紫色のぼんやりとした斑紋があり、中央にはやや濃い斑紋がある。アワコバイモに似るが、花被片は皿形、葯は白色。イズモコバイモにも似ているが、花糸や花柱は平滑、花柱は 3 中裂する。

【生活史】

多年草。花期は 3-5 月。初夏迄には地上部は枯れる。

【生育環境】

落葉広葉樹の明るい林の傾斜地に生育する。

【分布域】

本州（東京都・山梨県・静岡県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		

件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カイコバイモ	<i>Fritillaria kaiensis</i>	EN
第4次 2019:	カイコバイモ	<i>Fritillaria kaiensis</i>	EN
第4次 2018:	カイコバイモ	<i>Fritillaria kaiensis</i>	EN
第4次 2017:	カイコバイモ	<i>Fritillaria kaiensis</i>	EN
第4次 2015:	カイコバイモ	<i>Fritillaria kaiensis</i>	EN
第4次:	カイコバイモ	<i>Fritillaria kaiensis</i>	EN
第3次:	カイコバイモ	<i>Fritillaria kaiensis</i>	EN
第2次:	カイコバイモ	<i>Fritillaria kaiensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鳴橋直弘，2020. ユリ科コバイモ *Fritillaria japonica* group (Liliaceae). 423pp. 自費出版，大阪.
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，501pp.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018. 2018 山梨県レッドデータブック. 山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.

- 東京都環境局自然環境部，2023．東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版—．東京都環境局自然環境部，879pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fritillaria kaiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Fritillaria kaiensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメアマナ

*Gagea japonica***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

鱗茎は広卵形、長さ 8-15 mm、外皮は黒褐色。全草が繊弱。根出葉は 1 個、長さ 10-30 cm で幅は狭く約 2 mm。花茎は長さ 5-15 cm、2-5 花をつける。苞は 2 個で線形～披針形、下側の苞は長さ 2-4.5 cm、鈍頭、基部は漸先形、上面基部に縦溝がある。花被片は黄色、線状長楕円形～倒広披針形で長さ 7-10 mm。蒴果は球形、径 5 mm。

【生活史】

多年草。花期は 4-5 月。

【生育環境】

高原の草原や河川敷などの湿った原野や、落葉広葉樹林の疎林下に生える。

【分布域】

北海道・本州（北部～中部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	河川開発
件数	2	1

2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメアマナ	<i>Gagea japonica</i>	EN
第4次 2019:	ヒメアマナ	<i>Gagea japonica</i>	EN
第4次 2018:	ヒメアマナ	<i>Gagea japonica</i>	EN
第4次 2017:	ヒメアマナ	<i>Gagea japonica</i>	EN
第4次 2015:	ヒメアマナ	<i>Gagea japonica</i>	EN
第4次:	ヒメアマナ	<i>Gagea japonica</i>	EN
第3次:	ヒメアマナ	<i>Gagea japonica</i>	EN
第2次:	ヒメアマナ	<i>Gagea japonica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 岩手県[A ランク] 茨城県[絶滅危惧 I A 類] 栃木県[絶滅危惧 I 類 (A ランク)] 群馬県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 埼玉県[絶滅(EX)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(本土部)[区部：絶滅(EX) 本土部：絶滅(EX)] 山梨県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 長野県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，2020. まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—. 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，501pp.
- 茨城県生活環境部環境政策課，2012. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012年改訂版. 茨城県生活環境部環境政策課，263pp.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018. 2018 山梨県レッドデータブック. 山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.

- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002．長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物．維管束植物編．長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gagea japonica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gagea japonica* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution, River development
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメユリ

Lilium concolor

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

鱗茎は小さい卵形で、鱗片は白色で少数。茎は高さ 30-80 cm。葉は互生で多数つき、線形で長さ 5-10 cm、柄がなく、葉縁に半円形の突起がある。花は上向きに開き、花被片は倒披針形で長さ 3-4 cm、朱赤色で濃色の斑点がある。花粉は赤色。

【生活史】

多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

丘陵地や山地の草原に生える。

【分布域】

本州～九州、朝鮮半島・中国・アムール。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで絶滅し、11 メッシュで数百個体の現存が推定された。平均減少率は 37%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	8	0	0	0	0	11	4	3

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	管理放棄	園芸採取
件数 10	5	5

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i>	EN
第4次 2019:	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i>	EN
第4次 2018:	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i>	EN
第4次 2017:	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i>	EN
第4次 2015:	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i>	EN
第4次:	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i>	EN
第3次:	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i>	EN
第2次:	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i> var. <i>buschianum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 愛知県[絶滅(EX)] 京都府[絶滅寸前種] 大阪府[CR+EN] 兵庫県[絶滅(EX)] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ 類] 広島県[絶滅危惧Ⅰ 類(CR+EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA 類] 香川県[絶滅危惧Ⅰ 類(CR+EN)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 青森県レッドデータブック改訂検討会，2020．青森県の希少な野生生物—青森県レッドデータブック（2020 年版）—．青森県，397pp.
- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020—植物編—．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022．高知県レッドデータブック 2022 植物編．高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.

- 生物多様性広島戦略推進会議希少生物分科会，2022. 絶滅のおそれのある野生生物 第4版 レッドデータブックひろしま 2021. 広島県環境県民局自然環境課，761pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Lilium concolor has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lilium concolor* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ジンリョウユリ

Lilium japonicum var. *abeanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準変種のササユリに比べ、全体小型、葉が細く、花被片の基部が濃紅色、花期が早い。

【生活史】

多年草。花期は 5-6 月上旬。

【生育環境】

蛇紋岩地に生育する。

【分布域】

四国（徳島県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 シカ食害	園芸採取	その他動物食害
件数 3	2	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ジンリョウユリ	<i>Lilium japonicum</i> var. <i>abeanum</i>	EN
第4次 2019:	ジンリョウユリ	<i>Lilium japonicum</i> var. <i>abeanum</i>	EN
第4次 2018:	ジンリョウユリ	<i>Lilium japonicum</i> var. <i>abeanum</i>	EN
第4次 2017:	ジンリョウユリ	<i>Lilium japonicum</i> var. <i>abeanum</i>	EN
第4次 2015:	ジンリョウユリ	<i>Lilium japonicum</i> var. <i>abeanum</i>	EN
第4次:	ジンリョウユリ	<i>Lilium japonicum</i> var. <i>abeanum</i>	EN
第3次:	ジンリョウユリ	<i>Lilium japonicum</i> var. <i>abeanum</i>	EN
第2次:	ジンリョウユリ	<i>Lilium japonicum</i> var. <i>abeanum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[絶滅危惧 I A類(CR)] 徳島県[絶滅危惧 IA 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会，2001．徳島県の絶滅のおそれのある野生生物 徳島県版レッドデータブック．徳島県環境生活部環境政策課，438pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lilium japonicum var. *abeanum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Lilium japonicum* var. *abeanum* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Deer feeding damage, Collecting plants in gardening, Other animal feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サガミジョウロウホトトギス

Tricyrtis ishiana var. *ishiana*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は互生、卵状長楕円形で、基部の両側に耳片があり、茎を抱く。茎は下垂し、花は下向きに開き、花被片は黄色、鐘形で半開する。キイジョウロウホトトギスに似ているが、花が茎頂に 2-5 個、総状花序につく。外花被片の基部に長さ 5-6 mm の胞状の距があり、葯は黄色。

【生活史】

多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

岩場に生育する。

【分布域】

本州（神奈川県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サガミジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>ishiiiana</i>	EN
第4次 2019:	サガミジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>ishiiiana</i>	EN
第4次 2018:	サガミジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>ishiiiana</i>	EN
第4次 2017:	サガミジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>ishiiiana</i>	EN
第4次 2015:	サガミジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>ishiiiana</i>	EN
第4次:	サガミジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>ishiiiana</i>	EN
第3次:	サガミジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i>	EN
第2次:	サガミジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

神奈川県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館，2022．神奈川県レッドデータブック 2022 植物編．神奈川県，438pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tricyrtis ishiiiana var. *ishiiiana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Tricyrtis ishiiiana var. *ishiiiana* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

スルガジョウロウホトギス

Tricyrtis ishiiiana var. *surugensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は互生、卵状長楕円形で、基部の両側に耳片があり、茎を抱く。茎は下垂し、花は下向きに開き、花被片は黄色、鐘形で半開する。サガミジョウロウホトギスの変種で、外花被片の基部の距は長さ約 2 mm で小さく、葯が赤褐色。

【生活史】

多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

沢筋の空中湿度の高い湿り気のある岩場に生育する。

【分布域】

本州（静岡県・山梨県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	スルガジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>surugensis</i>	EN
第4次 2019:	スルガジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>surugensis</i>	EN
第4次 2018:	スルガジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>surugensis</i>	EN
第4次 2017:	スルガジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>surugensis</i>	EN
第4次 2015:	スルガジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>surugensis</i>	EN
第4次:	スルガジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>surugensis</i>	EN
第3次:	スルガジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>surugensis</i>	EN
第2次:	スルガジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>surugensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，2020．まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—．静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課，501pp.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018．2018 山梨県レッドデータブック．山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tricyrtis ishiiiana var. *surugensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tricyrtis ishiiiana* var. *surugensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キバナノツキヌキホトトギス

*Tricyrtis perfoliata***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は下垂し、長さ 50-70 cm、無毛。葉は披針形で長さ 8-17 cm、基部は茎を抱いて合着し、茎は葉の下部をつき抜けるようになる。花は黄色、葉腋に 1 個ずつつき、上向きに開く。花被片は斜めに開き、長楕円形で長さ 20-25 mm、外片の下部に腺毛があり、基部に膨らみがある。

【生活史】

多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林の溪谷の崖地に生育する。

【分布域】

九州（宮崎県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。3 メッシュで計数百個体の現存が確認されていた。園芸採取や崩落によって減少している。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	1	0	—	3	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キバナノツキヌキホトトギス	<i>Tricyrtis perfoliata</i>	EN
第4次 2019:	キバナノツキヌキホトトギス	<i>Tricyrtis perfoliata</i>	EN
第4次 2018:	キバナノツキヌキホトトギス	<i>Tricyrtis perfoliata</i>	EN
第4次 2017:	キバナノツキヌキホトトギス	<i>Tricyrtis perfoliata</i>	EN
第4次 2015:	キバナノツキヌキホトトギス	<i>Tricyrtis perfoliata</i>	EN
第4次:	キバナノツキヌキホトトギス	<i>Tricyrtis perfoliata</i>	EN
第3次:	キバナノツキヌキホトトギス	<i>Tricyrtis perfoliata</i>	CR
第2次:	キバナノツキヌキホトトギス	<i>Tricyrtis perfoliata</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧 I B 類(EN-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022．宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版．宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tricyrtis perfoliata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tricyrtis perfoliata* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者: 日本植物分類学会

Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

タネガシマムヨウラン

Aphyllorchis montana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根は水平に広がる。花茎は褐紫色でやや太く、高さ 40-80 cm、広卵形の鞘状鱗片葉がつき、やや茎を抱く。10-20 花が総状花序につき、花は淡黄色で紫色の小斑がある。萼片は長楕円状披針形で長さ 1 cm。側花弁は萼片と同長でやや幅が狭く、後方に反り、縁は外に巻く。唇弁も萼片とほぼ同長、爪部には短くて広い三角形の耳があり、耳を除けば卵状長楕円形、舷部は 3 裂し、側裂片は短い。

【生活史】

菌従属従栄養性で地生の多年草。花期は 9 月。

【生育環境】

自然林の林床に生育する。

【分布域】

九州（鹿児島県）・屋久島・種子島・トカラ列島・請島・徳之島・沖縄島・石垣島・西表島、台湾、中国南部・インド・スリランカ・タイ・フィリピン・ボルネオ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 9 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	8	0	0	0	9	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タネガシマムヨウラン	<i>Aphyllorchis montana</i>	EN
第4次 2019:	タネガシマムヨウラン	<i>Aphyllorchis montana</i>	EN
第4次 2018:	タネガシマムヨウラン	<i>Aphyllorchis montana</i>	EN
第4次 2017:	タネガシマムヨウラン	<i>Aphyllorchis montana</i>	EN
第4次 2015:	タネガシマムヨウラン	<i>Aphyllorchis montana</i>	EN
第4次:	タネガシマムヨウラン	<i>Aphyllorchis montana</i>	EN
第3次:	タネガシマムヨウラン	<i>Aphyllorchis montana</i>	EN
第2次:	タネガシマムヨウラン	<i>Aphyllorchis montana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aphyllorchis montana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Aphyllorchis montana is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマラン

*Apostasia nipponica***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 15 cm 内外で無毛。根の先端は落花生のさやのような形にふくれる。葉は 2-5 個互生、広披針形で長さ 1-3 cm、幅 1-1.5 cm、鋭尖頭。花は黄色、茎頂に数個つける。苞は広披針形で長さ 4 mm 内外。花被片は披針形で長さ約 3.5 mm、幅 1 mm、鋭頭。蕊柱は短く、雄蕊は 2 個。

【生活史】

地生の多年草。花期は 7 月。

【生育環境】

常緑広葉樹の自然林の林床に生育する。

【分布域】

九州（鹿児島県・宮崎県）・屋久島・種子島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では個体数過小評価の可能性があった。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	4	0	0	0	0	9	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマラン	<i>Apostasia wallichii</i> var. <i>nipponica</i>	EN
第4次 2019:	ヤクシマラン	<i>Apostasia wallichii</i> var. <i>nipponica</i>	EN
第4次 2018:	ヤクシマラン	<i>Apostasia wallichii</i> var. <i>nipponica</i>	EN
第4次 2017:	ヤクシマラン	<i>Apostasia wallichii</i> var. <i>nipponica</i>	EN
第4次 2015:	ヤクシマラン	<i>Apostasia wallichii</i> var. <i>nipponica</i>	EN
第4次:	ヤクシマラン	<i>Apostasia wallichii</i> var. <i>nipponica</i>	EN
第3次:	ヤクシマラン	<i>Apostasia wallichii</i> var. <i>nipponica</i>	EN
第2次:	ヤクシマラン	<i>Apostasia nipponica</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Apostasia nipponica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Apostasia nipponica is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナリヤラン

Arundina graminifolia

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は硬く、長さ 50-130 cm、15-25 葉を 2 列に互生する。葉は線状披針形で長さ 10-20 cm。総状花序は頂生して単一または分枝し、5-8 花を順につける。花は淡紅紫色で、径 4 cm。萼片と花弁は長さ 3 cm、披針形。唇弁は長さ 3 cm、やや卵形で 3 浅裂し、中央裂片は 2 浅裂する。唇弁の先端は紅紫色で、中央に黄色の細長い板状突起がある。

【生活史】

常緑で地生する多年草。

【生育環境】

低地の日当りのよい湿った草地に生育し、放棄畑や伐採跡地・山火事跡地などの環境にもみられる。

【分布域】

琉球（石垣島・西表島）、台湾・中国（南部）・スリランカ・インド・タイ・マレーシア・タヒチ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

自然遷移		
件数		
1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナリヤラン	<i>Arundina graminifolia</i>	EN
第4次 2019:	ナリヤラン	<i>Arundina graminifolia</i>	EN
第4次 2018:	ナリヤラン	<i>Arundina graminifolia</i>	EN
第4次 2017:	ナリヤラン	<i>Arundina graminifolia</i>	EN
第4次 2015:	ナリヤラン	<i>Arundina graminifolia</i>	EN
第4次:	ナリヤラン	<i>Arundina graminifolia</i>	EN
第3次:	ナリヤラン	<i>Arundina graminifolia</i>	EN
第2次:	ナリヤラン	<i>Arundina graminifolia</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arundina graminifolia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Arundina graminifolia is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キリシマエビネ

Calanthe aristulifera

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は丸く、エビネより小型。葉は 2-3 個ついて、倒卵状狭長楕円形、長さ 15-30 cm、幅 4-6 cm。花茎は高さ 20-40 cm、白色または微紅色の 10-15 花をややまばらにつけ、いくぶん垂れ気味に咲く。萼片と側花弁は卵状狭長楕円形で長さ 12-15 mm、鋭尖頭、側花弁が萼片よりやや幅が狭い。唇弁は側花弁と等長、扇状で先端は浅く 3 裂して時にはほとんど裂けない場合もあり、両縁は斜上し切頭、中央に 3 条の隆起線がある。エビネより葉は細く、先端が尖り、葉柄は比較的長く、裏面に短毛がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 4-5 月。

【生育環境】

山地の常緑広葉樹の自然林の林床に生育する。

【分布域】

本州（近畿地方南部・山口県）・四国・九州、朝鮮半島・台湾・中国（南東部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	管理放棄	

園芸採取		
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i> var. <i>kirishimensis</i>	EN
第4次 2019:	キシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i> var. <i>kirishimensis</i>	EN
第4次 2018:	キシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i> var. <i>kirishimensis</i>	EN
第4次 2017:	キシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i> var. <i>kirishimensis</i>	EN
第4次 2015:	キシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i> var. <i>kirishimensis</i>	EN
第4次:	キシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i> var. <i>kirishimensis</i>	EN
第3次:	キシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i> var. <i>kirishimensis</i>	EN
第2次:	キシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)] 三重県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 奈良県[絶滅寸前種]
和歌山県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 山口県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 徳島県[絶滅危惧 IA 類]
愛媛県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 高知県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅危惧 I 類]
種] 長崎県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 宮
崎県[絶滅危惧 I B 類(EN-g)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.
- 山口県環境生活部自然保護課，2019. レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物. <https://www.yamaguchi-rdb.com/site/index.php>（2024 年 9 月 6 日閲覧）.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Calanthe aristulifera has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Calanthe aristulifera is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タイワンエビネ

Calanthe formosana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は数 cm 匍匐し、先は長卵形の偽球茎となり、3-6 葉を束生。葉は倒披針形で長さ 35-50 cm。総状花序は偽球茎の基部から生じ、長さ 35-45 cm、多数の花を密につける。花は黄色、平開する。萼片と花弁は長さ 1.2 cm で楕円形。唇弁は長さ 8 mm で 3 裂し、側裂片は四角形、中央裂片は四角形、基部上面に 2 個の突起があり、基部に長さ 9 mm の円柱形の距がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生育する。

【分布域】

沖縄島・石垣島・西表島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 6 メッシュで計数百個体の自生が確認された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	0	2	0	0	0	6	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾エビネ	<i>Calanthe formosana</i>	EN
第4次 2019:	台湾エビネ	<i>Calanthe formosana</i>	EN
第4次 2018:	台湾エビネ	<i>Calanthe formosana</i>	EN
第4次 2017:	台湾エビネ	<i>Calanthe formosana</i>	EN
第4次 2015:	台湾エビネ	<i>Calanthe formosana</i>	EN
第4次:	台湾エビネ	<i>Calanthe formosana</i>	EN
第3次:	台湾エビネ	<i>Calanthe formosana</i>	EN
第2次:	台湾エビネ	<i>Calanthe formosana</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe formosana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

<i>Calanthe formosana</i> is listed as EN under criteria ACD. The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオキリシマエビネ

*Calanthe izuinsularis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は球状。葉は 2-3 個つき、毛がなく、長楕円形で長さ 30-45 cm、幅 8-12 cm、鋭頭、表面は光沢がある。花茎は高さ 30-60 cm、開出する短毛が子房とともにある。花は芳香があり、花茎にやや密に 15-25 花つく。萼片は白色またはかすかな藤紫色、狭卵形で長さ 15 mm、短鋭尖頭。側花弁は萼片と同色同形でやや幅が狭い。唇弁は萼片と同長、白色または微紅色、3 深裂し中央に 3 条の隆起線があり、中央のものが特に顕著、中裂片はくさび形で 2 裂する。

【生活史】

常緑で地生する多年草。花期は 4-5 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林下に生育する。

【分布域】

伊豆諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 14 メッシュで計数百個体の現存が推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
8	2	4	0	0	0	14	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

園芸用の採取が懸念される。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオキリシマエビネ	<i>Calanthe izuinsularis</i>	EN
第4次 2019:	オオキリシマエビネ	<i>Calanthe izuinsularis</i>	EN
第4次 2018:	オオキリシマエビネ	<i>Calanthe izuinsularis</i>	EN
第4次 2017:	オオキリシマエビネ	<i>Calanthe izuinsularis</i>	EN
第4次 2015:	オオキリシマエビネ	<i>Calanthe izuinsularis</i>	EN
第4次:	オオキリシマエビネ	<i>Calanthe izuinsularis</i>	EN
第3次:	オオキリシマエビネ	<i>Calanthe izuinsularis</i>	EN
第2次:	オオキリシマエビネ	<i>Calanthe izu-insularis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe izuinsularis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Calanthe izuinsularis is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トクノシマエビネ

*Calanthe tokunoshimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は立性で越年しても横伏せず、やや肉厚、花茎もより太くて長く 30-60 cm、着花数が多く 10-25 個、やや斜上気味に咲き、花も平均的に大きい。唇弁の裂片は比較的幅が狭い。

【生活史】

常緑で地生する多年草。

【生育環境】

林床に生える。

【分布域】

徳之島。分類学的な位置については再検討が必要とされている。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	2	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トクノシマエビネ	<i>Calanthe tokunoshimensis</i>	EN
第4次 2019:	トクノシマエビネ	<i>Calanthe tokunoshimensis</i>	EN
第4次 2018:	トクノシマエビネ	<i>Calanthe tokunoshimensis</i>	EN
第4次 2017:	トクノシマエビネ	<i>Calanthe tokunoshimensis</i>	EN
第4次 2015:	トクノシマエビネ	<i>Calanthe tokunoshimensis</i>	EN
第4次:	トクノシマエビネ	<i>Calanthe tokunoshimensis</i>	EN
第3次:	トクノシマエビネ	<i>Calanthe tokunoshimensis</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calanthe tokunoshimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calanthe tokunoshimensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ホテイラン

Calypso bulbosa var. *speciosa***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は 2-3 節からなり狭卵状、少数の根があり、葉を 1 枚上部につける。葉は 1.5-3 cm の葉柄があり、葉身は卵状楕円形、長さ 2.5-5 cm、幅 1.5-3 cm、縦じわが顕著で、縁は波状に縮れ、裏面は紫色。花茎は直立し、高さ 6-15 cm。先端に桃色の 1 花をつける。萼片および側花弁は開出し、線状披針形で鋭尖頭、長さ 2-3 cm、幅 3-4 mm。唇弁は下垂し、長さ 2.5-3.5 cm、白色で内面に淡褐色の斑点があり、背面は袋状にふくらみ、先は二又に分かれ距となって舷部より長く突出する。

【生活史】

地生の多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

亜高山の針葉樹林下に生える。

【分布域】

本州（中部地方・関東地方の一部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	産地局限

園芸採取		
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>speciosa</i>	EN
第4次 2019:	ホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>speciosa</i>	EN
第4次 2018:	ホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>speciosa</i>	EN
第4次 2017:	ホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>speciosa</i>	EN
第4次 2015:	ホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>speciosa</i>	EN
第4次:	ホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>speciosa</i>	EN
第3次:	ホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>speciosa</i>	EN
第2次:	ホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>japonica</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2023．東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版—．東京都環境局自然環境部，879pp.
- 埼玉県環境部自然環境課，2012．埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編．埼玉県．433pp.
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020．まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—．静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.

- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018. 2018 山梨県レッドデータブック. 山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002. 長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物. 維管束植物編. 長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calypso bulbosa var. *speciosa* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Calypso bulbosa var. *speciosa* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハハジマホザキラン

Crepidium hahajimense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20–30 cm。葉は数枚付き、卵状長楕円形～広楕円形で先は尖り、葉身は長さ 7–10 cm、幅 3–5 cm、基部は長さ 3–6 cm の柄に流れる。総状花序は 20–30 花をつける。花は唇弁が紫紅色、ほかは淡緑色で紫色を帯びる。シマホザキランに比べ、葉が広く、唇弁の色が異なり、唇弁の中裂片が短い。

【生活史】

地生の多年草。

【生育環境】

やや湿った樹林の林床に生育する。

【分布域】

小笠原諸島（母島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では新しい自生地が数多く報告された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	5	0	0	0	0	5	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハハジマホザキラン	<i>Malaxis hahajimensis</i>	EN
第4次 2019:	ハハジマホザキラン	<i>Malaxis hahajimensis</i>	EN
第4次 2018:	ハハジマホザキラン	<i>Malaxis hahajimensis</i>	EN
第4次 2017:	ハハジマホザキラン	<i>Malaxis hahajimensis</i>	EN
第4次 2015:	ハハジマホザキラン	<i>Malaxis hahajimensis</i>	EN
第4次:	ハハジマホザキラン	<i>Malaxis hahajimensis</i>	EN
第3次:	ハハジマホザキラン	<i>Malaxis hahajimensis</i>	EN
第2次:	ハハジマホザキラン	<i>Malaxis hahajimensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crepidium hahajimense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Crepidium hahajimense is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カンダヒメラン

*Crepidium kanda***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は円柱形、長さ 5–8 cm、5–6 葉を互生する。葉は楕円形、長さ 6–14 cm。総状花序は頂生し、長さ 9–15 cm、ややまばらに 17–40 花をつけ、苞葉は長さ 3–5 mm でつぼみより長い。花は帯紫緑色～濁紫色。萼片と花弁は長さ 4 mm、萼片は広楕円形、花弁は線形。唇弁は長さ 6 mm、三角状心形、先は 2 裂し、基部は耳状になり蕊柱を包む。

【生活史】

夏緑性の多年草。

【生育環境】

山地のサガリバナ林などの湿った林床や湿地に生える。

【分布域】

沖縄島・石垣島・西表島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カンダヒメラン	<i>Crepidium kanda</i>	EN
第4次 2019:	カンダヒメラン	<i>Crepidium kanda</i>	EN
第4次 2018:	カンダヒメラン	<i>Crepidium kanda</i>	EN
第4次 2017:	カンダヒメラン	<i>Crepidium kanda</i>	EN
第4次 2015:	カンダヒメラン	<i>Crepidium kanda</i>	EN
第4次:	カンダヒメラン	<i>Crepidium kanda</i>	EN
第3次:	カンダヒメラン	<i>Malaxis kanda</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Crepidium kanda has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Crepidium kanda* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オキナワセッコク

Dendrobium okinawense

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は束生し、細長く垂れ下がり、長さ 70 cm になる。葉は互生し、長さ 10-12 cm。総状花序は各節から出て、ふつう 2 花をつける。花は白色または淡紅色で、半開し、径 5-6 cm。萼片と花弁は長さ 4 cm。唇弁は長さ 3 cm、上面に 2 本の板状突起があり、その上に軟毛を密生する。

【生活史】

常緑で着生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林内にみられ、オキナワジイやオキナワウラジロガシの大木の樹幹に着生する。

【分布域】

沖縄島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキナワセッコク	<i>Dendrobium okinawense</i>	EN
第4次 2019:	オキナワセッコク	<i>Dendrobium okinawense</i>	EN
第4次 2018:	オキナワセッコク	<i>Dendrobium okinawense</i>	EN
第4次 2017:	オキナワセッコク	<i>Dendrobium okinawense</i>	EN
第4次 2015:	オキナワセッコク	<i>Dendrobium okinawense</i>	EN
第4次:	オキナワセッコク	<i>Dendrobium okinawense</i>	EN
第3次:	オキナワセッコク	<i>Dendrobium okinawense</i>	EN
第2次:	オキナワセッコク	<i>Dendrobium okinawense</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Dendrobium okinawense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Dendrobium okinawense is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメヤツシロラン

Didymoplexis micradenia

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

先端部から花後長さ 5 cm になる根を四方に出す。茎は直立し、白色、高さ 10-15 cm になり、膜質で三角形の長さ 3-4 mm の鱗片が 3-5 個まばらに圧着する。総状花序は短く、4-7 花をまばらにつける。花は乳白色、唇弁を除き 5 個の花被片は合着して唇形となり、上部はややかぶと形に内曲し先は 3 裂、下部は反曲し先は 2 裂する。唇弁は花筒より少し短く倒三角形で微鋸歯縁、ごくわずかに花筒と合着し内面に隆起がある。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。

【生育環境】

常緑樹林下に生える。

【分布域】

種子島・トカラ列島・琉球、台湾・東南アジア・オセアニア。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 7 メッシュで計数百個体と推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	7	0	0	0	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメヤツシロラン	<i>Didymoplexis minor</i>	EN
第4次 2019:	ヒメヤツシロラン	<i>Didymoplexis minor</i>	EN
第4次 2018:	ヒメヤツシロラン	<i>Didymoplexis minor</i>	EN
第4次 2017:	ヒメヤツシロラン	<i>Didymoplexis minor</i>	EN
第4次 2015:	ヒメヤツシロラン	<i>Didymoplexis minor</i>	EN
第4次:	ヒメヤツシロラン	<i>Didymoplexis minor</i>	EN
第3次:	ヒメヤツシロラン	<i>Didymoplexis pallens</i>	EN
第2次:	ヒメヤツシロラン	<i>Didymoplexis pallens</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Didymoplexis micradenia has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Didymoplexis micradenia* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コカゲラン

Didymoplexis siamensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

塊茎は紡錘形、頂端から紐状の根を伸ばす。花茎は直立、高さ 13-30 cm。茎頂の総状花序に約 15 花を密につける。花は淡紅色を帯びた白色、長さ約 5 mm。背萼片と 2 枚の側花弁、さらに 2 枚の側萼片はそれぞれ合着し筒状となる。唇弁は全縁で内面の先端に肉質にふくらんだ 2 裂する隆起がある。蕊柱は長さ 3-4 mm、先端に鉤形に突出する翼がある。奄美大島からは鉤状突起を欠く変種のアマミコカゲラン var. *amamiana* が報告されている。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 5-6 月。

【生育環境】

山地の常緑広葉樹林の林床に生える。

【分布域】

屋久島・種子島・奄美大島・石垣島・久米島、台湾・中国南部・タイ・ベトナム。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 6 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	0	2	0	0	0	6	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	森林伐採	

人の踏みつけ		
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コカゲラン	<i>Didymoplexiella siamensis</i>	CR
第4次 2019:	コカゲラン	<i>Didymoplexiella siamensis</i>	CR
第4次 2018:	コカゲラン	<i>Didymoplexiella siamensis</i>	CR
第4次 2017:	コカゲラン	<i>Didymoplexiella siamensis</i>	CR
第4次 2015:	コカゲラン	<i>Didymoplexiella siamensis</i>	CR
第4次:	コカゲラン	<i>Didymoplexiella siamensis</i>	CR
第3次:	コカゲラン	<i>Didymoplexiella siamensis</i>	CR
第2次:	コカゲラン	<i>Didymoplexiella siamensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Suetsugu, K., H. Morita, S. Higa and M. Yokota, 2019. New Locality of the mycoheterotrophic orchid *Didymoplexiella siamensis* (Orchidaceae) from Amami-Oshima Island, Kagoshima Prefecture, Japan. The Journal of Japanese Botany, 94: 190–192.
- Suetsugu, K. and T. C. Hsu, 2019. New combinations in the genus *Didymoplexis* (Orchidaceae; Epidendroideae; Gastrodieae), with a new variety of *D. siamensis* from Amami-Oshima Island, Japan. Phytotaxa, 388: 174–178.

- 末次健司・柿嶋聡, 2019. コカゲラン（ラン科）を石垣島に記録する. 植物地理・分類研究, 67: 157-159.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課, 2016. 改訂・鹿児島の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 499pp.
- 沖縄県環境部自然保護課, 2018. 改訂・沖縄の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課, 690pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Didymoplexis siamensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Didymoplexis siamensis* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Human trampling, Logging and wood harvesting
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月: 2025 年 3 月

ハコネラン

*Ehippianthus sawadanus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コイチヨウランに似るが、唇弁に歯牙があり、蕊柱の上方の両側に翼状の突起がある。また、葉が長楕円形で基部がやや鋭形になる点、花の色はより強い緑色であり、花期はやや早いこと、生育地が冷温帯であることも異なる。

【生活史】

地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

冷温帯の落葉広葉樹林の林床や林縁に生育する。

【分布域】

本州（埼玉県～静岡県・奈良県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	3	0	0	0	0	4	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハコネラン	<i>Ehippianthus sawadanus</i>	VU
第4次 2019:	ハコネラン	<i>Ehippianthus sawadanus</i>	VU
第4次 2018:	ハコネラン	<i>Ehippianthus sawadanus</i>	VU
第4次 2017:	ハコネラン	<i>Ehippianthus sawadanus</i>	VU
第4次 2015:	ハコネラン	<i>Ehippianthus sawadanus</i>	VU
第4次:	ハコネラン	<i>Ehippianthus sawadanus</i>	VU
第3次:	ハコネラン	<i>Ehippianthus sawadanus</i>	VU
第2次:	ハコネラン	<i>Ehippianthus sawadanus</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

埼玉県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020．まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—．静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018．2018 山梨県レッドデータブック．山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.
- 埼玉県環境部自然環境課，2012．埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編．埼玉県．433pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ehippianthus sawadanus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Ehippianthus sawadanus is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トラキチラン

Epipogium aphyllum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は樹枝状によく分枝する。茎は高さ 10-30 cm で肉質、まばらに長さ長さ 6-10 mm の膜質の鞘状葉がある。ややまばらに 2-8 個の花をつける。花は淡褐色、唇弁の内面や距に紅紫色の細点を敷く。萼片は披針形で長さ 12-14 mm。側花弁は萼片と同形でわずかに短い。唇弁は側花弁と同長で 3 裂し、側裂片は小型で卵形、中裂片は背面がふくらみ鈍頭、縦に 4-6 本の突起列があり縁は細波状。距は楕円形で唇弁より少し短く、長さ 6-8 mm。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 8-10 月。

【生育環境】

亜高山帯の針葉樹林の林床に生育する。

【分布域】

北海道・本州（東北～中部地方）、ユーラシア大陸の冷温帯～亜高山帯に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	その他

人の踏みつけ		
件数		
1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トラキチラン	<i>Epipogium aphyllum</i>	EN
第4次 2019:	トラキチラン	<i>Epipogium aphyllum</i>	EN
第4次 2018:	トラキチラン	<i>Epipogium aphyllum</i>	EN
第4次 2017:	トラキチラン	<i>Epipogium aphyllum</i>	EN
第4次 2015:	トラキチラン	<i>Epipogium aphyllum</i>	EN
第4次:	トラキチラン	<i>Epipogium aphyllum</i>	EN
第3次:	トラキチラン	<i>Epipogium aphyllum</i>	EN
第2次:	トラキチラン	<i>Epipogium aphyllum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[情報不足(DD)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020．まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—．静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.
- 山梨県森林環境部みどり自然課，2018．2018 山梨県レッドデータブック．山梨県森林環境部みどり自然課，290pp.

- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002．長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物．維管束植物編．長野県自然保護研究所，297pp.
- 栃木県環境森林部自然環境課・栃木県立博物館，2018．レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物．栃木県環境森林部自然環境課，991pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Epipogium aphyllum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Epipogium aphyllum is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
 Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アオキラン

Epipogium japonicum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は卵形の根茎から出て、高さ 10-20 cm、肉質で膜質の淡黄色の鞘状葉を 2-5 個つける。4-7 個の花が総状につき、苞とともに淡褐色。萼片は狭卵形で長さ 10-12 mm。側花弁は萼片より少し短く、紫の斑点がある。唇弁は下側にあり、広卵形、全縁、両面ともに紫の斑点があり、背面はふくれて微細な突起がある。距は長橢円形で前方に軽く曲がり、先端は太くやや 2 裂する。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 8-9 月。

【生育環境】

冷温帯の落葉樹林下に生える。

【分布域】

本州 (東北～中部地方)、台湾・中国 (南西部)。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	1	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	産地局限	その他

件数		
2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アオキラン	<i>Epipogium japonicum</i>	CR
第4次 2019:	アオキラン	<i>Epipogium japonicum</i>	CR
第4次 2018:	アオキラン	<i>Epipogium japonicum</i>	CR
第4次 2017:	アオキラン	<i>Epipogium japonicum</i>	CR
第4次 2015:	アオキラン	<i>Epipogium japonicum</i>	CR
第4次:	アオキラン	<i>Epipogium japonicum</i>	CR
第3次:	アオキラン	<i>Epipogium japonicum</i>	CR
第2次:	アオキラン	<i>Epipogium japonicum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山形県[絶滅 (EX)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[要注目種(N-Ⅲ部会注目種)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Epipogium japonicum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Epipogium japonicum is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Natural succession, Limited distribution, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

マツゲカヤラン

Gastrochilus ciliaris

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は細く、葉を互生する。葉は長さ 9-10 mm、幅 3.5-5 mm、楕円形または線状長楕円形で、不明瞭な 3 脈がある。花は淡黄緑色に紫色の点が入り、2-8 個密につく。萼片は狭長楕円形で長さ 2-2.5 mm。側花弁は広楕円形で長さ 2 mm。唇弁は帯白色で基部は嚢状、舷部は腎形で円凹頭、中心は淡黄緑色、全体に短毛がある。

【生活史】

常緑で着生の多年草。花期は 10-11 月。

【生育環境】

冷温帯の山地の常緑広葉樹林内の樹幹に着生する。

【分布域】

屋久島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マツゲカヤラン	<i>Gastrochilus ciliaris</i>	CR
第4次 2019:	マツゲカヤラン	<i>Gastrochilus ciliaris</i>	CR
第4次 2018:	マツゲカヤラン	<i>Gastrochilus ciliaris</i>	CR
第4次 2017:	マツゲカヤラン	<i>Gastrochilus ciliaris</i>	CR
第4次 2015:	マツゲカヤラン	<i>Gastrochilus ciliaris</i>	CR
第4次:	マツゲカヤラン	<i>Gastrochilus ciliaris</i>	CR
第3次:	マツゲカヤラン	<i>Saccolabium ciliare</i>	CR
第2次:	マツゲカヤラン	<i>Gastrochilus ciliaris</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧 I 類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrochilus ciliaris has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Gastrochilus ciliaris is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

ヤクシマヤツシロラン

Gastrodia albida

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

国内に産する開花時期の全草の高さが 10 cm 以下のヤツシロラン類の中で、唯一白い花をつけるため、他の種と容易に区別できる。花はふつう 2-3 個、直立し鐘形で白みがかった橙黄色、直径 4-7 mm、外面にいぼ状突起がある。萼と花弁は長さにして 4/5 以上合着し、5 浅裂した花冠状。花序は長さ 1-5 cm、果期には 10-30 cm と伸び、蒴果は長さ 1-1.7 cm の楕円体で帯白色。

【生活史】

菌従属栄養性の多年草。花期は 6 月。果期は 7 月。

【生育環境】

常緑広葉樹の自然林の林床に生育。

【分布域】

屋久島・口永良部島、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

樹木の伐採や造成、その後の表土流出や乾燥化の影響を受けている。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマヤツシロラン	<i>Gastrodia albida</i>	CR
第4次 2019:	ヤクシマヤツシロラン	<i>Gastrodia albida</i>	CR
第4次 2018:	ヤクシマヤツシロラン	<i>Gastrodia albida</i>	CR
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- Yahara, T. and M. Nakajima, 2018. A new record of *Gastrodia albida* TC Hsu & CM Kuo (Orchidaceae) from Yaku Island, Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 69: 203–208.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia albida has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gastrodia albida* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アマミヤツシロラン

*Gastrodia amamiana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎の高さが 2-4 cm、花筒の長さが 10-13 mm と小型で、萼片と花弁が癒合して筒状になり花筒が開かないという特徴を持つ。ツボミヤツシロランに似るが、(1)ツボミヤツシロランは唇弁が花筒に合着し、側花弁と区別がつかずペロリア化しているのに対し、本種の唇弁は側花弁化しないこと、(2)ツボミヤツシロランはずい柱の腹側に巨大な翼状突起物を持つが、本種はずい柱に突起物を持たないことで区別できる。

【生活史】

菌従属栄養性の多年生草本。

【生育環境】

暗い林床下に生育。

【分布域】

奄美大島・徳之島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., 2019. *Gastrodia amamiana* (Orchidaceae; Epidendroideae; Gastrodieae), a new completely cleistogamous species from Japan. *Phytotaxa*, 413: 225–230.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia amamiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gastrodia amamiana* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

ムニンヤツシロラン

Gastrodia boninensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は灰褐色で花時は高さ 8-10 cm、茎の先に緑色がかった褐色の花を 3-8 個つける。果時には果柄が伸びて 20 cm 以上になる。アキザキヤツシロランに似るが、唇弁基部の球体がより大きく、蕊柱の先端が発達し尖る。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 12-1 月。

【生育環境】

やや湿った林床に生育する。

【分布域】

小笠原諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。小笠原諸島父島では減少傾向にあるとされる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	3	0	1	0	0	8	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンヤツシロラン	<i>Gastrodia boninensis</i>	EN
第4次 2019:	ムニンヤツシロラン	<i>Gastrodia boninensis</i>	EN
第4次 2018:	ムニンヤツシロラン	<i>Gastrodia boninensis</i>	EN
第4次 2017:	ムニンヤツシロラン	<i>Gastrodia boninensis</i>	EN
第4次 2015:	ムニンヤツシロラン	<i>Gastrodia boninensis</i>	EN
第4次:	ムニンヤツシロラン	<i>Gastrodia boninensis</i>	EN
第3次:	ムニンヤツシロラン	<i>Gastrodia boninensis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024 年 9 月 6 日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Gastrodia boninensis is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツボミヤツシロラン

Gastrodia clausa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎の高さが 2-4 cm、花筒の長さが 9-13 mm と小型で、(1) 萼片と花弁が癒合して筒状になり、花筒が開かない。(2) 唇弁が花筒に合着し、側花弁と区別がつかずペロリア化している。(3) ずい柱の腹側に巨大な翼状突起物を持つという点で特徴づけられる。本種に似たアマミヤツシロランは、唇弁が側花弁化しておらず、ずい柱に突起物を持たないため、区別できる。

【生活史】

菌従属栄養性の多年生草本。

【生育環境】

暗い林床下に生育。

【分布域】

沖縄本島・西表島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., M. Nakama, H. Watanabe, T. Watanabe, T. Yamamoto and M. Yokota, 2013. First record of the mycoheterotrophic plant *Gastrodia clausa* (Orchidaceae) from Okinawa Island, Ryukyu Islands, Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 64: 123–126.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia clausa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gastrodia clausa* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シロテンマ

Gastrodia elata var. *pallens***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地上茎は直立、高さ 20-40 cm になり、膜質の鱗片葉をつける。8-20 個の花を総状につける。基準変種のオニノヤガラに似るが、地上茎は短く淡黄色、花が帯白色。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

丘陵地・山地の湿り気の有る明るい林床や草地に生育する。

【分布域】

本州・四国・九州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 18 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
15	3	0	0	0	0	18	0	6

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	道路工事	その他
件数 5	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シロテンマ	<i>Gastrodia elata</i> var. <i>pallens</i>	CR
第4次 2019:	シロテンマ	<i>Gastrodia elata</i> var. <i>pallens</i>	CR
第4次 2018:	シロテンマ	<i>Gastrodia elata</i> var. <i>pallens</i>	CR
第4次 2017:	シロテンマ	<i>Gastrodia elata</i> var. <i>pallens</i>	CR
第4次 2015:	シロテンマ	<i>Gastrodia elata</i> var. <i>pallens</i>	CR
第4次:	シロテンマ	<i>Gastrodia elata</i> var. <i>pallens</i>	CR
第3次:	シロテンマ	<i>Gastrodia elata</i> var. <i>pallens</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福島県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 埼玉県[情報不足(DD)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 富山県[情報不足] 静岡県[要注目種(N-Ⅲ部会注目種)] 京都府[絶滅寸前種] 奈良県[絶滅寸前種] 鳥取県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 広島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA 類] 高知県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 長崎県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2023. 東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版—. 東京都環境局自然環境部，879pp.
- 岩手県環境生活部自然保護課，2014. いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>（2024 年 9 月 6 日閲覧）.
- 京都府環境部自然環境保全課，2015. 京都府レッドデータブック 2015 第 2 巻：野生植物・菌類編. 京都府環境部自然環境保全課，611pp.

- 島根県環境生活部自然環境課，2013．改訂しまねレッドデータブック 2013 植物編―島根県の絶滅のおそれのある野生生物―．島根県環境生活部自然環境課，254pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Gastrodia elata var. *pallens* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Gastrodia elata var. *pallens* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Road construction, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

フユザキヤツシロラン

Gastrodia foetida

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

フユザキヤツシロランは、ハルザキヤツシロランと形態的に極めて似ている。このため、フユザキヤツシロランは長らくハルザキヤツシロランのシノニムとして扱われてきた。しかしながら、琉球列島以南に主に分布するフユザキヤツシロランは、中央よりやや下へ向かって顕著に膨らんだずい柱を持つ点で、日本本土（九州本土、四国、近畿、中部地方）に広く分布する狭義のハルザキヤツシロランと区別できることが近年明らかになった。その他、フユザキヤツシロランは、背丈がハルザキヤツシロランよりも高いことが多いものの、花はハルザキヤツシロランよりも小型ですぼんだ形の傾向にある。

【生活史】

菌従属栄養の多年草。

【生育環境】

主にスダジイ林の林床下に生育。

【分布域】

福江島・屋久島・石垣島・西表島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., R. Aoki and S. Kaneko, 2023. Resurrection and emended description of *Gastrodia foetida* (Orchidaceae). *Phytotaxa*, 583: 251–259.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia foetida has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gastrodia foetida* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トカラヤツシロラン

Gastrodia fontinalis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

長さ 20 mm 程度の大型の花をつける点で、ハルザキヤツシロランやフユザキヤツシロランと似るが、10 cm に満たない両種と異なり、20 cm 以上と大型の個体も見られ、花数も最大で 20 個近くつけることもある。特に地下部の形態が異なり、ハルザキヤツシロランやフユザキヤツシロランの根系は単純であるが、トカラヤツシロランはネットワーク状の塊茎システムを作り直径 70 cm ほどのコロニーとなることもある。

【生活史】

菌従属栄養性の多年生草本。

【生育環境】

暗い林床下に生育。

【分布域】

鹿児島県竹島・黒島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

局所的に分布。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., H. Umata and M. Yokota, 2014. First record of the mycoheterotrophic orchid *Gastrodia fontinalis* (Orchidaceae) from Takeshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Taiwania*, 59: 383–386.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia fontinalis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gastrodia fontinalis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナヨテンマ

Gastrodia gracilis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オニノヤガラに似るが、地上茎は細くて高さ 10-60 cm と低く、花も 5-15 個と少なく、花色は肌色をおびた淡褐色で、唇弁は三角形で基部は切形、縁は細裂しない。また、シロテンマにも似るが、花柄が花後に 5 cm ほどに伸張すること、茎の鱗片葉が円頭であることなどで区別できる。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林やスギ植林地などの落葉の厚い林床に生える。

【分布域】

本州（千葉県以西）・四国・九州、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 8 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	6	0	0	0	0	8	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	土地造成	産地局限
件数	1	1

3		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナヨテンマ	<i>Gastrodia gracilis</i>	EN
第4次 2019:	ナヨテンマ	<i>Gastrodia gracilis</i>	EN
第4次 2018:	ナヨテンマ	<i>Gastrodia gracilis</i>	EN
第4次 2017:	ナヨテンマ	<i>Gastrodia gracilis</i>	EN
第4次 2015:	ナヨテンマ	<i>Gastrodia gracilis</i>	EN
第4次:	ナヨテンマ	<i>Gastrodia gracilis</i>	EN
第3次:	ナヨテンマ	<i>Gastrodia gracilis</i>	EN
第2次:	ナヨテンマ	<i>Gastrodia gracilis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岡山県[情報不足] 広島県[絶滅(EX)] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-d)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会，2023．千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック（植物・菌類編）2023年改訂版．千葉県環境生活部自然保護課，579pp.
- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020—植物編—．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.

- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，2020．まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック 植物・菌類編—．静岡県くらし・環境部環境局自然保護課，501pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Gastrodia gracilis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gastrodia gracilis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Land development, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

タブガワヤツシロラン

Gastrodia uraiensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花は 1-5 個、直立し鐘形で暗茶色、わずかにうなずくか多少上向きに倒立して咲き、長さ約 13 mm、径約 8 mm、外面にわずかにいぼ状突起がある。萼片と花弁は長さにして約 2/3 まで合着し、5 浅裂した花冠状になる。花の形はトカラヤツシロランに似るが、小型で色が濃いことで区別できる。唇弁は基部が橙黄色で中部が緑白色、頂部が暗赤色。花序は長さ約 1-4 cm、果期には伸びて 30 cm に達する。蒴果は長さ約 3 cm の円筒形で深緑色。

【生活史】

菌従属栄養性の多年草。花期は 4 月。

【生育環境】

常緑広葉樹の自然林の林床に生育。

【分布域】

屋久島、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

樹木の伐採や造成、その後の表土流出や乾燥化の影響を受けている。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タブガワヤツシロラン	<i>Gastrodia uraiensis</i>	EN
第4次 2019:	タブガワヤツシロラン	<i>Gastrodia uraiensis</i>	EN
第4次 2018:	タブガワヤツシロラン	<i>Gastrodia uraiensis</i>	EN
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- Suetsugu, K., 2015. First record of the mycoheterotrophic orchid *Gastrodia uraiensis* (Orchidaceae) from Yakushima Island, Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 66: 193–196.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gastrodia uraiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gastrodia uraiensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トサカメオトラン

Geodorum densiflorum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は長さ 4-5 cm、2-3 葉を束生。葉は線状長楕円形、長さ 20-50 cm。総状花序は腋生し、點頭して密に多数の花をつけ、果実期には直立する。花は白色またはまれに淡紫色。萼片と花弁は長さ 1~1.1 cm、長楕円形。唇弁は長さ 1.1 cm で船形、上面に紫条があり、基部中央に黄色の突起がある。

【生活史】

常緑で地生する多年草。

【生育環境】

山地の明るい林縁や草地に生える。

【分布域】

琉球（沖縄島・阿嘉島・宮古島・伊良部島・下地島・多良間島・石垣島・西表島・鳩間島・小浜島・与那国島）、台湾・フィリピン・インド・タイ・インドシナ・マレーシア・ニューギニア・ポリネシア・オーストラリア・ニューカレドニア・フィジー諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番 目	2 番 目	3 番 目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トサカメオトラン	<i>Geodorum densiflorum</i>	EN
第4次 2019:	トサカメオトラン	<i>Geodorum densiflorum</i>	EN
第4次 2018:	トサカメオトラン	<i>Geodorum densiflorum</i>	EN
第4次 2017:	トサカメオトラン	<i>Geodorum densiflorum</i>	EN
第4次 2015:	トサカメオトラン	<i>Geodorum densiflorum</i>	EN
第4次:	トサカメオトラン	<i>Geodorum densiflorum</i>	EN
第3次:	トサカメオトラン	<i>Geodorum densiflorum</i>	EN
第2次:	トサカメオトラン	<i>Geodorum densiflorum</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Geodorum densiflorum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Geodorum densiflorum is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒロハツリシュスラン

Goodyera pendula f. *brachyphylla***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は少し基部が横に這い、しだいに下垂して長さ 10-20 cm、数葉を互生する。葉は卵形、長さ 2-3.5 cm。花茎の基部が湾曲して立ち上がり、白色花を一方に偏って多数つける。子房、苞、花柄はまばらに縮毛がある。萼片は狭卵形で長さ 4 mm。側花弁は狭倒披針形。唇弁は広卵形で萼片より少し短く基部は袋状、内面は平滑で毛がない。ツリシュスランの葉が広披針形であるのに対し、葉は卵形になる型を指すが、ときにツリシュスランと同一の場所で見られることがある。

【生活史】

常緑で着生の多年草。花期は 7-9 月。

【生育環境】

冷温帯の林内の樹上に着生する。

【分布域】

北海道・本州（中部以北）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	自然遷移	産地局限

園芸採取		
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒロハツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i> var. <i>brachyphylla</i>	EN
第4次 2019:	ヒロハツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i> var. <i>brachyphylla</i>	EN
第4次 2018:	ヒロハツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i> var. <i>brachyphylla</i>	EN
第4次 2017:	ヒロハツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i> var. <i>brachyphylla</i>	EN
第4次 2015:	ヒロハツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i> var. <i>brachyphylla</i>	EN
第4次:	ヒロハツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i> var. <i>brachyphylla</i>	EN
第3次:	ヒロハツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i> f. <i>brachyphylla</i>	EN
第2次:	ヒロハツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i> var. <i>brachyphylla</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[CR] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 長野県[情報不足(DD)] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Goodyera pendula f. *brachyphylla* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Goodyera pendula* f. *brachyphylla* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ダイサギソウ

Habenaria dentata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地上茎は卵形の塊根から出て、茎の下部に 4-5 葉をつけ、開花時の高さ 30-60 cm になる。葉は広披針形で幅 2-4 cm、縁は透明。茎上部に少数の鱗片葉があり、先端は糸状に伸長し、茎に圧着する。花茎にはやや多数の花を密に総状につける。花は白色、2-2.5 cm。背萼片は卵形、側萼片は斜卵形。側花弁は披針形で背萼片とともに直立しかぶとをつくる。唇弁は長さ 15-18 mm、3 裂し中裂片は線形で長さ 5-8 mm、側裂片は斜開しくさび状倒三角形で外縁に細歯牙がある。距は長さ 3-4 cm、前方に垂れ下がり、先端に向かって少し太くなる。

【生活史】

地生の多年草。花期は 8-10 月。

【生育環境】

日当りのよいやや湿った草原に生える。

【分布域】

本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・台湾・インドシナ・ヒマラヤ・マレー半島・フィリピン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 7 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	1	1	0	0	0	7	0	1

【存続を脅かす要因上位 3 項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 自然遷移	管理放棄	園芸採取
件数 5	4	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>	EN
第4次 2019:	ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>	EN
第4次 2018:	ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>	EN
第4次 2017:	ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>	EN
第4次 2015:	ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>	EN
第4次:	ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>	EN
第3次:	ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>	EN
第2次:	ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[最重要保護生物(A)] 神奈川県[絶滅(EX)] 石川県[情報不足(DD)] 静岡県[絶滅危惧 I B類(EN)] 和歌山県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 徳島県[絶滅危惧 IA 類] 高知県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 福岡県[絶滅危惧 I A 類] 佐賀県[絶滅危惧 I 類種] 長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 熊本県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 大分県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-g)] 鹿児島県[絶滅危惧 I 類] 沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Habenaria dentata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Habenaria dentata is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Abandonment of management, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イヨトンボ

Habenaria iyoensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

楕円体の塊根から地上茎が出て、開花時の高さ 10-25 cm、毛はなく、5-9 枚の葉を口ゼット状に地面に接してつける。葉は広倒披針形で長さ 3-7 cm、幅 1-2 cm。茎葉は数個つき、茎に圧着して目立たない。花茎には 5-12 花を総状にやや密生してつける。花は黄緑色で径 5-7 mm。背萼片は広卵形、側萼片は斜卵形。側花弁はやや弓形の披針状卵形、背萼片と側花弁とは寄り添ってかぶとをつくる。唇弁は基部で 3 裂、中裂片は広線形で長さ 3.5 mm、側裂片は糸状で長さ 4 mm。距は短円柱形で長さ約 6 mm。

【生活史】

地生の多年草。花期は 8-10 月。

【生育環境】

暖温帯の湿った原野や崖の草地に生える。

【分布域】

本州（千葉県以西）・四国・九州、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、7 メッシュで計数十個体の現存が推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	4	0	0	0	0	7	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	管理放棄	道路工事

園芸採取		
件数 5	4	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イヨトンボ	<i>Peristylus iyoensis</i>	EN
第4次 2019:	イヨトンボ	<i>Peristylus iyoensis</i>	EN
第4次 2018:	イヨトンボ	<i>Peristylus iyoensis</i>	EN
第4次 2017:	イヨトンボ	<i>Peristylus iyoensis</i>	EN
第4次 2015:	イヨトンボ	<i>Peristylus iyoensis</i>	EN
第4次:	イヨトンボ	<i>Peristylus iyoensis</i>	EN
第3次:	イヨトンボ	<i>Peristylus iyoensis</i>	EN
第2次:	イヨトンボ	<i>Habenaria iyoensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 東京都(伊豆諸島)[情報不足(DD)] 兵庫県[絶滅(EX)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長崎県[情報不足(DD)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-d)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 山口県環境生活部自然保護課，2019．レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物．<https://www.yamaguchi-rdb.com/site/index.php>（2024年9月6日閲覧）．
- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020—植物編—．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp．

- 千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会，2023．千葉県の保護上重要な野生生物
千葉県レッドデータブック（植物・菌類編）2023 年改訂版．千葉県環境生活部自然保護課，
579pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Habenaria iyoensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Habenaria iyoensis is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Abandonment of management, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオミズトンボ

Habenaria linearifolia var. *linearifolia*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は楕円体の塊根から出て、開花時の高さ 40-60 cm。葉は茎の下半部に数個つき線形で長さ 10-20 cm、幅 36 mm、先端はしだいに細くなって尖り、基部は鞘となり茎を抱く。茎上部には数個の鱗片葉がつく。花は白色で径 1-1.5 cm、花茎に 5-7 個を総状につける。背萼片は卵形で長さ 6-7 mm。側萼片は斜卵形で長さ約 7 mm。側花弁は半切三角形で側萼片より少し短い。唇弁は淡緑色で長さ約 1.5 cm、3 裂して十字形をなし、裂片は線形、側裂片は湾曲して下垂しふつう歯牙があり、中裂片は全縁。距は長さ 2.5-3 cm で先端に向かつてしだいに太くなる。ミズトンボに似るが、花は白色、唇弁の側裂片は下を向き、距が長い。

【生活史】

地生の多年草。花期は 8 月。

【生育環境】

主に冷温帯の日当たりのよい湿原に生える。

【分布域】

北海道・本州（中部地方以北）、ウスリー・アムール・中国（東北～東南部）・朝鮮半島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	3	0	1	0	0	4	2	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 園芸採取	湿地開発	土地造成
件数 5	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>linearifolia</i>	EN
第4次 2019:	オオミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>linearifolia</i>	EN
第4次 2018:	オオミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>linearifolia</i>	EN
第4次 2017:	オオミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>linearifolia</i>	EN
第4次 2015:	オオミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>linearifolia</i>	EN
第4次:	オオミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i> var. <i>linearifolia</i>	EN
第3次:	オオミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i>	CR
第2次:	オオミズトンボ	<i>Habenaria linearifolia</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[要調査野生生物(D ランク)] 岩手県[絶滅(Ex)] 宮城県[絶滅危惧 I 類(CR+EN)] 山形県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 福島県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 茨城県[絶滅危惧 I A 類] 栃木県[絶滅危惧 I 類(A ランク)] 群馬県[絶滅(Ex)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 長野県[絶滅(Ex)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 愛知県[絶滅(Ex)] 長崎県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 愛知県環境調査センター，2020．レッドデータブックあいち 2020—植物編—．愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Habenaria linearifolia var. *linearifolia* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Habenaria linearifolia* var. *linearifolia* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Wetland development, Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リュウキュウサギソウ

Habenaria pantlingiana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は直立し、花序を含めて長さ 30-60 cm、茎の中央部付近に 5-7 葉を束生する。葉は倒卵状長楕円形、長さ 10-17 cm、黄緑色。総状花序は頂生し、多数の花を密につける。花は淡緑色。萼片は卵状長楕円形で長さ 1.5 cm。側花弁は糸状線形、基部で深く 2 裂し、長さ 3 cm。唇弁は長さ 3 cm で 3 裂し、基部に長さ 1.5 cm の長い距がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林や二次林の湿った林床に生える。

【分布域】

宝島・奄美大島・徳之島・沖永良部島・沖縄島・西表島、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 土地造成		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウサギソウ	<i>Habenaria pantlingiana</i>	EN
第4次 2019:	リュウキュウサギソウ	<i>Habenaria pantlingiana</i>	EN
第4次 2018:	リュウキュウサギソウ	<i>Habenaria pantlingiana</i>	EN
第4次 2017:	リュウキュウサギソウ	<i>Habenaria pantlingiana</i>	EN
第4次 2015:	リュウキュウサギソウ	<i>Habenaria pantlingiana</i>	EN
第4次:	リュウキュウサギソウ	<i>Habenaria pantlingiana</i>	EN
第3次:	リュウキュウサギソウ	<i>Habenaria polytricha</i>	EN
第2次:	リュウキュウサギソウ	<i>Habenaria longitentaculata</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Habenaria pantlingiana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Habenaria pantlingiana is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.	
Threat types:	Land development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤチラン

Habenaria radiata

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は紡錘形。葉は狭長楕円形で鈍頭、口ゼット状につき、長さ 1-2.5 cm、幅 4-10 mm、花後に先端に珠芽を形成する。花茎は高さ 5-10 cm、淡緑色の花を多数つける。萼片は狭卵形でやや鈍頭、長さ約 2 mm。側花弁は卵形で長さ 1 mm。唇弁は花の上側に直立し三角状卵形で長さ 1.5 mm。基部は蕊柱を抱く。

【生活史】

地生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

高層湿原のミズゴケの中に生える。

【分布域】

南千島・北海道・本州（中北部）、サハリン・シベリア・ヨーロッパ・北アメリカの亜寒帯～冷温帯。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤチラン	<i>Hammarbya paludosa</i>	EN
第4次 2019:	ヤチラン	<i>Hammarbya paludosa</i>	EN
第4次 2018:	ヤチラン	<i>Hammarbya paludosa</i>	EN
第4次 2017:	ヤチラン	<i>Hammarbya paludosa</i>	EN
第4次 2015:	ヤチラン	<i>Hammarbya paludosa</i>	EN
第4次:	ヤチラン	<i>Hammarbya paludosa</i>	EN
第3次:	ヤチラン	<i>Malaxis paludosa</i>	EN
第2次:	ヤチラン	<i>Malaxis paludosa</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 秋田県[絶滅危惧種ⅠA 類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Habenaria radiata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Habenaria radiata* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

テツオサギソウ

Habenaria stenopetala

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地中に楕円形の塊根がある。茎は直立し、花序を含めて長さ 45-60 cm、茎の中央部付近に葉があつまり、5-8 葉を束生する。葉は狭長楕円形で長さ 12-15 cm、緑色。総状花序は頂生し、20-25 花を密につける。花は淡緑白色。萼片は長楕円形～卵形で長さ 8～10 mm。側花弁は線形、基部は耳状となり長さ 8～10 mm。唇弁は長さ 1 cm、基部で 3 裂し、裂片は線形、基部に長さ 1.5-1.7 cm の線形の距がある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

低地から山地の自然林の陰湿な林床に生える。

【分布域】

石垣島・西表島、台湾、フィリピン・ヒマラヤ・タイ・ベトナム。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	テツオサギソウ	<i>Habenaria stenopetala</i>	EN
第4次 2019:	テツオサギソウ	<i>Habenaria stenopetala</i>	EN
第4次 2018:	テツオサギソウ	<i>Habenaria stenopetala</i>	EN
第4次 2017:	テツオサギソウ	<i>Habenaria stenopetala</i>	EN
第4次 2015:	テツオサギソウ	<i>Habenaria stenopetala</i>	EN
第4次:	テツオサギソウ	<i>Habenaria stenopetala</i>	EN
第3次:	テツオサギソウ	<i>Habenaria stenopetala</i>	EN
第2次:	テツオサギソウ	<i>Habenaria delessertiana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Habenaria stenopetala has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Habenaria stenopetala* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

フジチドリ

*Hemipilia fujisanensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は楕円形の多肉根より出て高さ 4-7 cm、基部に 1 葉をつける。葉は披針状楕円形で長さ 4-5 cm、幅 7-10 mm、両端は細くとがり、縁は波打つ。花は淡紅色、長さ 5-6 mm、3-5 個を花茎の片側にまばらにつける。背萼片、側萼片、側花弁が重なりかぶとをつくる。唇弁は舌状楕円形で萼片より少し長く、側裂片は小さく目立たない。距は萼片より短く、前方に曲がり、先端は円い。

【生活史】

着生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

冷温帯の落葉広葉樹林の樹幹に着生する。

【分布域】

北海道・本州（中部以北）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで絶滅し、1 メッシュで数個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	2	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	フジチドリ	<i>Neottianthe fujisanensis</i>	EN
第4次 2019:	フジチドリ	<i>Neottianthe fujisanensis</i>	EN
第4次 2018:	フジチドリ	<i>Neottianthe fujisanensis</i>	EN
第4次 2017:	フジチドリ	<i>Neottianthe fujisanensis</i>	EN
第4次 2015:	フジチドリ	<i>Neottianthe fujisanensis</i>	EN
第4次:	フジチドリ	<i>Neottianthe fujisanensis</i>	EN
第3次:	フジチドリ	<i>Neottianthe fujisanensis</i>	EN
第2次:	フジチドリ	<i>Gymnadenia fujisanensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 秋田県[絶滅危惧種 I A 類(CR)]
 栃木県[絶滅危惧 I 類(A ランク)] 神奈川県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 新潟県[絶滅危惧 I 類(EN)] 山梨県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 静岡県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hemipilia fujisanensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Hemipilia fujisanensis is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イワチドリ

*Hemipilia keiskei***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は紡錘状に肥厚する根より出て高さ 5-15 cm、茎の中央より下に 1 葉がある。葉は長楕円形で長さ 3-7 cm、幅 6-15 mm、基部は茎を抱く。花は淡紅紫色で、数個が一方に傾いてつく。背萼片は楕円形、長さ 3.5-4.5 mm。側萼片は斜長楕円形、背萼片より少し短い。側花弁は斜卵形、背萼片と同長で縁に紅紫色の斑点がある。唇弁は長さ 10-12 mm、3 深裂し、中裂片の先端がさらに 2 裂する。距は白色、長さ 1.5 mm。

【生活史】

着生の多年草。花期は 4-6 月。

【生育環境】

谷間の河川沿いの岩上などに生育する。

【分布域】

本州（中部地方・近畿地方）・四国・伊豆諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、10 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
4	5	0	0	1	0	10	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	河川開発

件数		
10	6	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イワチドリ	<i>Amitostigma keiskei</i>	EN
第4次 2019:	イワチドリ	<i>Amitostigma keiskei</i>	EN
第4次 2018:	イワチドリ	<i>Amitostigma keiskei</i>	EN
第4次 2017:	イワチドリ	<i>Amitostigma keiskei</i>	EN
第4次 2015:	イワチドリ	<i>Amitostigma keiskei</i>	EN
第4次:	イワチドリ	<i>Amitostigma keiskei</i>	EN
第3次:	イワチドリ	<i>Amitostigma keiskei</i>	EN
第2次:	イワチドリ	<i>Amitostigma keiskei</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 富山県[絶滅+野生絶滅] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛知県[絶滅(EX)] 三重県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 兵庫県[野生絶滅(EW)] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 愛知県環境調査センター，2020. レッドデータブックあいち 2020—植物編—. 愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.
- 岐阜県環境生活部自然環境保全課，2014. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物（植物編）改訂版—岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版—. <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/11109.html>（2024 月 9 月 5 日閲覧）.

- 兵庫県環境部自然鳥獣共生課, 2020. 兵庫県版レッドデータブック 2020 (植物・植物群落). https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/%21drafts/leg_8362 (2024 年 9 月 5 日閲覧).
- 高知県レッドデータブック (植物編) 改訂委員会, 2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課, 229pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Hemipilia keiskei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hemipilia keiskei* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, River development
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月: 2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

ムロトムヨウラン

Lecanorchis taiwaniana

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

トサノクロムヨウランに似るが、次の点で区別が可能である。1) 花茎や花序がより長いこと、2) 萼片および花弁が帯黄白色で幅が狭いこと、3) 唇弁の先端部がごくわずかに3裂すること、4) 結実個体が茶褐色であること、5) 蒴果が斜上に着くこと、6) 蕊柱の長さの2分の1以上が唇弁と癒合する、等の点で区別が可能である。

【生活史】

菌従属栄養性の多年生草本。

【生育環境】

暗い森の林床に生育。

【分布域】

福江島・鹿児島本土・大隅諸島・吐喝喇列島・奄美諸島・沖縄諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

上記分布域において局所的に分布。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Suetsugu, K., T. C. Hsu, H. Fukunaga and S. Sawa, 2016. Epitypification, emendation and synonymy of *Lecanorchis taiwaniana* (Vanilleae, Vanilloideae, Orchidaceae). *Phytotaxa*, 265: 157–163.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Lecanorchis taiwaniana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Lecanorchis taiwaniana is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Unknown

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

オオフガクスズムシソウ

Liparis koreojaponica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

フガクスズムシに似るが、地生であり、より大きく、花序は 15-35 cm と長く、花はふつう 1 cm 以上の間隔でつき、つき方がまばらである。

【生活史】

地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

冷温帯～亜寒帯の樹林の林床に生育する。

【分布域】

北海道、朝鮮半島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオフガクスズムシソウ	<i>Liparis koreojaponica</i>	EN
第4次 2019:	オオフガクスズムシソウ	<i>Liparis koreojaponica</i>	EN
第4次 2018:	オオフガクスズムシソウ	<i>Liparis koreojaponica</i>	EN
第4次 2017:	オオフガクスズムシソウ	<i>Liparis koreojaponica</i>	EN
第4次 2015:	オオフガクスズムシソウ	<i>Liparis koreojaponica</i>	EN
第4次:	オオフガクスズムシソウ	<i>Liparis koreojaponica</i>	EN
第3次:	コウライスズムシソウ	<i>Liparis koreana</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Tsutsumi, C., T. Yukawa, N. S. Lee, S. S. Lee and M. Kato, 2008. A new species of *Liparis* from Japan and Korea. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 59: 211–218.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Liparis koreojaponica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Liparis koreojaponica* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメジガバチソウ

Liparis krameri var. *shichitoana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は 2 個あって広卵形。花茎は直立し、花は淡緑色、黒褐色の筋が入る。唇弁の先は急に曲がって下垂し、舷部は狭倒長楕円形、縁がわずかに外曲する。基準変種のジガバチソウに比べ、全体に小型。

【生活史】

地生の多年草。

【生育環境】

樹林内に生育。

【分布域】

伊豆諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。別途行われた調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
5	2	0	0	0	0	7	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i> var. <i>shichitoana</i>	EN
第4次 2019:	ヒメジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i> var. <i>shichitoana</i>	EN
第4次 2018:	ヒメジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i> var. <i>shichitoana</i>	EN
第4次 2017:	ヒメジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i> var. <i>shichitoana</i>	EN
第4次 2015:	ヒメジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i> var. <i>shichitoana</i>	EN
第4次:	ヒメジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i> var. <i>shichitoana</i>	EN
第3次:	ヒメジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i> var. <i>shichitoana</i>	CR
第2次:	ヒメジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i> var. <i>shichitoana</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編），1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類. 305pp., 208pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Liparis krameri var. *shichitoana* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Liparis krameri* var. *shichitoana* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムニンボウラン

*Luisia boninensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 10-20 cm で葉鞘に被われる。葉は多肉の円柱状線形、長さ 6-12 cm。葉腋から小さな花を咲かせる。ボウランに似るが、花はより小さく、萼片と側花弁の長さは 4-5 mm、唇弁の先の 2 裂片は短い。

【生活史】

常緑で着生の多年草。

【生育環境】

湿った樹幹や岩上に着生する。

【分布域】

小笠原諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンボウラン	<i>Luisia boninensis</i>	EN
第4次 2019:	ムニンボウラン	<i>Luisia boninensis</i>	EN
第4次 2018:	ムニンボウラン	<i>Luisia boninensis</i>	EN
第4次 2017:	ムニンボウラン	<i>Luisia boninensis</i>	EN
第4次 2015:	ムニンボウラン	<i>Luisia boninensis</i>	EN
第4次:	ムニンボウラン	<i>Luisia boninensis</i>	EN
第3次:	ムニンボウラン	<i>Luisia boninensis</i>	EN
第2次:	ムニンボウラン	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Luisia boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Luisia boninensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

タンザワサカネラン

Neottia inagakii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は乳白色で高さ 8-20 cm。全体に細かい腺毛が生える。総状花序は長さ 7-10 cm、10-20 花をつける。花はほとんど開かず、乳白色。背萼片は卵形、長さ 2.7-3 mm、側萼片は斜状卵形で長さ 2.6-3 mm。側花弁は長さ 2.5-3.3 mm、幅 1.5-1.9 mm で、斜めの鈍卵形。唇弁は中央付近から 2-3 裂する。ツクシサカネランに似るが、花が開かず小さく、唇弁の形も異なる。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。

【生育環境】

山地のモミ林、スダジイ林、落葉広葉樹林、スギ植林地などの林床に生育する。

【分布域】

本州（宮城県・福島県・茨城県・神奈川県・山梨県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タンザワサカネラン	<i>Neottia inagakii</i>	EN
第4次 2019:	タンザワサカネラン	<i>Neottia inagakii</i>	EN
第4次 2018:	タンザワサカネラン	<i>Neottia inagakii</i>	EN
第4次 2017:	タンザワサカネラン	<i>Neottia inagakii</i>	EN
第4次 2015:	タンザワサカネラン	<i>Neottia inagakii</i>	EN
第4次:	タンザワサカネラン	<i>Neottia inagakii</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[情報不足②現状不明種] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 末次健司，2018．タンザワサカネラン（ラン科）を中部地方に記録する．植物地理・分類研究，66: 39-41．
- Yagame, T., T. Katsuyama and T. Yukawa, 2008. A new species of *Neottia* (Orchidaceae) from the Tanzawa mountains, Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 59: 219-222.
- 山下由美・山下俊之・移川仁・小笠原宏晃・黒沢高秀，2013．東北地方新産のタンザワサカネラン(ラン科)とその生育地および花の形態．分類，13: 119-122．

- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館，2022. 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編. 神奈川県，438pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Neottia inagakii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Neottia inagakii* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

クスクスヨウラクラン

Oberonia anthropophora var. *arisanensis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は下垂し、長さ 2-5 cm、4-10 枚またはそれ以上の葉を 2 列に接してつける。葉は線状半披針形、長さ 2-4.5 cm、幅 3-5 mm。茎頂に花茎をつけ、多数の花をつける。花は赤みを帯びた橙色～赤褐色。萼片は卵形で長さ 0.7-1.5 mm。唇弁は長さ 1-1.3 mm で 3 裂し、側裂片は卵状楕円形で長さ 0.4-0.5 mm、中央裂片は楕円形または四角形、先は 2 裂する。ヨウラクランに比べ唇弁の中央裂片がより深く 2 裂し、先端が尖るとされる。

【生活史】

常緑で着生の多年草。

【生育環境】

空中湿度の高い自然林内の樹幹に生える。

【分布域】

徳之島・沖縄島・西表島・魚釣島、台湾。国内のものは分類学的な再検討が必要とされる。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数百個体と推定された。森林の伐採の影響が指摘されていた。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クスクスヨウラクラン	<i>Oberonia anthropophora</i> var. <i>arisanensis</i>	EN
第4次 2019:	クスクスヨウラクラン	<i>Oberonia anthropophora</i> var. <i>arisanensis</i>	EN
第4次 2018:	クスクスヨウラクラン	<i>Oberonia anthropophora</i> var. <i>arisanensis</i>	EN
第4次 2017:	クスクスヨウラクラン	<i>Oberonia anthropophora</i> var. <i>arisanensis</i>	EN
第4次 2015:	クスクスヨウラクラン	<i>Oberonia anthropophora</i> var. <i>arisanensis</i>	EN
第4次:	クスクスヨウラクラン	<i>Oberonia anthropophora</i> var. <i>arisanensis</i>	EN
第3次:	クスクスヨウラクラン	<i>Oberonia anthropophora</i> var. <i>arisanensis</i>	EN
第2次:	クスクスヨウラクラン	<i>Oberonia anthropophora</i> var. <i>arisanensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Chen, S. C., P. Ormerod and J. J. Wood, 2009. *Oberonia*. in Wu, Z.Y., P. H. Raven and D. Y. Hong, (eds.) Flora of China. Vol.25 (Orchidaceae). 236–245. Science Press, Beijing, and Missouri Botanical Garden Press, St. Louis.
- Su, H. J., 2000. *Oberonia*. in Editorial committee of the Flora of Taiwan (eds.) Flora of Taiwan 2nd edition, volume 5, 981–985., Department of Botany, National Taiwan University, Taipei, Taiwan.

- Tsutsumi, C., A. Maeda, A. Abe, Y. Yamashita, T. Yukawa and S. Kakishima, 2021. Genetic diversification of *Oberonia* (Orchidaceae) in Japan, with implications for the species taxonomy. Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series B (Botany), 47: 131–141.
- 東京都環境局自然環境部, 2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024 年 9 月 6 日閲覧).
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会, 2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課, 380pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Oberonia anthropophora var. *arisanensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Oberonia anthropophora* var. *arisanensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月: 2025 年 3 月

オオバヨウラ克蘭

*Oberonia makinoi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は長さ 1-4 cm で束生、下垂し、4-10 個の扁平な葉を 2 列に互生する。葉は長さ 7.3-29 mm、幅 3.2-7.0 mm。茎頂に花序をつけ、花を多数密につける。花は濃橙色。類似のヨウラ克蘭は葉の長さ 5.5-15.8 mm、幅 1.5-3.2 mm で、花期が 5-6 月と早く、花の色はふつうより淡い。

【生活史】

常緑で着生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林の樹幹などに着生する。

【分布域】

本州（伊豆諸島など）・四国・九州・琉球。琉球のものは分類学的検討が必要とされる。ヨウラ克蘭 *Oberonia japonica* と区別されないことがあり、国外分布などは不明確。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	2	0	1	0	0	4	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因 園芸採取	自然遷移	森林伐採

件数 4	3	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオバヨウラクラン	<i>Oberonia makinoi</i>	CR
第4次 2019:	オオバヨウラクラン	<i>Oberonia makinoi</i>	CR
第4次 2018:	オオバヨウラクラン	<i>Oberonia makinoi</i>	CR
第4次 2017:	オオバヨウラクラン	<i>Oberonia makinoi</i>	CR
第4次 2015:	オオバヨウラクラン	<i>Oberonia makinoi</i>	CR
第4次:	オオバヨウラクラン	<i>Oberonia makinoi</i>	CR
第3次:	オオバヨウラクラン	<i>Oberonia makinoi</i>	CR
第2次:	オオバヨウラクラン	<i>Oberonia makinoi</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[情報不足(DD)] 徳島県[絶滅危惧 IA 類] 高知県[絶滅危惧 I A 類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Chen, S. C., P. Ormerod and J. J. Wood, 2009. *Oberonia*. in Wu, Z. Y., P. H. Raven and D. Y. Hong, (eds.) Flora of China. Vol.25 (Orchidaceae). 236–245. Science Press, Beijing, and Missouri Botanical Garden Press, St. Louis.
- Su, H. J., 2000. *Oberonia*. in Editorial committee of the Flora of Taiwan (eds.) Flora of Taiwan 2nd edition, volume 5, 981–985. Department of Botany, National Taiwan University, Taipei, Taiwan.
- Tsutsumi, C., A. Maeda, A. Abe, Y. Yamashita, T. Yukawa and S. Kakishima, 2021. Genetic diversification of *Oberonia* (Orchidaceae) in Japan, with implications for the species taxonomy. Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series B (Botany), 47: 131–141.

- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php> (2024 年 9 月 6 日閲覧).
- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会，2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020 年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課，380pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Oberonia makinoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Oberonia makinoi* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Logging and wood harvesting
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハツシマラン

*Odontochilus hatusimanus***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 10-15 cm。葉は 4-7 枚、卵形か楕円形、長さ 2-4 cm、縁は波打つ。花茎、苞、子房、萼片の外部に粗い毛がある。総状花序に帯紅色の 3-7 花をやや密につける。背萼片は卵形、側萼片は広卵形、長さ 3 mm。側花弁もほぼ萼片と同長、背萼片と密着する。唇弁は萼片より長く、爪部は卵円形、内面の基部に角状の突起を 2 個つけ、舷部は 2 深裂する。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林のやや湿った林床に生育する。

【分布域】

九州（福岡県・鹿児島県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	0	2	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	その他動物食害	自然遷移

件数		
1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハツシマラン	<i>Odontochilus hatusimanus</i>	CR
第4次 2019:	ハツシマラン	<i>Odontochilus hatusimanus</i>	CR
第4次 2018:	ハツシマラン	<i>Odontochilus hatusimanus</i>	CR
第4次 2017:	ハツシマラン	<i>Odontochilus hatusimanus</i>	CR
第4次 2015:	ハツシマラン	<i>Odontochilus hatusimanus</i>	CR
第4次:	ハツシマラン	<i>Odontochilus hatusimanus</i>	CR
第3次:	ハツシマラン	<i>Odontochilus hatusimanus</i>	CR
第2次:	ハツシマラン	<i>Odontochilus hatusimanus</i>	EX
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 福岡県環境部自然環境課，2011. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—. 福岡県環境部自然環境課，240pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Odontochilus hatusimanus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Odontochilus hatusimanus is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Other animal feeding damage, Natural succession
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムカゴトンボ

Peristylus densus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地上茎は卵形の塊根から生じ、高さ 20-50 cm。葉は茎の下方に集まる傾向があり、下部の 3-5 枚は広披針形で鋭尖頭、長さ 4-10 cm、幅 1-2.5 cm、上部のものは鱗片状で小さく、数個が茎に圧着する。花茎にはやや多数の花が総状にく。背萼片は狭卵形、側萼片および側花弁は斜卵形。背萼片は側花弁を内方に入れかぶとをつくる。唇弁は長さ約 4 mm、基部近く 3 裂し、中裂片は舌状、側裂片は細いひげ状で中裂片より長く、長さ 6-7 mm。距は紡錘状で先端は切形ないし 2 浅裂、長さ 3-4 mm。

【生活史】

地生の多年草。花期は 9-10 月。

【生育環境】

日当たりのよい湿性の草地や法面に生える。

【分布域】

本州（千葉県以西）・四国・九州（徳之島以北）、韓国（済州島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、11 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
6	3	2	0	0	0	11	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	園芸採取	自然遷移

道路工事		
件数		
4	4	4

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムカゴトンボ	<i>Peristylus flagellifer</i>	EN
第4次 2019:	ムカゴトンボ	<i>Peristylus flagellifer</i>	EN
第4次 2018:	ムカゴトンボ	<i>Peristylus flagellifer</i>	EN
第4次 2017:	ムカゴトンボ	<i>Peristylus flagellifer</i>	EN
第4次 2015:	ムカゴトンボ	<i>Peristylus flagellifer</i>	EN
第4次:	ムカゴトンボ	<i>Peristylus flagellifer</i>	EN
第3次:	ムカゴトンボ	<i>Peristylus flagellifer</i>	EN
第2次:	ムカゴトンボ	<i>Habenaria flagellifera</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[最重要保護生物(A)] 東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅(EX)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 愛知県[絶滅(EX)] 三重県[絶滅(EX)] 滋賀県[要注目種] 大阪府[CR+EN] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅(EX)] 愛媛県[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Peristylus densus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Peristylus densus* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Road construction, Collecting plants in gardening, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

リュウキュウセッコク

Pinalia ovata var. *ovata*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

偽球茎は束生し、長さ 10-23 cm、円柱形、上部に 4-7 葉を互生する。葉は長さ 12-17 cm で長楕円形。総状花序は褐色の短毛が生え、腋生して長さ 10-15 cm、多数の花をつける。花は淡黄白色。萼片と花弁は長さ 10-12 mm で披針形。唇弁は長さ 4 mm で卵形、基部上面に 2 本の赤色の隆起がある。

【生活史】

常緑で着生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の樹幹に生える。

【分布域】

西表島・魚釣島、台湾・フィリピン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計約百個体の現存が報告された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	1	0	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウセッコク	<i>Eria ovata</i>	EN
第4次 2019:	リュウキュウセッコク	<i>Eria ovata</i>	EN
第4次 2018:	リュウキュウセッコク	<i>Eria ovata</i>	EN
第4次 2017:	リュウキュウセッコク	<i>Eria ovata</i>	EN
第4次 2015:	リュウキュウセッコク	<i>Eria ovata</i>	EN
第4次:	リュウキュウセッコク	<i>Eria ovata</i>	EN
第3次:	リュウキュウセッコク	<i>Eria ovata</i>	EN
第2次:	リュウキュウセッコク	<i>Eria ovata</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[情報不足] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Pinalia ovata var. *ovata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Pinalia ovata var. *ovata* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

シマツレサギソウ

*Platanthera boninensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎を含めて草丈 20～40 cm で、下部の葉は狭卵形から長楕円形。総状花序に淡黄白色の花を多数咲かせる。ハチジョウツレサギとは花が白い点で共通するが、葉の数がより多く、花が小さい。

【生活史】

地生の多年草。花期は 2 月頃。

【生育環境】

やや湿った明るい疎林内や林縁に生える。

【分布域】

小笠原諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シマツレサギソウ	<i>Platanthera boninensis</i>	EN
第4次 2019:	シマツレサギソウ	<i>Platanthera boninensis</i>	EN
第4次 2018:	シマツレサギソウ	<i>Platanthera boninensis</i>	EN
第4次 2017:	シマツレサギソウ	<i>Platanthera boninensis</i>	EN
第4次 2015:	シマツレサギソウ	<i>Platanthera boninensis</i>	EN
第4次:	シマツレサギソウ	<i>Platanthera boninensis</i>	EN
第3次:	シマツレサギソウ	<i>Platanthera boninensis</i>	EN
第2次:	シマツレサギソウ	<i>Platanthera boninensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 東京都環境局自然環境部，2014. 東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Platanthera boninensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Platanthera boninensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Other
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イヌマムカゴ

*Platanthera iinumae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 30 cm 前後で、茎の中ほどに 2 個の葉をつけ、その上部に披針形の鱗片葉を数個つける。葉はやや接近し長楕円形、長さ 8-15 cm、幅 2-4 cm、基部は鞘となる。黄緑色の花を多数総状につける。背萼片は卵形で長さ 1.5-2 mm。側萼片は狭長楕円形。側花弁は狭卵形で背萼片と同長、ともにかぶとをつくる。唇弁は白色、舌状で長さ 3 mm、基部の左右に小さい鋭頭の側裂片がある。距は下垂して棍棒状、長さ 1-1.5 mm。

【生活史】

地生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

暖温帯～冷温帯の山地の林縁や湿った草地に生える。

【分布域】

北海道（南部）・本州・四国・九州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで絶滅し、14 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	5	0	0	0	0	14	3	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	園芸採取	道路工事

件数		
4	3	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イイヌマムカゴ	<i>Platanthera iinumae</i>	EN
第4次 2019:	イイヌマムカゴ	<i>Platanthera iinumae</i>	EN
第4次 2018:	イイヌマムカゴ	<i>Platanthera iinumae</i>	EN
第4次 2017:	イイヌマムカゴ	<i>Platanthera iinumae</i>	EN
第4次 2015:	イイヌマムカゴ	<i>Platanthera iinumae</i>	EN
第4次:	イイヌマムカゴ	<i>Platanthera iinumae</i>	EN
第3次:	イイヌマムカゴ	<i>Platanthera iinumae</i>	EN
第2次:	イイヌマムカゴ	<i>Tulotis iinumae</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[A ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 秋田県[NT] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 茨城県[情報不足②現状不明種] 栃木県[情報不足] 群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[絶滅(EX)] 千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 東京都(本土部)[本土部：絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 神奈川県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 富山県[絶滅危惧Ⅰ類] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 三重県[絶滅(EX)] 兵庫県[A ランク] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅危惧ⅠA類] 大分県[情報不足(DD)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Platanthera iinumae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Platanthera iinumae is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Collecting plants in gardening, Road construction
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イリオモテトンボソウ

Platanthera stenoglossa subsp. *iriomotensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地中に紡錘形の塊根がある。茎は花序を含めて長さ 20 cm。根出葉は基部に 1 枚つき、卵形で長さ 3-7 cm。茎葉は鱗片状で 1-3 枚。花序は頂生、まばらに 5-10 花をつける。花は淡緑色、萼片と花弁は長さ 4-6 mm、唇弁は長さ 5-7 mm、基部に長さ 11 mm の距がある。ソハヤキトンボソウに比べ、花が小さく、最下の苞が花柄子房より短く、側花弁の前方の縁は凹みがない。

【生活史】

常緑で地生する多年草。

【生育環境】

山地の河川沿いや滝付近の湿った岩上や水がしたたり落ちる崖面、波しぶきをかぶる海岸の湿った崖に生える。

【分布域】

西表島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イリオモテトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>iriomotensis</i>	EN
第4次 2019:	イリオモテトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>iriomotensis</i>	EN
第4次 2018:	イリオモテトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>iriomotensis</i>	EN
第4次 2017:	イリオモテトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>iriomotensis</i>	EN
第4次 2015:	イリオモテトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>iriomotensis</i>	EN
第4次:	イリオモテトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>iriomotensis</i>	EN
第3次:	イリオモテトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> subsp. <i>iriomotensis</i>	EN
第2次:	イリオモテトンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> var. <i>iriomotensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Inoue, K. 1981. Notes on infraspecific taxa in *Platanthera stenoglossa* Hayata from Taiwan and Japan. The Journal of Japanese Botany, 56: 120–127.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Platanthera stenoglossa subsp. *iriomotensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Platanthera stenoglossa* subsp. *iriomotensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ガッサンチドリ

Platanthera takedae subsp. *uzenensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤマチドリに似るが、茎の高さが最長 40 cm 程度になり、葉はふつう 3-5 個つき、距は肉質で太く楕円体で長さ 2.5-4 mm。

【生活史】

地生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

亜高山帯の草地や林床の比較的明るい場所、冷温帯の落葉広葉樹林の林床に生育する。

【分布域】

北海道・本州（中部・北陸以北）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	0	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ガッサンチドリ	<i>Platanthera takedae</i> subsp. <i>uzenensis</i>	EN
第4次 2019:	ガッサンチドリ	<i>Platanthera takedae</i> subsp. <i>uzenensis</i>	EN
第4次 2018:	ガッサンチドリ	<i>Platanthera takedae</i> subsp. <i>uzenensis</i>	EN
第4次 2017:	ガッサンチドリ	<i>Platanthera takedae</i> subsp. <i>uzenensis</i>	EN
第4次 2015:	ガッサンチドリ	<i>Platanthera takedae</i> subsp. <i>uzenensis</i>	EN
第4次:	ガッサンチドリ	<i>Platanthera takedae</i> subsp. <i>uzenensis</i>	EN
第3次:	ガッサンチドリ	<i>Platanthera takedae</i> subsp. <i>uzenensis</i>	EN
第2次:	ガッサンチドリ	<i>Platanthera ophrydioides</i> var. <i>uzenensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[重要希少野生生物(B ランク)] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 山形県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 石川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 榎本博之・阪本英樹，2022．福井県で初めて発見されたガッサンチドリ（*Platanthera takedae* Makino subsp. *uzenensis* (Ohwi) K.Inoue）の生育地と個体数（2015-2021）の記録．*Ciconia*（福井県自然保護センター研究報告），25: 129-134．
- 北方山草編集委員会，2023．北海道のラン全種類．北方山草，40: 9-12．
- 青森県レッドデータブック改訂検討会，2020．青森県の希少な野生生物—青森県レッドデータブック（2020年版）—．青森県，397pp．
- 石川県絶滅危惧植物調査会，2020．石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック 2020（植物編）．石川県生活環境部自然環境課，394pp．

- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002．長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物．維管束植物編．長野県自然保護研究所，297pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Platanthera takedae subsp. *uzenensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Platanthera takedae* subsp. *uzenensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	River development, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナゴラン

Sedirea japonica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根は長く伸びる。茎は短く、2-6 葉を 2 列につける。葉は狭長楕円形、厚い肉質で長さ 8-15 cm、幅 1.5-2 cm、鈍頭。花茎は側生し長さ 5-15 cm、淡緑白色花を総状に 10 個前後つける。萼片は斜開し長楕円形で長さ約 12 mm、鈍頭、側萼片の中央より基部に褐紫色の横縞がある。側花弁は萼片と同形。唇弁は萼片と同長、紅紫色の斑紋があり 3 裂、側裂片は小型、中裂片は倒卵状くさび形で先端は円く、縁は波状となる。距は前方に突き出る。

【生活史】

常緑で着生の多年草。花期は 6-8 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林内の樹幹または岩上に着生する。

【分布域】

本州（静岡県・伊豆諸島・紀伊半島・福井県・京都府・隠岐）・四国・九州・琉球、韓国（済州島）・中国（南部）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、8 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	2	0	3	0	0	8	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因 園芸採取	自然遷移	産地局限
件数 7	3	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i>	EN
第4次 2019:	ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i>	EN
第4次 2018:	ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i>	EN
第4次 2017:	ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i>	EN
第4次 2015:	ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i>	EN
第4次:	ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i>	EN
第3次:	ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i>	EN
第2次:	ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 京都府[絶滅寸前種]
和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 島根県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 徳島県[絶滅(EX)] 愛媛県
[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[絶滅危惧Ⅰ
A類(CR)] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB
類(EN-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Sedirea japonica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sedirea japonica* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハチジョウネツタイラン

Tropidia nipponica var. *hachijoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

草丈は 10-20 cm。花は白色。側萼片は長さ 5-6 mm。唇弁は先端が扇状に広がる。基準変種のヤクシマネツタイランに似るが、唇弁の距がより高く張り出し、葉の幅が広く先端が尾状にならない。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 7-8 月。

【生育環境】

シイ林などの常緑広葉樹林の林床に生育する。

【分布域】

伊豆諸島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 5 メッシュで計数十個体の現存が推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
3	2	0	0	0	0	5	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハチジョウネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>hachijoensis</i>	EN
第4次 2019:	ハチジョウネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>hachijoensis</i>	EN
第4次 2018:	ハチジョウネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>hachijoensis</i>	EN
第4次 2017:	ハチジョウネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>hachijoensis</i>	EN
第4次 2015:	ハチジョウネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>hachijoensis</i>	EN
第4次:	ハチジョウネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>hachijoensis</i>	EN
第3次:	ハチジョウネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>hachijoensis</i>	EN
第2次:	ハチジョウネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>hachijoensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tropidia nipponica var. *hachijoensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tropidia nipponica* var. *hachijoensis* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマネツタイラン

Tropidia nipponica var. *nipponica*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地下茎は短く直立する。茎は高さ 15-30 cm、細くてかたく、基部に 2-3 個の鞘状葉があり、その上部に 1-4 個の普通葉がある。葉は卵状披針形で長さ 5-10 cm、幅 1.5-3 cm、尾状鋭尖頭、基部は円形で短い葉柄となる。茎頂に短い総状花序を出し、白色花を 5-10 個つける。背萼片は狭倒卵形で長さ 6 -8 mm、幅 3 -3.5 mm。側萼片は合着して卵状舟形、基部に 2 個の竜骨がある。側花弁は披針形で長さ 6.5 mm、幅 3 mm。唇弁は卵状披針形で長さ 5 mm、幅 3-5 mm、基部は袋状となり先は反曲する。

【生活史】

常緑で地生の多年草。花期は 5-7 月。

【生育環境】

常緑広葉樹林の自然林の陰湿な林床に生育する。

【分布域】

四国・九州・琉球、台湾。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 5 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
2	2	0	1	0	0	5	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因	人の踏みつけ	自然遷移

園芸採取		
件数 2	2	2

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>nipponica</i>	EN
第4次 2019:	ヤクシマネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>nipponica</i>	EN
第4次 2018:	ヤクシマネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>nipponica</i>	EN
第4次 2017:	ヤクシマネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>nipponica</i>	EN
第4次 2015:	ヤクシマネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>nipponica</i>	EN
第4次:	ヤクシマネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>nipponica</i>	EN
第3次:	ヤクシマネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i>	EN
第2次:	ヤクシマネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[情報不足(DD)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種]
長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖
縄県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tropidia nipponica var. *nipponica* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tropidia nipponica* var. *nipponica* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Human trampling, Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アコウネツタイラン

Tropidia somae

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は細くて硬く、1-3 本が束生し、花序を含めて長さ 15-30 cm、2-5 葉をやや接して互生する。葉は長楕円状心形～披針形、暗緑色で洋紙質、長さ 7-12 cm、7 主脈があって縦しわがある。総状花序は頂生し、8-15 花をやや密につける。花は白色、唇弁の先端は濃黄色。萼片と花弁は長さ 6 mm。背萼片と側花弁は披針形、側萼片は 2 個が癒合し船形、先は 2 浅裂。唇弁は長さ 6 mm で卵状披針形、先端は折れ曲がり、基部は明瞭な距となる。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

低地の自然林林床に生える。石灰岩地を好む。

【分布域】

沖縄島・石垣島・西表島、台湾・フィリピン。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アコウネツタイラン	<i>Tropidia angulosa</i>	EN
第4次 2019:	アコウネツタイラン	<i>Tropidia angulosa</i>	EN
第4次 2018:	アコウネツタイラン	<i>Tropidia angulosa</i>	EN
第4次 2017:	アコウネツタイラン	<i>Tropidia angulosa</i>	EN
第4次 2015:	アコウネツタイラン	<i>Tropidia angulosa</i>	EN
第4次:	アコウネツタイラン	<i>Tropidia angulosa</i>	EN
第3次:	アコウネツタイラン	<i>Tropidia angulosa</i>	EN
第2次:	アコウネツタイラン	<i>Tropidia calcarata</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Tropidia somae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tropidia*

somae is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミソボシラン

Vrydagzynea nuda

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐し、先は直立し、花序を含めて長さ 15-20 cm、3-11 葉をまばらに互生する。葉は卵状楕円形、長さ 25-50 mm。総状花序は頂生し、6-12 花をつける。花はほとんど開かず、黄緑色、わずかに褐色を帯び、萼片の先端は白色。萼片は長さ 6 mm。側花弁は長さ 4.5 mm で長卵形。唇弁は長さ 3.5 cm、倒卵状半円形、基部に長さ 4.5 mm の距があり、距の中に柄がある球形の突起が 1 対ある。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

高地の自然林の陰湿な林床に生える。

【分布域】

石垣島・西表島、台湾・中国（南部）・ジャワ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミソボシラン	<i>Vrydagzynea nuda</i>	EN
第4次 2019:	ミソボシラン	<i>Vrydagzynea nuda</i>	EN
第4次 2018:	ミソボシラン	<i>Vrydagzynea nuda</i>	EN
第4次 2017:	ミソボシラン	<i>Vrydagzynea nuda</i>	EN
第4次 2015:	ミソボシラン	<i>Vrydagzynea nuda</i>	EN
第4次:	ミソボシラン	<i>Vrydagzynea nuda</i>	EN
第3次:	ミソボシラン	<i>Vrydagzynea albida</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Vrydagzynea nuda has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Vrydagzynea nuda is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae ラン科 Orchidaceae

キバナショウキラン

Yoania amagiensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は 20-50 cm、全体黄褐色を帯びる。花序あたり 5-15 個の花をつける。花は黄褐色で、萼片は前抱えになる。ショウキランに似るが地上茎は高く、根茎が密に分枝して団塊状になり、茎や花の色が異なり、花序当たりの花数が多く、萼片は開かず、花期が早い。

【生活史】

菌従属栄養性で地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

落葉広葉樹林やスギ植林地などの腐葉土の湿り気の多い林床、ササ原などに生育する。

【分布域】

北海道（南西部）・本州・四国・九州・屋久島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 21 メッシュで数十個体の現存が推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
21	0	0	0	0	0	21	0	4

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	園芸採取

件数 8	6	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キバナノショウキラン	<i>Yuania amagiensis</i>	EN
第4次 2019:	キバナノショウキラン	<i>Yuania amagiensis</i>	EN
第4次 2018:	キバナノショウキラン	<i>Yuania amagiensis</i>	EN
第4次 2017:	キバナノショウキラン	<i>Yuania amagiensis</i>	EN
第4次 2015:	キバナノショウキラン	<i>Yuania amagiensis</i>	EN
第4次:	キバナノショウキラン	<i>Yuania amagiensis</i>	EN
第3次:	キバナノショウキラン	<i>Yuania amagiensis</i>	EN
第2次:	キバナノショウキラン	<i>Yuania amagiensis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

群馬県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 埼玉県[情報不足(DD)] 東京都(本土部)[本土部:絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(南多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 東京都(西多摩)[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 富山県[情報不足] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 岐阜県[絶滅危惧Ⅰ類] 静岡県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 香川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[情報不足] 熊本県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.
- 特定非営利活動法人みんなでつくる自然史博物館・香川，2021. 香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物. 香川県環境森林部みどり保全課，503pp.

- 東京都環境局自然環境部，2023. 東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版—. 東京都環境局自然環境部，879pp.
- 埼玉県環境部自然環境課，2012. 埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編. 埼玉県. 433pp.
- 高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会，2022. 高知県レッドデータブック 2022 植物編. 高知県林業振興・環境部自然共生課，229pp.
- 福岡県環境部自然環境課，2011. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—. 福岡県環境部自然環境課，240pp.
- 大分県自然環境学術調査会，2022. レッドデータブックおおいた 2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—. <https://www.rdb-oita.jp/>（2024年9月5日閲覧）.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Yoania amagiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Yoania amagiensis* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Collecting plants in gardening
Law designation status for conservation	—

執筆者: 日本植物分類学会
Author: Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025年3月

シナノショウキラン

*Yoania flava***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ショウキランに似るが、淡黄色の花をつけ、唇弁の中裂片は卵形でほぼ全縁。

【生活史】

菌従属栄養性の地生の多年草。花期は 6-7 月。

【生育環境】

落葉広葉樹林の岩がちの林床に生育し、ふつう石灰岩地にみられる。

【分布域】

長野県。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 12 メッシュで計数十個体の現存が推定された。1 メッシュで絶滅とされた。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
9	3	0	0	0	0	12	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シナノショウキラン	<i>Yoania flava</i>	EN
第4次 2019:	シナノショウキラン	<i>Yoania flava</i>	EN
第4次 2018:	シナノショウキラン	<i>Yoania flava</i>	EN
第4次 2017:	シナノショウキラン	<i>Yoania flava</i>	EN
第4次 2015:	シナノショウキラン	<i>Yoania flava</i>	EN
第4次:	シナノショウキラン	<i>Yoania flava</i>	EN
第3次:	シナノショウキラン	<i>Yoania flava</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- Inoue, K. and T. Yukawa, 2002. A new species of *Yoania* (Orchidaceae) from southern Nagano, central Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 53: 107–114.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Yoania flava has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Yoania flava* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アオジクキヌラン

Zeuxine affinis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は匍匐し、先は直立し、花序を含めて長さ 20-35 cm になり、4-8 葉を互生する。葉は広披針形～卵状披針形、長さ 2-4 cm。総状花序は頂生し、6-10 花をつけ、子房とともに白色の長毛が多い。花は白色。背萼片は長さ 4-5 mm で卵形。側萼片は斜卵形で長さ 4 mm。側花弁は斜長楕円形で長さ 4-5 mm。唇弁は長さ 5 mm、幅 6 mm、Y 字形で上面に微小な乳頭状突起が密生し、先端の裂片は倒卵形で基部は嚢状となり、上面基部に 1 対の突起がある。

【生活史】

冬緑性で地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

沖縄島・石垣島、台湾・ヒマラヤ・タイ・インドシナ。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 4 メッシュで計数十個体が現存すると推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	4	0	0	0	0	4	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目

要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アオジクキヌラン	<i>Zeuxine affinis</i>	EN
第4次 2019:	アオジクキヌラン	<i>Zeuxine affinis</i>	EN
第4次 2018:	アオジクキヌラン	<i>Zeuxine affinis</i>	EN
第4次 2017:	アオジクキヌラン	<i>Zeuxine affinis</i>	EN
第4次 2015:	アオジクキヌラン	<i>Zeuxine affinis</i>	EN
第4次:	アオジクキヌラン	<i>Zeuxine affinis</i>	EN
第3次:	アオジクキヌラン	<i>Zeuxine affinis</i>	EN
第2次:	アオジクキヌラン	<i>Zeuxine affinis</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Zeuxine affinis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Zeuxine affinis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ジャコウキヌラン

Zeuxine odorata

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

茎は匍匐し、先は直立し、花序を含めて長さ 30–50 cm、5–6 葉を互生する。葉は斜楕円形、長さ 5–10 cm。総状花序は頂生し、10–20 花をやや密につける。花は淡緑白色、半開する。側花弁は広半卵形～斜鎌状楕円形で長さ 7 mm。唇弁は長さ 9 mm で Y 字状、先端の裂片は円形、基部はやや嚢状になる。

【生活史】

常緑で地生の多年草。

【生育環境】

山地の自然林の林床に生える。

【分布域】

沖縄島・石垣島・与那国島、台湾（蘭嶼）・フィリピン（バタン島）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ジャコウキヌラン	<i>Heterozeugine odorata</i>	EN
第4次 2019:	ジャコウキヌラン	<i>Heterozeugine odorata</i>	EN
第4次 2018:	ジャコウキヌラン	<i>Heterozeugine odorata</i>	EN
第4次 2017:	ジャコウキヌラン	<i>Heterozeugine odorata</i>	EN
第4次 2015:	ジャコウキヌラン	<i>Heterozeugine odorata</i>	EN
第4次:	ジャコウキヌラン	<i>Heterozeugine odorata</i>	EN
第3次:	ジャコウキヌラン	<i>Heterozeugine odorata</i>	EN
第2次:	ジャコウキヌラン	<i>Heterozeugine odorata</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—．沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Zeuxine odorata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Zeuxine odorata* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キリガミネヒオウギアヤメ

Iris setosa var. *hondoensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒオウギアヤメに似るが、花は径 11-14 cm にもなる。内花被片は長さ 25 mm 内外、へら形、先が凹入したところに芒状突起がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿性草原に生育。

【分布域】

長野県霧ヶ峰に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュの限られた場所に自生し、数百個体が残されていた。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	キリガミネヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>hondoensis</i>	EN
第4次 2019:	キリガミネヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>hondoensis</i>	EN
第4次 2018:	キリガミネヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>hondoensis</i>	EN
第4次 2017:	キリガミネヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>hondoensis</i>	EN
第4次 2015:	キリガミネヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>hondoensis</i>	EN
第4次:	キリガミネヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>hondoensis</i>	EN
第3次:	キリガミネヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>hondoensis</i>	EN
第2次:	キリガミネヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>hondoensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Iris setosa var. *hondoensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Iris setosa* var. *hondoensis* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ナスヒオウギアヤメ

Iris setosa var. *nasuensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は幅 35 mm、花茎は高さ 1 m 以上に達する。内花被片は長さがヒオウギアヤメの 2 倍で 20 mm 内外あり、中央がくびれる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿性草原に生育。

【分布域】

栃木県那須地方に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	1	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	土地造成	池沼開発
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ナスヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>nasuensis</i>	CR
第4次 2019:	ナスヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>nasuensis</i>	CR
第4次 2018:	ナスヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>nasuensis</i>	CR
第4次 2017:	ナスヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>nasuensis</i>	CR
第4次 2015:	ナスヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>nasuensis</i>	CR
第4次:	ナスヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>nasuensis</i>	CR
第3次:	ナスヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> var. <i>nasuensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Iris setosa var. *nasuensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Iris setosa* var. *nasuensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Land development, Pond development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カンカケイニラ

*Allium togashii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

花茎は高さ 14-20 (-25) cm。根出葉は線形、長さ 10-20 cm。花被片は淡紅色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

集塊岩地帯に生育する。

【分布域】

香川県小豆島の寒霞溪周辺に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。数十個体の現存が確認され、新しい生育地が 2 ヶ所発見された。自然遷移、人の踏みつけにより減少傾向にある。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	—	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	産地局限	その他
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カンカケイニラ	<i>Allium togashii</i>	EN
第4次 2019:	カンカケイニラ	<i>Allium togashii</i>	EN
第4次 2018:	カンカケイニラ	<i>Allium togashii</i>	EN
第4次 2017:	カンカケイニラ	<i>Allium togashii</i>	EN
第4次 2015:	カンカケイニラ	<i>Allium togashii</i>	EN
第4次:	カンカケイニラ	<i>Allium togashii</i>	EN
第3次:	カンカケイニラ	<i>Allium togashii</i>	CR
第2次:	カンカケイニラ	<i>Allium togashii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Allium togashii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Allium togashii* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Limited distribution, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

コシキトラッキョウ

Allium virgunculae var. *koshikiense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イトラッキョウに似るが、葉は中空、花被は紅色みを帯びた白色。

【生活史】

常緑的な多年草。

【生育環境】

岩場の草地に生育する。

【分布域】

甌島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数百個体の現存が報告された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	コシキイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>koshikiense</i>	EN
第4次 2019:	コシキイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>koshikiense</i>	EN
第4次 2018:	コシキイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>koshikiense</i>	EN
第4次 2017:	コシキイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>koshikiense</i>	EN
第4次 2015:	コシキイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>koshikiense</i>	EN
第4次:	コシキイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>koshikiense</i>	EN
第3次:	コシキイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>koshikiense</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Allium virgunculae var. *koshikiense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Allium virgunculae* var. *koshikiense* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヤクシマイトラッキョウ

Allium virgunculae var. *yakushimense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イトラッキョウに似るが、葉は薄いものを除いて中空。花茎は高さ 20-25 cm。花被は薄紫色。

【生活史】

常緑的な多年草。

【生育環境】

岩場の草地に生育する。

【分布域】

屋久島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。1998 年に発表された新変種である。2007 年調査では 2 メッシュ内の限られた場所に自生し、現存個体数は計数百個体と推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤクシマイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>yakushimense</i>	EN
第4次 2019:	ヤクシマイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>yakushimense</i>	EN
第4次 2018:	ヤクシマイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>yakushimense</i>	EN
第4次 2017:	ヤクシマイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>yakushimense</i>	EN
第4次 2015:	ヤクシマイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>yakushimense</i>	EN
第4次:	ヤクシマイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>yakushimense</i>	EN
第3次:	ヤクシマイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> var. <i>yakushimense</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Allium virgunculae var. *yakushimense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Allium virgunculae* var. *yakushimense* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タマボウキ

Asparagus oligoclonos

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 50-100 cm。多く分枝する。太い枝の葉は長さ約 7 mm、棘状にはならない。葉状枝はまっすぐで湾曲しない。花は長さ 6-7 mm、黄緑色。液果は径 7-9 mm、球形、赤色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山麓の草原に生育。

【分布域】

九州（阿蘇山・九重山）、朝鮮半島・中国東北部・モンゴル・ロシア（シベリア以東）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2012 年調査時と変化がないと推測される。3 メッシュで計数十個体の現存が推定される。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	1	0	0	—	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タマボウキ	<i>Asparagus oligoclonos</i>	EN
第4次 2019:	タマボウキ	<i>Asparagus oligoclonos</i>	EN
第4次 2018:	タマボウキ	<i>Asparagus oligoclonos</i>	EN
第4次 2017:	タマボウキ	<i>Asparagus oligoclonos</i>	EN
第4次 2015:	タマボウキ	<i>Asparagus oligoclonos</i>	EN
第4次:	タマボウキ	<i>Asparagus oligoclonos</i>	EN
第3次:	タマボウキ	<i>Asparagus oligoclonos</i>	EN
第2次:	タマボウキ	<i>Asparagus oligoclonos</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asparagus oligoclonos has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asparagus oligoclonos* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ブンゴギボウシ

*Hosta alata***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ウバタケギボウシに近縁だが、葉が大型（長さ 8.5-24.5 cm）で、側脈数が多く（5-9 対）、花数が多く（花序あたり 9-40 個）、花の苞が淡紫色を帯びる点で区別される。

【生活史】

花期は 9 月中旬。

【生育環境】

崖に生育。

【分布域】

大分県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

新種として発表されたため、採集による減少が危惧される。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hosta alata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hosta alata* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウラジロギボウシ

*Hosta hypoleuca***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-40 cm。葉身は長さ 20-30 cm、卵形、厚く、裏面は著しく粉白となる。花茎は基部で少し曲がり、葉より高くはならない。苞は長さ 1.8-2.2 cm。花被片は白色、内側の中央部は紫色を帯びる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

谷沿いの岩壁に生育。

【分布域】

愛知県東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 不明		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウラジロギボウシ	<i>Hosta hypoleuca</i>	EN
第4次 2019:	ウラジロギボウシ	<i>Hosta hypoleuca</i>	EN
第4次 2018:	ウラジロギボウシ	<i>Hosta hypoleuca</i>	EN
第4次 2017:	ウラジロギボウシ	<i>Hosta hypoleuca</i>	EN
第4次 2015:	ウラジロギボウシ	<i>Hosta hypoleuca</i>	EN
第4次:	ウラジロギボウシ	<i>Hosta hypoleuca</i>	EN
第3次:	ウラジロギボウシ	<i>Hosta hypoleuca</i>	EN
第2次:	ウラジロギボウシ	<i>Hosta hypoleuca</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

静岡県[情報不足(DD)] 愛知県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hosta hypoleuca has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hosta hypoleuca* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae クサスギカズラ科 Asparagaceae

ミナズキギボウシ

Hosta minazukiflora

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

シコクギボウシに近縁だが、花は灰紫色であり（シコクギボウシは濃紫色）、葉縁が波打たない（シコクギボウシは強く波打つ）点で区別される。

【生活史】

花期は 6 月。

【生育環境】

河岸の崖地に生育。

【分布域】

高知県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

新種として発表されたため、採集による減少が危惧される。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Yahara, T., S. K. Hirota, S. Fujii, Y. Kokami, K. Fuse, H. Sato, S. Tagane and Y. Suyama, 2023. Molecular phylogeny and taxonomy of *Hosta* (Asparagaceae) on Shikoku Island, Japan, including five new species, one new subspecies, and two new status assignments. *PhytoKeys*, 235: 137–187.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hosta minazukiflora has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hosta minazukiflora* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ウバタケギボウシ

*Hosta pulchella***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 13-40 cm。葉身は長さ 3-13 cm、卵形、光沢がある。下部の苞は長さ 1.3-3.2 cm。花被片は紫色、細筒部は白色を帯び、広筒部は濃紫色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の岩場に生育。

【分布域】

九州（祖母山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では推定個体数が過大評価とされた。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウバタケギボウシ	<i>Hosta pulchella</i>	EN
第4次 2019:	ウバタケギボウシ	<i>Hosta pulchella</i>	EN
第4次 2018:	ウバタケギボウシ	<i>Hosta pulchella</i>	EN
第4次 2017:	ウバタケギボウシ	<i>Hosta pulchella</i>	EN
第4次 2015:	ウバタケギボウシ	<i>Hosta pulchella</i>	EN
第4次:	ウバタケギボウシ	<i>Hosta pulchella</i>	EN
第3次:	ウバタケギボウシ	<i>Hosta pulchella</i>	EN
第2次:	ウバタケギボウシ	<i>Hosta pulchella</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大分県[絶滅危惧 I B 類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧 I A 類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hosta pulchella has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hosta pulchella* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

セトウチギボウシ

*Hosta pycnophylla***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は広卵形、厚く、裏面は著しく粉白となる。花被片は内側の脈が淡く着色、透明腺は広筒部（花筒上部）の半分程度まで。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

日当たりのよい、乾いた集塊岩地に生育。

【分布域】

山口県（大島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害		
件数 2		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	セトウチギボウシ	<i>Hosta pycnophylla</i>	EN
第4次 2019:	セトウチギボウシ	<i>Hosta pycnophylla</i>	EN
第4次 2018:	セトウチギボウシ	<i>Hosta pycnophylla</i>	EN
第4次 2017:	セトウチギボウシ	<i>Hosta pycnophylla</i>	EN
第4次 2015:	セトウチギボウシ	<i>Hosta pycnophylla</i>	EN
第4次:	セトウチギボウシ	<i>Hosta pycnophylla</i>	EN
第3次:	セトウチギボウシ	<i>Hosta pycnophylla</i>	EN
第2次:	セトウチギボウシ	<i>Hosta pycnophylla</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hosta pycnophylla has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hosta pycnophylla* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Other animal feeding damage
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヨナグニノシラン

Ophiopogon reversus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

走出枝はない。葉身は長さ 30-50 cm、先は鋭形～鋭先形。花茎は長さ 18-25 cm、弓状に曲がり、扁平、縁に狭い翼が出る。花序は長さ 5-7 cm、1 節に 1-4 花がつく。花は下向きに咲く。花柄は長さ 5-10 mm、中部～上部に関節がある。花被は花柄の半長より長く、白色～淡紫色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林下に生育。

【分布域】

沖縄県（与那国島）、台湾・中国南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヨナグニノシラン	<i>Ophiopogon reversus</i>	CR
第4次 2019:	ヨナグニノシラン	<i>Ophiopogon reversus</i>	CR
第4次 2018:	ヨナグニノシラン	<i>Ophiopogon reversus</i>	CR
第4次 2017:	ヨナグニノシラン	<i>Ophiopogon reversus</i>	CR
第4次 2015:	ヨナグニノシラン	<i>Ophiopogon reversus</i>	CR
第4次:	ヨナグニノシラン	<i>Ophiopogon reversus</i>	CR
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ophiopogon reversus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Ophiopogon reversus is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae クサスギカズラ科 Asparagaceae

ウスギワニグチソウ

Polygonatum cryptanthum

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15–30 cm。葉身は長さ 3–5 cm、卵形～披針状長楕円形。苞は長さ 1.5–2.3 cm。花被片は長さ 0.9–1.4 cm、白色～クリーム色、ときに緑色を帯びる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林下や草原に生育。

【分布域】

九州（福岡県・対馬）、韓国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 園芸採取	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウスギワニグチソウ	<i>Polygonatum cryptanthum</i>	EN
第4次 2019:	ウスギワニグチソウ	<i>Polygonatum cryptanthum</i>	EN
第4次 2018:	ウスギワニグチソウ	<i>Polygonatum cryptanthum</i>	EN
第4次 2017:	ウスギワニグチソウ	<i>Polygonatum cryptanthum</i>	EN
第4次 2015:	ウスギワニグチソウ	<i>Polygonatum cryptanthum</i>	EN
第4次:	ウスギワニグチソウ	<i>Polygonatum cryptanthum</i>	EN
第3次:	ウスギワニグチソウ	<i>Polygonatum cryptanthum</i>	EN
第2次:	ウスギワニグチソウ	<i>Polygonatum cryptanthum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福岡県[絶滅危惧 I B 類] 長崎県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Polygonatum cryptanthum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Polygonatum cryptanthum is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Collecting plants in gardening, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アズミヌノヒゲ

Eriocaulon mikawanum var. *azumianum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準変種のカワイヌノヒゲに比べ、総苞片がやや長く、雄花の萼片が浅く 3 裂し、花托毛が疎らで、花茎や葉は斜上または直立する点が異なるとして記載された。エゾホシクサとは形態的特徴は一致するが、花床にまばらに毛がある。ただし、「改訂新版日本の野生植物」ではエゾホシクサの一型とされる。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

高層湿原の小凹地やミズゴケ湿原に生育する。

【分布域】

長野県。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計約数百個体と推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

エゾホシクサの変異内で形態的に区別できないともされる。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アズミイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>azumianum</i>	EN
第4次 2019:	アズミイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>azumianum</i>	EN
第4次 2018:	アズミイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>azumianum</i>	EN
第4次 2017:	アズミイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>azumianum</i>	EN
第4次 2015:	アズミイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>azumianum</i>	EN
第4次:	アズミイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>azumianum</i>	EN
第3次:	アズミイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>azumianum</i>	EN
第2次:	アズミイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> ssp. <i>azumianum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

石川県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 長野県[絶滅危惧 IB 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002．長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物．維管束植物編．長野県自然保護研究所，297pp.
- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 高橋秀男・鈴木英俊，1988．ミカワイヌノヒゲの一新変種．植物研究雑誌，63: 153-157．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon mikawanum var. *azumianum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List

5th edition. <i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>azumianum</i> is listed as EN under criteria ACD. The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミカワイヌノヒゲ

Eriocaulon mikawanum var. *mikawanum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イヌノヒゲの変種であるエゾホシクサとは柱頭が 1 本、子房が 1 室である点で似るが、雌花花弁は披針状へら形、基部は柄状にならず漸尖形となる。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

山間部の湧水のある湿地などに生育する。

【分布域】

本州（福島県・愛知県）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミカワイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>mikawanum</i>	VU
第4次 2019:	ミカワイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>mikawanum</i>	VU
第4次 2018:	ミカワイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>mikawanum</i>	VU
第4次 2017:	ミカワイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>mikawanum</i>	VU
第4次 2015:	ミカワイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>mikawanum</i>	VU
第4次:	ミカワイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> var. <i>mikawanum</i>	VU
第3次:	ミカワイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 愛知県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 愛知県環境調査センター，2020. レッドデータブックあいち 2020—植物編—. 愛知県環境局環境政策部自然環境課，810pp.
- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 高田順，2017. ホシクサ属植物ガイド. 125pp. 自費出版，秋田.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon mikawanum var. *mikawanum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eriocaulon mikawanum* var. *mikawanum* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オキナワホシクサ

Eriocaulon miquelianum var. *lutchuense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉は長さ 17-20 cm で線状披針形。花茎は長さ 10-30 cm。総苞片は卵形。種子は楕円形、上面に鉤状乳房突起が密生。ニッポンイヌノヒゲに含める見解があるが、ニッポンイヌノヒゲとヒロハノイヌノヒゲとの中間的な形態を示し、さらに研究を要する。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿地に生える。

【分布域】

奄美大島、沖永良部島、沖縄島、久米島、石垣島。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オキナワホシクサ	<i>Eriocaulon miquelianum</i> var. <i>lutchuense</i>	EN
第4次 2019:	オキナワホシクサ	<i>Eriocaulon miquelianum</i> var. <i>lutchuense</i>	EN
第4次 2018:	オキナワホシクサ	<i>Eriocaulon miquelianum</i> var. <i>lutchuense</i>	EN
第4次 2017:	オキナワホシクサ	<i>Eriocaulon miquelianum</i> var. <i>lutchuense</i>	EN
第4次 2015:	オキナワホシクサ	<i>Eriocaulon miquelianum</i> var. <i>lutchuense</i>	EN
第4次:	オキナワホシクサ	<i>Eriocaulon miquelianum</i> var. <i>lutchuense</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類] 沖縄県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon miquelianum var. *lutchuense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eriocaulon miquelianum* var. *lutchuense* is listed as EN under criteria E. E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユキイヌノヒゲ

Eriocaulon miquelianum var. *ozense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基準変種のイヌノヒゲと形態的特徴は一致するが、全体ごく小型で、頭花は小さく、雄花、雌花が 10 個以下である。ただし、「改訂新版日本の野生植物」ではイヌノヒゲと形態的に区別できないとされる。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

ミズゴケ湿原や攪乱地に生育する。

【分布域】

尾瀬ヶ原。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では現存個体数は 150 未満と推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

イヌノヒゲの変異内で形態的に区別できないともされる。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ユキイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon dimorphoelytrum</i>	EN
第4次 2019:	ユキイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon dimorphoelytrum</i>	EN
第4次 2018:	ユキイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon dimorphoelytrum</i>	EN
第4次 2017:	ユキイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon dimorphoelytrum</i>	EN
第4次 2015:	ユキイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon dimorphoelytrum</i>	EN
第4次:	ユキイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon dimorphoelytrum</i>	EN
第3次:	ユキイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon dimorphoelytrum</i>	EN
第2次:	ユキイヌノヒゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Koyama, T., 1956. Novitates ad Eriocaulaceas Asiae *orientalis*. Journal of Japanese Botany, 31: 6–12.
- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 大森威宏・黒沢高秀・志賀隆・薄葉満・根本秀一・吉井広始・海老原淳・田中徳久・天野誠，2022. 尾瀬産維管束植物相とその再検討. 低温科学, 80: 199-233.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編），1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類. 305pp., 208pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon miquelianum var. *ozense* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eriocaulon miquelianum* var. *ozense* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オオムラホシクサ

*Eriocaulon omuranum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ニッポンイヌノヒゲに似るが、葉が狭く基部の幅は 1 mm 以下、頭花の径は 4-6 mm と小型である。ただし、「改訂新版日本の野生植物」ではニッポンイヌノヒゲと形態的に区別できないとされる。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

高層湿原の小凹地やミズゴケ湿原に生育する。

【分布域】

本州（中部地方）。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数十個体と推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

ニッポンイヌノヒゲの変異内で形態的に区別できないともされる。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオムラホシクサ	<i>Eriocaulon omuranum</i>	EN
第4次 2019:	オオムラホシクサ	<i>Eriocaulon omuranum</i>	EN
第4次 2018:	オオムラホシクサ	<i>Eriocaulon omuranum</i>	EN
第4次 2017:	オオムラホシクサ	<i>Eriocaulon omuranum</i>	EN
第4次 2015:	オオムラホシクサ	<i>Eriocaulon omuranum</i>	EN
第4次:	オオムラホシクサ	<i>Eriocaulon omuranum</i>	EN
第3次:	オオムラホシクサ	<i>Eriocaulon omuranum</i>	EN
第2次:	オオムラホシクサ	<i>Eriocaulon omuranum</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- Koyama, T., 1956. Contributio ad Floram Asiaticam Novam-Guineam incluse. Botanical Magazine, Tokyo, 69: 209–215.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課（編），2002. 長野県版レッドデータブック 長野県の絶滅のおそれのある野生生物. 維管束植物編. 長野県自然保護研究所, 297pp.
- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編），1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類. 305pp., 208pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon omuranum has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Eriocaulon omuranum is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハライヌノヒゲ

*Eriocaulon ozense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

頭花は少数花からなり、花弁は 3 個。イヌノヒゲに似るが、雌花の萼背面に長毛を密生する。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

高地の湿原や池塘。

【分布域】

秋田県、尾瀬ヶ原。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では減少率情報が得られなかった。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	ハライヌノヒゲ	<i>Eriocaulon ozense</i>	EN
第4次 2019:	ハライヌノヒゲ	<i>Eriocaulon ozense</i>	EN
第4次 2018:	ハライヌノヒゲ	<i>Eriocaulon ozense</i>	EN
第4次 2017:	ハライヌノヒゲ	<i>Eriocaulon ozense</i>	EN
第4次 2015:	ハライヌノヒゲ	<i>Eriocaulon ozense</i>	EN
第4次:	ハライヌノヒゲ	<i>Eriocaulon ozense</i>	EN
第3次:	ハライヌノヒゲ	<i>Eriocaulon ozense</i>	EN
第2次:	ハライヌノヒゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 大森威宏・黒沢高秀・志賀隆・薄葉満・根本秀一・吉井広始・海老原淳・田中徳久・天野誠，2022．尾瀬の維管束植物目録の見直し．低温科学，80: 199-233．
- 佐竹義輔，1982．ホシクサ科．日本の野生植物Ⅰ．75-84., pl.67-69．平凡社，東京．
- 高田順，2017．ホシクサ属植物ガイド．125pp. 自費出版，秋田．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon ozense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Eriocaulon ozense is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イズノシマホシクサ

Eriocaulon taquetii var. *zyotanii***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

頭花は半球形で淡緑色～淡褐色。総苞片は披針形で頭花より長い。ニッポンイヌノヒゲに似るが、雌花萼片が離生する。

【生活史】

1 年草。

【生育環境】

湿地に生える。

【分布域】

青森県・東京都。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数千個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イズノシマホシクサ	<i>Eriocaulon zytanii</i>	EN
第4次 2019:	イズノシマホシクサ	<i>Eriocaulon zytanii</i>	EN
第4次 2018:	イズノシマホシクサ	<i>Eriocaulon zytanii</i>	EN
第4次 2017:	イズノシマホシクサ	<i>Eriocaulon zytanii</i>	EN
第4次 2015:	イズノシマホシクサ	<i>Eriocaulon zytanii</i>	EN
第4次:	イズノシマホシクサ	<i>Eriocaulon zytanii</i>	EN
第3次:	イズノシマホシクサ	<i>Eriocaulon zytanii</i>	VU
第2次:	イズノシマホシクサ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(伊豆諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eriocaulon taquetii var. *zyotanii* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eriocaulon taquetii* var. *zyotanii* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒゼンコウガイゼキショウ

*Juncus hizenensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コウガイゼキショウに似るが、頭花は少なく、蒴果が大きく、内花被片はしばしば外片より大きい。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

丘陵地の湿地に生育。

【分布域】

長崎県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 湿地開発		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒゼンコウガイゼキショウ	<i>Juncus hizenensis</i>	EN
第4次 2019:	ヒゼンコウガイゼキショウ	<i>Juncus hizenensis</i>	EN
第4次 2018:	ヒゼンコウガイゼキショウ	<i>Juncus hizenensis</i>	EN
第4次 2017:	ヒゼンコウガイゼキショウ	<i>Juncus hizenensis</i>	EN
第4次 2015:	ヒゼンコウガイゼキショウ	<i>Juncus hizenensis</i>	EN
第4次:	ヒゼンコウガイゼキショウ	<i>Juncus hizenensis</i>	EN
第3次:	ヒゼンコウガイゼキショウ	<i>Juncus hizenensis</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 中西弘樹，1995．ヒゼンコウガイゼキショウの再発見．植物地理・分類研究，42: 155-156．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Juncus hizenensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Juncus hizenensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Wetland development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イグサ科 Juncaceae

エゾノミクリゼキショウ

Juncus mertensianus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-25 cm。茎葉は長さ 7-12 cm、2-3 個、円筒状単管質。隔膜は完全だが乾いても著しく外には現れず、葉耳は卵形、淡褐色。頭花は径 10-13 mm、ふつう 1 個、半球形～球形。小花は 10-25 個、最下苞は頭花より長い。雄蕊は 6 本、葯は長楕円形で花糸よりも短い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山の湿原に生育。

【分布域】

北海道（大雪山）・本州（焼石岳）、アリューシャン列島・アラスカ・カムチャツカ・北アメリカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	1	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾノミクリゼキショウ	<i>Juncus mertensianus</i>	EN
第4次 2019:	エゾノミクリゼキショウ	<i>Juncus mertensianus</i>	EN
第4次 2018:	エゾノミクリゼキショウ	<i>Juncus mertensianus</i>	EN
第4次 2017:	エゾノミクリゼキショウ	<i>Juncus mertensianus</i>	EN
第4次 2015:	エゾノミクリゼキショウ	<i>Juncus mertensianus</i>	EN
第4次:	エゾノミクリゼキショウ	<i>Juncus mertensianus</i>	EN
第3次:	エゾノミクリゼキショウ	<i>Juncus mertensianus</i>	EN
第2次:	エゾノミクリゼキショウ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[A ランク] 富山県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Juncus mertensianus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Juncus mertensianus* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イグサ科 Juncaceae

ホロムイコウガイ

Juncus tokubuchii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ホソコウガイゼキショウに似るが、蒴果の長さが 4-5 mm、花被内片は鋭頭、外片は鈍頭になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

低地の湿地に生育。

【分布域】

北海道、千島・サハリン・カムチャツカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホロムイコウガイ	<i>Juncus tokubuchii</i>	EN
第4次 2019:	ホロムイコウガイ	<i>Juncus tokubuchii</i>	EN
第4次 2018:	ホロムイコウガイ	<i>Juncus tokubuchii</i>	EN
第4次 2017:	ホロムイコウガイ	<i>Juncus tokubuchii</i>	EN
第4次 2015:	ホロムイコウガイ	<i>Juncus tokubuchii</i>	EN
第4次:	ホロムイコウガイ	<i>Juncus tokubuchii</i>	EN
第3次:	ホロムイコウガイ	<i>Juncus tokubuchii</i>	EN
第2次:	ホロムイコウガイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Juncus tokubuchii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Juncus tokubuchii* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒルゼンスゲ

Carex aphyllopus var. *impura***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

タテヤマスゲに似るが、果胞は長さ約 3.5 mm、細長くやや膨らみ、褐色を帯び、先端は少し外曲して、しだいにいちじるしい嘴となる。高さ 50-80 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

岡山県（蒜山）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒルゼンスゲ	<i>Carex impura</i>	VU
第4次 2019:	ヒルゼンスゲ	<i>Carex impura</i>	VU
第4次 2018:	ヒルゼンスゲ	<i>Carex impura</i>	VU
第4次 2017:	ヒルゼンスゲ	<i>Carex impura</i>	VU
第4次 2015:	ヒルゼンスゲ	<i>Carex impura</i>	VU
第4次:	ヒルゼンスゲ	<i>Carex impura</i>	VU
第3次:	ヒルゼンスゲ	<i>Carex impura</i>	VU
第2次:	ヒルゼンスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

鳥取県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 岡山県野生動植物調査検討会，2020．岡山県版レッドデータブック 2020 植物編．岡山県環境文化部自然環境課，368pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex aphyllopus var. *impura* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex aphyllopus* var. *impura* is listed as EN under criteria E.
E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

アリスンタマツリスゲ

Carex arisanensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

基部の葉鞘は淡色。密に叢生する。雄小穂は長さ 4-7 mm、柄が短い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高地の林内に生育。

【分布域】

南西諸島（沖縄本島・石垣島）、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アリサントマツリスゲ	<i>Carex arisanensis</i>	CR
第4次 2019:	アリサントマツリスゲ	<i>Carex arisanensis</i>	CR
第4次 2018:	アリサントマツリスゲ	<i>Carex arisanensis</i>	CR
第4次 2017:	アリサントマツリスゲ	<i>Carex arisanensis</i>	CR
第4次 2015:	アリサントマツリスゲ	<i>Carex arisanensis</i>	CR
第4次:	アリサントマツリスゲ	<i>Carex arisanensis</i>	CR
第3次:	アリサントマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> subsp. <i>arisanensis</i>	CR
第2次:	アリサントマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> var. <i>arisanensis</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex arisanensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex arisanensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オハグロスゲ

Carex bigelowii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 10-30 cm、株となって匍枝がない。小穂は 4-5 個、接続して上方につき、頂小穂は長さ 1-1.5 cm、雄性で、側小穂は長さ 1-2 cm、雌性。鱗片は幅が広く、黒褐色。果胞は脈がなく、密に細点がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の湿った草原に生育。

【分布域】

北海道（大雪山）、朝鮮半島北部・シベリア・カムチャツカ半島・ヨーロッパ北部・北アメリカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
産地局限		
件数		

1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オハグロスゲ	<i>Carex bigelowii</i>	EN
第4次 2019:	オハグロスゲ	<i>Carex bigelowii</i>	EN
第4次 2018:	オハグロスゲ	<i>Carex bigelowii</i>	EN
第4次 2017:	オハグロスゲ	<i>Carex bigelowii</i>	EN
第4次 2015:	オハグロスゲ	<i>Carex bigelowii</i>	EN
第4次:	オハグロスゲ	<i>Carex bigelowii</i>	EN
第3次:	オハグロスゲ	<i>Carex bigelowii</i>	EN
第2次:	オハグロスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex bigelowii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex bigelowii* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

カヤツリスゲ

Carex bohemica

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 15-30 cm、茎は数本集まる。葉は幅 1.5-2.5 mm。小穂は多数が茎頂に密集、半球形の頭状花序となり、葉状の苞が 2-3 個つく。果胞は長さ 7-10 mm、狭披針形、膜質、縁はざらつき、淡緑色、基部に細長い柄があり、上方は線形でいちじるしく長い嘴がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湖沼の縁の砂質の湿地に生育。

【分布域】

北海道・本州（富士五湖）、シベリア・ヨーロッパに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では、8 メッシュで計数百個体と推定された。減少要因として湖畔、河川の開発、湖畔のテント設営などによる湿地の踏みつけの影響が指摘されていた。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	6	1	1	0	0	8	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カヤツリスゲ	<i>Carex bohemica</i>	EN
第4次 2019:	カヤツリスゲ	<i>Carex bohemica</i>	EN
第4次 2018:	カヤツリスゲ	<i>Carex bohemica</i>	EN
第4次 2017:	カヤツリスゲ	<i>Carex bohemica</i>	EN
第4次 2015:	カヤツリスゲ	<i>Carex bohemica</i>	EN
第4次:	カヤツリスゲ	<i>Carex bohemica</i>	EN
第3次:	カヤツリスゲ	<i>Carex bohemica</i>	EN
第2次:	カヤツリスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 山梨県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex bohemica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex*

<i>bohemica</i> is listed as EN under criteria ACD. The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

チチジマナキリスゲ

Carex chichijimensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

小穂は 1 節に 1 個ずつつく。果胞は長さ 4-5 mm、脈が太く、ほぼ無毛。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

風衝低木林に生育。

【分布域】

小笠原諸島（父島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では少なくとも 250 個体未満であると推定された。個体数過小評価している可能性がある。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	2	0	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	チチジマナキリスゲ	<i>Carex chichijimensis</i>	EN
第4次 2019:	チチジマナキリスゲ	<i>Carex chichijimensis</i>	EN
第4次 2018:	チチジマナキリスゲ	<i>Carex chichijimensis</i>	EN
第4次 2017:	チチジマナキリスゲ	<i>Carex chichijimensis</i>	EN
第4次 2015:	チチジマナキリスゲ	<i>Carex chichijimensis</i>	EN
第4次:	チチジマナキリスゲ	<i>Carex chichijimensis</i>	EN
第3次:	チチジマナキリスゲ	<i>Carex</i> sp.	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex chichijimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex chichijimensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

リュウキュウヒエスゲ

*Carex collifera***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

叢生する。やや高い花茎と基部に埋もれる低い花茎がある。葉は幅 1.5-4 mm。果胞は長さ 5-6 mm、細脈が多数あり無毛。果実は稜の中部が浅く凹み、基部は膝折れした短柄があり、頂部は短い嘴となって花柱基部へつながる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

樹林内に生育。

【分布域】

沖縄島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	—	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	リュウキュウヒエスゲ	<i>Carex collifera</i>	CR
第4次 2019:	リュウキュウヒエスゲ	<i>Carex collifera</i>	CR
第4次 2018:	リュウキュウヒエスゲ	<i>Carex collifera</i>	CR
第4次 2017:	リュウキュウヒエスゲ	<i>Carex collifera</i>	CR
第4次 2015:	リュウキュウヒエスゲ	<i>Carex collifera</i>	CR
第4次:	リュウキュウヒエスゲ	<i>Carex collifera</i>	CR
第3次:	リュウキュウヒエスゲ	<i>Carex collifera</i>	CR
第2次:	リュウキュウヒエスゲ	<i>Carex collifera</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 沖縄県環境部自然保護課，2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex collifera has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex collifera* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハナビスゲ

Carex cruciata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 50-100 cm、葉は幅 6-12 mm、扁平。大型の円錐花序は数個、頂生および腋生し、よく分枝する。花序の枝と小枝は小棘毛があってざらつく。小穂は長さ 5-8 mm、開出し、上部に雄花、下部に雌花をつける。果胞は熟すと膨らみ白色になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

やぶや草原に生育。

【分布域】

長崎県・熊本県・屋久島・種子島・琉球、台湾・インドネシア・インドに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	1	0	—	3	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハナビスゲ	<i>Carex cruciata</i>	VU
第4次 2019:	ハナビスゲ	<i>Carex cruciata</i>	VU
第4次 2018:	ハナビスゲ	<i>Carex cruciata</i>	VU
第4次 2017:	ハナビスゲ	<i>Carex cruciata</i>	VU
第4次 2015:	ハナビスゲ	<i>Carex cruciata</i>	VU
第4次:	ハナビスゲ	<i>Carex cruciata</i>	VU
第3次:	ハナビスゲ	<i>Carex cruciata</i>	EN
第2次:	ハナビスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長崎県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 鹿児島県[準絶滅危惧]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016．一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex cruciata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex cruciata* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネシバスゲ

Carex fuscidula

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

オノエスゲに似るが、全体小さく、高さ 10-20 cm。葉は幅 1-1.5 mm。上方の 1-2 個の側小穂は、頂生の雄性小穂よりも柄が長く下垂する。果胞は長さ 3-3.5 mm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯の草地に生育。

【分布域】

北海道（夕張岳）・本州（白馬岳・早池峰山）、千島列島・サハリン・朝鮮半島北部・中国（東北部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	2	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネシバスゲ	<i>Carex capillaris</i>	EN
第4次 2019:	タカネシバスゲ	<i>Carex capillaris</i>	EN
第4次 2018:	タカネシバスゲ	<i>Carex capillaris</i>	EN
第4次 2017:	タカネシバスゲ	<i>Carex capillaris</i>	EN
第4次 2015:	タカネシバスゲ	<i>Carex capillaris</i>	EN
第4次:	タカネシバスゲ	<i>Carex capillaris</i>	EN
第3次:	タカネシバスゲ	<i>Carex capillaris</i> subsp. <i>chlorostachys</i>	EN
第2次:	タカネシバスゲ	<i>Carex capillaris</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)] 岩手県[A ランク] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex fuscidula has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex fuscidula* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

ゲンカイモエギスゲ

Carex genkaiensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

雄小穂は雌小穂よりも低く、雌鱗片はほとんど凸端がない。果胞はやや幅広く、嘴が
いっそう短い。瘦果は稜上中央の凹入部は不明瞭で、頂部は径 0.5 mm の平盤状になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の疎林内、林縁に生育。

【分布域】

本州（近畿・小豆島）・九州北部、朝鮮半島南部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とし
た。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ゲンカイモエギスゲ	<i>Carex genkaiensis</i>	EN
第4次 2019:	ゲンカイモエギスゲ	<i>Carex genkaiensis</i>	EN
第4次 2018:	ゲンカイモエギスゲ	<i>Carex genkaiensis</i>	EN
第4次 2017:	ゲンカイモエギスゲ	<i>Carex genkaiensis</i>	EN
第4次 2015:	ゲンカイモエギスゲ	<i>Carex genkaiensis</i>	EN
第4次:	ゲンカイモエギスゲ	<i>Carex genkaiensis</i>	EN
第3次:	ゲンカイモエギスゲ	<i>Carex genkaiensis</i>	EN
第2次:	ゲンカイモエギスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大阪府[VU] 奈良県[絶滅寸前種] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 香川県[準絶滅危惧(NT)]
福岡県[絶滅危惧ⅠB類] 佐賀県[絶滅危惧Ⅱ類種] 長崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 福岡県環境部自然環境課，2011．福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—．福岡県環境部自然環境課，240pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex genkaiensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex genkaiensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

カンチスゲ

Carex gynocrates

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は細くて短い。高さ 10-20 cm。葉は幅が 0.5-0.8 mm、厚く細い。小穂は長さ 7-14 mm、1 個。果胞は長さ 3 mm、楕円形で厚いレンズ形、熟すと水平に開出。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高層湿原のミズゴケの間に生育。

【分布域】

北海道（東部）・岩手県（焼石岳）、サハリン・千島列島・カムチャツカ・北アメリカ北部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで数十個体が確認された。自生地は湿地の周辺が草地化、踏みつけの影響を受けていた。また、植生の遷移の影響も懸念された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カンチスゲ	<i>Carex gynocrates</i>	EN
第4次 2019:	カンチスゲ	<i>Carex gynocrates</i>	EN
第4次 2018:	カンチスゲ	<i>Carex gynocrates</i>	EN
第4次 2017:	カンチスゲ	<i>Carex gynocrates</i>	EN
第4次 2015:	カンチスゲ	<i>Carex gynocrates</i>	EN
第4次:	カンチスゲ	<i>Carex gynocrates</i>	EN
第3次:	カンチスゲ	<i>Carex gynocrates</i>	EN
第2次:	カンチスゲ	<i>Carex gynocrates</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危機種(Cr)] 岩手県[A ランク]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex gynocrates has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex gynocrates* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメミコシガヤ

Carex laevissima

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミノボロスゲに似るが、葉舌の前面が葉身の基部より高く、葉鞘の前面は膜質で、しわがある。有花茎は高さ 15-40 cm。小穂はやや赤褐色を帯びる。果胞は長さ 3-3.5 mm、狭卵形、細脈があり、膜質で上縁はわずかにざらつき、上方はしだいに嘴になる。

【生活史】

多年草。果実成熟は 5 月。

【生育環境】

草地や路傍に生育。

【分布域】

本州（近畿・中国地方）、朝鮮半島・ウスリーに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 62%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメミコシガヤ	<i>Carex laevissima</i>	CR
第4次 2019:	ヒメミコシガヤ	<i>Carex laevissima</i>	CR
第4次 2018:	ヒメミコシガヤ	<i>Carex laevissima</i>	CR
第4次 2017:	ヒメミコシガヤ	<i>Carex laevissima</i>	CR
第4次 2015:	ヒメミコシガヤ	<i>Carex laevissima</i>	CR
第4次:	ヒメミコシガヤ	<i>Carex laevissima</i>	CR
第3次:	ヒメミコシガヤ	<i>Carex laevissima</i>	EN
第2次:	ヒメミコシガヤ	<i>Carex laevissima</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

大阪府[EX] 兵庫県[A ランク] 岡山県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 岡山県野生動植物調査検討会，2020．岡山県版レッドデータブック 2020 植物編．岡山県環境文化部自然環境課，368pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex laevissima has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex laevissima* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハタベスゲ

Carex latisquamea

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-75 cm。茎と葉鞘に開出毛があり、基部の葉鞘は葉身がなく淡褐色。果胞は長さ 5-6 mm、卵形、斜開して硬い膜質、脈があり、無毛で上方はしだいに中位の嘴となる。

【生活史】

多年草。果実成熟は 6-7 月。

【生育環境】

山地の草原に生育。

【分布域】

北海道・本州中北部・九州、朝鮮半島・中国（東北）・ウスリーに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 河川開発	湿地開発	草地開発
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハタバスゲ	<i>Carex latisquamea</i>	EN
第4次 2019:	ハタバスゲ	<i>Carex latisquamea</i>	EN
第4次 2018:	ハタバスゲ	<i>Carex latisquamea</i>	EN
第4次 2017:	ハタバスゲ	<i>Carex latisquamea</i>	EN
第4次 2015:	ハタバスゲ	<i>Carex latisquamea</i>	EN
第4次:	ハタバスゲ	<i>Carex latisquamea</i>	EN
第3次:	ハタバスゲ	<i>Carex latisquamea</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 岩手県[B ランク] 宮城県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)]
栃木県[絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 福井県[要注目] 長野県[絶滅危惧ⅠB 類(EN)] 熊本県[絶滅(EX)] 大分県[情報不足(DD)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex latisquamea has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex latisquamea* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	River development, Wetland development, Grassland development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

タイワンカンスゲ

Carex longistipes

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コバケイスゲに似るが、果胞は長さ 5-7 mm、長楕円形、基部は長い柄があり、先は長い嘴になる。果実基部に 2-3 mm の細長い柄がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

溪流岩上に生育。

【分布域】

琉球（西表島）、台湾に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	台湾カンسゲ	<i>Carex longistipes</i>	CR
第4次 2019:	台湾カンスゲ	<i>Carex longistipes</i>	CR
第4次 2018:	台湾カンスゲ	<i>Carex longistipes</i>	CR
第4次 2017:	台湾カンスゲ	<i>Carex longistipes</i>	CR
第4次 2015:	台湾カンスゲ	<i>Carex longistipes</i>	CR
第4次:	台湾カンスゲ	<i>Carex longistipes</i>	CR
第3次:	台湾カンスゲ	<i>Carex longistipes</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex longistipes has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex longistipes* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ノルゲスゲ

Carex mackenziei

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハクサンスゲに似るが、匍匐枝を伸ばして群生し、茎は高さ 20–40 cm、淡赤褐色のやや大きい鱗片がある。果胞は長さ 3 mm、広楕円形、灰色～灰褐色で細脈があり、ほぼ平滑。

【生活史】

多年草。果実成熟は 6–7 月。

【生育環境】

海岸の湿地に生育。

【分布域】

北海道（釧路・根室付近）、サハリン・ヨーロッパ・シベリア・北アメリカ西部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ノルゲスゲ	<i>Carex mackenziei</i>	EN
第4次 2019:	ノルゲスゲ	<i>Carex mackenziei</i>	EN
第4次 2018:	ノルゲスゲ	<i>Carex mackenziei</i>	EN
第4次 2017:	ノルゲスゲ	<i>Carex mackenziei</i>	EN
第4次 2015:	ノルゲスゲ	<i>Carex mackenziei</i>	EN
第4次:	ノルゲスゲ	<i>Carex mackenziei</i>	EN
第3次:	ノルゲスゲ	<i>Carex mackenziei</i>	EN
第2次:	ノルゲスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex mackenziei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex mackenziei* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タカネヒメスゲ

Carex melanocarpa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 5-15 cm。匍匐枝がなく、株を作る。葉は幅 1.5-2.5 mm、短く、光沢がある。小穂は 2-3 個が接近してつき、直立する。頂小穂は雄性で、長さ 7-13 mm、線形。その他の小穂は雌性で、長さ 4-8 mm、長楕円形。果胞は長さ約 2 mm、楕円形、脈はない。

【生活史】

多年草。果実成熟は 7-8 月。

【生育環境】

高山帯の砂礫地の草原に生育。

【分布域】

北海道（タ張岳）、サハリン・シベリア東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タカネヒメスゲ	<i>Carex melanocarpa</i>	EN
第4次 2019:	タカネヒメスゲ	<i>Carex melanocarpa</i>	EN
第4次 2018:	タカネヒメスゲ	<i>Carex melanocarpa</i>	EN
第4次 2017:	タカネヒメスゲ	<i>Carex melanocarpa</i>	EN
第4次 2015:	タカネヒメスゲ	<i>Carex melanocarpa</i>	EN
第4次:	タカネヒメスゲ	<i>Carex melanocarpa</i>	EN
第3次:	タカネヒメスゲ	<i>Carex melanocarpa</i>	EN
第2次:	タカネヒメスゲ	<i>Carex melanocarpa</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex melanocarpa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex melanocarpa* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

キビノミノボロスゲ

Carex paxii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミノボロスゲに似るが、果胞は長さ 3.5-4 mm、卵状円錐形、やや厚く、多数の脈があり、灰黄緑色を帯びて光沢がなく、背面に数個の突起がつき、上縁は狭い翼があって、上半はざらつき、しだいに嘴となる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地、草原、湿地に生育。

【分布域】

本州（中国地方）、朝鮮半島・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キビノミノボロスゲ	<i>Carex paxii</i>	EN
第4次 2019:	キビノミノボロスゲ	<i>Carex paxii</i>	EN
第4次 2018:	キビノミノボロスゲ	<i>Carex paxii</i>	EN
第4次 2017:	キビノミノボロスゲ	<i>Carex paxii</i>	EN
第4次 2015:	キビノミノボロスゲ	<i>Carex paxii</i>	EN
第4次:	キビノミノボロスゲ	<i>Carex paxii</i>	EN
第3次:	キビノミノボロスゲ	<i>Carex paxii</i>	EN
第2次:	キビノミノボロスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岡山県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex paxii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex paxii* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

マンシュウクロカワスゲ

Carex peiktusani

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-50 cm。基部の鞘は暗赤褐色。頂小穂は雌雄性、側小穂は雌性。雌鱗片は淡褐色。果胞は長さ 3-3.5 mm、ふくれた 3 稜形、淡緑色、膜質で細脈がある。

【生活史】

果実成熟は 7-8 月。

【生育環境】

石灰岩上に生育。

【分布域】

南アルプス・八ヶ岳、朝鮮半島・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュで絶滅、2 メッシュの限られた場所に数百個体が確認された。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	1	0	0	2	1	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	マンシュウクロカワスゲ	<i>Carex peiktusanii</i>	EN
第4次 2019:	マンシュウクロカワスゲ	<i>Carex peiktusanii</i>	EN
第4次 2018:	マンシュウクロカワスゲ	<i>Carex peiktusanii</i>	EN
第4次 2017:	マンシュウクロカワスゲ	<i>Carex peiktusanii</i>	EN
第4次 2015:	マンシュウクロカワスゲ	<i>Carex peiktusanii</i>	EN
第4次:	マンシュウクロカワスゲ	<i>Carex peiktusanii</i>	EN
第3次:	マンシュウクロカワスゲ	<i>Carex peiktusani</i>	EN
第2次:	マンシュウクロカワスゲ	<i>Carex peiktusanii</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)] 静岡県[要注目種(N-Ⅲ部会注目種)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 勝山輝男，2006．マンシュウクロカワスゲの新産地．莎草研究，(12)：95-97．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex peiktusani has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex peiktusani* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

クグスゲ

Carex pseudocyperus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ジョウロウスゲに似るが、基部の葉鞘は淡色、側小穂は長さ 2-5 cm、雌性で円柱形、柄があり點頭する。果胞は長さ 4-5 mm、上方はしだいに細まり長い嘴となる。茎は株を作り、高さ 40-70 cm。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

水湿地に生育。

【分布域】

北海道・本州（青森県・群馬県・長野県）、シベリア・ヨーロッパ・北アメリカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	クグスゲ	<i>Carex pseudocyperus</i>	EN
第4次 2019:	クグスゲ	<i>Carex pseudocyperus</i>	EN
第4次 2018:	クグスゲ	<i>Carex pseudocyperus</i>	EN
第4次 2017:	クグスゲ	<i>Carex pseudocyperus</i>	EN
第4次 2015:	クグスゲ	<i>Carex pseudocyperus</i>	EN
第4次:	クグスゲ	<i>Carex pseudocyperus</i>	EN
第3次:	クグスゲ	<i>Carex pseudocyperus</i>	EN
第2次:	クグスゲ	<i>Carex pseudo-cyperus</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 長野県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex pseudocyperus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex pseudocyperus* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒロハイツポンスゲ

Carex pseudololiacea

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未満かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

茎は高さ 20-40 cm。葉は幅 1.5-3 mm、灰緑色。小穂は灰白色、または少し淡汚黄色を帯びる。果胞は長さ 3.5-4 mm、長楕円形、多数の太い脈があり、平凸形、厚い膜質でほとんど嘴はない。

【生活史】

多年草。果実成熟は 6-7 月。

【生育環境】

ミズゴケ湿原に生育。

【分布域】

北海道・本州（山形県・福島県）、サハリン・千島列島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒロハイッポンスゲ	<i>Carex pseudololiacea</i>	EN
第4次 2019:	ヒロハイッポンスゲ	<i>Carex pseudololiacea</i>	EN
第4次 2018:	ヒロハイッポンスゲ	<i>Carex pseudololiacea</i>	EN
第4次 2017:	ヒロハイッポンスゲ	<i>Carex pseudololiacea</i>	EN
第4次 2015:	ヒロハイッポンスゲ	<i>Carex pseudololiacea</i>	EN
第4次:	ヒロハイッポンスゲ	<i>Carex pseudololiacea</i>	EN
第3次:	ヒロハイッポンスゲ	<i>Carex pseudololiacea</i>	EN
第2次:	ヒロハイッポンスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

山形県[絶滅危惧 I B 類（E N）] 福島県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex pseudololiacea has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex pseudololiacea* is listed as EN under criteria C.

C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:

1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

ウシオスゲ

Carex ramenskii

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒメウシオスゲに似るが、葉は幅 2-3 mm、上方の 1-3 個の小穂は雄性、果胞は鱗片より短く、乾燥すると細脈が明瞭になる。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

塩性湿地に生育。

【分布域】

北海道（北部・東部）、サハリン・カムチャツカ・アラスカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存個体数と推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	2	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ウシオスゲ	<i>Carex ramenskii</i>	EN
第4次 2019:	ウシオスゲ	<i>Carex ramenskii</i>	EN
第4次 2018:	ウシオスゲ	<i>Carex ramenskii</i>	EN
第4次 2017:	ウシオスゲ	<i>Carex ramenskii</i>	EN
第4次 2015:	ウシオスゲ	<i>Carex ramenskii</i>	EN
第4次:	ウシオスゲ	<i>Carex ramenskii</i>	EN
第3次:	ウシオスゲ	<i>Carex ramenskii</i>	EN
第2次:	ウシオスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)] 青森県[最重要希少野生生物(A ランク)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 北海道環境生活部環境室自然環境課，2001．北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001．北海道，309pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex ramenskii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex ramenskii* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

カラフトイワスゲ

Carex rupestris

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は横走しする。高さ 10-15 cm。葉は幅 1.5-3 mm、小穂は長さ 1-2 cm、1 個、上方に雄花部をつけ直立し、果胞は長さ 3-4 mm、倒卵形、無毛で細脈があり、嘴は短い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯に生育。

【分布域】

北海道・本州（仙丈ヶ岳・雪倉岳）、サハリン・朝鮮半島北部・ヨーロッパ・北アメリカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カラフトイワスゲ	<i>Carex rupestris</i>	EN
第4次 2019:	カラフトイワスゲ	<i>Carex rupestris</i>	EN
第4次 2018:	カラフトイワスゲ	<i>Carex rupestris</i>	EN
第4次 2017:	カラフトイワスゲ	<i>Carex rupestris</i>	EN
第4次 2015:	カラフトイワスゲ	<i>Carex rupestris</i>	EN
第4次:	カラフトイワスゲ	<i>Carex rupestris</i>	EN
第3次:	カラフトイワスゲ	<i>Carex rupestris</i>	EN
第2次:	カラフトイワスゲ	<i>Carex rupestris</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危惧種(En)] 富山県[絶滅危惧Ⅱ類] 山梨県[情報不足(DD)] 長野県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 静岡県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex rupestris has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex rupestris* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ラウススゲ

Carex stylosa

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

根茎は短く、匍枝はない。頂小穂は雄性、柄があり、赤褐色。側小穂は雌性、短い円柱形、直立する。果胞は長さ 1.5-2 mm、全体に半球形の微細突起が密生し、褐色を帯びる。花柱基部は宿存して果胞口部から突き出る。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高層湿原に生育。

【分布域】

北海道（東部）、周北極地域に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 1 メッシュ、数十個体の現存が報告されたが、50 個体以上は現存すると推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ラウススゲ	<i>Carex stylosa</i>	EN
第4次 2019:	ラウススゲ	<i>Carex stylosa</i>	EN
第4次 2018:	ラウススゲ	<i>Carex stylosa</i>	EN
第4次 2017:	ラウススゲ	<i>Carex stylosa</i>	EN
第4次 2015:	ラウススゲ	<i>Carex stylosa</i>	EN
第4次:	ラウススゲ	<i>Carex stylosa</i>	EN
第3次:	ラウススゲ	<i>Carex stylosa</i>	EN
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 勝山輝男，1995．日本新産のスゲ属植物ラウススゲ．植物研究雑誌 70: 233-234．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex stylosa has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex stylosa* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

ツクシナルコ

Carex subcernua

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

アゼナルコに似るが、高さ 40-60 cm、果胞は両面に各々4-5 本の脈があり、その鱗片は鋭頭で、微凸頭に終わり、凹頭にならず、短い芒もない。

【生活史】

多年草。果実成熟は 5-6 月。

【生育環境】

平地の湿地に生育。

【分布域】

本州（紀伊半島）・四国（徳島県）・九州、中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、4 メッシュで計数百個体の現存が推定された。
基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	1	0	0	4	1	2

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	湿地開発	その他
件数 4	3	3

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシナルコ	<i>Carex subcernua</i>	EN
第4次 2019:	ツクシナルコ	<i>Carex subcernua</i>	EN
第4次 2018:	ツクシナルコ	<i>Carex subcernua</i>	EN
第4次 2017:	ツクシナルコ	<i>Carex subcernua</i>	EN
第4次 2015:	ツクシナルコ	<i>Carex subcernua</i>	EN
第4次:	ツクシナルコ	<i>Carex subcernua</i>	EN
第3次:	ツクシナルコ	<i>Carex subcernua</i>	EN
第2次:	ツクシナルコ	<i>Carex subcernua</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

三重県[CR] 和歌山県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 徳島県[絶滅危惧ⅠA類] 愛媛県[情報不足(DD)] 福岡県[絶滅危惧Ⅱ類] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex subcernua has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex subcernua* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession, Wetland development, Other

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツシマスゲ

*Carex tsushimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

雌小穂は 1 個の苞から 1 個ずつ出て、互いに離れてつき、その鱗片に太い芒がある。
果胞の脈は太く、肋状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

林縁や落葉樹林の林床に生育。

【分布域】

長崎県（対馬・西彼杵半島）・佐賀県（馬渡島）・鹿児島県（黒島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害		
件数 1		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツシマスゲ	<i>Carex tsushimensis</i>	VU
第4次 2019:	ツシマスゲ	<i>Carex tsushimensis</i>	VU
第4次 2018:	ツシマスゲ	<i>Carex tsushimensis</i>	VU
第4次 2017:	ツシマスゲ	<i>Carex tsushimensis</i>	VU
第4次 2015:	ツシマスゲ	<i>Carex tsushimensis</i>	VU
第4次:	ツシマスゲ	<i>Carex tsushimensis</i>	VU
第3次:	ツシマスゲ	<i>Carex tsushimensis</i>	VU
第2次:	ツシマスゲ	<i>Carex tsushimensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[準絶滅危惧種(NT)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 長崎県県民生活環境部自然保護課，2001．ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック 2001．長崎県県民生活環境部自然保護課，568pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex tsushimensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex tsushimensis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Other animal feeding damage

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

エゾハリスゲ

Carex uda

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 20-50 cm。葉は幅 2-3 mm、茎に鋭 3 稜があるが、稜上が平滑。果胞は長さ 3.5-4 mm、熟すと反曲し、卵状披針形。

【生活史】

多年草。果実成熟は 6 月。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

北海道・本州（中部以北）、朝鮮半島・中国（東北）・サハリン・ウスリー・アムールに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	1	0	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	産地局限	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾハリスゲ	<i>Carex uda</i>	EN
第4次 2019:	エゾハリスゲ	<i>Carex uda</i>	EN
第4次 2018:	エゾハリスゲ	<i>Carex uda</i>	EN
第4次 2017:	エゾハリスゲ	<i>Carex uda</i>	EN
第4次 2015:	エゾハリスゲ	<i>Carex uda</i>	EN
第4次:	エゾハリスゲ	<i>Carex uda</i>	EN
第3次:	エゾハリスゲ	<i>Carex uda</i>	EN
第2次:	エゾハリスゲ	<i>Carex uda</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[情報不足(DD)] 群馬県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex uda has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex uda* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

サヤスゲ

Carex vaginata

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

細長い匍枝が出る。高さ 20-50 cm。茎はやや軟らかく深緑色で、無毛。葉は幅 2-5 mm、扁平、基部の鞘は一部赤紫色を帯びる。小穂は 2-4 個がまばらにつき、頂小穂は雄性、濃紫褐色。他は雌性で、短い円柱形、長い柄がある。苞は短く、長い鞘がある。果胞は長さ 4-5 mm、卵形、膜質で無毛。

【生活史】

多年草。果実成熟は 6-7 月。

【生育環境】

高層湿原に生育。

【分布域】

北海道・岩手県（焼石岳）・長野県（霧ヶ峰）、周北極地域に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定される。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サヤスゲ	<i>Carex vaginata</i>	EN
第4次 2019:	サヤスゲ	<i>Carex vaginata</i>	EN
第4次 2018:	サヤスゲ	<i>Carex vaginata</i>	EN
第4次 2017:	サヤスゲ	<i>Carex vaginata</i>	EN
第4次 2015:	サヤスゲ	<i>Carex vaginata</i>	EN
第4次:	サヤスゲ	<i>Carex vaginata</i>	EN
第3次:	サヤスゲ	<i>Carex vaginata</i>	EN
第2次:	サヤスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

岩手県[A ランク] 長野県[絶滅危惧 IA 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Carex vaginata has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Carex vaginata* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

トサノハマスゲ

Cyperus rotundus var. *yoshinagae***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ハマスゲに似るが、小穂は長さ 5-10 mm、幅 2 mm といちじるしく小さい。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

砂質地に生育。

【分布域】

高知県に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 道路工事	人の踏みつけ	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トサノハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i> var. <i>yoshinagae</i>	EN
第4次 2019:	トサノハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i> var. <i>yoshinagae</i>	EN
第4次 2018:	トサノハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i> var. <i>yoshinagae</i>	EN
第4次 2017:	トサノハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i> var. <i>yoshinagae</i>	EN
第4次 2015:	トサノハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i> var. <i>yoshinagae</i>	EN
第4次:	トサノハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i> var. <i>yoshinagae</i>	EN
第3次:	トサノハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i> var. <i>yoshinagae</i>	EN
第2次:	トサノハマスゲ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

高知県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cyperus rotundus var. *yoshinagae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cyperus rotundus* var. *yoshinagae* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Road construction, Human trampling
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ムギガラガヤツリ

Cyperus unioloides

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 30-50 cm。花序は頭状か 1-2 個の短い枝をだし、1-3 個の苞がある。小穂は穂状
小花序に 5-10 個、掌状につく。小穂は長さ 8-15 mm、狭長楕円形、淡褐色～褐色。果実
は長さ 1.5 mm、楕円形でレンズ状。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

本州（千葉県・和歌山県）・四国（愛媛県・高知県）・九州、オーストラリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とし
た。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	0	0	1	0	0	2	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	池沼開発
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムギガラガヤツリ	<i>Cyperus unioloides</i>	CR
第4次 2019:	ムギガラガヤツリ	<i>Cyperus unioloides</i>	CR
第4次 2018:	ムギガラガヤツリ	<i>Cyperus unioloides</i>	CR
第4次 2017:	ムギガラガヤツリ	<i>Cyperus unioloides</i>	CR
第4次 2015:	ムギガラガヤツリ	<i>Cyperus unioloides</i>	CR
第4次:	ムギガラガヤツリ	<i>Cyperus unioloides</i>	CR
第3次:	ムギガラガヤツリ	<i>Cyperus unioloides</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[最重要保護生物(A)] 和歌山県[絶滅(EX)] 愛媛県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 高知県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 福岡県[絶滅] 佐賀県[絶滅危惧Ⅰ類種] 長崎県[情報不足(DD)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cyperus unioloides has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cyperus unioloides* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Pond development

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ミスミイ

Eleocharis acutangula

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) ACD 基準

平均減少率で減少したときの、25 年後の個体数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 40-80 cm。茎は幅 2.5-4 mm、鋭 3 稜形、内部に横隔壁がなく、平滑。果実は長さ 1.5-2 mm、倒卵形、扁 3 稜形、黄褐色、縦の条線がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

本州～九州・琉球、台湾・中国・インド・東南アジア・オーストラリア・アフリカ・熱帯アメリカに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで絶滅し、2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。平均減少率は 71%であった。ACD 基準により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	1	0	0	2	1	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 水質汚濁	自然遷移	
件数 2	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミスミイ	<i>Eleocharis acutangula</i>	EN
第4次 2019:	ミスミイ	<i>Eleocharis acutangula</i>	EN
第4次 2018:	ミスミイ	<i>Eleocharis acutangula</i>	EN
第4次 2017:	ミスミイ	<i>Eleocharis acutangula</i>	EN
第4次 2015:	ミスミイ	<i>Eleocharis acutangula</i>	EN
第4次:	ミスミイ	<i>Eleocharis acutangula</i>	EN
第3次:	ミスミイ	<i>Eleocharis acutangula</i>	EN
第2次:	ミスミイ	<i>Eleocharis fistulosa</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

千葉県[消息不明・絶滅生物(X)] 愛知県[絶滅(EX)] 大阪府[EX] 兵庫県[A ランク] 和歌山県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 山口県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 香川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福岡県[絶滅] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅(EX-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eleocharis acutangula has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eleocharis acutangula* is listed as EN under criteria ACD.

The number of individuals is less than 250 after 25 years based on the average rate of decline.

Threat types:	Water pollution, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハハジマテンツキ

Fimbristylis longispica var. *hahajimensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 C

推定開花株数 2500 個体未滿かつ 10 年間に 36%以上の継続的な減少が推定。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ナガボテンツキやムニンテンツキに似るが、全体的に小型で繊細。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

岩場や岩礫地に生育。

【分布域】

小笠原諸島（母島）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では個体数過大評価であり、現存個体数 250 個体未滿と推定された。生育地が 1 地点であり、乾燥などで減少傾向にある。基準 C により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハハジマテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>hahajimensis</i>	EN
第4次 2019:	ハハジマテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>hahajimensis</i>	EN
第4次 2018:	ハハジマテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>hahajimensis</i>	EN
第4次 2017:	ハハジマテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>hahajimensis</i>	EN
第4次 2015:	ハハジマテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>hahajimensis</i>	EN
第4次:	ハハジマテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>hahajimensis</i>	EN
第3次:	ハハジマテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>hahajimensis</i>	EN
第2次:	ハハジマテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> var. <i>hahajimensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fimbristylis longispica var. *hahajimensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Fimbristylis longispica* var. *hahajimensis* is listed as EN under criteria C.
C. Population size estimated to number fewer than 2,500 mature individuals and:
1. An estimated continuing decline of at least 36% within ten years.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハタケテンツキ

Fimbristylis stauntonii

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

高さ 7-40 cm。根茎はなく小さな株をつくる。葉は幅 2-3 mm、無毛。小穂は長さ 3-5 mm、汚れたわら褐色を帯びる。鱗片は長さ 1.5-2 mm、広披針形。果実は長さ 0.7 mm、狭長楕円形。

【生活史】

果実成熟は 8-10 月。

【生育環境】

畑などの平地に生育。

【分布域】

本州（関東地方）・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 2 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	1	0	0	2	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 農薬汚染	管理放棄	自然遷移
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハタケテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>stauntonii</i>	EN
第4次 2019:	ハタケテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>stauntonii</i>	EN
第4次 2018:	ハタケテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>stauntonii</i>	EN
第4次 2017:	ハタケテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>stauntonii</i>	EN
第4次 2015:	ハタケテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>stauntonii</i>	EN
第4次:	ハタケテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>stauntonii</i>	EN
第3次:	ハタケテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i>	EN
第2次:	ハタケテンツキ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

栃木県[絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)] 群馬県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 埼玉県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 千葉県[最重要保護生物(A)] 高知県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 熊本県[絶滅危惧ⅠA 類(CR)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fimbristylis stauntonii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Fimbristylis stauntonii* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Pesticide pollution, Abandonment of management, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ハナシテンツキ

Fimbristylis umbellaris

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

叢生する。高さ 20-40 cm。葉身は発達せず、基部の鞘へ退化する。小穂は長さ 3-5 mm、1-5 個、球形。鱗片は 10-20 個つく。果実は 0.8 mm、倒卵形、黄白色。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

琉球（石垣島・西表島・与那国島）、台湾・中国・東南アジア・インド・ミクロネシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ハナシテンツキ	<i>Fimbristylis umbellaris</i>	EN
第4次 2019:	ハナシテンツキ	<i>Fimbristylis umbellaris</i>	EN
第4次 2018:	ハナシテンツキ	<i>Fimbristylis umbellaris</i>	EN
第4次 2017:	ハナシテンツキ	<i>Fimbristylis umbellaris</i>	EN
第4次 2015:	ハナシテンツキ	<i>Fimbristylis umbellaris</i>	EN
第4次:	ハナシテンツキ	<i>Fimbristylis umbellaris</i>	EN
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Fimbristylis umbellaris has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Fimbristylis umbellaris is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

ムニンイヌノハナヒゲ

Rhynchospora japonica var. *curvoaristata*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

イヌノハナヒゲに似るが、果実の横じわが目立ち、小穂の鱗片は先端が短い芒状で、反曲する。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

日当たりの良い湿った場所に生育。

【分布域】

小笠原諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	1	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ムニンイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora chinensis</i> var. <i>curvoaristata</i>	VU
第4次 2019:	ムニンイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora chinensis</i> var. <i>curvoaristata</i>	VU
第4次 2018:	ムニンイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora chinensis</i> var. <i>curvoaristata</i>	VU
第4次 2017:	ムニンイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora chinensis</i> var. <i>curvoaristata</i>	VU
第4次 2015:	ムニンイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora chinensis</i> var. <i>curvoaristata</i>	VU
第4次:	ムニンイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora chinensis</i> var. <i>curvoaristata</i>	VU
第3次:	ムニンイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora chinensis</i> var. <i>curvoaristata</i>	VU
第2次:	ムニンイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora chinensis</i> var. <i>curvo-aristata</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

東京都(小笠原諸島)[絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 東京都環境局自然環境部，2014．東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）レッドデータブック東京 2014．<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/toshobu.php>（2024年9月6日閲覧）．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rhynchospora japonica var. *curvoaristata* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rhynchospora japonica* var. *curvoaristata* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae カヤツリグサ科 Cyperaceae

ロツカクイ

Schoenoplectiella mucronata var. *ishizawae*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

タタラカンガレイに似るが、花茎の稜に広い翼をもち、各稜は幅が広く、6 本の稜がある。刺針が瘦果よりも短い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

台地・丘陵地等に生育。

【分布域】

本州。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 3 メッシュで計数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
1	1	1	0	0	0	3	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 自然遷移	シカ食害	湿地開発
件数 2	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	□ツカクイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>ishizawae</i>	EN
第4次 2019:	□ツカクイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>ishizawae</i>	EN
第4次 2018:	□ツカクイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>ishizawae</i>	EN
第4次 2017:	□ツカクイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>ishizawae</i>	EN
第4次 2015:	□ツカクイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>ishizawae</i>	EN
第4次:	□ツカクイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>ishizawae</i>	EN
第3次:	□ツカクイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>ishizawae</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

福島県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 新潟県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 石川県[絶滅危惧Ⅰ類(EN)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 兵庫県[Aランク] 熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会, 2022. 宮崎県の保護上重要な野生生物 三訂・宮崎県版レッドデータブック 2020年度版. 宮崎県環境森林部自然環境課, 380pp.
- 星野卓二・正木智美・西本真理子, 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 778pp. 平凡社, 東京.
- Iwatsuki, K., D. E. Boufford and H. Ohba, 2020. Flora of Japan, Vol. IVa, Kodansha, Tokyo. 448pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Schoenoplectiella mucronata var. *ishizawae* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Schoenoplectiella mucronata* var. *ishizawae* is listed as EN under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Natural succession, Deer feeding damage, Wetland development
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イヌフトイ

Schoenoplectus subulatus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

地下茎は長く、横走する。高さ 60-220 cm。葉は長さ 20-40 cm、線形。小穂は複散房花序に 7-50 個つき、長さ 9-20 mm、卵状楕円形～披針形。花被片は 4 個、平たいひも状、果実と同長か少し長く、橙褐色の毛が密生する。果実は長さ 1.9-2.7 mm、暗褐色から黒褐色、光沢がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地や水辺に生育。

【分布域】

琉球、中国・インド・スリランカ・マレーシア・アフリカ・オーストラリア・太平洋諸島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イヌフトイ	<i>Schoenoplectus littoralis</i> subsp. <i>subulatus</i>	VU
第4次 2019:	イヌフトイ	<i>Schoenoplectus littoralis</i> subsp. <i>subulatus</i>	VU
第4次 2018:	イヌフトイ	<i>Schoenoplectus littoralis</i> subsp. <i>subulatus</i>	VU
第4次 2017:	イヌフトイ	<i>Schoenoplectus littoralis</i> subsp. <i>subulatus</i>	VU
第4次 2015:	イヌフトイ	<i>Schoenoplectus littoralis</i> subsp. <i>subulatus</i>	VU
第4次:	イヌフトイ	<i>Schoenoplectus littoralis</i> subsp. <i>subulatus</i>	VU
第3次:	イヌフトイ	<i>Schoenoplectus littoralis</i> subsp. <i>subulatus</i>	VU
第2次:	イヌフトイ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I B 類(EN)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Schoenoplectus subulatus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Schoenoplectus subulatus* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

イハヤヒゲクサ

Schoenus calostachyus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

叢生する。茎は長さ 30-80 cm、かたく平滑。葉身は長さ 30 cm、線形、鋭頭、かたく縁がざらつく。花序は 20-50 cm、2-5 節がある。小穂は長さ 20-25 mm、花序の各節につき、披針形～長楕円状披針形。小穂の鱗片は長さ 10-20 mm、披針形、鋭頭。果実は長さ 3-3.5 mm、卵形、3 稜あり、黒褐色で不規則な横しわがある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の乾燥した貧栄養の場所の疎林に生育。

【分布域】

南西諸島、中国南部・東南アジア・オーストラリア・ミクロネシアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な情報は得られなかった。250 個体未満と推定されることから、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2012 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	—	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	イハヤヒゲクサ	<i>Schoenus calostachyus</i>	CR
第4次 2019:	イハヤヒゲクサ	<i>Schoenus calostachyus</i>	CR
第4次 2018:	イハヤヒゲクサ	<i>Schoenus calostachyus</i>	CR
第4次 2017:	イハヤヒゲクサ	<i>Schoenus calostachyus</i>	CR
第4次 2015:	イハヤヒゲクサ	<i>Schoenus calostachyus</i>	CR
第4次:	イハヤヒゲクサ	<i>Schoenus calostachyus</i>	CR
第3次:	イハヤヒゲクサ	<i>Schoenus calostachyus</i>	CR
第2次:	イハヤヒゲクサ	<i>Schoenus calostachyus</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．
- 沖縄県環境部自然保護課，2018．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（菌類編・植物編）—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境部自然保護課，690pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Schoenus calostachyus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Schoenus calostachyus is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.	
Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ヒメマツカサススキ

Scirpus karuisawensis

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 E

20 年間の絶滅確率が 20%以上。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

コマツカサススキに似るが、側生の分花序は 5-10 個の球状花序からなり、頂生の分花序は複散房花序で、多数の球状花序からなり、球状花序には小穂が約 5 個つく。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地に生育。

【分布域】

本州（山梨県・長野県）、中国・朝鮮半島に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 池沼開発	自然遷移	
件数 1	1	

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメマツカサススキ	<i>Scirpus karuisawensis</i>	VU
第4次 2019:	ヒメマツカサススキ	<i>Scirpus karuisawensis</i>	VU
第4次 2018:	ヒメマツカサススキ	<i>Scirpus karuisawensis</i>	VU
第4次 2017:	ヒメマツカサススキ	<i>Scirpus karuisawensis</i>	VU
第4次 2015:	ヒメマツカサススキ	<i>Scirpus karuisawensis</i>	VU
第4次:	ヒメマツカサススキ	<i>Scirpus karuisawensis</i>	VU
第3次:	ヒメマツカサススキ	<i>Scirpus karuisawensis</i>	VU
第2次:	ヒメマツカサススキ	—	DD
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

茨城県[情報不足②現状不明種] 群馬県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 山梨県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]
長野県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 長崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Scirpus karuisawensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Scirpus karuisawensis is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Pond development, Natural succession

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ツクシアブラガヤ

Scirpus rosthornii var. *kiushuensis*

カテゴリー判定結果	絶滅危惧 I B 類 (EN)	基準 E
20 年間の絶滅確率が 20%以上。		
評価分科会： 維管束植物分科会		

基礎情報

【形態】

オオアブラガヤに似るが、やや小さく、茎葉の葉鞘は淡緑色で褐色を帯びず、花序の枝と小枝は上部がざらつく。小穂は長さ 3-4 mm、幅約 1.5 mm、2-5 個ずつ集まり球状になる。鱗片は長さ 1-1.2 mm、ほぼ円形、背面に緑色の幅広い帯がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

湿地草原に生育。

【分布域】

九州（南部）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 E により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 その他動物食害	自然遷移	その他
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツクシアブラガヤ	<i>Scirpus rosthornii</i> var. <i>kiushuensis</i>	EN
第4次 2019:	ツクシアブラガヤ	<i>Scirpus rosthornii</i> var. <i>kiushuensis</i>	EN
第4次 2018:	ツクシアブラガヤ	<i>Scirpus rosthornii</i> var. <i>kiushuensis</i>	EN
第4次 2017:	ツクシアブラガヤ	<i>Scirpus rosthornii</i> var. <i>kiushuensis</i>	EN
第4次 2015:	ツクシアブラガヤ	<i>Scirpus rosthornii</i> var. <i>kiushuensis</i>	EN
第4次:	ツクシアブラガヤ	<i>Scirpus rosthornii</i> var. <i>kiushuensis</i>	EN
第3次:	ツクシアブラガヤ	<i>Scirpus rosthornii</i> var. <i>kiushuensis</i>	CR
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

熊本県[絶滅危惧ⅠA類(CR)] 大分県[情報不足(DD)] 宮崎県[準絶滅危惧(NT-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp., 272pls. 平凡社，東京.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課，2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会，499pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Scirpus rosthornii var. *kiushuensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Scirpus rosthornii* var. *kiushuensis* is listed as EN under criteria E.

E. Quantitative analysis showing the probability of extinction in the wild is at least 20% within 20 years.

Threat types:	Other animal feeding damage, Natural succession, Other
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

エゾコウボウ

Anthoxanthum pluriflorum var. *pluriflorum***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は無毛。根出葉は長さ 40 cm、茎葉はやや短く、葉舌は三角形、短毛がある。雄性小花の護穎は膜質。芒は長さ 1.5 mm 未満。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

高山帯に生育。

【分布域】

北海道（夕張岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	1	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	エゾコウボウ	<i>Hierochloe pluriflora</i>	EN
第4次 2019:	エゾコウボウ	<i>Hierochloe pluriflora</i>	EN
第4次 2018:	エゾコウボウ	<i>Hierochloe pluriflora</i>	EN
第4次 2017:	エゾコウボウ	<i>Hierochloe pluriflora</i>	EN
第4次 2015:	エゾコウボウ	<i>Hierochloe pluriflora</i>	EN
第4次:	エゾコウボウ	<i>Hierochloe pluriflora</i>	EN
第3次:	エゾコウボウ	<i>Hierochloe pluriflora</i>	EN
第2次:	エゾコウボウ	<i>Hierochloe pluriflora</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[絶滅危急種(Vu)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Anthoxanthum pluriflorum var. *pluriflorum* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Anthoxanthum pluriflorum* var. *pluriflorum* is listed as EN under criteria D. D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

被子植物門 Angiospermae イネ科 Poaceae/Gramineae

シロケトダシバ

Arundinella hirta var. *livens*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉や茎が白緑色で、葉鞘に開出する白い長毛（長さ約 1 mm）が密生する。

【生活史】

花期は 7 月から 8 月。

【生育環境】

北海道アポイ岳とその周辺の蛇紋岩地域に生育。

【分布域】

北海道アポイ岳に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

シカの採食から植生を守るために設置された防護柵の中で確認された。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Arundinella hirta var. *livens* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.
Arundinella hirta var. *livens* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

オニビトノガリヤス

*Calamagrostis onibitoana***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

タシロノガリヤスに似るが、葉身は線形、包穎は不同長、芒は長い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。長崎県の自生地の森林の樹木は雲仙普賢岳噴火の影響で枯死し、2007 年調査では、1 メッシュで数百個体の現存が推定された。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	1	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オニビトノガリヤス	<i>Calamagrostis onibitoana</i>	EN
第4次 2019:	オニビトノガリヤス	<i>Calamagrostis onibitoana</i>	EN
第4次 2018:	オニビトノガリヤス	<i>Calamagrostis onibitoana</i>	EN
第4次 2017:	オニビトノガリヤス	<i>Calamagrostis onibitoana</i>	EN
第4次 2015:	オニビトノガリヤス	<i>Calamagrostis onibitoana</i>	EN
第4次:	オニビトノガリヤス	<i>Calamagrostis onibitoana</i>	EN
第3次:	オニビトノガリヤス	<i>Calamagrostis onibitoana</i>	EN
第2次:	オニビトノガリヤス	<i>Calamagrostis onibitoana</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calamagrostis onibitoana has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calamagrostis onibitoana* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

アムールイワノガリヤス

Calamagrostis purpurea subsp. *amurensis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉鞘に毛が密に生え、包穎の竜骨上の突起が長い点でイワノガリヤスと異なる。

【生活史】

花期は 7 月から 8 月。

【生育環境】

湿原に生育。

【分布域】

北海道東部に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

詳細については不明。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

掲載なし

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 文献なし

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calamagrostis purpurea subsp. *amurensis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calamagrostis purpurea* subsp. *amurensis* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

タシロノガリヤス

Calamagrostis tashiroi subsp. *tashiroi***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

葉身は長さ 8-13 cm、広く扁平、狭披針形。小穂は長さ 5-6 mm、狭披針形、淡緑色。護穎は広披針形。芒は背面の基部の直上につき、小穂よりも少し突き出るかまれに突き出さず、基毛ははなはだ短い。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地に生育。

【分布域】

九州に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	タシロノガリヤス	<i>Calamagrostis tashiroi</i>	EN
第4次 2019:	タシロノガリヤス	<i>Calamagrostis tashiroi</i>	EN
第4次 2018:	タシロノガリヤス	<i>Calamagrostis tashiroi</i>	EN
第4次 2017:	タシロノガリヤス	<i>Calamagrostis tashiroi</i>	EN
第4次 2015:	タシロノガリヤス	<i>Calamagrostis tashiroi</i>	EN
第4次:	タシロノガリヤス	<i>Calamagrostis tashiroi</i>	EN
第3次:	タシロノガリヤス	<i>Calamagrostis tashiroi</i>	EN
第2次:	タシロノガリヤス	<i>Calamagrostis tashiroi</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

徳島県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠB類(EN-r)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅰ類]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp., 256pls. 平凡社，東京.
- 長田武正，1989. 日本イネ科植物図譜. 759pp. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calamagrostis tashiroi subsp. *tashiroi* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calamagrostis tashiroi* subsp. *tashiroi* is listed as EN under criteria D.
D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	No Data

Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月

ユウバリカニツリ

Deschampsia cespitosa var. *levis***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I B 類 (EN) 基準 D

推定開花株数が 250 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ヒロハノコメスキに似るが、花序は幅が狭く、先が垂れ、枝は細くやや直立、第 2 包穎は線状披針形、小花は包穎の外に突出しない。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の林内に生育。

【分布域】

北海道（夕張岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では 1 メッシュで数十個体の現存が推定されたが、個体数を過小に推定していると考えられる。基準 D により EN とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	1	0	0	0	0	1	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因 人の踏みつけ	自然遷移	産地局限
件数 1	1	1

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ユウバリカニツリ	<i>Deschampsia cespitosa</i> var. <i>levis</i>	EN
第4次 2019:	ユウバリカニツリ	<i>Deschampsia cespitosa</i> var. <i>levis</i>	EN
第4次 2018:	ユウバリカニツリ	<i>Deschampsia cespitosa</i> var. <i>levis</i>	EN
第4次 2017:	ユウバリカニツリ	<i>Deschampsia cespitosa</i> var. <i>levis</i>	EN
第4次 2015:	ユウバリカニツリ	<i>Deschampsia cespitosa</i> var. <i>levis</i>	EN
第4次:	ユウバリカニツリ	<i>Deschampsia cespitosa</i> var. <i>levis</i>	EN
第3次:	ユウバリカニツリ	<i>Deschampsia cespitosa</i> var. <i>levis</i>	EN
第2次:	ユウバリカニツリ	<i>Deschampsia caespitosa</i> var. <i>levis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

北海道[希少種(R)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜. 759pp. 平凡社, 東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Deschampsia cespitosa var. *levis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Deschampsia cespitosa* var. *levis* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Threat types:	Human trampling, Natural succession, Limited distribution
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月